An aerial photograph of the Kyushu University campus, showing a dense cluster of modern university buildings with colorful facades (orange, blue, green) interspersed with green lawns and trees. In the background, a large body of water (the sea) is visible under a clear blue sky, with distant mountains on the horizon. A few ships are scattered across the water. The overall scene is bright and clear, suggesting a sunny day.

KYUSHU UNIVERSITY FACT BOOK 2019

IR 室長メッセージ

九州大学インスティテューショナル・リサーチ(IR)室は、平成 28 年 4 月に設置された。大学の諸活動の自己点検・評価とその結果の分析に基づいた改革・改善は、大学の機能強化に不可欠である。このため国立大学法人には、自らが定めた中期目標・計画の達成度に関する法人評価、教育の質保証のための認証評価への対応が法的な義務となっている。本学では、法人化以前の平成 13 年に大学評価を推進する評価情報開発室を設置し、その後、業務の拡張に伴って、平成 16 年に大学評価情報室に改組して体制を強化し、「国立大学法人評価」や「大学機関別認証評価」等の業務を担当してきた。大学評価情報室は、このような評価業務には対応できるが、自己点検・評価の結果を分析し、数値指標やエビデンスを伴った定性的な指標に基づいて、大学の改革・改善の推進を支援する機能は殆ど備わっていなかった。九州大学 IR 室は、総長のリーダーシップの下で、大学の運営や経営を戦略的にマネジメントできるガバナンス体制の充実を支援する目的で、評価業務に加え、この機能を強化した部署として設置されたものである。

中央教育審議会大学分科会によれば、IR とは、「教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究」であるとされている。「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」に基づいて改善改革の方針を示すことによって、大学の構成員が、改善改革の必要性を共通に理解でき、また、改善改革の方針への合意形成も進むと考えられる。

このような観点からは、IR 室の最初のそして最も重要な業務の一つは、「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」を集積することである。

これまで大学の各部署には、多種多様で膨大な数のデータが蓄積されてきた。しかも担当部署（時には担当者）が最も収集しやすい形、利用しやすい形、あるいは提出要請先の要求に沿う形などで集積されてきた。さらには、同じ種類の同じ期間を対象にしたデータであっても、データの定義が違っている場合も少なくない。このような状況下では、単にデータの提供元から IR 室が収集しただけでは、「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」にはなり得ない。IR 室では、事務部各部署の尽力のもとで、学内に散在するデータを「客観的なまた精査された説得力のあるデータ」にするべく集積をしてきた。一方で、データの情報公開には格段の留意が求められる。この点も公開範囲の区分を精査し、データの集積元とも協議をしながら区分けを進めてきた。

この「九州大学 Fact Book」は集積・整理したデータの一部ではあるが、大学や各部局等の現状を把握し、改革改善や将来計画策定に利用していただくことを目的に作成されており、Web 上で公開されている電子データは随時更新するなど使いやすくなっている。また、データを「経年」で表現することで、本学の「これまで」を読み取り、その上で「この先」をある程度推測することが可能となっている。さらに、大学の研究力分析の一例も掲載しているが、これを参考に部局等は SciVal や Pure を活用して是非自らの部局等の研究力分析を行っていただきたい。

Web 上で公開しているので、九州大学の構成員はもとより、学外から九州大学を支えていただいている諸ステークホルダーの皆様にも、九州大学の現状をご覧いただける。IR 室がなすべき評価と改革改善支援の機能を充実させるためにも、皆様方からのご協力をご指導を賜りたい。

本 Fact Book は、IR 室員、IR 室協力室員、拡充メンバー、IR 室アドバイザーのご尽力の賜物である。心から感謝申し上げたい。

令和元年 11 月 IR 室長

荒 殿 誠

目次

目次	1
平成30事業年度 重点的に取り組んだ事項、戦略性が高く意欲的な目標・計画	6

1. 概要・他大学との比較

1-1. 九州大学の概要	2 1
1-1-1. 学部等の構成	2 1
1-1-2. 学生数及び教職員数	2 1
1-2. 主要キャンパス	2 2
1-3. 他大学との比較－規模－（国立大学間）	2 3
1-4. 他大学との比較－教育－（国公立大学間）	2 7
1-5. 他大学との比較－就職－（国公立大学間）	2 9
1-6. 他大学との比較－国際－	3 1
1-7. 他大学との比較－評価－	3 3
1-8. 他大学との比較－その他－	3 5
1-9. 他大学との比較－国立七大学間－	3 7

2. 教職員数等

2-1. 教職員数	3 8
2-2. 教員数	3 9
2-2-1. 教員数（全体）	3 9
2-2-2. 外国籍を有する教員数	4 0
2-2-3. 女性教員数	4 2
2-2-4. 主幹教授数	4 3
2-2-5. 教員組織の年齢構成	4 3
2-2-6. 教員数（部局別）	4 4
2-3. 特定有期教員数	5 4
2-3-1. 特定有期教員数（全体）	5 4
2-3-2. 特定有期教員数（外国人教員）	5 4
2-3-3. 特定有期教員数（女性教員）	5 4
2-4. 特命教授数	5 5
2-5. 招へい外国人教師等数	5 5
2-6. 非常勤講師数	5 5
2-7. 学術研究員等数	5 6
2-7-1. 学術研究員等数（全体）	5 6
2-7-2. 学術研究員等数（外国籍及び女性数）	5 6
2-7-3. 特任教授等数	5 6
2-8. 事務職員・技術職員等数	5 7

2-8-1.	事務職員・技術職員等数（全体）	57
2-8-2.	事務職員・技術職員等数（女性数及び女性比率）	57
2-8-3.	事務職員・技術職員等数（部局別）	58
2-9.	特定有期事務・技術系職員数	64
2-10.	事務・技術補佐員等数	64
2-11.	高度専門職員数	64

3. 学生数

3-1.	学士課程	65
3-1-1.	学部（全体）	65
3-1-2.	学部（学部別・在籍学生数）	66
3-2.	修士課程	68
3-2-1.	修士課程（全体）	68
3-2-2.	修士課程（学府別・在籍学生数）	69
3-3.	専門職学位課程	72
3-3-1.	専門職学位課程（全体）	72
3-3-2.	専門職学位課程（学府別・在籍学生数）	73
3-4.	博士後期課程	74
3-4-1.	博士後期課程（全体）	74
3-4-2.	博士後期課程（学府別・在籍学生数）	75

4. 志願状況

4-1.	志願状況（学部）	78
4-1-1.	志願状況推移（学部・一般選抜）	78
4-1-2.	志願状況推移（学部・一般選抜／日程別）	79
4-1-3.	志願状況推移（学部別）	80
4-2.	志願状況（大学院）	84
4-2-1.	志願状況推移（大学院__修士課程）	84
4-2-2.	志願状況推移（大学院__専門職学位課程）	88
4-2-3.	志願状況推移（大学院__博士後期課程）	89

5. 入学状況

5-1.	入学状況（学部）	94
5-1-1.	入学者数推移（全体）	94
5-1-2.	入学者数推移（学部別）	95
5-1-3.	出身地域別入学者数推移	97
5-2.	入学状況（修士課程）	100
5-2-1.	入学者数推移（全体）	100
5-2-2.	入学者数推移（学府別）	101
5-3.	入学状況（専門職学位課程）	105

5-3-1.	入学者数推移（全体）	105
5-3-2.	入学者数推移（学府別）	106
5-4.	入学状況（博士後期課程）	107
5-4-1.	入学者数推移（全体）	107
5-4-2.	入学者数推移（学府別）	108

6. 学位取得状況

6-1.	学部卒業者状況	113
6-1-1.	学部卒業者状況（全体）	113
6-1-2.	学部卒業者状況（学部別）	114
6-2.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況	115
6-2-1.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況（全体）	115
6-2-2.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況（学府別）	116
6-3.	専門職学位課程修了者状況	118
6-3-1.	専門職学位課程修了者状況（全体）	118
6-3-2.	専門職学位課程修了者状況（学府別）	119
6-4.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況	120
6-4-1.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況（全体）	120
6-4-2.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況（学府別）	121

7. 進路・就職状況

7-1.	学部卒業者の進路・就職状況	123
7-1-1.	学部卒業者の進路・就職状況（全体）	123
7-1-2.	学部卒業者の進路・就職状況（学部別）	124
7-2.	修士課程修了者の進路・就職状況	126
7-2-1.	修士課程修了者の進路・就職状況（全体）	126
7-2-2.	修士課程修了者の進路・就職状況（学府別）	127
7-3.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況	130
7-3-1.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況（全体）	130
7-3-2.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況（学府別）	131

8. 資格試験等合格状況

8-1.	司法試験合格状況	134
8-2.	各種資格試験・採用試験合格状況	136

9. 研究

9-1.	ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向	141
9-2.	論文の量と質についての比較	143
9-3.	国際共著論文	151

10. 国際

10-1.	海外大学との交流状況	154
10-1-1.	海外大学との交流状況（大学間交流協定）	154
10-1-2.	海外大学との交流状況（部局間交流協定）	154
10-2.	本学学生の海外留学状況	155
10-2-1.	本学学生の海外留学状況（全体）	155
10-2-2.	本学学生の海外留学状況（部局別）	156
10-2-3.	本学学生の海外留学状況（地域別）	157
10-2-4.	本学学生の海外留学状況（部局別・地域別）	158
10-3.	外国人留学生の受入状況	161
10-3-1.	外国人留学生の受入状況（全体）	161
10-3-2.	外国人留学生の受入状況（部局別）	162
10-3-3.	外国人留学生の受入状況（課程別）	162
10-3-4.	外国人留学生の受入状況（出身地域別）	163

11. 産学官連携

11-1.	共同研究の状況	164
11-1-1.	共同研究実績の推移	164
11-1-2.	共同研究実績の推移（分野別）	165
11-2.	受託研究の状況	166
11-2-1.	受託研究実績の推移	166
11-2-2.	受託研究実績の推移（分野別）	167
11-3.	知的財産関連	168
11-4.	共著関係から見る産学官連携状況	171
11-5.	地方公共団体関係機関との共著文献数	172

12. 附属病院

12-1.	医師数等	173
12-2.	看護職員等	174
12-3.	病床稼働率	175
12-4.	患者数と手術件数の推移	176
12-4-1.	患者数の推移（入院患者数）	176
12-4-2.	患者数の推移（外来患者数）	177
12-4-3.	手術件数の推移	178
12-5.	平均在院日数の推移	179
12-6.	病床数の比較	179

13. 収入・支出

13-1.	収入・支出予算	180
13-2.	収入予算額の推移	181

1 3 - 3.	支出予算額の推移	1 8 1
1 3 - 4.	科学研究費助成事業・寄附金収入・産学連携等研究収入の推移	1 8 2
1 3 - 5.	科学研究費助成事業	1 8 2
1 3 - 5 - 1.	科学研究費助成事業の推移	1 8 2
1 3 - 5 - 2.	科学研究費助成事業の推移（研究種目別）	1 8 3
1 3 - 5 - 3.	科学研究費助成事業の比較（各大学）	1 8 8
1 3 - 6.	寄附金収入の推移	1 8 9
1 3 - 7.	産学連携研究収入の推移	1 8 9
1 3 - 7 - 1.	産学連携研究収入の推移（受託研究）	1 8 9
1 3 - 7 - 2.	産学連携研究収入の推移（共同研究）	1 8 9

1 4. 研究プログラム及び教育プログラムの採択状況

1 4 - 1.	研究プログラム採択状況	1 9 0
1 4 - 2.	教育プログラム採択状況	1 9 2

平成30事業年度 重点的に取り組んだ事項、戦略性が高く意欲的な目標・計画



新たな百年に向けた基本理念

九州大学教育憲章

九州大学学術憲章

九州大学創設百年（2011年）に際して、
新たな百年に向けての基本理念を掲げ、目指す姿と行動計画を宣言

躍進百大

九州大学がすべての分野において世界のトップ百大
大学に躍進する

基本理念
自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに
常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となる

九州大学アクションプラン2015-2020

- I 世界最高水準の研究とイノベーション創出
- II グローバル人材の育成
- III 先端医療による地域と国際社会への貢献
- IV 学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり
- V 組織改革
- VI 社会と共に発展する大学

<重点取組>

- 研究教育機構創設によるイノベーションの創出 アジア・オセアニア研究教育機構、エネルギー研究教育機構
- 新学部の設置によるグローバルに活躍する人材の育成 共創学部
- 人文社会科学分野等の再編成・機能強化による九州大学の更なる活性化

文系4学部共同副専攻プログラム、人社系協働研究・教育commons







キャンパス移転事業

九州大学アクションプラン2015-2020

IV 1)グローバル・ハブ・キャンパスの実現/3)安全・安心・快適な教育・研究・診療環境づくり

伊都キャンパス完成記念式典
(H30.9.29)

出席者：約1,000人

第Ⅰステージ
(平成17～19年度)総数：約 5,200人
(学生 4,200人、
教職員 1,000人)

【移転人数：約5,200人】

工学系〔工学部建築学科
を除く〕
理系図書館Ⅰ箱崎より移転完了
(～H 18 年度)
第Ⅰステージ終了第Ⅱステージ
(平成20～23年度)総数：約 10,800人
(学生 9,500人、
教職員 1,300人)

【移転人数：約5,600人】


基幹教育院
比較社会文化研究院
言語文化研究院
数理学研究院
理学部数学科
マ・フォア・インターストリ研究所
理系図書館Ⅱ六本松より移転完了
(～H21年10月)
第Ⅱステージ終了平成30年9月
キャンパス移転事業完了！第Ⅲステージ
平成24～30年度総数：約 18,700人
(学生 15,500人、
教職員 3,200人)

【移転人数：約7,900人】

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
次世代燃料電池産学連携研究センター
椎木講堂
伊都協奏館・ドミトリーⅢ
共進化社会システムイノベーション施設
理学系
情報基盤研究開発センター
新中央図書館 (H28・H30)
人文社会科学系 (H30)
人文科学研究院、人間環境学研究院〔工学部
建築学科を含む〕、法学研究院、経済学研究院、
統合新領域学府
農学系 (H30)
農学研究院、附属施設等
その他 (H30)
留学生センター、事務局、
課外活動施設など

その他の主な取組

実証実験キャンパス

- オンデマンドAI運行バスの本格導入(平成31年4月) 
- 日本初の「みちびき」(準天頂衛星システム)を利用した案内ロボットの実証実験
- 水素エネルギーの社会実装に向けた研究

伊都診療所の開設

- 学生・教職員のみならず地域住民等の健康を守る役割も担い、地域医療等、社会に対しても貢献
- 学内の既存スペースの有効活用により設置

交通インフラ整備

- JR九大学研都市⇄伊都キャンパスのバスの本数移転完了時1.5倍増便
- JR九大学研都市駅ホームドア設置・改札口増設(2基)
- 入構ゲート増加、南口交差点の信号機設置による交通渋滞緩和

移転跡地の売却に向けた取組

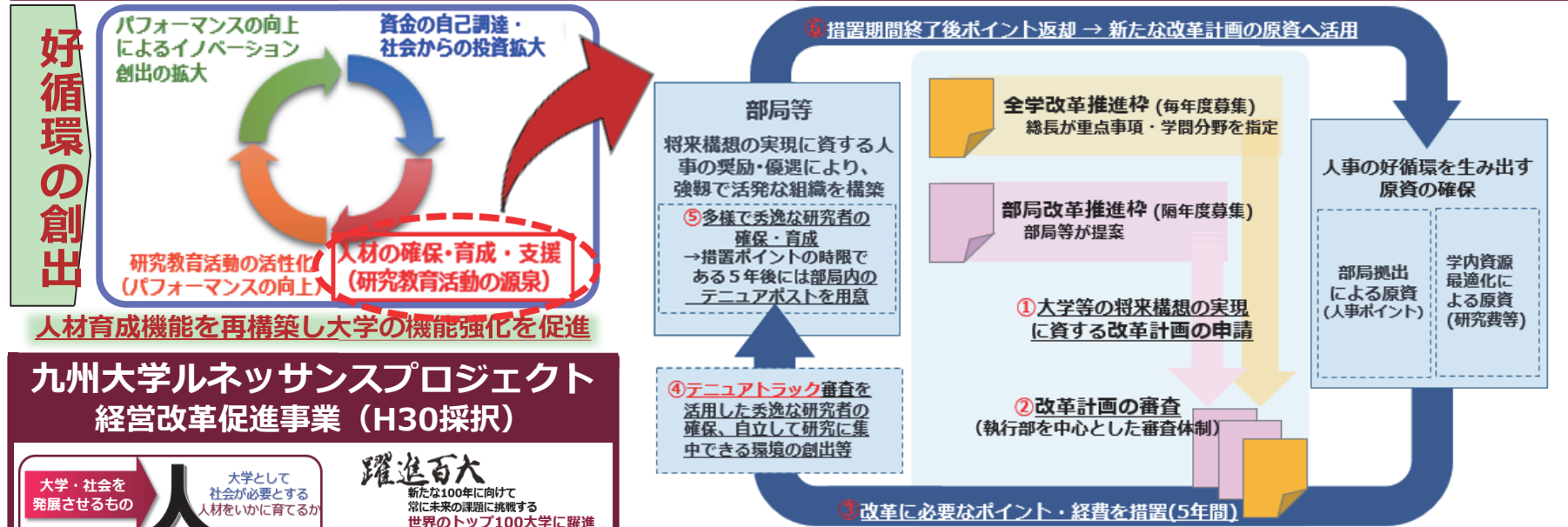
- 「FUKUOKA Smart EAST」構想による土地の付加価値向上
→大手企業等184社の会員を有する福岡地域戦略協議会(FDC)のネットワークを活用した情報発信
- 汚染土壌の高度な浄化技術の確立を目指した共同研究
→浄化基準15倍の汚染土まで浄化可能に。(従来6倍が限度)

第3次大学改革活性化制度

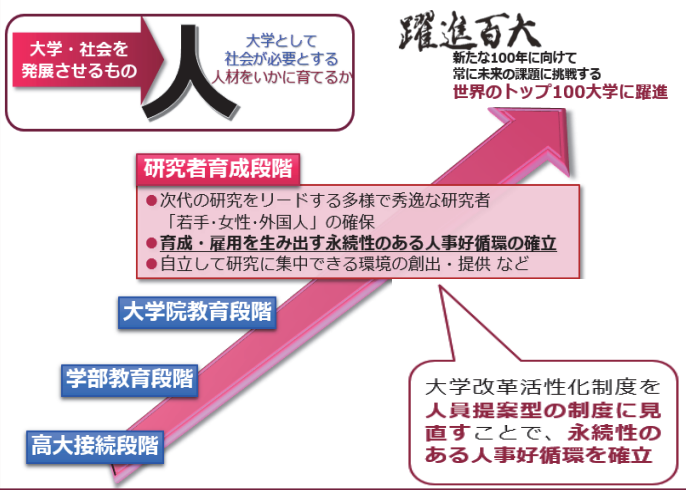
九州大学アクションプラン2015-2020 V 2)資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築

【大学改革活性化制度】 自律的な改革を促し組織を活性化する取組

- 各部署から教員配置に必要な人事ポイントを拠出→大学の将来構想に向けた改革計画に対して措置する、**戦略的な学内資源再配分**の制度 (平成23~29年度審査分で、改革計画69件、146人の教員ポストを再配置)
- 平成30年度に第3次大学改革活性化制度を構築、更に新たな制度での審査、ポイント配分まで実施 (改革計画9件、10人の再配置)



九州大学ルネッサンスプロジェクト 経営改革促進事業 (H30採択)



- 【第1次大学改革活性化制度 (H23審査-)】 ● 全部局から毎年1%ずつ拠出し、組織整備の要求に対し人を再配分する仕組みをまず構築。
- 【第2次大学改革活性化制度 (H27審査-)】 ● 大学全体の重点取組、分野の別、研究・教育の別を考えられる制度へ改正。大学としての戦略を明確化、ガバナンスを強化し、資源を戦略的に投下する仕組みへと進化。
- 【第3次大学改革活性化制度 (H30審査-)】
- さらに「人」を重視したものへ改正。「若手人材育成」という国の政策を先取りした仕組み構築。
- 部署の将来構想に基づく人員提案を中心 (組織整備中心→「人」重視型へ)。次代の研究をリードする多様で秀逸な研究者 (若手、女性、外国人) の確保・育成を念頭
- 措置する人事ポイントに時限を設定→部署のポイント拠出負担の大幅減 (毎年1%拠出を解消) (措置する人事ポイント時限を5年度間とし、その間に部署内でテニユア教員とすることを前提とする) 今後の九州大学の経営改革の方針である、「人」を重視した戦略
- 【九州大学ルネッサンスプロジェクト】のうち、「研究者育成段階」の核となる取組

財務基盤の強化に向けた取組 (積極的な増収方策・徹底した経費削減方策)

九州大学アクションプラン2015-2020 V 2)資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築

【積極的な増収方策】

新たな増収方策、効果的な資産運用、現物資産による寄附の受入、外部資金獲得等

【徹底した経費削減方策】

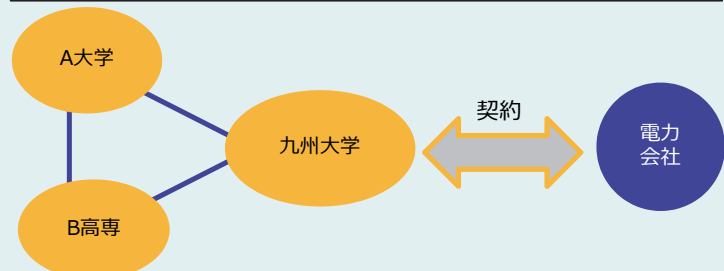
電力共同調達、財務系業務改善プロジェクト、省エネ等

【増収方策①】新たな増収方策



- ◆クラウドファンディング : 財源確保に限らず、大学の教育研究活動の広報・情報発信や、国民の理解増進等の側面を担う事業として導入。7プロジェクトを実施し、約2,100万円を獲得。
- ◆ネーミングライツ : 増収の効果と同時に本学学生の就職支援にもつながる取組みとして、大学のスペースにターゲットを絞った「人事・採用目的」でのネーミングライツ契約という企業ニーズを活用して、情報学習室を公募し、3年契約・年間約200万円の契約を締結

【経費削減方策①】九州地区での共同調達実施



電力の小売が全面自由化されたことにより、今まで法令で契約相手方が決まっていた電力契約を、九州電力管内の国立大学法人及び高等専門学校とともに、一般競争入札による共同調達実施
 ⇒ 総額1億7,500万円の経費削減

【増収方策②】効果的な資産運用

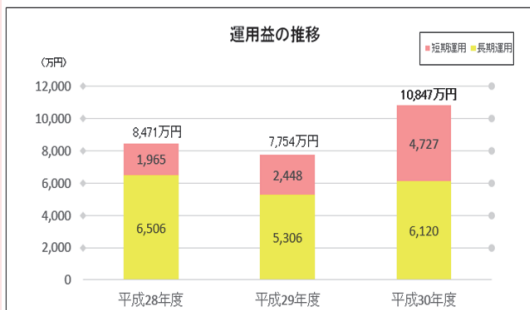
現行

預貯金
国債、地方
債等

今後

外貨、投資
信託金銭
信託等

+



寄附金など、当面の間支払い予定のない手元の余裕金を財源として、国債等の債権購入や定期預金等の資産運用(運用率約87%)を行った
 ⇒ 約1億800万円の運用益を獲得
 ⇒ 今後は、元本保証のある金融商品から、収益性の高い金融商品に資金運用を拡大

【増収方策③】現物資産による寄附の受入

個人からの現物資産による寄附拡充のため、九州大学基金に文部科学大臣の証明を受けた基金として「特例寄附資産等基金」を設置
 ⇒ 個人からの現物資産による寄附の申し込みを受け、全国立大学に先駆け平成30年12月に福岡市西区の個人所有地を譲り受けた。(470.61㎡ = テニスコート約2面分)

みなし譲渡所得税の非課税要件緩和



【経費削減方策②】財務系業務改善プロジェクト

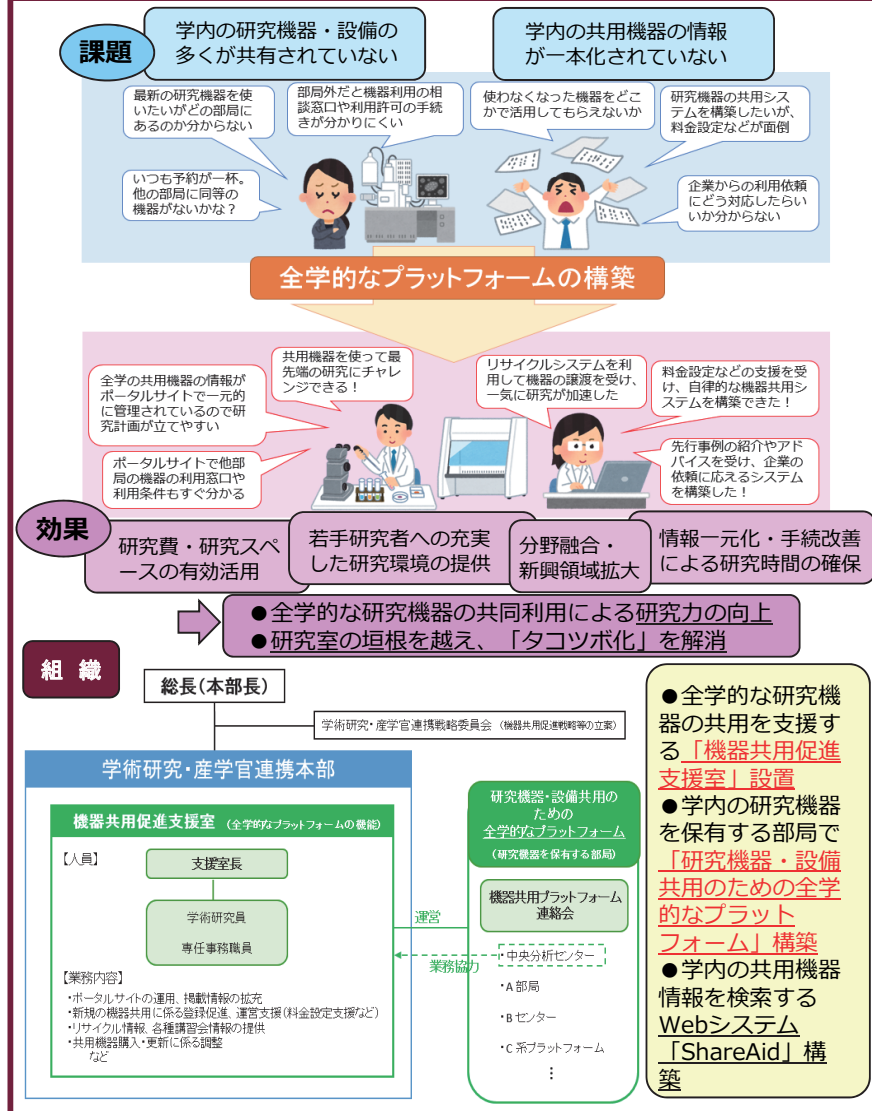
財務系業務改善プロジェクトを引き続き実施し、継続案件について業務改善策を検討。
 ・支出契約の手続き
 ・決裁権限の見直し
 ・寄附申込手続きの簡便化
 などにより、平成30年度実施分、31年度実施予定分を合わせて年間1万時間超の事務コスト削減見込み

⇒ 他部署への横展開として、新たに人事系業務に関する業務削減検討会を設置。
 →56件の改善策を取りまとめ、平成30年度内に4件の改善を実施

研究機器・設備共用のためのプラットフォーム構築

九州大学アクションプラン2015-2020

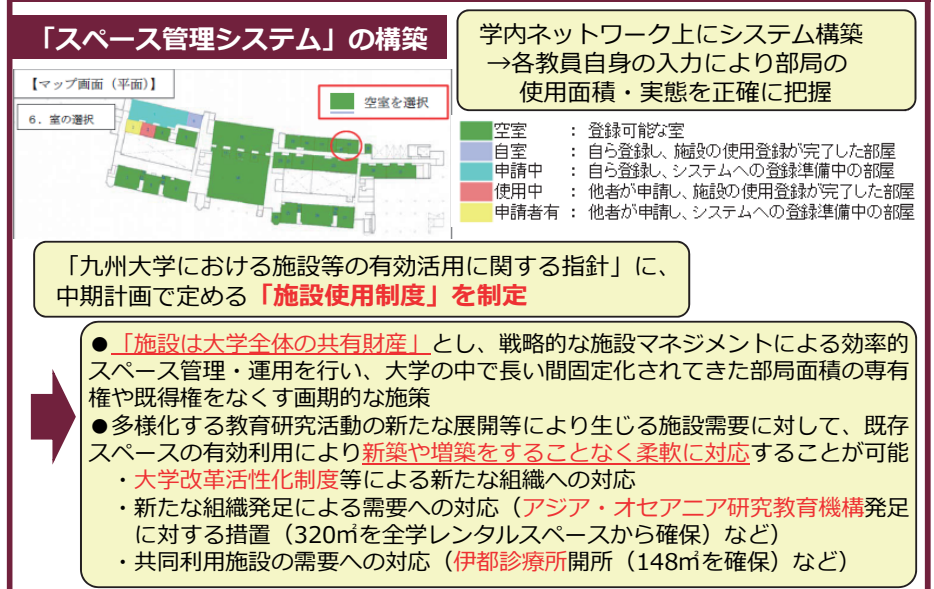
V 2)資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築



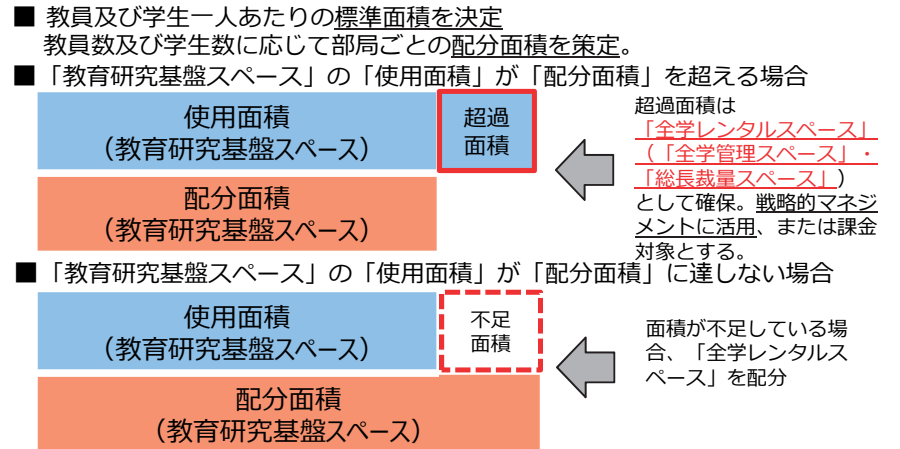
施設使用制度の策定

九州大学アクションプラン2015-2020

V 2)資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築



「施設使用制度」の制定



KYUSHU UNIVERSITY 7

主な年度計画の取組状況
I. 業務運営・財務内容等の状況 (自己点検・評価)

「IRによる戦略支援会議」の設置 (総長・執行部支援強化に向けたIR活動の拡充)

九州大学アクションプラン2015-2020 V 1)世界的研究・教育拠点として全学一体となった自立的改革

<設置の目的>

総長・執行部への情報提供ルートを確立し、**エビデンスに基づいた大学経営に資する仕組みを強化**する

<概要>

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「**管理指標進捗報告**」「**テーマ別分析報告**」を行い、必要に応じて総長・執行部より指示を受け、次回以降の分析・報告につなげる

<H30年度の主な成果>

【管理指標進捗報告】

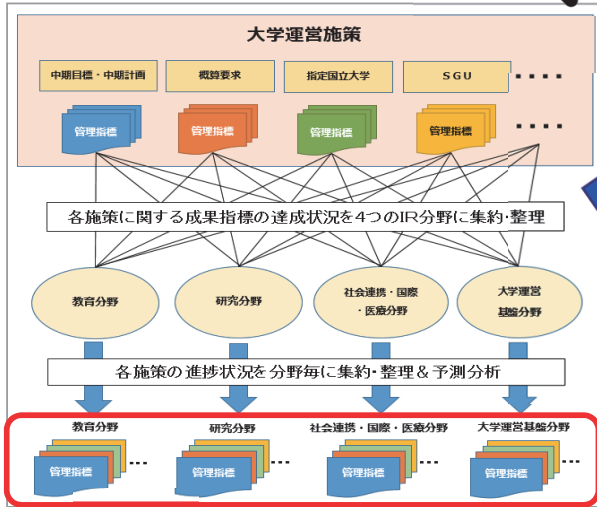
✓ 複数の施策に跨り達成状況を可視化→問題把握が容易→担当理事による判断の迅速化

【テーマ別分析報告】

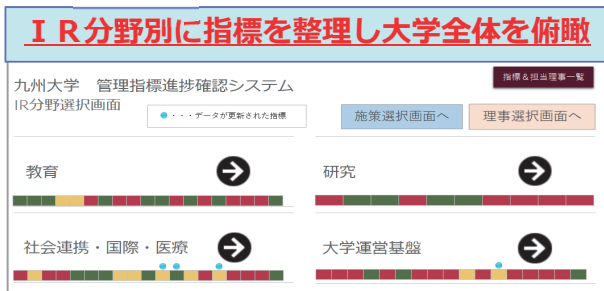
✓ 研究フラグシップの特定
✓ アジア・オセアニア研究教育機構設立に向けたクラスター候補選定 他

ー モニタリング ー

【1】管理指標進捗報告

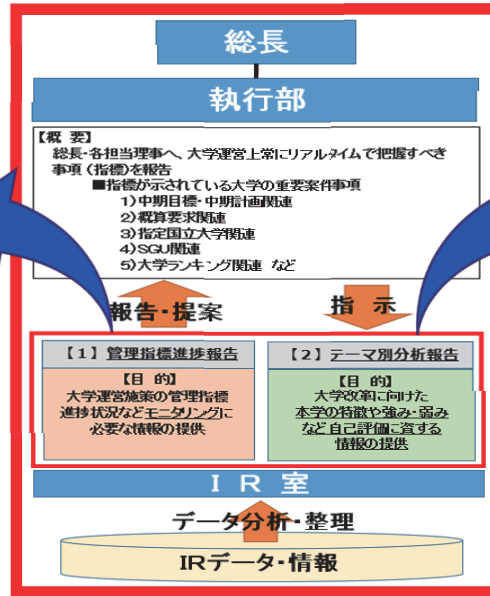


見える化



■ 管理指標進捗確認システム

◆ IRによる戦略支援会議 ◆



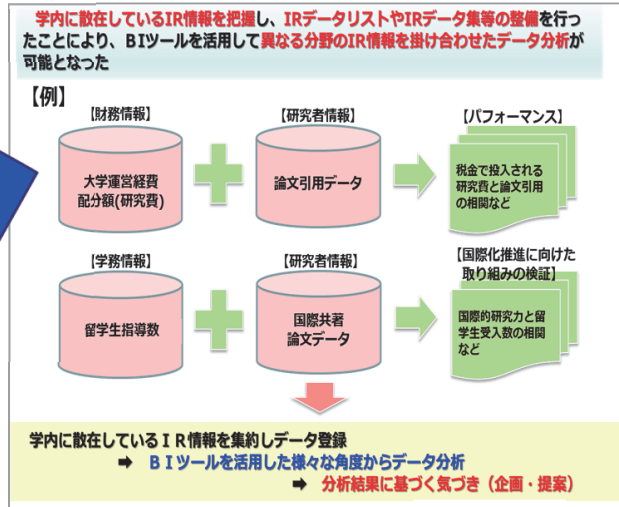
情報共有



■ IR室Webサイト

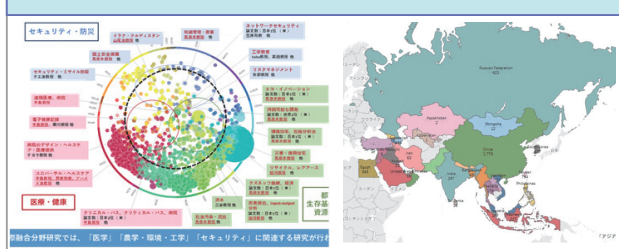
ー 分析結果に基づく気付き ー

【2】テーマ別分析報告



データ分析

九州大学の特徴や強み・弱み等を特定



■ 報告例 アジア・オセアニア関連の研究トピック及び活動分布

共創学部第1期生入学

九州大学アクションプラン2015-2020 II 1)「新学部」の設置と教育の国際化改革

<共創学部>

- 本学が50年ぶりに設置した12番目の学部
- **既存学部の入学定員を見直し、定員数(105名)を確保**
- 学府・研究院制度により**21部局から多彩な教員(専任50名・科目担当29名)を配置**
- 既存の学問の枠を超えて、幅広い知識と高度なコミュニケーション能力により、**多様な学知を組み合わせることで課題解決を行う人材を育成**

多様な学生受け入れ

- ✓ 新入試QUBEによる**4類型の入試**
- ✓ 受験者486名の中から第1期生108名を選抜
- ✓ 平成30年4月**入学104名**
- ✓ 第2期生入試も高倍率(4.25倍)

日本人学生の海外留学を必須

交換留学 (2年次~4年次)	海外インターンシップ、海外ボランティア、 海外フィールド調査等(1年次~4年次)	短期留学・研修 (1年次~4年次)
-------------------	---	----------------------

- ✓ 第1期生のうち52名が、1年次で既に留学を経験
- ✓ **大学改革活性化制度**により留学コーディネーターとして**教員2名を採用**。平成30年度は26校の海外大学を訪問し、**7校と部局間交流協定を締結**

大学間交換留学
による留学先
大学数
114大学
26カ国・地域
(平成30年1月現在)

新入試QUBE Kyushu University (QU) Border Crossing Entrance

大学適応力重視型 20名
(21世紀入試発展型) 入試倍率:
【H30】10.40倍→【H31】7.25倍

加速学習型 10名
(高大連携型)
【H30】4.50倍→【H31】4.60倍

国際経験・英語力重視型 10名
(国際型)
【H30】2.90倍→【H31】4.50倍

記述学力重視型 65名
(学力重視型)
【H30】3.14倍→【H31】3.23倍

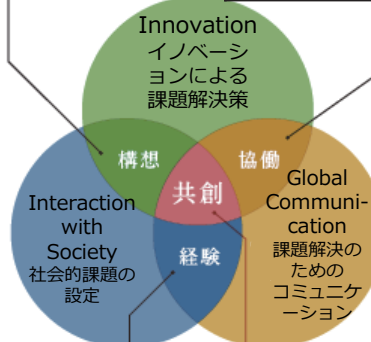
定員105名

課題構想力

現実の問題に対応するため適切に課題を設定し、既存の学知を組み合わせることで解決策を模索する力。

協働実践力

構想した課題解決策について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で協働し、現実可能な解決策を創造する力。



国際コミュニケーション力

課題が生じている現場で、解決策の実行のために多くの人にその内容を説明し、理解と協力を得る力。

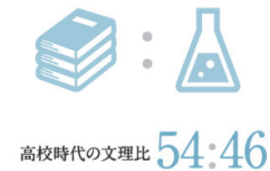
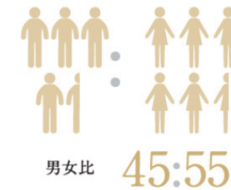
共創的課題解決力

「共創」の理念を実現するために必要な、「能動的学習能力」、「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション力」の4つの力を総合して実際の課題解決に取り組む力。

これまでの志願状況(平成30、31年度)

中国=19
アメリカ=15
韓国=19
インドネシア=9
台湾=3
マレーシア=2
モンゴル=1

シンガポール=2
タイ=1
フィリピン=1
インド=1
グアテマラ=1
ペルー=1



KYUSHU UNIVERSITY 重点的に取り組んだ事項 総長のリーダーシップによる取組(研究) 9

オール九大で取り組む「アジア・オセアニア研究教育機構」創設

九州大学アクションプラン2015-2020 I 1)世界最高水準の卓越した学術研究の推進

世界的に本学の強み・特色として評価を受けている研究分野ごとに多様な研究教育活動の組織化を推進する組織

アジア・オセアニア研究教育機構 (H31.4設置)

アジア・オセアニア地域が抱える社会的課題の解決の道や新たな展開を
模索する研究者が集うオール九大体制の組織

【設置の背景】

「九州大学アクションプラン 2015-2020」で掲げる世界最高水準の卓越した学術研究の推進

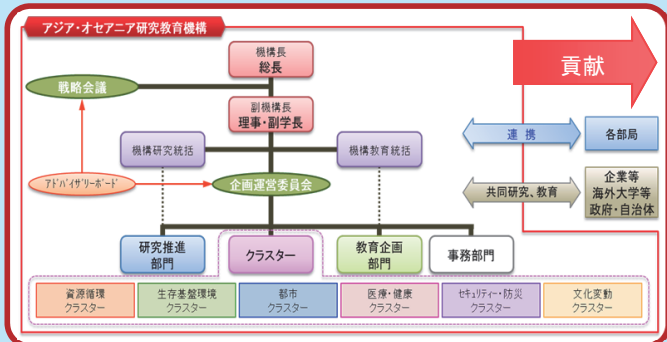
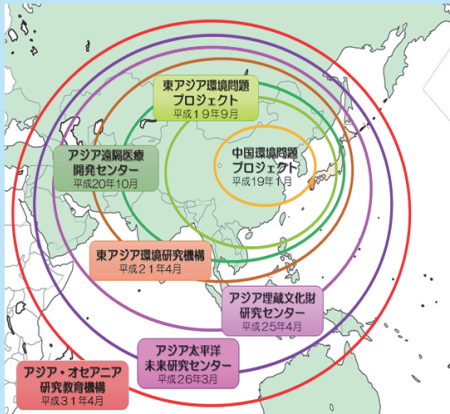
- ▶アジア・オセアニア(以下A・O)地域は地理的・歴史的につながりが深く本学の国際戦略上重要な地域
- ▶本学がA・O地域で10年以上に亘り組織再編を行いつつ活動分野等を拡大して全学的に取り組んできた成果を最大限に生かした集大成として、A・O機構を構想

【体制、目的】

- ・機構長=総長、副機構長=理事・副学長 →強力なガバナンス体制
- ・専門分野を超えた複数の分野融合型研究グループが、現地の海外大学や研究機関、政府機関、自治体等と連携したオンデマンド&オンサイト研究教育活動を展開
- ・A・O地域で生じている、また将来予想される社会的課題の解決や発生抑制への貢献、教育による真の国際的人材の育成
- ▶SDGsで掲げる持続可能な社会、さらにその先(Future SDGs)にある理想とするサステナブルな社会の実現に貢献

【設置に向けた30年度の取組】

- ・A・O関連の研究をする本学教員の分析を行い、教員約2,000名のうち約3割が関わっていることを把握
- ・オール九大で取り組むべき社会的課題等の抽出のため、学内支援制度QRプログラムの「特定領域強化プロジェクト」の重点支援分野として募集。応募27件の研究教育領域の中から組織した5つのクラスター、さらに総長のリーダーシップにより、人文社会科学系分野の機能強化を目指したクラスターを追加し、合計6つのクラスターで構成。アジアに関連する研究教育活動を行う教員100以上が関わる
- ・機構設置後に「研究推進部門」の核となる研究推進ディレクターの専任教授を総長裁量ポストにて措置



※クラスターは、複数のモジュール(社会的課題の解決・発掘に取組む学際的な研究グループ)で構成

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

アジア・オセアニアから世界を拓く

そして、その先へ

Future SDGs

キックオフシンポジウム開催(7/10)

エネルギー研究教育機構 (H28.10設置)

オール九大で、「2100年の社会が理想とするエネルギー」を具現化

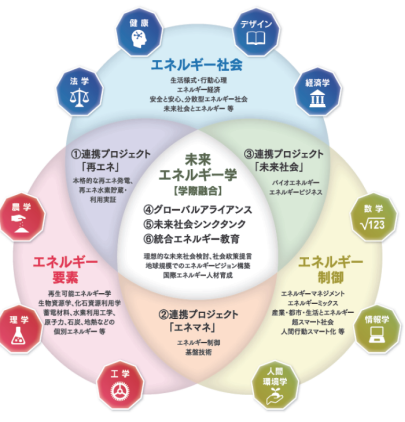
連携プロジェクト

- 01 再生可能エネルギー利用システム研究
- 02 未来エネルギーマネジメント研究
- 03 未来エネルギー社会研究

学際融合

- 04 エネルギー関連の世界的な研究教育アライアンスの構築
- 05 環境性・経済性・社会性を両立させる未来社会への提言
- 06 文理融合の未来エネルギー学と統合的エネルギー教育プログラムの構築

エネルギー研究教育機構 部局の壁を取り去ったオール九大のプラットフォーム組織



「九州大学エネルギーウィーク」の開催

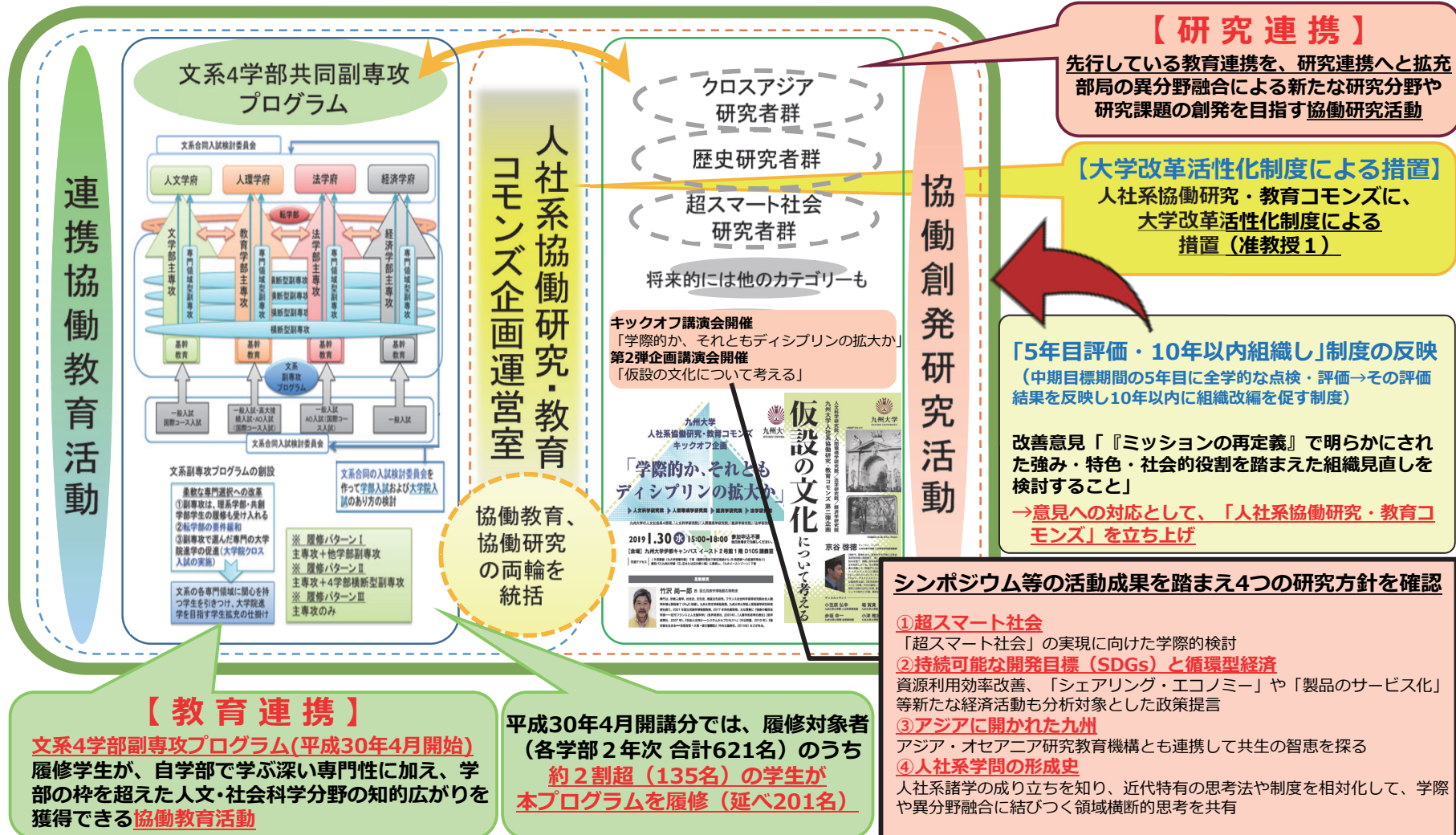
本学のエネルギー関連部局が参画したシンポジウムであり、エネルギー研究の国際的なハブ機能を担うための研究者交流の場。平成30年度は5日間に亘り著名な研究者の招待講演や国際ワークショップ等を開催し、延べ約1,900名が参加(平成28年度~平成30年度 毎年開催)



「人社系協働研究・教育コモンズ」の設置

九州大学アクションプラン2015-2020 I 2)新研究領域創出・育成に向けた基盤的研究の支援強化と人材育成

文系4部局(文学部・教育学部・法学部・経済学部)の教育連携、研究連携の両輪を担う協働研究教育プラットフォーム
「人社系協働研究・教育コモンズ」を設置



平成30事業年度 重点的に取り組んだ事項、戦略性が高く意欲的な目標・計画(つづき)



KYUSHU UNIVERSITY

重点的に取り組んだ事項
全体的な状況 (研究・国際)

11

世界最大級の国際会議開催

九州大学アクションプラン2015-2020 I 1)世界最高水準の卓越した学術研究の推進

主要な国際会議の主催及び誘致を積極的に行うという方針に基づき、世界的な大型国際会議を招致

東アジアで初開催

「第20回比較法国際アカデミー国際会議」

(7月22日～28日)

- ✓ 4年に一度開催される法学分野で世界最大級の会議
(組織委員長：河野俊行主幹教授 (ICOMOS会長、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団ライマール・リュスト受賞))
- ✓ 60か国超の国々から832名が参加



アジアで初開催

「World Social Science Forum (WSSF) 2018

(第4回世界社会科学フォーラム)」 (9月25日～28日)

- ✓ 国際社会で最も権威と影響力のある会議のひとつ
- ✓ 研究者や政策担当者、ジャーナリストら約80か国から約1,000名の参加



日本で初開催決定

「QS APPLE 2019」招致決定

- ✓ スーパーグローバル大学創成支援事業におけるレピュテーション・マネジメント (RM) 戦略の一環として招致
- ✓ 日本初！九州大学がQS-APPLEのホスト校に
(APPLE: Asia-Pacific Professional Leaders in Education Conference and Exhibition)
- ✓ アジア太平洋地域の高等教育機関を中心に700名規模の参加者が見込まれる

QS APPLE2019
Asia Pacific

15th Annual Strategic Summit for the Advancement of University Excellence in all its Forms

November 2019 • Fukuoka, Japan

23 November 2018
Kyushu University, Seoul, Korea



協定書を取り交わすマンディ・モク氏(左)と荒瀬理事・副学長

新中央図書館 (10月1日グランドオープン)

九州大学アクションプラン2015-2020 IV 3)安全・安心・快適な教育・研究・診療環境づくり

「次の百年を担う図書館であること～アジアのトップブランドとして～」を基本コンセプトに
収蔵能力350万冊を有する国内最大規模の図書館として、2018年度に全面開館 (総面積 19,279㎡ 座席数 約1,400席)

資料の集中化による利用環境の飛躍的向上

- ◆ 各キャンパスに分散していた人文社会科学系資料約240万冊を集約し**人文系・社会科学系の研究拠点を形成**
- ◆ **準貴重書室の設置**による貴重資料の利用促進と利用者の利便性向上
- ◆ 記録資料館所蔵資料の集約による一元的アクセス提供

アクティブラーナー育成のための施設および体制の整備

- ◆ 利用形態に応じた**多様な学習スペースの提供**
 - ✓ アクティブラーニングスペース「きゅうと commons」(約1,000㎡, 約200席)
 - ✓ 演習室(2室)、研究個室(11室)
- ◆ **授業外学習支援と研究支援体制の強化**を目的として、学術サポート課を新設
- ◆ 各キャンパス(箱崎、伊都、病院、大橋)に図書館TA (Cuter) 配置
 - ✓ 図書館TA (Cuter) の学習支援の取組を国際会議等で発表し、**ALIRG2018でベストポスター賞を受賞**

グループ学習室 (4室)
講習会スペース
オープンスペース



移転の課題を工夫により解決

- ◆ **綿密な移転計画**(代替サービスの提供や新中央図書館の先行開館)により、**サービス停止のない移転作業を実施**することで**学習・教育・研究への影響を最小限に抑制**
- ◆ 移転前図書館で用いられていた机・椅子・書架を再利用し**経費を節減**するとともに、**歴史を感じさせる空間づくり**に寄与

分館における特徴的な取組

- 理系図書館 「理系分野の教育・研究支援強化」
移転完了により、分散していた自然科学系資料を集約。実験レポート講座などのイベントも多数実施
- 芸術工学図書館 「サイエンスプラクティス」サイエンスカフェ形式のセミナーを実施



世界的研究・教育拠点としての教育・研究・学修活動を支えるための学術情報基盤整備

九州大学アクションプラン2015-2020 IV 3)安全・安心・快適な教育・研究・診療環境づくり

安全で安心な高度情報通信基盤の整備・構成員のサイバーリテラシの向上

高度情報通信基盤の整備

- ◆ 内部ネットワーク監視システム導入(セキュリティ対策強化)
- ◆ **スーパーコンピュータシステム「ITO」運用開始**
 - ✓ データサイエンス分野のユーザが活用できる機能を有する日本初のシステム
 - ✓ この特長を活かすため、スパコンの操作に慣れていない新規ユーザの参入障壁を下げる目的で、**WindowsやMacユーザにも使いやすいウェブブラウザ経由でデータ解析可能な環境の提供等を開始**



スーパーコンピュータシステム「ITO」

サイバーリテラシの向上

- ◆ **全教職員を対象に標的型攻撃メール訓練を実施**
- ◆ **全学部1年次生を対象にサイバーセキュリティ科目を必修科目として実施**、大学院システム情報科学府で「サイバーセキュリティ分野」の授業科目を複数開設
- ◆ サイバーセキュリティ専門家育成のためにenpit2(学内向け)、enpit-pro(社会人向け)を開催(文部科学省enpit事業を継続)
- ◆ 「せきゅーとーク2019 in 福岡」開催(インターネットサービス提供事業者及び福岡県警と共同で開催)



「せきゅーとーク2019 in 福岡」講演の様子

スーパーグローバル大学創成支援の事業推進

教育国際化関連の取組

- ◆ 国際コースの拡充
新たに文学部、経済学部、理学部、薬学部で国際コースを開設
- ◆ 大学院教育改革
「九州大学大学院教育改革指針」を策定。複数指導教員体制の構築や外国人教員、学外専門家の登用による客観性を重視した学位審査体制の整備、ダ・ヴィンチプログラム(学府、専攻及び教育プログラムを横断するオーダーメイド型大学院学位プログラム)の編成を強かに推進
- ◆ 中東・北アフリカ地域との連携形成キックオフ
日本留学海外拠点連携推進事業の開始に伴い、重点国の一つであるエジプトにある九大カイロオフィスの機能を拡張。中東・北アフリカ地域からの留学生獲得に向けて始動
- ◆ THE世界大学ランキング日本版4位
教育力を重視した本ランキングにおいて昨年の5位から4位にランクアップ。
「国際性」及び「教育リソース」が高評価
- ◆ トビタテ! -留学JAPAN- 第10期の合格者数が全国2位
グローバル学生交流センターのコーディネーター等によるワンストップサービスにより、留学を希望する日本人学生に対する綿密なサポートを提供。
第10期の合格者数は20名に上り、全国2位

研究国際化関連の取組

- ◆ アジア・オセアニア研究教育機構の創設
九州大学の強み・特色の具現化の一つとして、アジア・オセアニア地域の社会的課題に取り組むアジア・オセアニア研究教育機構を創設。
平成31年4月から活動開始

ガバナンス改革関連の取組

- ◆ 九州大学ルネッサンスプロジェクトを開始
学部教育、大学院教育から研究者育成までトータルに行う人材育成戦略を開始。
世界をリードするグローバル人材を持続的に育成

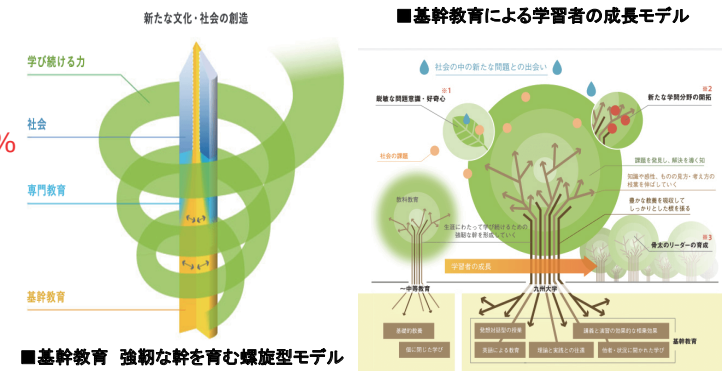
レピュテーション・マネジメント (RM) 関連の取組

- ◆ 国際会議の開催
比較法国際アカデミー国際会議を東アジアで初めて開催。60以上の国・地域から約840名参加。
また、世界社会科学フォーラムをアジアで初めて開催。
およそ80の国・地域から約1,000名参加

「基幹教育」を基盤とした学部教育を通貫したカリキュラムの見直しや国際化への対応

アクティブ・ラーナー育成の取組を充実・発展させるため、「基幹教育」を基盤とした学部教育を通貫したカリキュラムの見直しや国際化への対応を推進

- ◆ 外国語による授業科目の開講率増加
学部【H29】12.2% → 【H30】16.6%、大学院【H29】40.4% → 【H30】43.8%
- ◆ 部局インセンティブ経費(大学改革推進経費)の指標として外国語による授業科目の開講状況を追加
- ◆ 令和元年度に全部局において3ポリシーの見直しを行うことを決定
- ◆ ルーブリック評価導入の推進 【H29】74.2% → 【H30】74.4%
- ◆ GPA2.0未満の卒業者の割合改善 【H26】21.8% → 【H30】11.8%
- ◆ クォーター科目の導入率【H29】13.1% → 【H30】26.1%



共同利用・共同研究拠点の実績を基盤とした連携強化

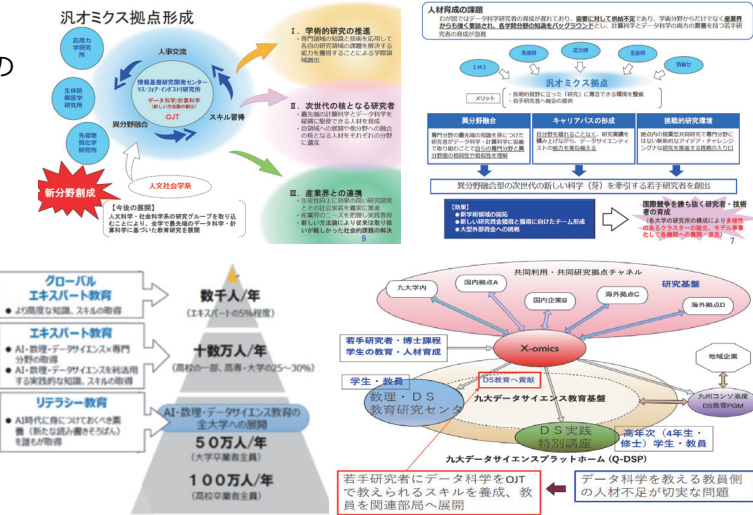
共同利用・共同研究拠点の連携による新たな学際領域研究の推進

九州大学の強みである汎オミクス計測科学の成果を基軸に、計測・計算・データ科学の統合から新たに生み出されつつある科学創出へのアプローチを探求し、次世代の学際領域創世の核となる人材の育成を、国内外のハブである全国共同利用・共同研究拠点のクラスター連携で推進。大学内の共同利用・共同研究拠点が連携して新しい学際領域を創成するのは日本でも初の取組。

- ◆ 大学改革活性化制度を活用し、本学の全ての学問分野におけるデータ計算科学を必要とする若手研究者育成を目的として、「汎オミクス計測・計算科学センター」設置を決定(平成31年4月1日設置)。



- ◆ システム情報科学研究院や数理学研究院を中心とした「数理・データサイエンス教育センター」(文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」拠点大学として整備)など、データ科学に関わる学内のステークホルダーと協力し、学内のデータサイエンス教育と研究に関する連携体である「九大データサイエンスプラットフォーム(Q-DSP)」を形成



大学の戦略的システム改革におけるカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I²CNER) の機能強化

カーボンニュートラル・エネルギー研究分野においてイリノイ大学等と連携して最先端の研究を推進

- ◆ 本学のエネルギー研究のプラットフォームとしてエネルギー全般を取り扱う「エネルギー研究教育機構」との連携強化(カーボンニュートラル・エネルギーに特化した研究を担当)
- ◆ マス・フォア・インダストリ研究所との連携・協力を推進(若手研究者育成)
- ◆ 20機関を超える海外の連携機関や企業等との国際共同研究を推進【論文数: 296 h-index: 73 受賞数: 33 (H31.3.22現在)】
- ◆ エネルギーの3E+S(安全保障・経済効率・環境保護+安全)の視点から、低炭素社会の実現に向けた、新しい高効率エネルギー科学の創出を推進

これまでの画期的な研究成果例

- 新規な光バイオ触媒による高効率水素製造
 - 新固体電極の燃料電池への応用
 - 水素で劣化しない金属材料の開発
 - CO₂を適応的に分離する超薄膜の作成
 - CO₂地下貯留を管理する連続モニタリング装置の開発など
- これらの社会実装により、2050年時点で、2010年比で518万トン相当のCO₂削減に寄与すると予想

グローバル社会で活躍できる人材を育成する新学部設置に向けた取組

➡ 前掲 スライド 8頁

本学の強みを活かした研究教育活動を組織化する研究教育機構(仮称)の設置

➡ 前掲 スライド 9頁

戦略的・重点的な教育研究組織の強化・再編成に向けた取組

➡ 前掲 スライド 10頁

安全で安心な高度情報通信基盤の整備・構成員のサイバーリテラシの向上

➡ 前掲 スライド 12頁

1. 概要・他大学との比較 (令和元年5月1日現在)

1-1. 九州大学の概要

1-1-1. 学部等の構成

学部【12】	大学院(学府)【18】	大学院(研究院)【16】
共創学部	人文科学府	人文科学研究院
文学部	地球社会統合科学府	比較社会文化研究院
教育学部	人間環境学府	人間環境学研究院
法学部	法学府	法学研究院
経済学部	法務学府(法科大学院)	経済学研究院
理学部	経済学府	言語文化研究院
医学部	理学府	理学研究院
歯学部	数理学府	数理学研究院
薬学部	システム生命科学府	医学研究院
工学部	医学系学府	歯学研究院
芸術工学部	歯学府	薬学研究院
農学部	薬学府	工学研究院
	工学府	芸術工学研究院
	芸術工学府	システム情報科学研究院
	システム情報科学府	総合理工学研究院
	総合理工学府	農学研究院
	生物資源環境科学府	
	統合新領域学府	
基幹教育院※1		
高等研究院		
附置研究所【4】		
生体防御医学研究所※2 応用力学研究所※2 先端物質化学研究所※2 マス・フォア・インダストリ研究所※2		
国際研究所(カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所)		
九州大学病院		
附属図書館		
情報基盤研究開発センター※2		
エネルギー研究教育機構		
アジア・オセアニア研究教育機構		

※1は教育関係共同利用拠点に認定された施設を示す。※2は共同利用・共同研究拠点に認定された施設を示す。

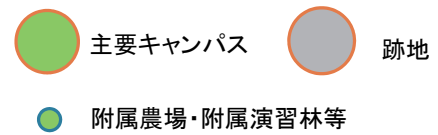
1-1-2. 学生数及び教職員数

	入学定員	入学者数		総定員	在籍者数		
		計	うち女子学生		計	うち女子学生	
学部	2,555	2,638	804	10,608	11,647	3,389	
大学院	修士課程	1,748	1,787	400	3,486	4,011	992
	専門職学位課程	140	125	49	325	301	108
	博士(後期)課程	780	557	165	1,713	2,660	781
	合計	5,223	5,107	1,418	16,132	18,619	5,270

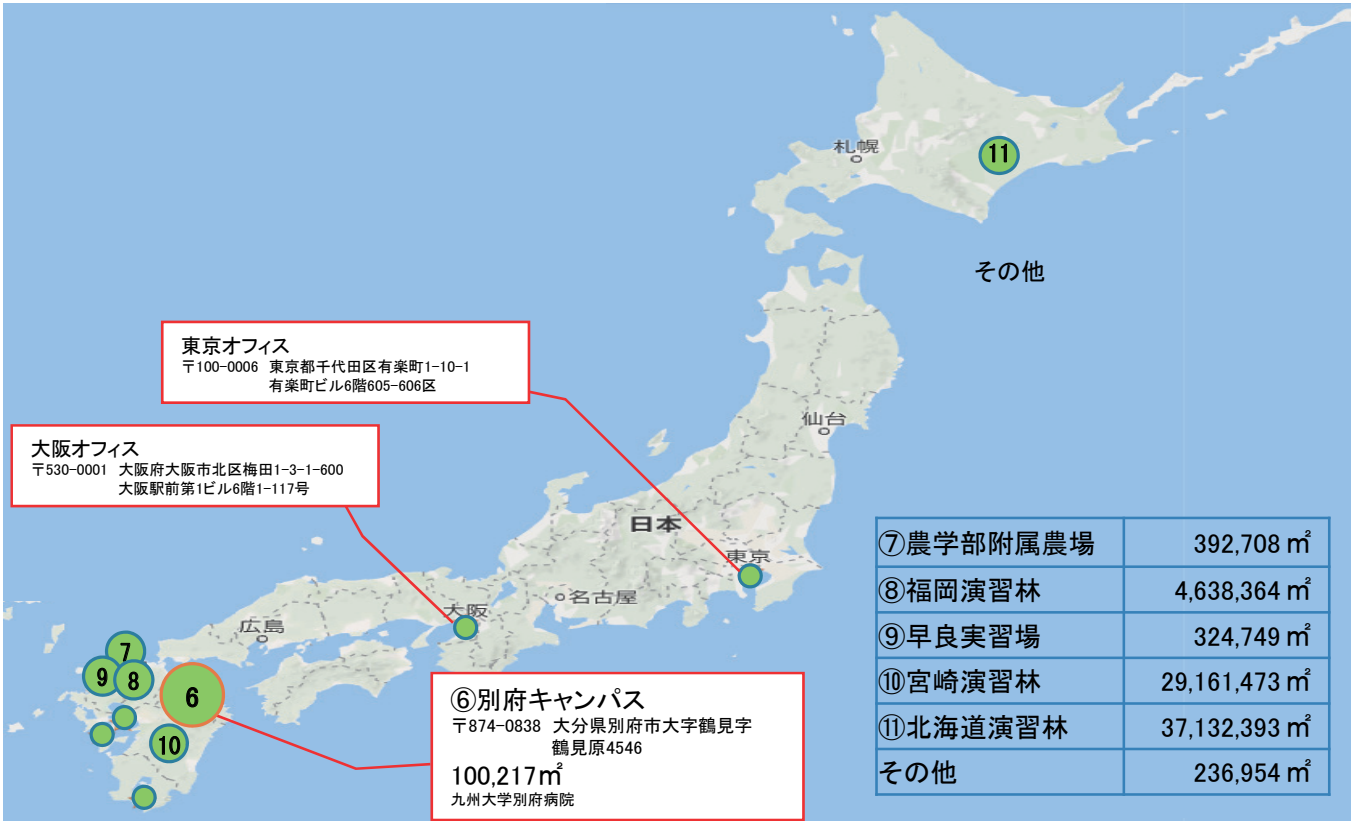
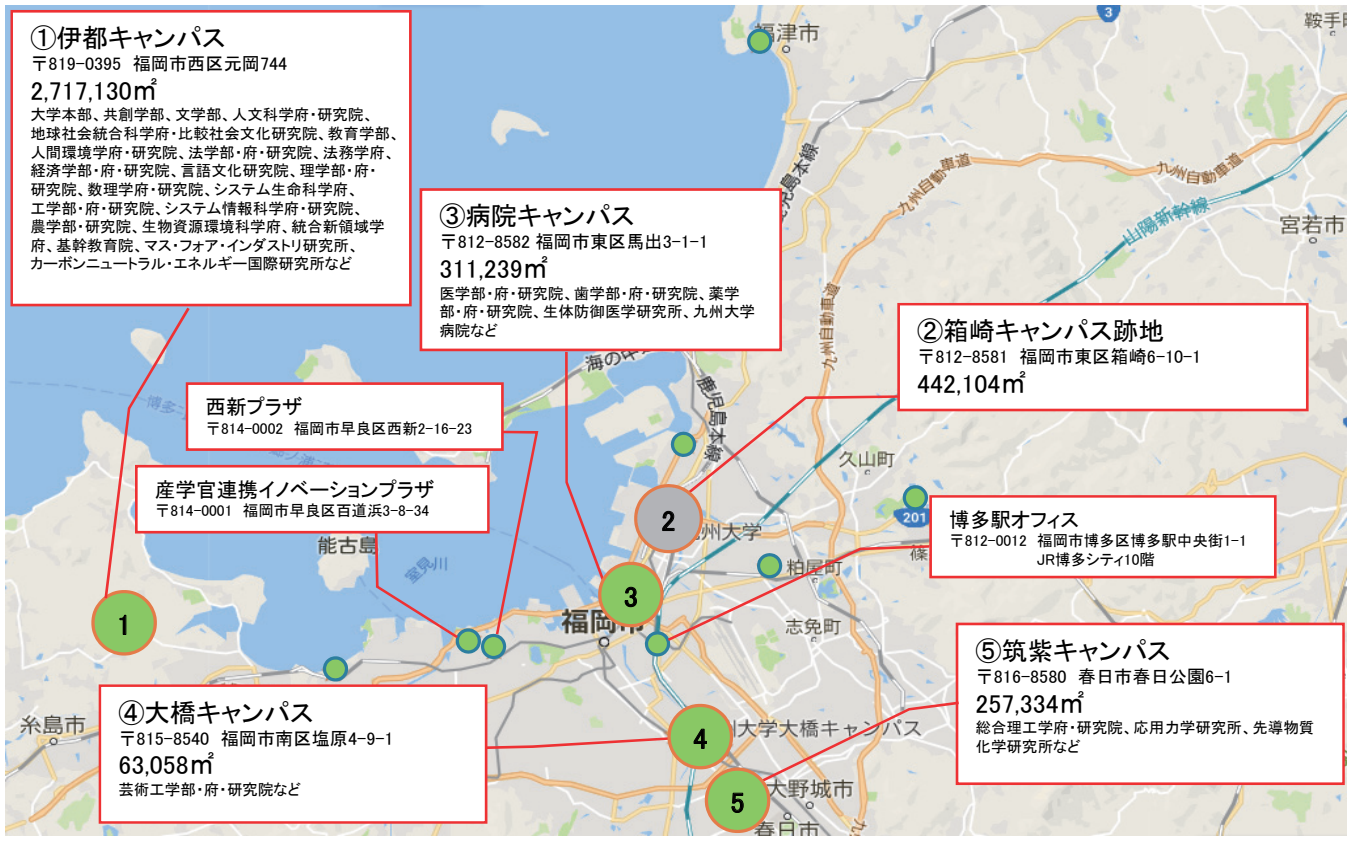
教職員数	教員数		職員数		合計	
	計	うち女性教員数	計	うち女性職員数	計	うち女性教職員数
	2,074	275	2,332	1,423	4,406	1,698

※出典：九州大学概要(令和元年5月1日現在)※総定員のみ「学部通則」、「大学院通則」

1-2. 主要キャンパス



総キャンパス面積：75,777,723 m²



※出典：九州大学概要（令和元年5月1日現在）

1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)

【学部数】

順位	大学名	学部数
1	北海道大	12
1	広島大	12
1	九州大	12
4	大阪大	11
4	岡山大	11
6	東北大	10
6	千葉大	10
6	東京大	10
6	新潟大	10
6	京都大	10
6	神戸大	10

(2018)

【学部入学定員】

順位	大学名	人
1	大阪大	3,255
2	東京大	3,063
3	京都大	2,823
4	神戸大	2,670
5	九州大	2,555
6	北海道大	2,485
7	東北大	2,396
8	広島大	2,338
9	千葉大	2,322
10	新潟大	2,242

(2018)

【学部志願倍率】

順位	大学名	倍
1	東京工業大	5.48
2	千葉大	4.97
3	神戸大	4.33
4	北海道大	4.01
5	東北大	3.55
6	九州大	3.45
7	広島大	3.43
8	京都大	3.23
9	東京大	3.22
10	筑波大	3.13

(2018)

※出典：学部数、学部入学定員、学部志願倍率：各大学HP及び大学概要(2018)

【学部 収容定員・在籍学生数・定員充足率】

順位	大学名	収容定員(人)	在籍学生数(人)	定員充足率(%)
1	大阪大	13,546	15,355	113.3
2	東京大	12,588	13,997	111.1
3	京都大	11,809	13,220	111.9
4	神戸大	10,704	11,589	108.3
5	九州大	10,658	11,746	110.2
6	北海道大	10,535	11,429	108.4
7	東北大	10,030	11,012	109.7
8	広島大	9,971	10,887	109.1
9	千葉大	9,880	10,561	106.8
10	新潟大	9,534	10,308	108.1

(2017)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。

※14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

(※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム

※出典：学部収容定員、在籍学生数、定員充足率：文部科学省 平成29年度業務実績報告書

1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)(つづき)

【大学院数】

順位	大学名	大学院数
1	北海道大	18
1	京都大	18
1	九州大	18
4	大阪大	16
5	東北大	15
5	東京大	15
5	神戸大	15
8	千葉大	13
8	名古屋大	13
10	広島大	11

(2018)

【大学院入学定員】

(単位:人)

順位	大学名	入学定員合計	修士課程	専門職学位課程	博士後期課程
1	東京大	4,925	2,843	385	1,697
2	京都大	3,705	2,261	314	1,130
3	大阪大	3,047	2,025	80	942
4	千葉大	3,001	1,922	160	919
5	東北大	2,674	1,773	120	781
6	九州大	2,668	1,748	140	780
7	筑波大	2,455	1,710	66	679
8	名古屋大	2,413	1,634	50	729
9	北海道大	2,367	1,603	100	664
10	東京工業大	2,151	1,544	40	567

(2018)

※出典:大学院数、大学院入学定員:各大学HP及び大学概要

【大学院 収容定員・在籍学生数・定員充足率】

順位	大学名	大学院合計			修士課程			専門職学位課程			博士後期課程		
		定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)	定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)	定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)	定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)
1	東京大	11,999	13,402	111.6	5,686	6,830	120.1	995	842	84.6	5,318	5,730	107.7
2	京都大	8,955	9,272	103.5	4,522	4,945	109.3	788	699	88.7	3,645	3,628	99.5
3	大阪大	7,423	7,913	106.6	4,018	4,548	113.1	240	143	59.5	3,165	3,222	101.8
4	東北大	6,452	6,904	107.0	3,550	4,070	114.6	290	232	80.0	2,612	2,602	99.6
5	九州大	6,414	6,962	108.5	3,584	4,145	115.7	325	297	91.4	2,505	2,520	100.6
6	筑波大	5,686	6,834	120.1	3,419	4,163	121.7	168	185	110.1	2,099	2,486	118.4
7	北海道大	5,622	6,067	107.9	3,178	3,598	113.2	250	209	83.6	2,194	2,260	103.0
8	名古屋大	5,549	5,921	106.7	3,033	3,554	117.1	170	80	47.0	2,346	2,287	97.4
9	東京工業大	4,302	4,016	93.3	3,088	3,289	106.5	80	75	93.7	1,134	652	57.4
10	神戸大	4,082	4,555	111.5	2,477	2,632	106.3	378	312	82.5	1,227	1,611	131.3

(2017)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。

※14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山山、広島大、九州大(大学番号順)

(※1)Aグループ:学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2)RU11(学術研究懇談会):国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム

・収容定員については、文部科学省告示第53号(専門職大学院に関し必要な事項について定める件)、第4条(法科大学院の収容定員)により算出。

※出典:大学院収容定員、在籍学生数、定員充足率:文部科学省 平成29年度業務実績報告書

1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)(つづき)

【学部在籍学生のうち留学生数】

順位	大学名	人
1	北海道大	510
2	筑波大	353
3	大阪大	346
4	東京大	277
5	九州大	275
6	名古屋大	268
7	東京工業大	239
8	京都大	223
9	東北大	212
10	岡山大	199

(2017)

【学部在籍学生に占める留学生数の割合】

順位	大学名	%
1	東京工業大	10.5
2	北海道大	4.4
3	筑波大	3.5
4	名古屋大	2.7
5	九州大	2.3
6	大阪大	2.2
7	東京大	1.9
7	東北大	1.9
7	岡山大	1.9
10	京都大	1.6

(2017)

【学部在籍学生に占める女子学生数の割合】

順位	大学名	%
1	岡山大	42.9
2	筑波大	40.1
3	千葉大	39.8
4	新潟大	39.7
5	広島大	37.5
6	神戸大	36.4
7	大阪大	34.2
8	名古屋大	30.5
9	北海道大	29.0
10	九州大	28.6

(2018)

【大学院在籍学生のうち留学生数】

順位	大学名	人
1	東京大	2,663
2	筑波大	1,552
3	九州大	1,538
4	京都大	1,514
5	東北大	1,371
6	北海道大	1,341
7	大阪大	1,311
8	名古屋大	1,215
9	広島大	1,122
10	東京工業大	975

(2017)

【大学院在籍学生に占める留学生数の割合】

順位	大学名	%
1	広島大	24.8
2	東京工業大	24.2
3	筑波大	22.7
4	北海道大	22.1
5	九州大	22.0
6	名古屋大	20.5
7	東北大	19.8
7	東京大	19.8
9	大阪大	16.5
10	神戸大	16.4

(2017)

【大学院在籍学生に占める女子学生数の割合】

順位	大学名	%
1	筑波大	36.0
2	広島大	35.8
3	神戸大	32.8
4	千葉大	31.9
5	名古屋大	30.0
6	岡山大	29.4
7	北海道大	29.1
8	東京大	29.0
9	大阪大	28.9
10	新潟大	28.2
11	九州大	27.2

(2018)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。

※14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)
(※1)Aグループ:学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2)RU11(学術研究懇談会):国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム

※出典:留学生数、留学生数の割合:文部科学省 平成29年度業務実績報告書
女子学生の割合:各大学HP及び大学概要

1-3. 他大学との比較－規模－(国立大学間)(つづき)

【教員数】

順位	大学名	人
1	東京大	3,889
2	京都大	3,361
3	大阪大	3,242
4	東北大	3,155
5	九州大	2,431
6	北海道大	2,412
7	筑波大	2,408
8	名古屋大	2,367
9	広島大	1,894
10	神戸大	1,753

(2017)

【教員一人当たりの学生数】

順位	大学名	人
1	新潟大	10.2
2	千葉大	9.2
3	神戸大	8.9
4	岡山大	7.9
5	広島大	7.7
6	九州大	7.5
7	北海道大	7.1
8	大阪大	7.0
9	東京大	6.7
10	京都大	6.6

(2017)

【職員数】

順位	大学名	人
1	東京大	4,026
2	京都大	3,446
3	東北大	3,265
4	大阪大	3,107
5	北海道大	3,103
6	名古屋大	2,437
7	岡山大	2,426
8	神戸大	2,033
9	筑波大	2,032
10	千葉大	1,976
⋮		
14	九州大	1,376

(2017)

※出典：教員数、教員一人当たりの学生、職員数：文部科学省 平成29年度業務実績報告書：九州大学

【女性教員数】

順位	大学名	人
1	大阪大	320
2	東京大	257
3	筑波大	218
4	名古屋大	191
5	京都大	177
6	千葉大	168
7	九州大	167
8	東北大	165
9	広島大	158
10	神戸大	151

(2018)

【外国人教員数】

順位	大学名	人
1	大阪大	139
2	京都大	104
3	東北大	92
4	九州大	89
5	東京大	84
6	筑波大	65
7	北海道大	64
8	広島大	59
9	神戸大	49
10	名古屋大	39

(2018)

【運営費交付金】(単位：百万円)

順位	大学名	配分額
1	東京大	81,395
2	京都大	55,519
3	大阪大	45,505
4	東北大	45,349
5	九州大	42,733
6	筑波大	39,854
7	北海道大	35,715
8	名古屋大	31,736
9	広島大	25,163
10	神戸大	21,221

(2018)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。
 ※14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)
 (※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム

※出典：女性教員数、外国人教員数：朝日新聞出版「大学ランキング2020年版」
 運営費交付金：「各大学2018年度大学概要」及び「各大学平成30年度 年度計画」

1-4. 他大学との比較－教育－(国公立大学間)

【校舎面積】

順位	大学名	m ²
1	日本大	1,007,638
2	九州大	849,729
3	東京大	819,737
4	大阪大	701,661
5	京都大	635,961
6	早稲田大	614,576
7	北海道大	556,964
8	立命館大	527,104
9	東海大	526,007
10	新潟大	520,080

(2018)

【2、3年次編入学】

順位	大学名	人
1	関西外国語大	496
2	豊橋技術科学大	354
3	日本大	352
4	長岡技術科学大	337
5	国学院大	183
6	東京農業大	165
7	北陸大	146
8	岡山商科大	144
9	東京福祉大	131
10	武庫川女子大	130
⋮		
36	九州大	60

(2018)

【図書館蔵書数】

順位	大学名	冊
1	東京大	9,665,812
2	京都大	7,093,273
3	日本大	5,717,671
4	早稲田大	5,600,589
5	慶應義塾大	4,954,295
6	九州大	4,199,828
7	東北大	4,142,543
8	大阪大	3,883,931
9	北海道大	3,830,206
10	神戸大	3,771,350

(2018)

【指数評価(蔵書、受け入れ、貸し出し、図書館費の指数合計)】

順位	大学名	蔵書	受け入れ	貸し出し	図書館費	指数評価
1	東京大	52.63	47.78	34.10	100.00	100.00
2	国際基督教大	38.85	42.04	100.00	50.73	98.77
3	奈良大	36.20	100.00	45.30	38.29	93.72
4	天理大	100.00	53.52	11.98	52.88	93.12
5	京都大	48.17	46.08	37.54	55.45	79.84
6	鶴見大	42.68	49.61	25.72	68.58	79.57
7	一橋大	58.13	32.64	39.63	53.07	78.24
8	九州大	34.61	47.78	30.29	60.59	73.89
9	創価大	21.02	35.25	65.50	50.18	73.32
10	学習院大	29.98	38.38	26.95	69.39	70.23

(2018)

【受け入れ冊数】

順位	大学名	冊
1	関西学院大	138,298
2	東京大	103,472
3	京都大	80,068
4	九州大	68,383
5	名古屋大	58,819
6	早稲田大	56,201
7	日本大	49,619
8	慶應義塾大	47,369
9	同志社大	43,461
10	首都大東京	42,653

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)

2018年11月、全国の国公立大学755校の図書館長にアンケートを送付。2019年1月上旬までに回答のあった728校分を集計した。各項目の数字は、奉仕対象学生一人当たりの蔵書冊数、受け入れ図書冊数、貸し出し数(学生)、図書館費についてそれぞれの最高値を100とし、指数化したもの。総合ランキングの指数評価は、各項目における指数を合計し、その最高値を100として指数で表した。ただし、奉仕対象学生数2,000人未満、および設立4年未満の大学は集計対象から除いている。なお奉仕対象学生については、短大・その他の学校も対象とする場合、その学生数も含む。図書館費とは、資料費総額とその他の図書館経費を足して算出したもの。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

1-4. 他大学との比較－教育－(国公立大学間)(つづき)

【大学院進学率】

工、理工学部		理学部		農、生物系学部	
大学名	%	大学名	%	大学名	%
京都大(工)	87.5(1位)	東京大(理)	85.7(1位)	京都大(農)	76.8(1位)
東北大(工)	87.1(2位)	東北大(理)	82.6(2位)	東北大(農)	76.8(1位)
長岡技術科学大(工)	86.3(3位)	北海道大(理)	82.6(2位)	神戸大(農)	76.2(3位)
名古屋大(工)	85.8(4位)	京都大(理)	80.3(4位)	名古屋大(農)	75.8(4位)
大阪大(工)	84.5(5位)	大阪大(理)	77.7(5位)	北海道大(農)	74.3(5位)
北海道大(工)	83.1(6位)	神戸大(理)	75.8(6位)	北海道大(水産)	71.3(6位)
九州大(工)	82.3(7位)	九州大(理)	74.6(7位)	九州大(農)	70.8(7位)
大阪府立大(工学域)	82.1(8位)	名古屋大(理)	74.5(8位)	筑波大(生命環境学群)	70.6(8位)
大阪大(基礎工)	81.8(9位)	広島大(理)	72.0(9位)	東京農工大(農)	60.0(9位)
早稲田大(先進理工)	80.0(10位)	兵庫県立大(理)	71.3(10位)	大阪府立大(生命環境科学域)	59.1(10位)
法学部		経済、経営、商学部			
大学名	%	大学名	%		
京都大(法)	24.3(1位)	岡山商科大(経済)	33.5(1位)		
一橋大(法)	22.7(2位)	城西国際大(経営情報)	8.4(2位)		
東京大(法)	20.3(3位)	福山大(経済)	8.4(2位)		
大阪大(法)	18.3(4位)	大阪大(経済)	8.0(4位)		
北海道大(法)	17.4(5位)	一橋大(商)	7.4(5位)		
大阪工業大(知的財産)	17.2(6位)	東京大(経済)	7.3(6位)		
九州大(法)	17.1(7位)	九州大(経済)	7.1(7位)		
神戸大(法)	17.1(8位)	名古屋大(経済)	6.8(8位)		
名古屋大(法)	16.9(9位)	一橋大(経済)	6.7(9位)		
早稲田大(法)	14.0(10位)	愛知産業大(経営)	6.7(9位)		

(2018)

【社会人受入れ状況】

順位	大学名	点
1	東洋大	72.7
2	早稲田大	57.7
3	関西大	56.8
3	法政大	56.8
5	立命館大	55.2
6	東北大	50.2
7	九州大	49.0
8	日本大	46.3
9	同志社大	45.4
10	北海道大	44.2

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)
 大学入学情報図書館RENAが2018年11月から2019年1月に実施した大学へのアンケート調査をもとに作成した。全国の大学の学部1年次、学部2,3年次編入学、学士入学および大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程の社会人向け入試制度、社会人向け諸制度などの実施状況について評価した。大学入学情報図書館RENAは、私設図書館(任意団体)で、全国の大学、大学院情報を集めている。「Web大学・大学院展」などを通じ、社会に開かれている大学・学部、大学院の入試情報と、教育・研究内容の情報を提供している。

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

1-5. 他大学との比較－就職－(国公立大学間)

◆人気企業就職◆

【トヨタ自動車】

順位	大学名	人
1	名古屋大	40
2	早稲田大	31
3	九州大	30
4	大阪大	26
5	名古屋工業大	25
6	慶應義塾大	24
7	神戸大	18
7	東京工業大	18
9	東北大	17
9	東京理科大	17

(2018)

【日立製作所】

順位	大学名	人
1	早稲田大	46
2	大阪大	32
3	慶應義塾大	29
4	東北大	25
4	北海道大	25
6	東京工業大	23
7	名古屋大	21
8	九州大	18
9	筑波大	16
10	中央大	15
10	東京理科大	15

(2018)

【明治グループ (明治・Meiji Seikaファルマ)】

順位	大学名	人
1	同志社大	8
2	慶應義塾大	6
3	北海道大	5
4	九州大	4
4	名古屋大	4
4	広島大	4
4	明治大	4
8	千葉大	3
8	東京農工大	3
8	東北大	3
8	共立女子大	3
8	近畿大	3
8	立教大	3
8	立命館大	3
8	早稲田大	3

(2018)

【パナソニック】

順位	大学名	人
1	大阪大	48
2	同志社大	39
3	立命館大	35
4	早稲田大	32
5	九州大	24
6	神戸大	23
6	関西大	23
8	慶應義塾大	22
9	大阪府立大	19
10	関西学院大	16
10	東京理科大	16

(2018)

【伊藤忠商事】

順位	大学名	人
1	慶應義塾大	31
2	早稲田大	23
3	一橋大	10
4	神戸大	7
5	大阪大	5
6	北海道大	4
6	青山学院大	4
6	上智大	4
9	中央大	3
9	立命館大	3
11	九州大	2

(2018)

【サントリーホールディングス】

順位	大学名	人
1	早稲田大	14
2	大阪大	10
2	慶應義塾大	10
4	同志社大	6
5	明治大	5
6	神戸大	4
6	東北大	4
6	名古屋大	4
6	一橋大	4
6	立教大	4
11	九州大	3

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)

掲載企業は、「マイナビ・日経2019年卒業大学生就職企業人気ランキング」(株式会社マイナビ)を参考に選んだ。同調査は2019年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生(調査当時)を対象として行われている。有効回答は4万3,595人。人気企業就職ランキングは文系・理系それぞれで上位企業(一部除く)の2018年就職者数を大学別に集計した(大学通信調べ)。一部、グループ企業を含む場合がある。また、東京大、京都大などアンケートに未回答、または一部企業について未回答の大学は未掲載。

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

1-5. 他大学との比較－就職－(国公立大学間)(つづき)

【ソニー】

順位	大学名	人
1	早稲田大	39
2	慶應義塾大	31
3	東京工業大	21
4	大阪大	14
4	東京理科大	14
6	東北大	13
7	筑波大	11
8	九州大	9
8	東京農工大	9
10	電気通信大	8

(2018)

【アステラス製薬】

順位	大学名	人
1	慶應義塾大	9
2	大阪大	8
3	東北大	4
3	静岡県立大	4
3	京都薬科大	4
3	早稲田大	4
7	九州大	3
7	東京工業大	3
7	北海道大	3
7	北里大	3
7	東京薬科大	3

(2018)

【アサヒビール】

順位	大学名	人
1	同志社大	8
2	早稲田大	7
3	九州大	3
3	北海道大	3
3	関西大	3
3	上智大	3
3	西南学院大	3
3	中京大	3
3	立教大	3
10	大阪大	2
10	神戸大	2
10	学習院大	2
10	関西学院大	2
10	法政大	2
10	明治学院大	2

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)

掲載企業は、「マイナビ・日経2019年卒業大学生就職企業人気ランキング」(株式会社マイナビ)を参考に選んだ。同調査は2019年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生(調査当時)を対象として行われている。有効回答は4万3,595人。人気企業就職ランキングは文系・理系それぞれで上位企業(一部除く)の2018年就職者数を大学別に集計した(大学通信調べ)。一部、グループ企業を含む場合がある。また、東京大、京都大などアンケートに未回答、または一部企業について未回答の大学は未掲載。

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

1-6. 他大学との比較－国際－

【QS世界大学ランキング 国内(2019年6月公表)】

2017/2018 順位	2018/2019 順位	2019/2020 順位	2019/2020 国内順位	大学名	総合 スコア
1	1	1	—	マサチューセッツ工科大	100.0
2	2	2	—	スタンフォード大	98.4
3	3	3	—	ハーバード大	97.4
6	5	4	—	オックスフォード大	97.2
4	4	5	—	カリフォルニア工科大	96.9
				⋮	
28	23	22	1	東京大	84.3
36	35	33	2	京都大	80.5
56	58	58	3	東京工業大	70.9
63	67	71	4	大阪大	66.5
76	77	82	5	東北大	63.7
116	111	115	6	名古屋大	55.8
122	128	132	7	北海道大	52.9
128	126	132	7	九州大	52.9
203	208	196	9	早稲田大	44.4
192	198	200	10	慶應義塾大	44.0

【Academic Reputation】
学術評判

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	100.0
2	京都大	98.7
3	大阪大	80.8
4	東京工業大	74.5
5	東北大	69.5
6	名古屋大	60.5
7	早稲田大	58.6
8	北海道大	56.3
9	九州大	55.5
10	慶應義塾大	51.4

【Employer Reputation】
雇用者評判

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	99.1
2	京都大	92.5
3	早稲田大	86.9
4	東京工業大	82.7
5	慶應義塾大	77.2
6	大阪大	67.5
7	一橋大	66.8
8	東北大	59.1
9	九州大	49.2
10	北海道大	47.1

【Citations per Faculty】
論文被引用数／教員数

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	67.9
2	東京工業大	61.3
3	京都大	53.2
4	大阪大	46.2
5	東北大	43.1
6	名古屋大	37.3
7	北海道大	34.2
8	九州大	32.6
9	筑波大	22.3
10	東京医科歯科大	21.8

【Faculty Student】
学生数／教員数

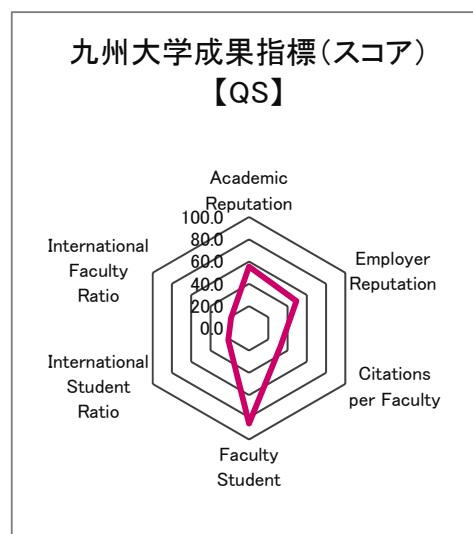
国内 順位	大学名	スコア
1	東京医科歯科大	100.0
2	横浜市立大	99.9
3	東北大	98.2
4	京都大	96.3
5	東京大	93.3
6	名古屋大	90.6
7	東京工業大	86.2
8	九州大	85.6
9	北海道大	84.4
10	広島大	84.1

【International Student Ratio】
外国籍学生数／学生数

国内 順位	大学名	スコア
1	早稲田大	35.8
2	東京工業大	31.3
3	筑波大	30.4
4	東京大	26.2
5	九州大	21.5
5	一橋大	21.5
7	名古屋大	21.3
8	東北大	17.6
9	京都大	17.5
10	広島大	17.1

【International Faculty Ratio】
外国籍教員数／教員数

国内 順位	大学名	スコア
1	東京工業大	30.7
2	早稲田大	29.2
2	一橋大	29.2
4	大阪大	23.1
5	北海道大	20.0
6	九州大	18.6
7	名古屋大	17.7
8	筑波大	16.0
9	京都大	15.4
10	広島大	13.8



※出典：世界大学評価機関の英国クアアクアレリ・シモンズ(Quacquarelli Symonds: QS) Webサイト

1-6. 他大学との比較－国際－(つづき)

【THE世界大学ランキング 国内(2019年9月公表)】※200位以下の総合スコアは公表されていないため、指標スコアより推計値を算出。

2017/2018 順位	2018/2019 順位	2019/2020 順位	2019/2020 国内順位	大学名	総合 スコア
1	1	1	—	オックスフォード大	95.4
3	5	2	—	カリフォルニア大	94.5
2	2	3	—	ケンブリッジ大	94.4
3	3	4	—	スタンフォード大	94.3
5	4	5	—	マサチューセッツ工科大	93.6
				⋮	
46	42	37	1	東京大	75.7
74	65	65	2	京都大	67.7
201-250	251-300(265)	251-300(263)	3	東北大	49.1
251-300	251-300(264)	301-350(301)	4	東京工業大	46.9
301-350	301-350(303)	301-350(318)	5	名古屋大	44.8
201-250	251-300(300)	301-350(344)	5	大阪大	44.8
—	—	401-500(377)	7	産業医科大	43.3
401-500	401-500(461)	401-500(415)	8	東京医科歯科大	41.9
351-400	401-500(422)	401-500(462)	9	九州大	40.1
501-600	401-500(478)	401-500(468)	10	藤田医科大	39.9

【Teaching】
教育(学習環境)

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	85.9
2	京都大	73.7
3	東北大	52.7
4	大阪大	51.5
5	東京工業大	51.2
6	名古屋大	47.8
7	北海道大	45.7
8	東京医科歯科大	45.2
9	九州大	44.2
10	筑波大	43.3

【International Outlook】
国際的な評判
(教授陣と学生の質)

国内 順位	大学名	スコア
1	筑波大	44.3
2	東京工業大	40.5
3	北海道大	39.2
4	九州大	38.8
5	東京大	38.2
6	東北大	38.1
7	大阪大	36.0
8	京都大	33.7
8	広島大	33.7
10	名古屋大	32.8

【Industry Income】
産業からの収入(革新性)

国内 順位	大学名	スコア
1	東北大	86.4
2	東京大	77.4
3	名古屋大	76.8
4	九州大	75.3
5	東京工業大	69.3
6	京都大	66.2
7	東京医科歯科大	63.1
8	大阪大	63.0
9	北海道大	58.7
10	広島大	49.9

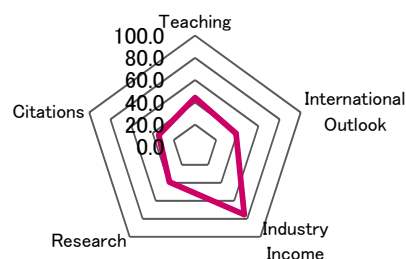
【Research】
研究(ボリューム)／収益性／評価

国内 順位	大学名	スコア
1	東京大	89.6
2	京都大	78.1
3	東北大	54.4
4	東京工業大	51.8
5	大阪大	49.0
6	名古屋大	47.8
7	北海道大	40.1
8	九州大	39.2
9	筑波大	37.2
10	慶應義塾大	25.7

【Citations】
論文の引用度合

国内 順位	大学名	スコア
1	産業医科大	99.8
2	帝京大	95.9
3	藤田医科大	91.1
4	東京大	60.7
5	京都大	59.9
6	近畿大	58.4
7	東京医科歯科大	58.1
8	日本医科大	55.1
9	首都大東京	54.6
10	慈恵大	51.4
	⋮	
17	九州大	34.3

九州大学成果指標(スコア)
【THE】



※出典:英タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)Webサイト

1-7. 他大学との比較—評価—

◆学長からの評価◆

【総合】

順位	大学名	人
1	京都大	135
2	金沢工業大	80
3	東京工業大	72
4	国際教養大	58
5	東京大	57
6	大阪大	53
7	名古屋大	46
8	東北大	41
9	近畿大	40
10	早稲田大	39
⋮		
21	九州大	15

(2018)

【教育面で注目】

順位	大学名	人
1	金沢工業大	70
2	国際教養大	58
3	国際基督教大	37
4	東京工業大	34
5	共愛学園前橋国際大	28
6	早稲田大	21
7	立命館アジア太平洋大	18
8	松本大	16
9	上智大	15
10	近畿大	14
⋮		
31	九州大	5

(2018)

【研究面で注目】

順位	大学名	人
1	京都大	122
2	東京大	49
3	大阪大	45
4	名古屋大	43
5	東京工業大	38
6	東北大	35
7	近畿大	26
8	慶應義塾大	18
8	早稲田大	18
10	筑波大	17
⋮		
12	九州大	10

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)

2018年11月、全国の国公立大755校の学長宛てにアンケートを送付し、2019年1月下旬までに回答のあった559校の学長の意見をまとめた。アンケートでは「教育分野での制度や成果」、「研究分野での制度や成果」で注目している大学について、それぞれ6校まで名前をあげてもらった。「総合」は「教育分野」、「研究分野」を足したものである。

◆社会人からの評価◆

【人事採用担当者なら気になる】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,176
2	京都大	734
3	早稲田大	469
4	慶應義塾大	419
5	大阪大	176
6	明治大	119
7	東北大	111
8	近畿大	101
9	一橋大	98
10	九州大	89

(2018)

【地域貢献に積極的】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	648
2	京都大	483
3	早稲田大	343
4	近畿大	236
5	慶應義塾大	194
6	北海道大	175
7	東北大	148
8	大阪大	135
9	九州大	116
10	明治大	100

(2018)

【卒業生が魅力的】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,097
2	京都大	777
3	早稲田大	664
4	慶應義塾大	592
5	大阪大	159
6	明治大	123
7	青山学院大	111
8	東北大	94
9	近畿大	89
10	九州大	61

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)

大学通信調べ。全国の社会人を対象としたインターネット調査を実施し、項目別の大学ランキングをまとめた。調査期間は2018年6月。回答者数は1,000人で、大学卒の会社員または公務員が調査対象となる。地域が偏ることなく調査を実施、男女比もほぼ1対1となっている。質問項目に、「全国にある大学の中から3大学」と「あなたの住むエリア及び近隣にある大学から3大学」の最大6校を回答してもらい、回答順にそれぞれ3ポイント、2ポイント、1ポイントとして集計した。

※出典:朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

1-7. 他大学との比較－評価－(つづき)

◆高校からの評価◆

【総合評価(全国)】

順位	大学名	指数評価
1	東北大	100.00
2	早稲田大	78.33
3	東京大	69.74
4	明治大	69.64
5	国際教養大	62.74
6	京都大	59.00
7	立命館大	56.03
8	金沢工業大	53.69
9	中央大	37.88
10	法政大	37.78
⋮		
19	九州大	26.55

(2018)

【総合評価(九州・沖縄)】

順位	大学名	指数評価
1	九州大	26.55
2	九州工業大	25.14
3	立命館アジア太平洋大	22.86
4	福岡工業大	13.66
5	西南学院大	10.90
6	佐賀大	10.62
7	福岡大	9.08
8	北九州市立大	8.99
9	熊本大	7.07
10	九州産業大	6.55

(2018)

【進学先で生徒が伸びた】

順位	大学名	人
1	東北大	170
2	東京大	165
3	京都大	138
4	早稲田大	82
5	金沢工業大	67
6	大阪大	64
6	慶應義塾大	64
8	筑波大	63
9	九州大	54
10	東京理科大	51

(2018)

【国際化に力を入れている】

順位	大学名	人
1	国際教養大	271
2	上智大	146
3	国際基督教大	127
4	早稲田大	118
5	東京外国語大	96
6	立命館アジア太平洋大	94
7	東京大	54
8	立教大	46
9	神田外語大	45
10	関西外語大	41

(2018)

【情報開示に熱心】

順位	大学名	人
1	東北大	79
2	立命館大	49
3	近畿大	46
4	早稲田大	43
5	京都大	31
6	中央大	30
7	明治大	29
8	関西大	27
9	東京大	26
10	山形大	22
10	法政大	22

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)

2018年10月、全国の進学実績のある高校1,191校の進学指導担当教諭宛にアンケートを送付。2018年12月上旬までに回答のあった742校分を集計した。質問内容は次のとおり。「進学先で生徒が伸びた」、「進路支援が充実」、「留学制度の充実、外国人教員による英語授業など、国際化に力を入れている」、「オープンキャンパスなどの情報開示に熱心」。これらに該当する大学をそれぞれ6校まで記入してもらい、その件数でランキングをつかった。また、各項目についての1位の件数(人数)を100として指数化した。さらにそれを合計して1位になった大学を100として総合評価ランキングを作成した。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

1-8. 他大学との比較—その他—

【学長の出身(最終学歴)】

順位	大学名	人
1	東京大	77
2	京都大	52
3	早稲田大	26
4	大阪大	24
5	東北大	21
6	慶應義塾大	19
7	九州大	18
8	広島大	16
9	一橋大	13
9	北海道大	13

(2018)

【理事長の出身(最終学歴)】

順位	大学名	人
1	東京大	61
2	慶應義塾大	37
3	京都大	24
4	早稲田大	20
5	東北大	14
6	上智大	11
6	明治大	11
8	大阪大	10
8	九州大	10
10	関西学院大	9
10	同志社大	9
10	日本大	9
10	立教大	9

(2018)

【国会議員の出身】

順位	大学名	人
1	東京大	132
2	慶應義塾大	76
3	早稲田大	72
4	京都大	33
5	中央大	26
6	日本大	25
7	創価大	16
8	明治大	15
9	上智大	12
10	法政大	11
⋮		
27	九州大	3

(2018)

◆社長の出身◆

【社長の出身(国立大学間)】

順位	大学名	人
1	東京大	3,878
2	京都大	2,489
3	大阪大	2,414
4	北海道大	2,161
5	九州大	1,984
6	東北大	1,927
7	神戸大	1,812
8	広島大	1,739
8	名古屋大	1,412
10	千葉大	1,393

(2018)

【社長の出身・一部上場
(国立大学間)】

順位	大学名	人
1	東京大	155
2	京都大	77
3	大阪大	45
4	一橋大	31
5	東北大	30
6	神戸大	25
7	名古屋大	19
8	東京工業大	17
8	北海道大	17
10	九州大	16

(2018)

【社長の出身・女性
(国立大学間)】

順位	大学名	人
1	東京大	125
2	広島大	114
3	大阪大	95
4	東京医科歯科大	92
5	九州大	90
6	北海道大	79
7	千葉大	78
8	筑波大	73
9	京都大	68
10	名古屋大	63

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用)

東京商工リサーチの企業データベース317万9,707社(2017年12月)の代表者データ(個人企業を含む)のうち、公開されている出身大学を抽出、集計した。一部上場企業は東京証券取引所のみを集計した。同一人物が複数の企業で社長を務めている場合、売上高が高い企業を優先して重複企業を集計対象外とした。出身大学が名称変更、統合している場合、現在の大学名で集計した。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

1-8. 他大学との比較-その他-(つづき)

■その他の他大学との比較項目については、以下をご参照ください。

- P97 【自分の子どもに入学してほしい】、【一般入試合格者のうち入学者の比率(国立大学)】
- P140 【国家公務員総合職】、【国家公務員一般職】、【技術士】、【一級建築士】
- P143 【Scholarly Output(論文数)】、【Citation Count(被引用回数)】、【FWCI(論文のインパクト)】
- P165 【民間企業との共同研究実施件数(全国 国公立大学間)】、【民間企業との共同研究費受入額(全国 国公立大学間)】、【民間企業との共同研究に伴う一件当たりの研究費受入額(全国 国公立大学間)】
- P167 【民間企業からの受託研究実施件数(全国 国公立大学間)】、【民間企業からの受託研究費受入額(全国 国公立大学間)】、【民間企業からの受託研究に伴う一件当たりの研究費受入額(全国 国公立大学間)】
- P169 【特許権実施等件数(外国分を含む)】、【特許権実施等収入(外国分を含む)】
- P170 【ランニングロイヤリティ収入があった特許件数】
- P188 科学研究費助成事業の比較(新規+継続)【採択件数】、【女性比率】、【若手比率】、【配分額】
科学研究費助成事業の比較(新規)【採択件数】、【採択率】

1-9. 他大学との比較－国立七大学間－

◆国立七大学基本情報◆

項目	大学名						
	九州大	北海道大	東北大	東京大	名古屋大	京成大	大阪大
総長	1	1	1	1	1	1	1
副学長(理事・監事)	10	7	9	9	9	9	10
役員数(H30.5.1現在)	11	8	10	10	10	10	11
教授	707	686	881	1,276	652	989	942
准教授	719	607	753	922	518	931	849
講師	144	154	191	286	161	240	295
助教	818	598	1,173	1,333	393	1,153	1,151
准助教	12						
助手		9	154	35	3	2	12
教諭				41			
教員数(H30.5.1現在)	(*1) 2,400	2,054	(*2) 3,152	3,893	(*3) 1,727	(*4) 3,315	(*5) 3,249
学部生	11,679	11,346	10,881	14,024	9,724	13,117	15,250
大学院生[博士前期・修士・専門職]	4,327	3,991	4,279	7,893	3,773	5,746	4,718
大学院生[博士後期・博士]	2,662	2,348	2,664	5,737	2,315	3,621	3,336
学生数(H30.5.1現在)	18,668	17,685	17,824	27,654	15,812	22,484	23,304
学部数(H30.5.1現在)	12	(*6) 12	(*7) 10	(*6) 10	9	(*6) 10	11
大学院数(H30.5.1現在)	19	(*6) 36	(*7) 15	(*6) 15	13	(*6) 18	16
附置研究所数(H30.5.1現在)	4	(*6) 4	(*7) 6	(*6) 11	3	(*6) 13	6
共同利用・共同研究拠点数 (H30.4.1現在)	5	8	7	10	3	18	8
教育関係共同利用拠点数 (H30.9.5現在)	1	5	3	1	2	4	1
運営費交付金(H30年度予算) (単位:百万円)	42,733	35,715	45,349	81,395	31,736	55,519	45,505

(*1) 休職者・育児休業者を含まず、休職代替職員を含む。再雇用職員を含む。特定有期教員を含む。

(*2) 休職者を含む。

(*3) 任期付正職員(コ・メディカル、育休代替、特任教授、寄付講座教授、病院教授、リサーチ・アドミニストレーター等)は含まない。

(*4) 育児休業者・休職者、再雇用者は含まない。特定有期雇用教員は含む。

(*5) 派遣・休職・育休は含まない。寄附講座教員、特任教職員(常勤)は含み、非常勤教員(特任教員、特任研究員、医員、医員(臨床研修))は含まない。

(*6) H30.4.1現在の数値である。

(*7) H30.7.1現在の数値である。

※出典:九州大学概要2018

北海道大学概要2018-2019

東北大概要2018/平成30年度 国立大学法人東北大 年度計画

東京大学概要2018 概要編、資料編

名古屋大学プロフィール2018/平成30年度 国立大学法人名古屋大学 年度計画

京大概要2018/平成30年度 国立大学法人京都大学 年度計画

大阪大学プロフィール2018

文部科学省ホームページ(共同利用・共同研究拠点一覧)

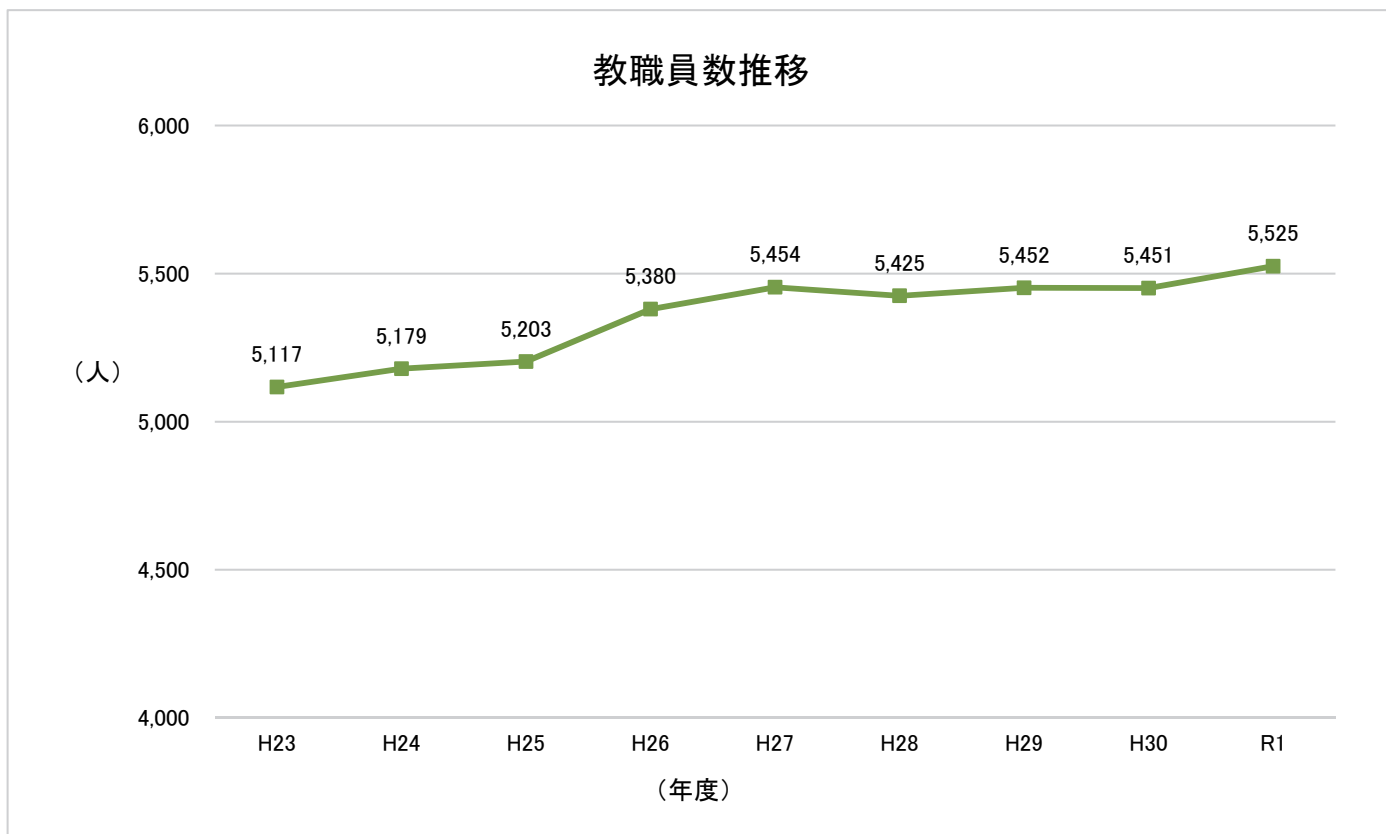
文部科学省ホームページ(教育関係共同利用 認定拠点一覧)

2. 教職員数等 (各年度5月1日現在)

2-1. 教職員数

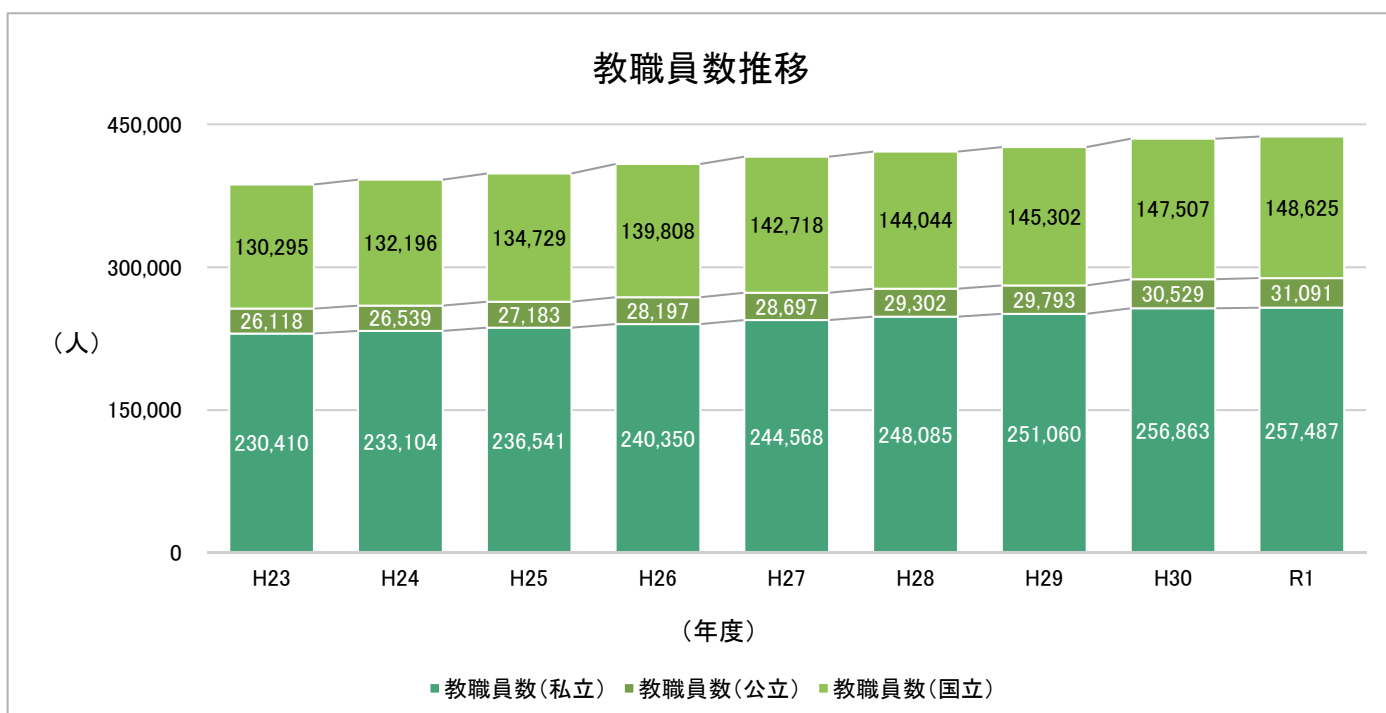
教職員数は本学、全国ともに緩やかに増加傾向である。

◆九州大学◆



※出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国公立大学◆



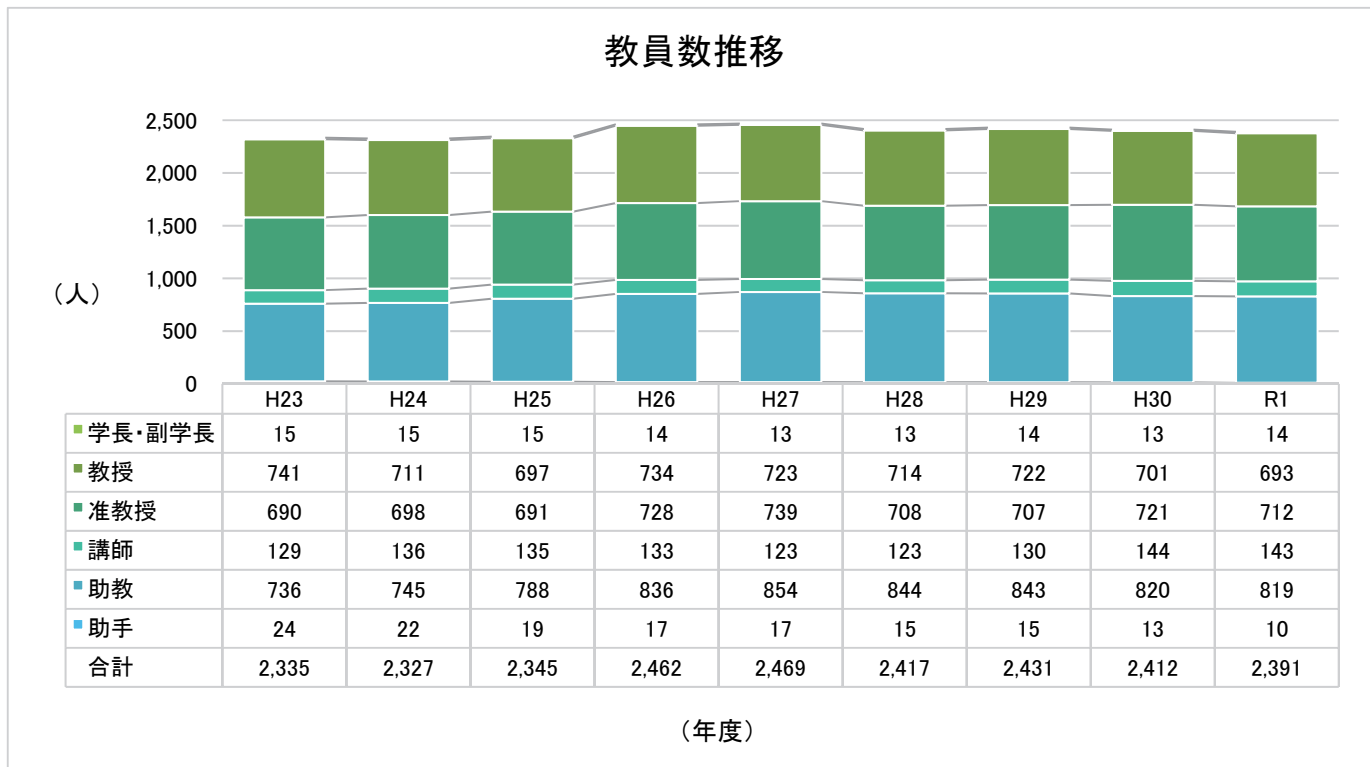
※出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」「職務別職員数」

2-2. 教員数

2-2-1. 教員数(全体)

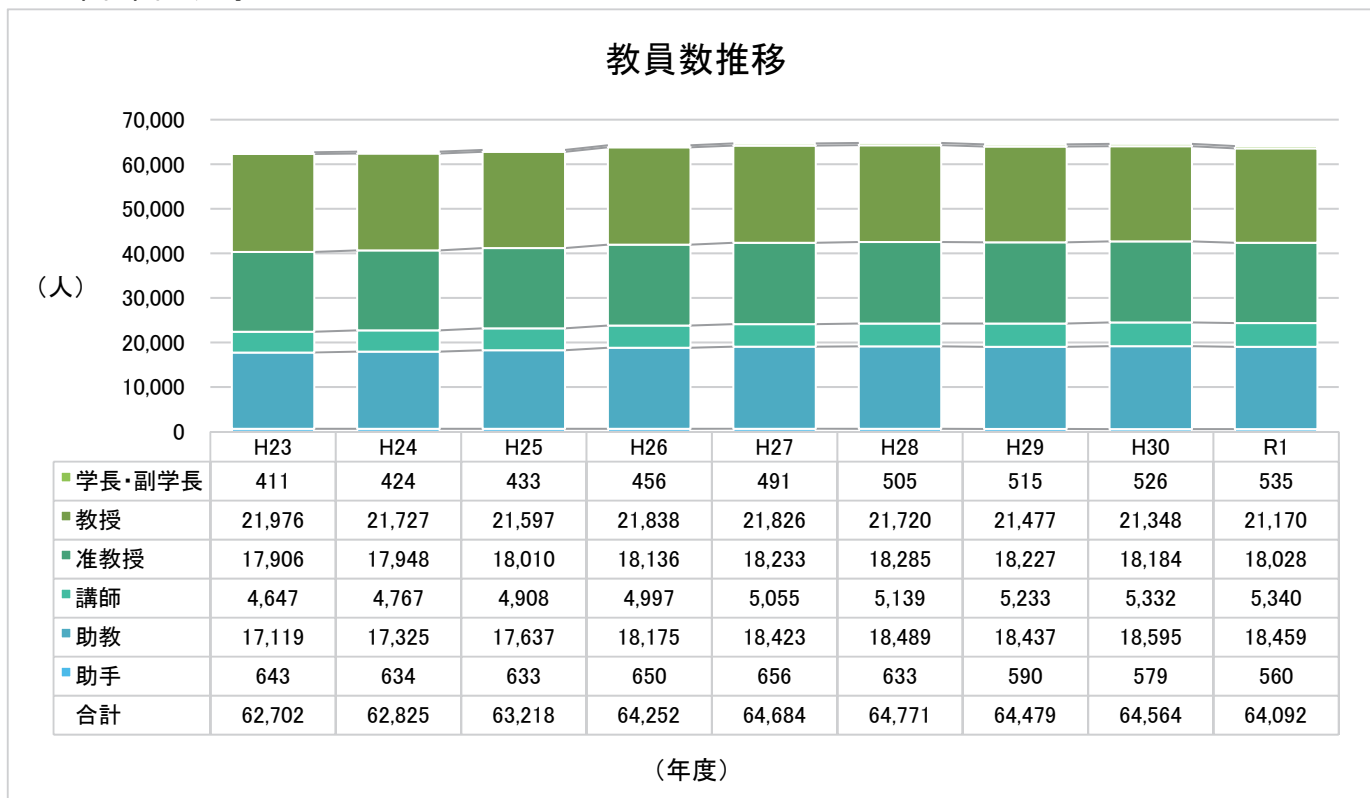
本学の教員数は横ばい傾向である。
全国的にみると、学長・副学長、講師、助教の職種が増加傾向にある。

◆九州大学◆



※出典：文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆

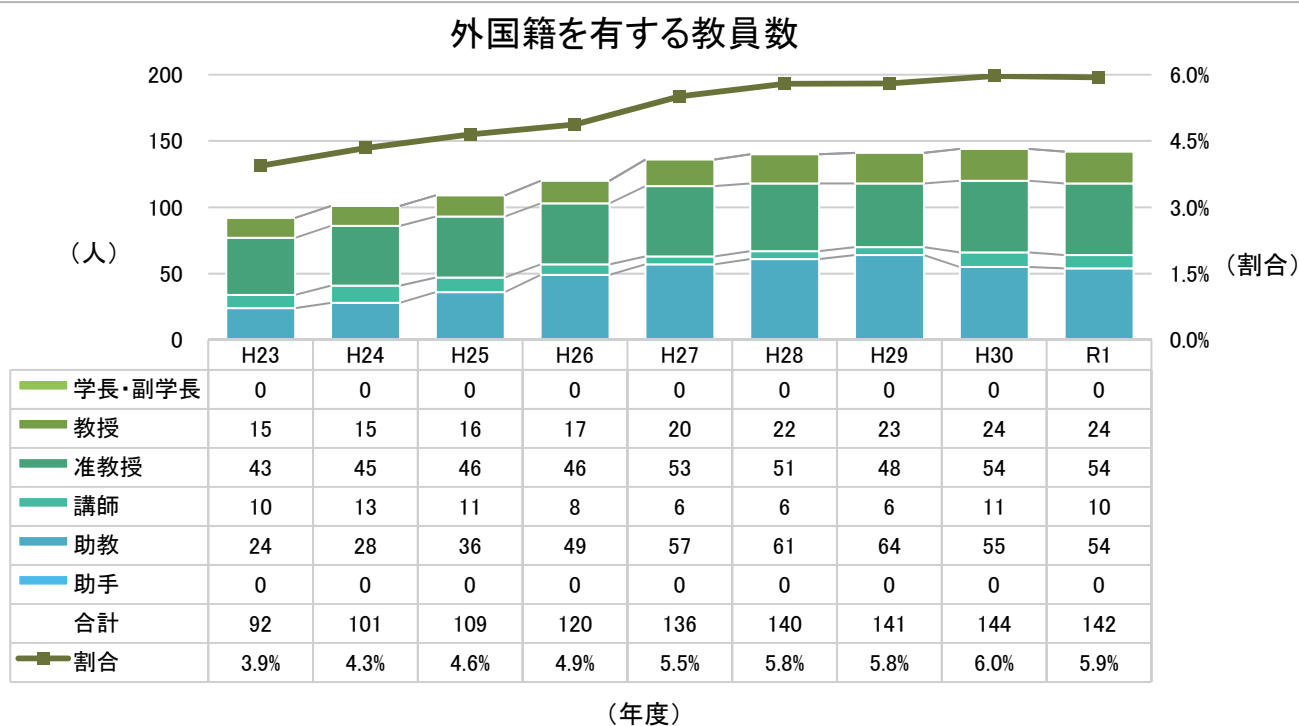


※出典：文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」

2-2-2. 外国籍を有する教員数 ※2-2-1. 教員数の内数

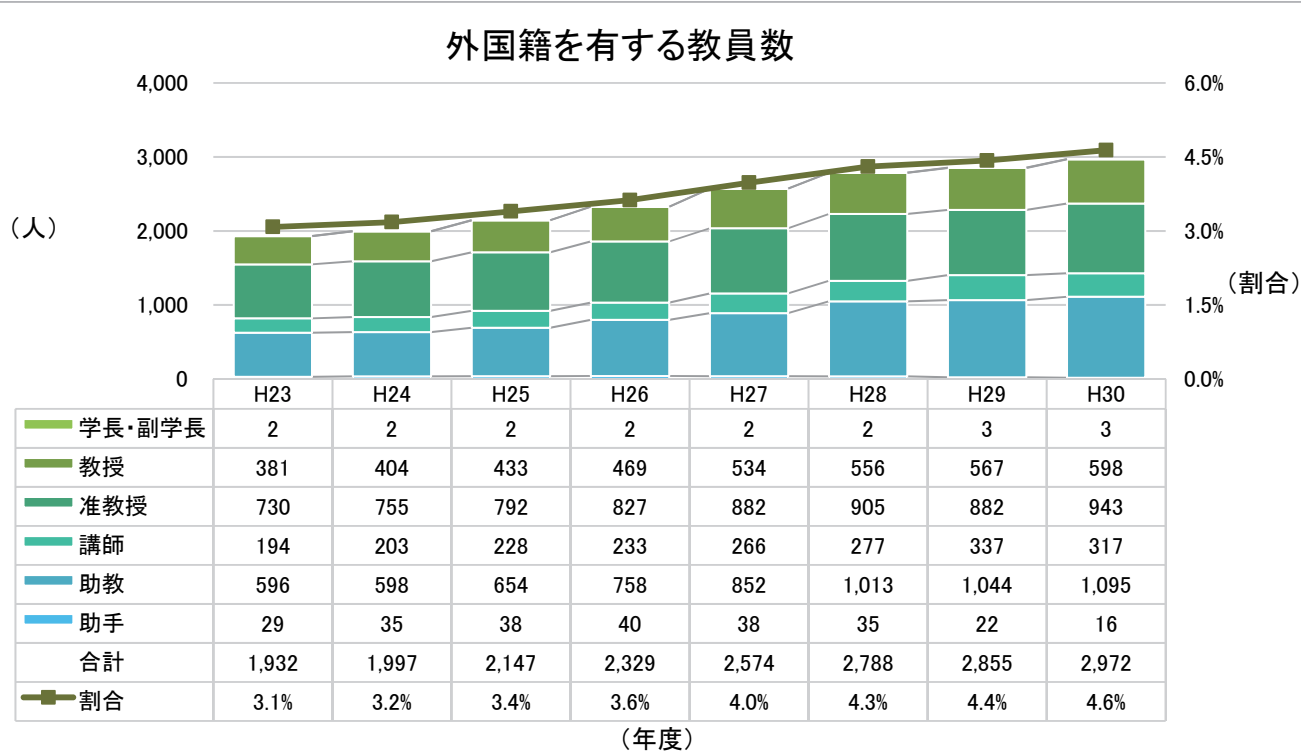
本学、全国ともに、外国籍を有する教員数は年々増加傾向である。

◆九州大学◆



※出典：文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

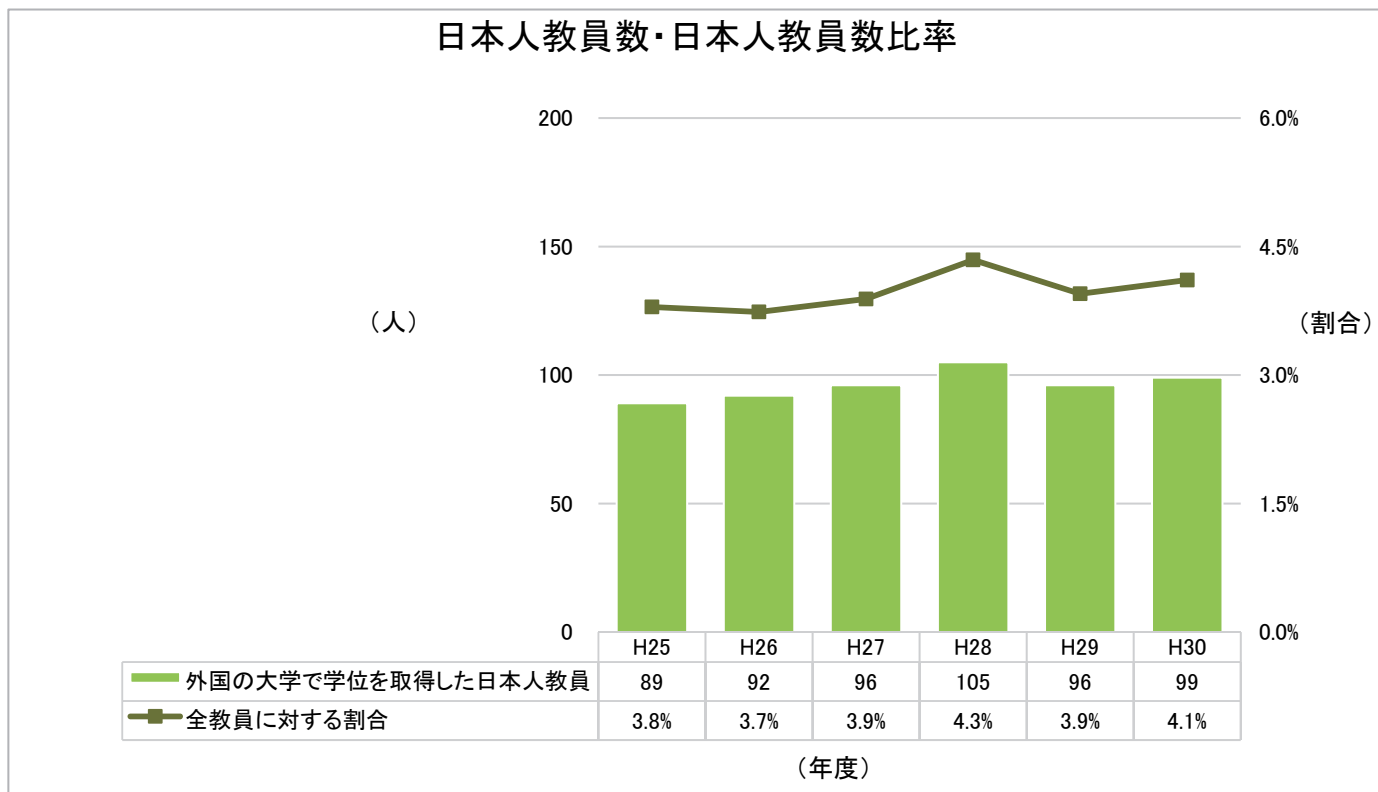
◆全国 国立大学◆



※出典：文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別外国人教員数」

【参考】外国の大学で学位を取得した日本人教員数

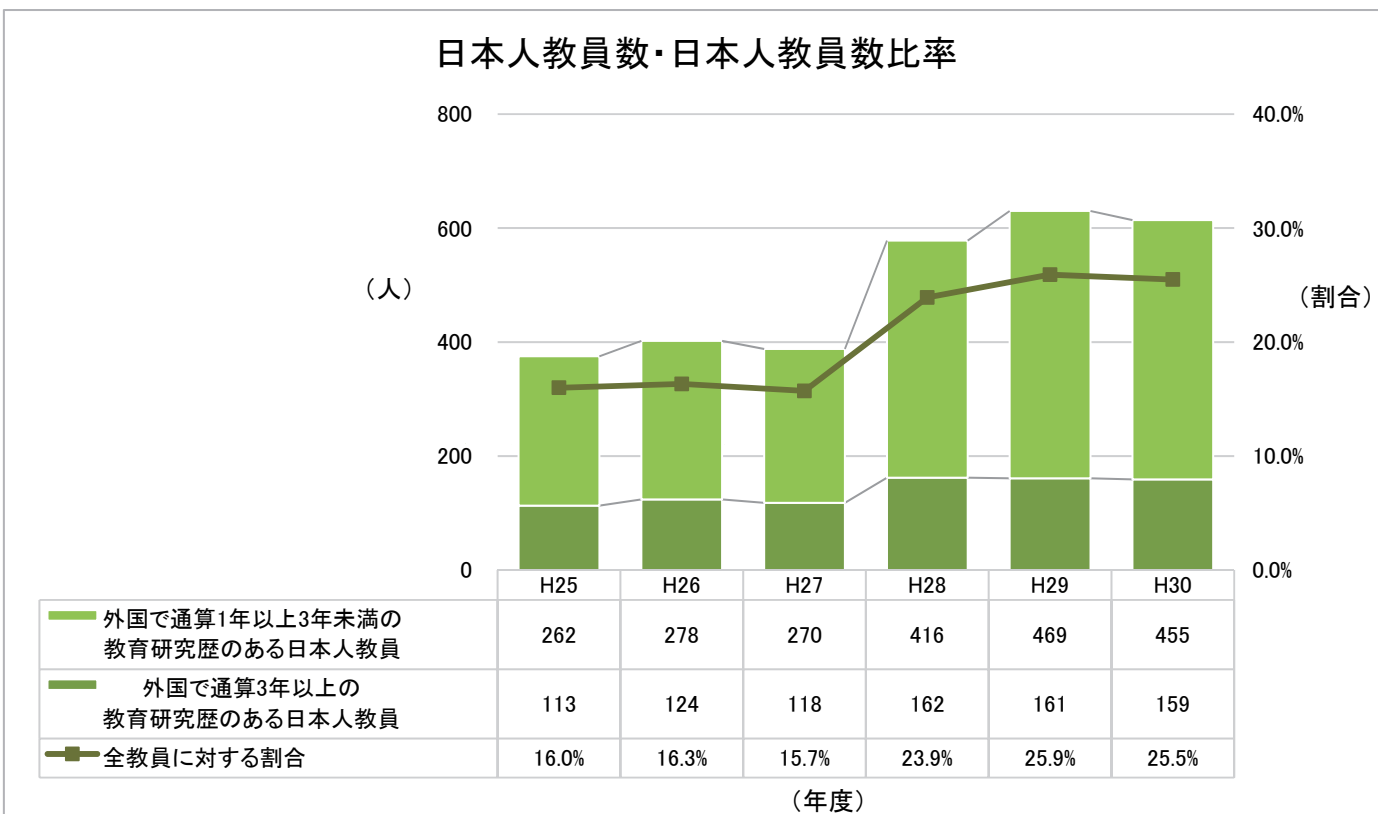
◆九州大学◆



※出典: 独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価調査」

【参考】外国で教育研究歴のある日本人教員数

◆九州大学◆



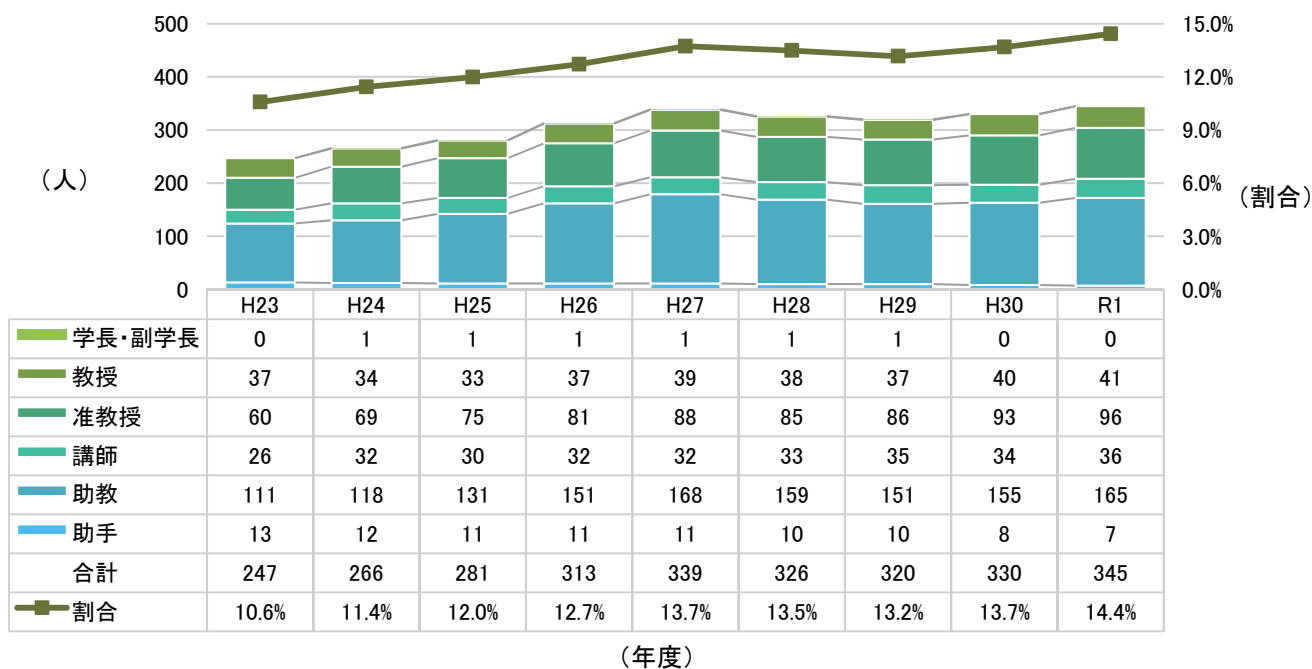
※出典: 独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価調査」

2-2-3. 女性教員数 ※2-2-1. 教員数の内数

本学、全国ともに、女性教員数は年々増加傾向である。

◆九州大学◆

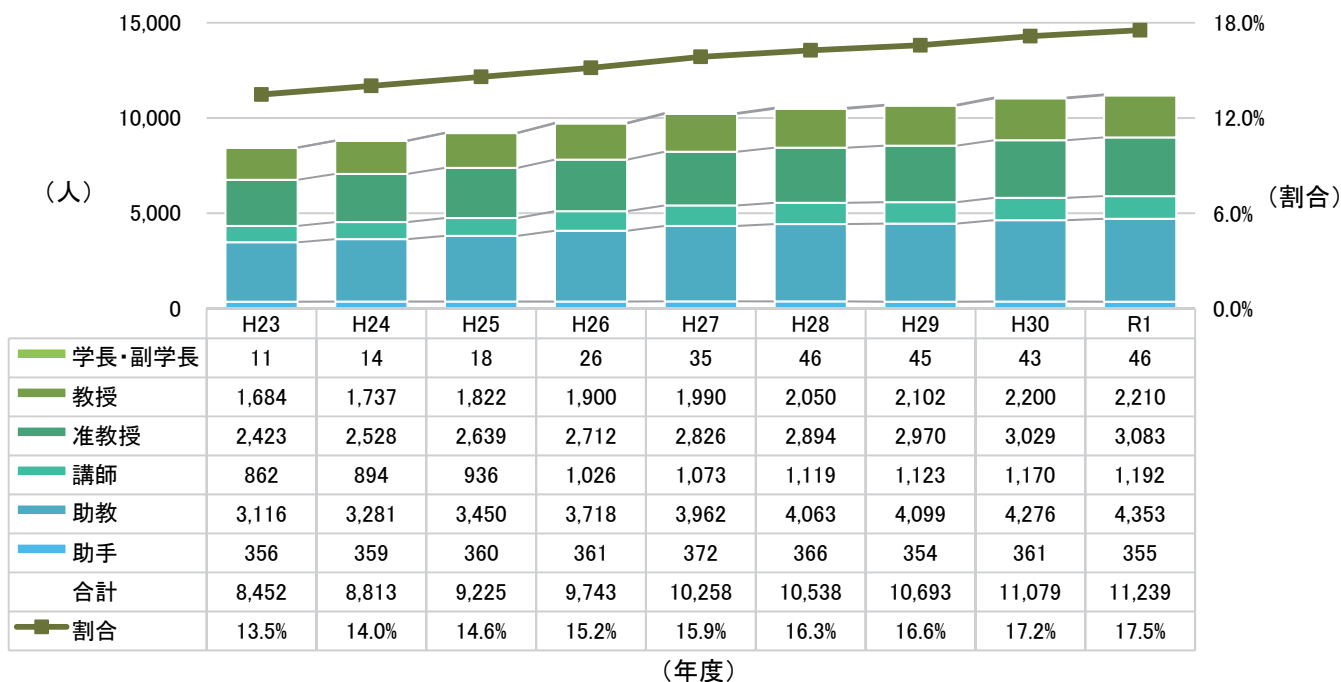
女性教員数・女性教員数比率



※出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆

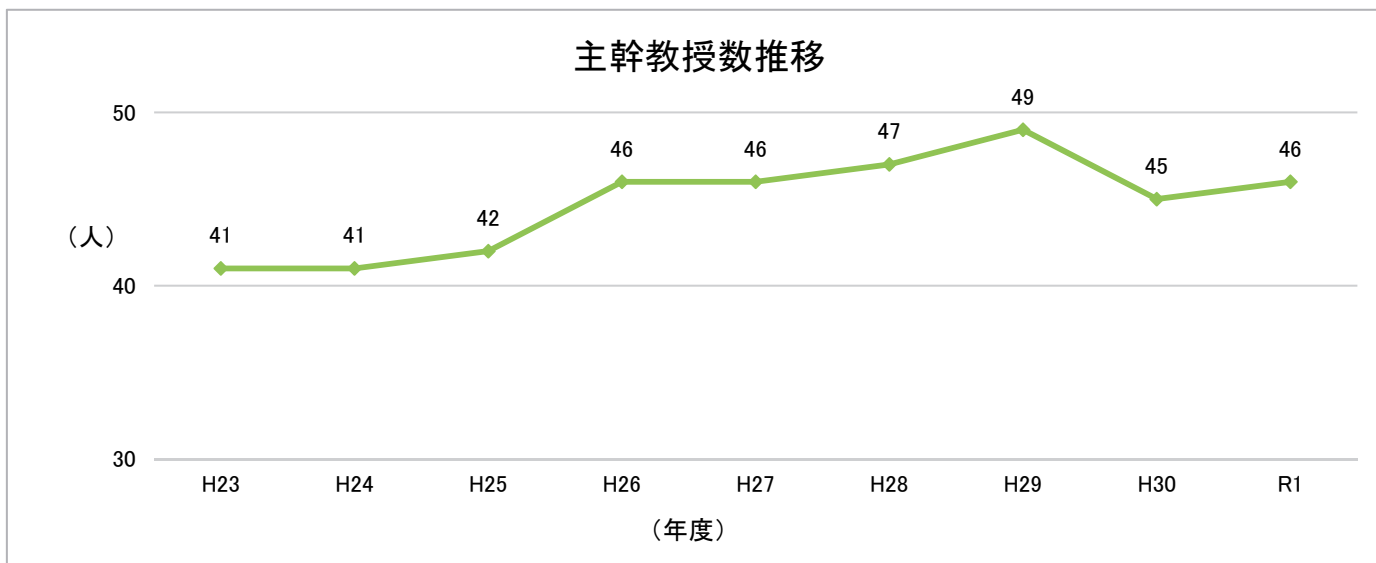
女性教員数・女性教員数比率



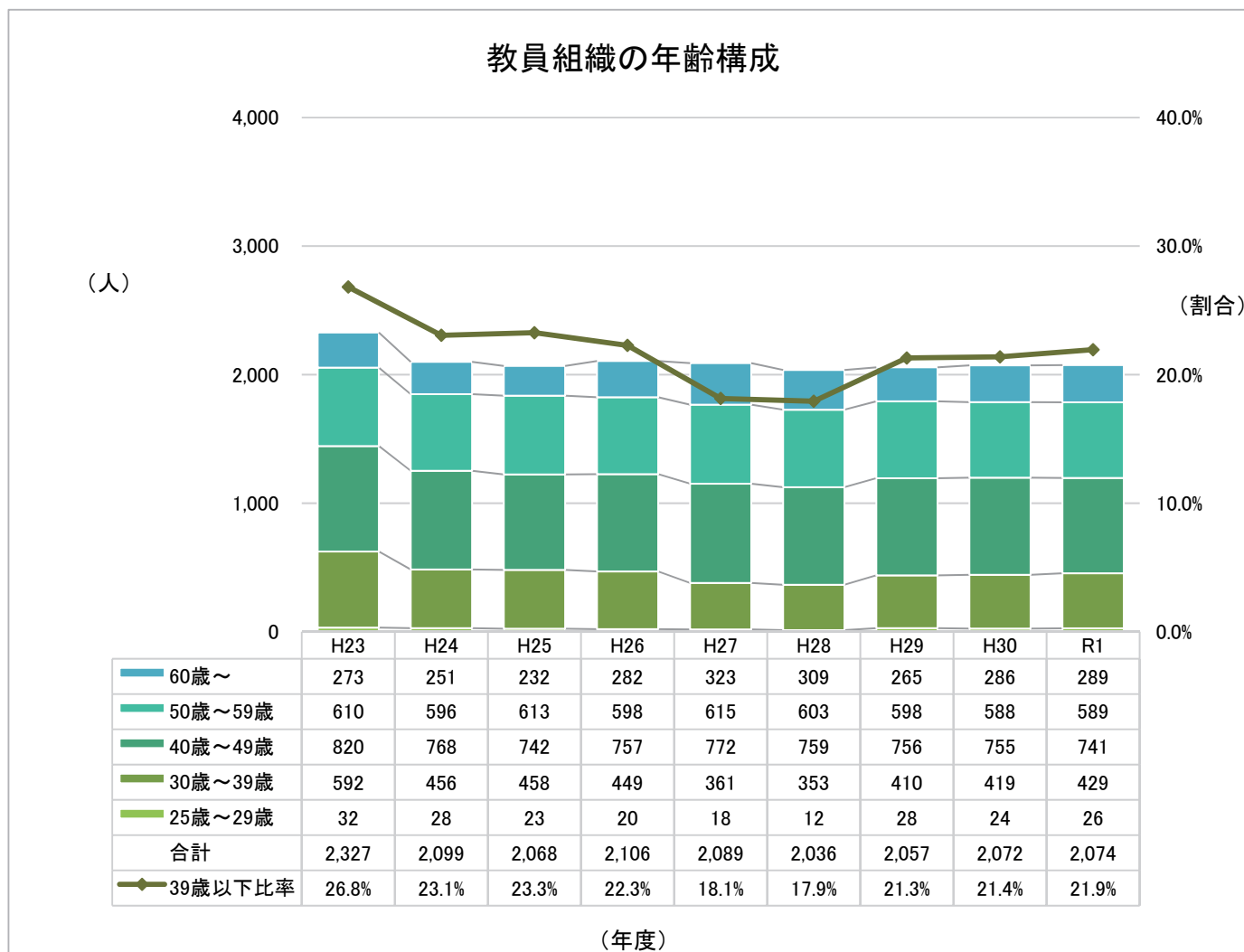
※出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」

2-2-4. 主幹教授数 ※2-2-1. 教員数の内数

主幹教授とは、高度の研究活動を推奨・支援し、さらに活性化させるために、本学の教授のうち、その専門分野において極めて高い業績を有し、本学の研究戦略の先導的な役割を担う者に「主幹教授」の称号を付与する制度である。R1年度は、昨年度より1人増加した。

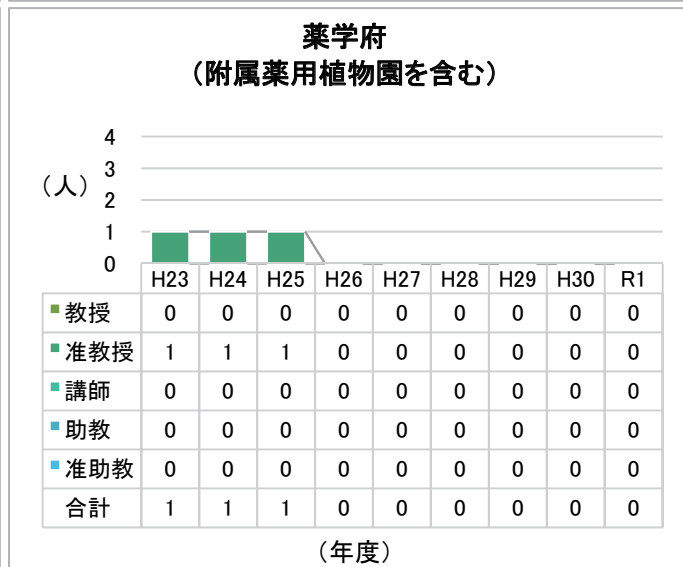
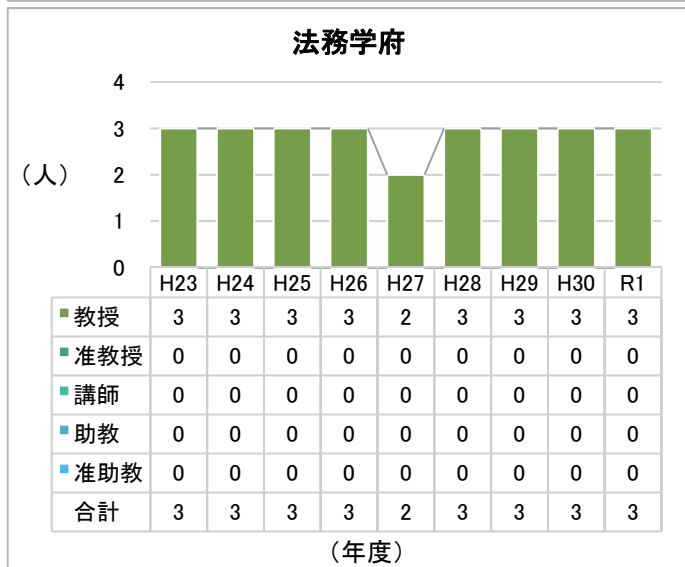
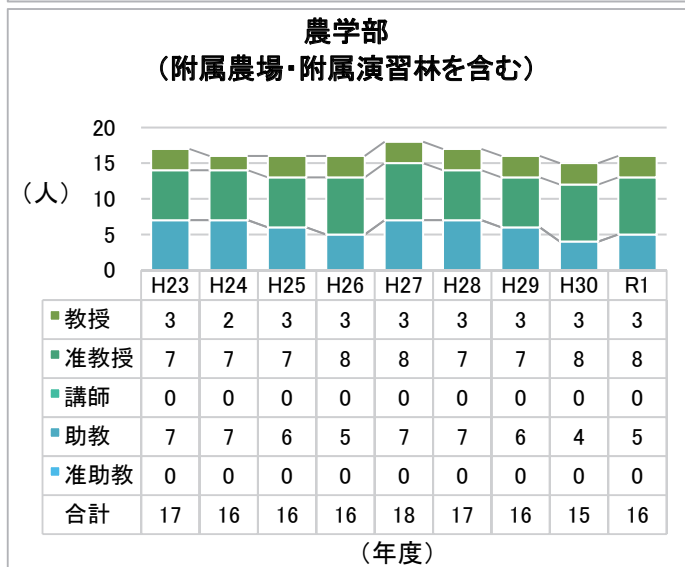
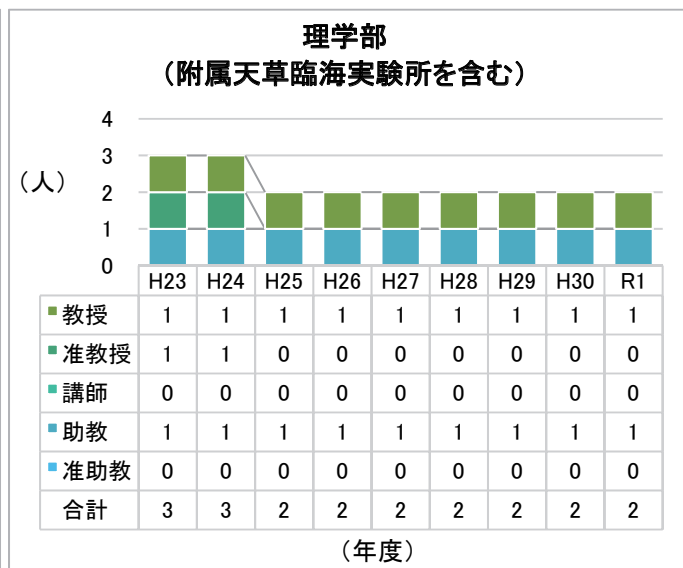
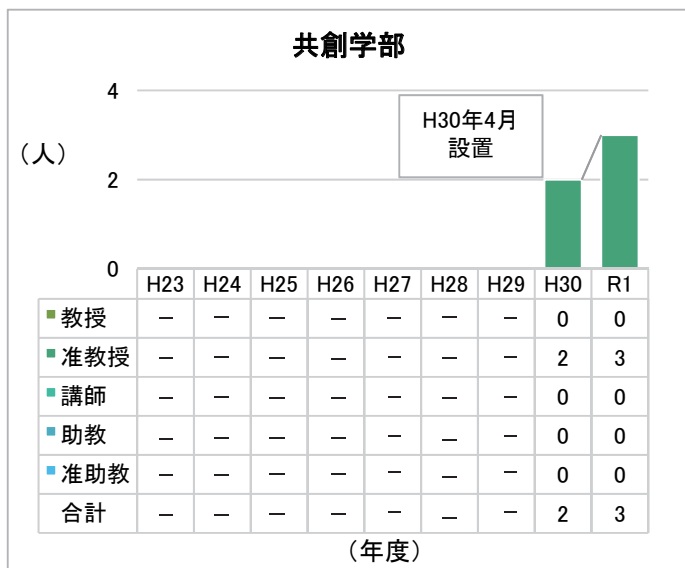


2-2-5. 教員組織の年齢構成 ※2-2-1. 教員数の内数



※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

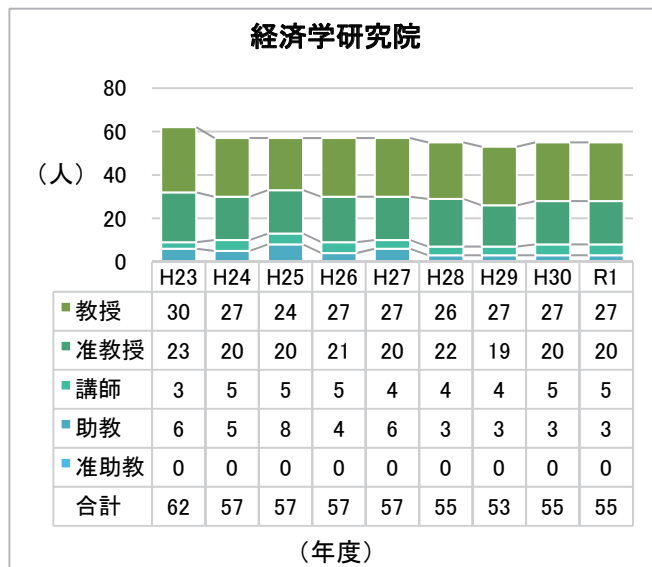
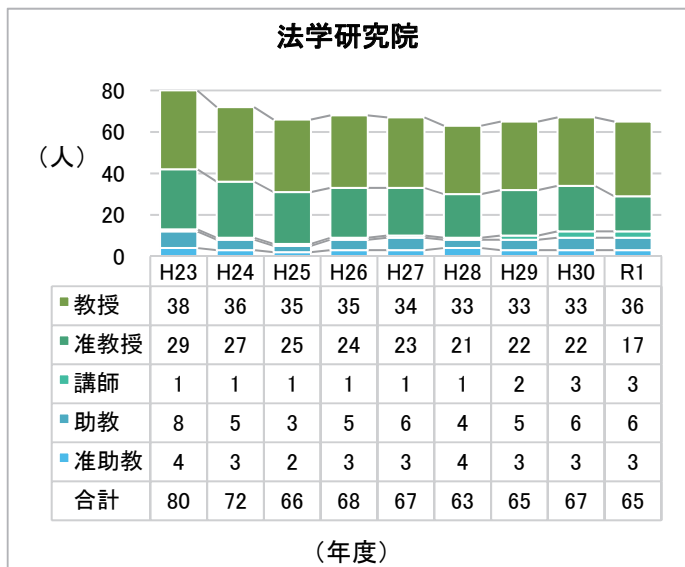
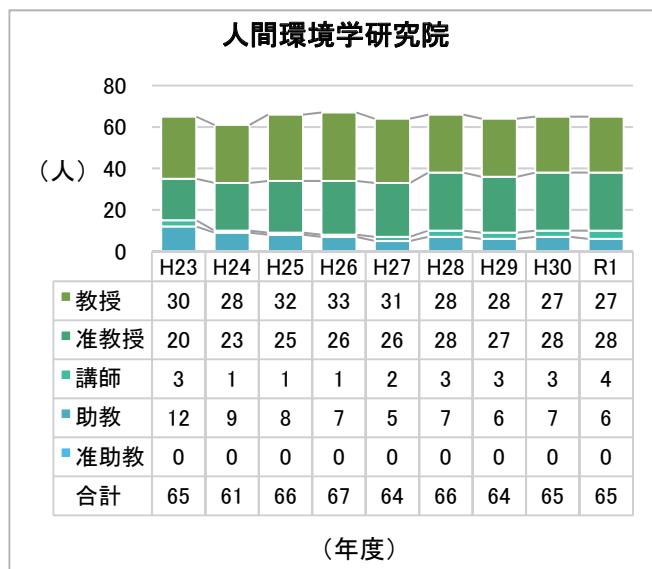
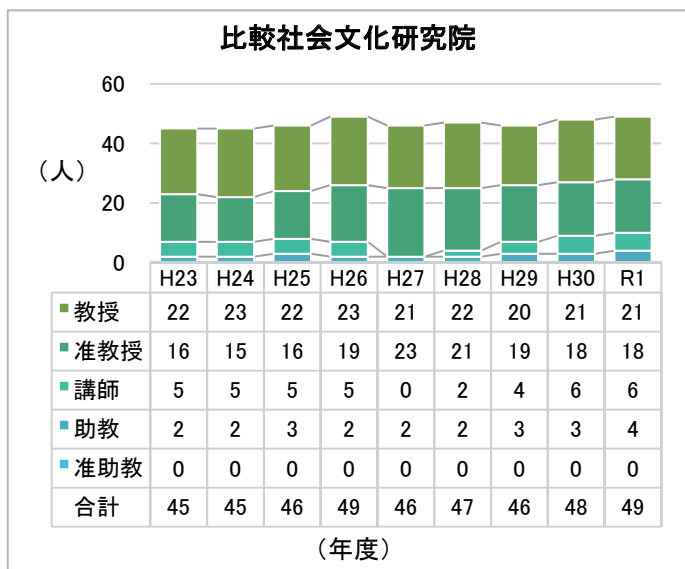
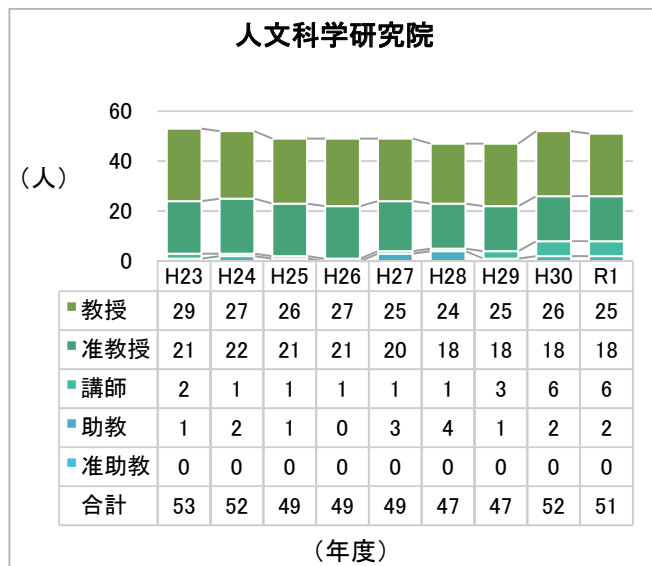
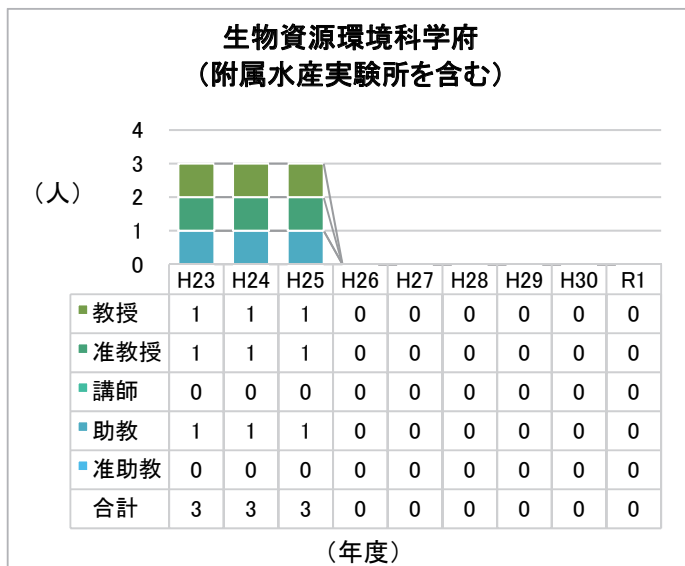
2-2-6. 教員数(部局別)



- ・H23年度は退職者を含む。H24年度以降は、退職者・育児休業者を含まず、退職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。
- ・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

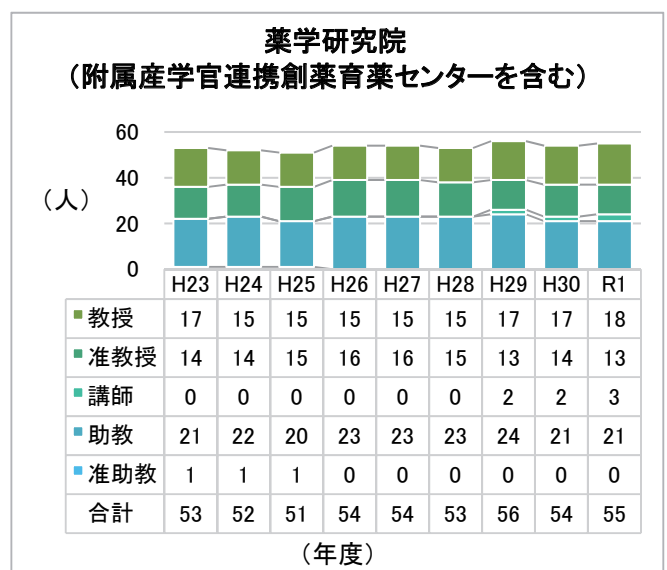
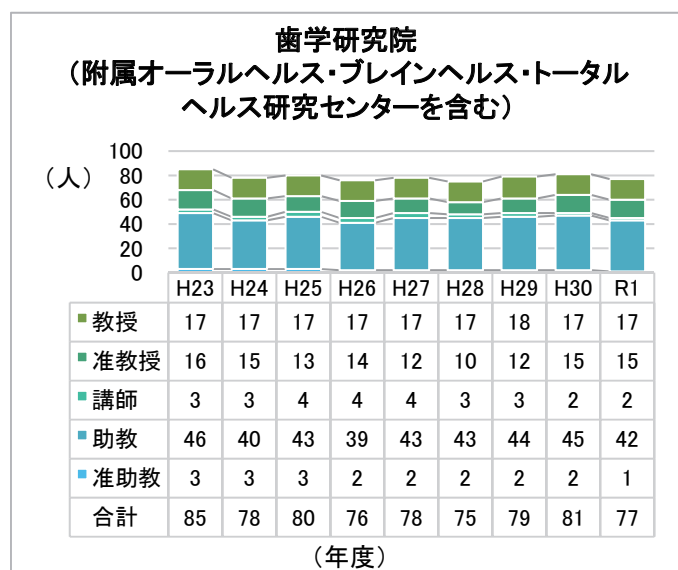
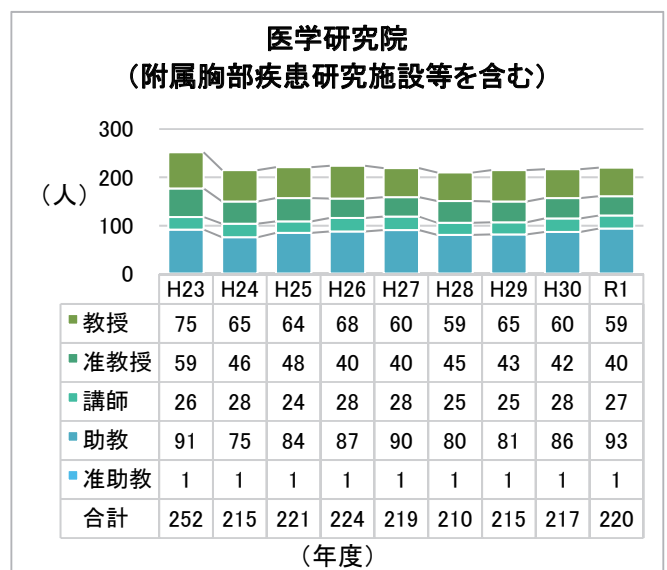
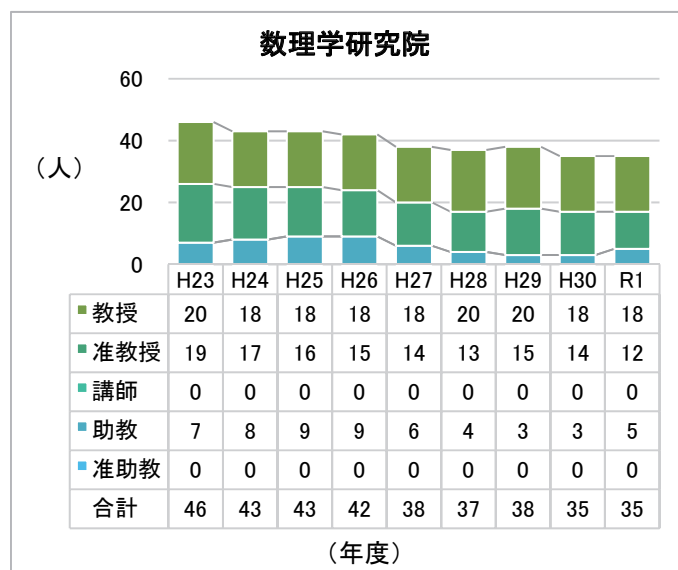
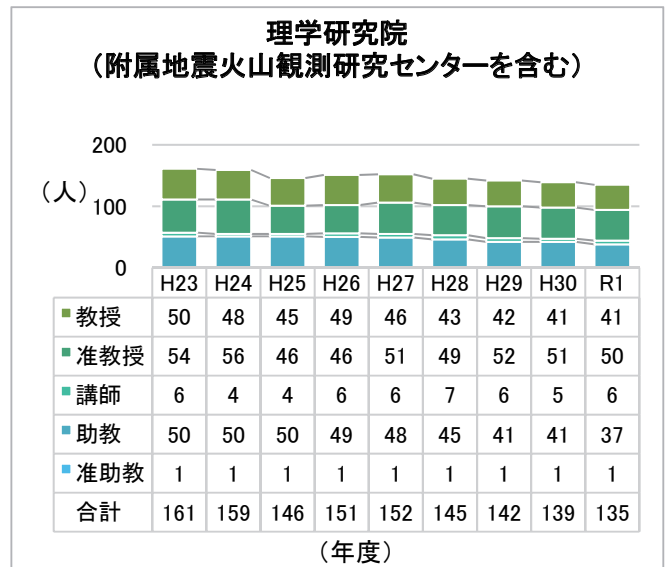
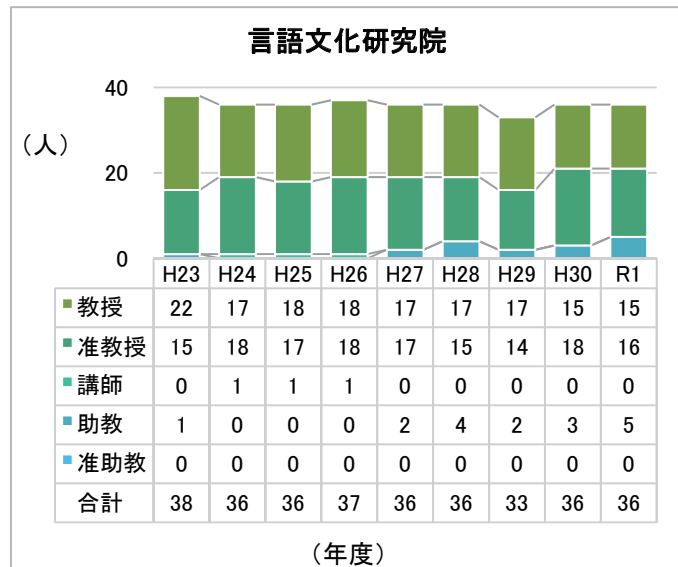
2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)



・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・特定有期教員は除く。
 ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。
 ・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

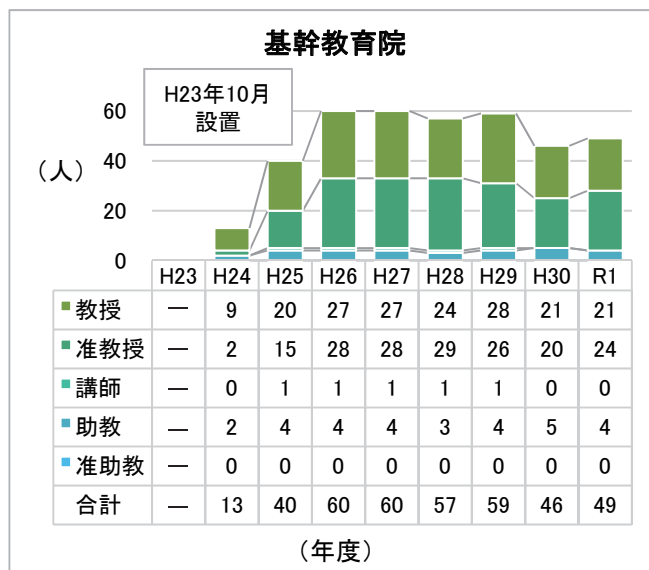
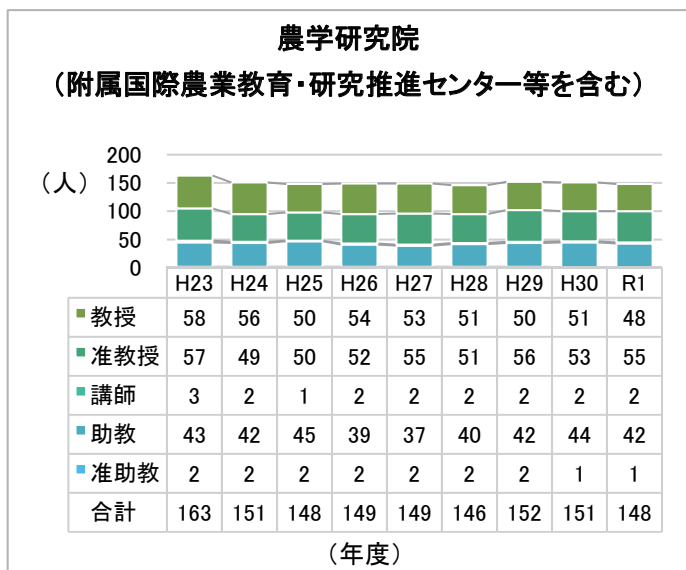
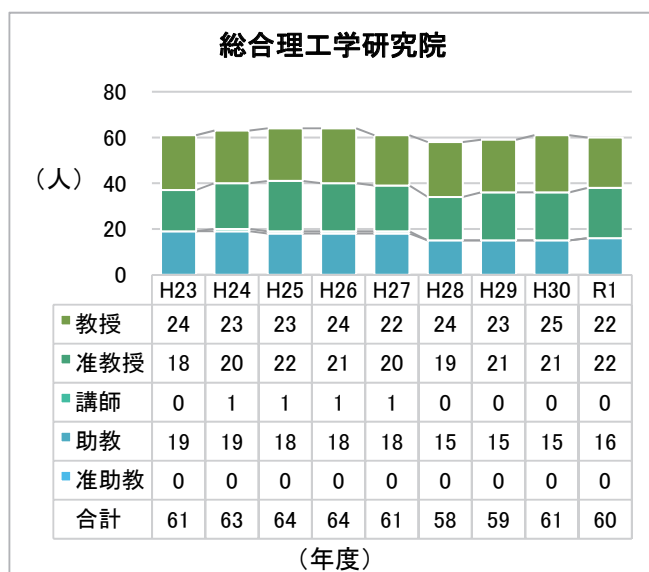
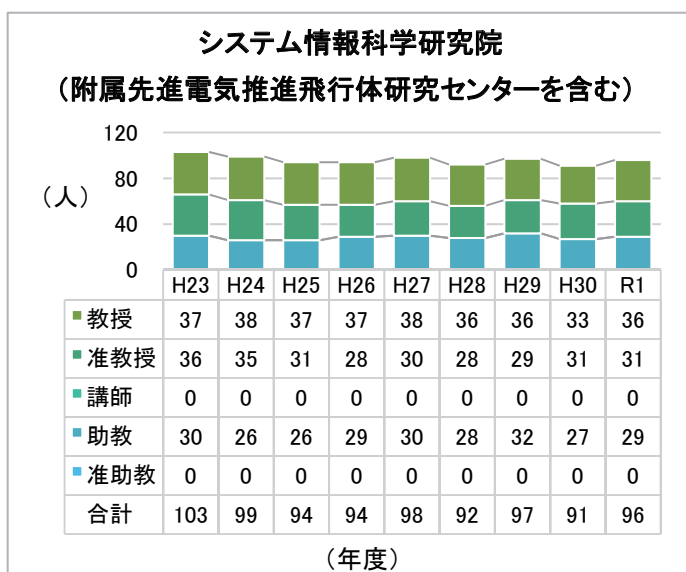
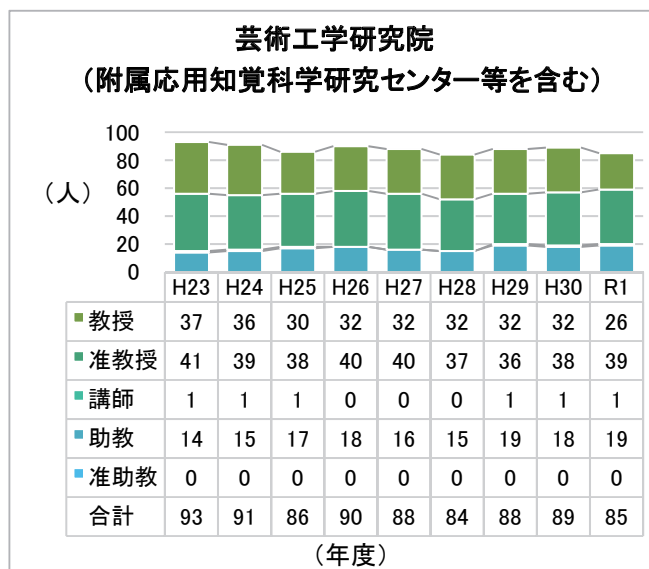
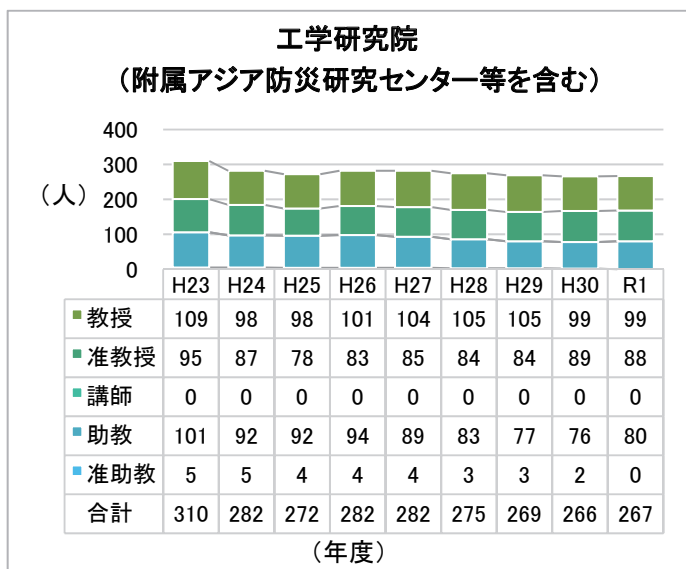
2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)



- ・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。
- ・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

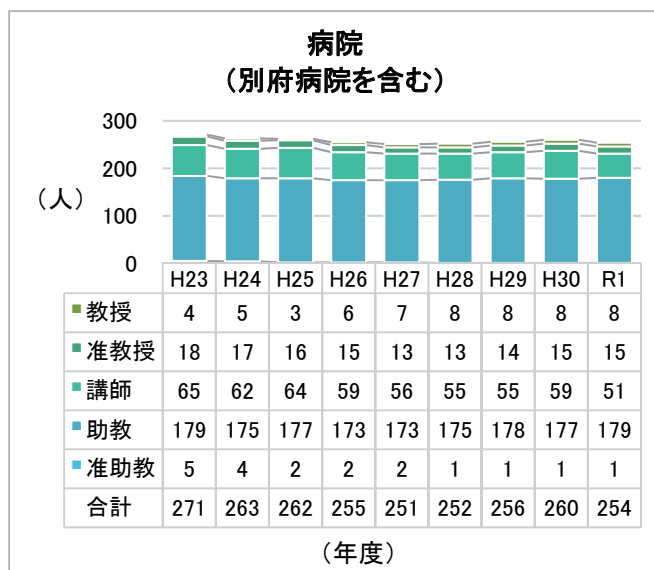
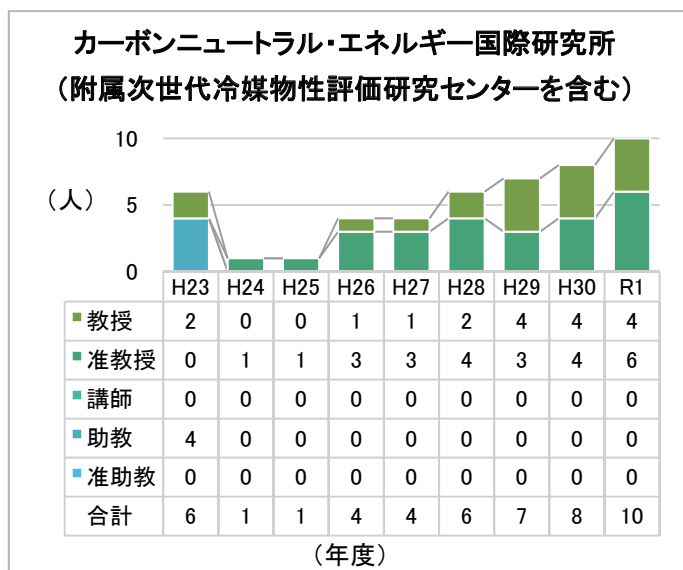
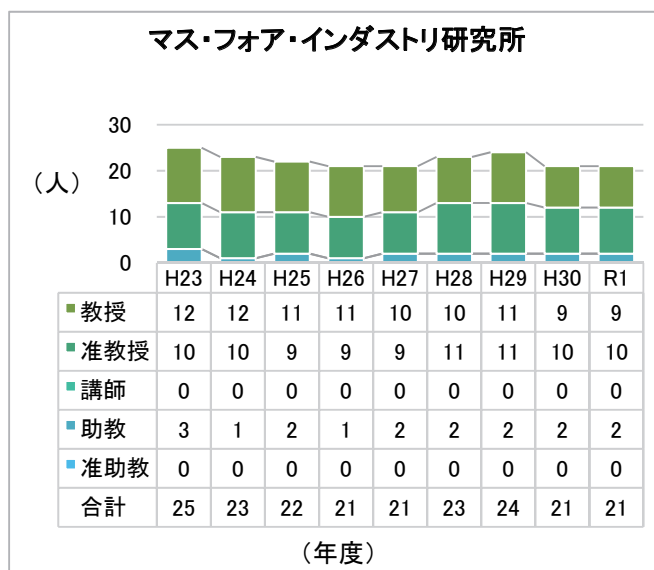
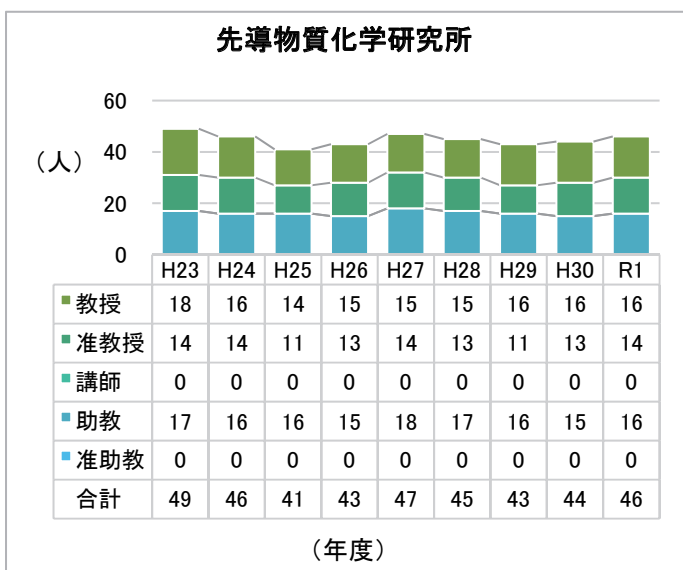
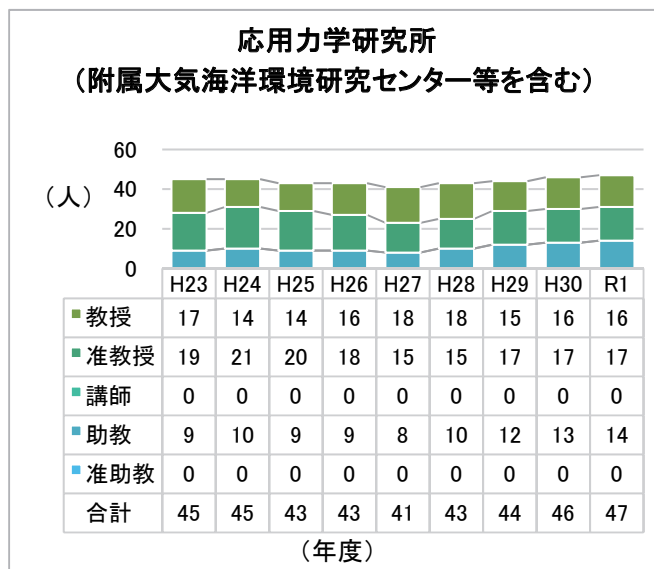
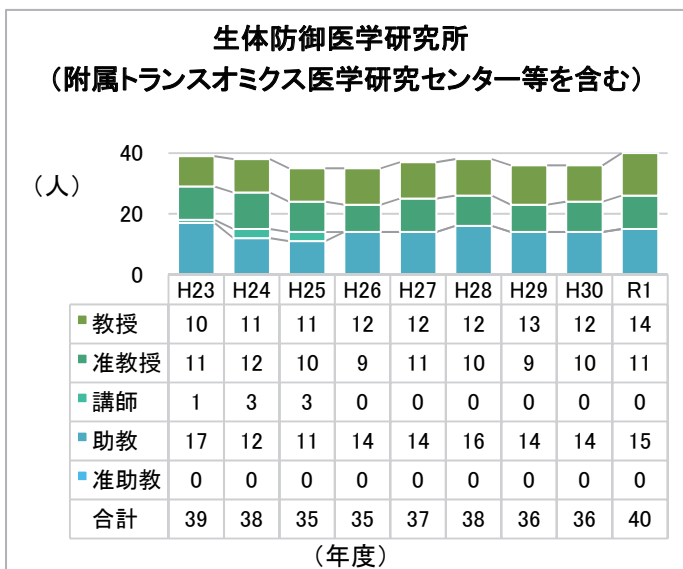
2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)



・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・特定有期教員は除く。
 ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。
 ・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

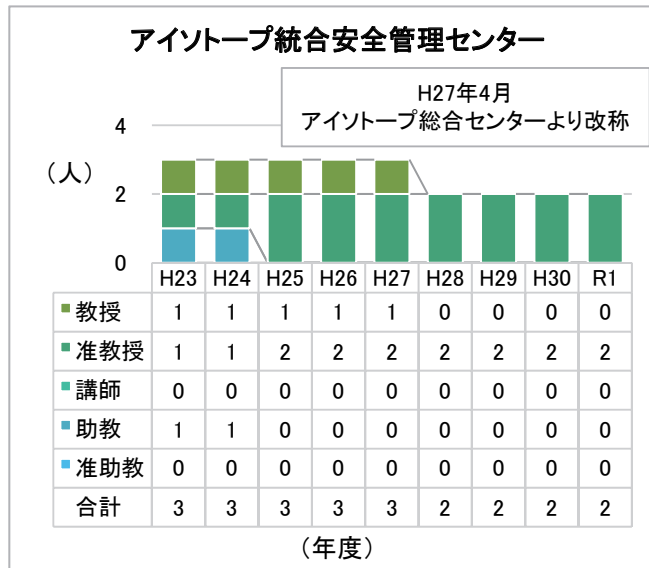
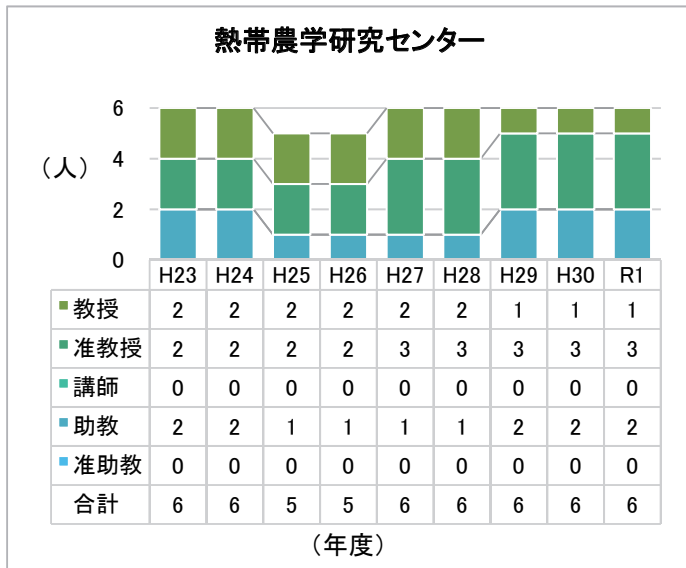
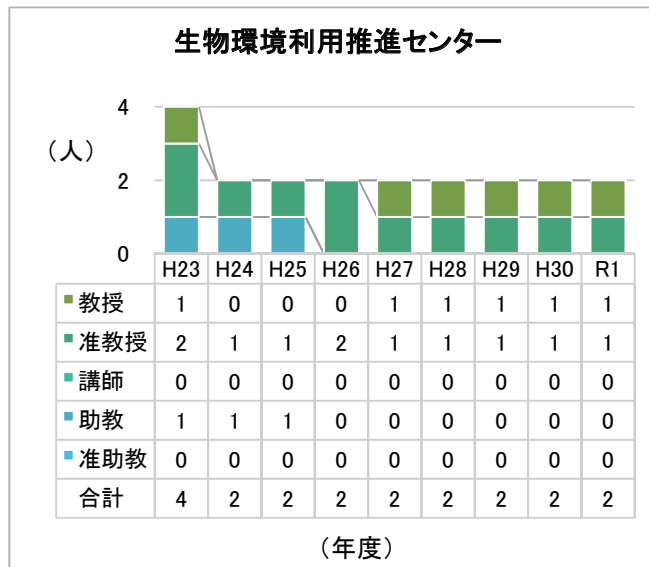
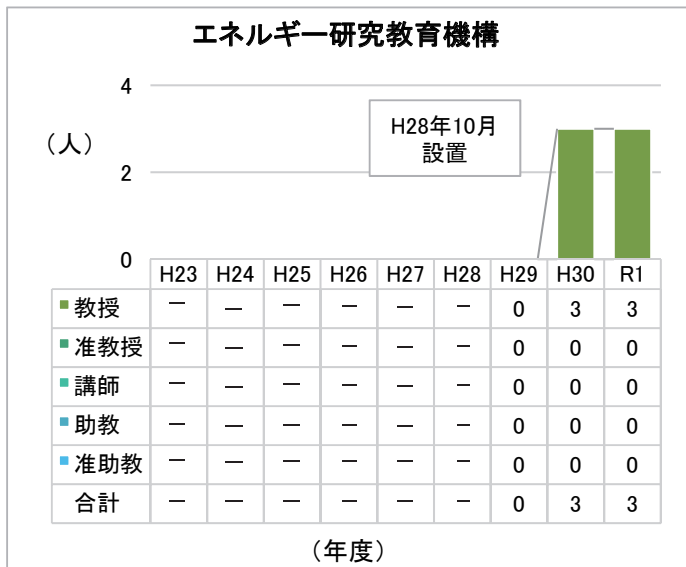
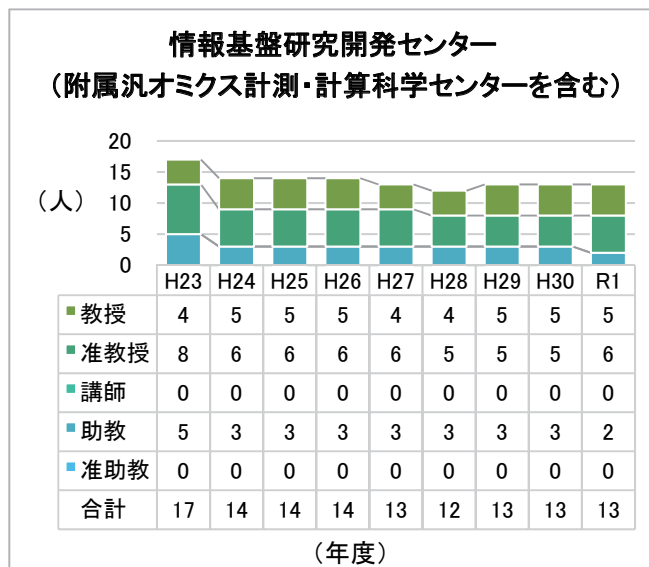
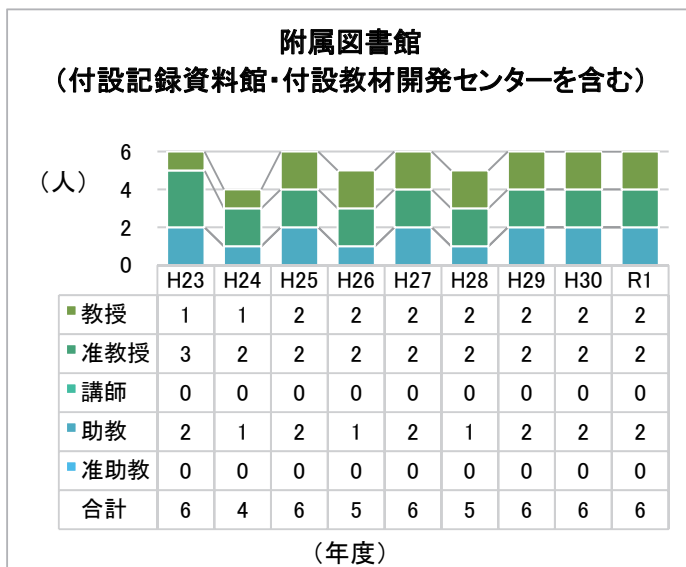
2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)



- ・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。
- ・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

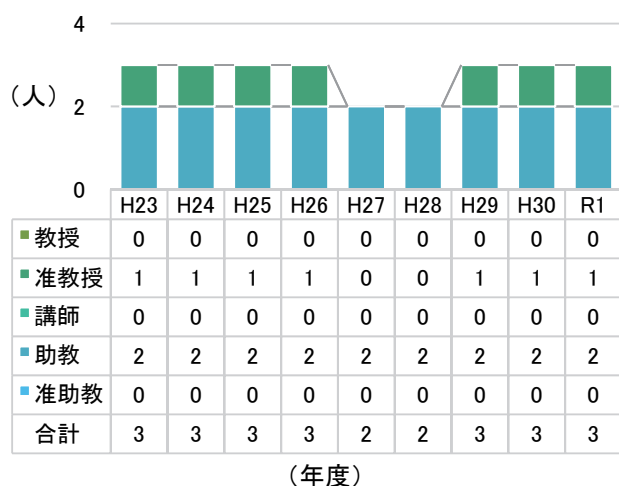


- ・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。
- ・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

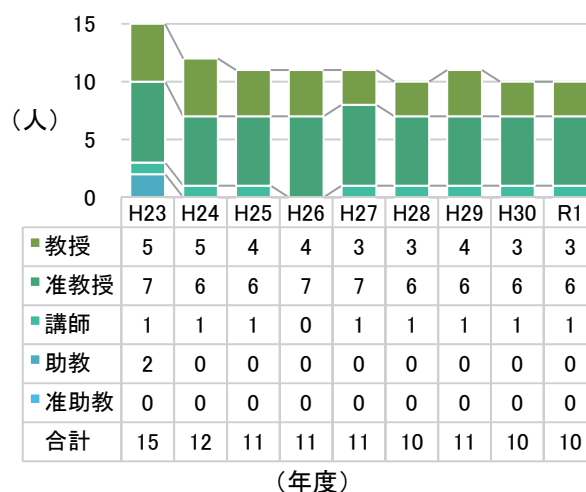
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

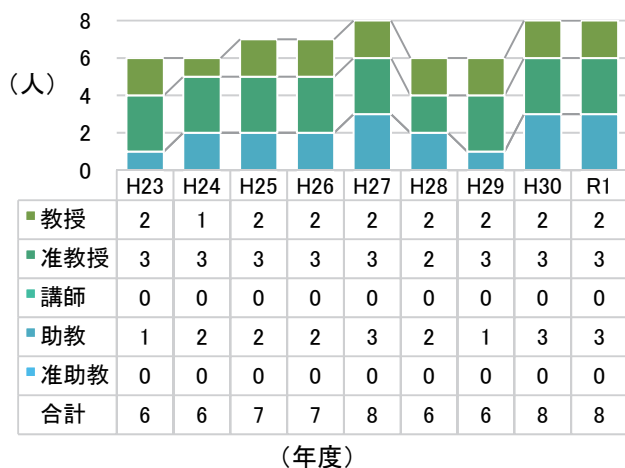
中央分析センター



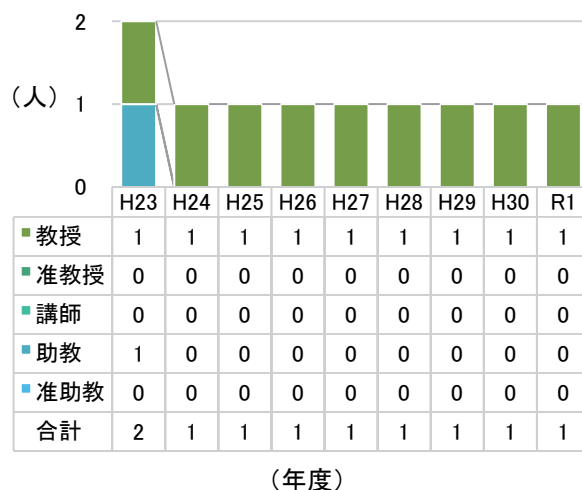
留学生センター



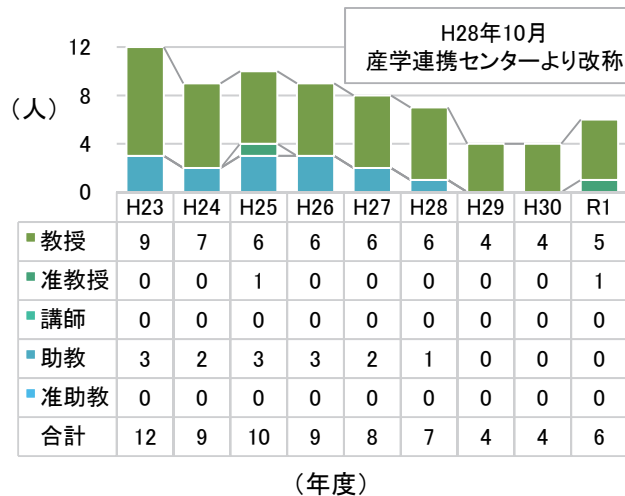
総合研究博物館



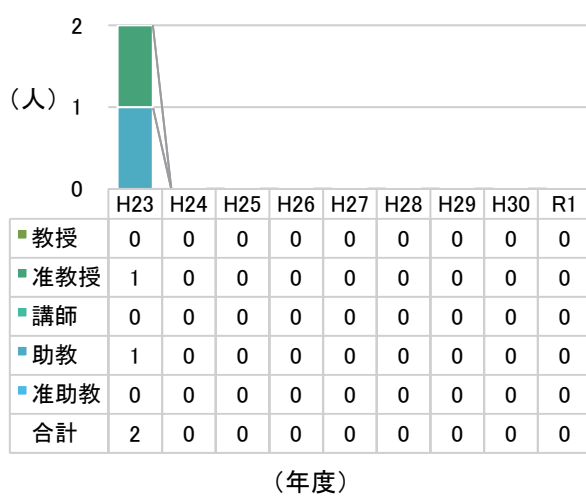
韓国研究センター



グローバルイノベーションセンター



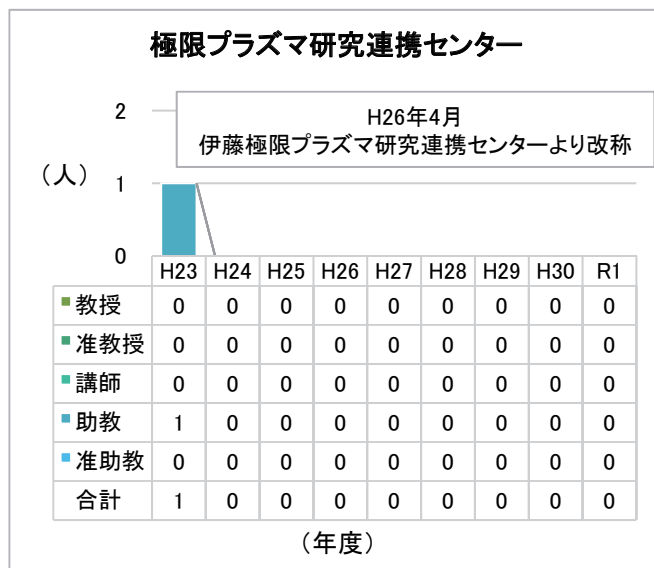
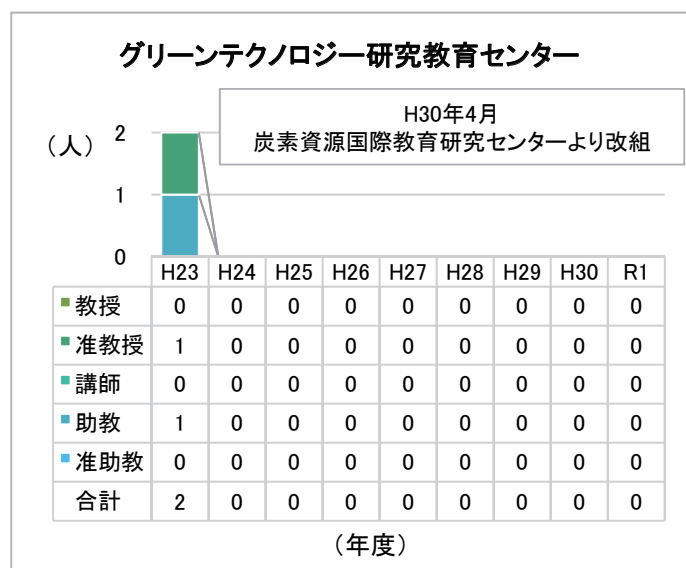
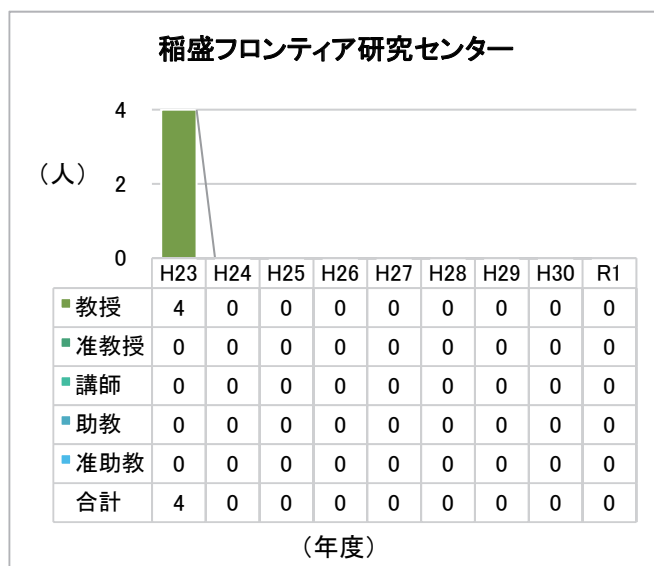
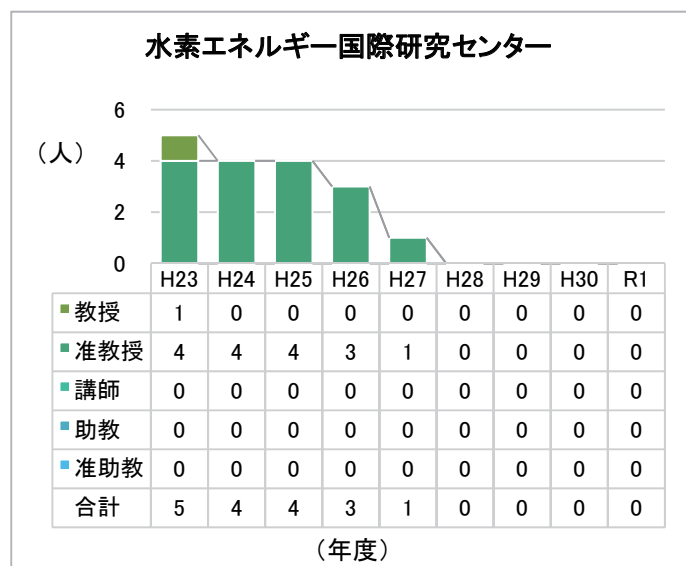
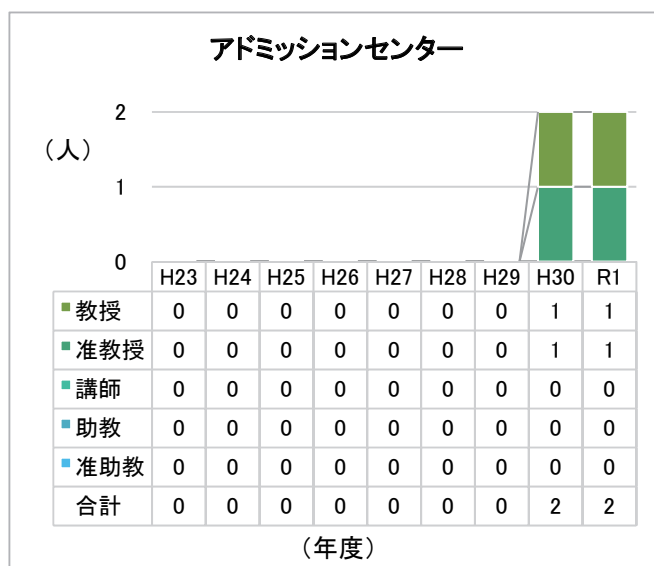
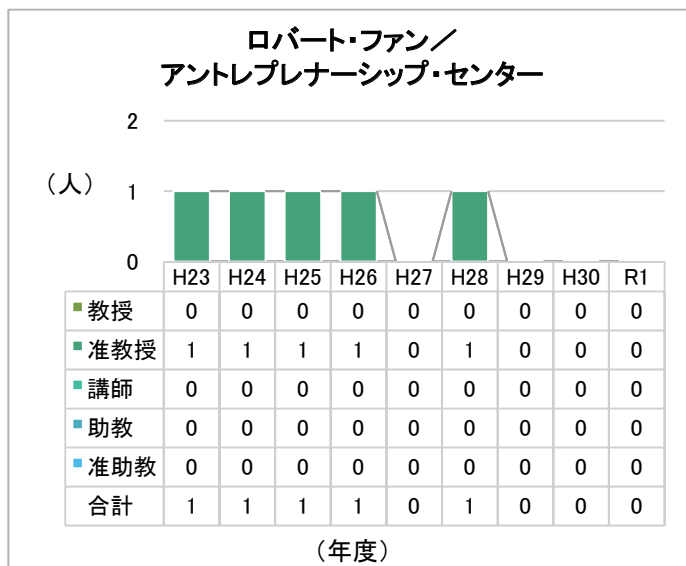
大学図書館



- ・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。

※出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

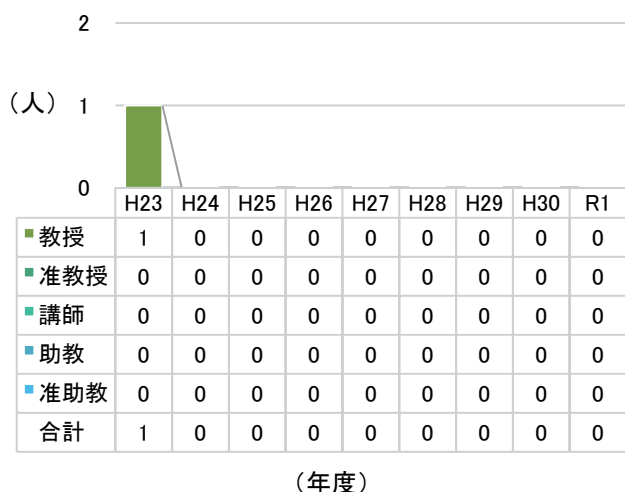


- ・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。

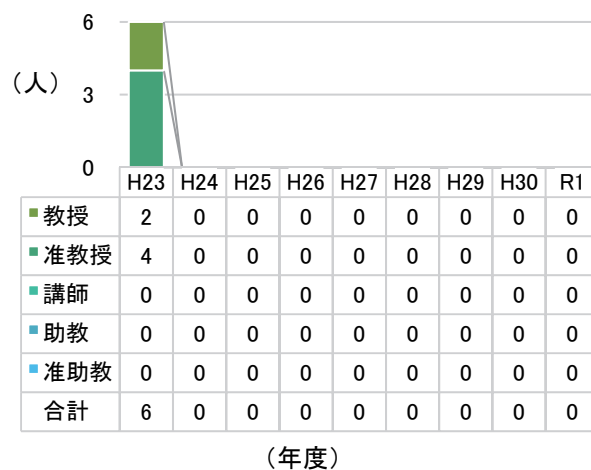
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

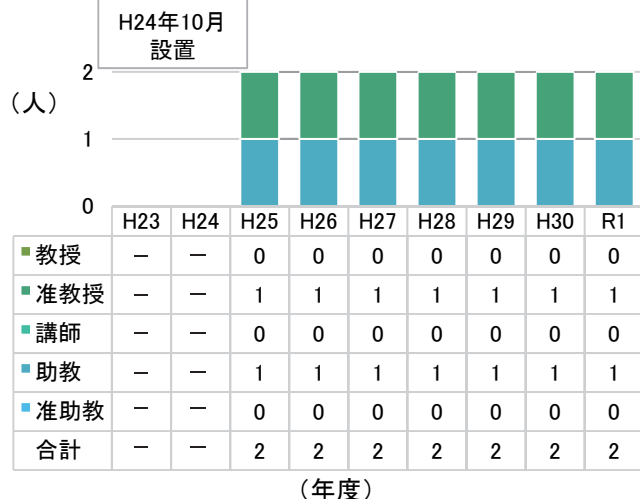
有体物管理センター



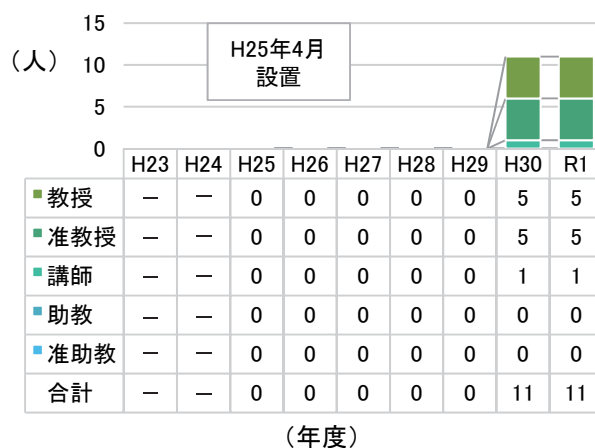
日本エジプト科学技術連携センター



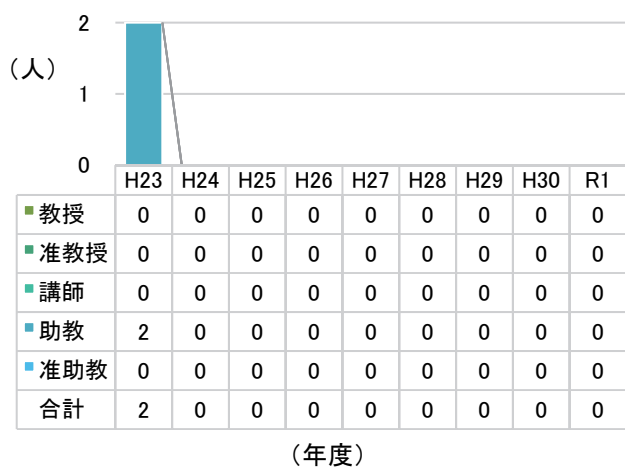
先端素粒子物理研究センター



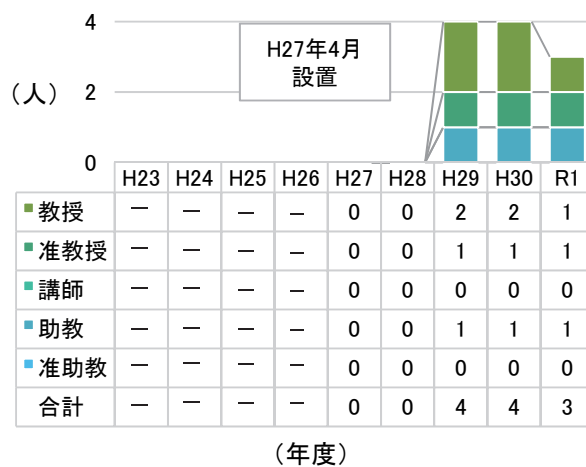
キャンパスライフ・健康支援センター



免疫機構研究センター



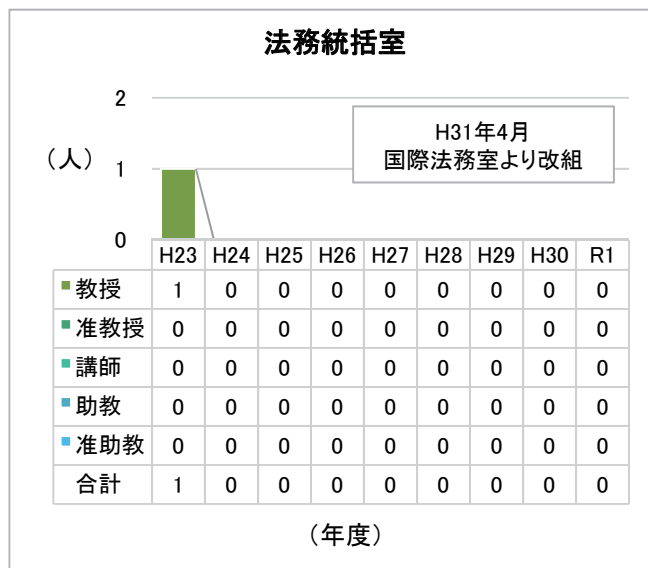
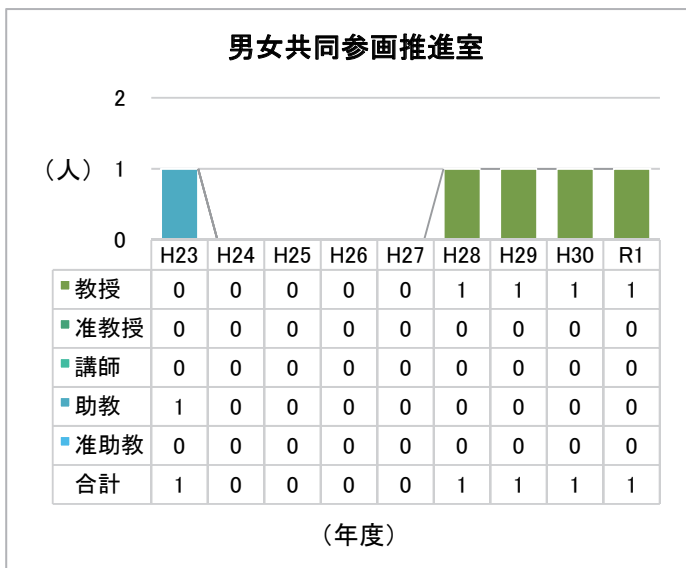
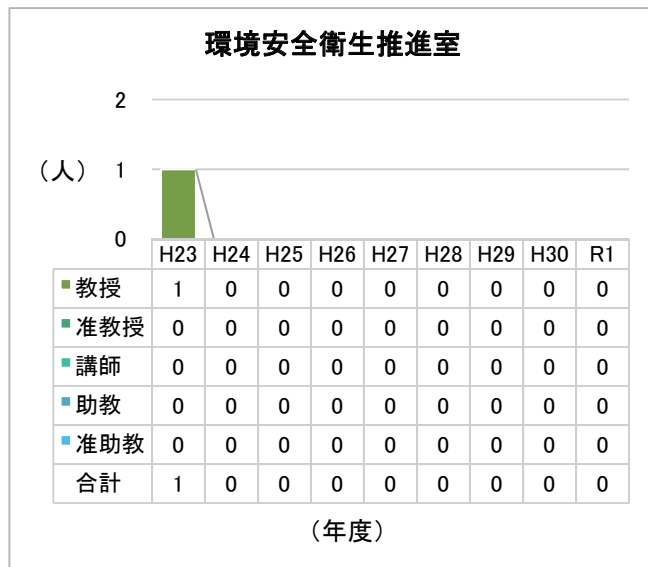
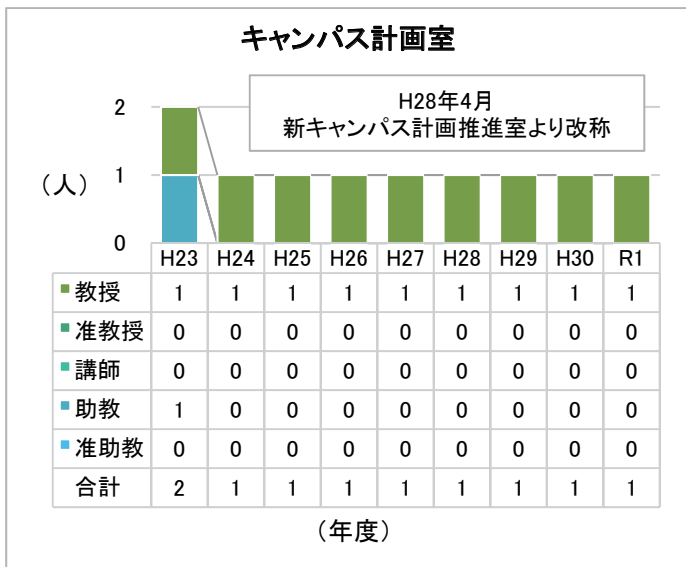
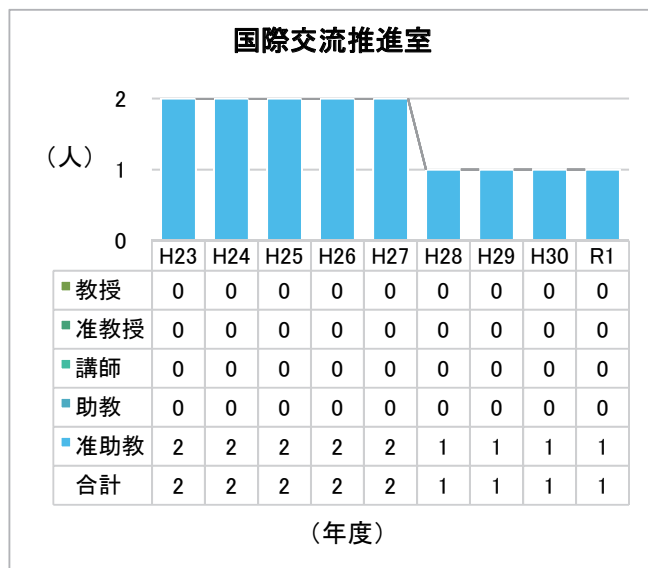
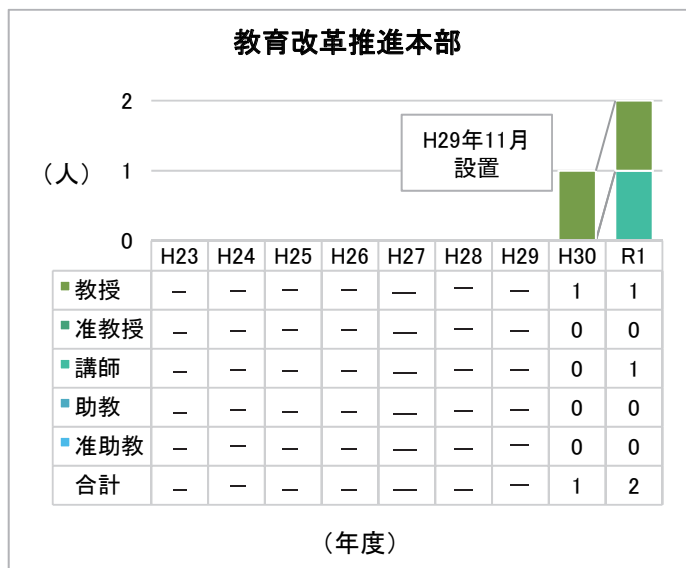
学術研究・産学官連携本部



- ・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・特定有期教員は除く。
- ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-2-6. 教員数(部局別)(つづき)

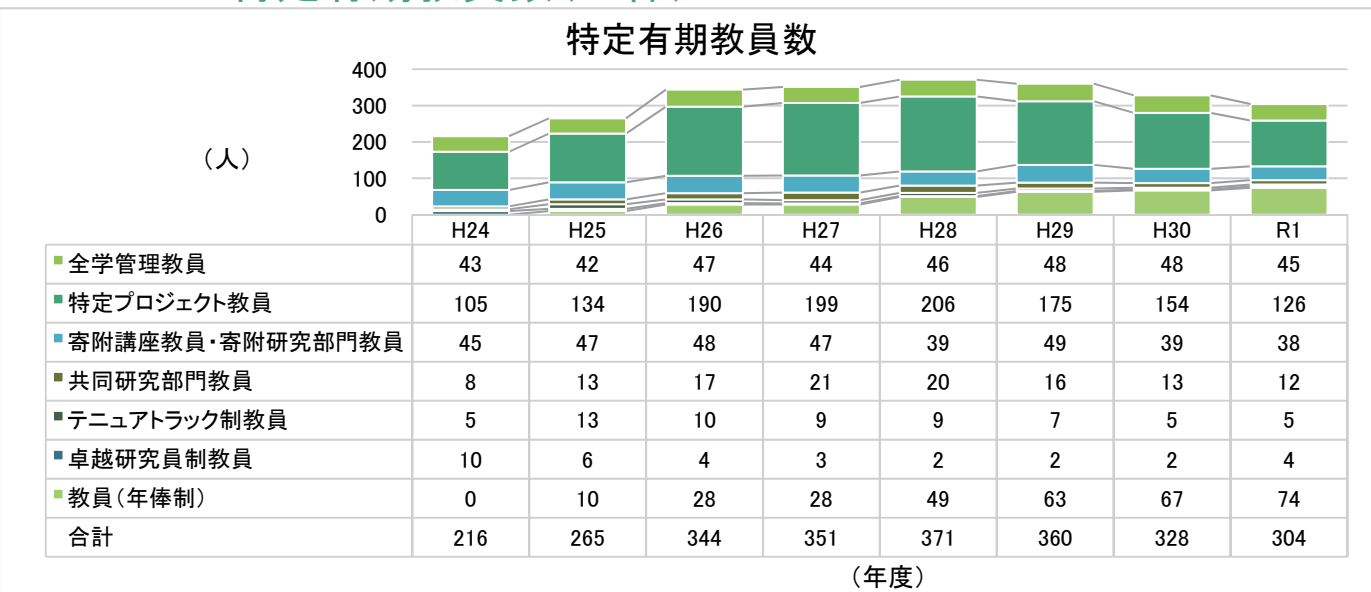


・H23年度は退職者を含む。H24年度以降は、退職者・育児休業者を含まず、退職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・特定有期教員は除く。
 ・一部、本務所属以外に計上。R1年度は、本務のみ計上。

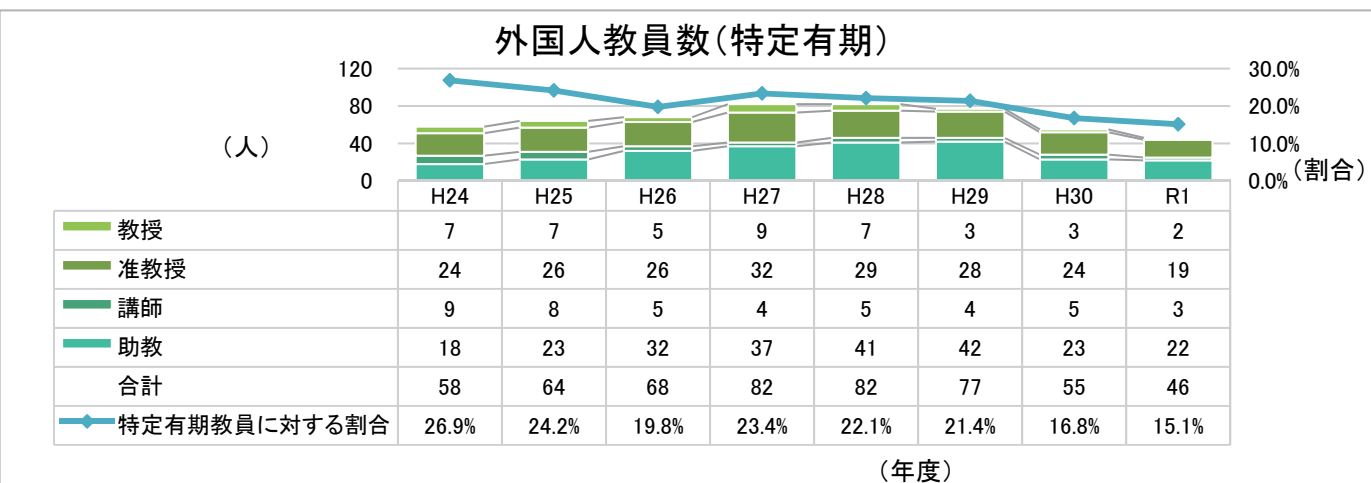
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-3. 特定有期教員数

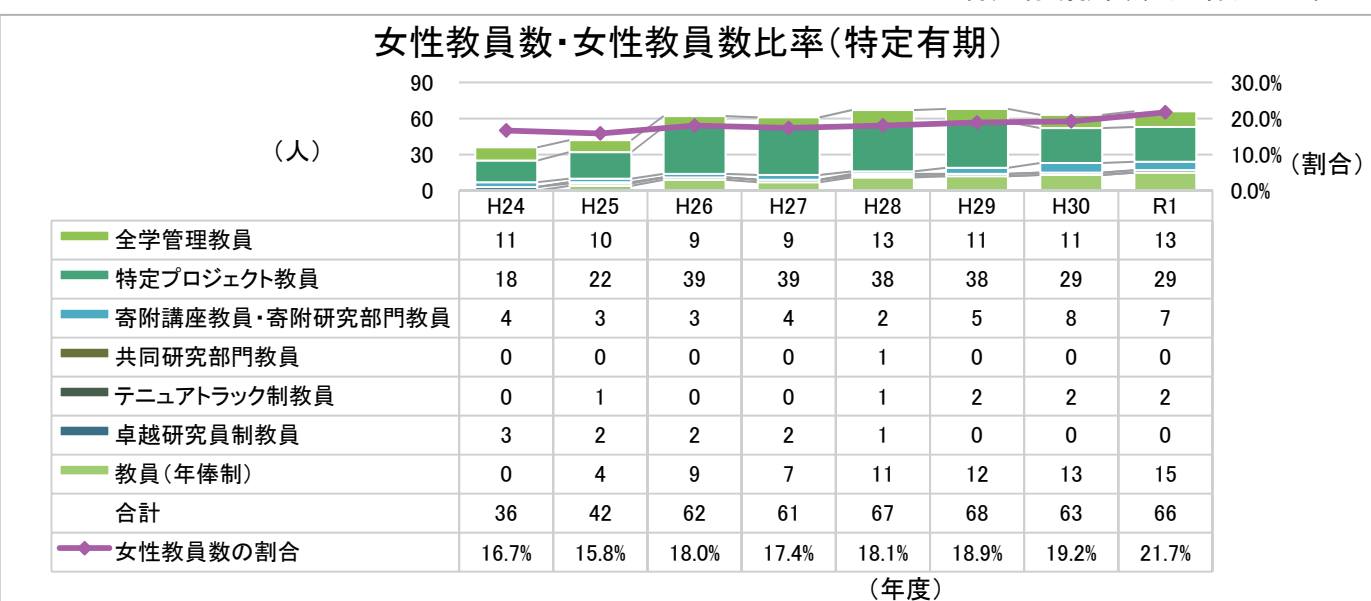
2-3-1. 特定有期教員数(全体)



2-3-2. 特定有期教員数(外国人教員) ※2-3-1. 特定有期教員数(全体)の内数



2-3-3. 特定有期教員数(女性教員) ※2-3-1. 特定有期教員数(全体)の内数

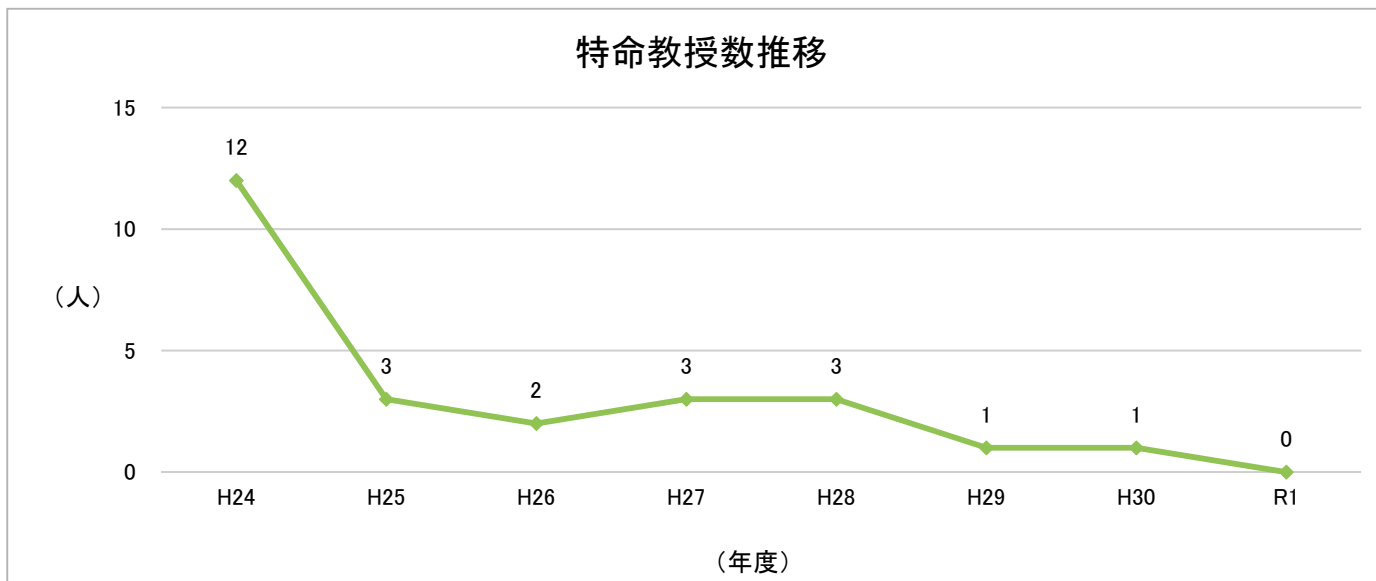


・休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。

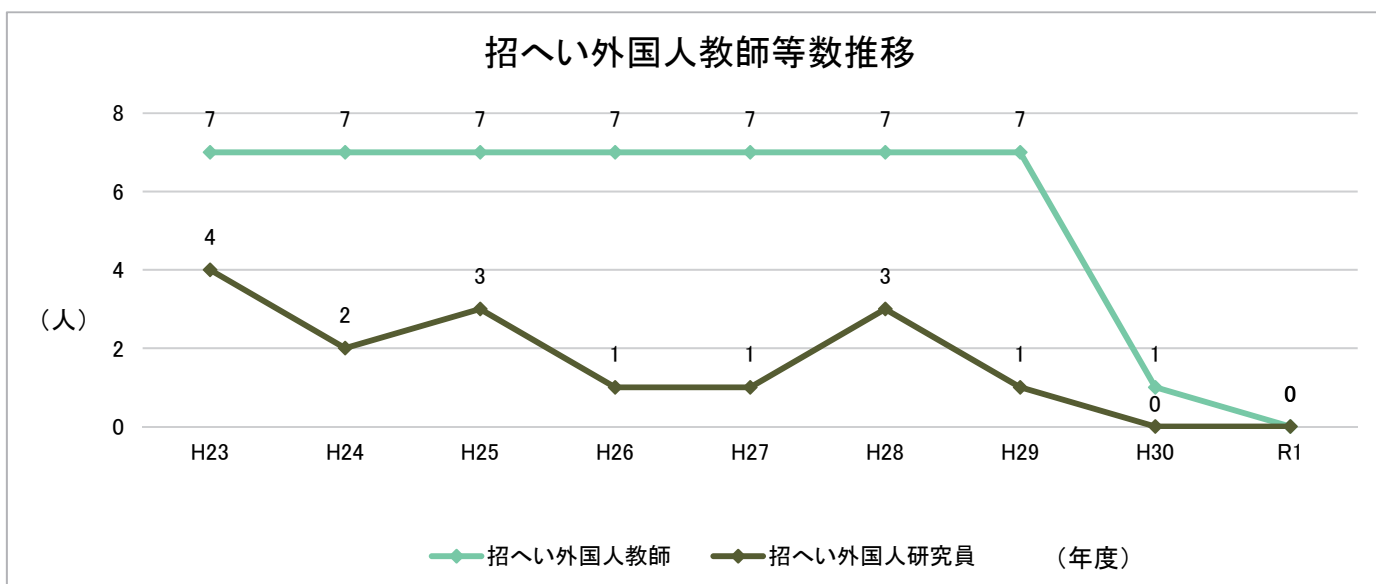
・再雇用職員を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

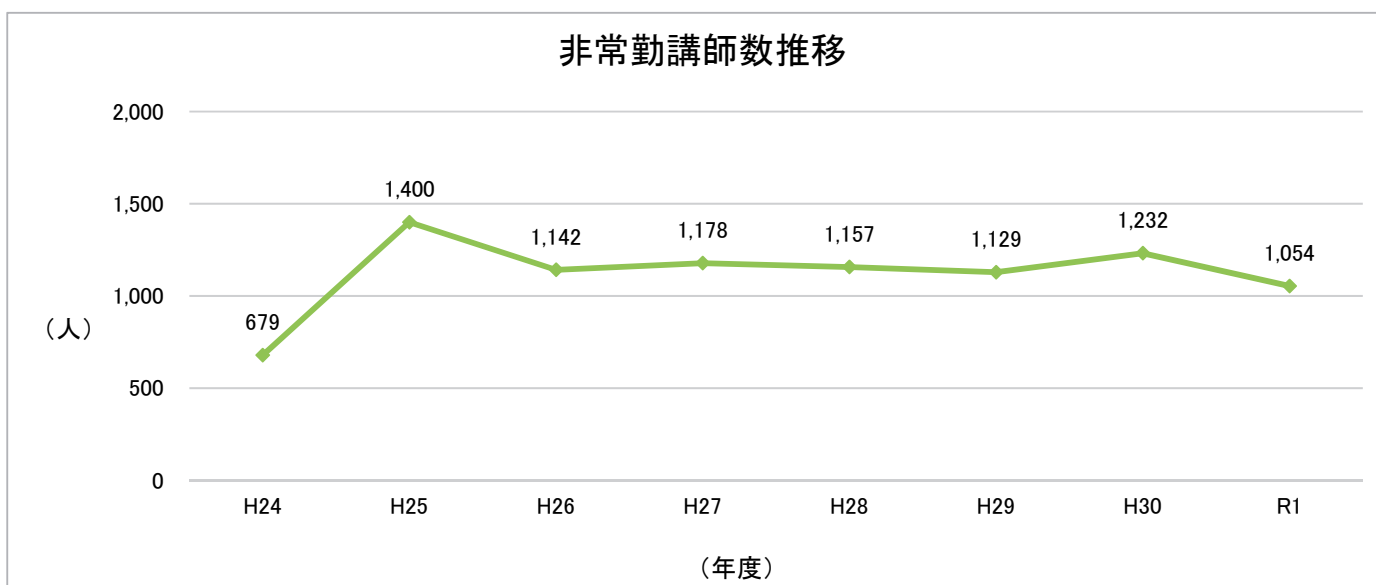
2-4. 特命教授数



2-5. 招へい外国人教師等数



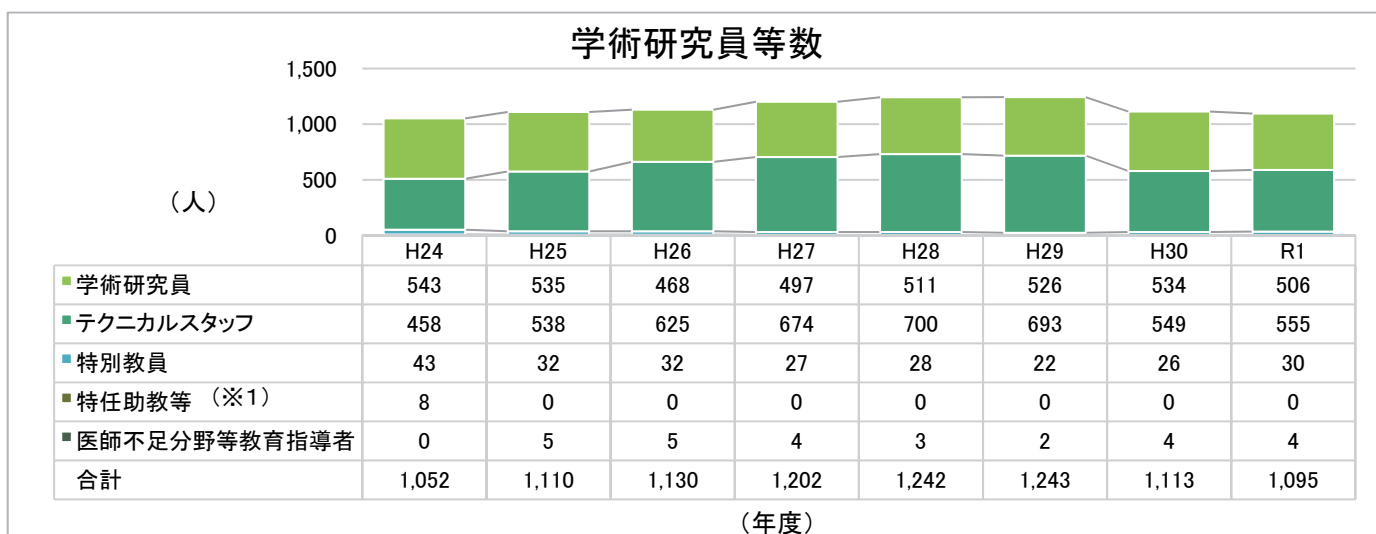
2-6. 非常勤講師数



※出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

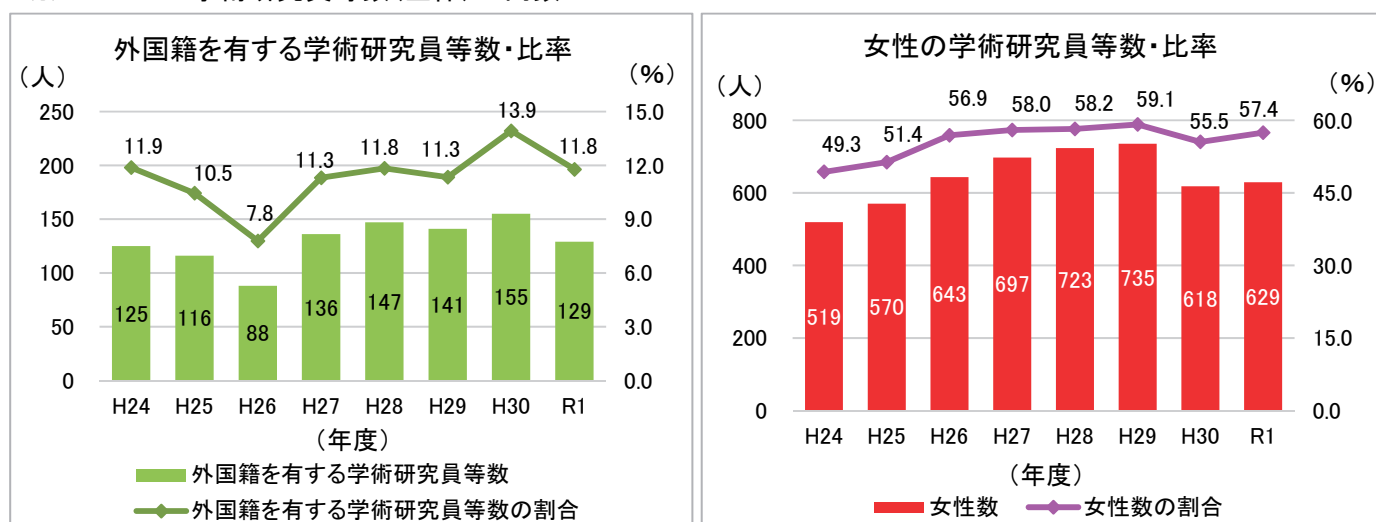
2-7. 学術研究員等数

2-7-1. 学術研究員等数(全体)

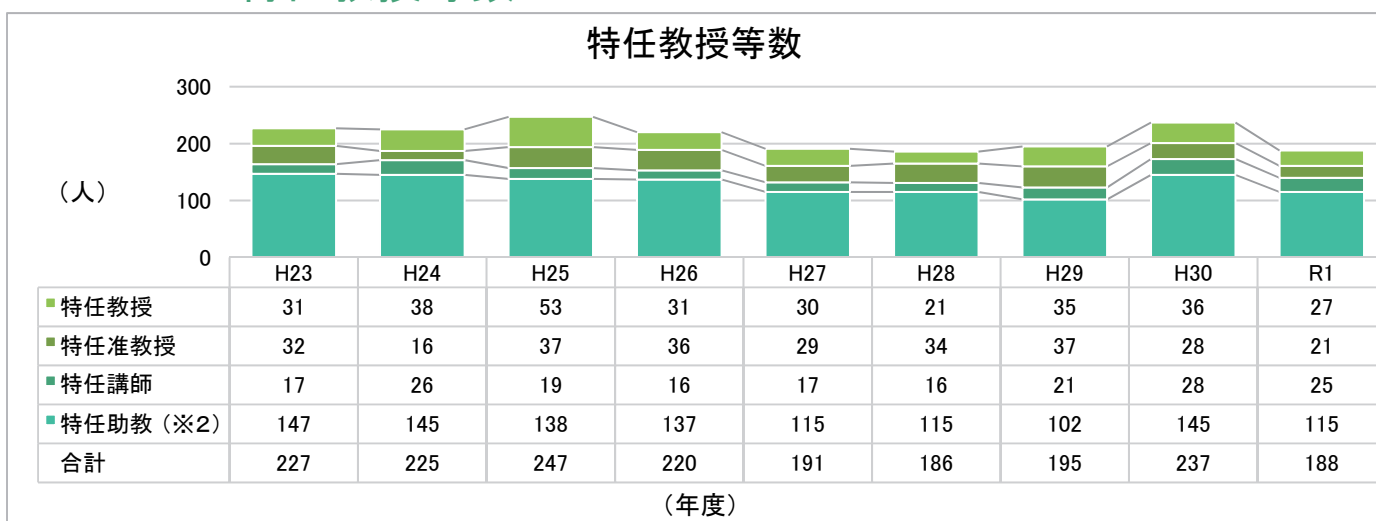


2-7-2. 学術研究員等数(外国籍及び女性数)

※2-7-1. 学術研究員等数(全体)の内数



2-7-3. 特任教授等数 ※2-7-1. 学術研究員等数(全体)の内数



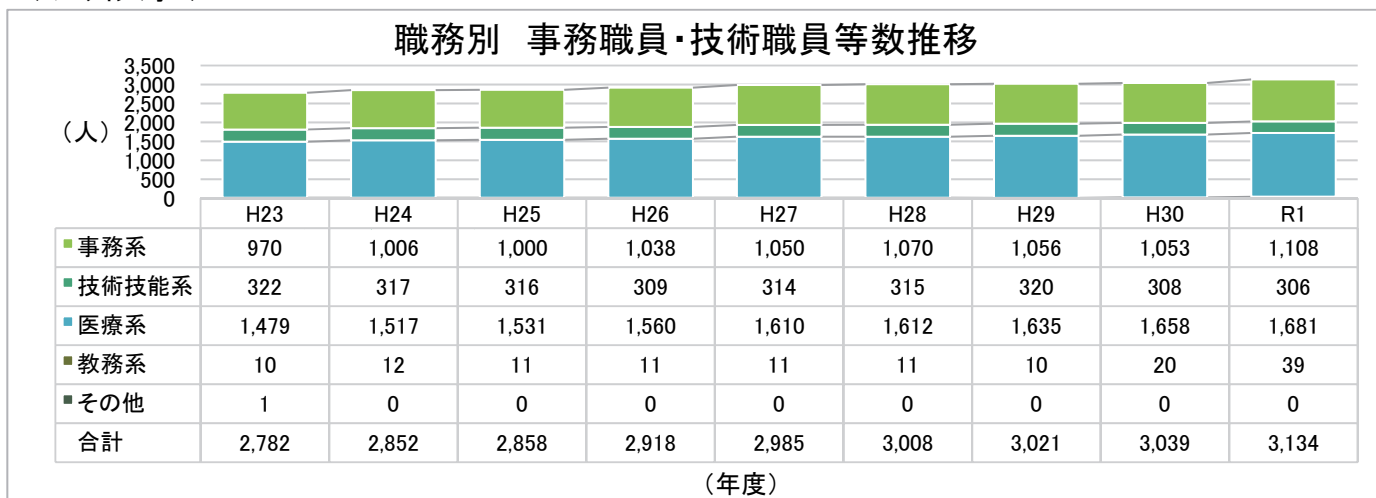
(※1)は「身分」としての「特任助教等」で、(※2)は学術研究員等への「称号付与」としての「特任助教」。H24年頃は制度の過渡期のため両方の「特任助教」が混在する形となっている。H25年以降は「身分」としての「特任助教等」は0人となっている。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-8. 事務職員・技術職員等数

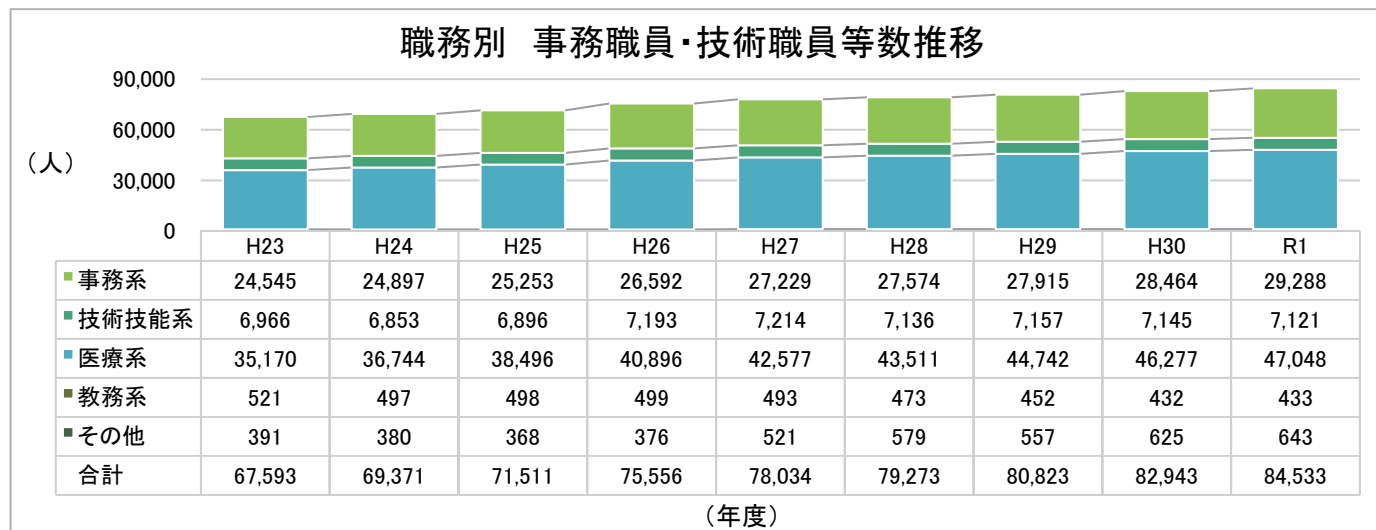
2-8-1. 事務職員・技術職員等数(全体)

◆九州大学◆



※出典：文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆

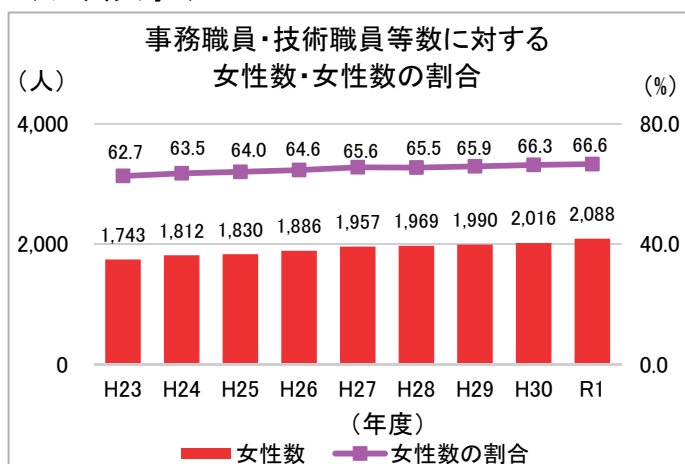


※出典：文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職務別職員数」

2-8-2. 事務職員・技術職員等数(女性数及び女性比率)

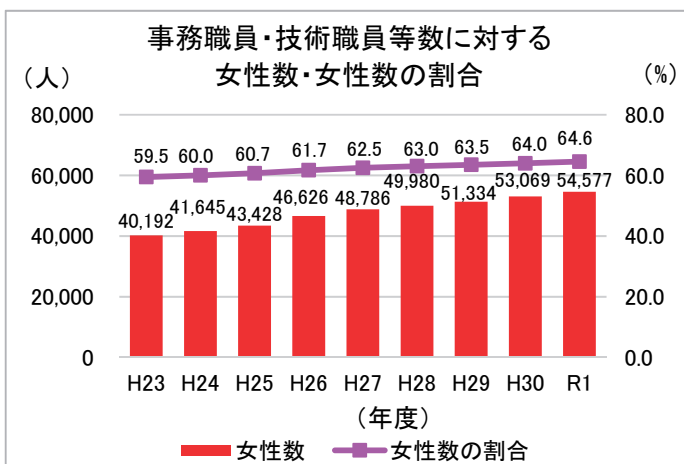
※2-8-1. 事務職員・技術職員等数(全体)の内数

◆九州大学◆



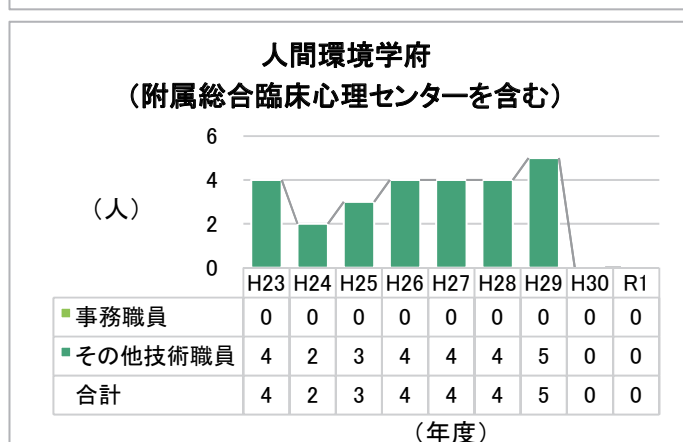
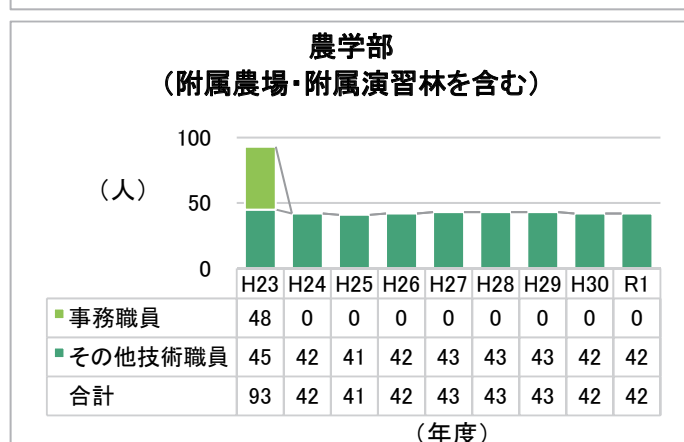
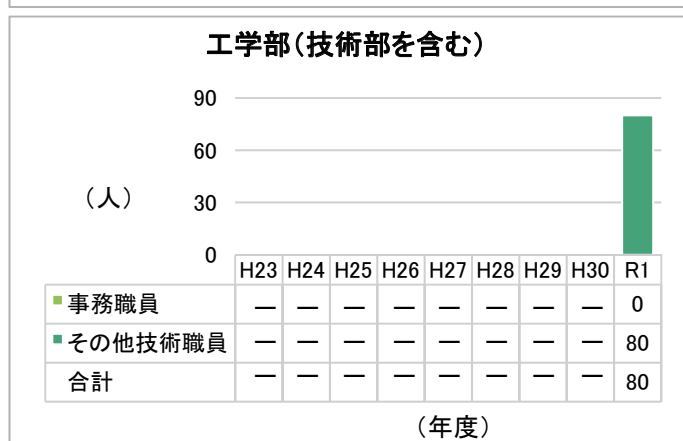
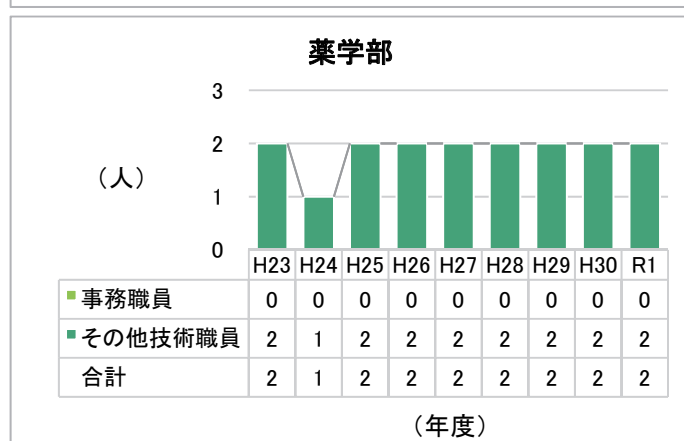
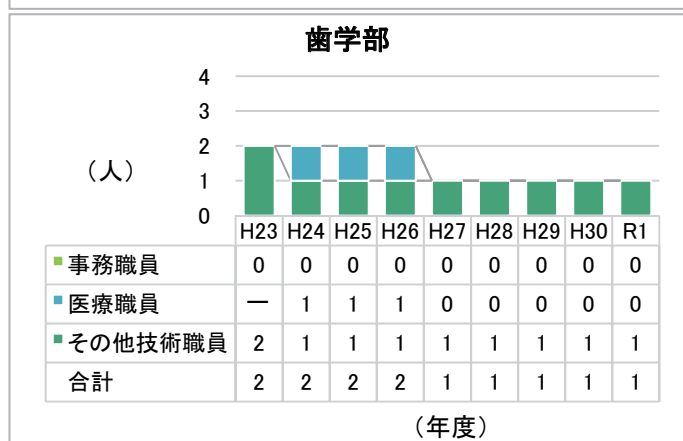
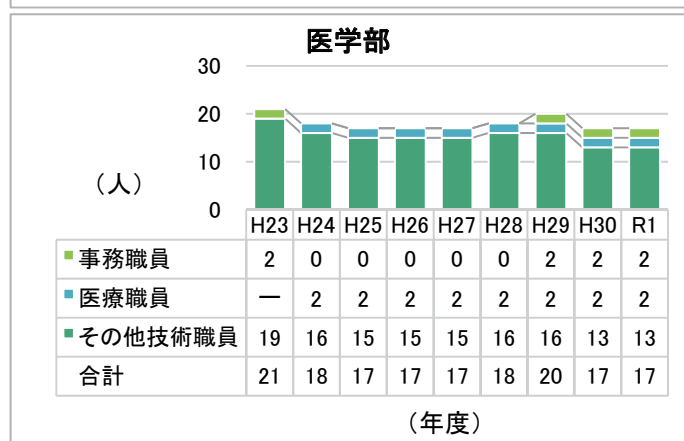
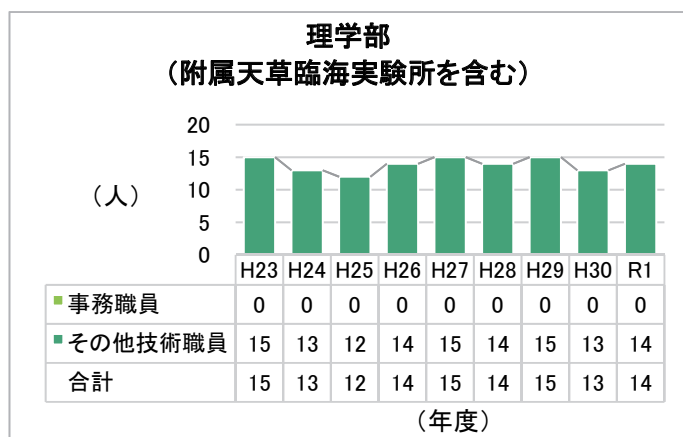
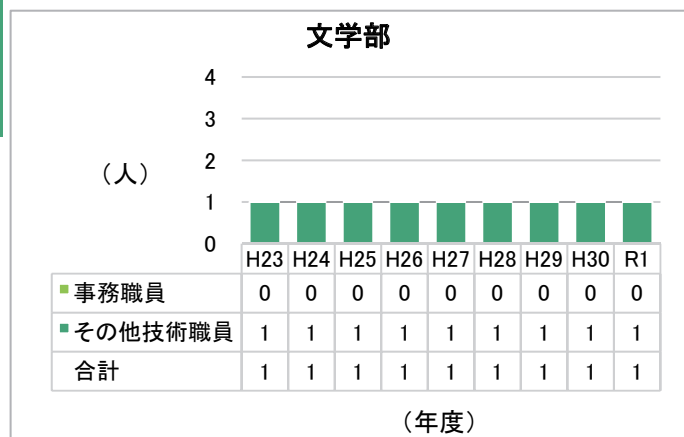
※出典：文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆



※出典：文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職務別職員数」

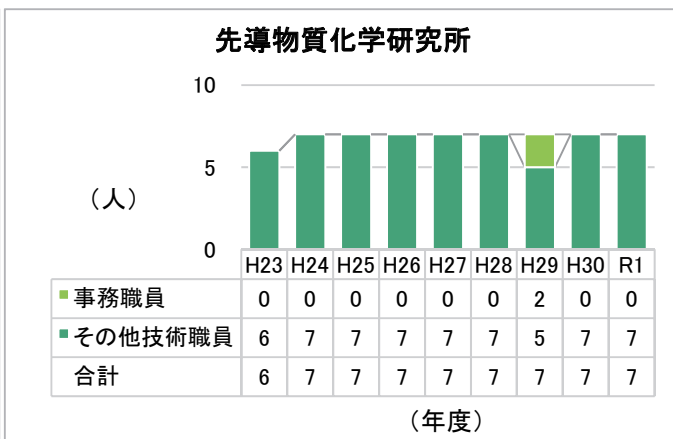
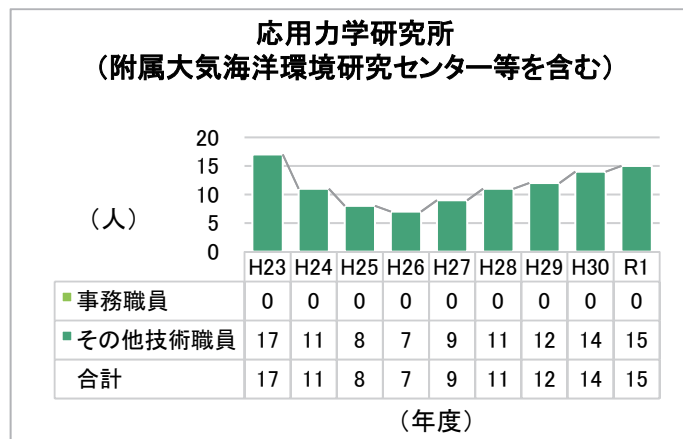
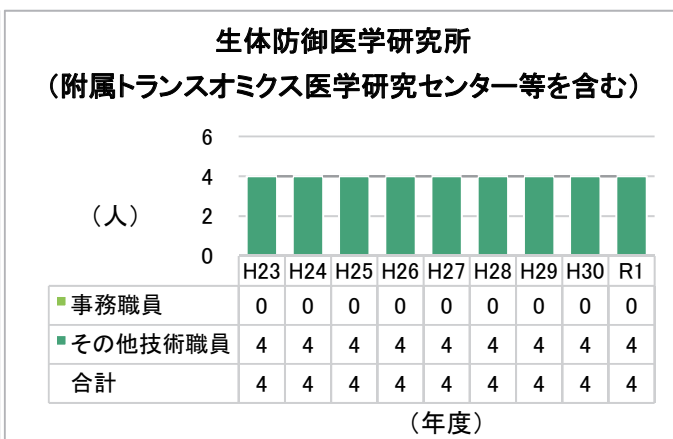
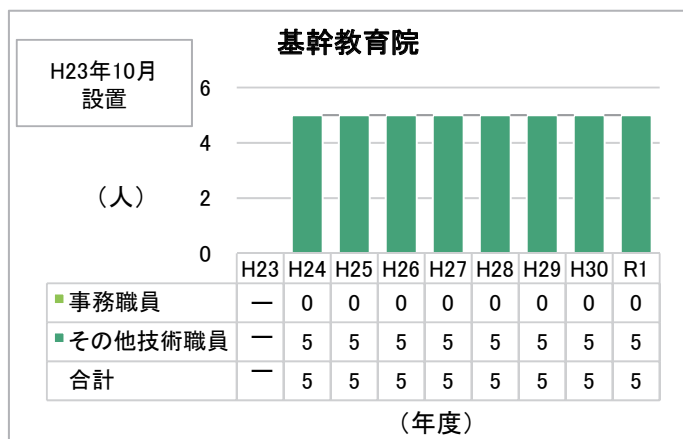
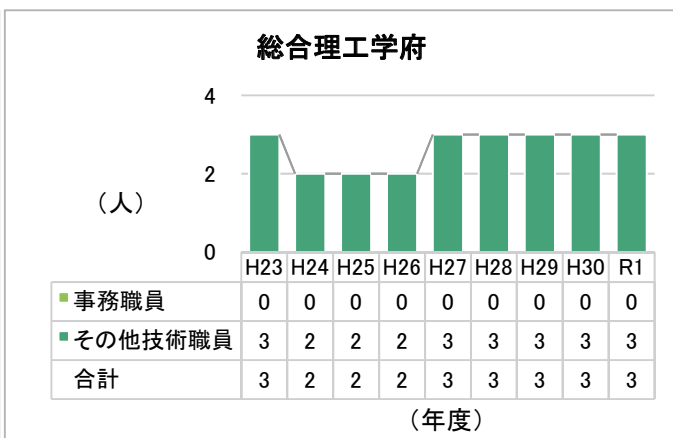
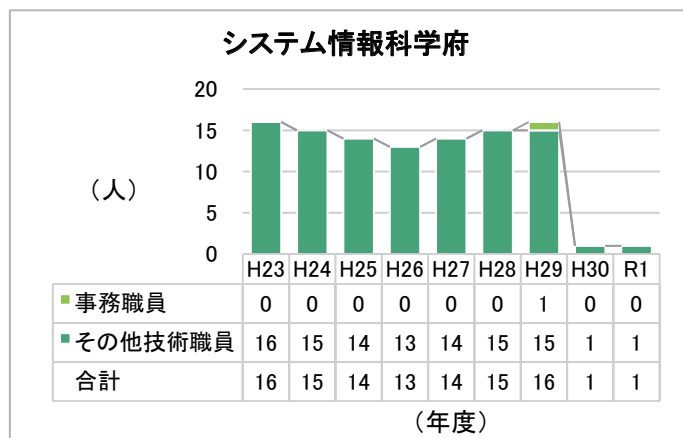
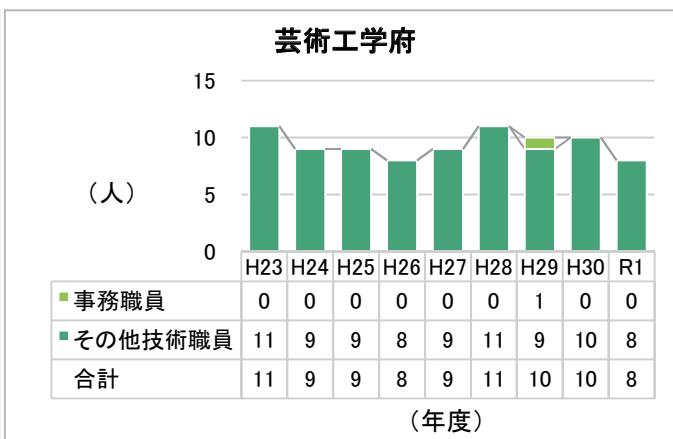
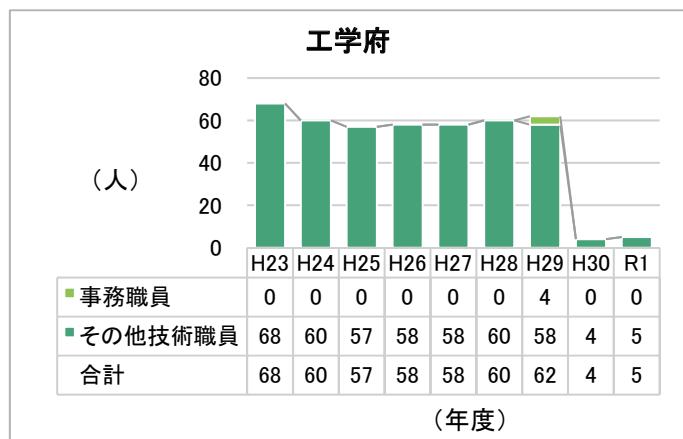
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)



・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・医療職員はH24年度から別枠でカウント開始したため、H23年度は値なし。
 ・R1年度は、本務のみ計上。・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。
 ・工学部(技術部を含む)、その他技術職員の一部は、H23～H29年度は工学府とシステム情報科学府で計上。H30年度は、工学部等事務部で計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)

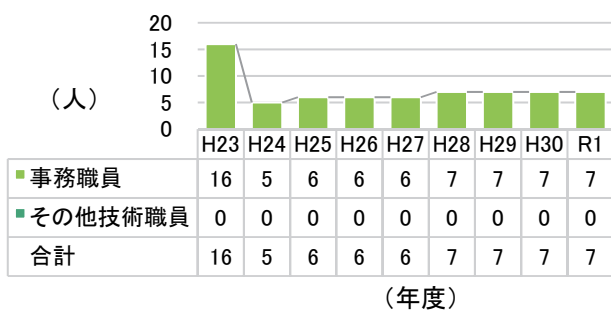


・H23年度は退職者を含む。H24年度以降は、退職者・育児休業者を含まず、退職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・R1年度は、本務のみ計上。
 ・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。
 ・工学府とシステム情報科学府、その他技術職員の一部は、H30年度は、工学部等事務部で計上。R1年度は、工学部(技術部を含む)で計上。

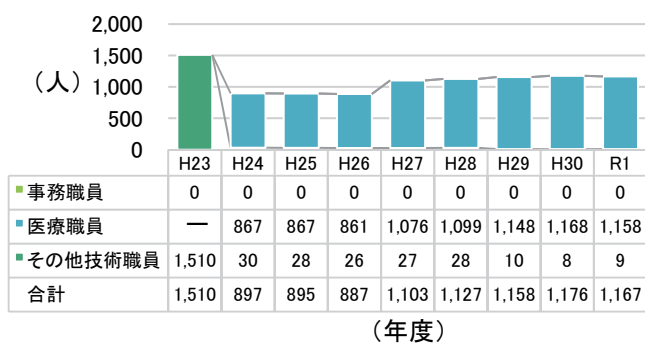
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (附属次世代冷媒物性評価研究センターを含む)



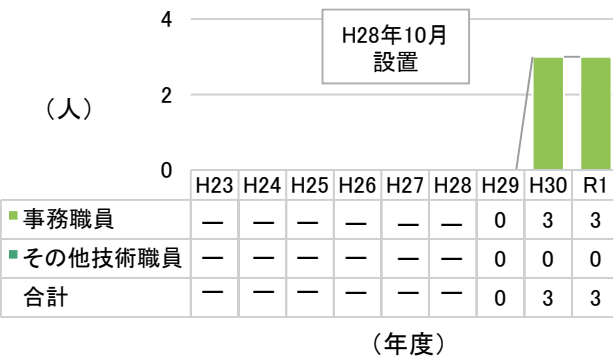
病院 (別府病院を含む)



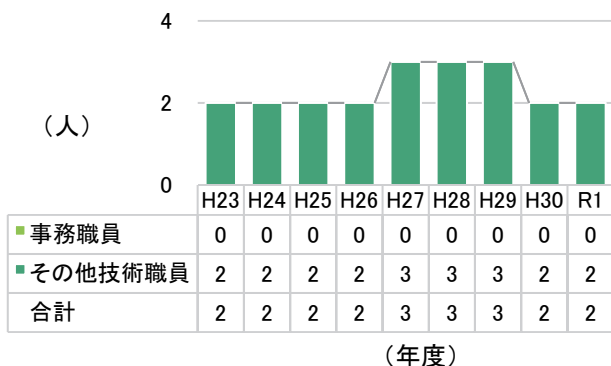
附属図書館 (付設記録資料館・付設教材開発センターを含む)



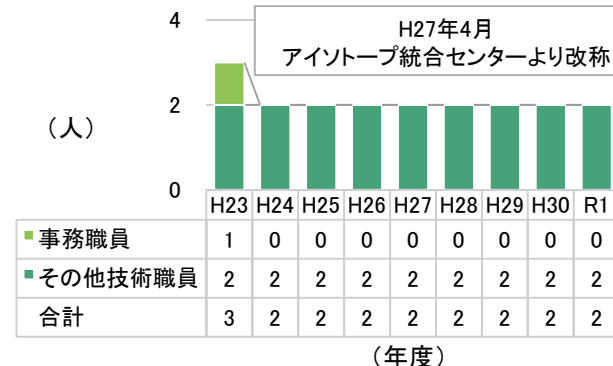
エネルギー研究教育機構



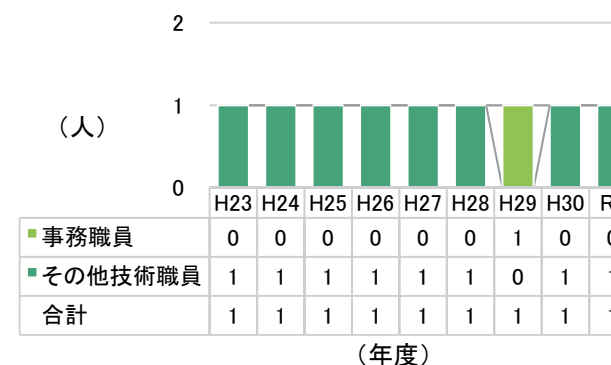
生物環境利用推進センター



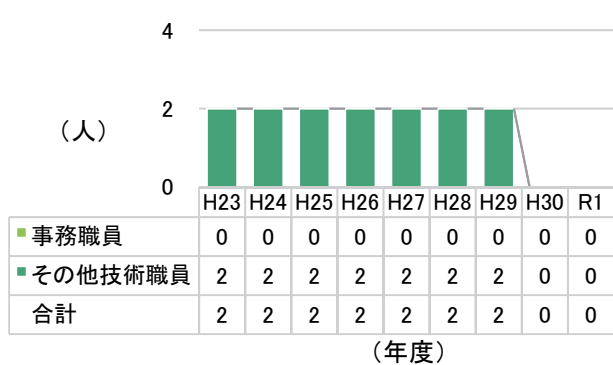
アイトープ統合安全管理センター



中央分析センター



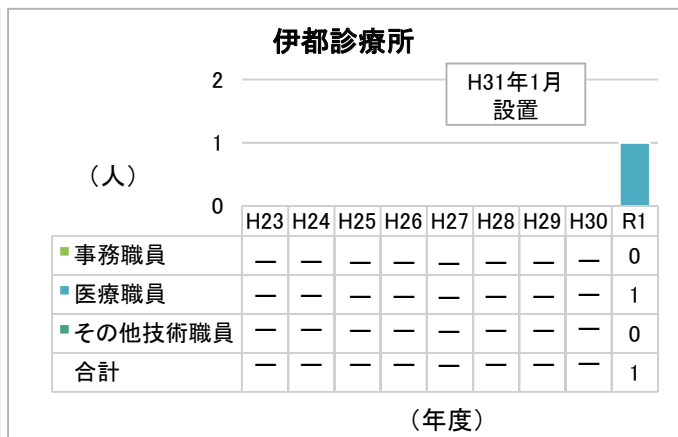
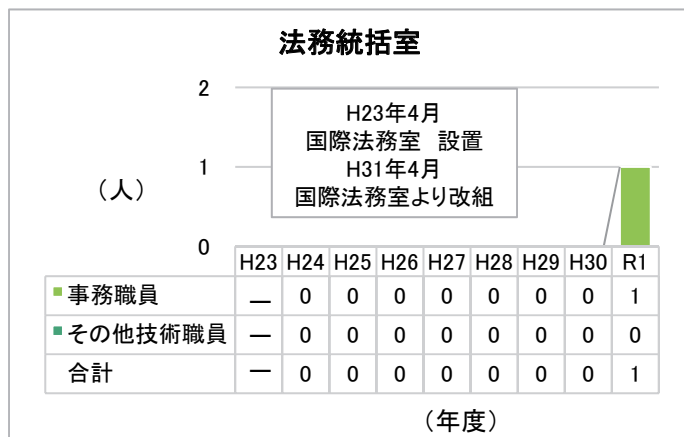
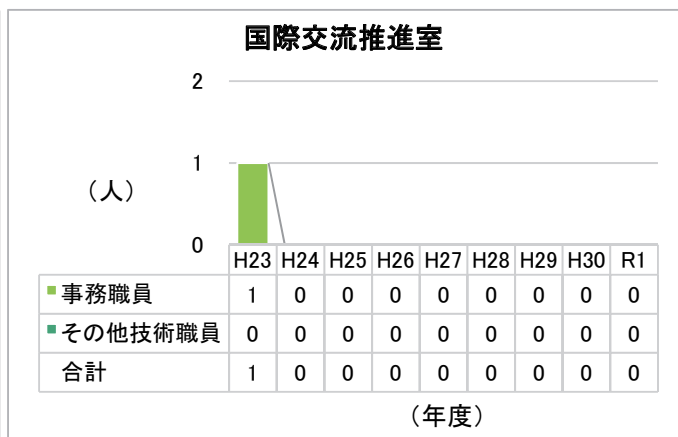
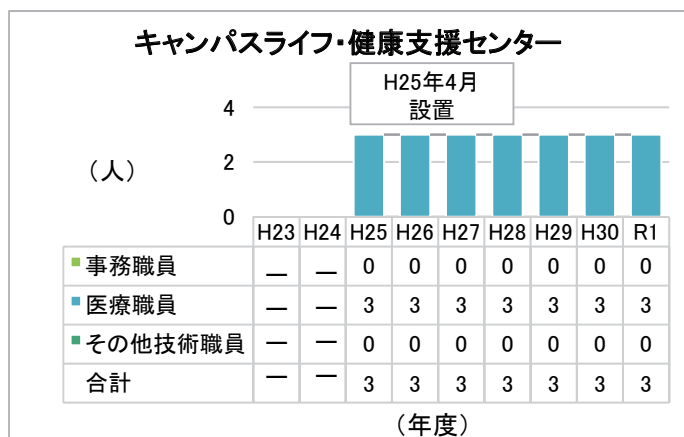
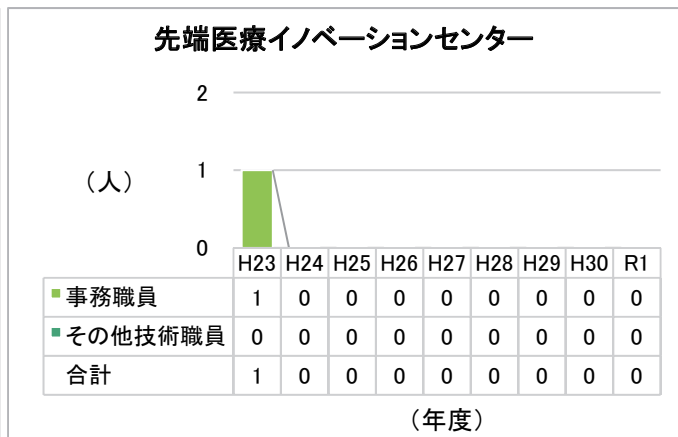
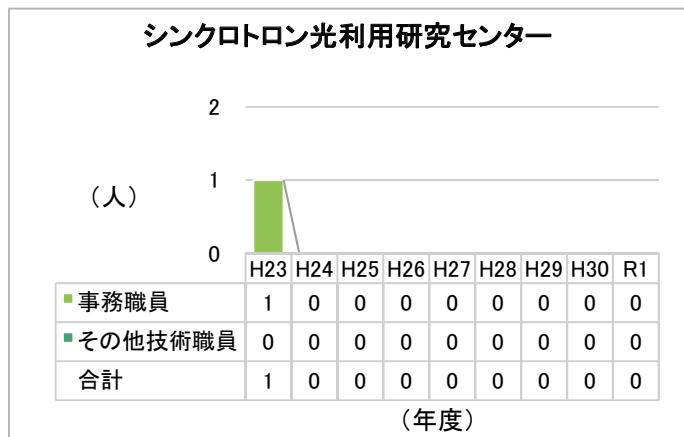
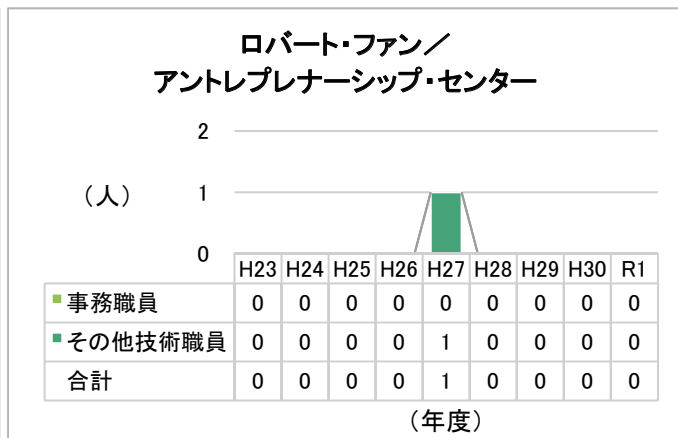
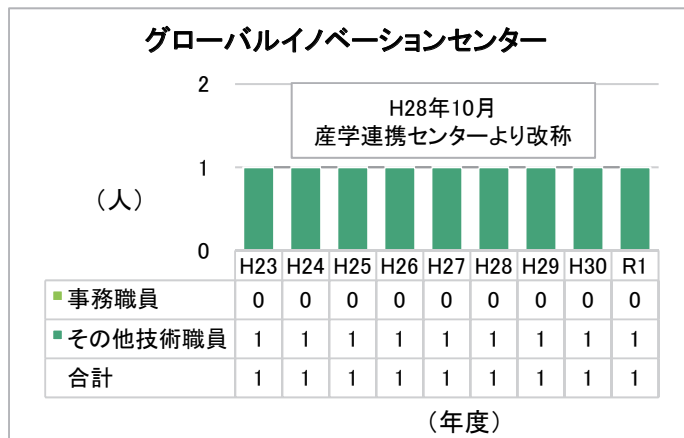
超伝導システム科学研究センター



- ・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
- ・医療職員はH24年度から別枠でカウント開始したため、H23年度は値なし。
- ・R1年度は、本務のみ計上。・R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。
- ・エネルギー研究教育機構、2018年度データ集ではエネルギー研究教育機構支援事務部門で計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

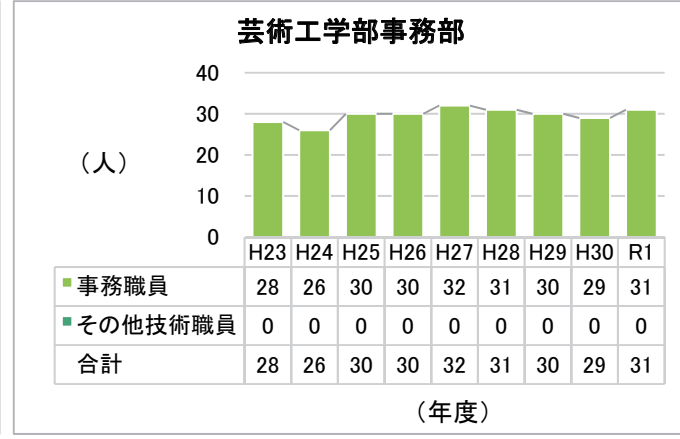
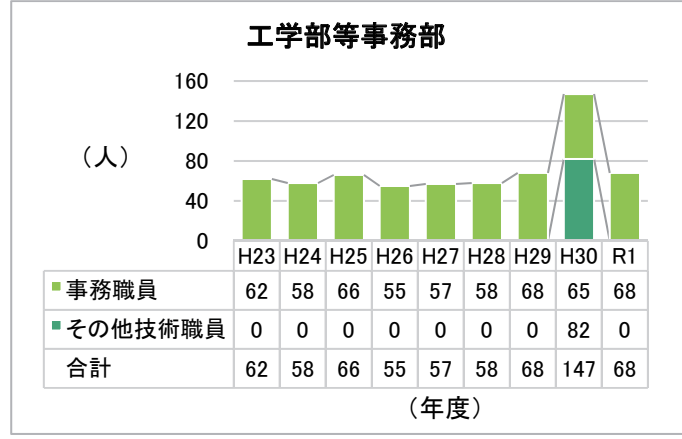
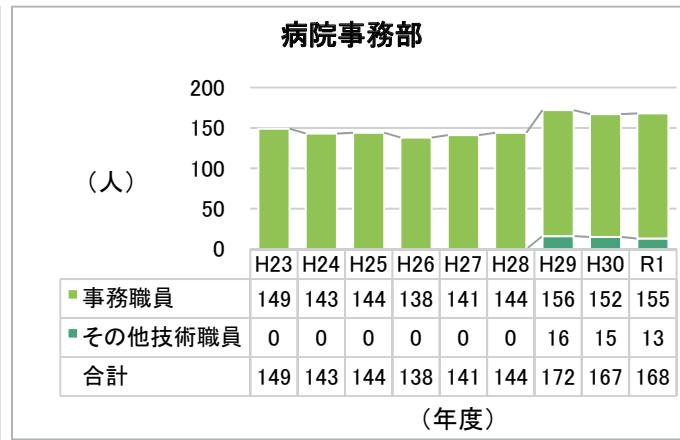
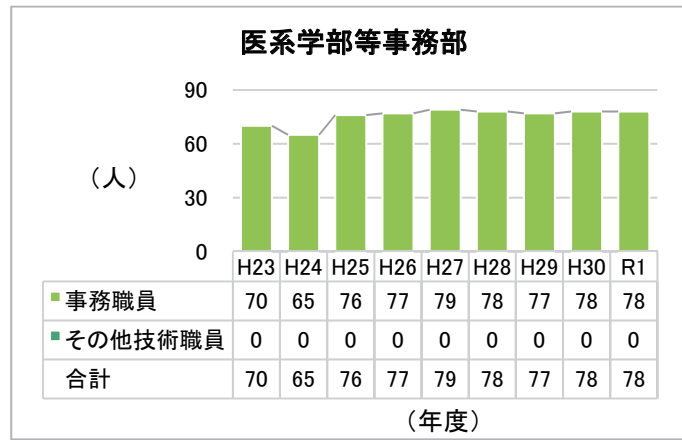
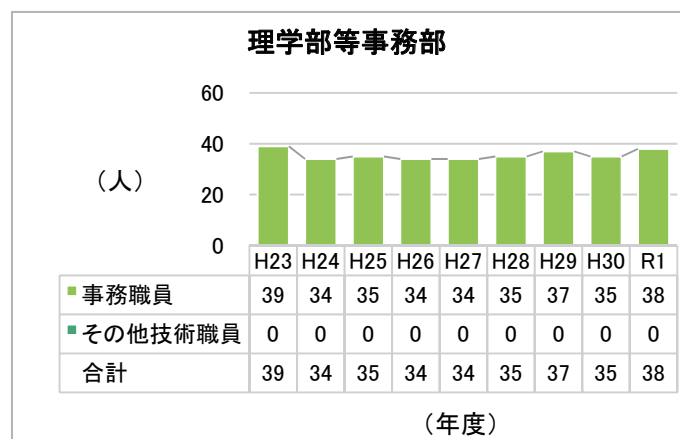
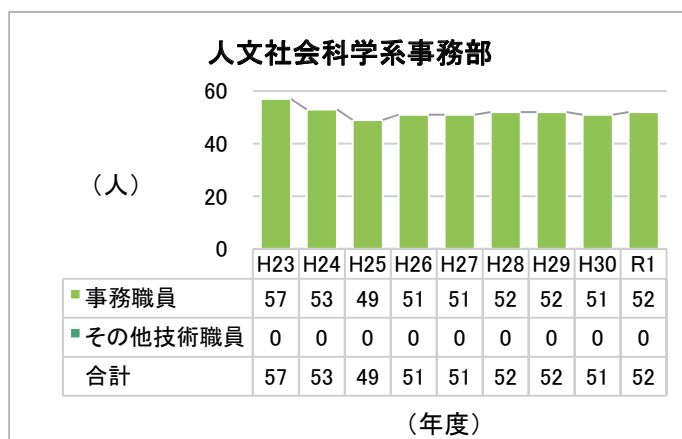
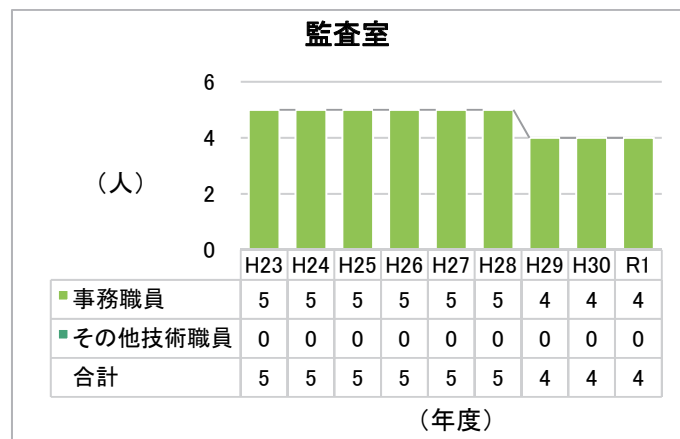
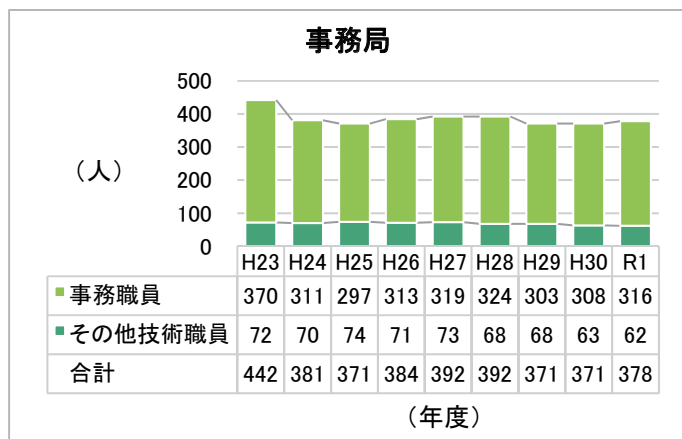
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)



・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・R1年度は、本務のみ計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

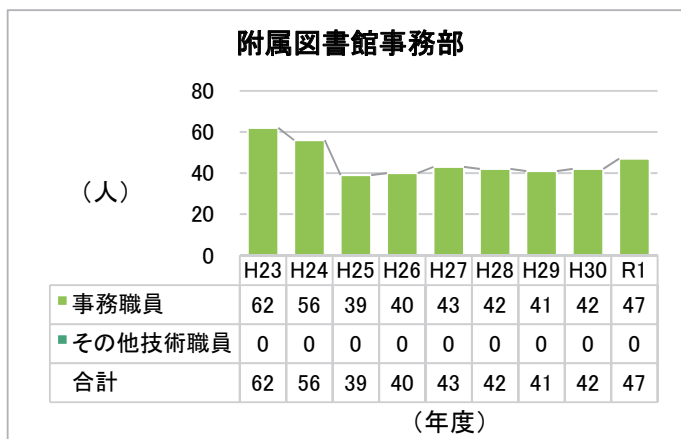
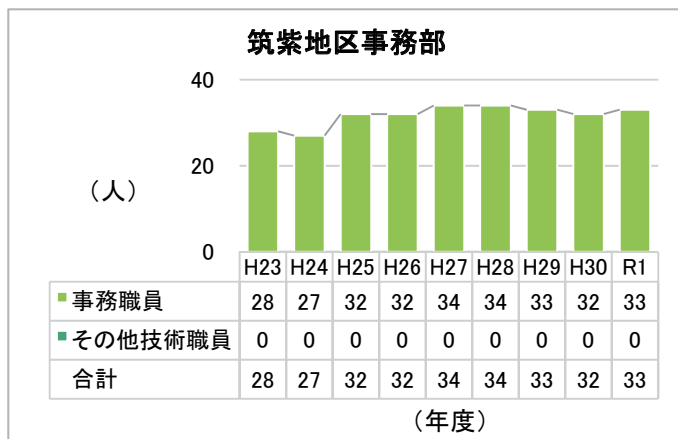
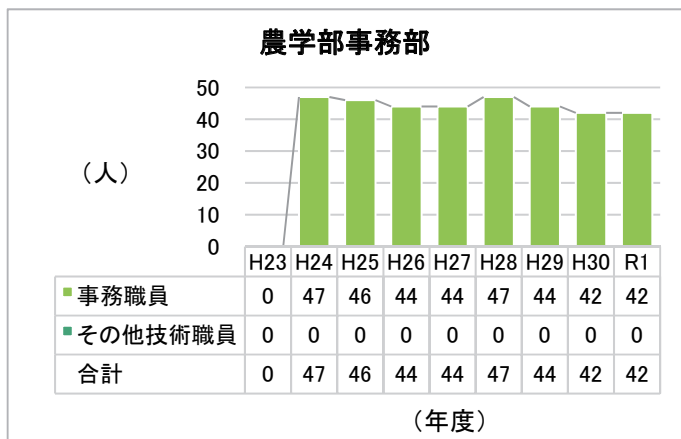
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)



・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・R1年度は、本務のみ計上。
 ・人文社会科学系事務部、2018年度データ集までは貝塚地区事務部で計上。
 ・工学部等事務部、その他技術職員の一部は、H23～H29年度は工学部とシステム情報科学府で計上。 R1年度は、工学部(技術部を含む)で計上。

※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

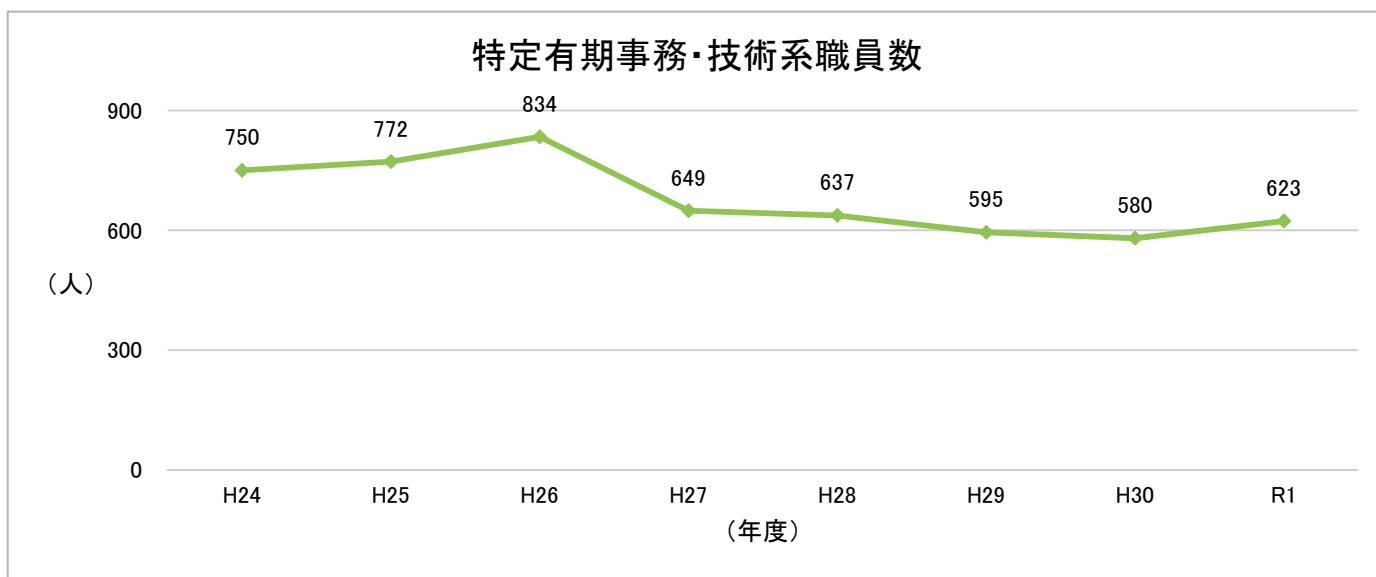
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)(つづき)



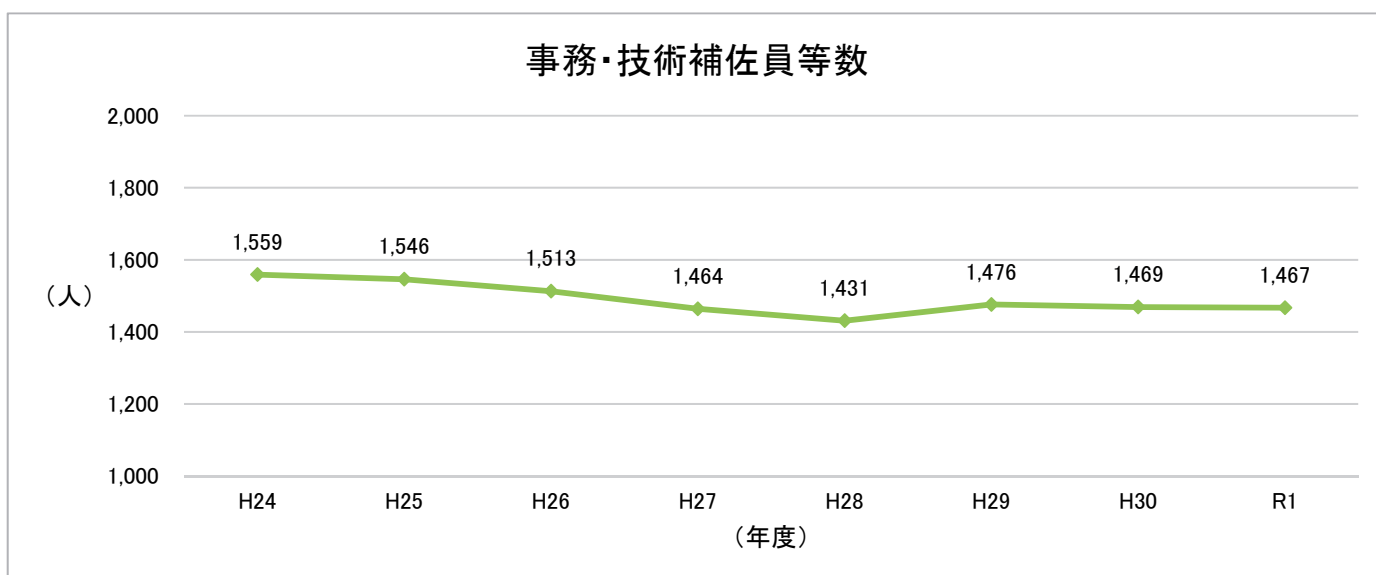
・H23年度は休職者を含む。H24年度以降は、休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
 ・H24年度以降は、再雇用職員を含む。
 ・R1年度は、本務のみ計上。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

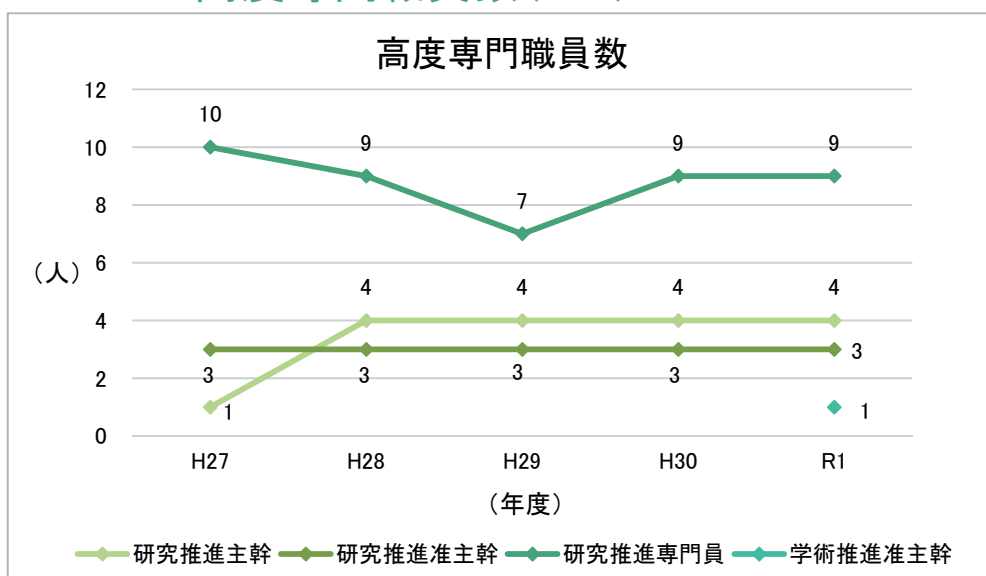
2-9. 特定有期事務・技術系職員数



2-10. 事務・技術補佐員等数



2-11. 高度専門職員数(※1)



(※1) 高度専門職員：
教員、事務職員とは異なり、教育、研究等の管理・運営等に関わる専門的知識を有する人材として、その専門性から経営・運営に直接的に関与できる職能集団。

※出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

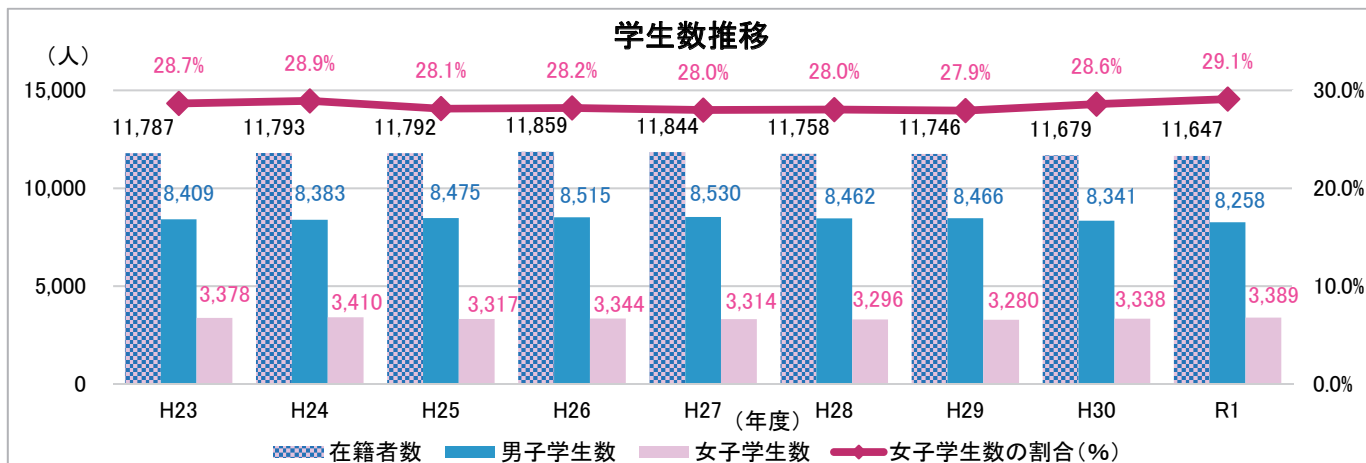
3. 学生数 (各年度5月1日現在)

3-1. 学士課程

3-1-1. 学部(全体)

全国的にみると、在籍者数の大幅な増減は見られないが、女子学生数割合が年々増加傾向にある。本学では全国と比較すると女子学生数の割合が大きく下回っている。

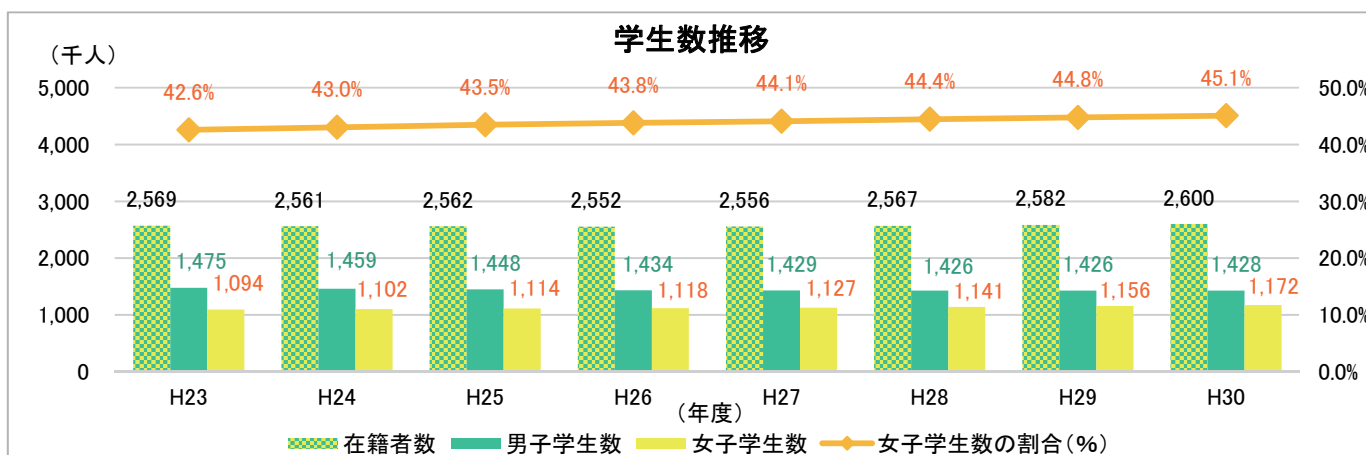
◆九州大学◆



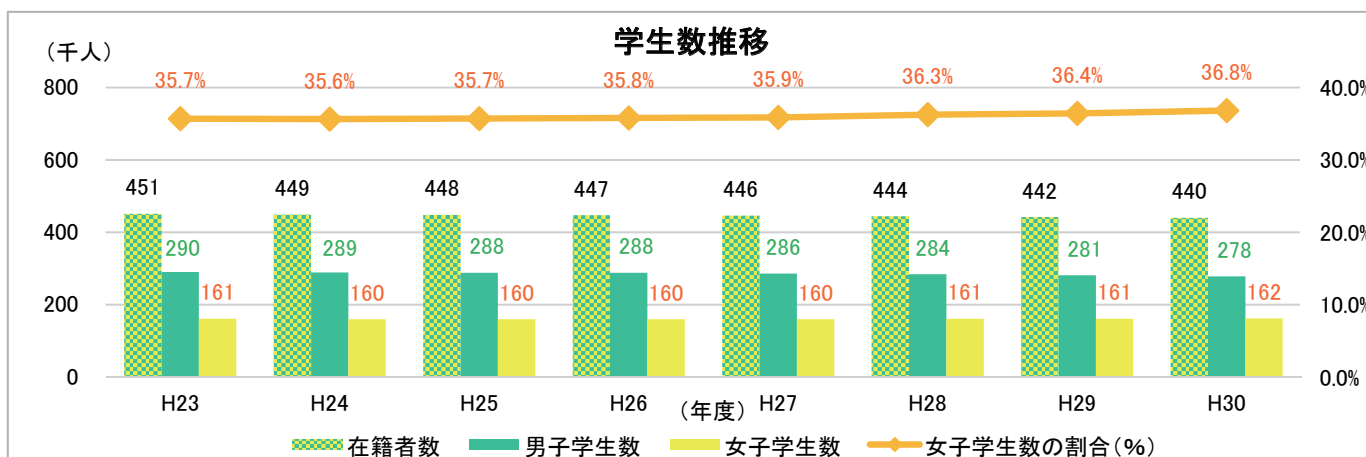
・学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

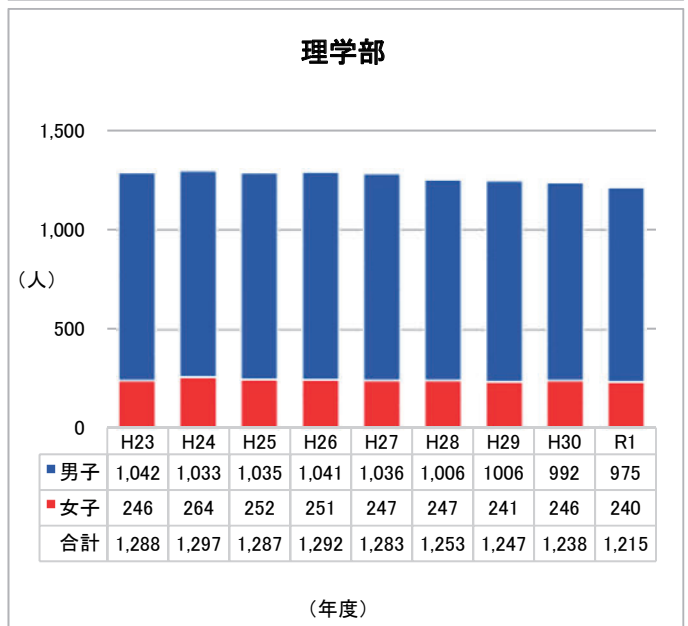
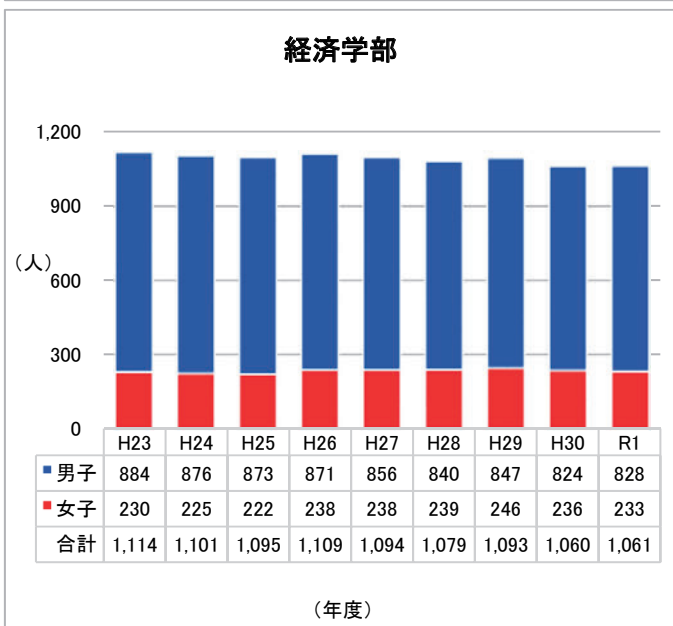
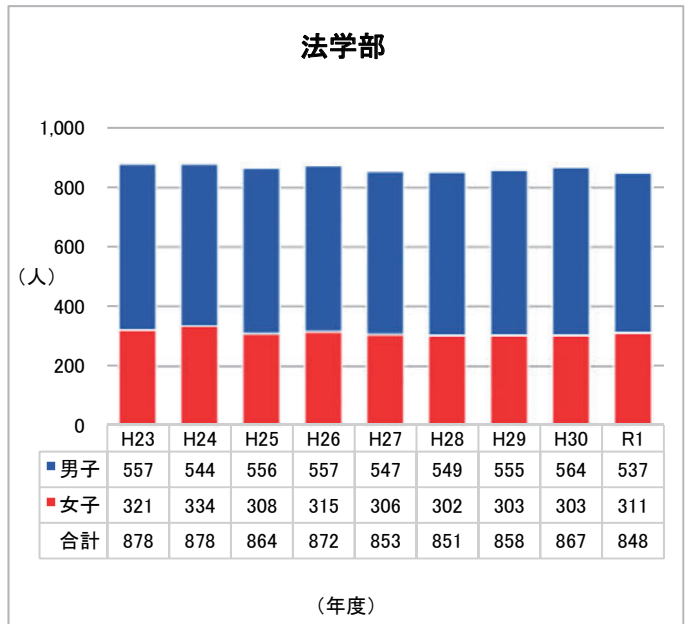
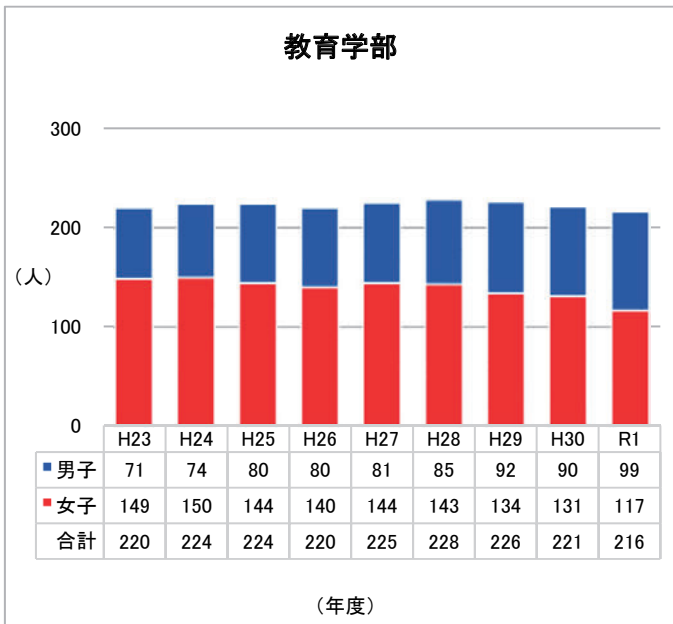
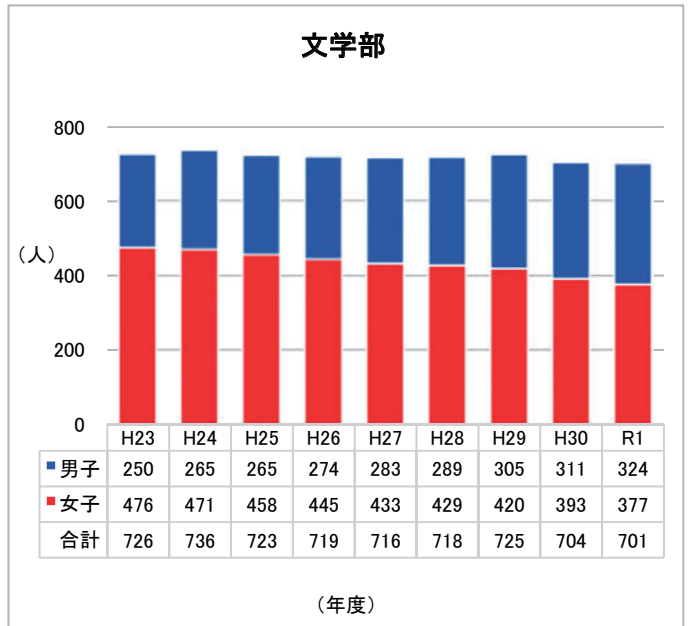
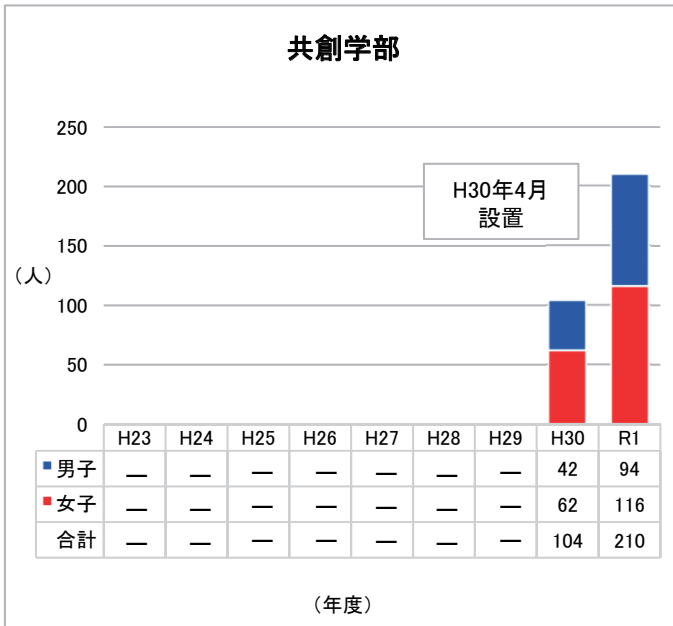


◆全国 国立大学◆



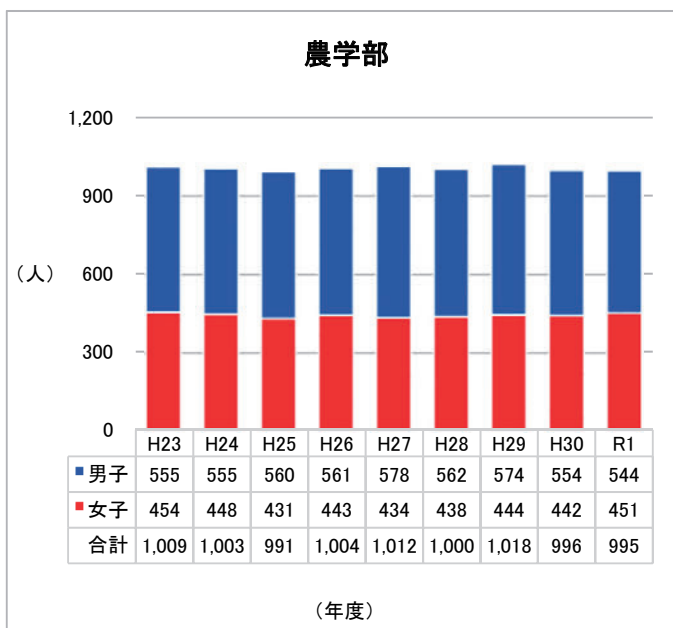
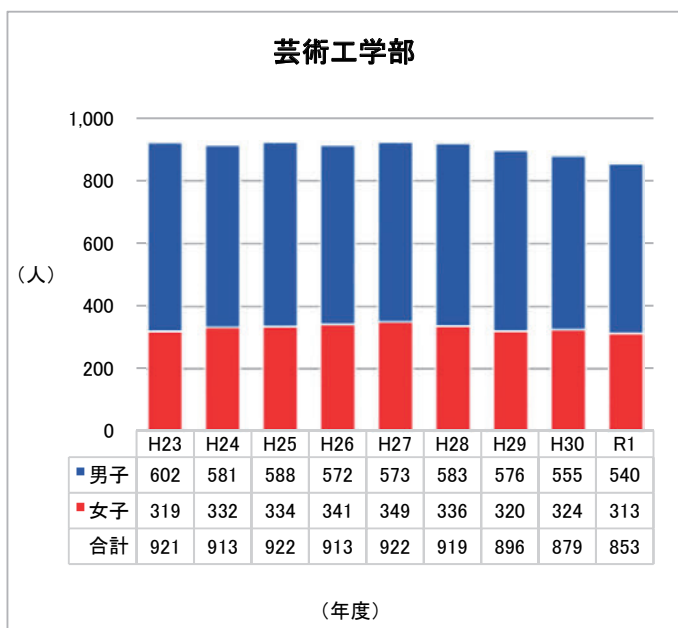
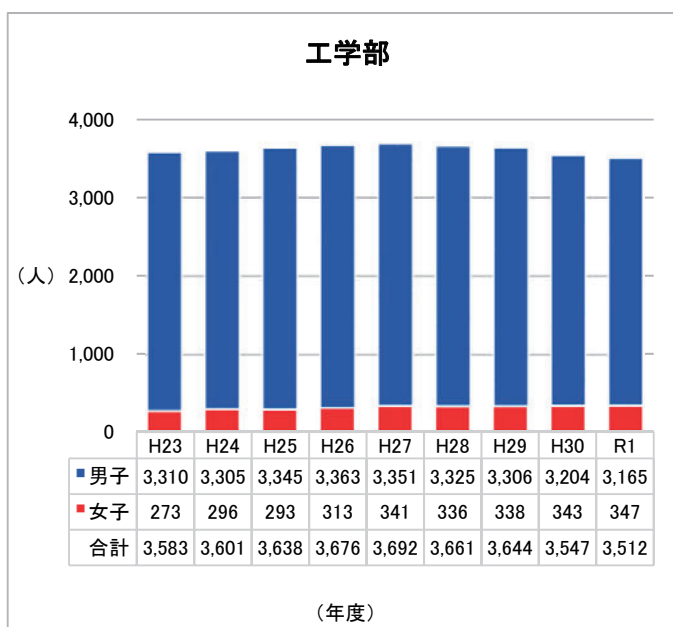
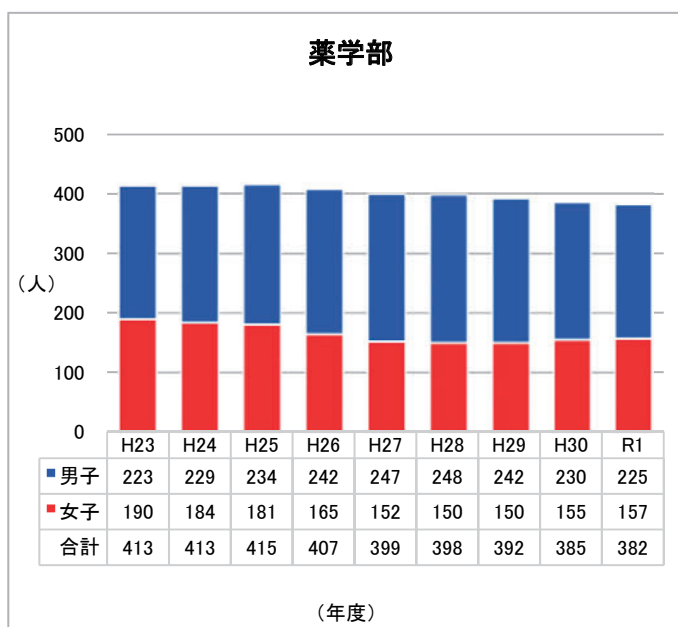
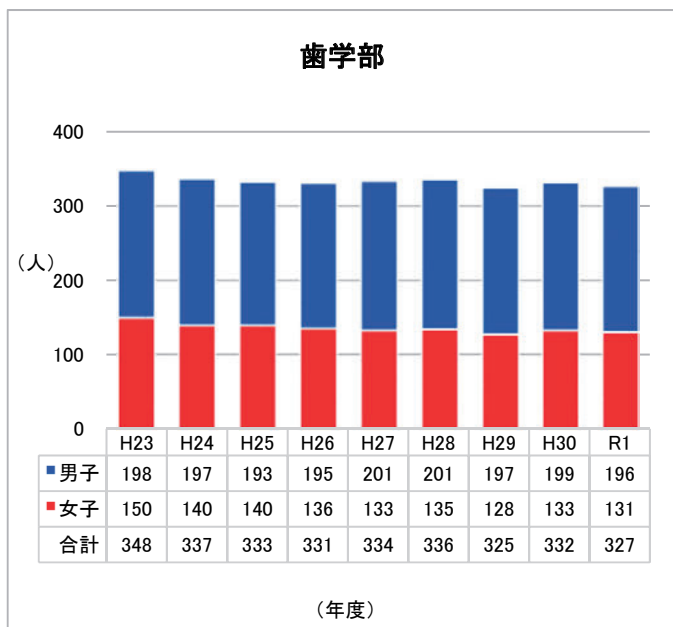
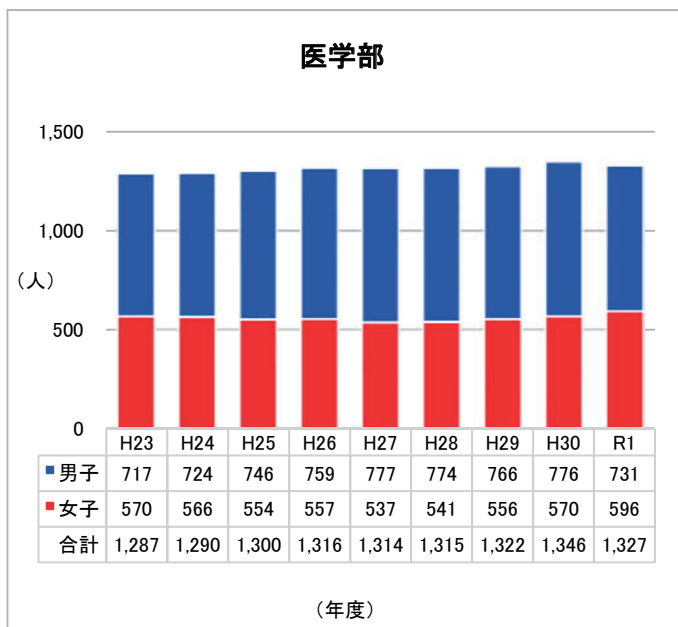
※出典:文部科学省 文部科学統計要覧

3-1-2. 学部(学部別・在籍学生数)



※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-1-2. 学部(学部別・在籍学生数)(つづき)



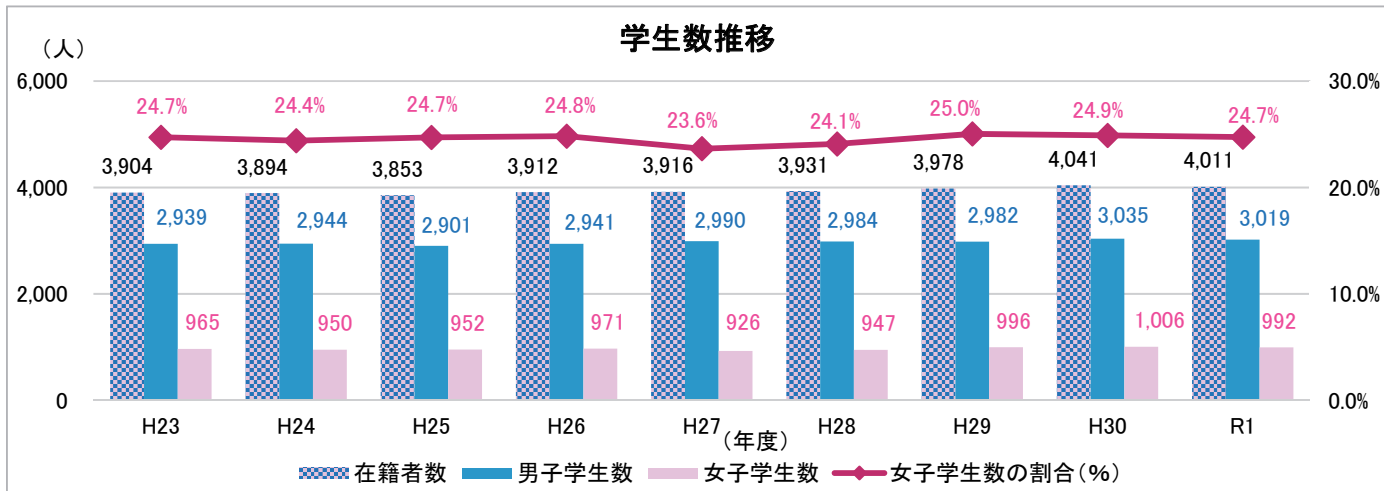
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-2. 修士課程

3-2-1. 修士課程(全体)

全国では、在籍者数は長期的に減少傾向にあるが、直近3年は微増である。女子学生の割合は年々増加傾向にある。本学では、在籍者数が増加傾向にあるが、女子学生数の割合は横ばいである。

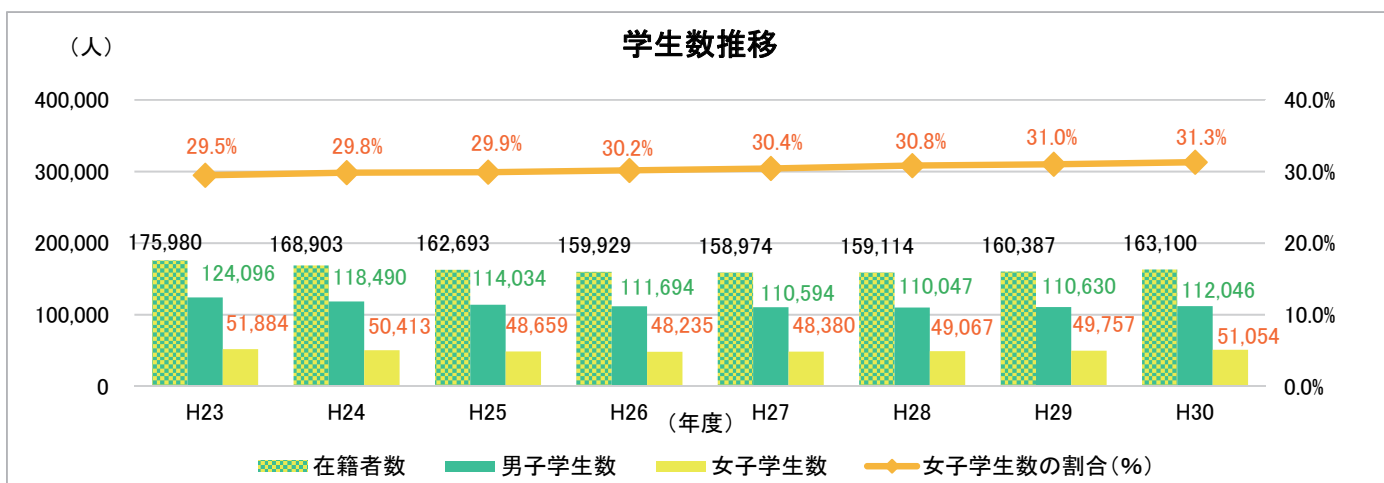
◆九州大学◆



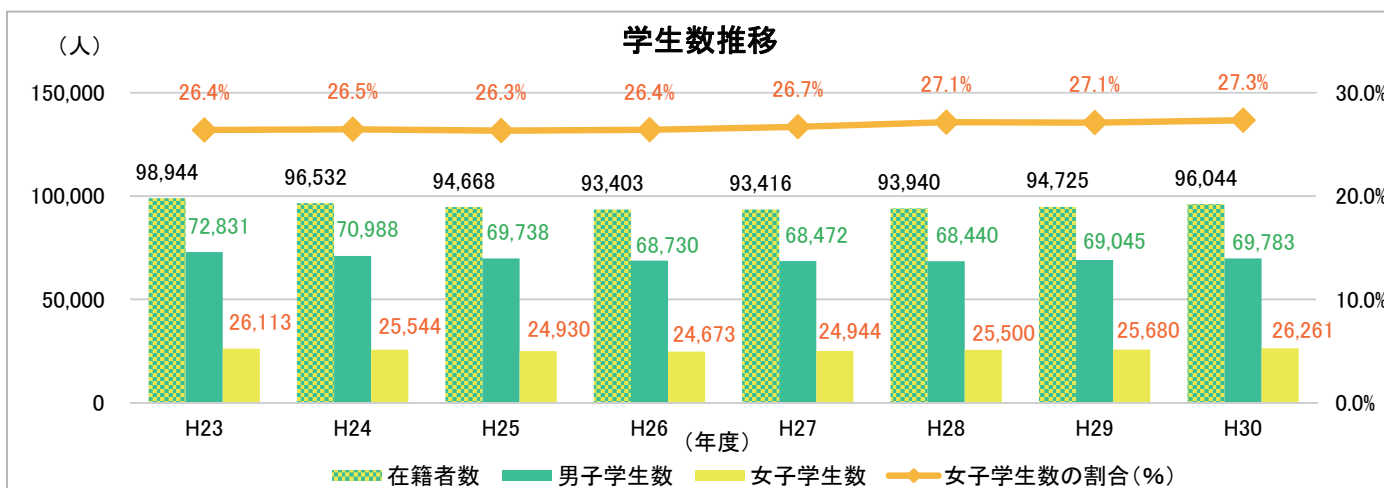
・学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

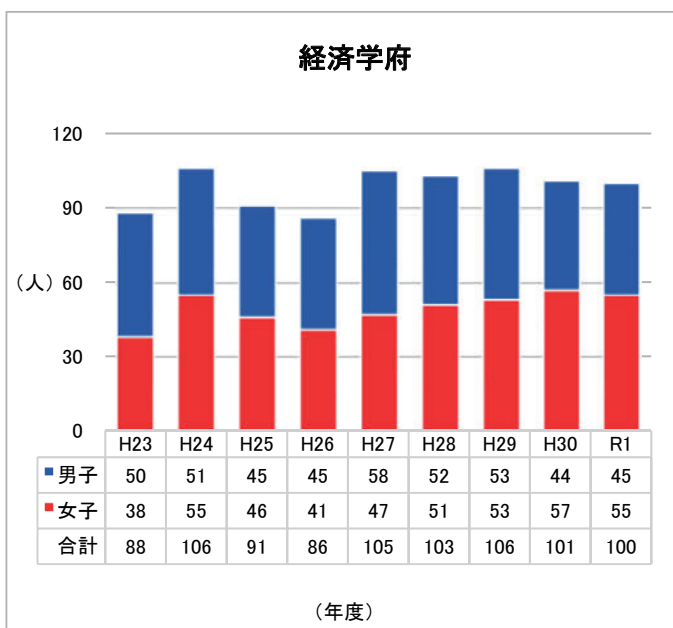
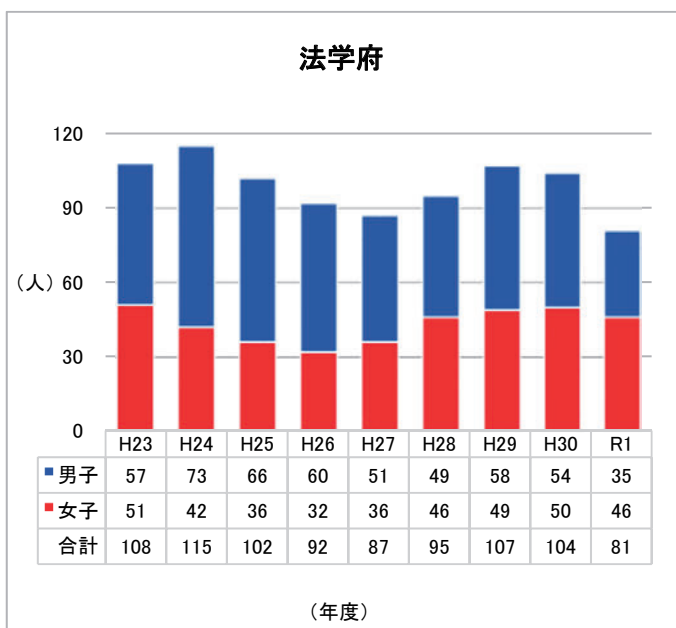
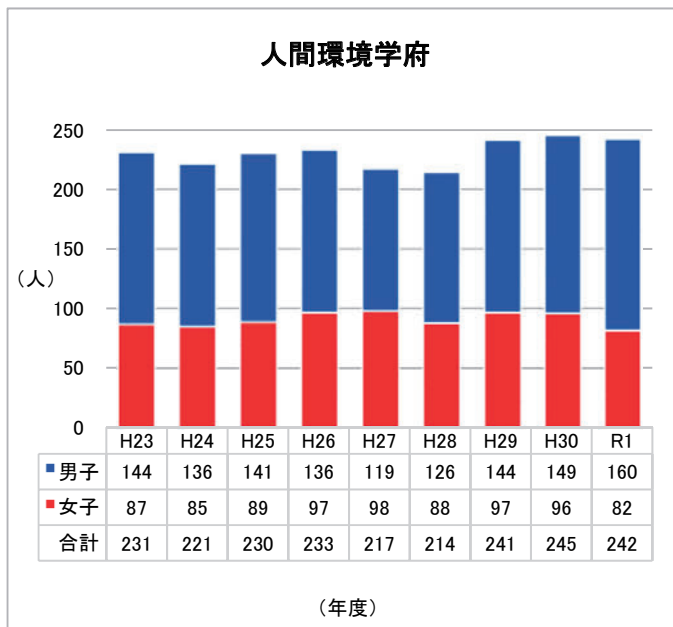
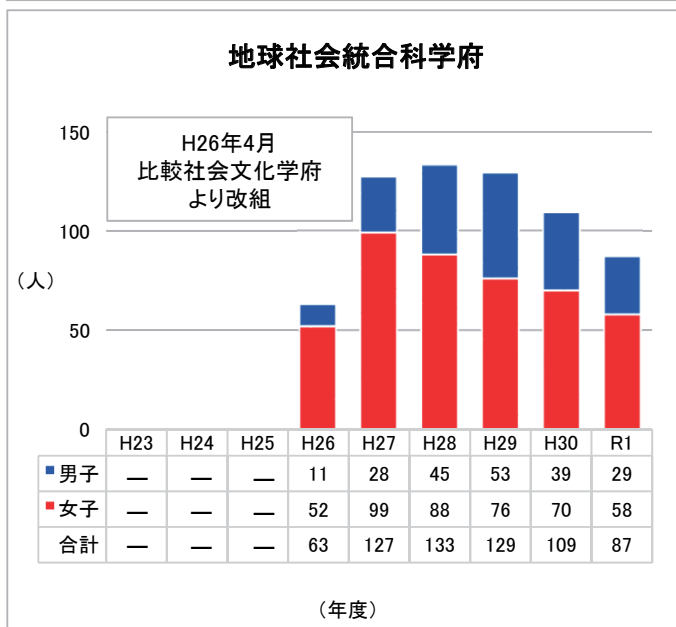
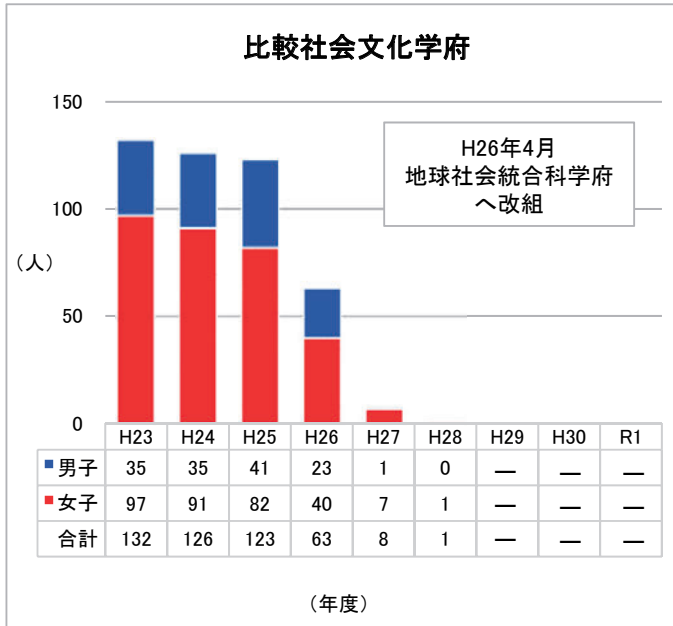
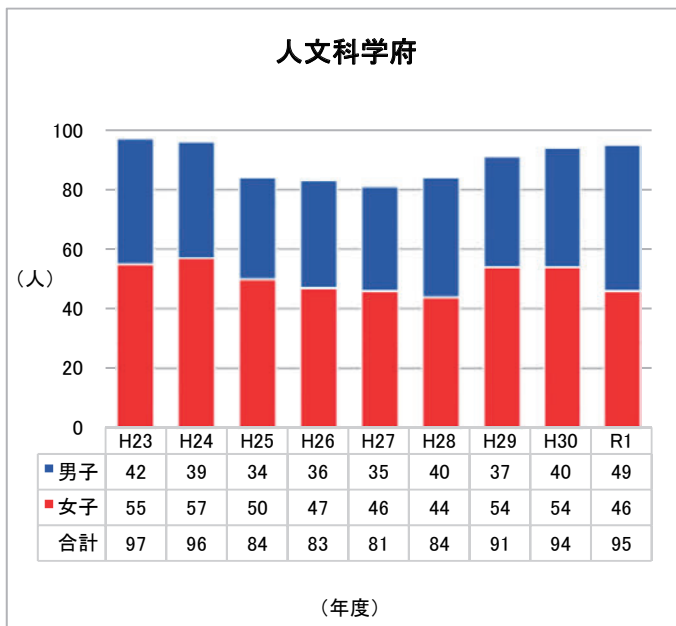


◆全国 国立大学◆



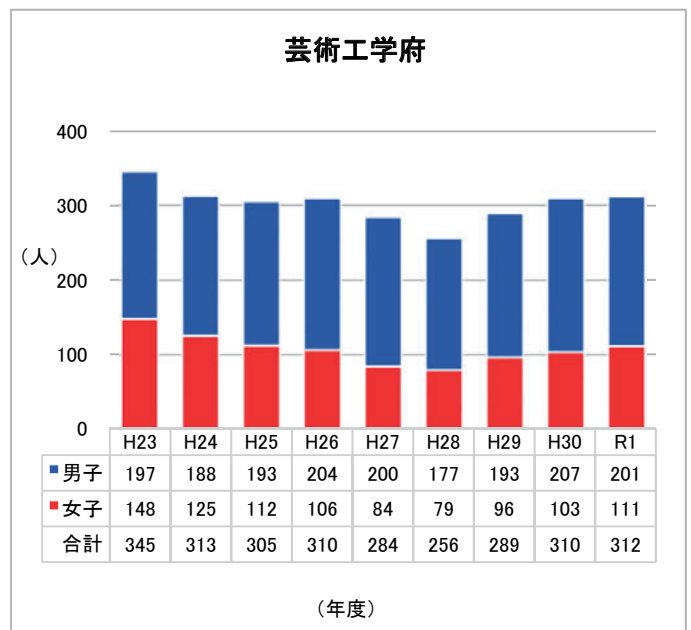
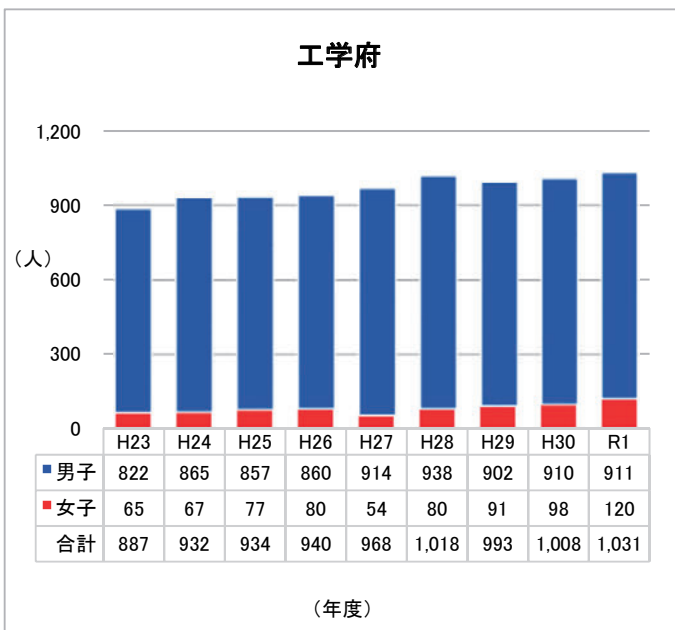
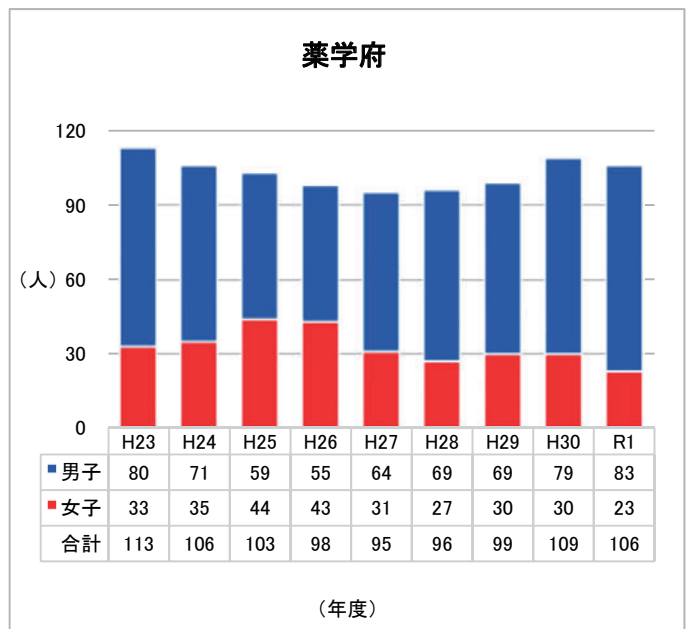
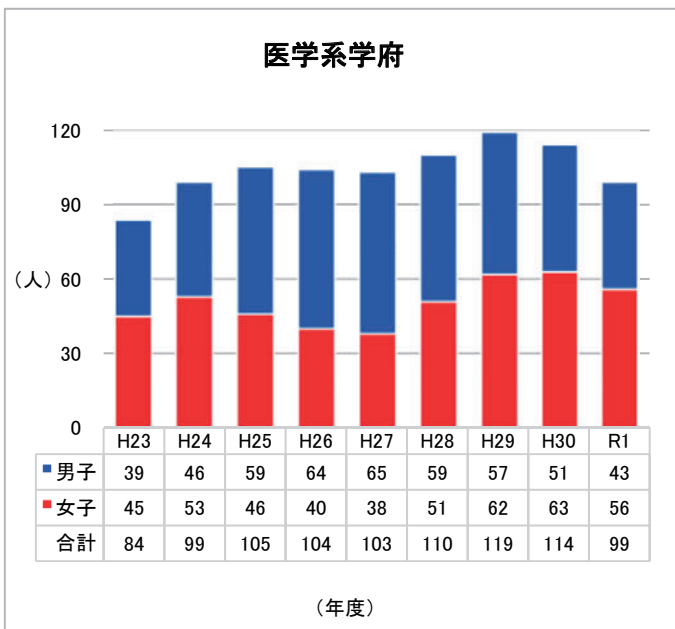
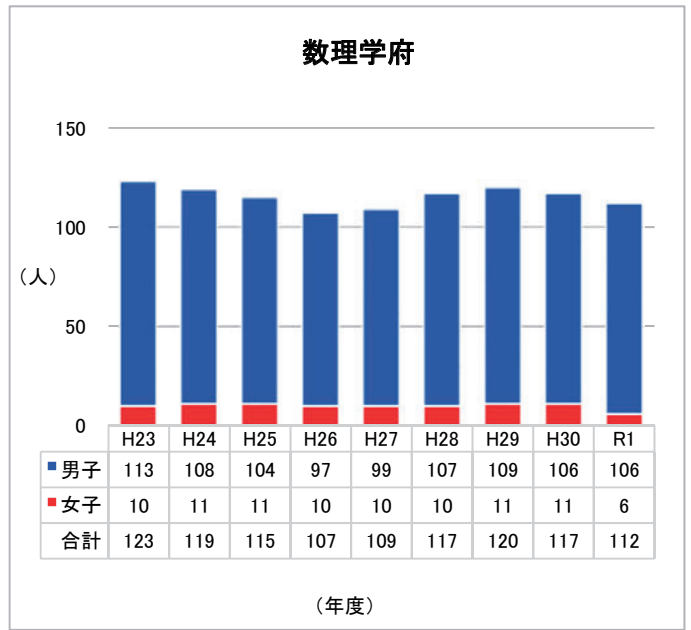
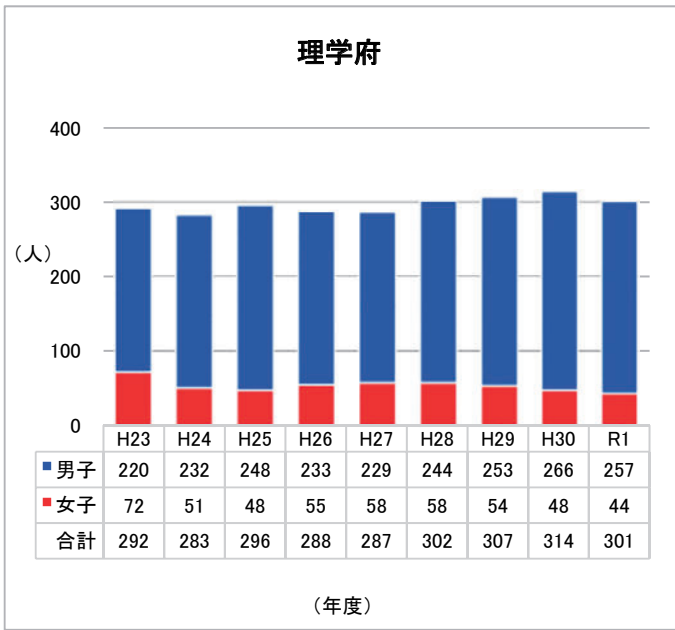
※出典：文部科学省 文部科学統計要覧

3-2-2. 修士課程(学府別・在籍学生数)



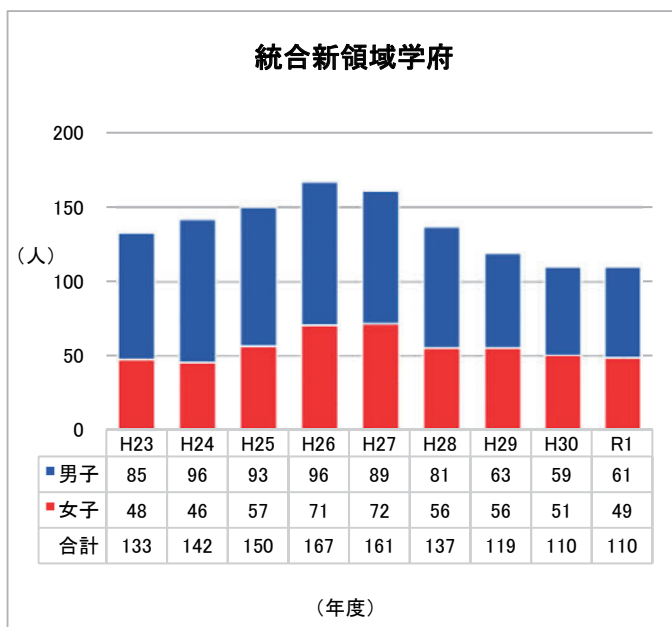
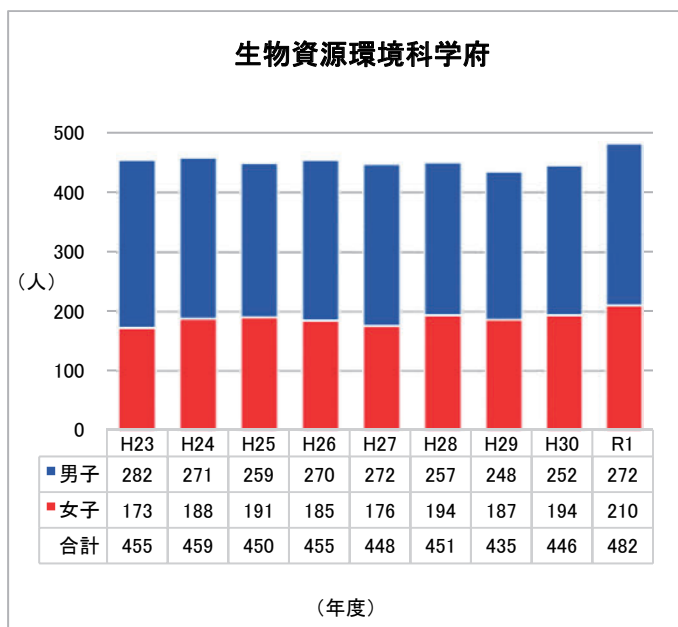
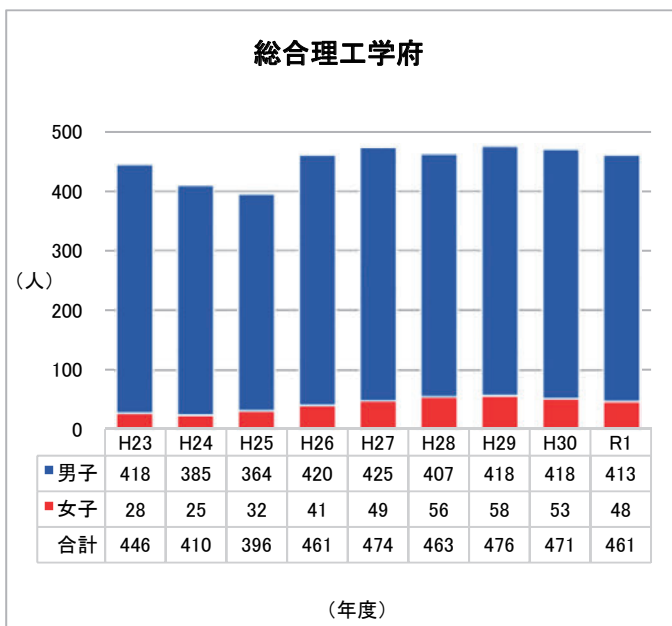
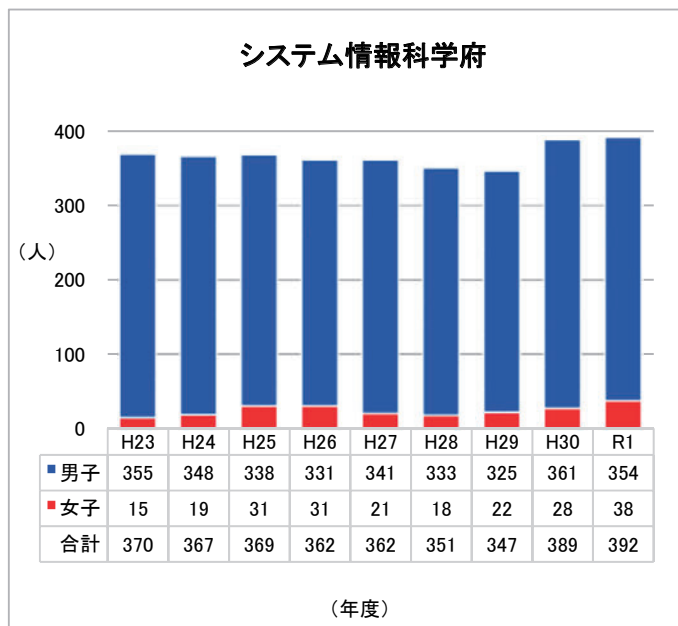
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-2-2. 修士課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-2-2. 修士課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



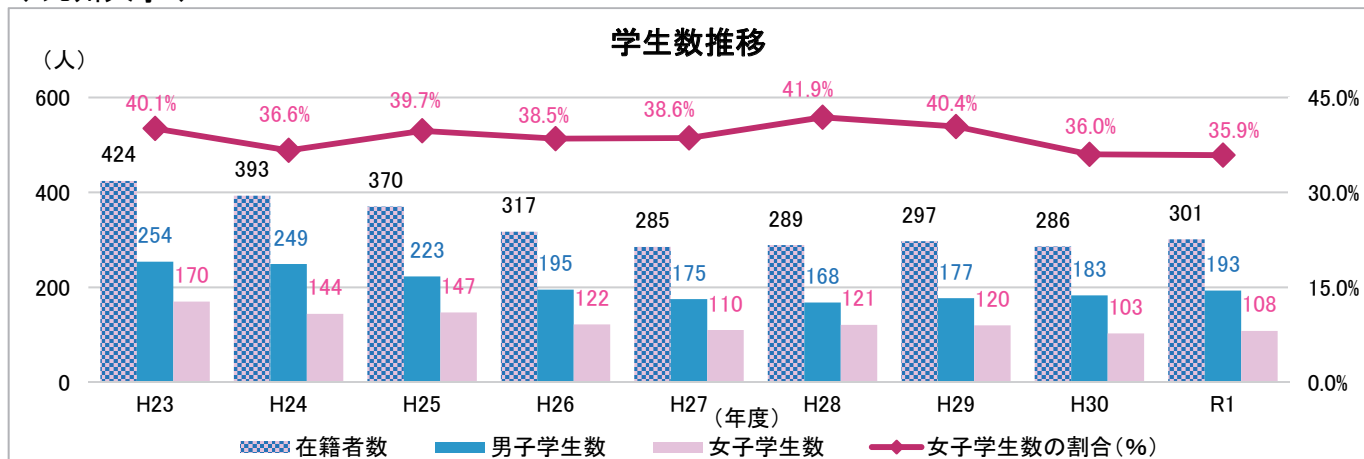
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-3. 専門職学位課程

3-3-1. 専門職学位課程(全体)

全国的にみると、在籍者数は減少傾向にあるが、女子学生の割合が年々増加傾向である。本学は、全国と比べて女子学生数の割合が高い。

◆九州大学◆

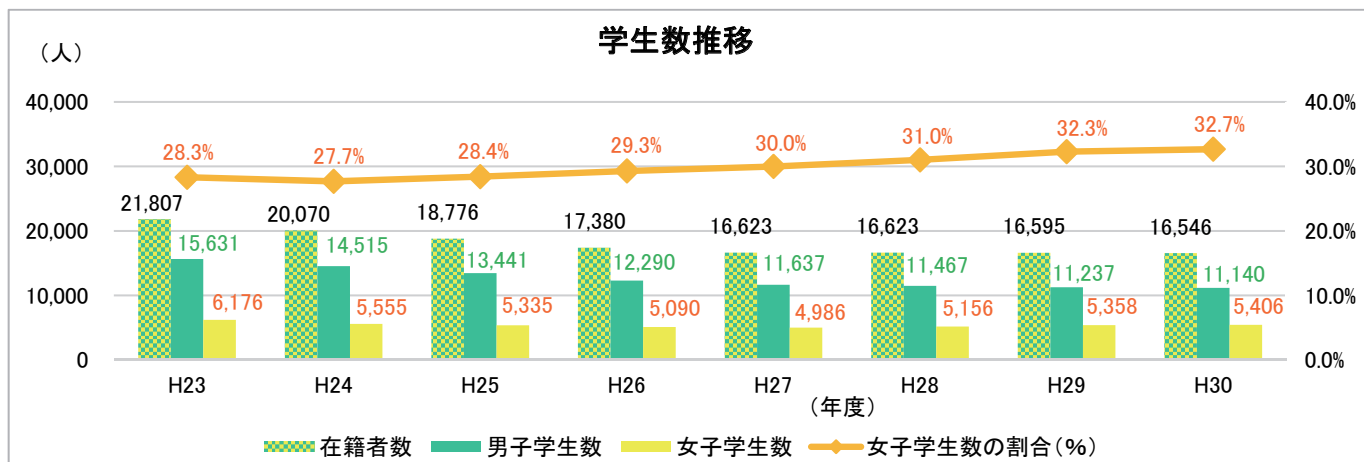


・専門職学位課程：人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】
法務学府実務法学専攻【法科大学院】
経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】
医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

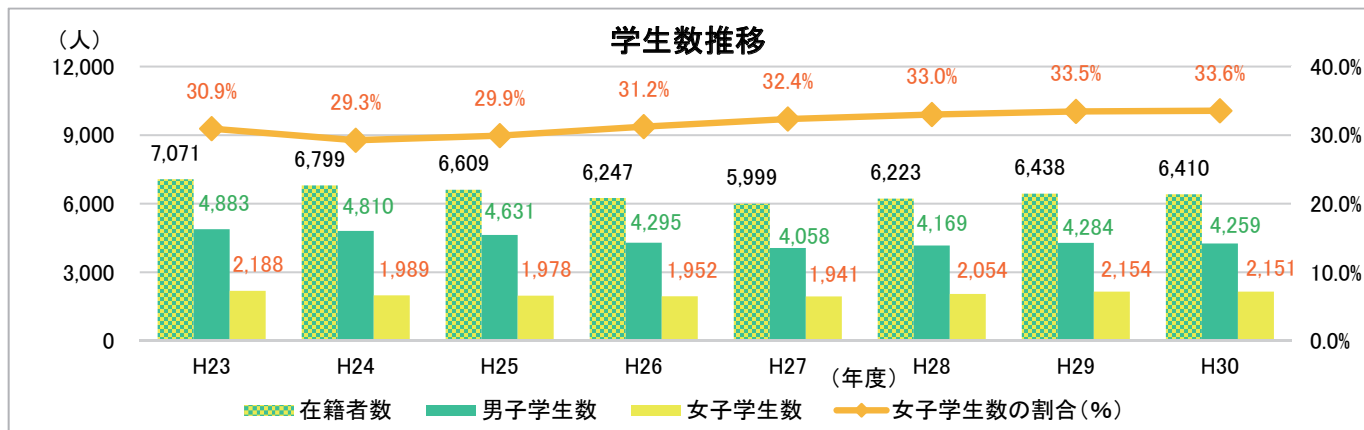
・学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

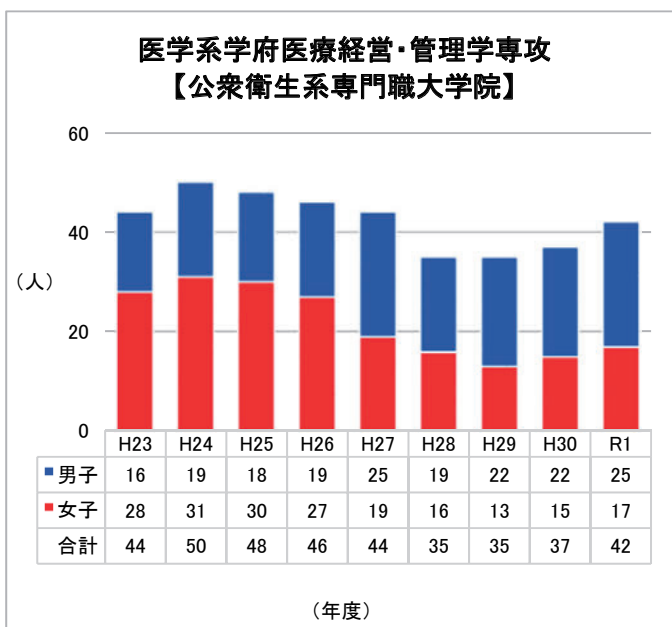
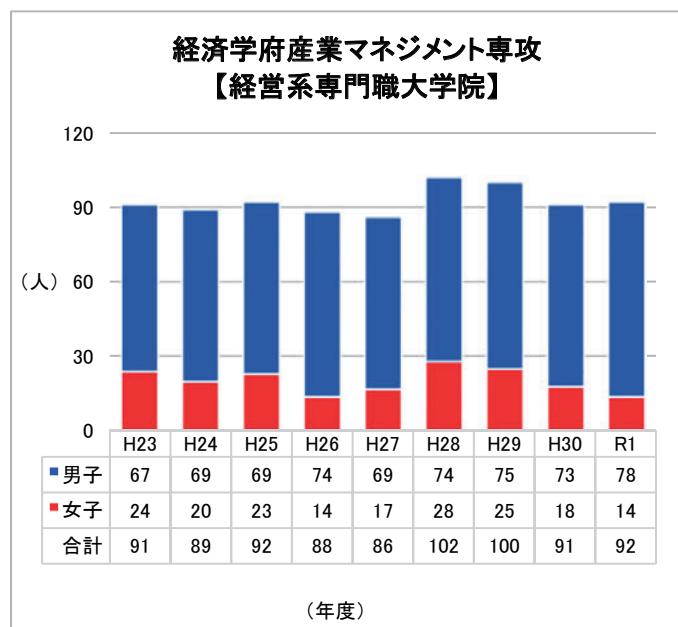
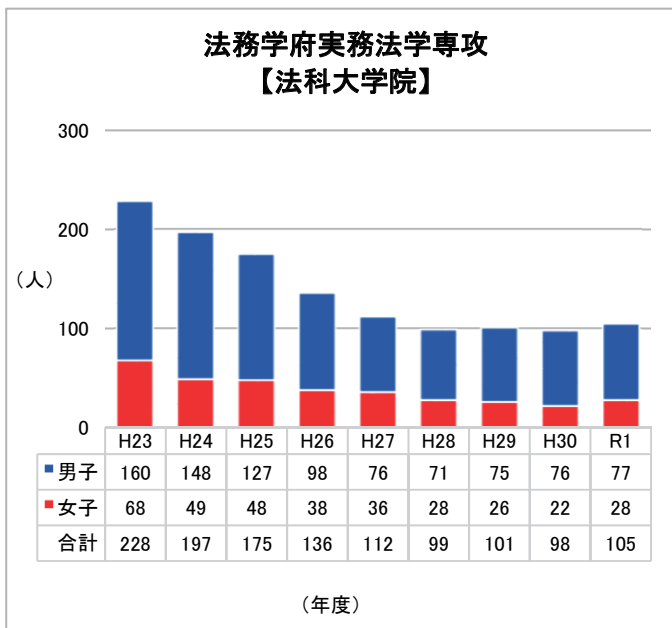
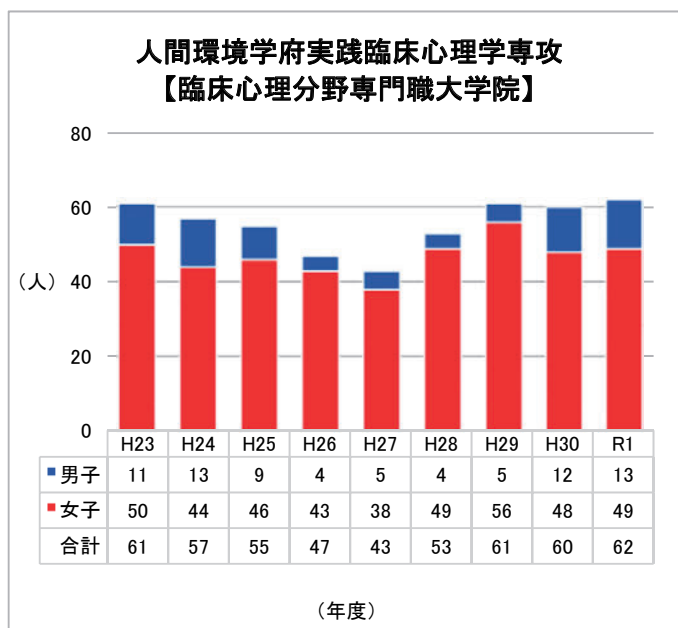


◆全国 国立大学◆



※出典：文部科学省 文部科学統計要覧

3-3-2. 専門職学位課程(学府別・在籍学生数)



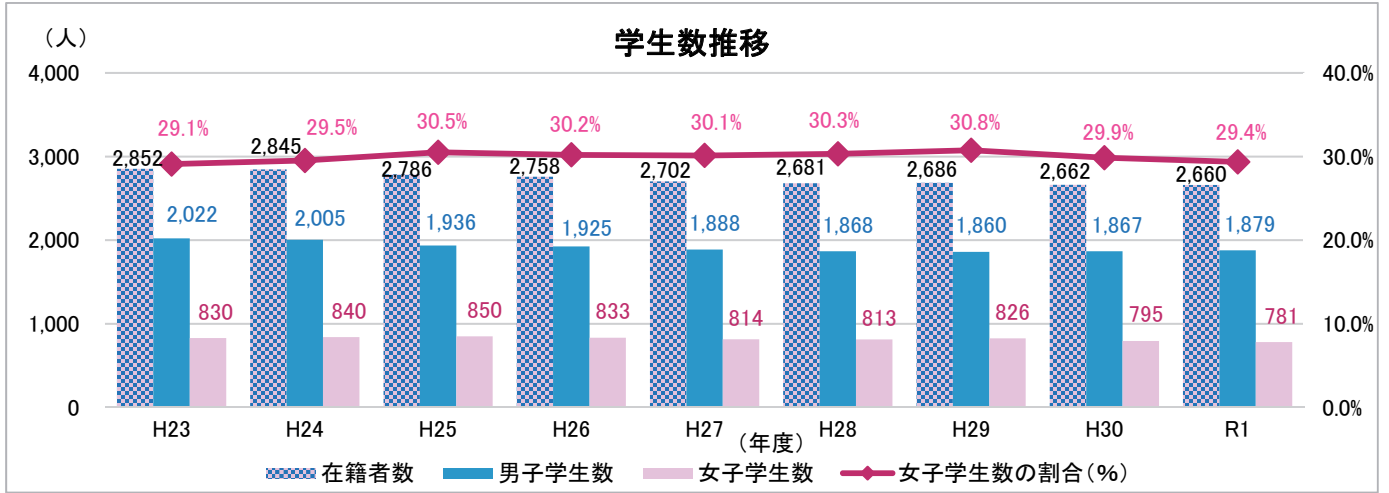
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-4. 博士後期課程

3-4-1. 博士後期課程(全体)

全国、本学ともに学生数及び女子学生の割合は横ばい傾向である。

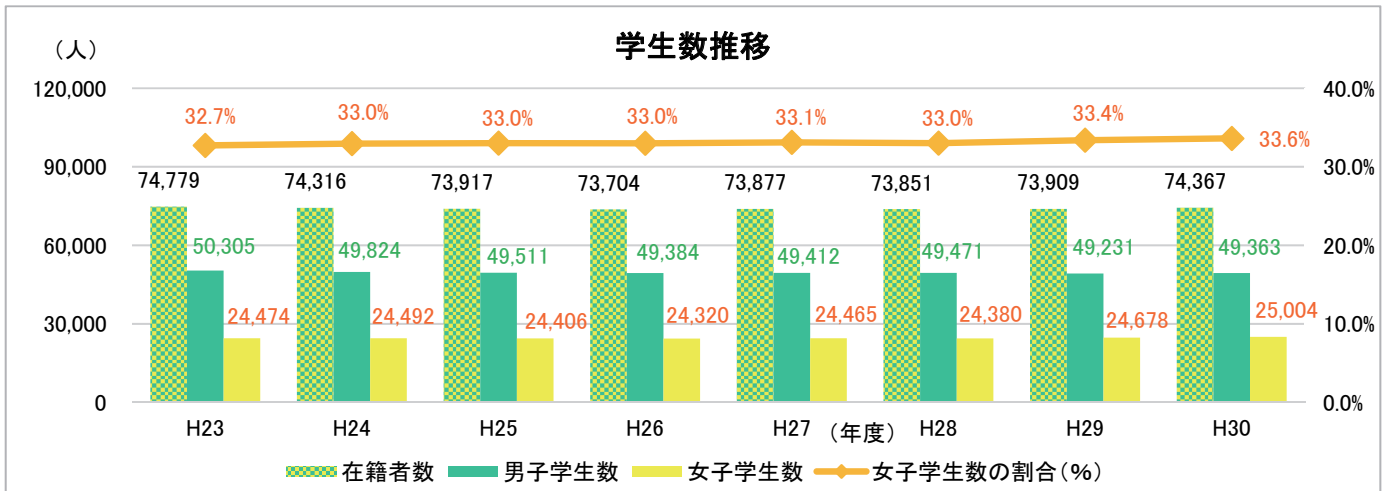
◆九州大学◆



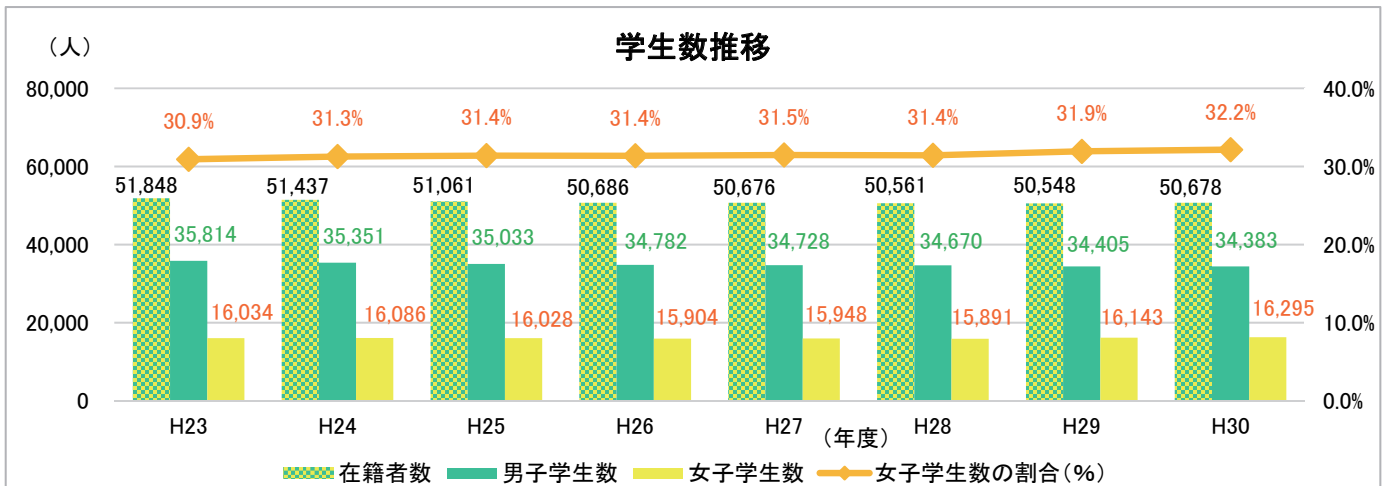
・学生数には、休学生数を含む(以下、同様)。

※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

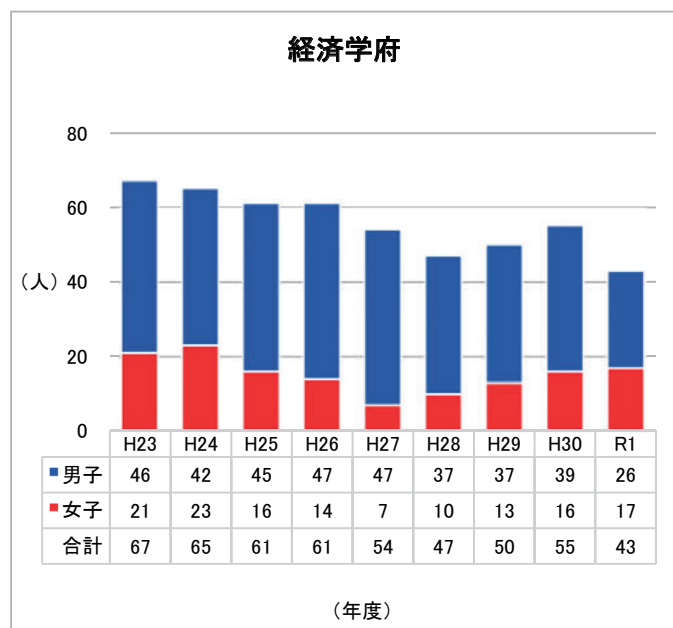
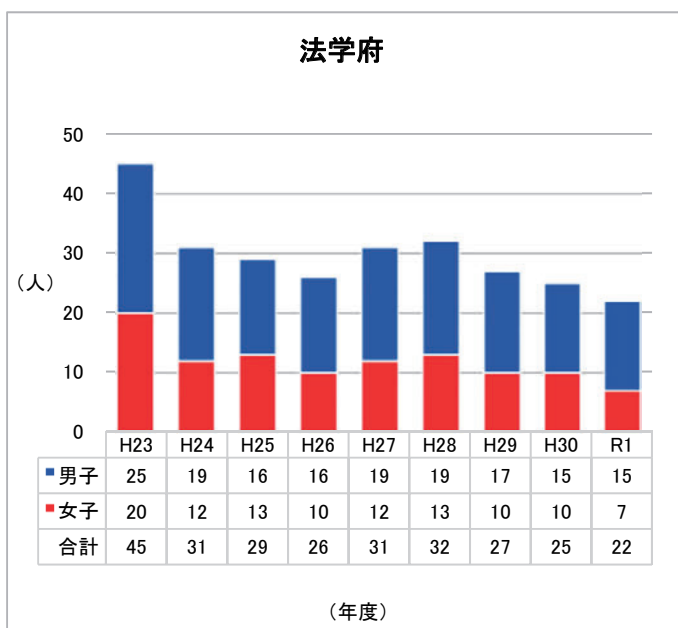
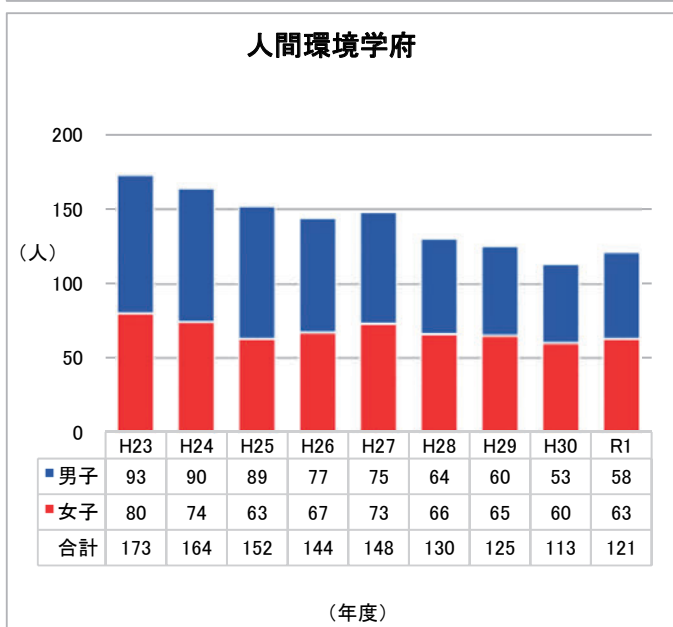
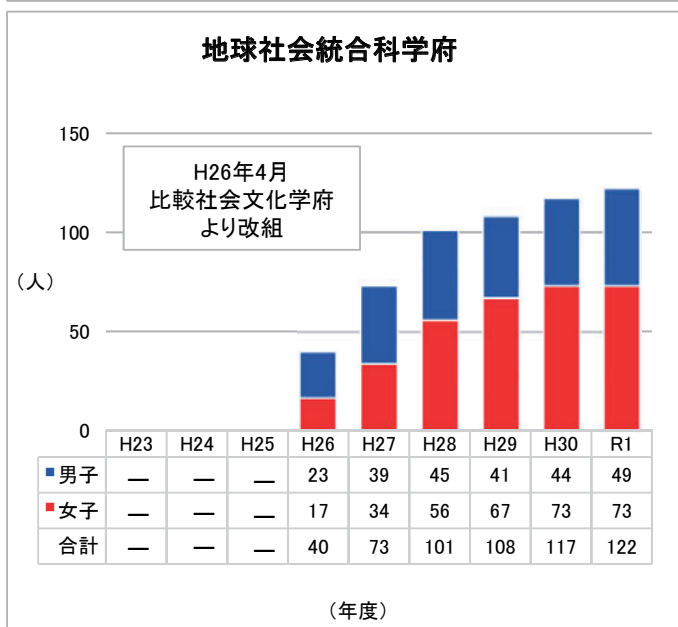
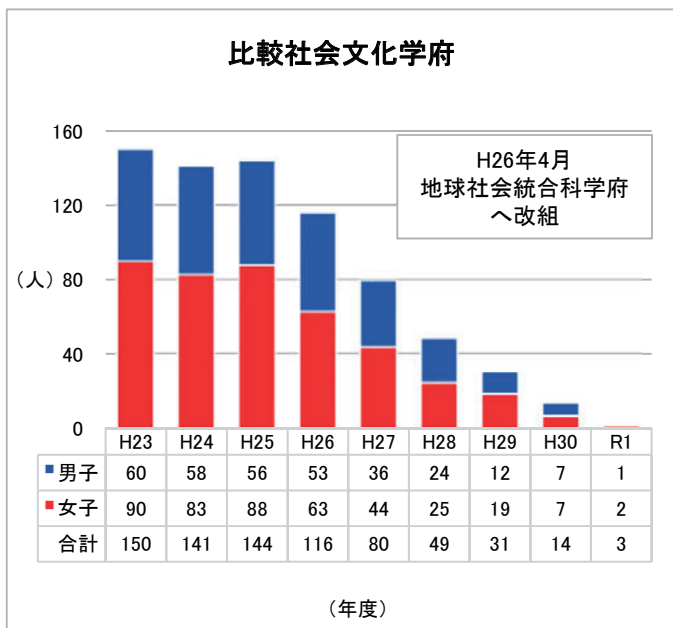
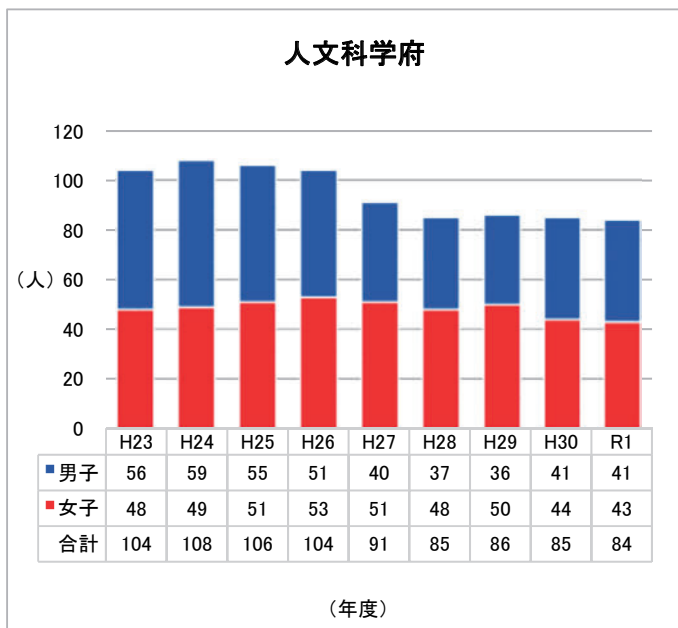


◆全国 国立大学◆



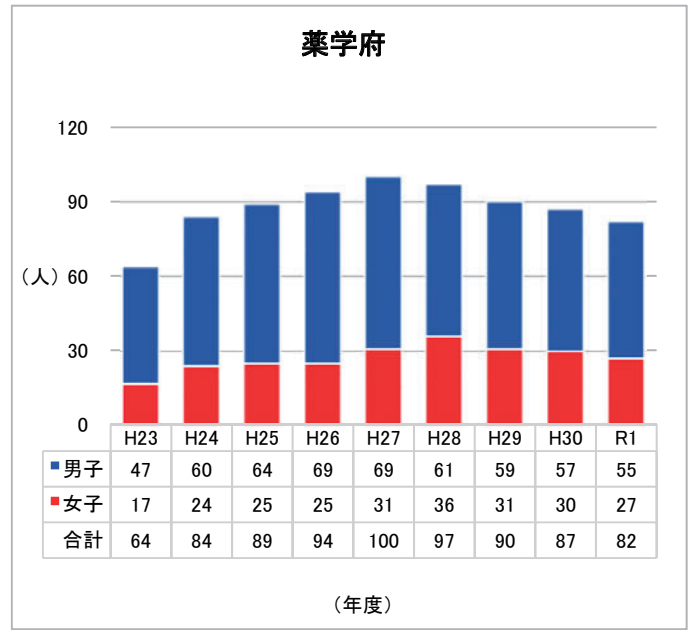
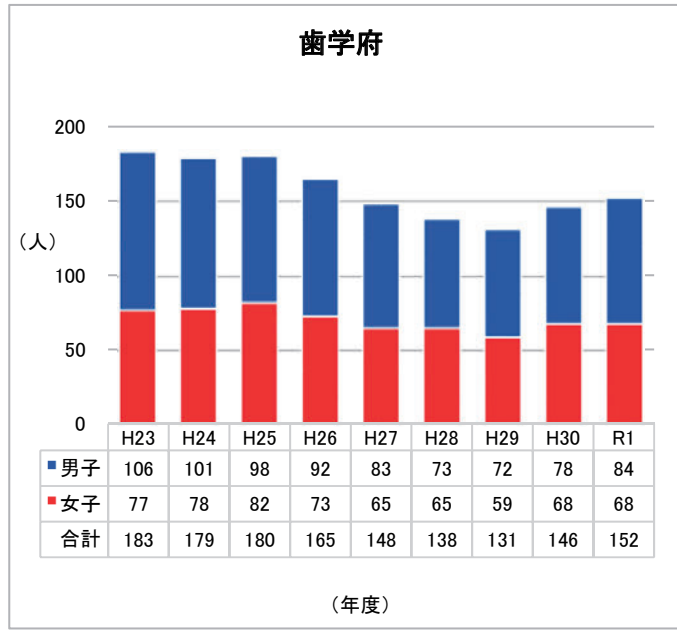
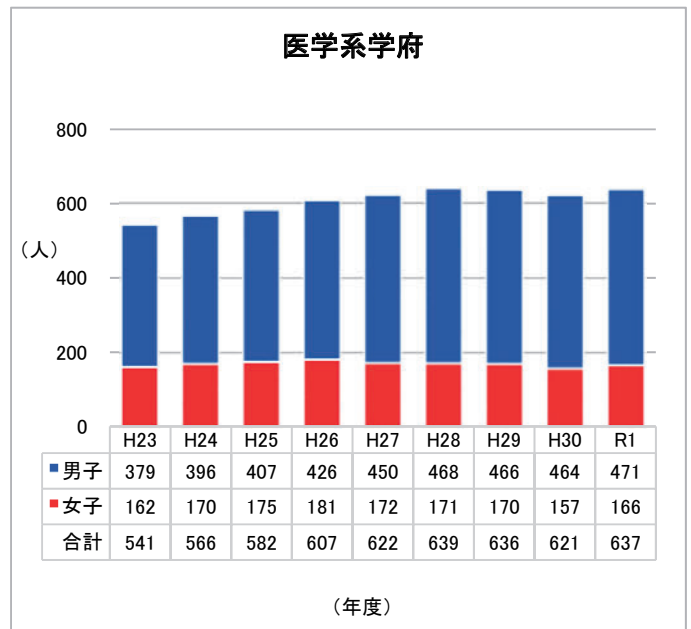
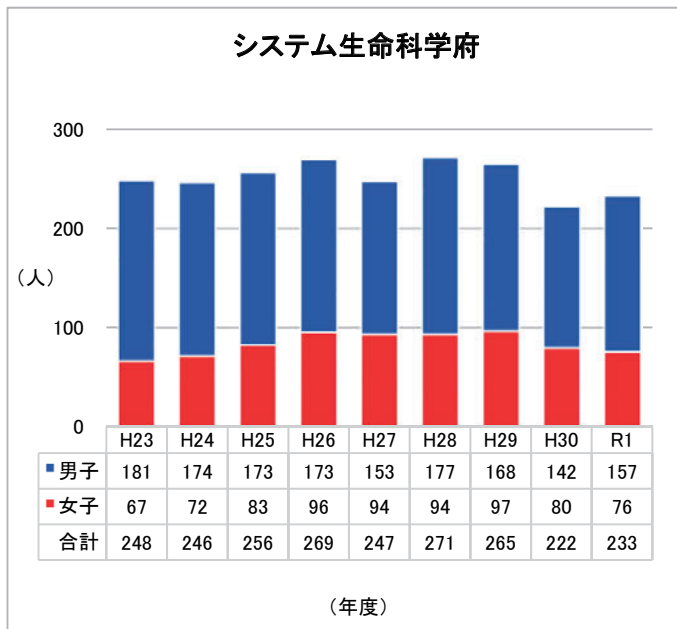
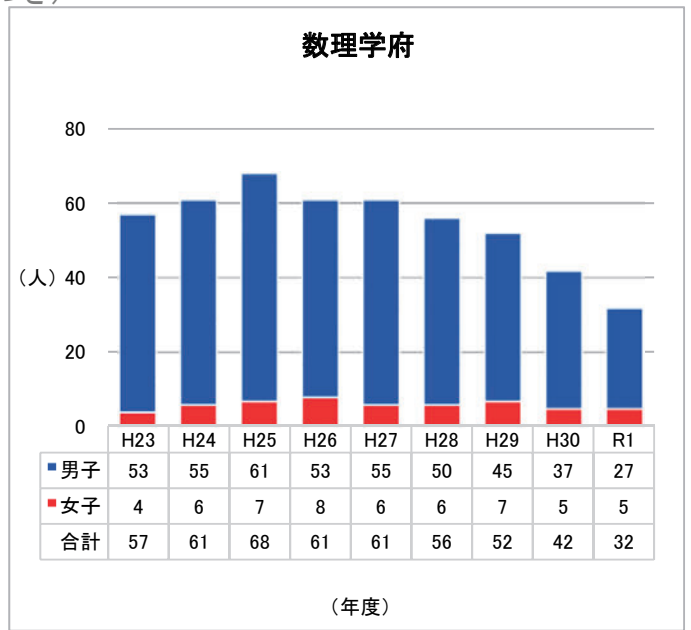
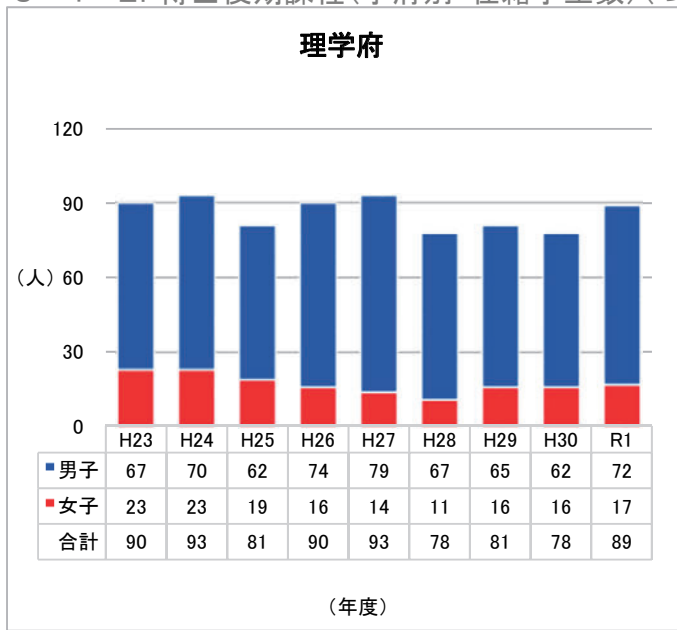
※出典:文部科学省 文部科学統計要覧

3-4-2. 博士後期課程(学府別・在籍学生数)



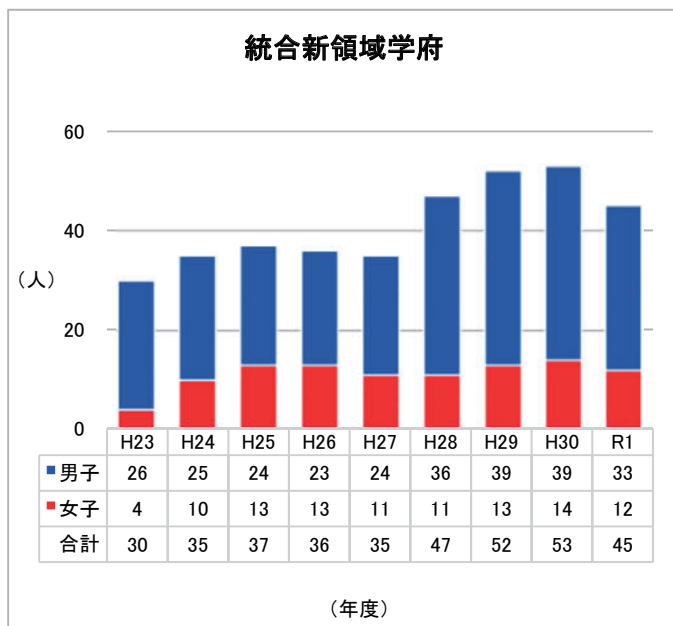
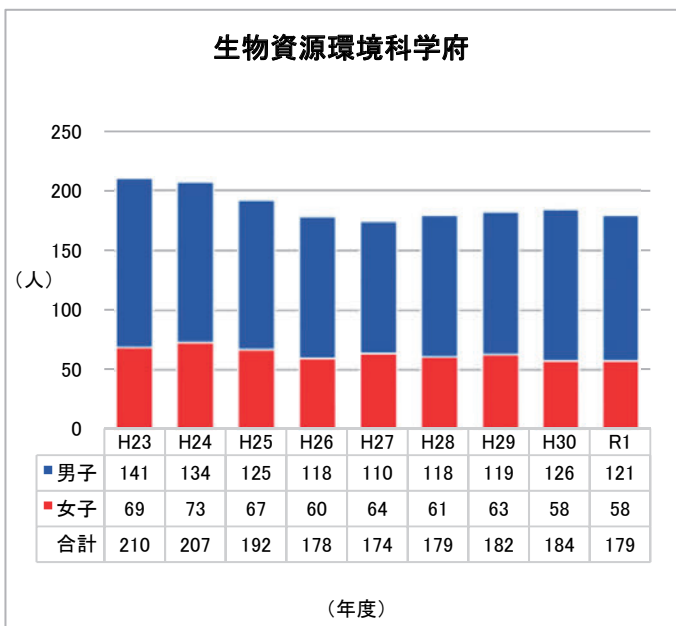
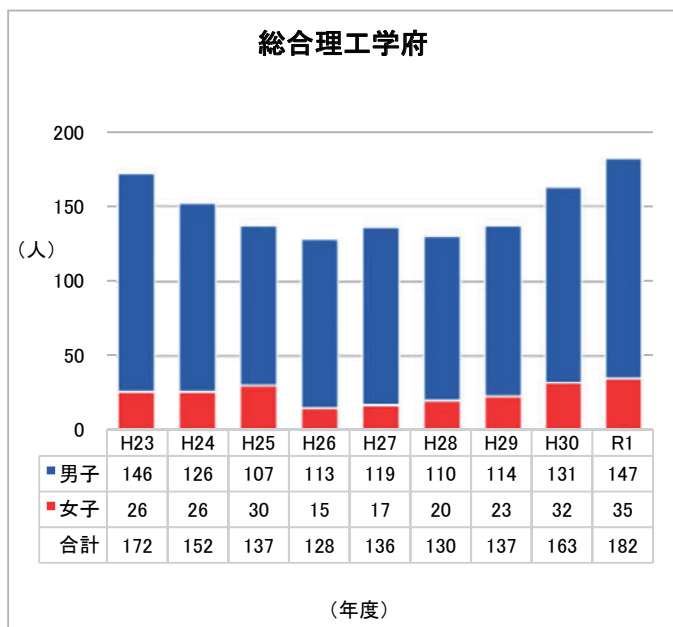
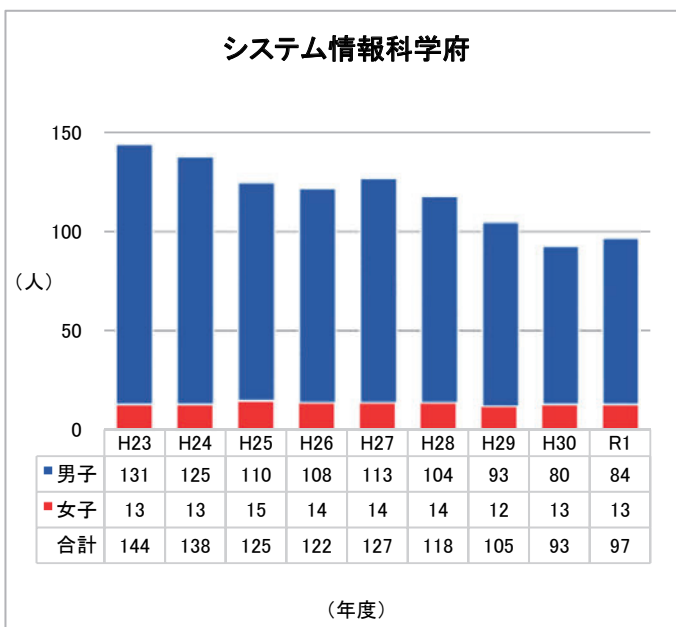
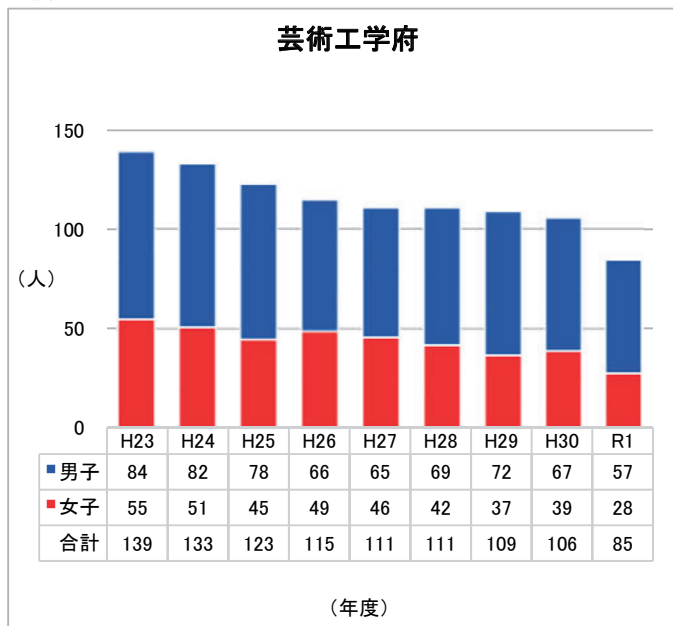
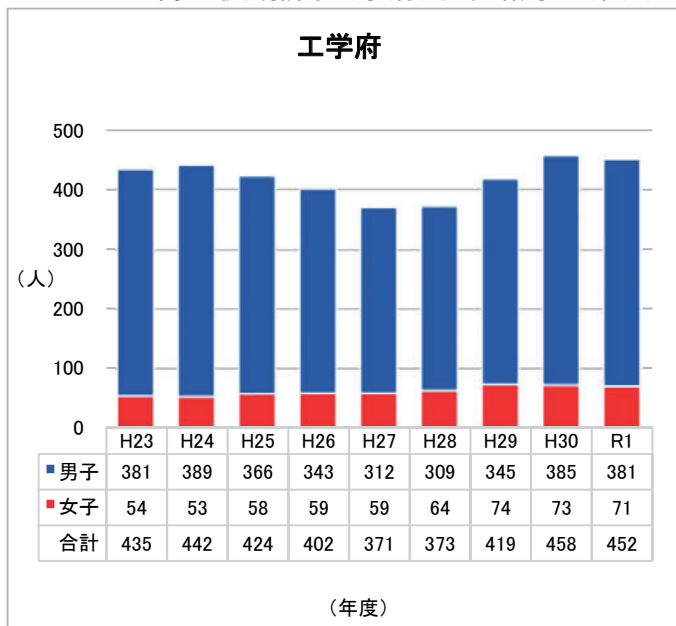
※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-4-2. 博士後期課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-4-2. 博士後期課程(学府別・在籍学生数)(つづき)



※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

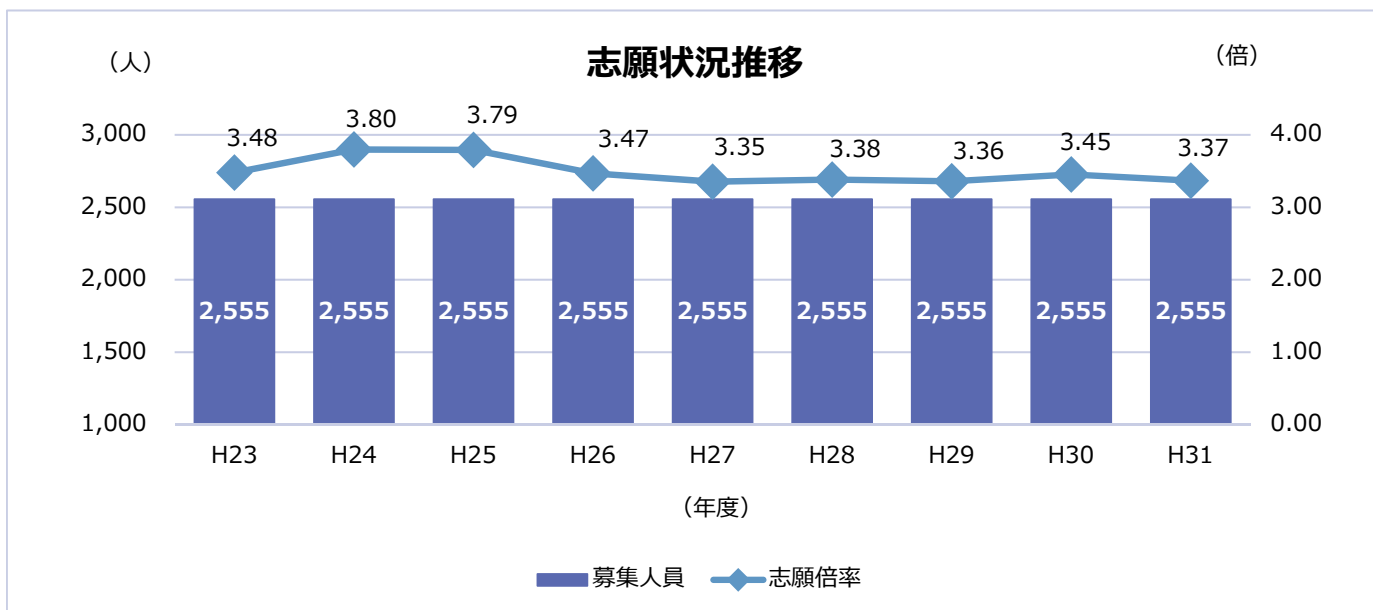
4. 志願状況 (各年度4月1日現在)

4-1. 志願状況(学部)

4-1-1. 志願状況推移(学部・一般選抜)

九州大学の学部一般選抜(一般入試)の志願倍率は、約**3.3~3.8倍**で推移している。平成27年度入試においては、志願倍率は、**3.35倍**と最も低い。なお、全国的に国立大学志願倍率は減少傾向である。

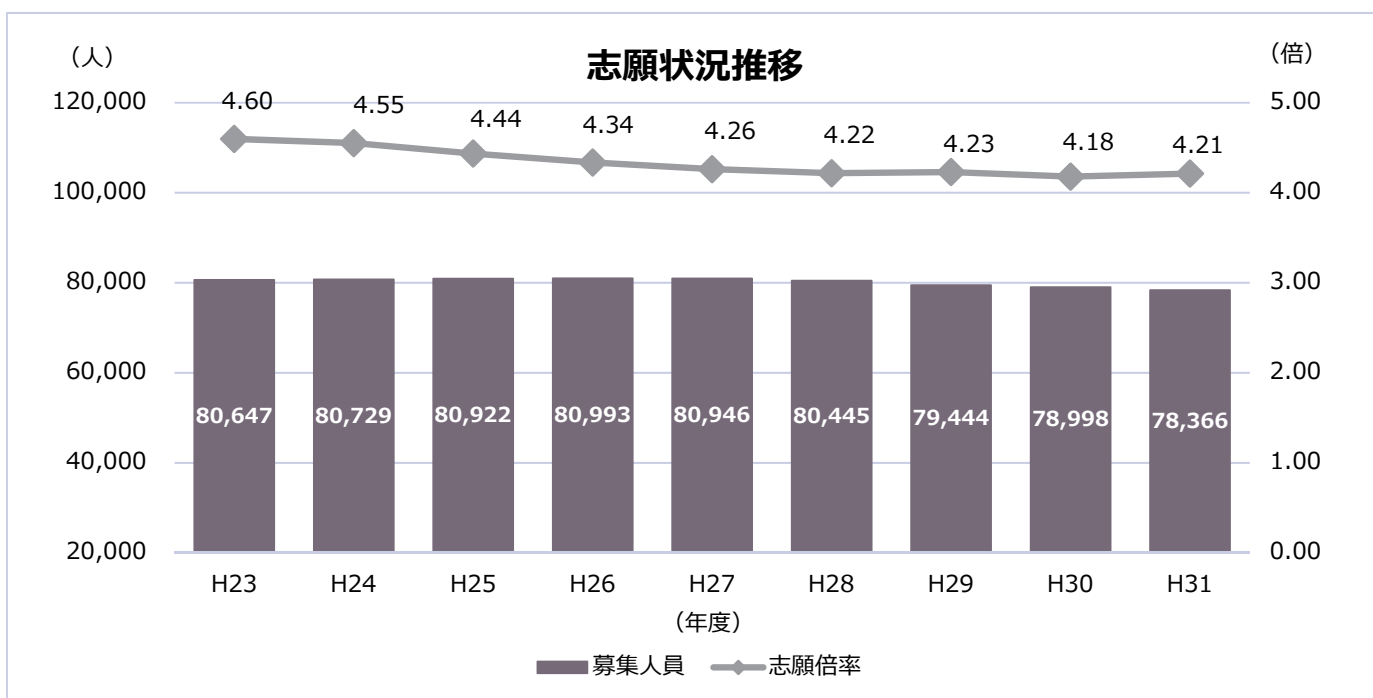
◆九州大学◆



- ・前期日程、後期日程、AO入試、帰国子女入試、社会人入試、外国人留学生入試(4月入学)(国費等含む)を含む。
- ・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

※出典：九州大学学務部入試課データ「試験別志願者数等調」(各年度)

◆全国 国立大学◆



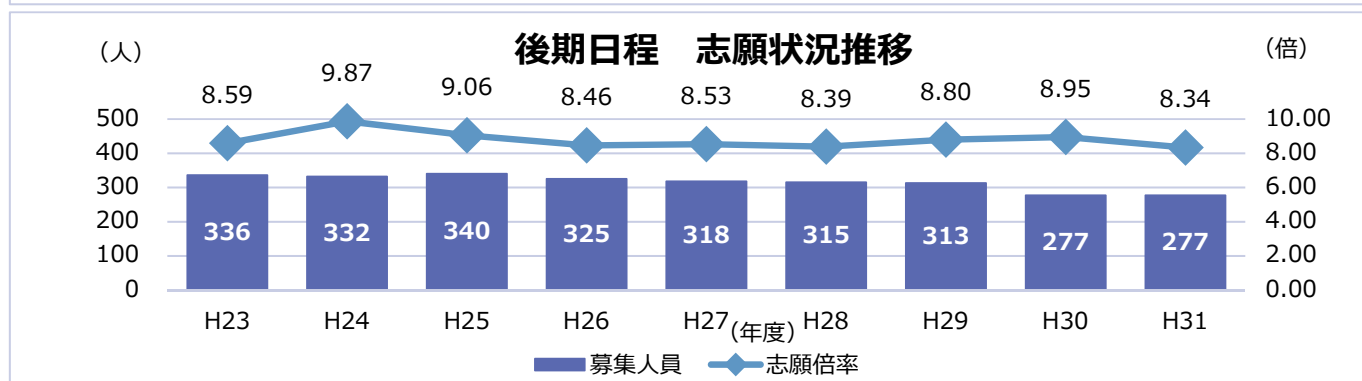
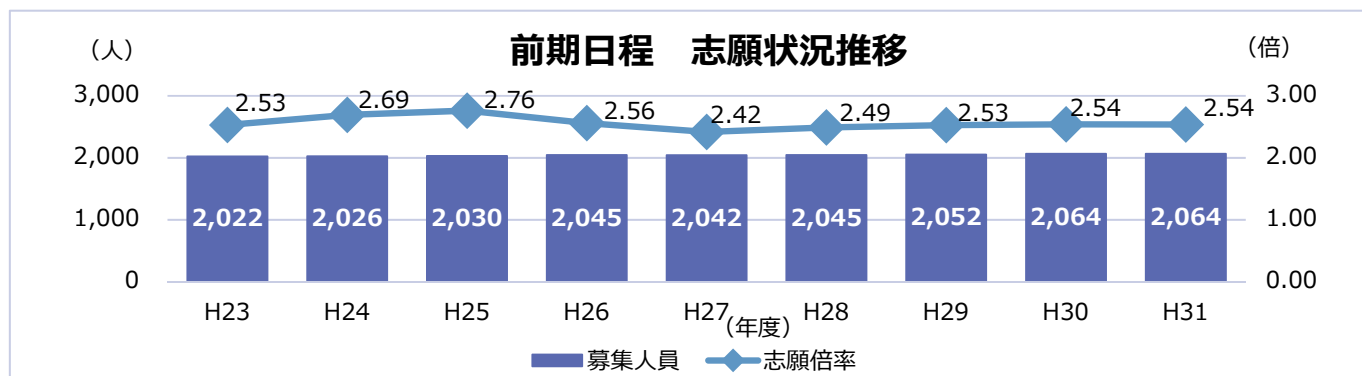
- ・募集人員、志願者数については、一般入試に係るものである。
- ・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

※出典：文部科学省「国公立大学入学者選抜の志願状況等」

4-1-2. 志願状況推移(学部・一般選抜/日程別)

本学は、前期日程は約2.4~2.8倍、後期日程は約8.3倍~9.9倍の志願倍率を推移しており、安定して入学者を確保している。国立大学は募集人員が減少傾向にある。

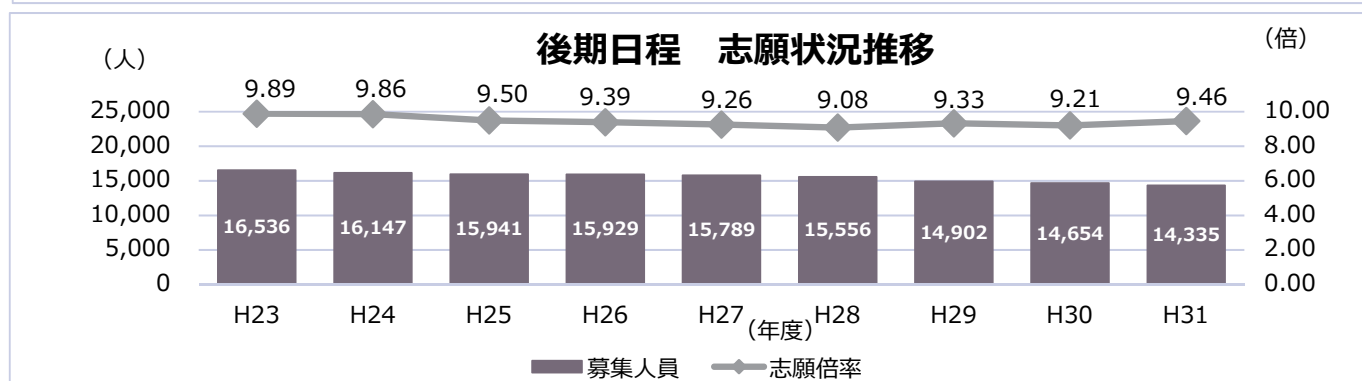
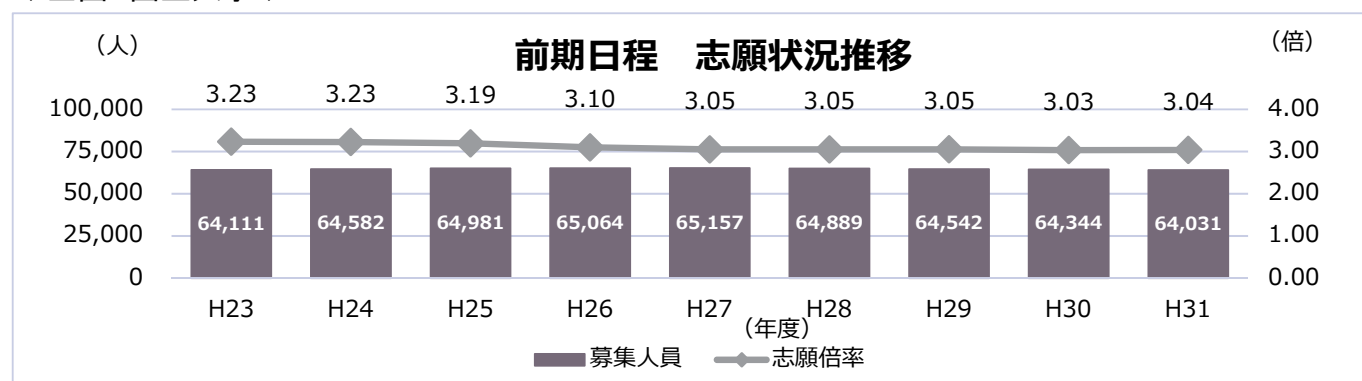
◆九州大学◆



・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

※出典：募集人員：九州大学学務部入試課保有データ「平成31年度学部学生募集人員」
志願者数：九州大学学務部入試課保有データ「平成31年度試験別志願者数等調」

◆全国 国立大学◆



・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

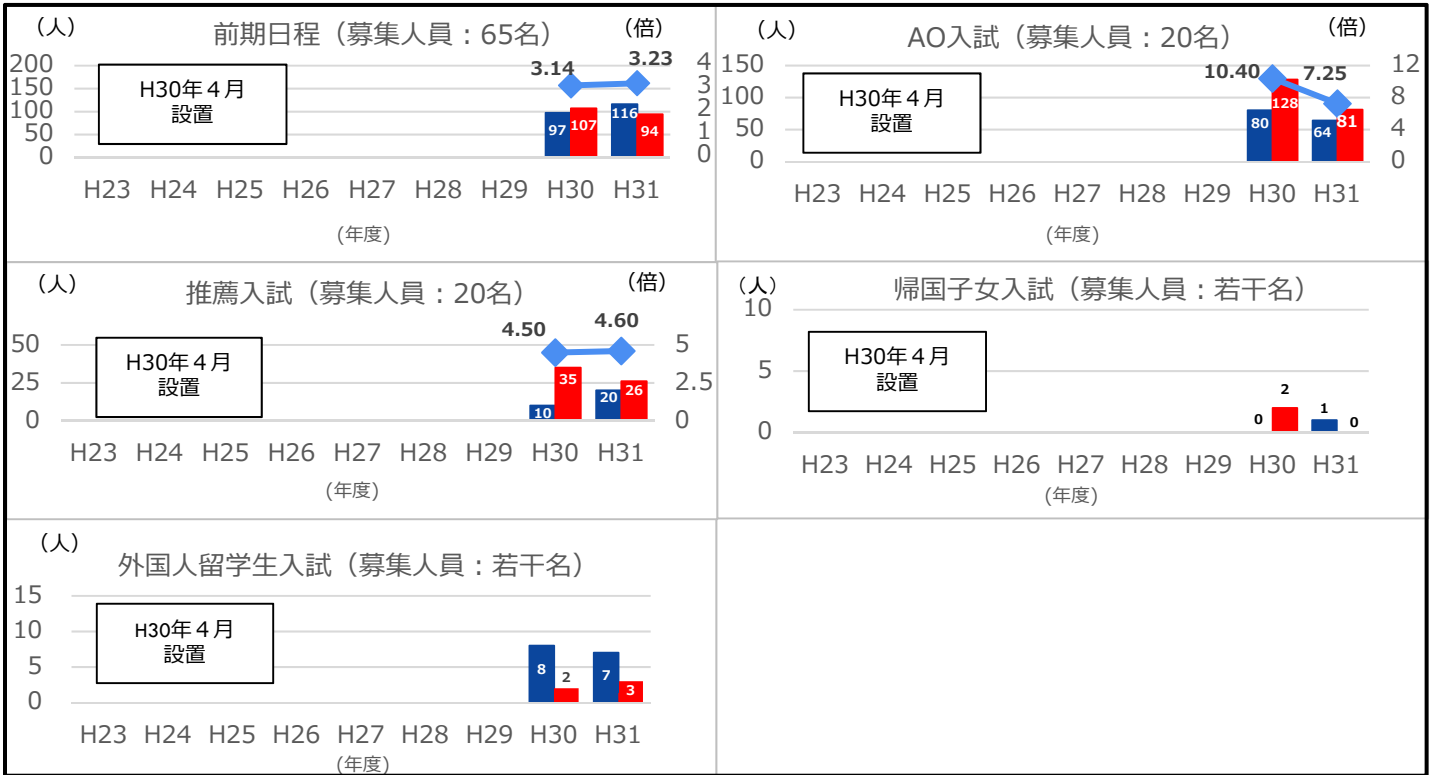
※出典：文部科学省 国公立大学入学選抜の志願状況等「平成31年度国公立大学入学選抜確定志願状況」

4-1-3. 志願状況推移(学部別)

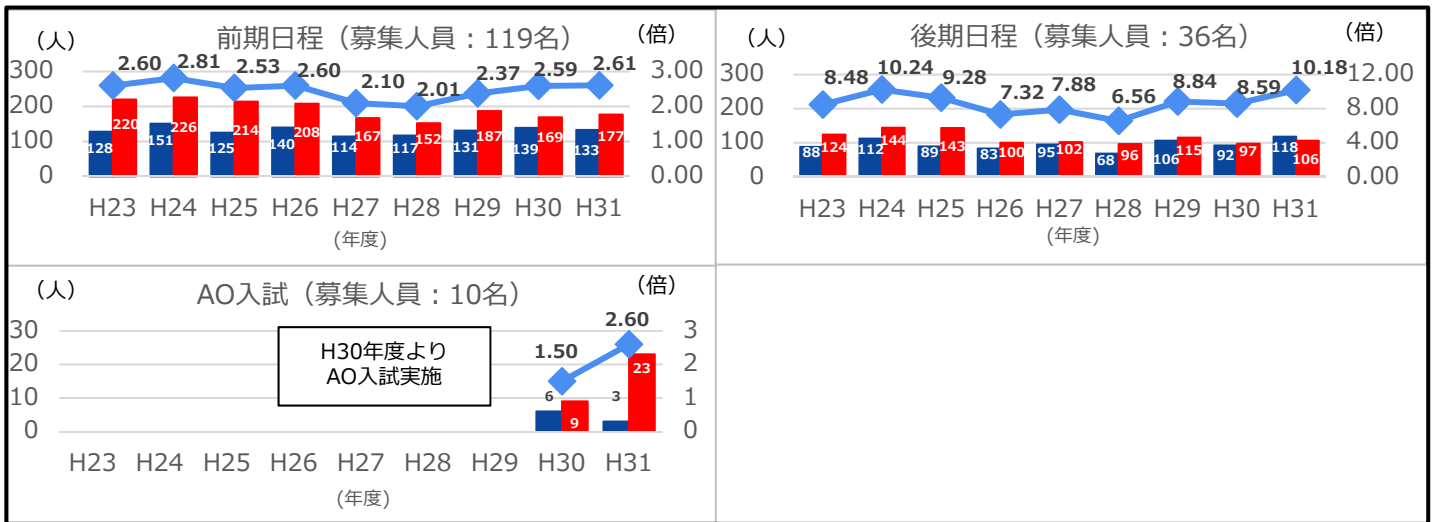
前期日程は約1.8~3.9倍、後期日程は約5.8倍~20.0倍、AO入試は約0.8~10.4倍の志願倍率を推移している。
推薦入試は共創学部のみ実施している。

【共創学部】

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



【文学部】



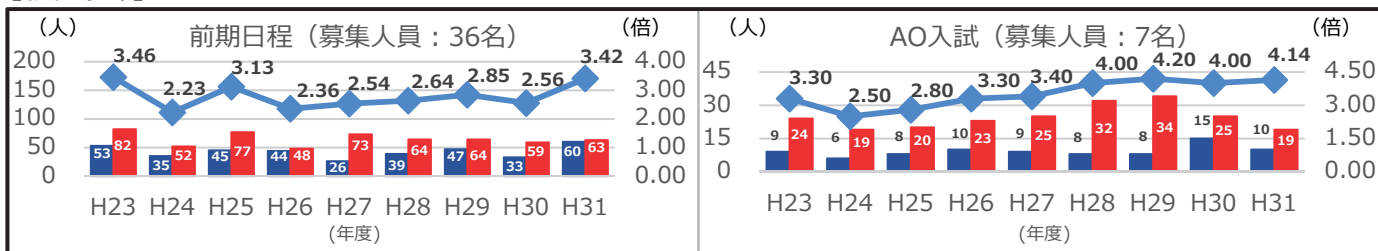
・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

※出典:九州大学学務部入試課保有データ「各年度試験別志願者数等調」

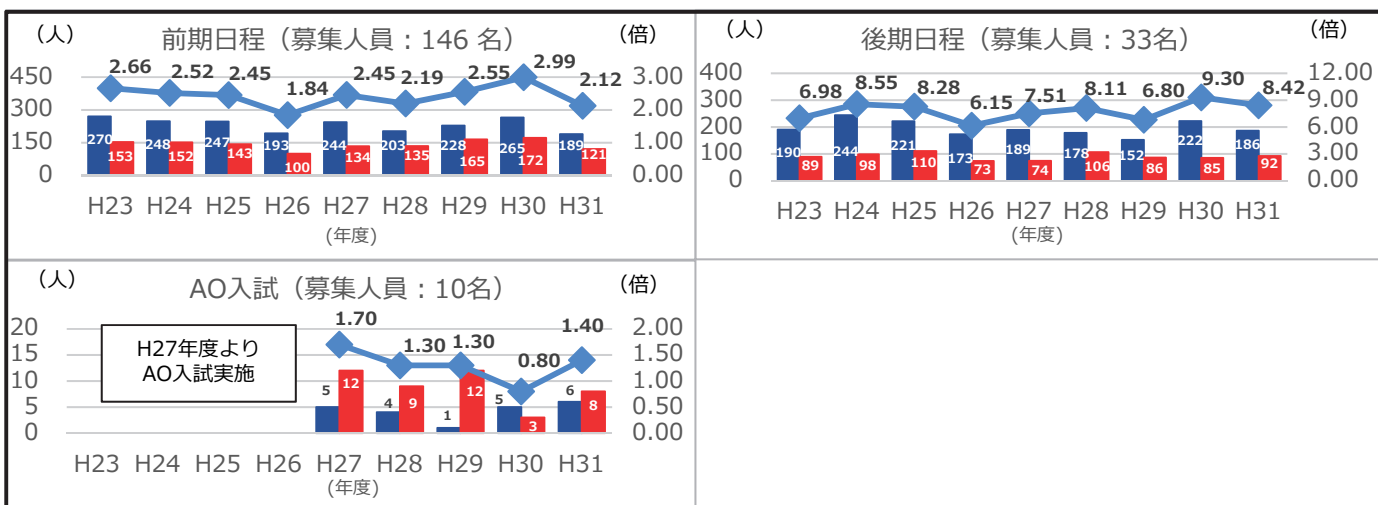
4-1-3. 志願状況推移(学部別)(つづき)

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率

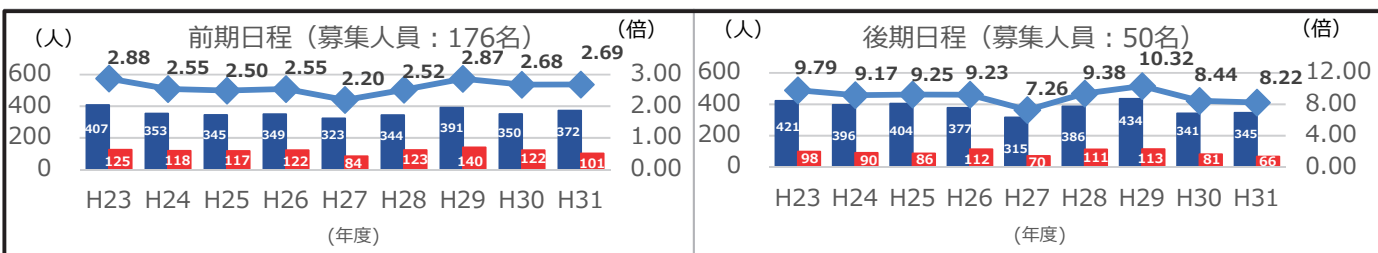
【教育学部】



【法学部】



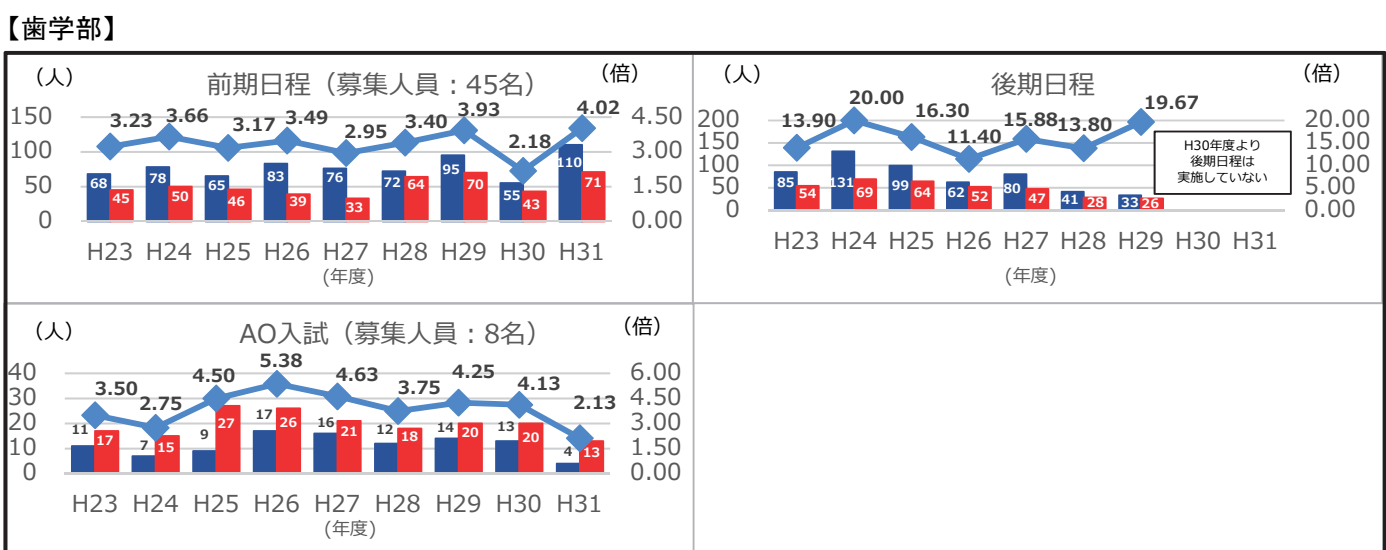
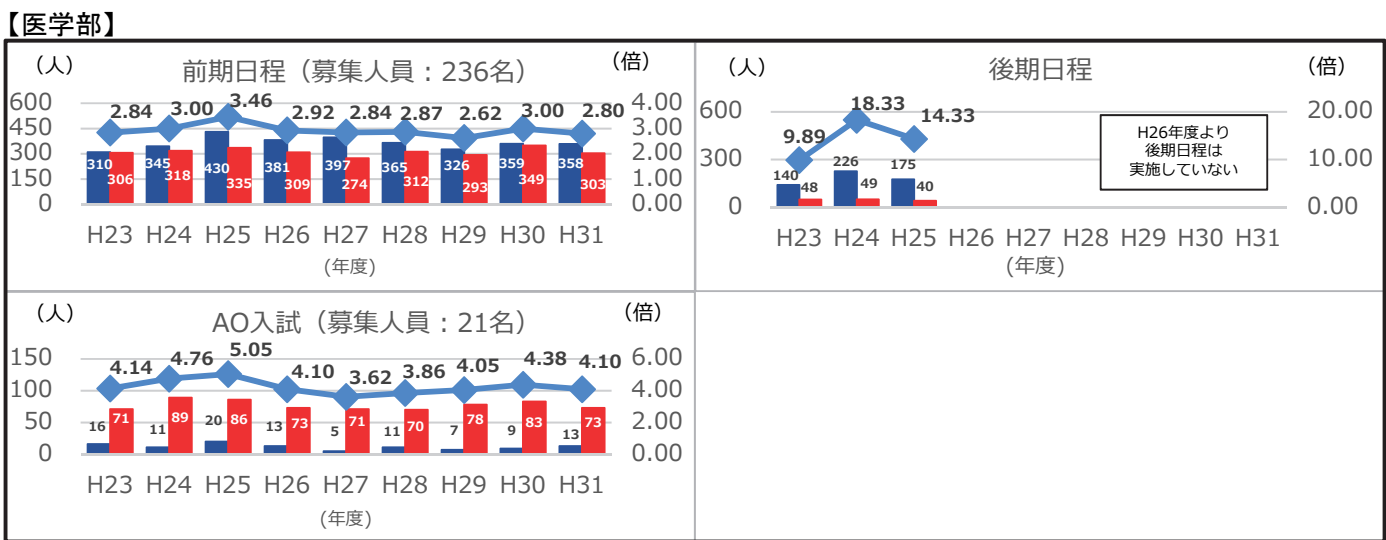
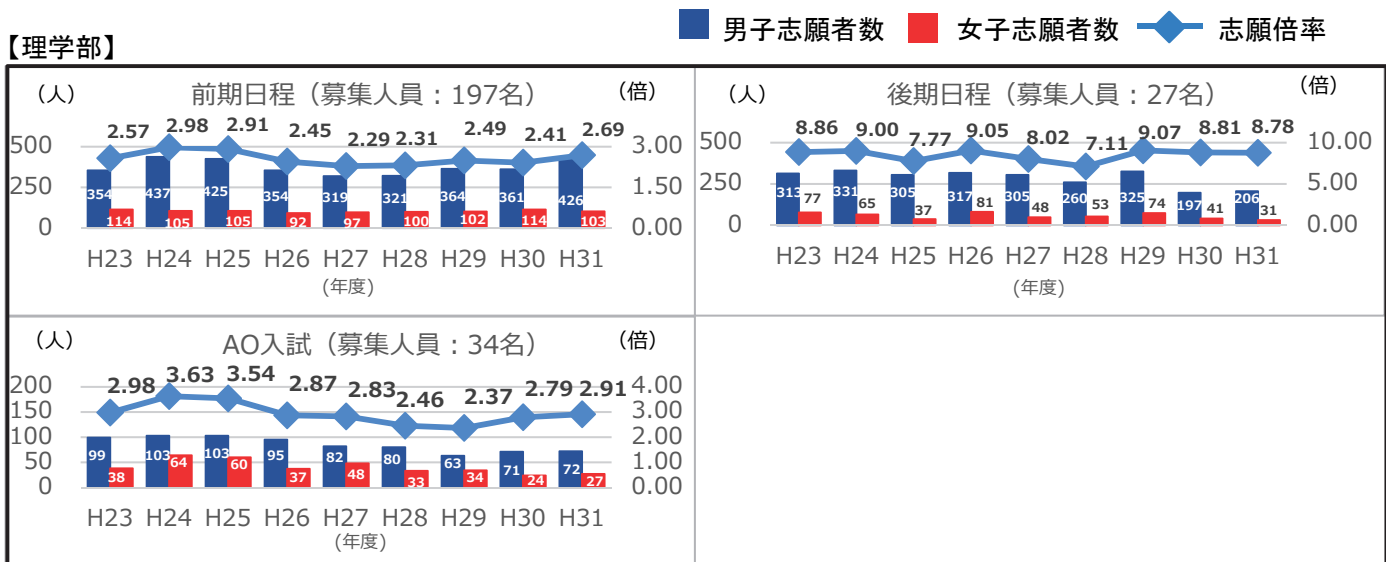
【経済学部】



・志願倍率については、志願者数／募集人員より算出。

※出典:九州大学学務部入試課保有データ「各年度試験別志願者数等調」

4-1-3. 志願状況推移(学部別)(つづき)



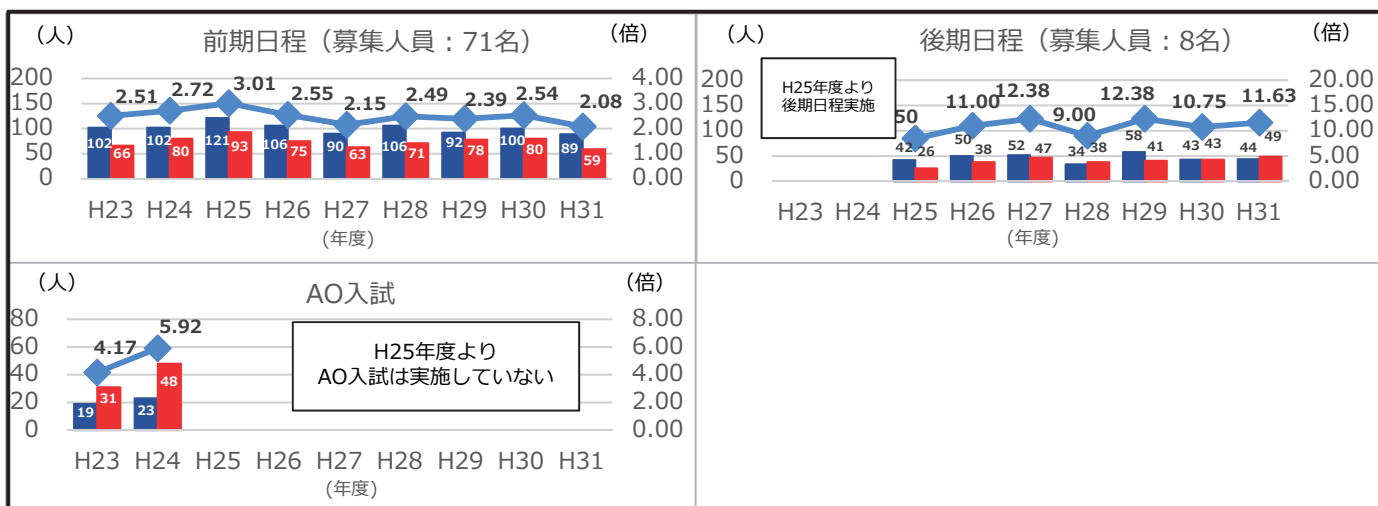
・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

※出典:九州大学学務部入試課保有データ「各年度試験別志願者数等調」

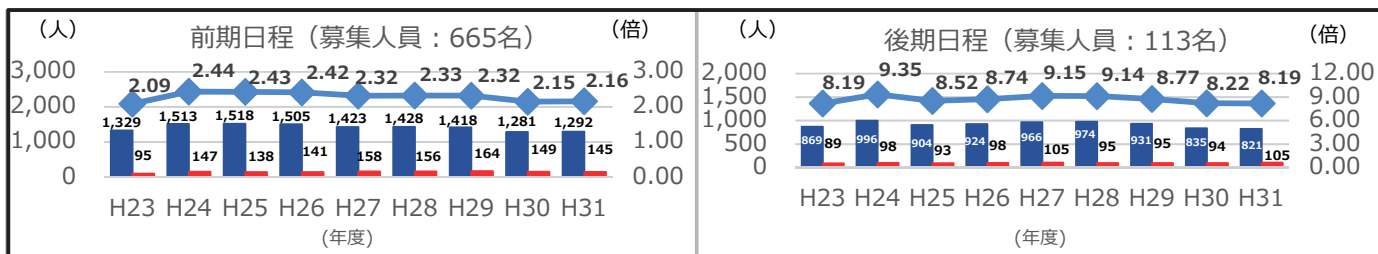
4-1-3. 志願状況推移(学部別)(つづき)

【薬学部】

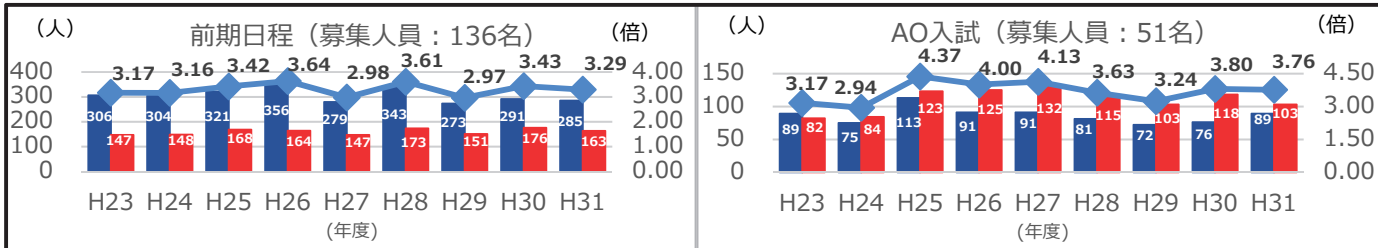
■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



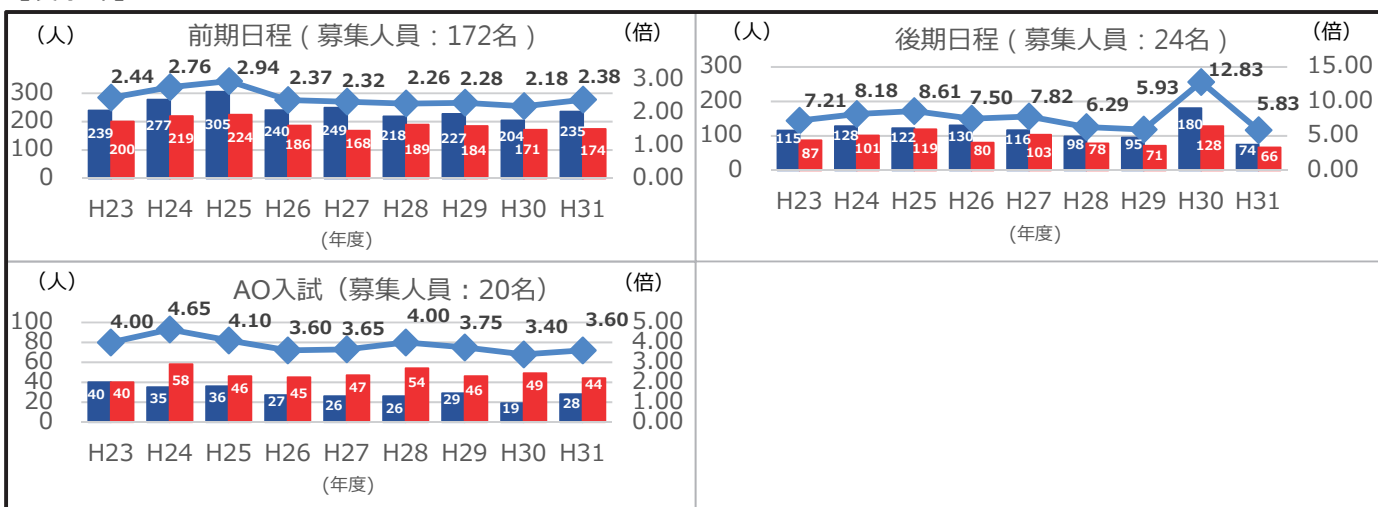
【工学部】



【芸術工学部】



【農学部】



・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

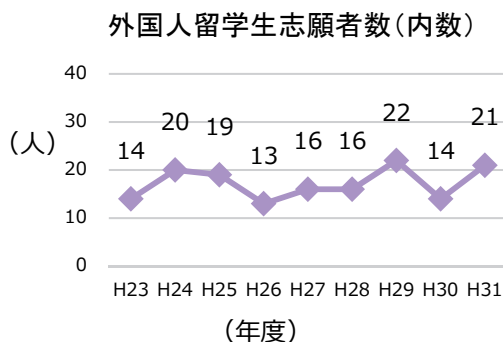
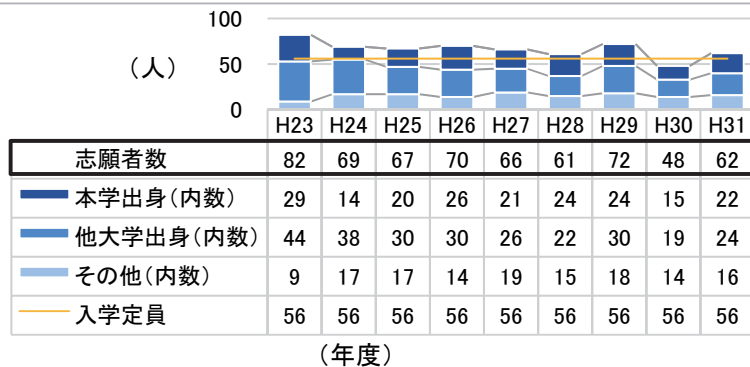
※出典:九州大学学務部入試課保有データ「各年度試験別志願者数等調」

4-2. 志願状況(大学院)

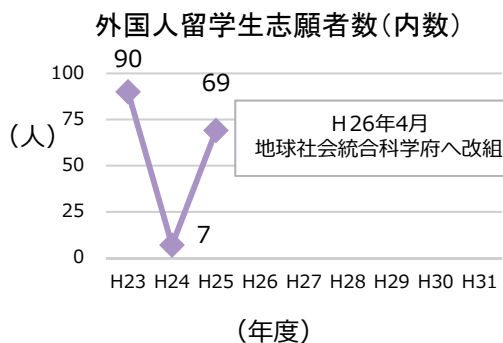
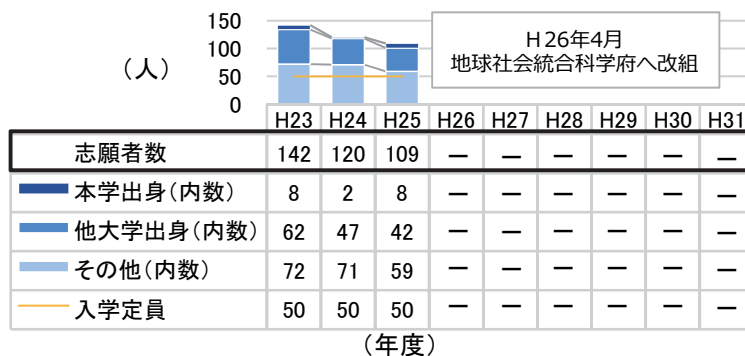
4-2-1. 志願状況推移(大学院_修士課程)

学部別にみると状況は異なるものの、外国人留学生の志願者を確保できている。

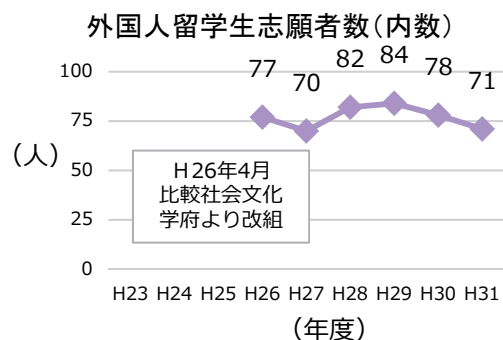
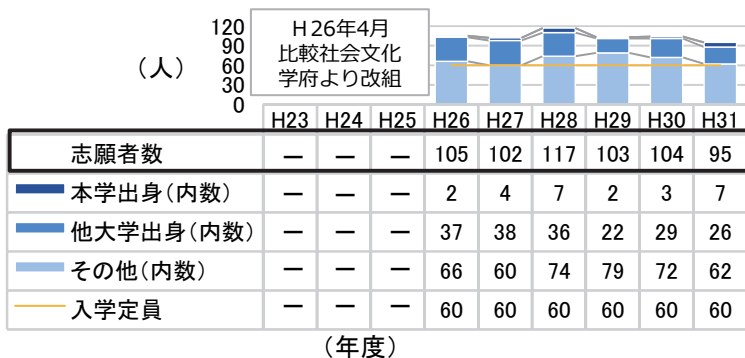
【人文科学府】



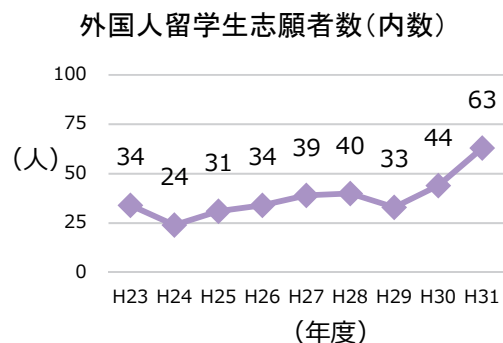
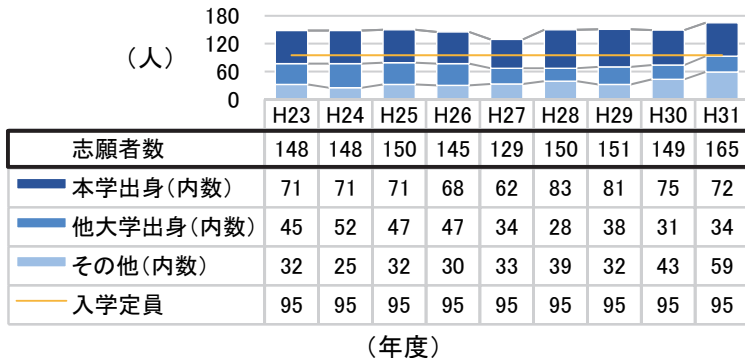
【比較社会文化学府】※H26年度より募集停止



【地球社会統合科学府】



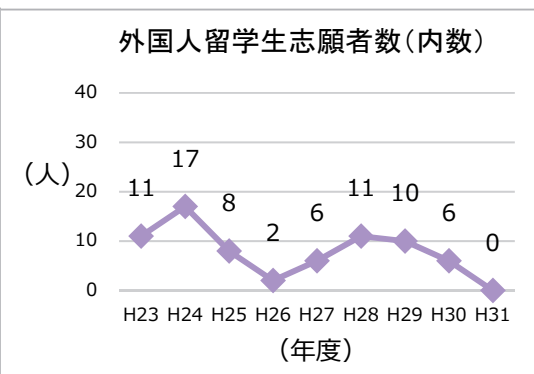
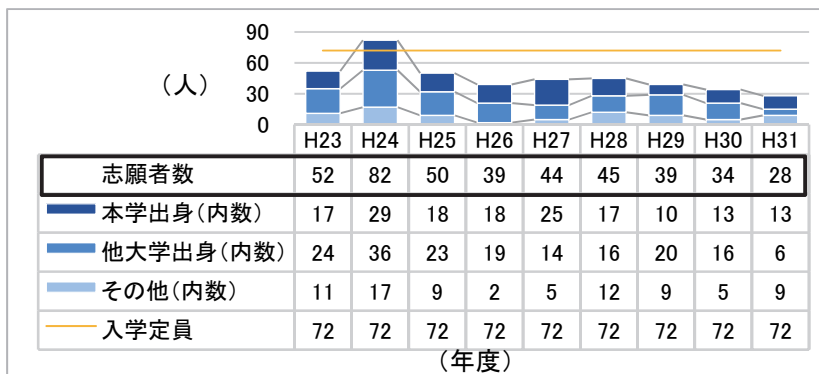
【人間環境学府】



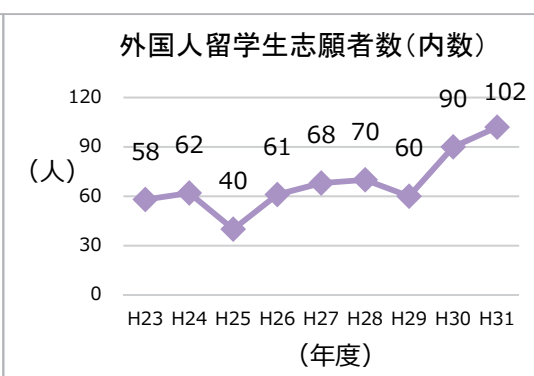
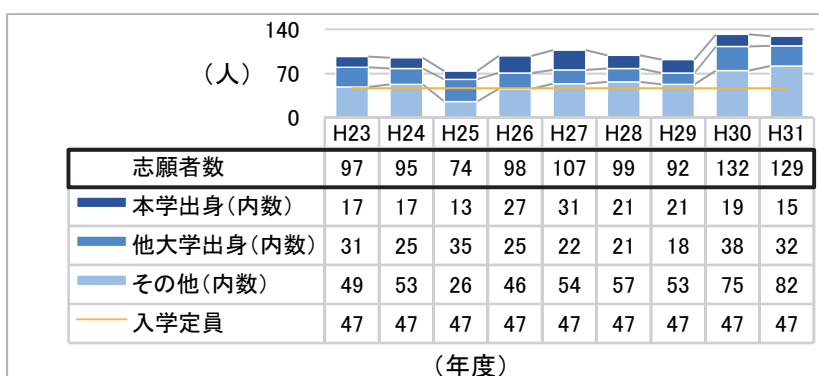
※出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-1. 志願状況推移(大学院_修士課程)(つづき)

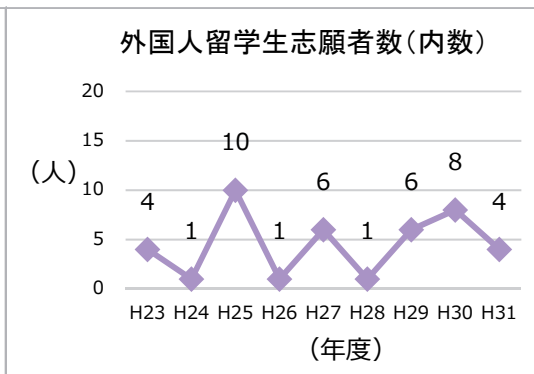
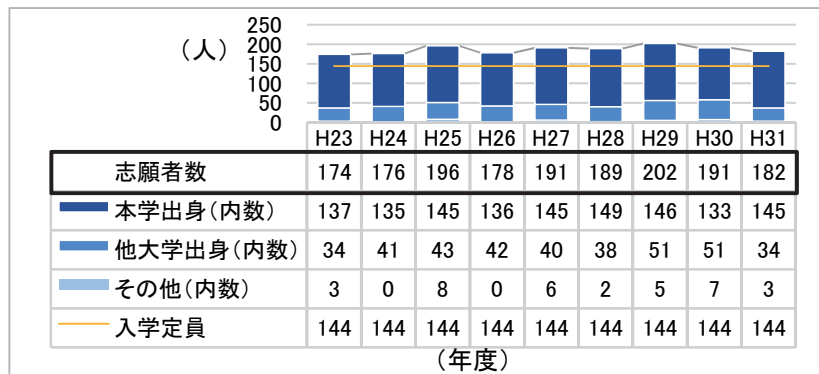
【法学府】



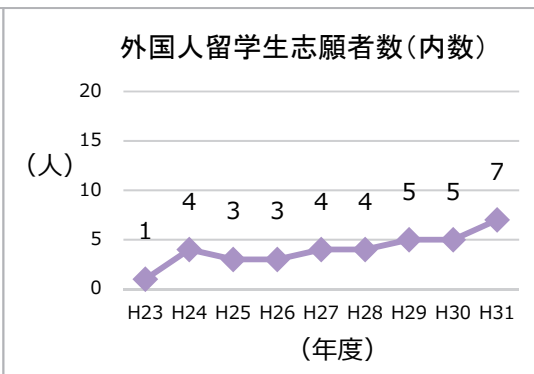
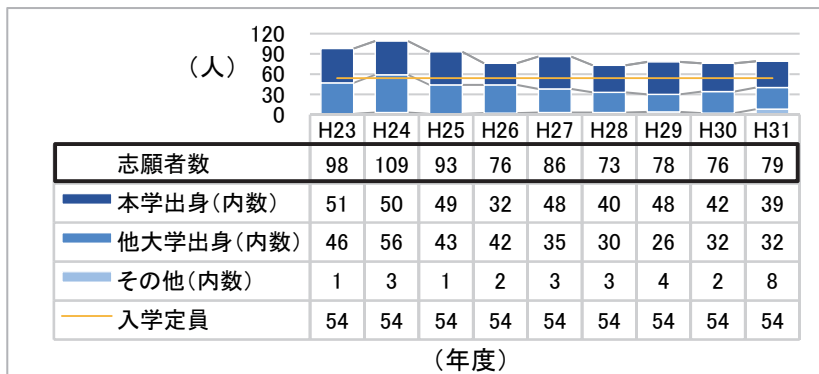
【経済学府】



【理学府】



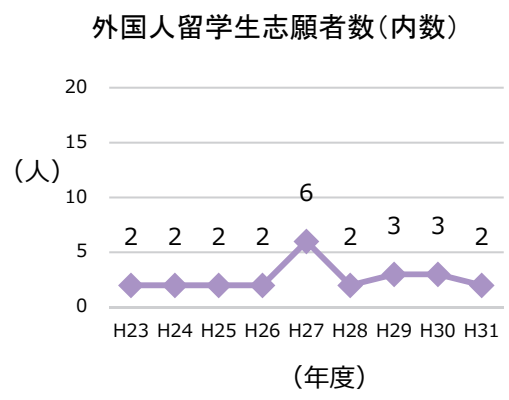
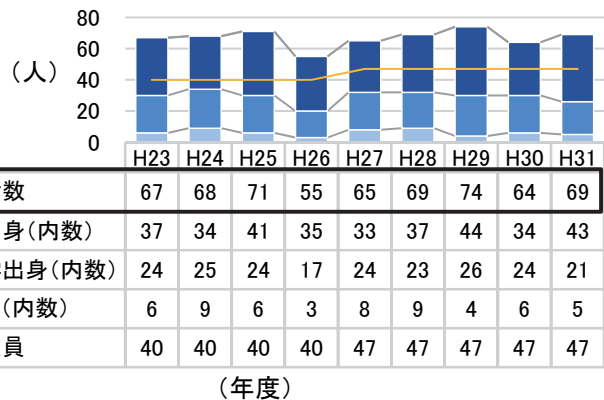
【数理学府】



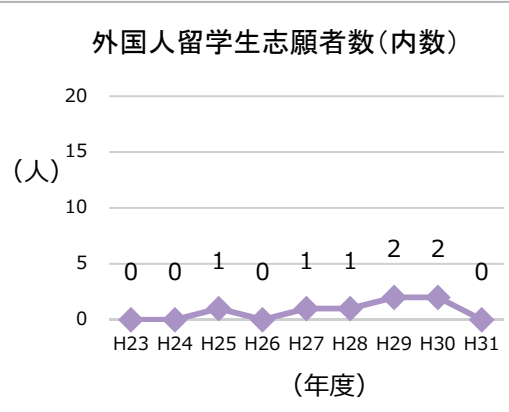
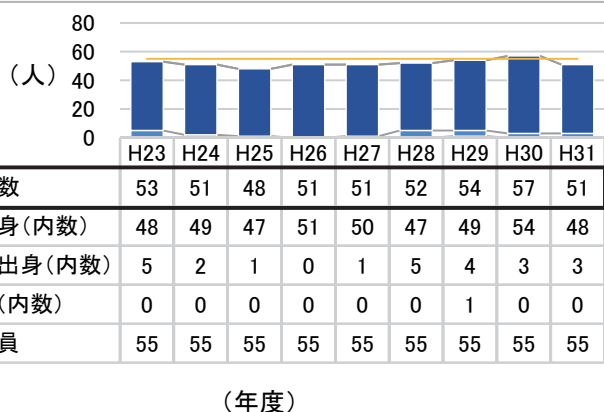
※出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-1. 志願状況推移(大学院_修士課程)(つづき)

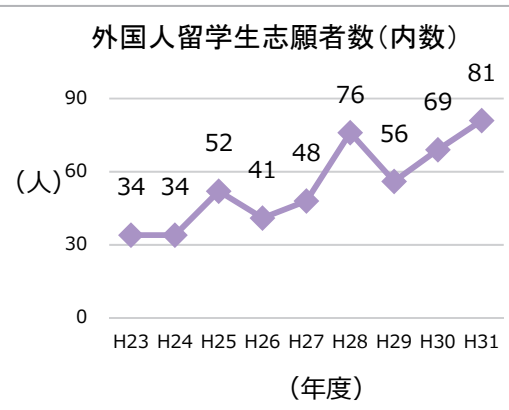
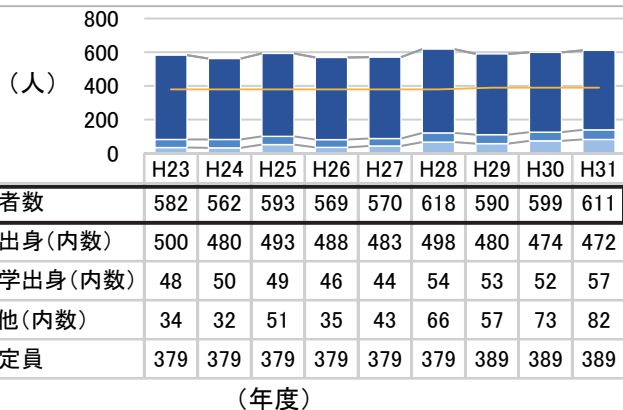
【医学系学府】



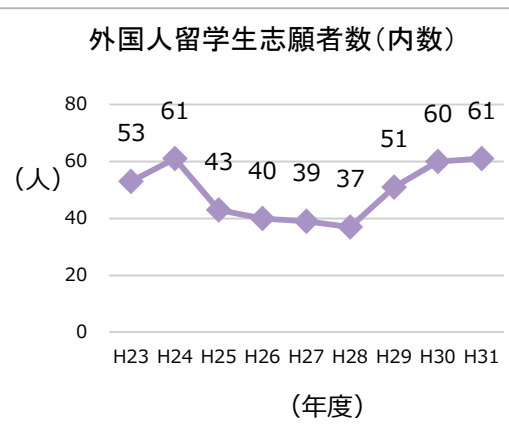
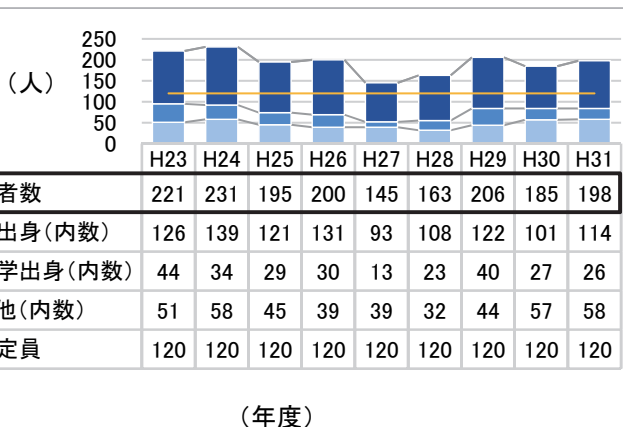
【薬学府】



【工学府】



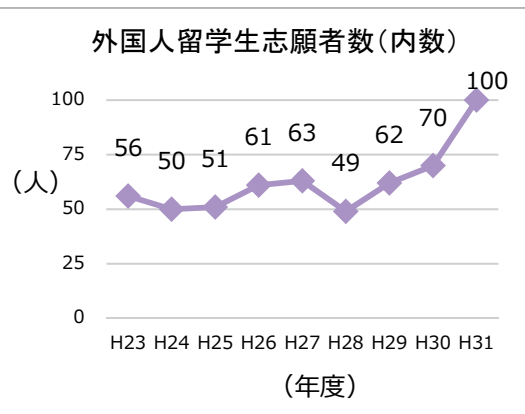
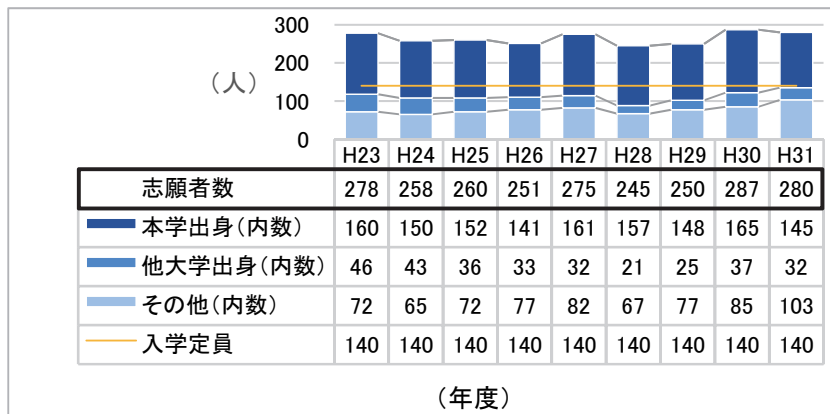
【芸術工学府】



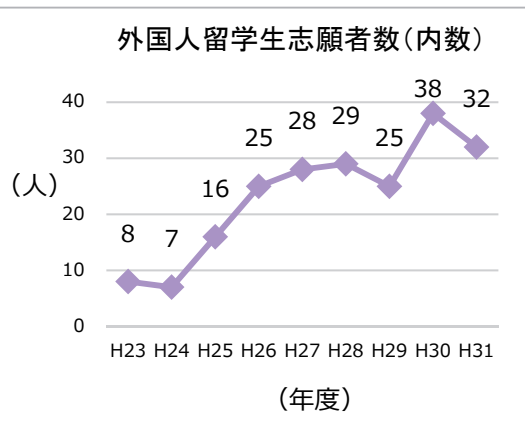
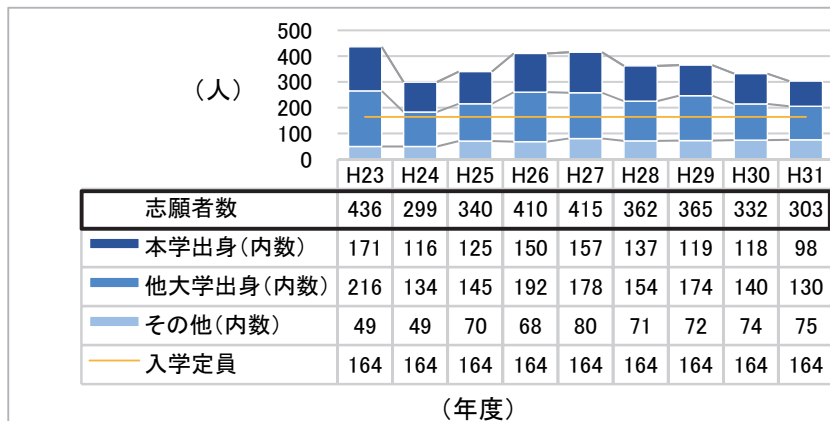
※出典：九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-1. 志願状況推移(大学院_修士課程)(つづき)

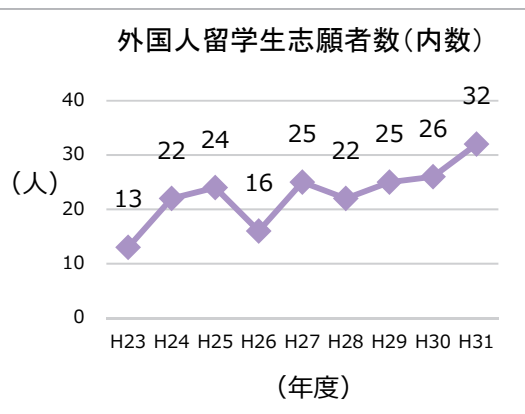
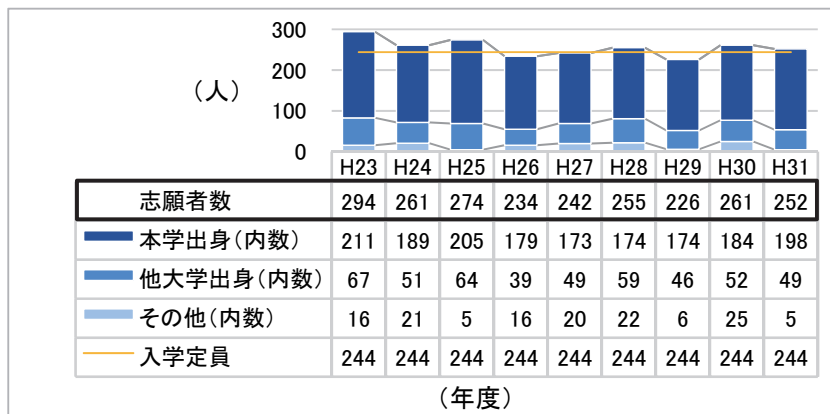
【システム情報科学府】



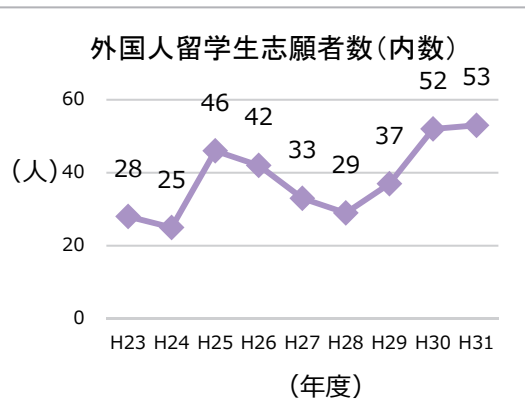
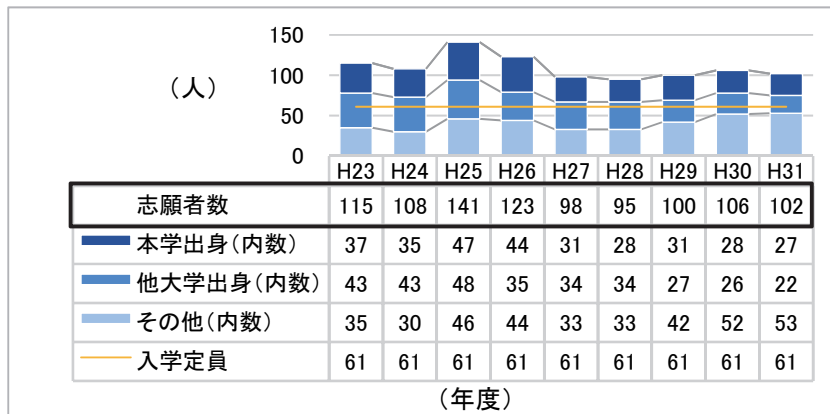
【総合理工学府】



【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】

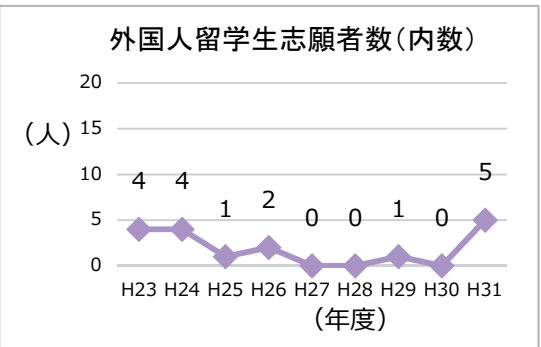
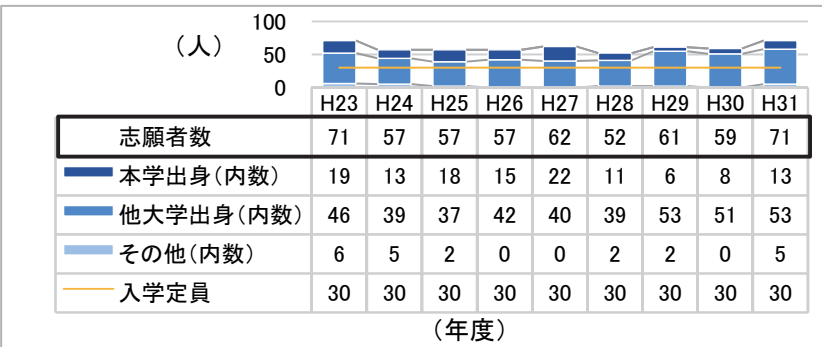


※出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

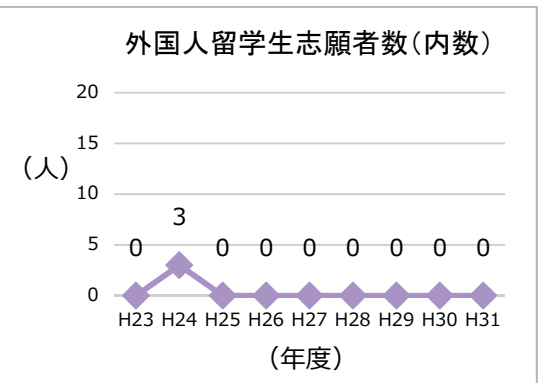
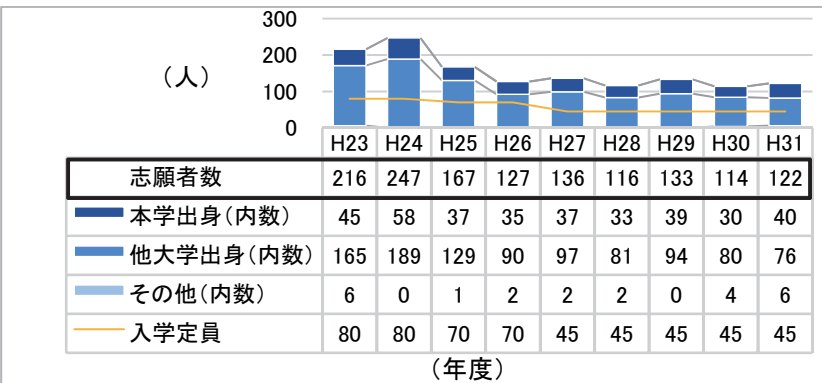
4-2-2. 志願状況推移(大学院_専門職学位課程)

法務学府の志願者数は前年度より少し上昇している。一方で、医学系学府の志願者数は大幅に減少している。

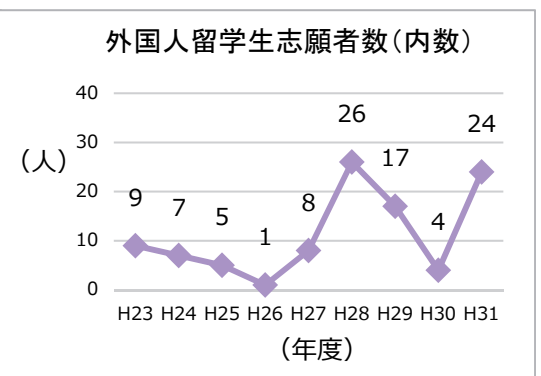
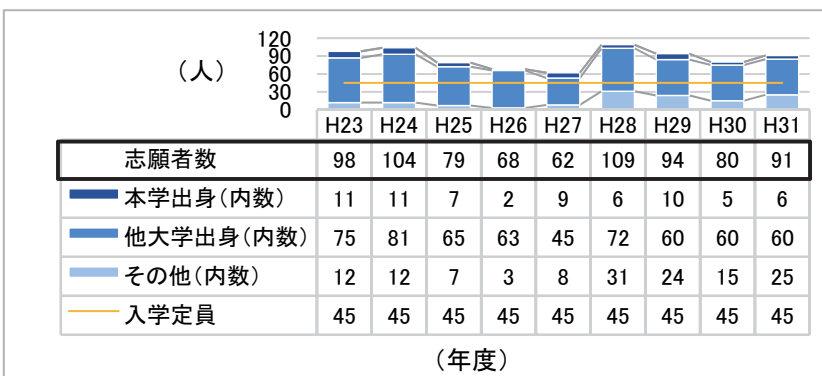
人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】



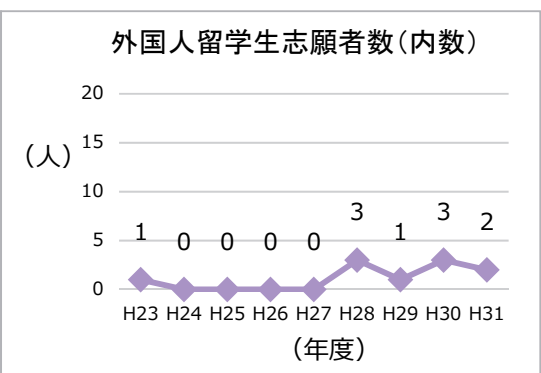
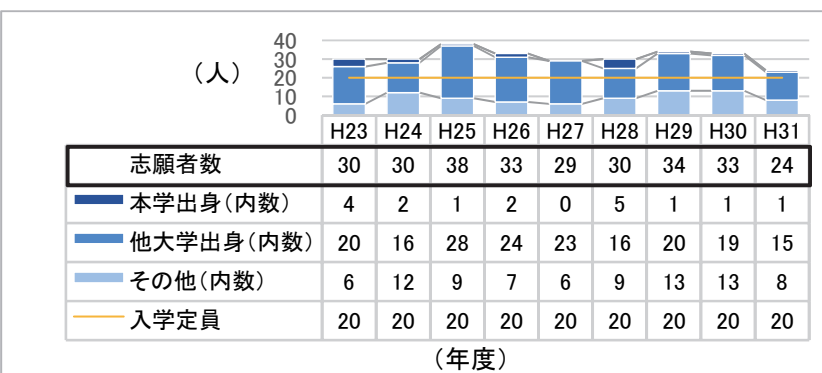
法務学府実務法学専攻【法科大学院】



経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】



医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

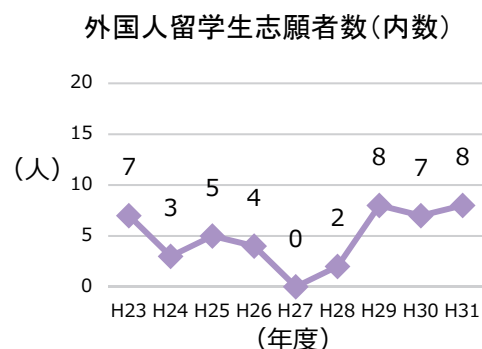
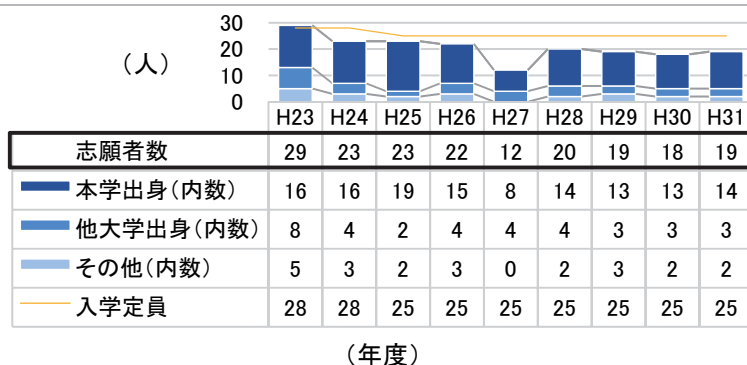


出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

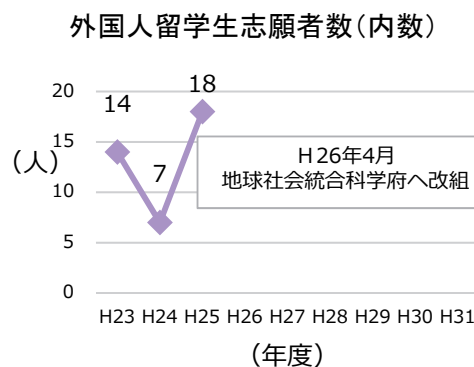
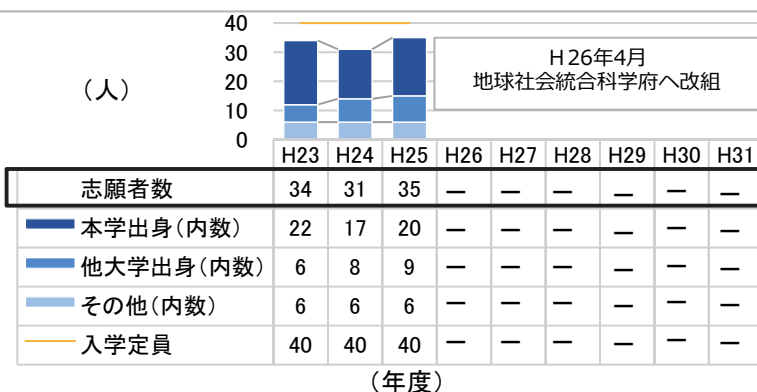
4-2-3. 志願状況推移(大学院_博士後期課程)

学府別にみると、地球社会統合科学府及び総合理工学府は修士課程と比較して、本学出身の志願者が多いことが分かる。

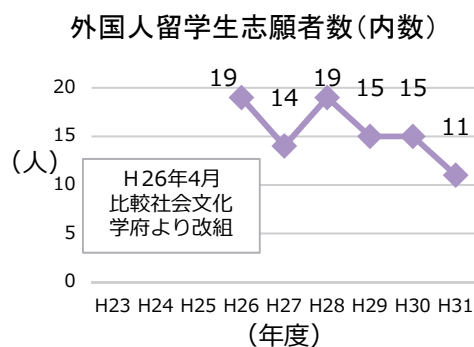
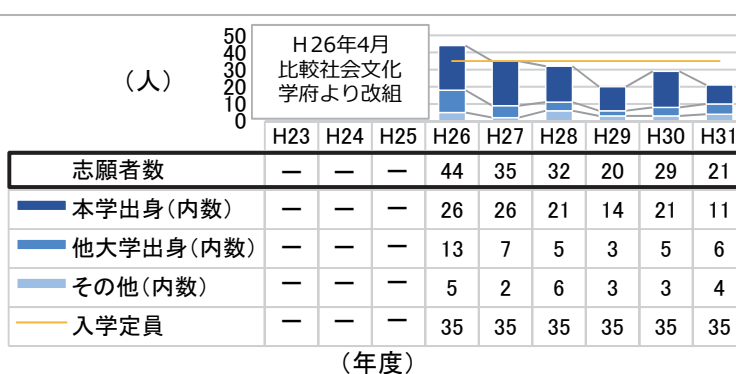
【人文科学府】



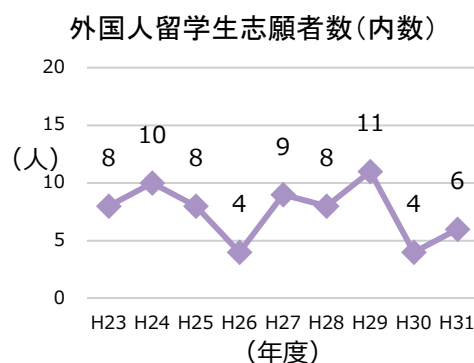
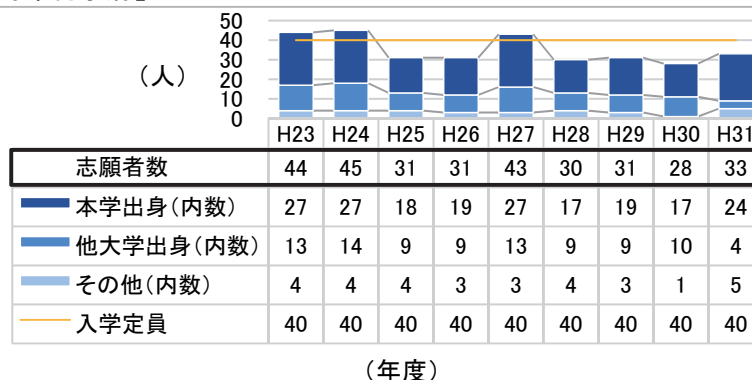
【比較社会文化学府】※H26年度より募集停止



【地球社会統合科学府】



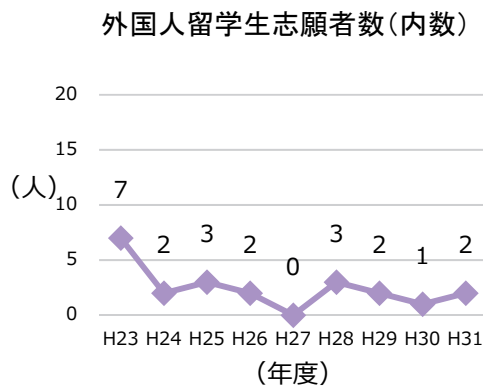
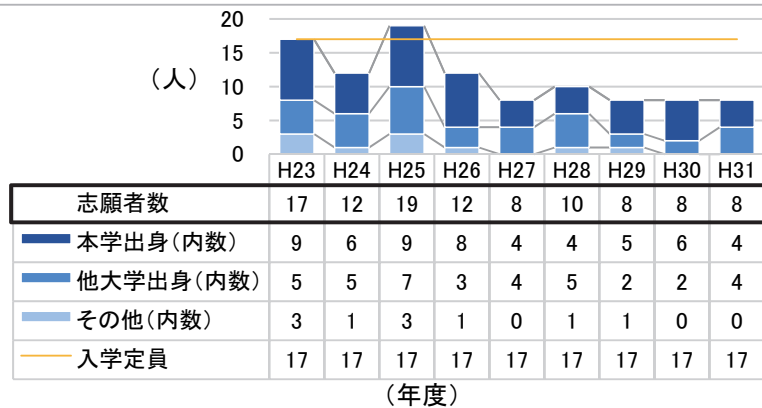
【人間環境学府】



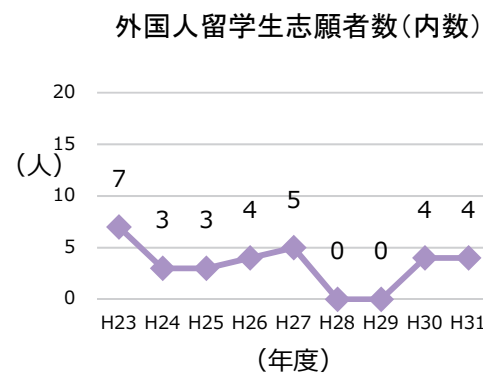
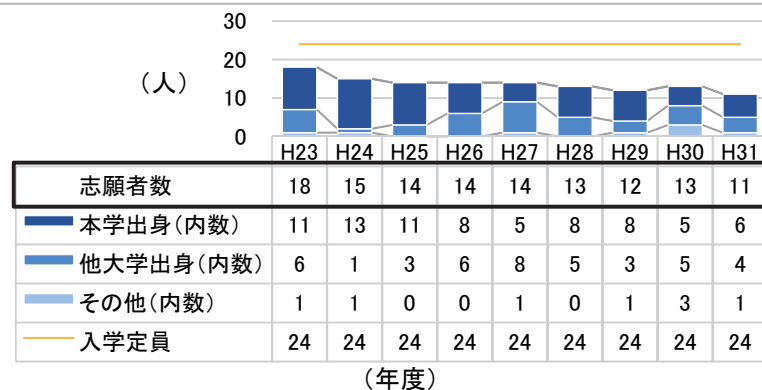
※出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-3. 志願状況推移(大学院_博士後期課程)(つづき)

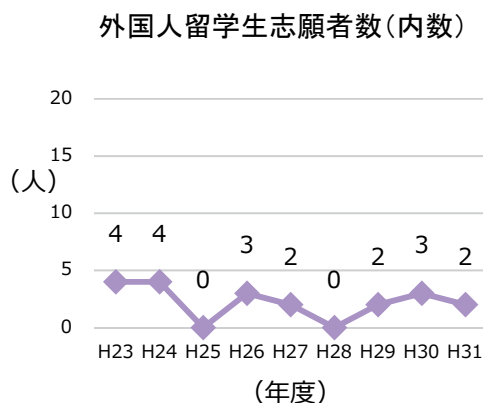
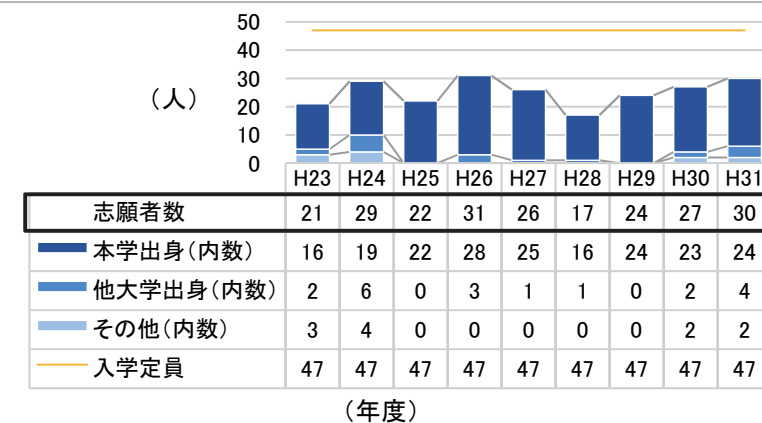
【法学府】



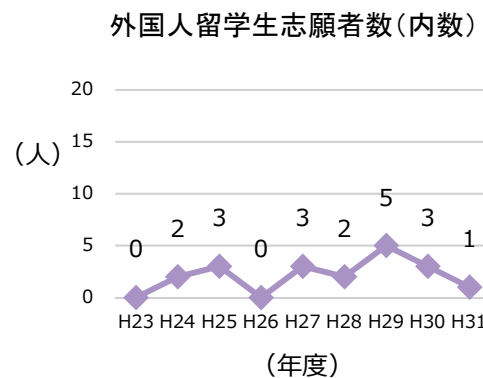
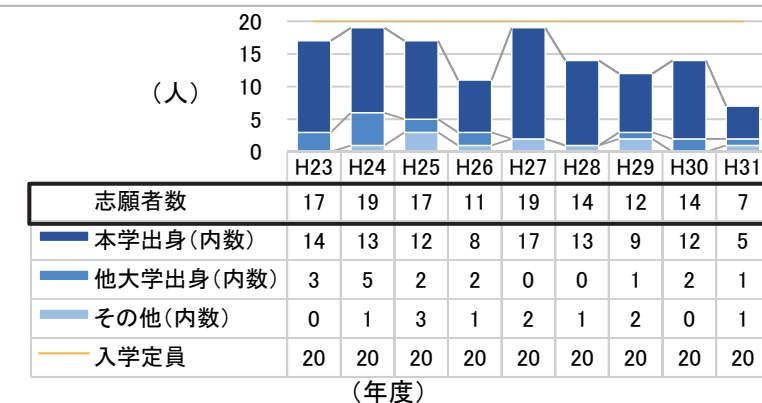
【経済学府】



【理学府】



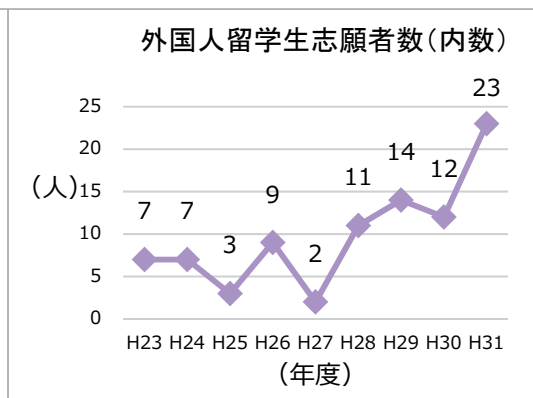
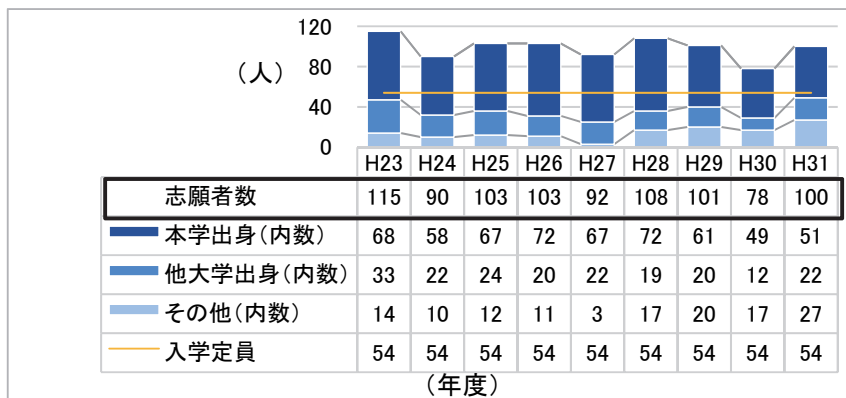
【数理学府】



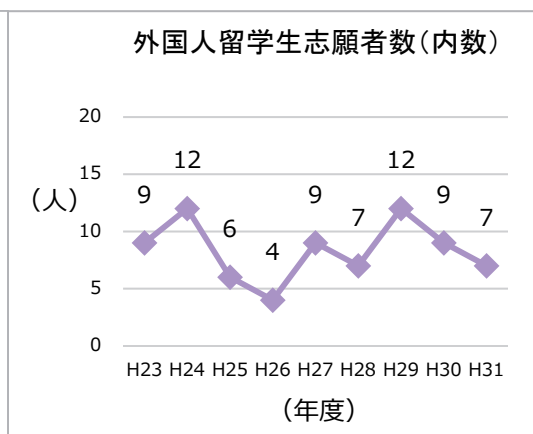
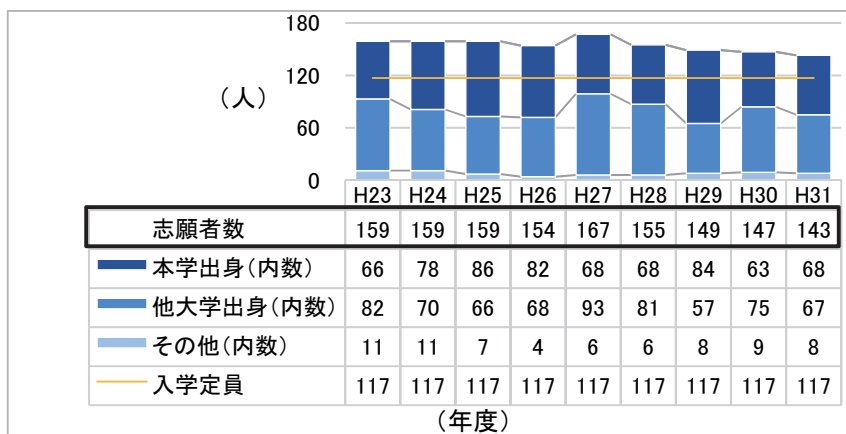
※出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-3. 志願状況推移(大学院_博士後期課程)(つづき)

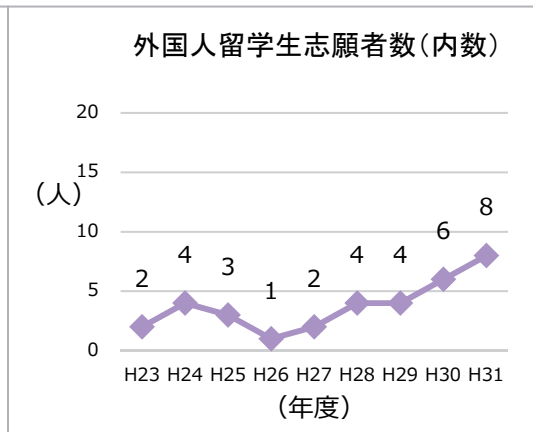
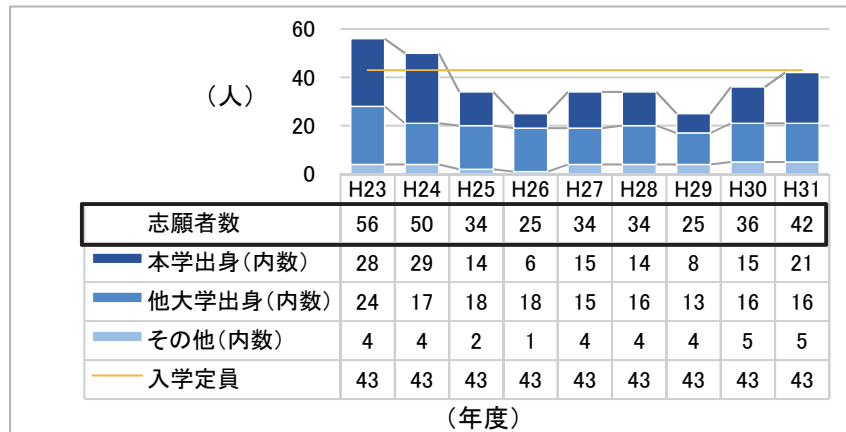
【システム生命科学府】



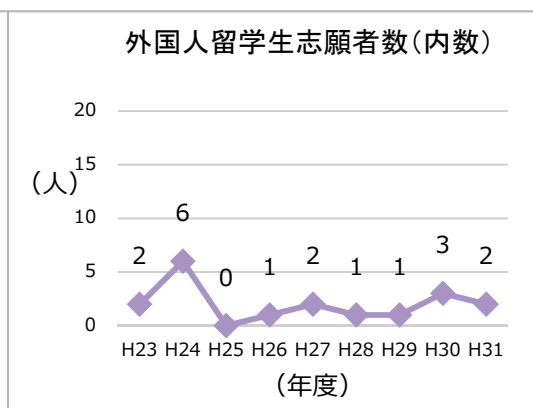
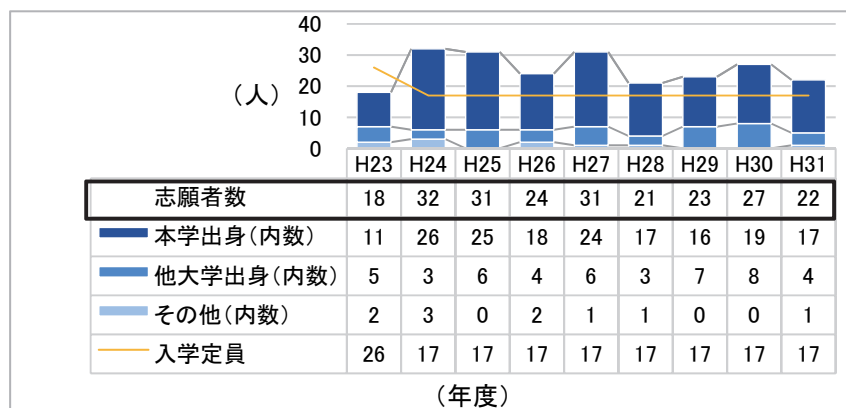
【医学系学府】



【歯学府】



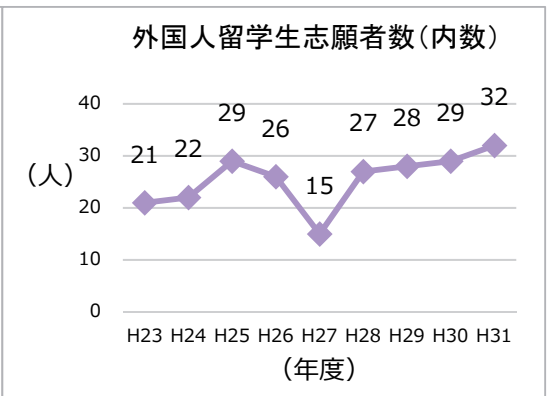
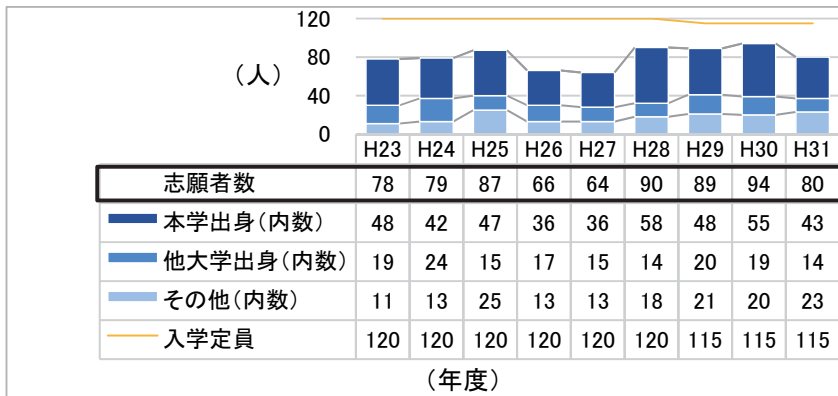
【薬学府】



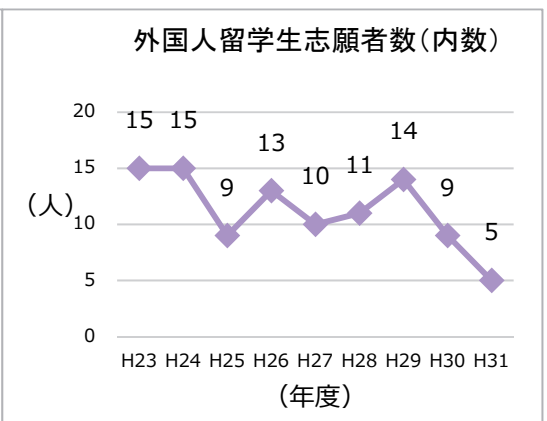
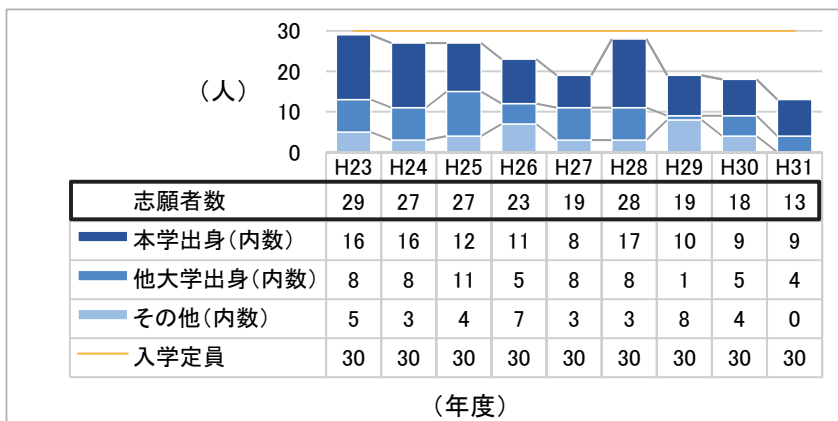
※出典:九州大学学務部入試課保有データ[大学院]入学状況

4-2-3. 志願状況推移(大学院_博士後期課程)(つづき)

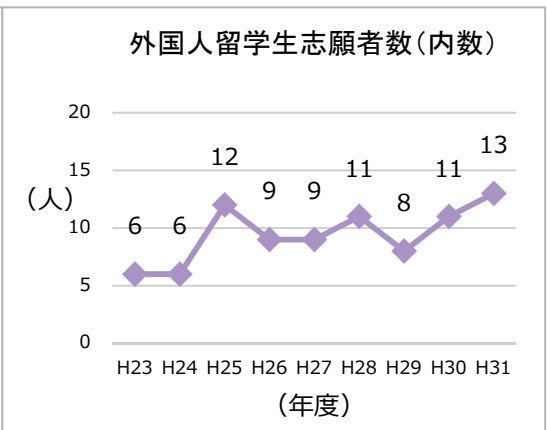
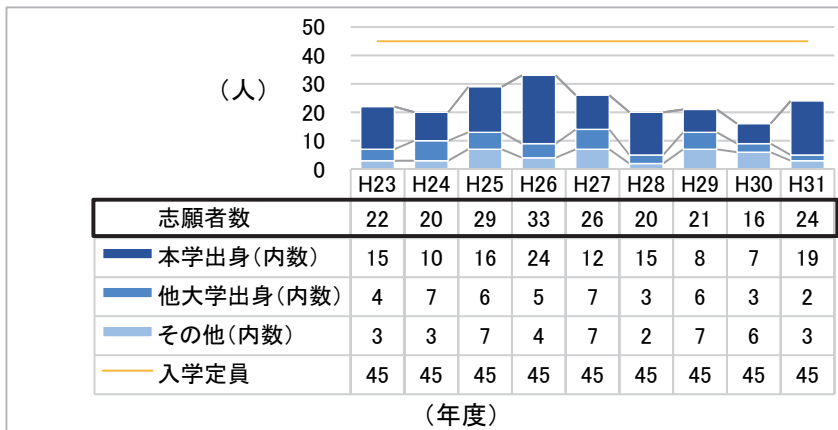
【工学府】



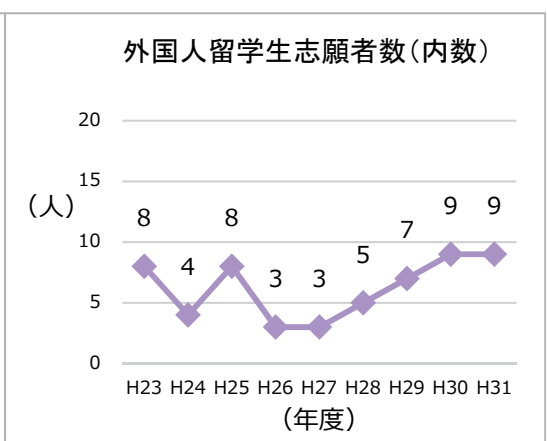
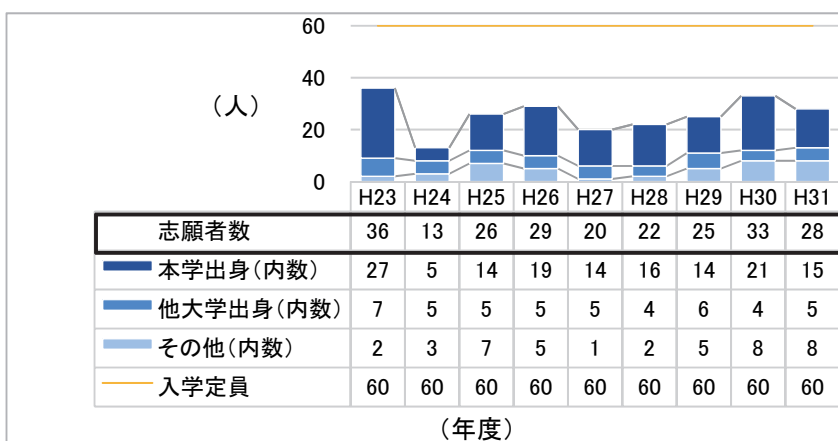
【芸術工学府】



【システム情報科学府】



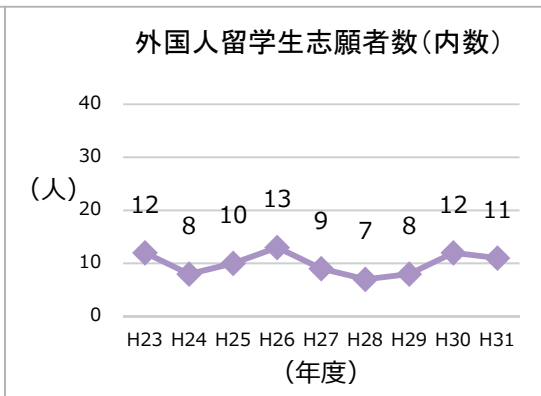
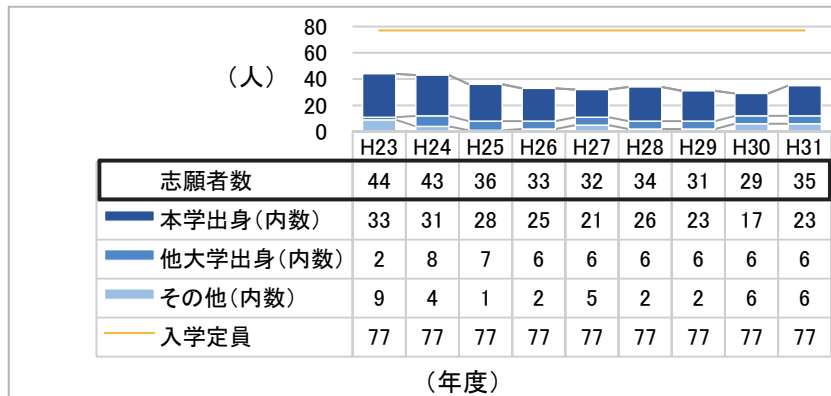
【総合理工学府】



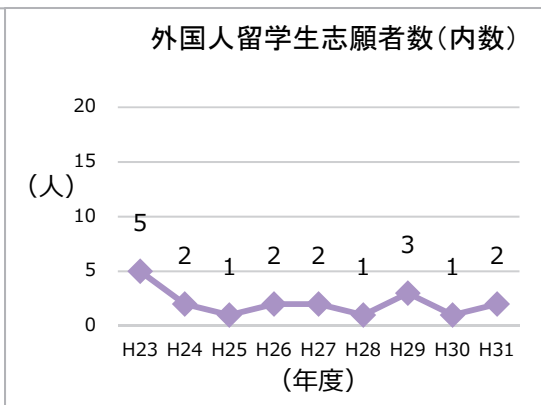
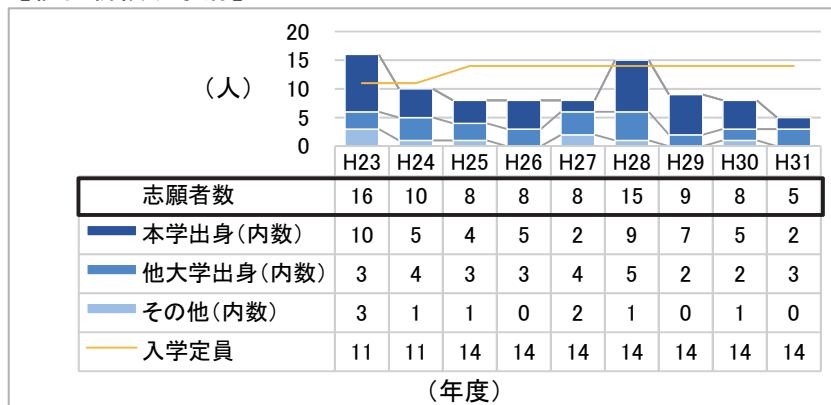
※出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

4-2-3. 志願状況推移(大学院_博士後期課程)(つづき)

【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】



※出典:九州大学学務部入試課保有データ「[大学院]入学状況」

5. 入学状況

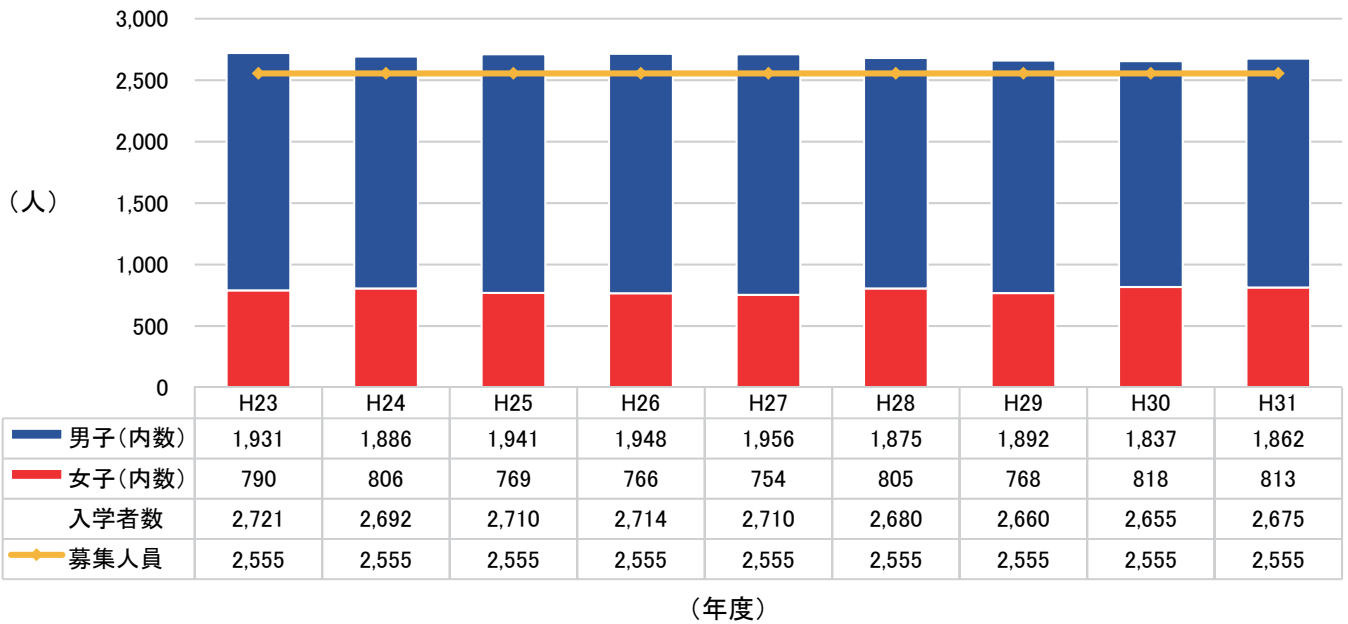
5-1. 入学状況(学部)

5-1-1. 入学者数推移(全体)

入学者数は、本学を含む国立大学では減少傾向にあるが、公立大学と私立大学は増加傾向にある。

◆九州大学◆

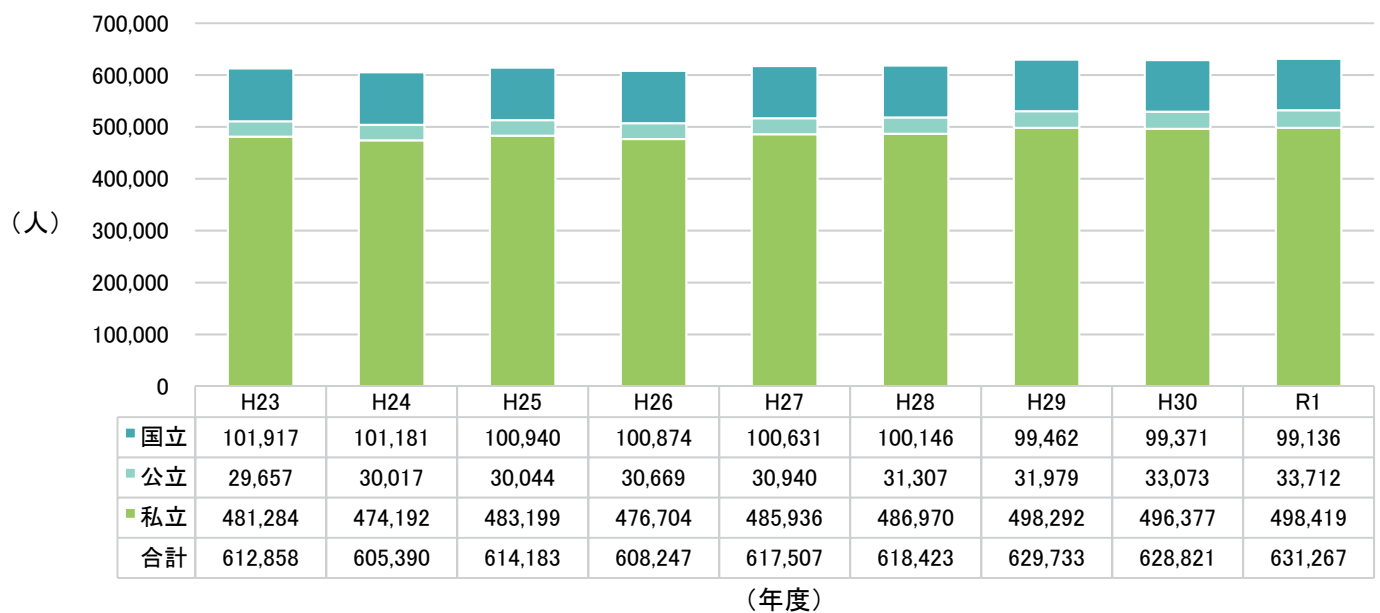
入学者数推移



※出典：4月入学者数：九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数：学務部保有データ(各年度10月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

入学者数推移

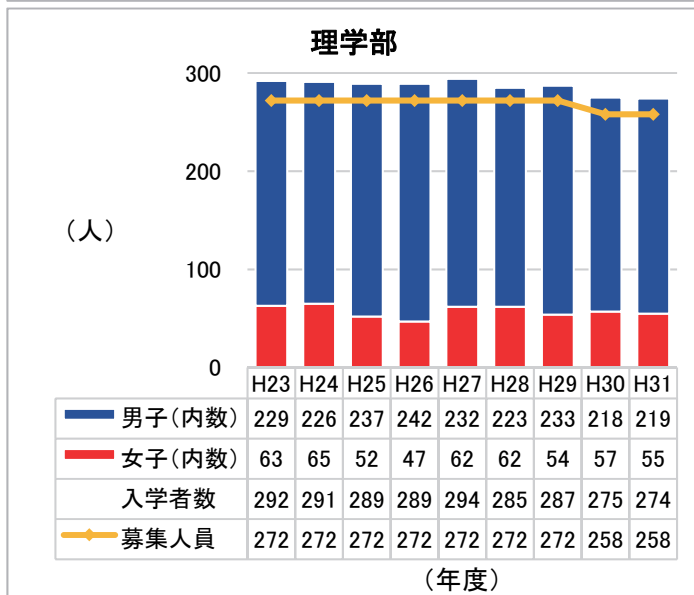
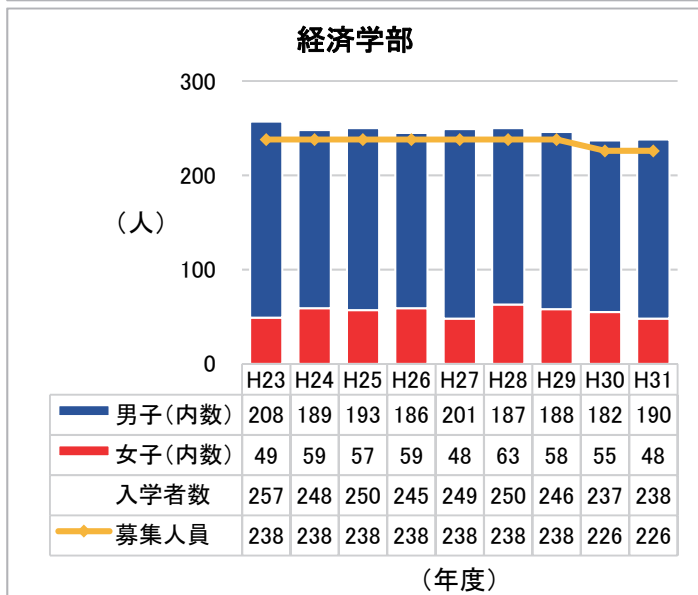
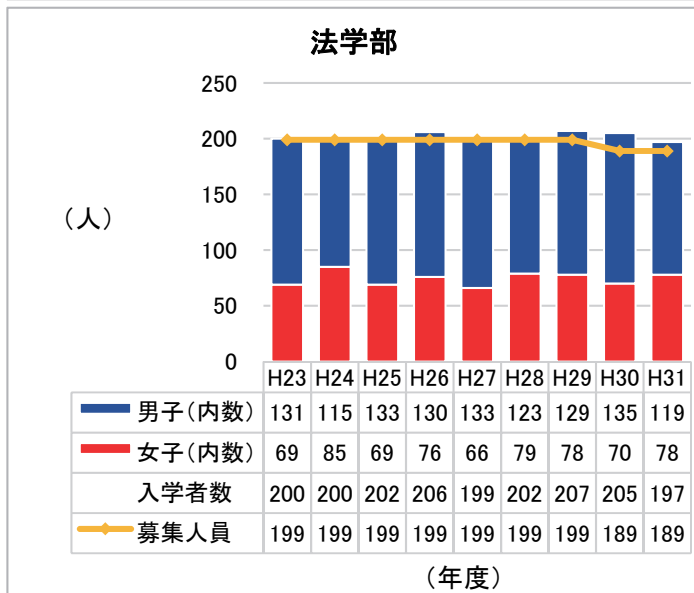
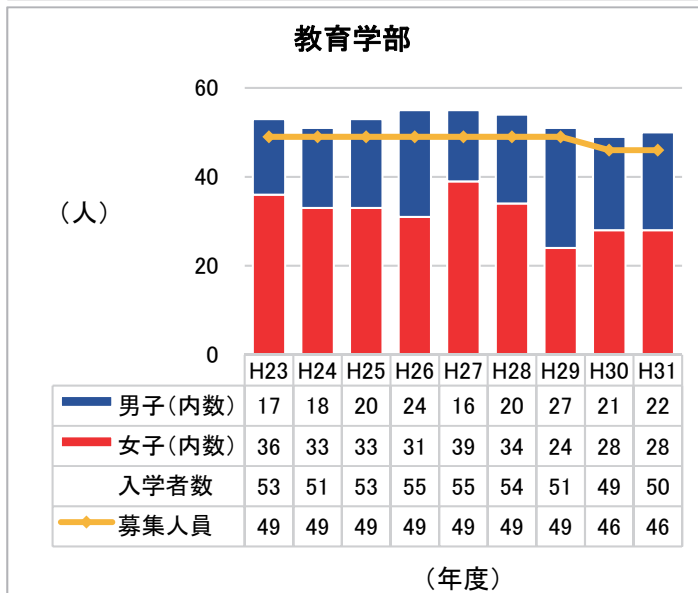
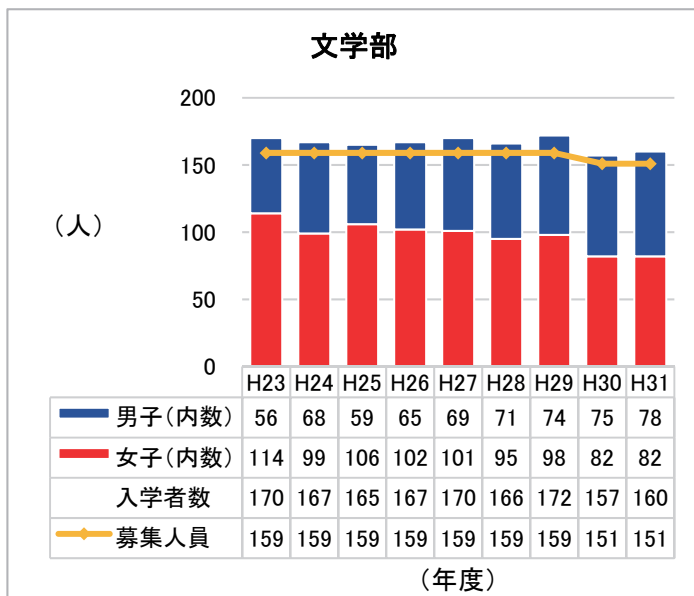
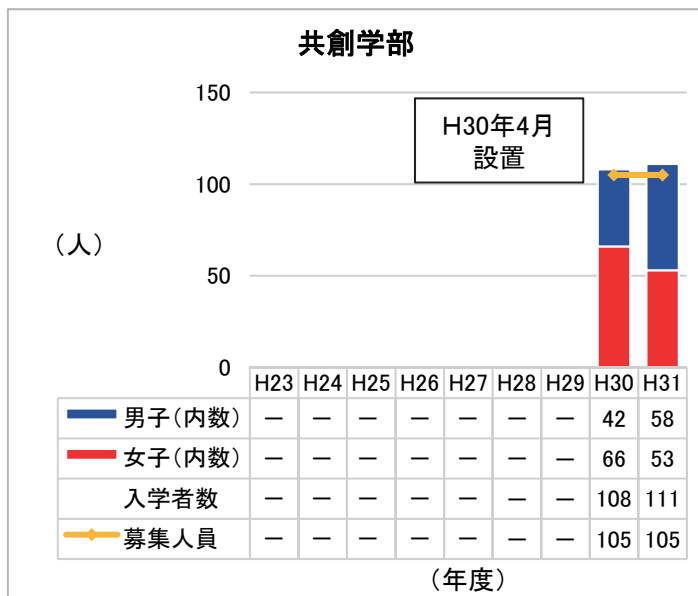


・入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない。

※出典：文部科学省 学校基本調査「入学者数」

5-1-2. 入学者数推移(学部別)

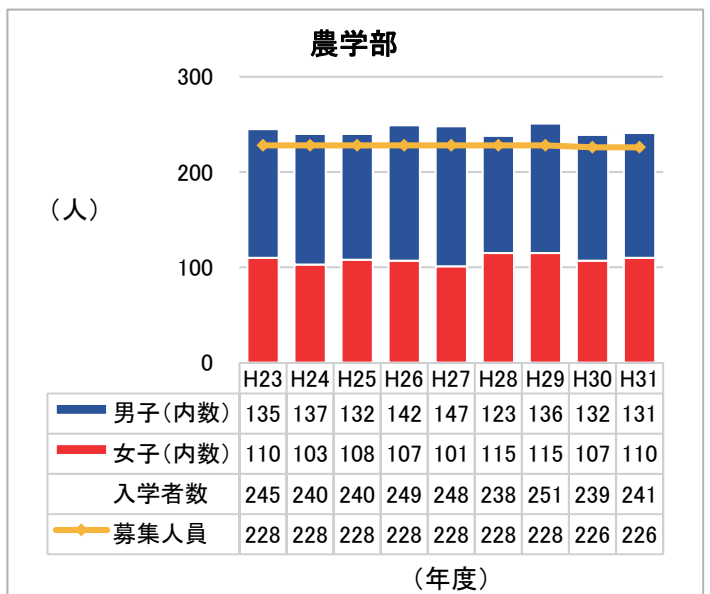
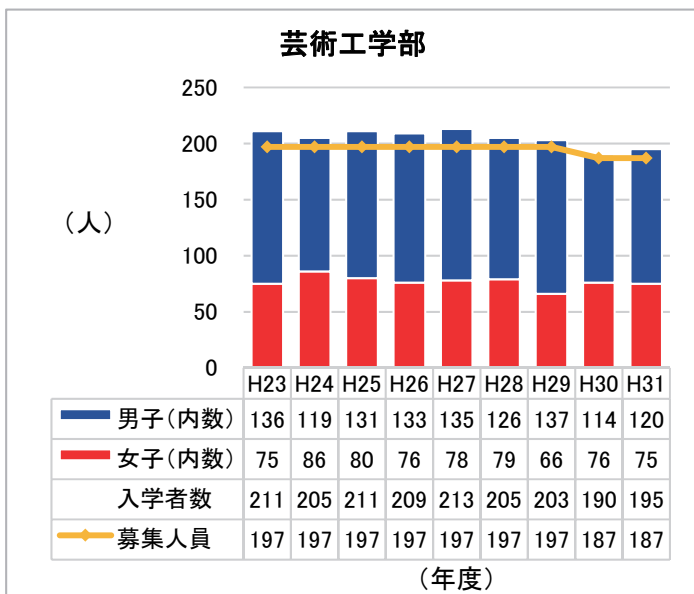
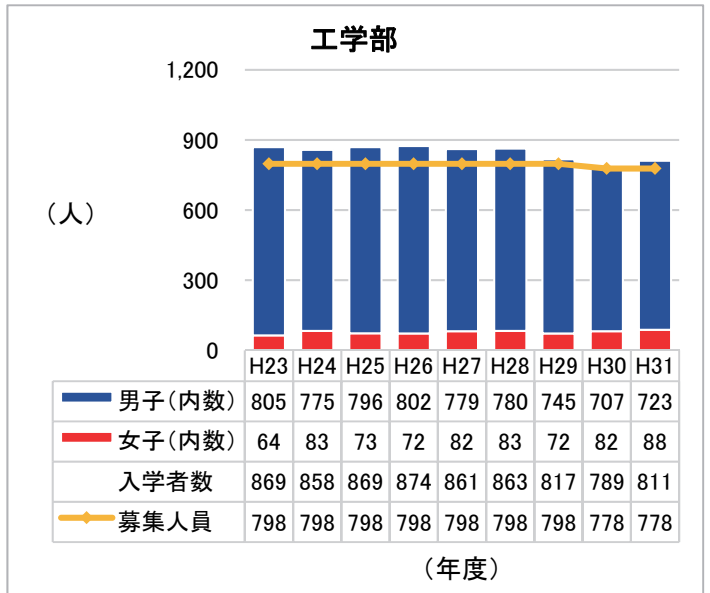
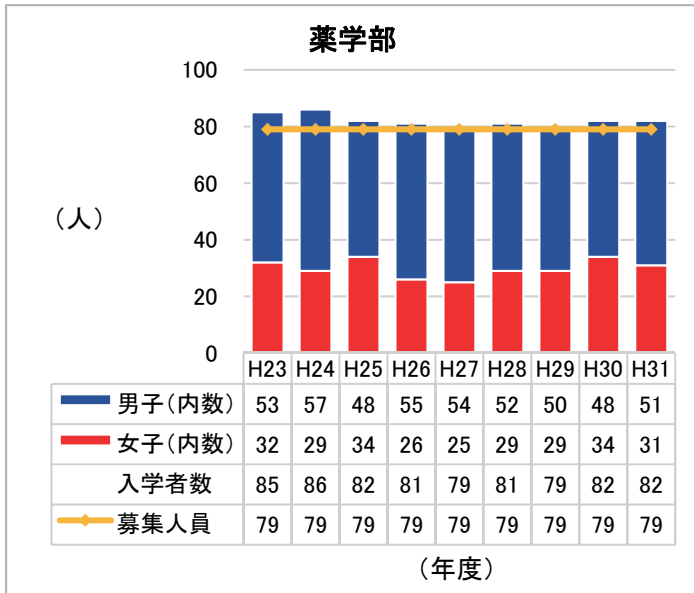
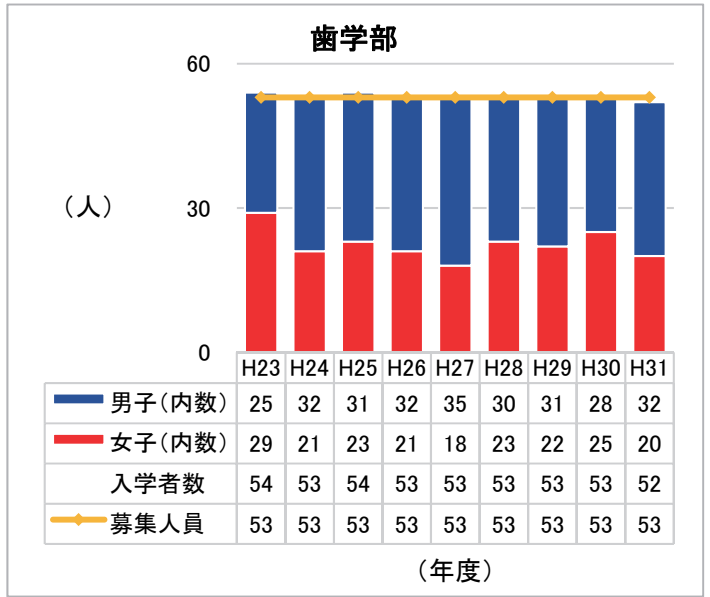
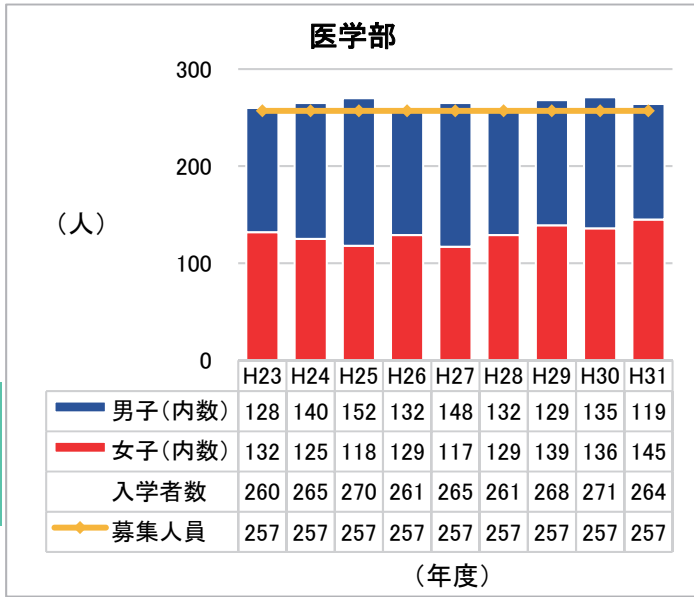
全体的にみて、大幅な増減なく入学者数を確保できている。



・国費、政府派遣、日韓共同留学生を含む。

※出典：4月入学者数：九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数：学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-1-2. 入学者数推移(学部別)(つづき)

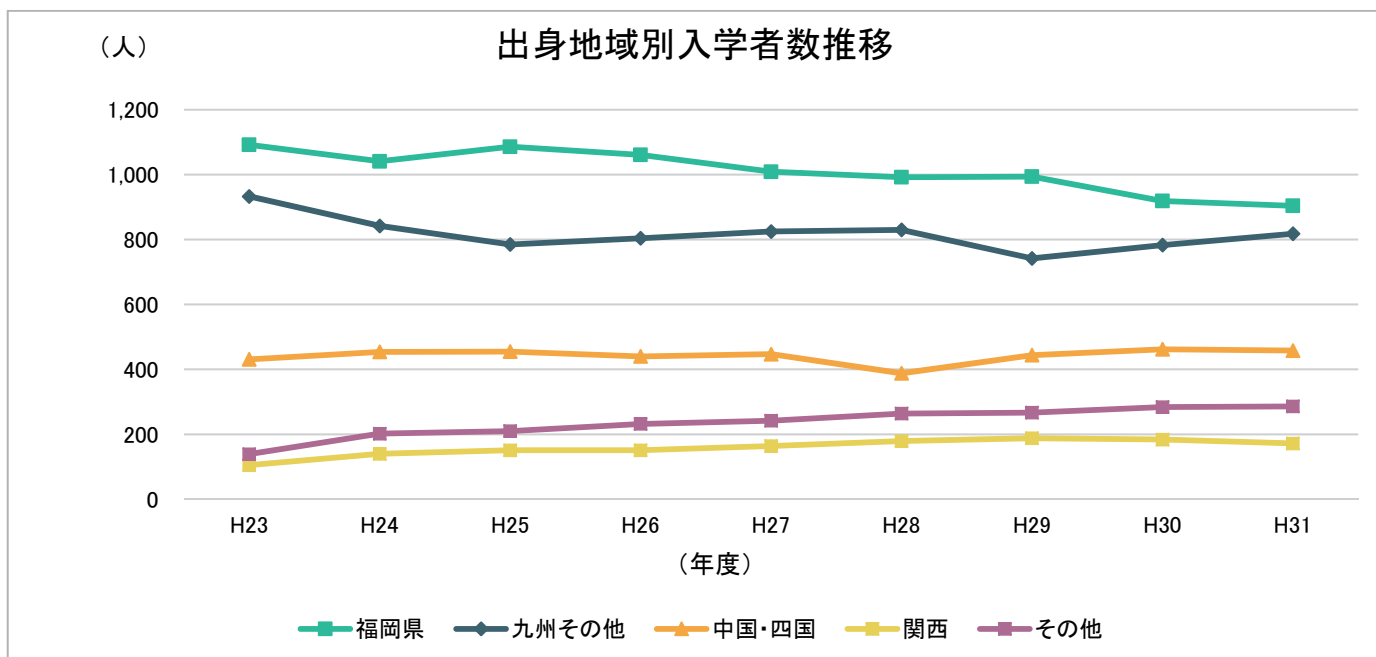


・国費、政府派遣、日韓共同留学生含む。

※出典：4月入学者数：九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数：学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-1-3. 出身地域別入学者数推移

入学者の出身地域に大きな変化は見られないが、福岡県出身者が減少傾向にあり、関西地域が増加傾向である。



※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

【参考】◆他大学との比較◆

【自分の子どもに入学してほしい】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,048
2	京都大	770
3	早稲田大	446
4	慶應義塾大	375
5	大阪大	234
6	九州大	144
7	東北大	122
8	明治大	106
9	北海道大	98
10	一橋大	87

(2018)

【一般入試合格者のうち入学者の比率(国立大学)】

順位	大学名	%
1	旭川医科大	100.0
2	東京芸術大	99.8
3	京都大	99.6
3	東京大	99.6
5	一橋大	99.5
6	滋賀医科大	99.2
7	東京工業大	98.8
8	大阪大	98.2
	⋮	
18	九州大	95.5

(2018)

●ランキングの見方(出典より引用):「自分の子供に入学してほしい」

大学通信調べ、全国の社会人を対象としたインターネット調査を実施し、項目別に大学ランキングをまとめた。調査期間は2018年6月。回答者数は1,000人で、大学卒の会社員または公務員が調査対象となる。地域が偏ることなく調査を実施、男女比もほぼ1対1となっている。質問項目に対し、「全国にある大学の中から3大学」と「あなたの住むエリアおよび近隣にある大学から3大学」の最大6校を回答してもらい、回答順にそれぞれ3ポイント、2ポイント、1ポイントとして集計した。

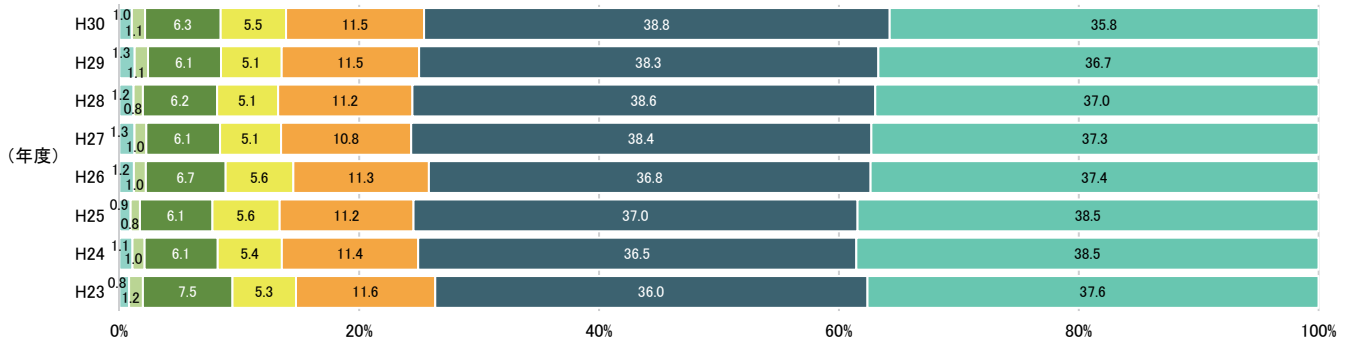
※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2020年度版」

【参考】所在地域・県別の国公私立大学入学者数

福岡県の高校卒業者の大学進学先について、地域別にまとめたものである。

国立大学では、75%が九州・沖縄地方の大学へ、次いで、中国・四国地方に11%、関東地方に6%となっており、西日本の大学への入学者が多いことが分かる。国公私立大学で見ると、福岡県内の大学への進学が約65%という状況が続いていることが分かる。

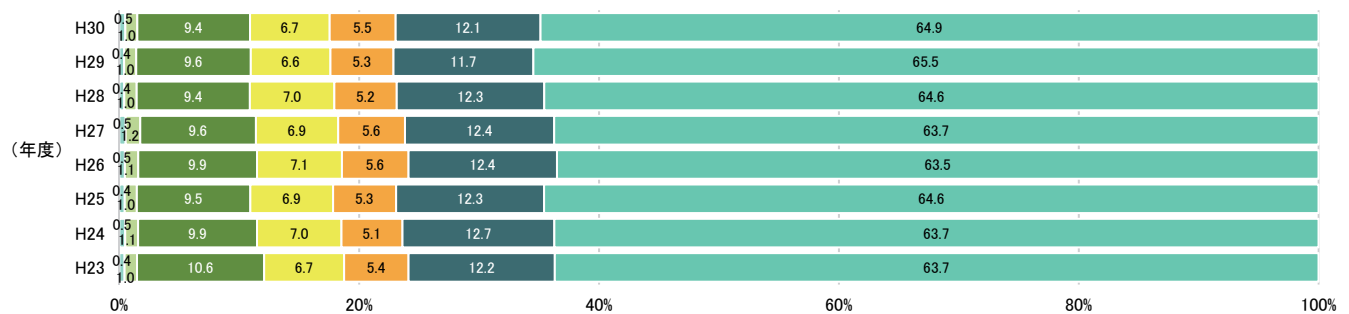
◆国立大学◆



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道・東北地方	41	54	46	61	63	57	61	49
中部地方	59	50	38	50	49	38	54	52
関東地方	382	300	296	335	306	299	292	297
近畿地方	270	264	274	284	254	246	243	257
中国・四国地方	593	560	546	569	540	542	550	542
九州・沖縄地方(福岡県以外)	1,841	1,801	1,811	1,853	1,912	1,866	1,839	1,830
福岡県	1,921	1,900	1,881	1,880	1,858	1,788	1,763	1,685
合計	5,107	4,929	4,892	5,032	4,982	4,836	4,802	4,712

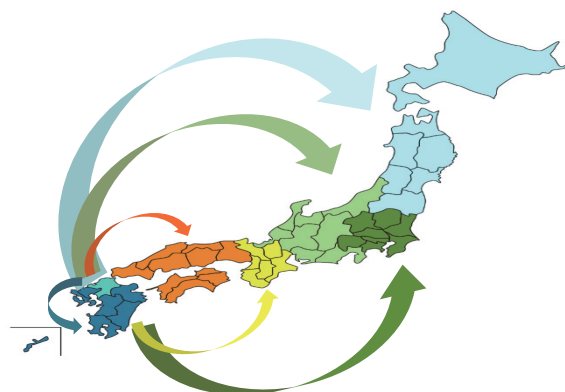
◆国公立大学◆

(単位:人)



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道・東北地方	98	106	99	103	120	94	92	112
中部地方	236	236	228	252	276	237	234	225
関東地方	2,416	2,181	2,120	2,232	2,202	2,153	2,212	2,122
近畿地方	1,518	1,545	1,545	1,596	1,565	1,609	1,537	1,502
中国・四国地方	1,223	1,120	1,180	1,253	1,271	1,188	1,219	1,242
九州・沖縄地方(福岡県以外)	2,776	2,782	2,765	2,789	2,841	2,807	2,701	2,728
福岡県	14,502	14,002	14,471	14,317	14,545	14,741	15,162	14,652
合計	22,769	21,972	22,408	22,542	22,820	22,829	23,157	22,583

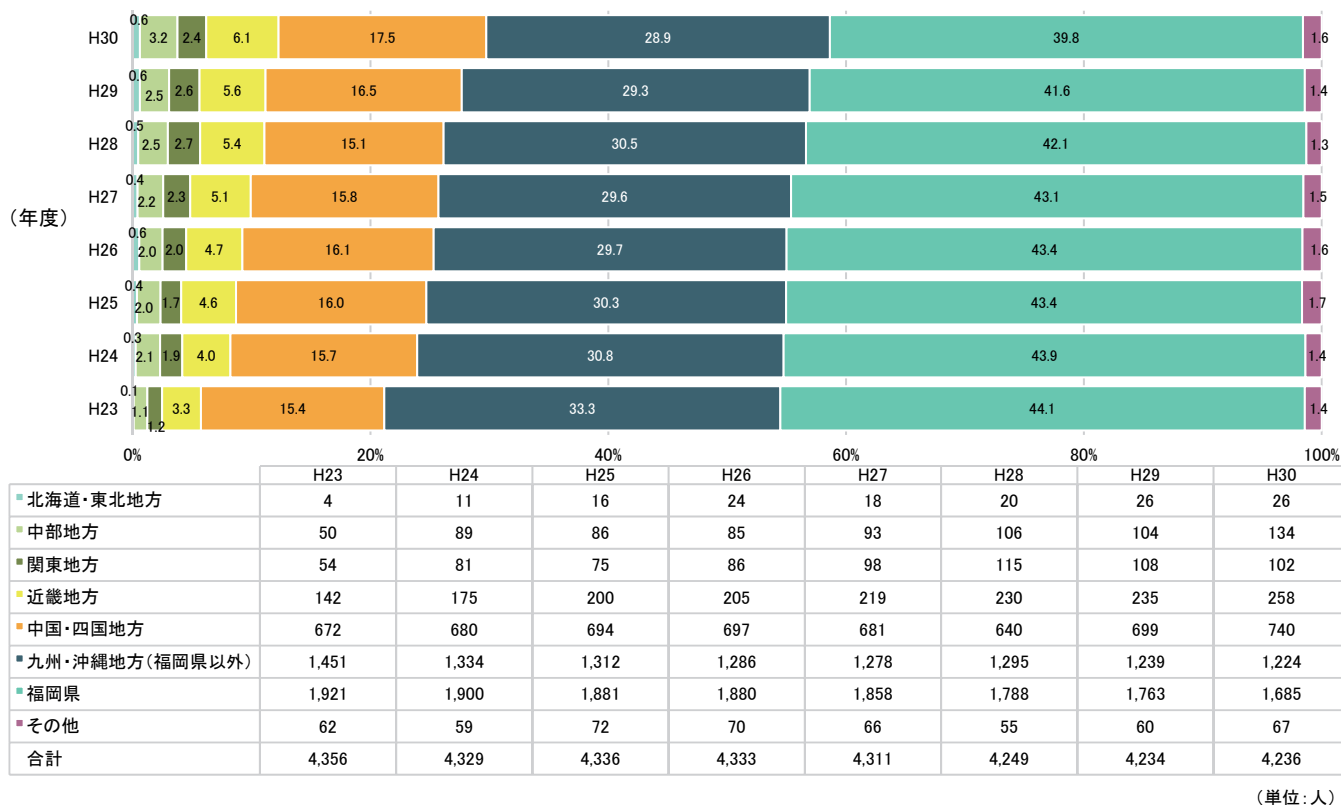
(単位:人)



※出典:文部科学省 学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」

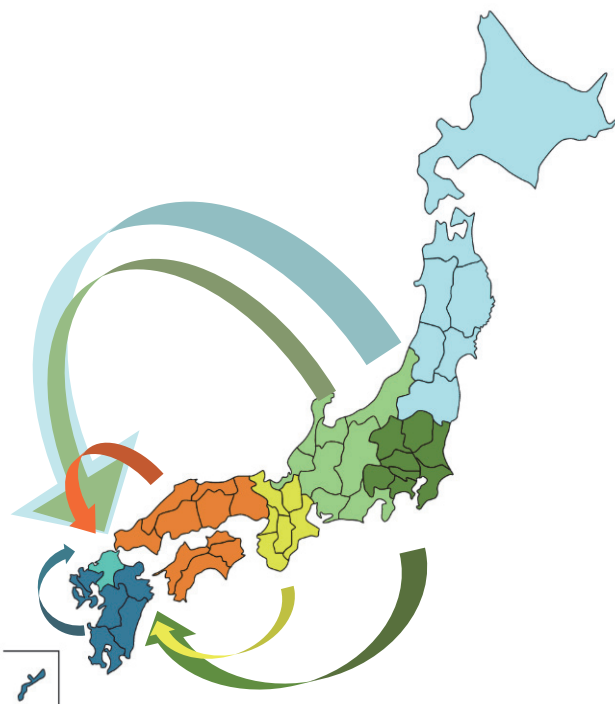
【参考】福岡県の国立大学入学者数

福岡県の国立大学に全国の高校卒業者が入学した人数をまとめたものである。
福岡県の大学に入学する高校卒業者の多くは九州・沖縄地方出身であるが、その割合は年々減少傾向にあり、平成30年度は70%を下回った。
一方、九州・沖縄地方以外の出身者の割合は年々増加傾向にあることがわかる。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道・東北地方	4	11	16	24	18	20	26	26
中部地方	50	89	86	85	93	106	104	134
関東地方	54	81	75	86	98	115	108	102
近畿地方	142	175	200	205	219	230	235	258
中国・四国地方	672	680	694	697	681	640	699	740
九州・沖縄地方(福岡県以外)	1,451	1,334	1,312	1,286	1,278	1,295	1,239	1,224
福岡県	1,921	1,900	1,881	1,880	1,858	1,788	1,763	1,685
その他	62	59	72	70	66	55	60	67
合計	4,356	4,329	4,336	4,333	4,311	4,249	4,234	4,236

(単位:人)



- ・入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない。
- ・大学の所在地は、入学した学部所在地による。
- ・「その他」とは、「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」「専修学校高等課程の修了者」及び「高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である(学校教育法施行規則第150条)

※出典:文部科学省 学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」

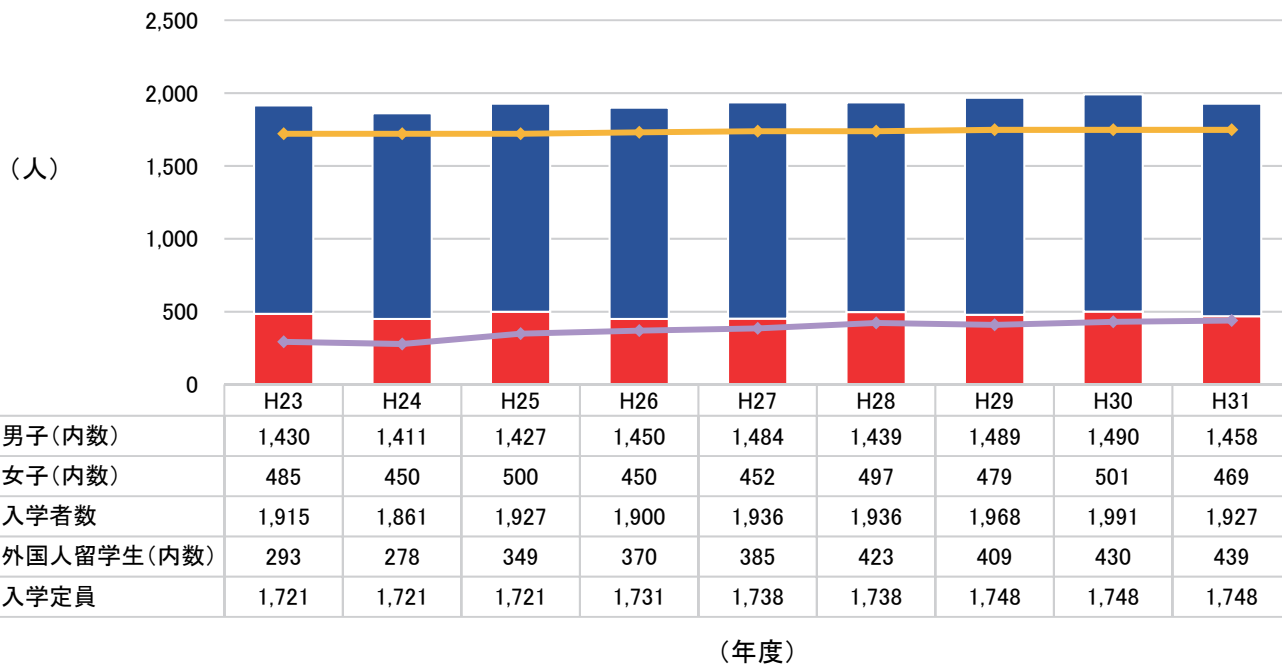
5-2. 入学状況(修士課程)

5-2-1. 入学者数推移(全体)

全国の入学者数は減少傾向にあるが、本学は一定の入学者数を確保できている。また、外国人留学生の入学者数は増加傾向にある。

◆九州大学◆

入学者数推移

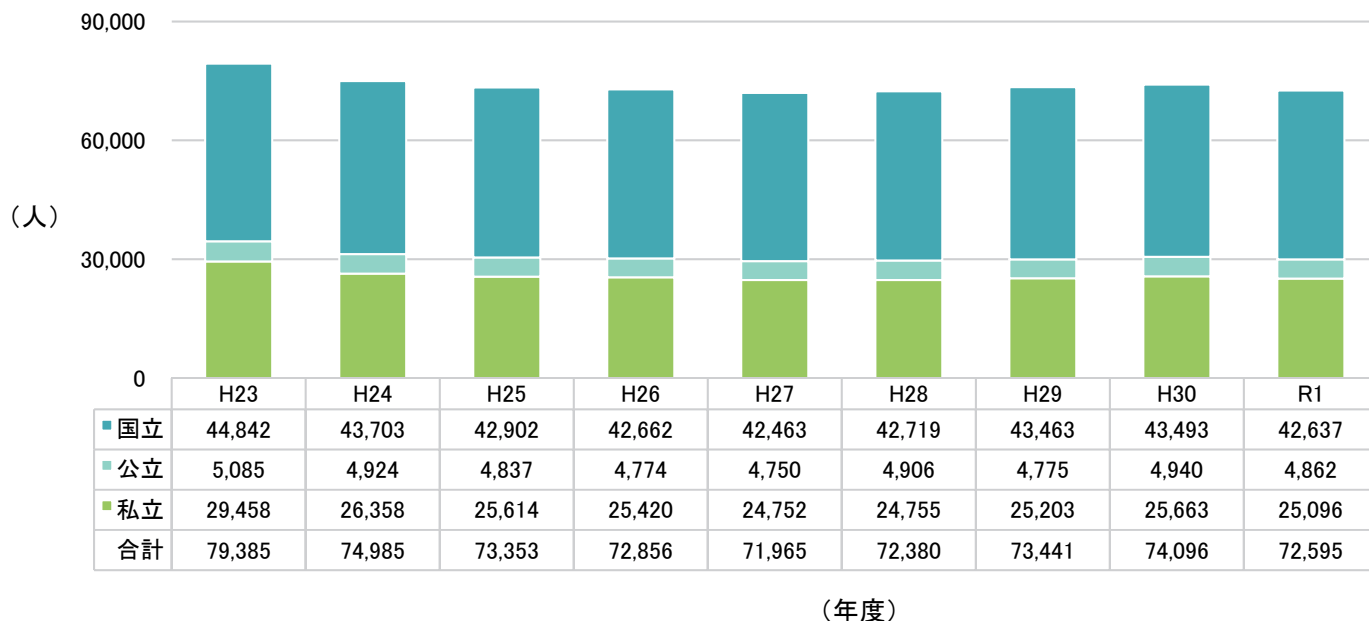


・専門職学位課程は含まない。

※出典：4月入学者数：九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数：学務部保有データ(各年度10月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

入学者数推移



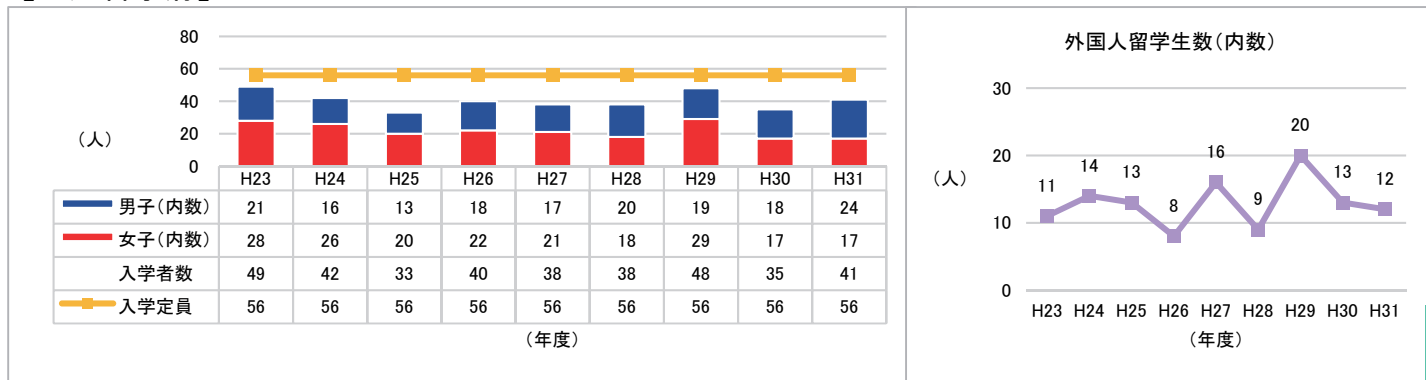
・入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない。

※出典：文部科学省 学校基本調査「大学院の専攻分野別入学状況」

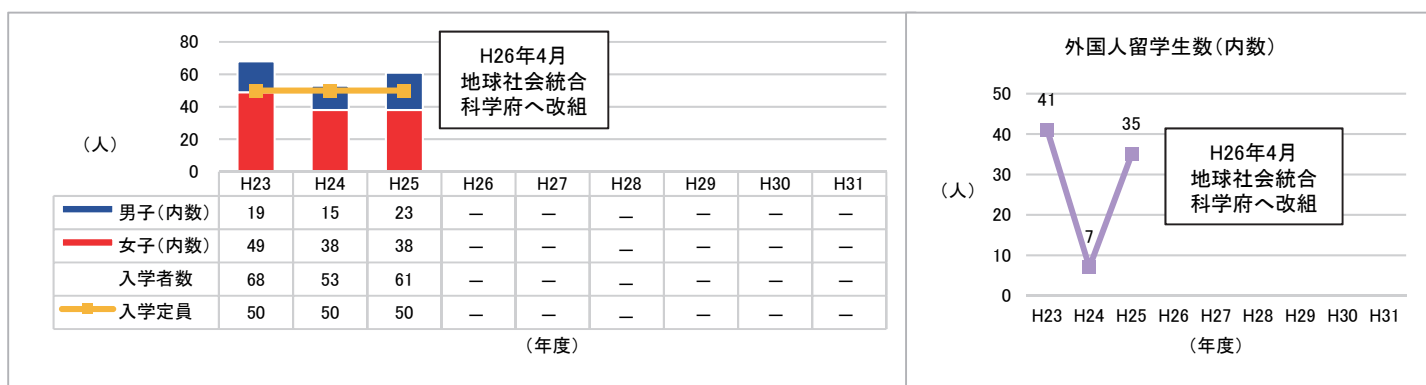
5-2-2. 入学者数推移(学府別)

学府別にみると、理学府、芸術工学府、システム情報科学府及び総合理工学府の外国人留学生の入学者数が、ここ数年増加していることがわかる。

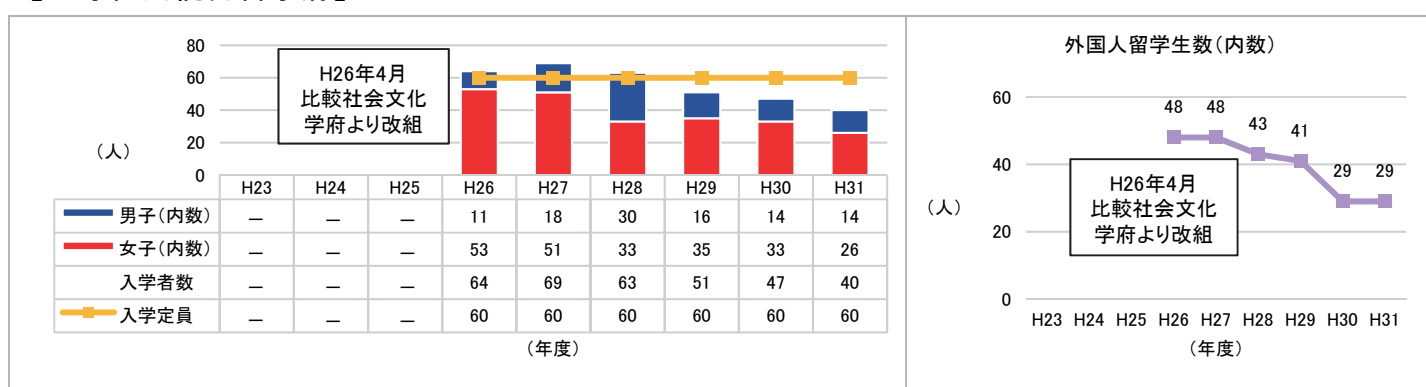
【人文科学府】



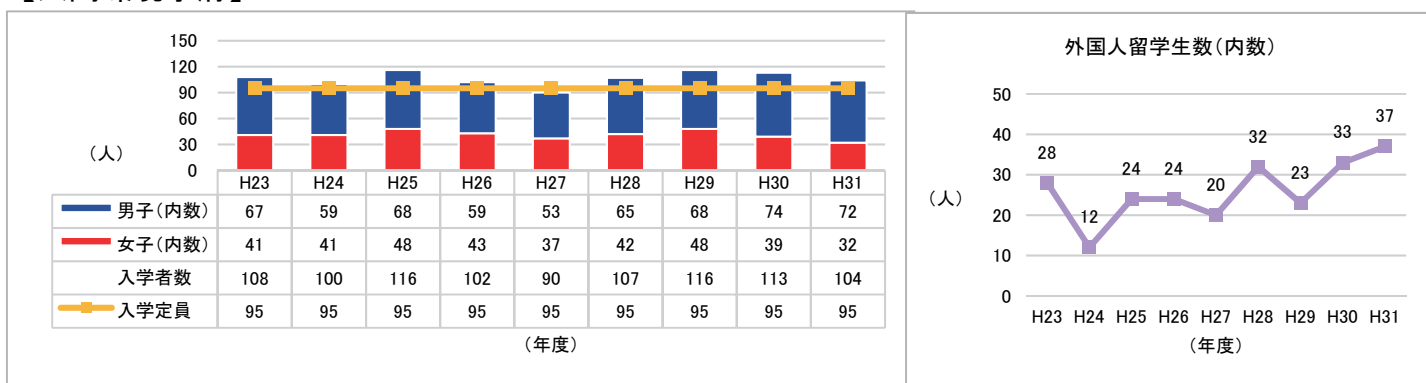
【比較社会文化学府】



【地球社会統合科学府】



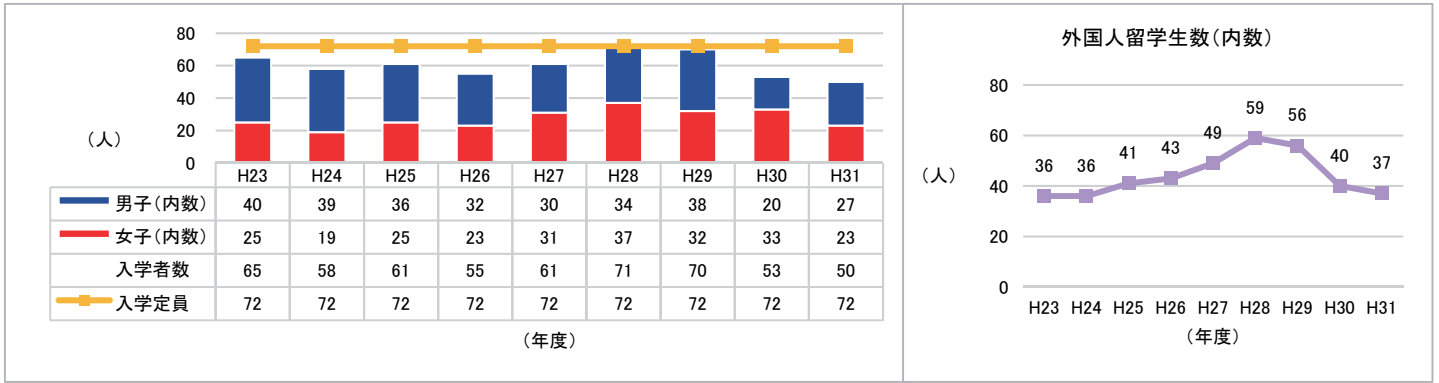
【人間環境学府】



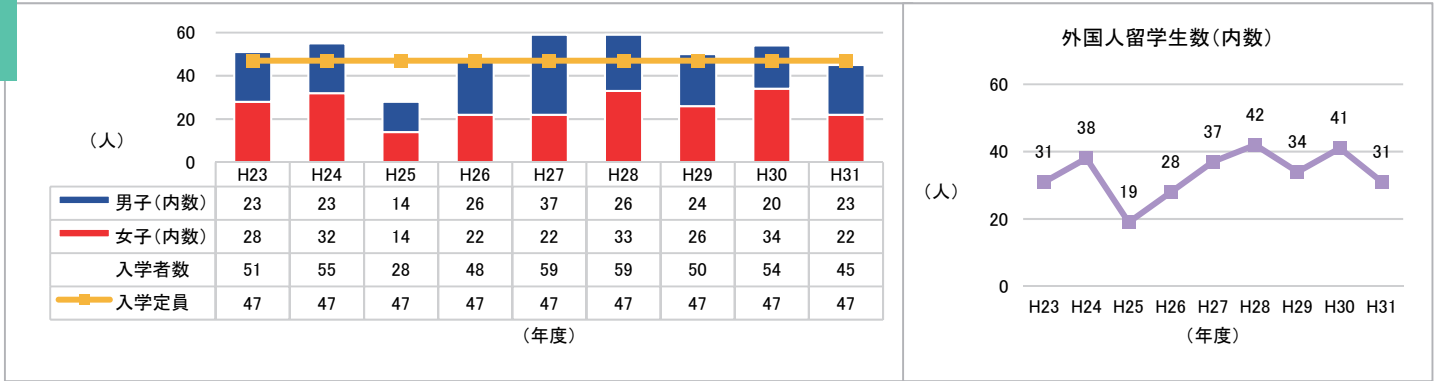
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-2-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

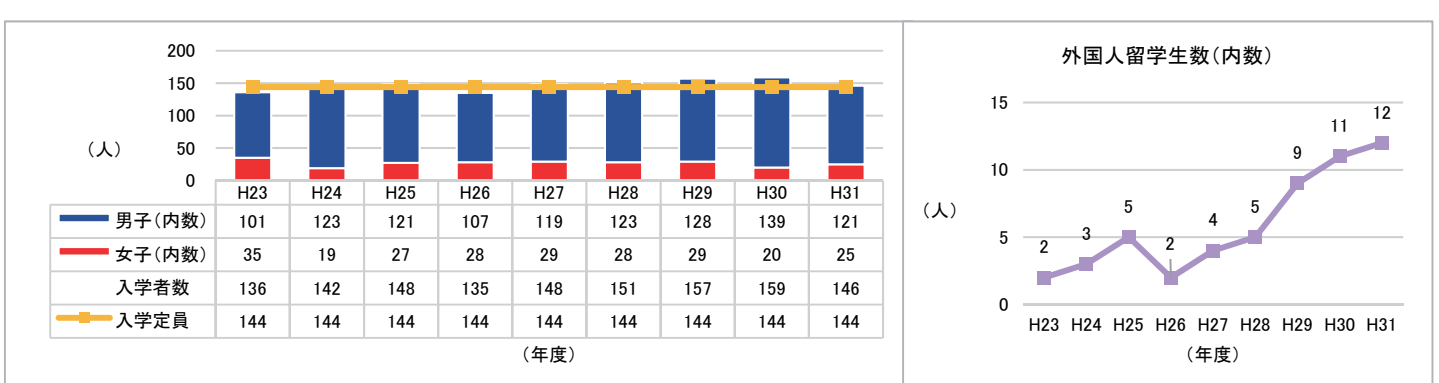
【法学府】



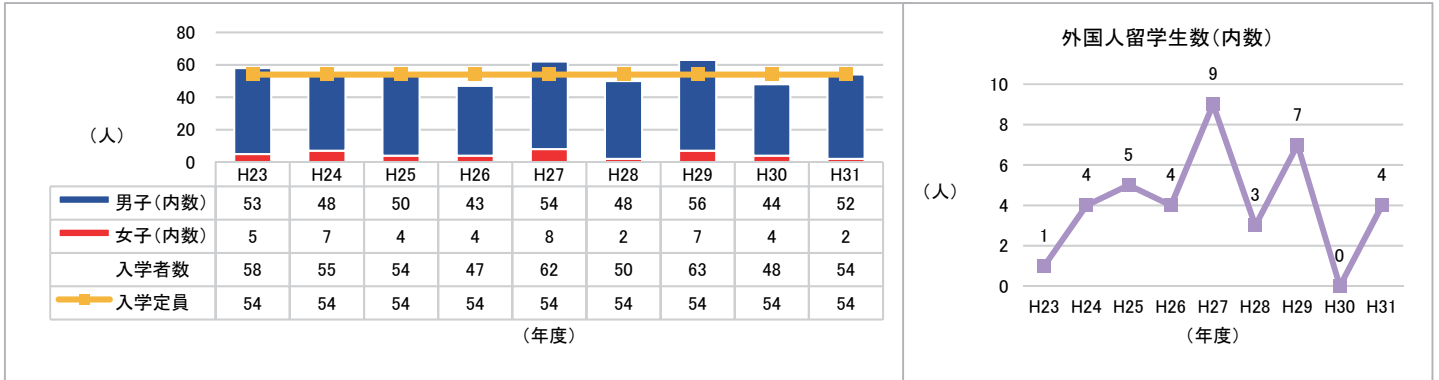
【経済学府】



【理学府】



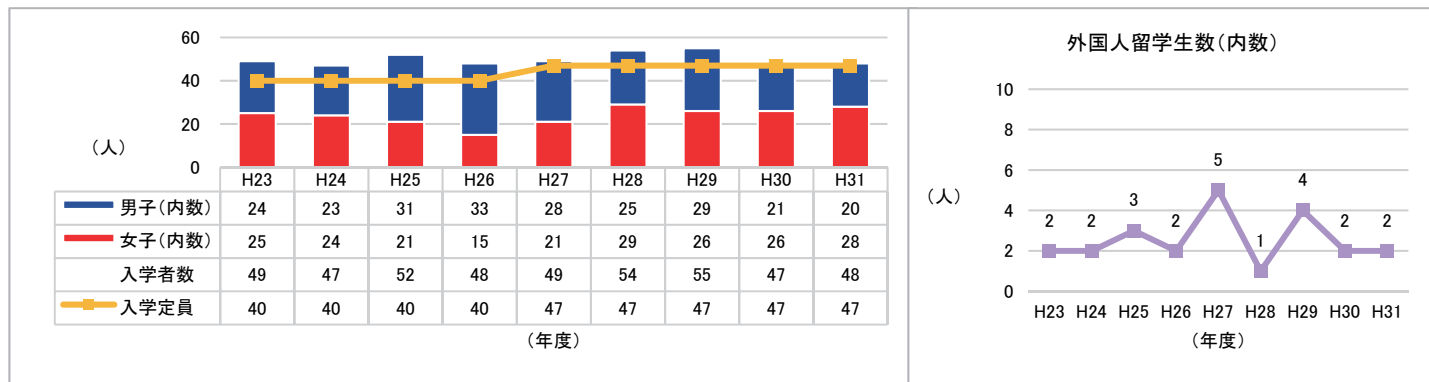
【数理学府】



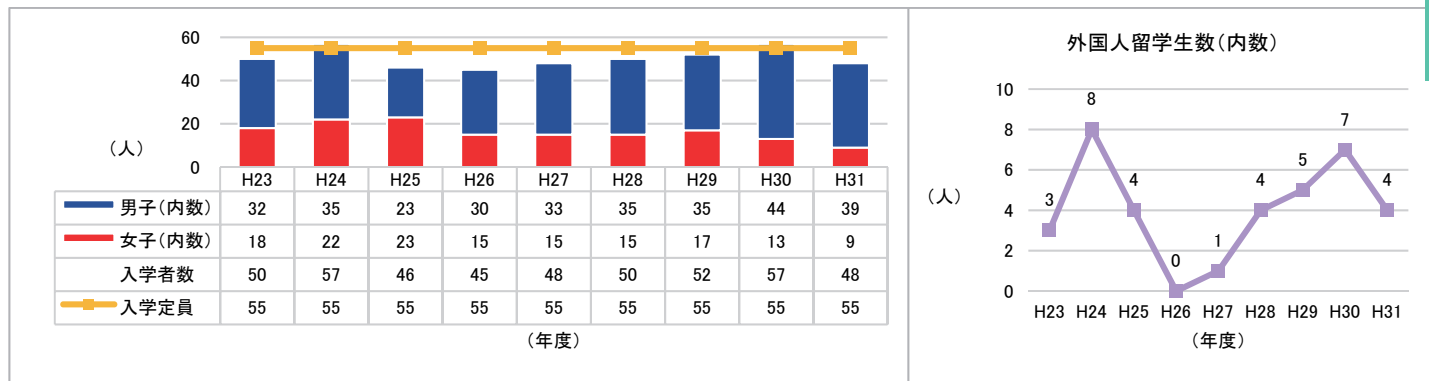
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-2-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

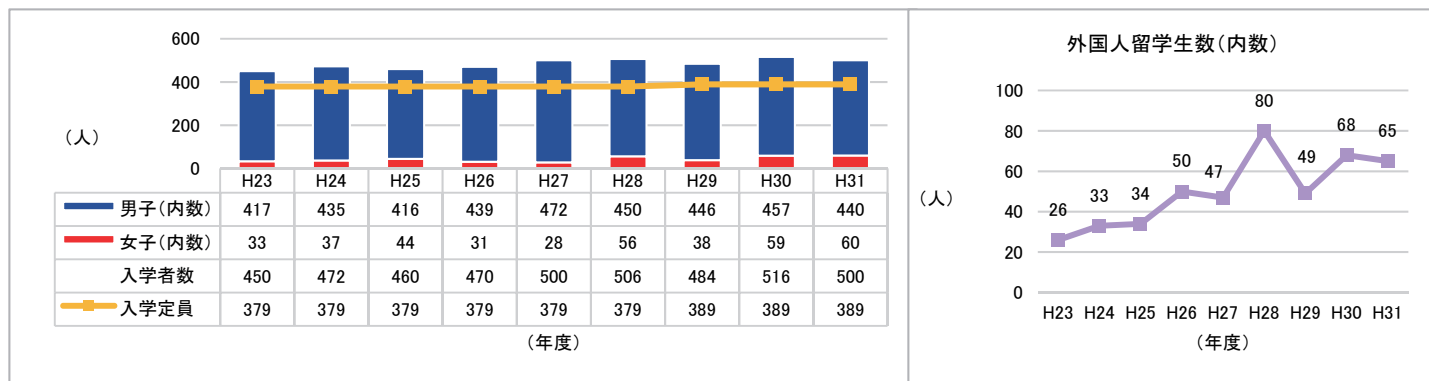
【医学系学府】



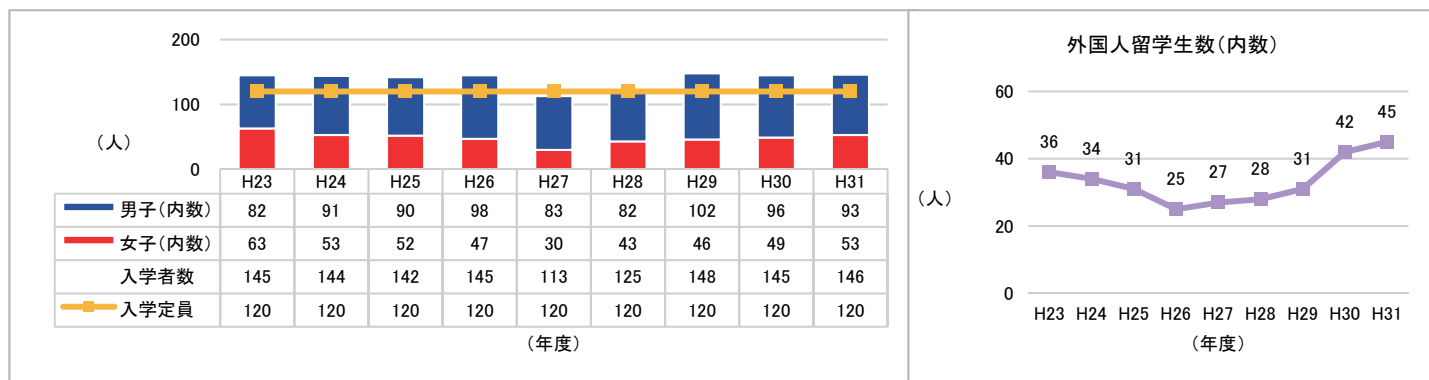
【薬学府】



【工学府】



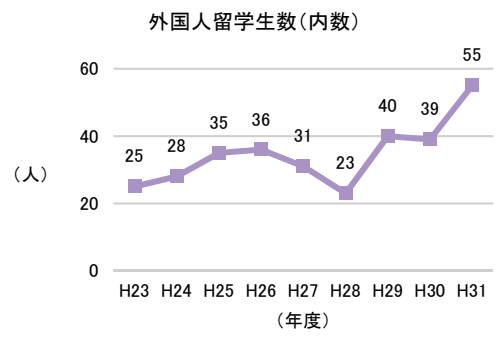
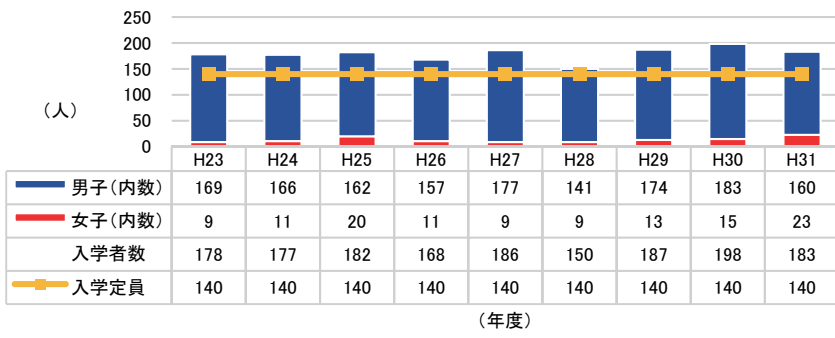
【芸術工学府】



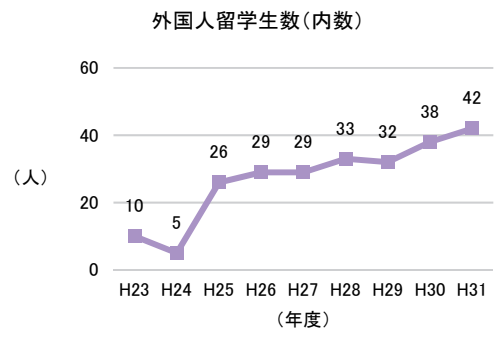
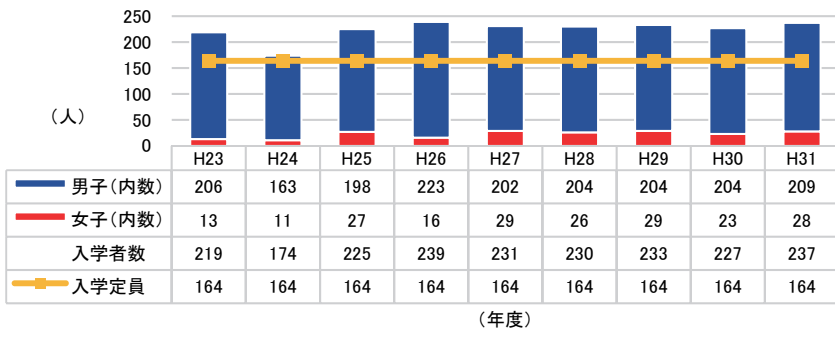
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-2-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

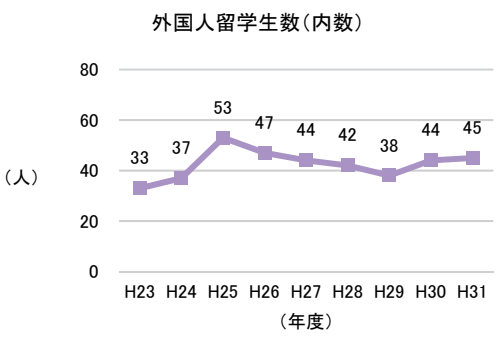
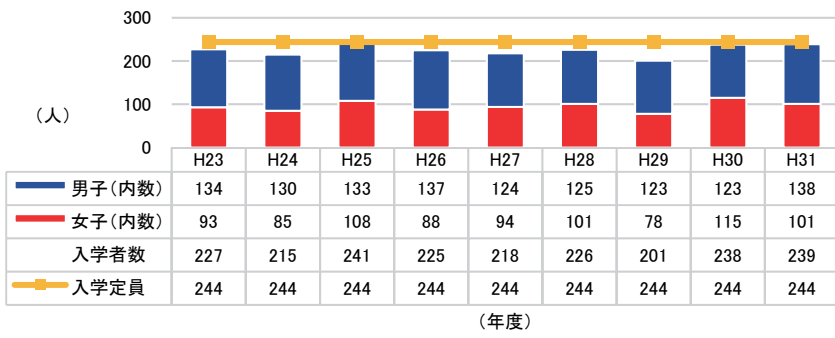
【システム情報科学府】



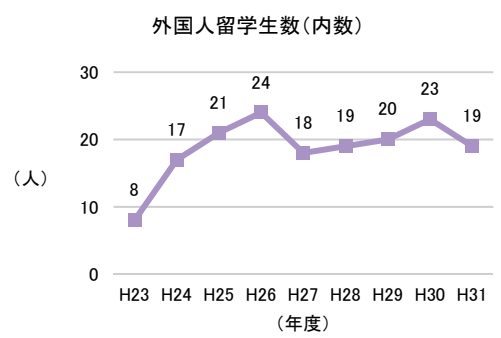
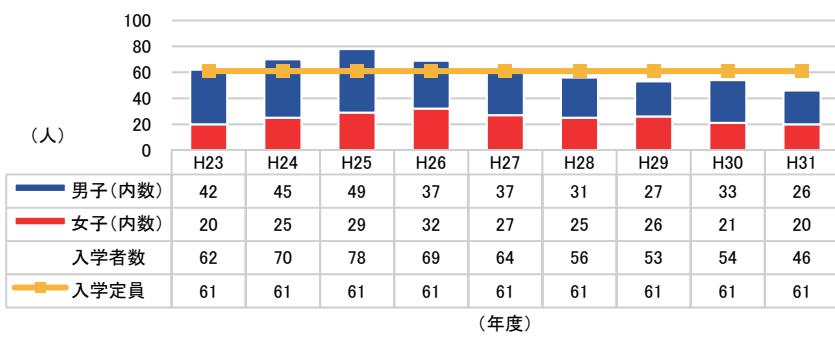
【総合理工学府】



【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】



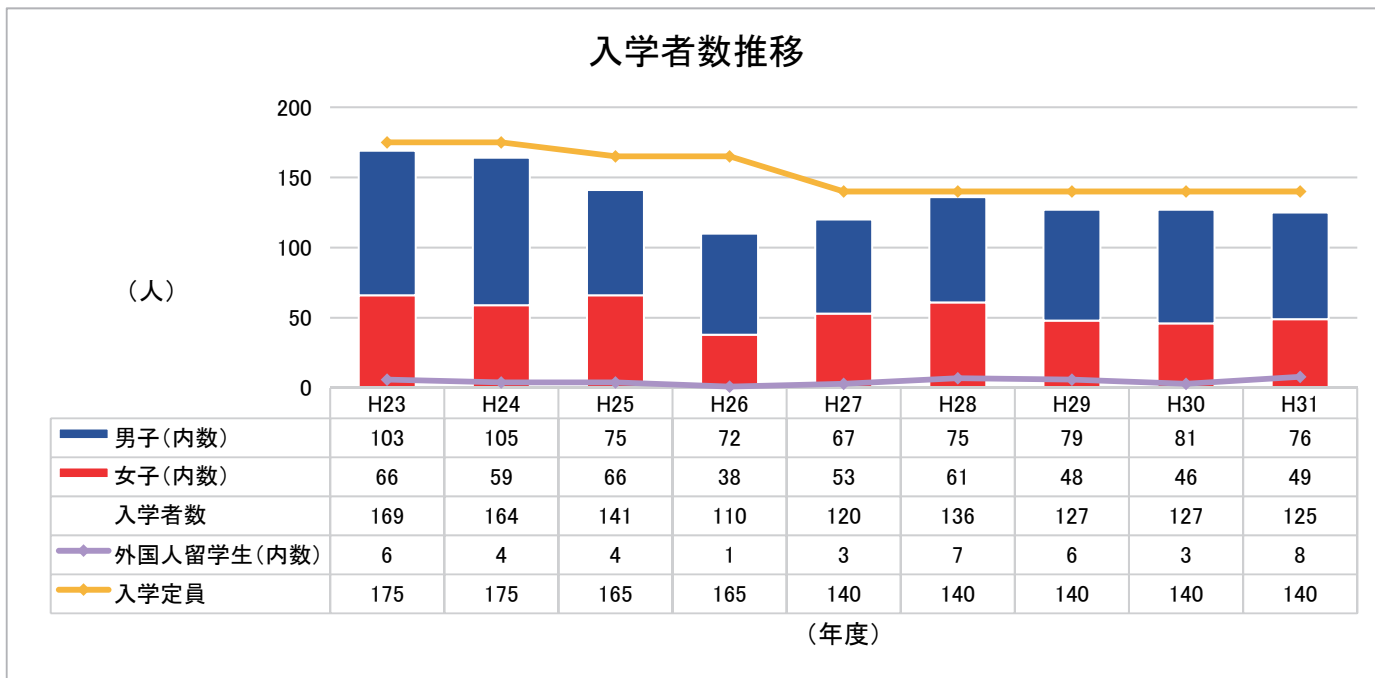
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-3. 入学状況(専門職学位課程)

5-3-1. 入学者数推移(全体)

本学の入学者数は減少傾向にある。

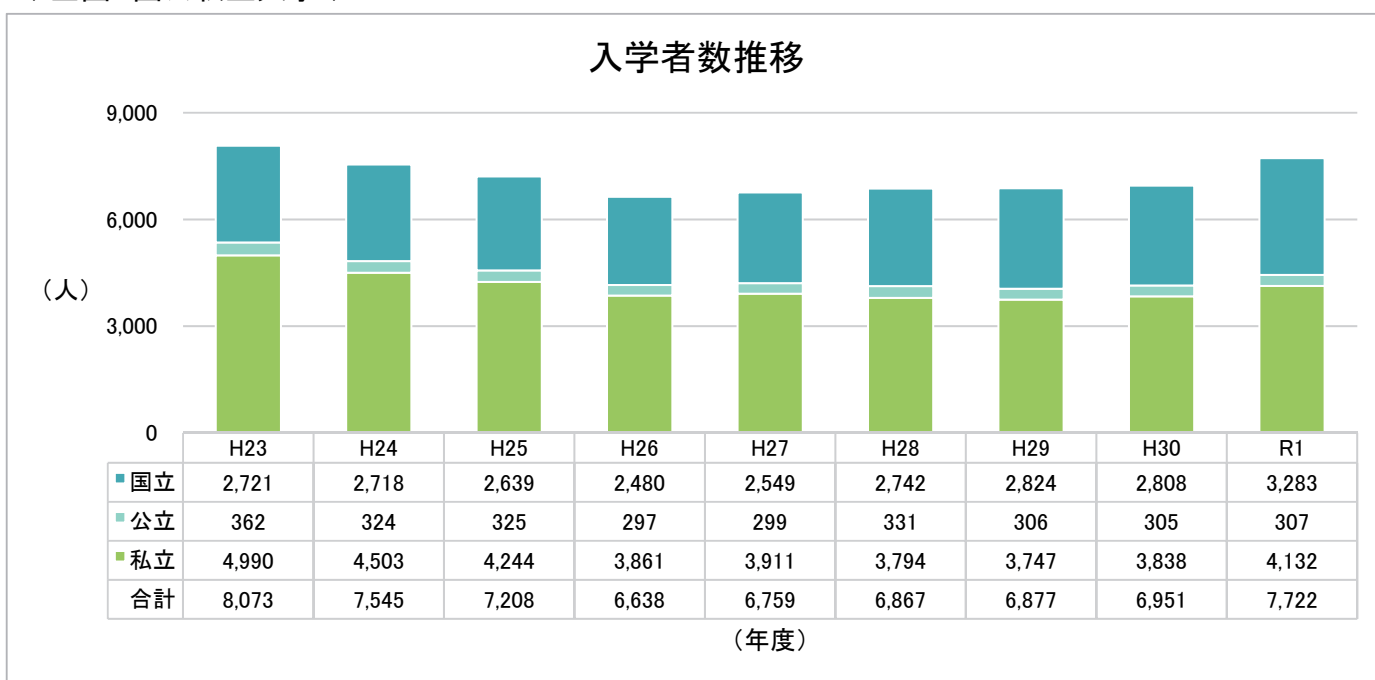
◆九州大学◆



・専門職学位課程：人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】
法務学府実務法学専攻【法科大学院】
経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】
医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

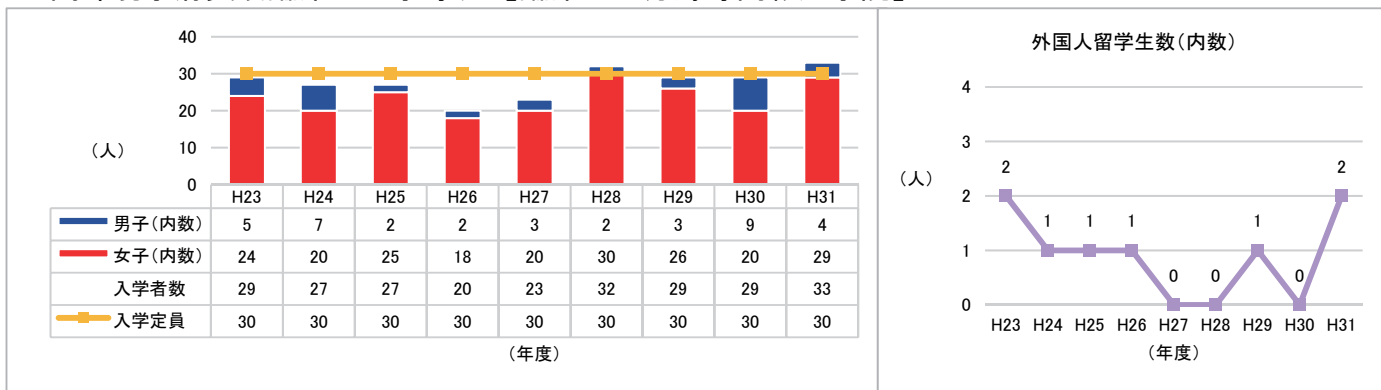


出典：文部科学省 学校基本調査「大学院の専攻分野別入学状況」

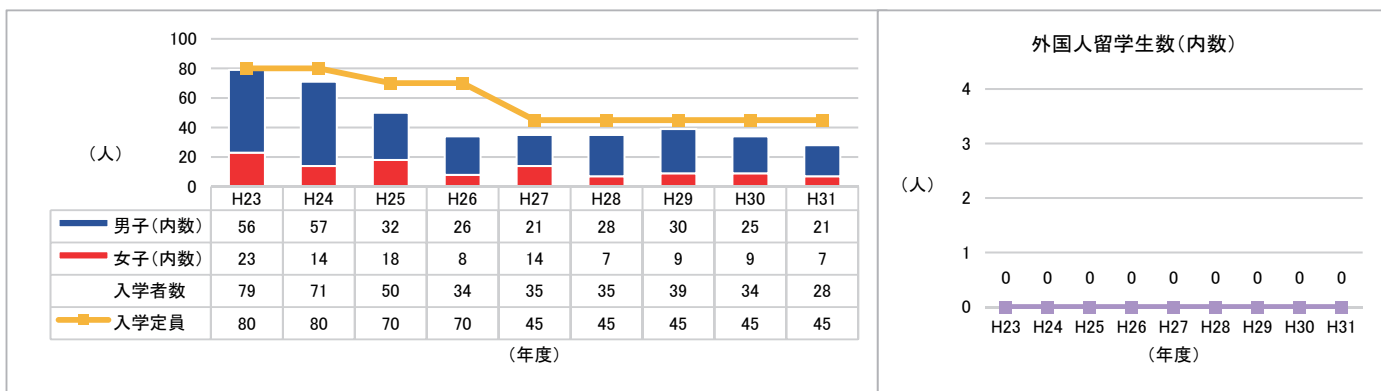
5-3-2. 入学者数推移(学府別)

外国人留学生数が他の課程と比較すると少ない。入学者数の男女比が学府別に大きく異なる。

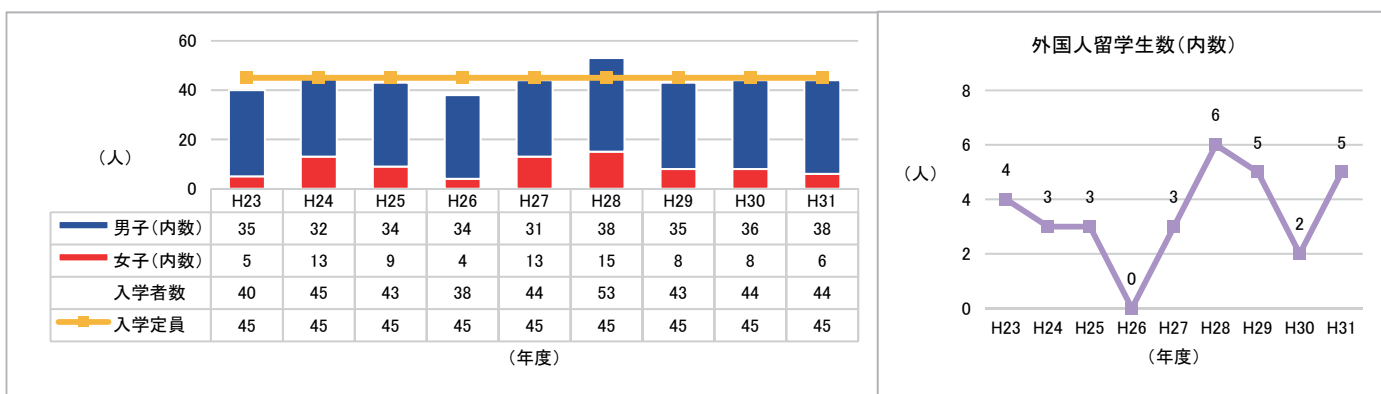
人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】



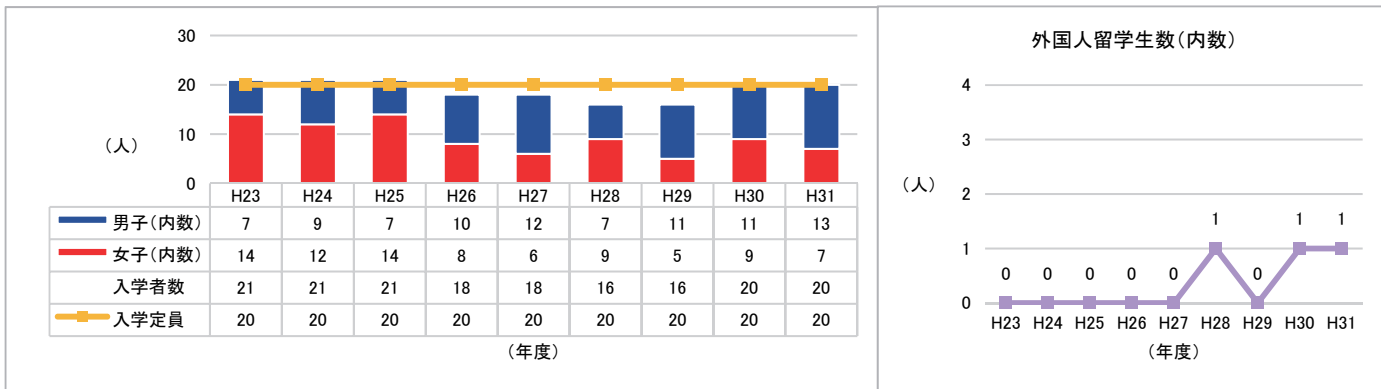
法務学府実務法学専攻【法科大学院】



経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】



医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】



※出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

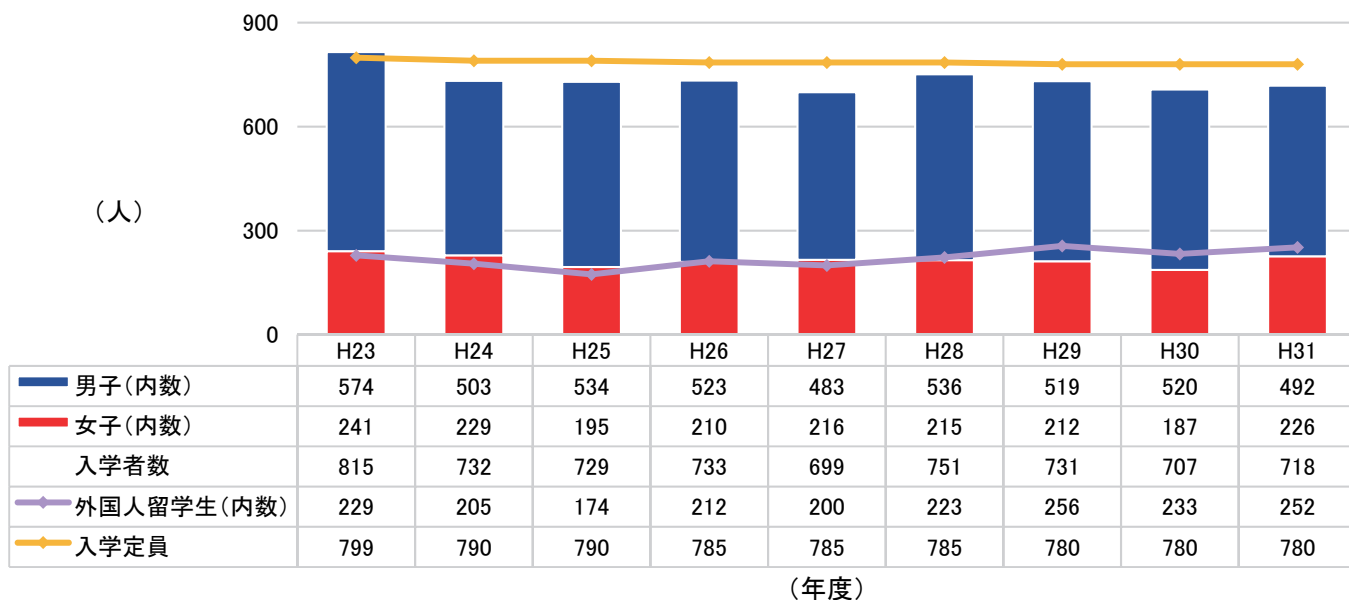
5-4. 入学状況(博士後期課程)

5-4-1. 入学者数推移(全体)

全国、本学ともに、直近2,3年の入学者数は横ばい傾向にある。

◆九州大学◆

入学者数推移

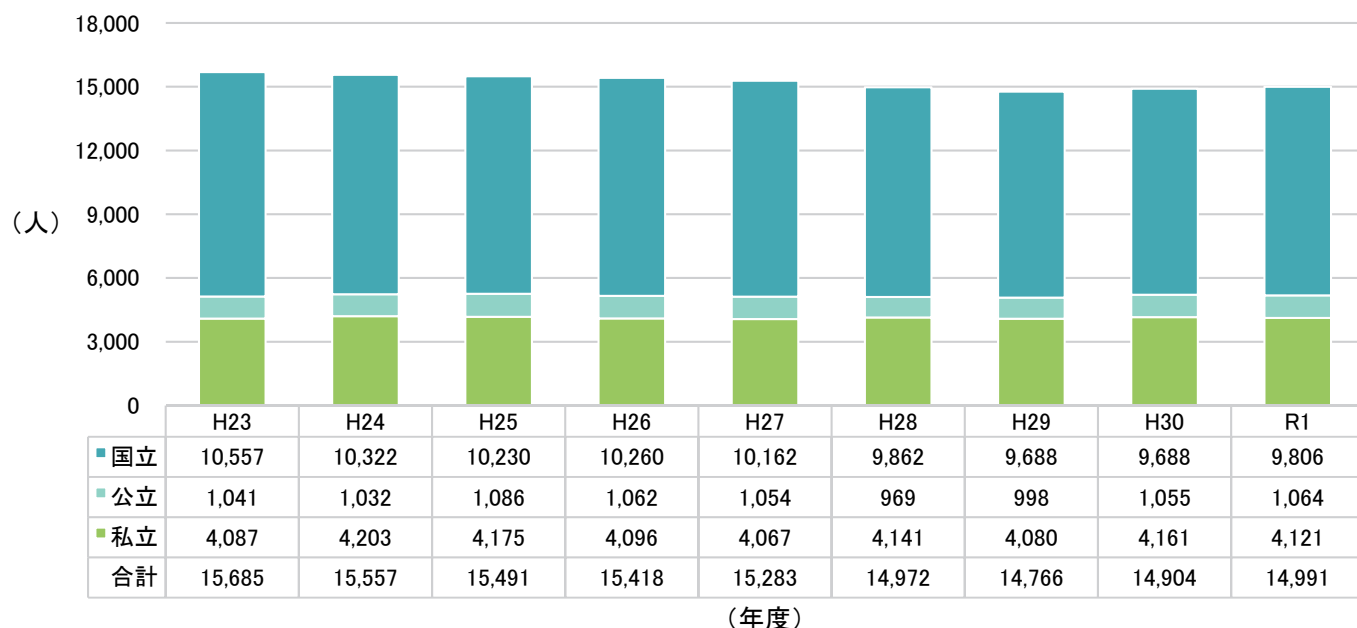


・専門職学位課程は含まない。

※出典：4月入学者数：九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数：学務部保有データ(各年度10月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

入学者数推移

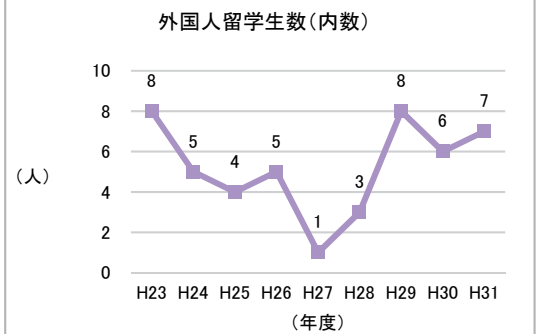
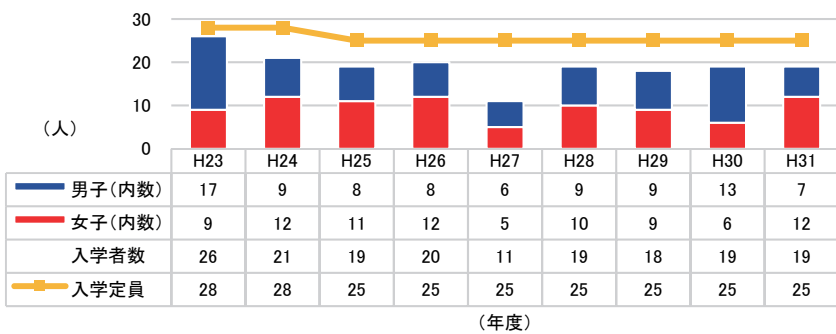


※出典：文部科学省 学校基本調査「入学者数」

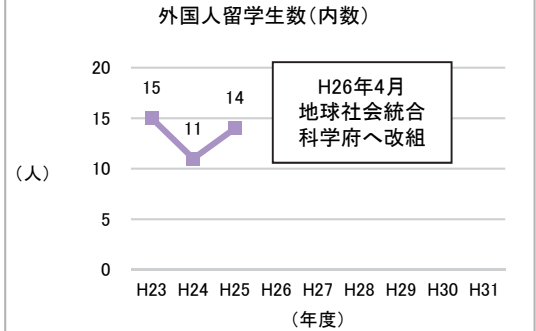
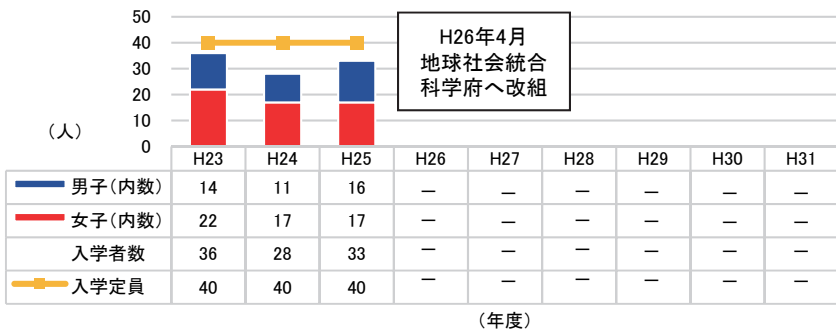
5-4-2. 入学者数推移(学府別)

入学定員に満たない学府が多い。外国人留学生の入学者数は、学府・年度により増減の変化が大きい中、システム生命科学府及び総合理工学府は増加傾向にある。

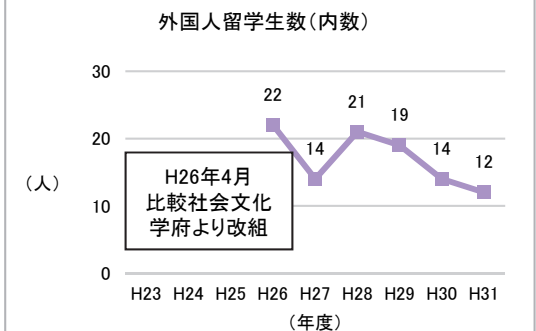
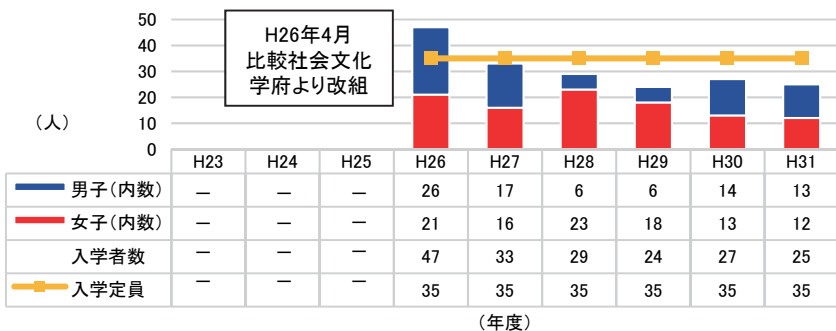
【人文科学府】



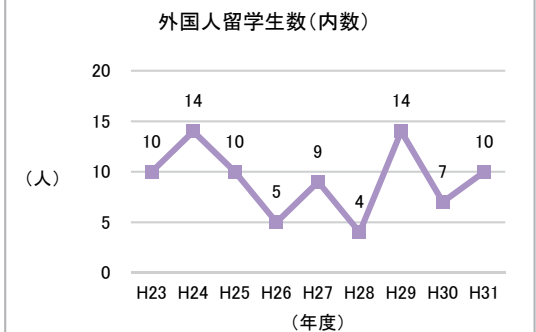
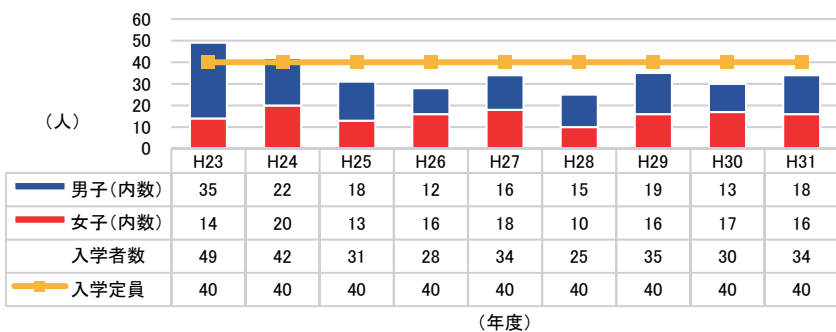
【比較社会文化学府】



【地球社会統合科学府】



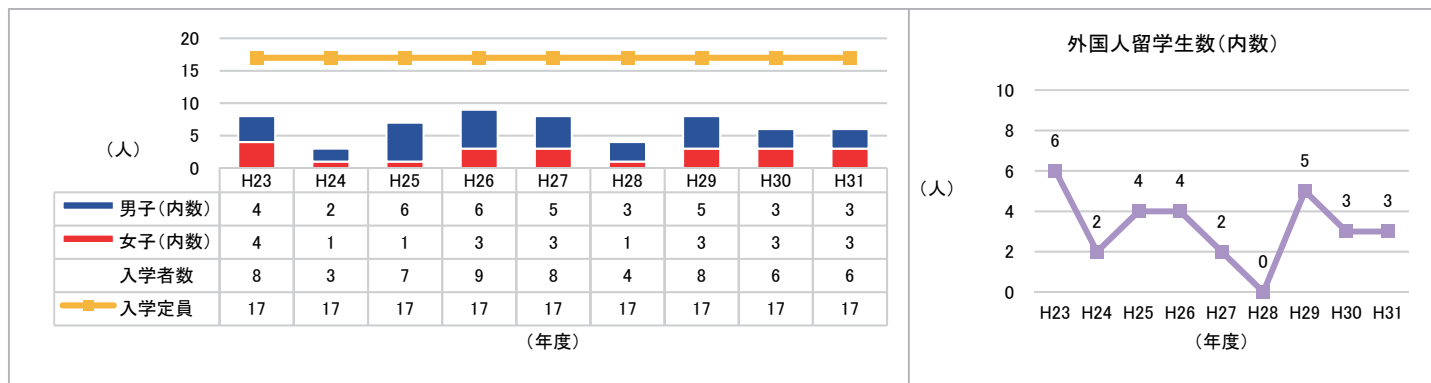
【人間環境学府】



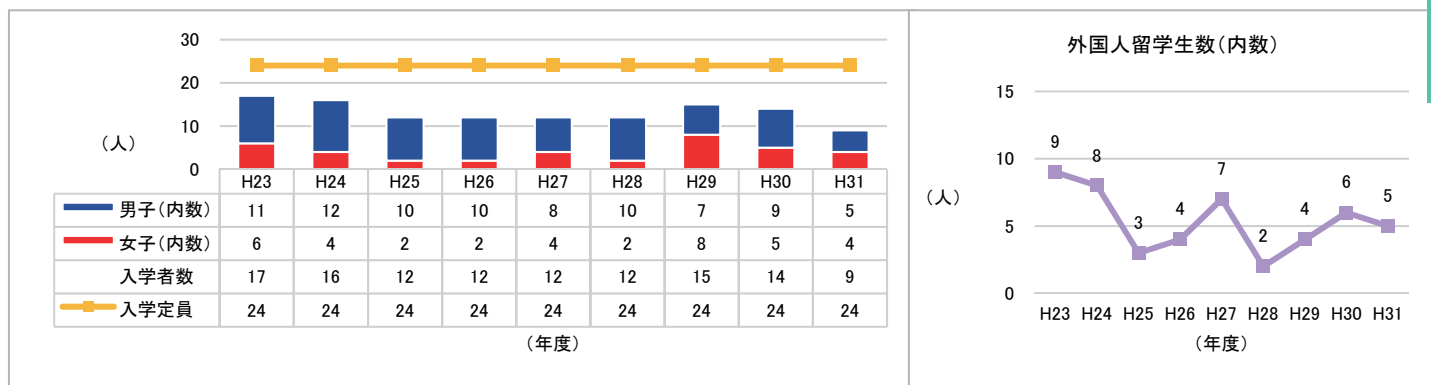
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

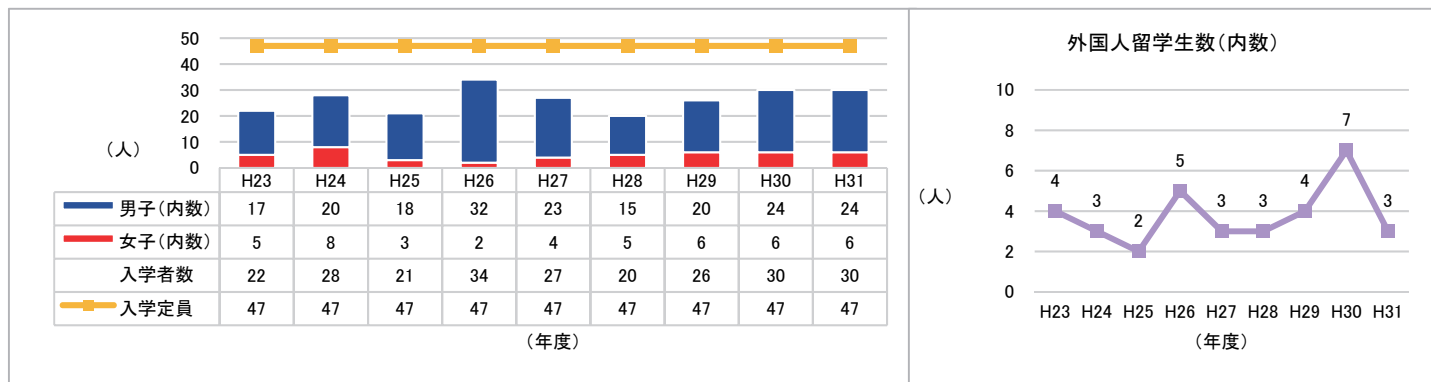
【法学府】



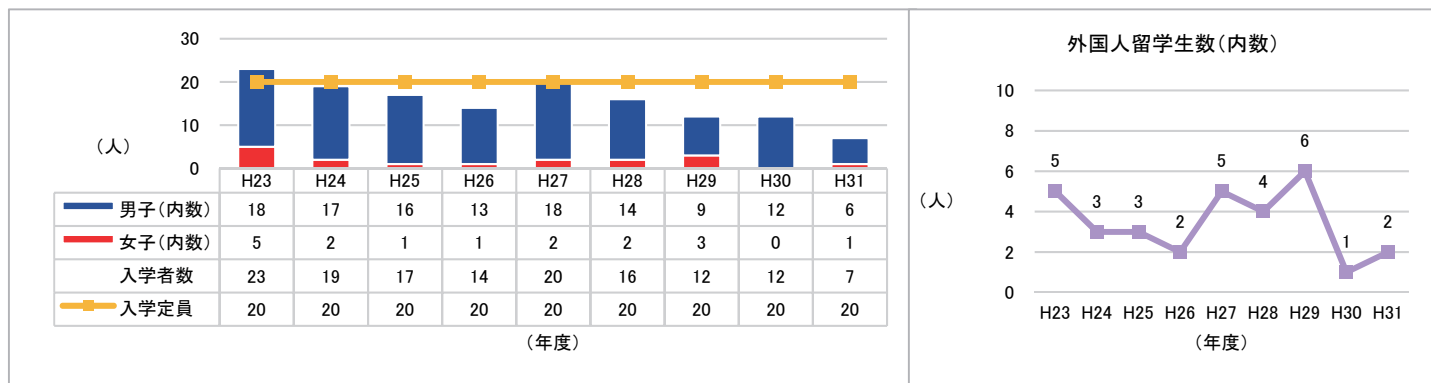
【経済学府】



【理学府】



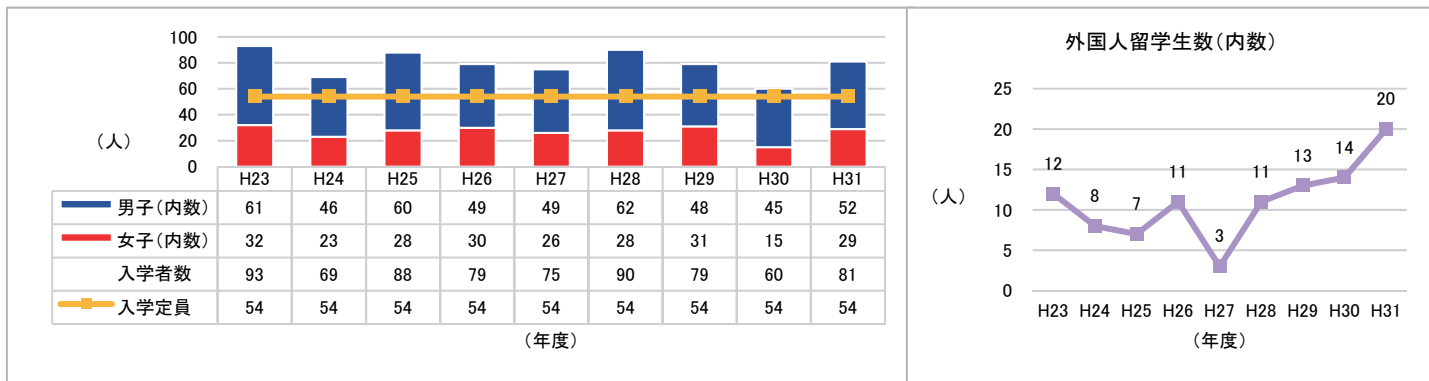
【数理学府】



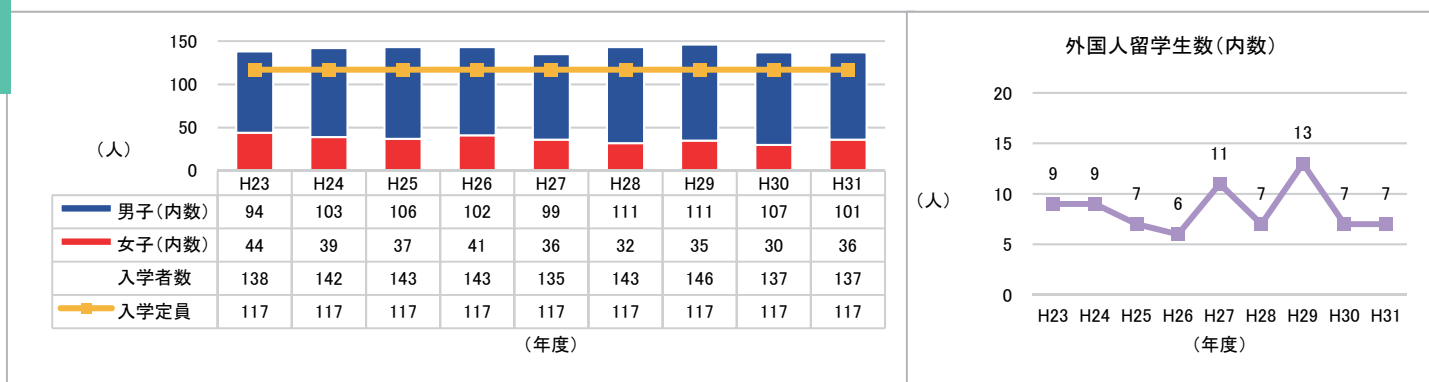
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

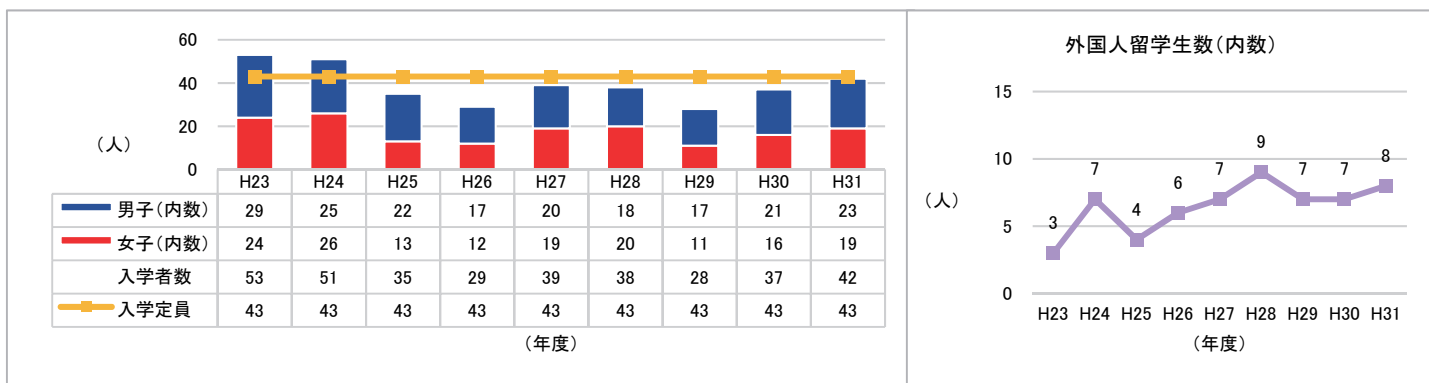
【システム生命科学府】



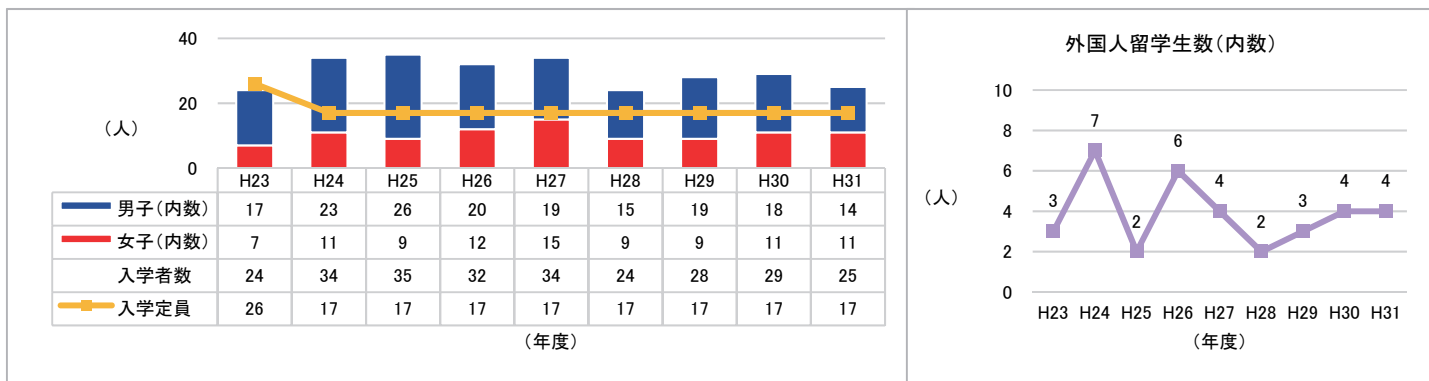
【医学系学府】



【歯学府】



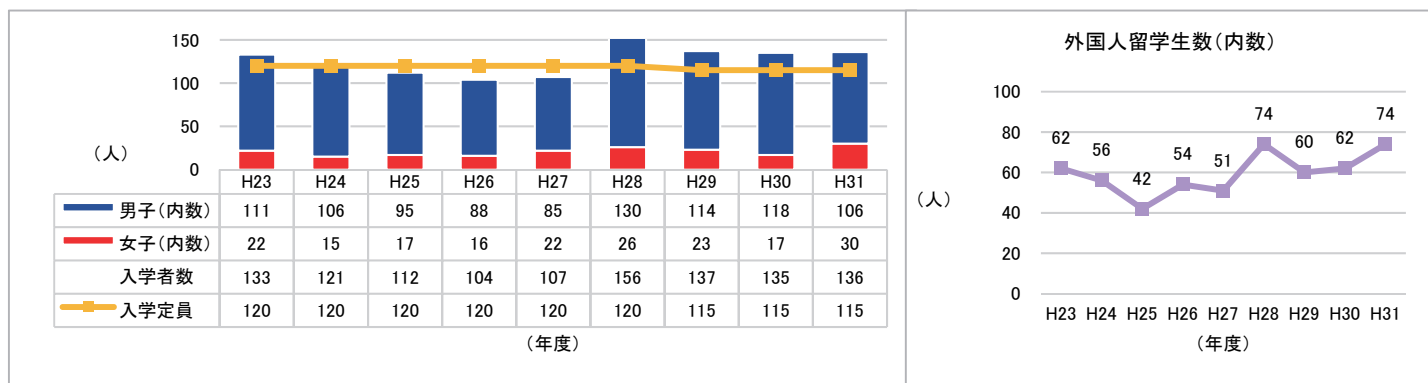
【薬学府】



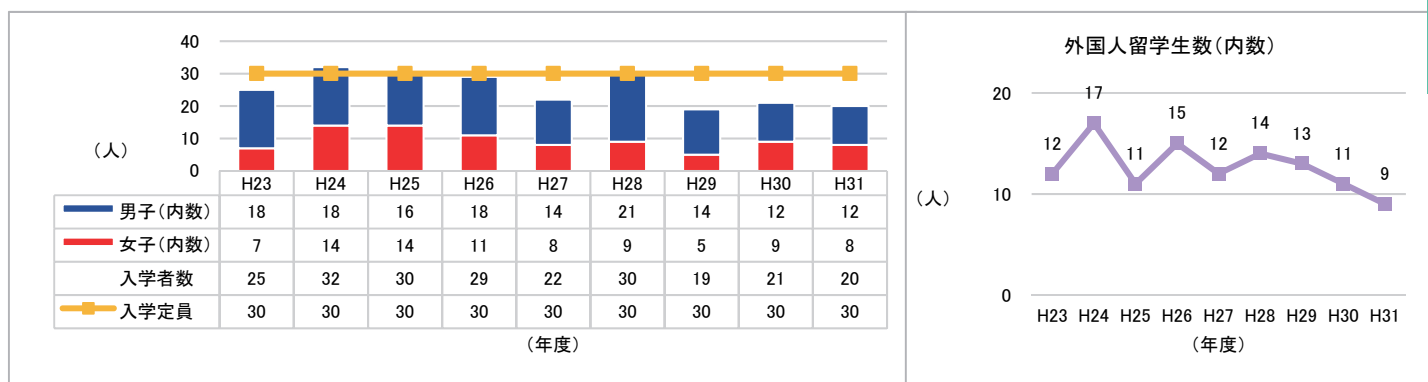
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

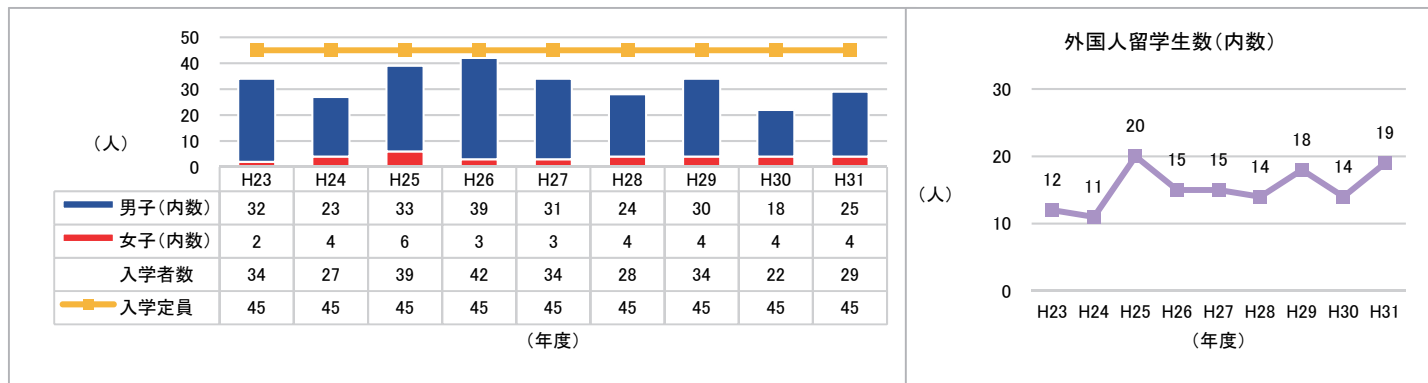
【工学府】



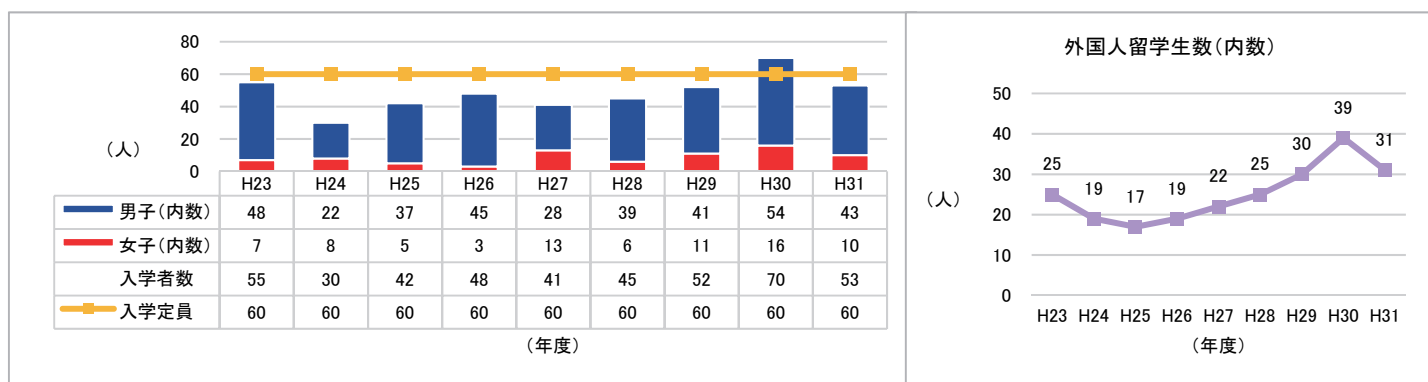
【芸術工学府】



【システム情報科学府】



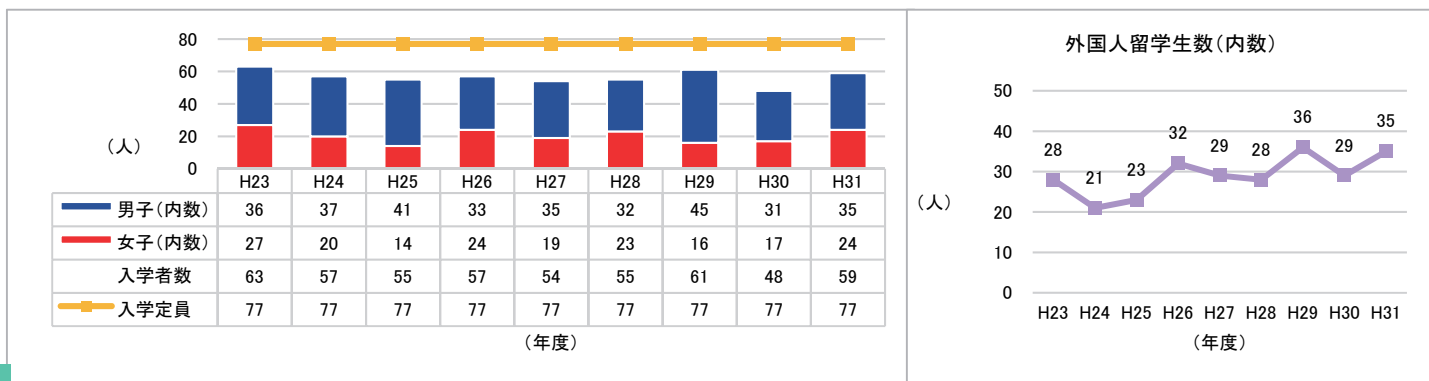
【総合理工学府】



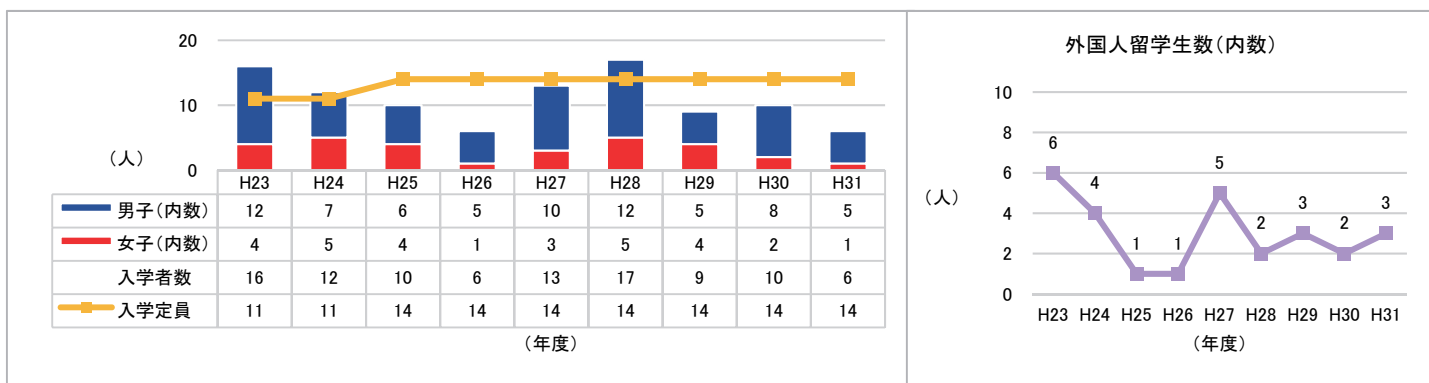
※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移(学府別)(つづき)

【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】



※出典:4月入学者数:九州大学概要(各年度4月1日現在)、10月入学者数:学務部保有データ(各年度10月1日現在)

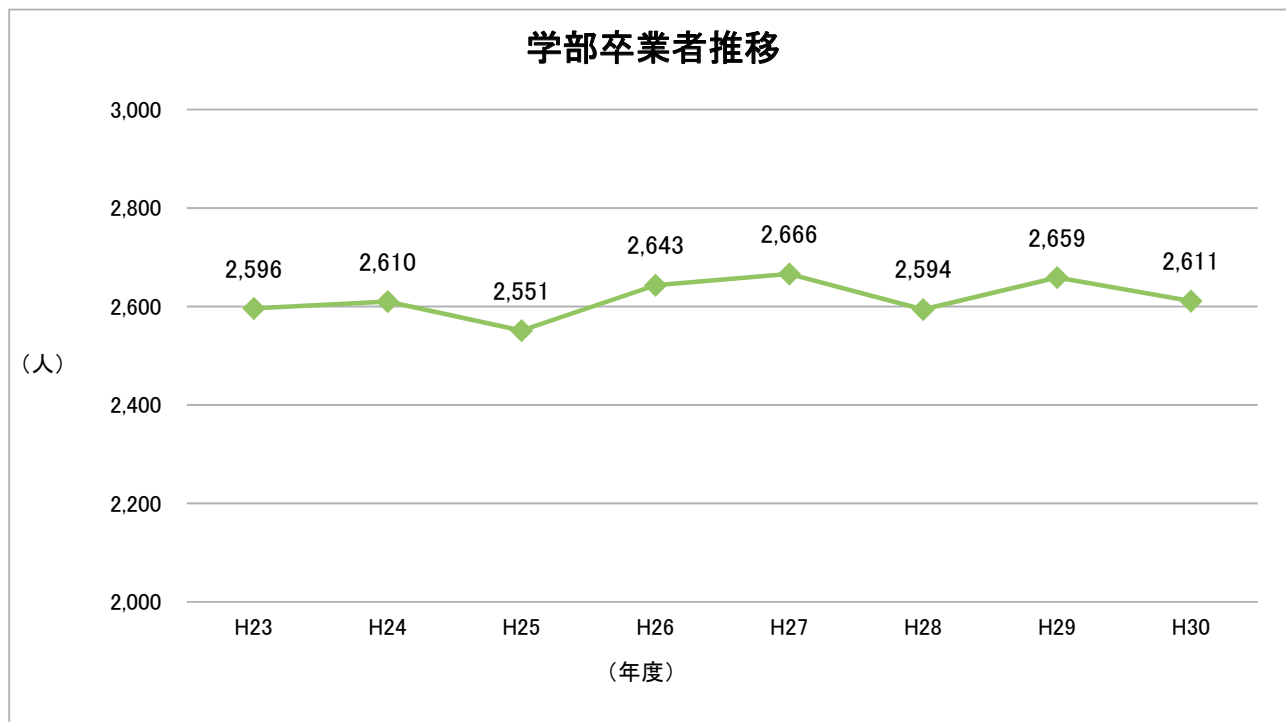
6. 学位取得状況 (各年度4月1日)

6-1. 学部卒業生状況

6-1-1. 学部卒業生状況(全体)

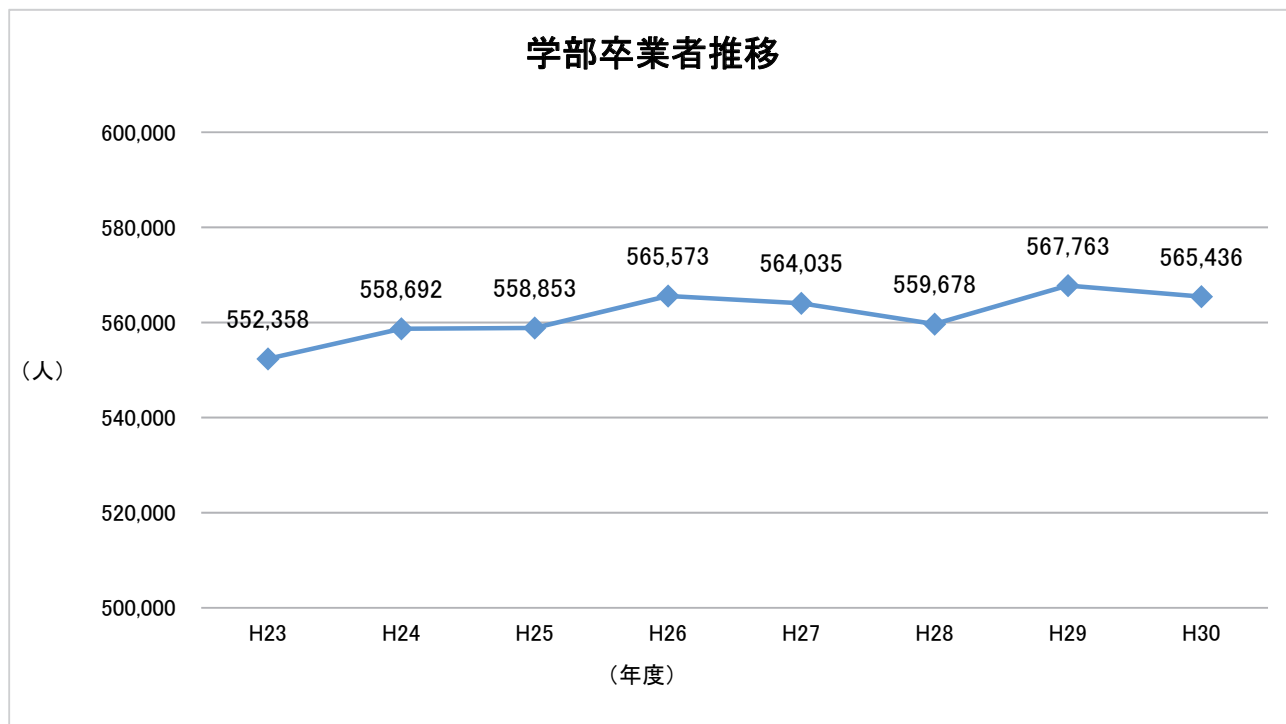
学部卒業生数について、全国的には微増傾向にあるのに対して、本学では横ばい傾向である。学部別に見ても、単年では増減がみられるものの長期的には横ばい傾向である。

◆九州大学◆



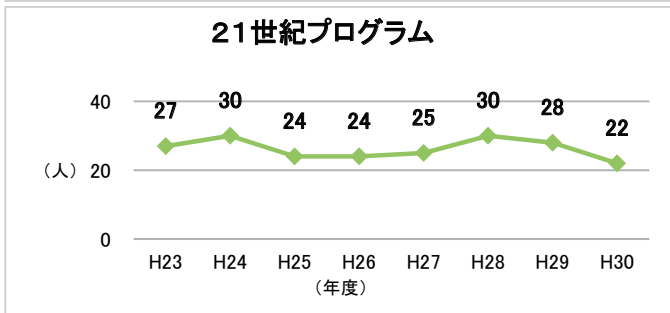
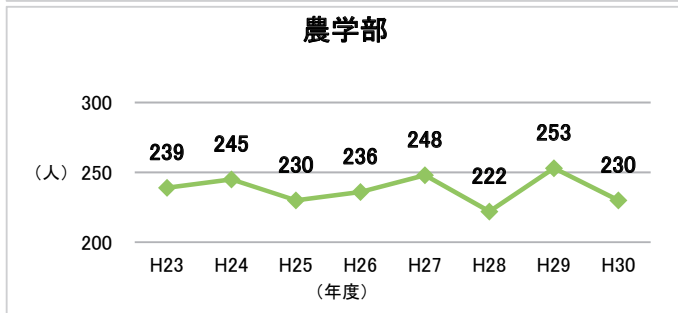
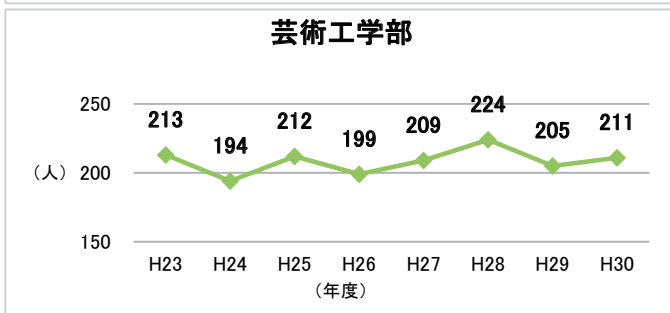
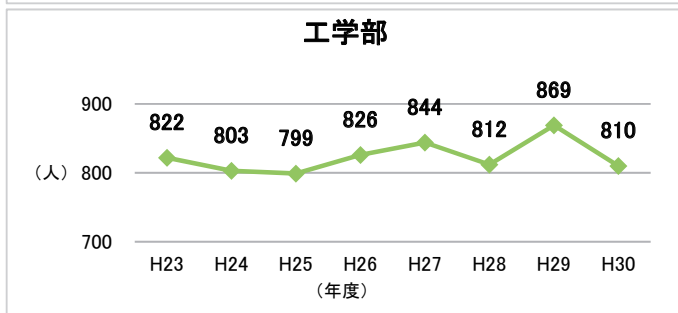
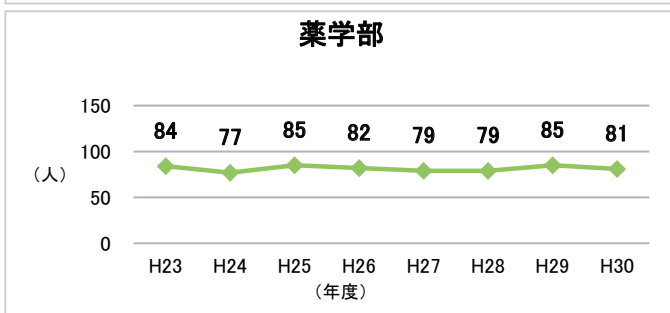
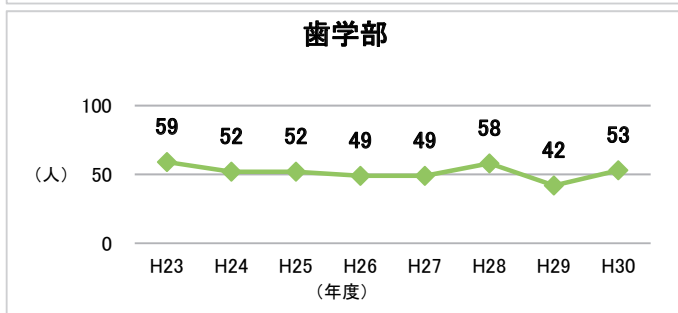
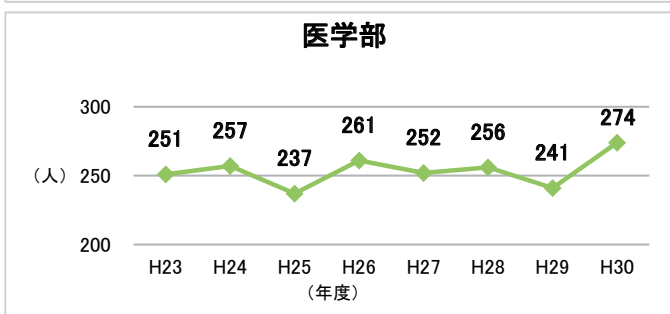
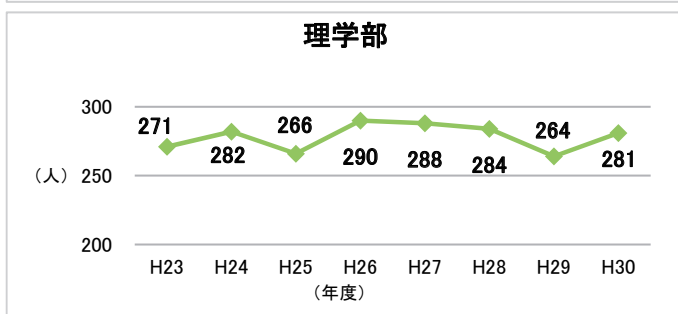
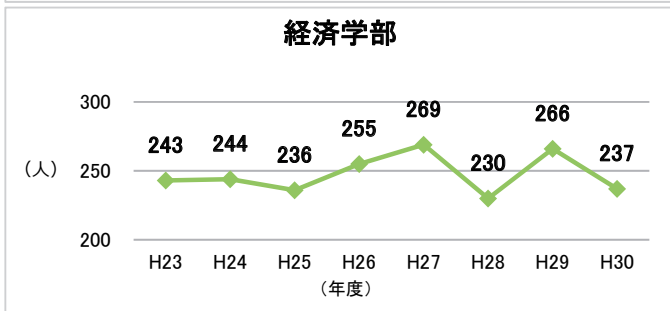
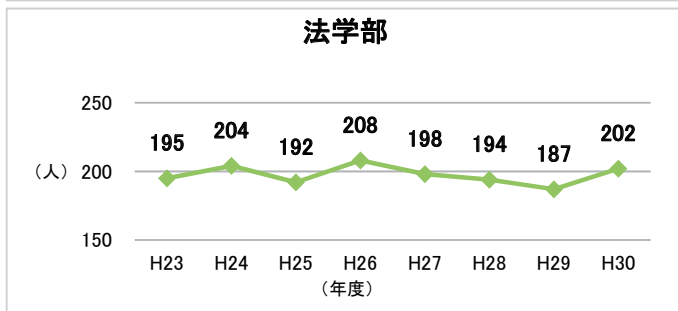
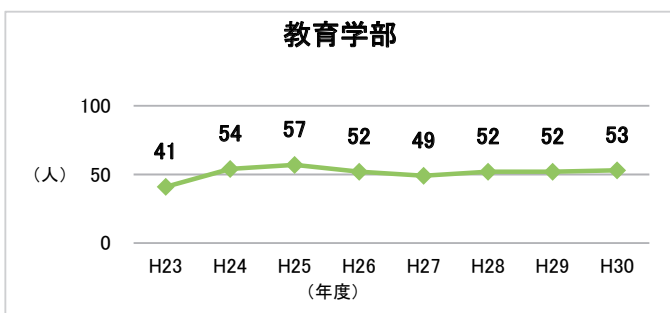
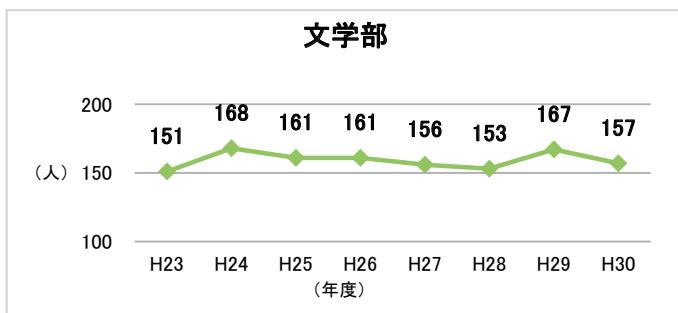
※出典:九州大学概要

◆全国 国公立大学◆



※出典:文部科学省 学校基本調査年次統計「卒業生数」

6-1-2. 学部卒業生状況(学部別)



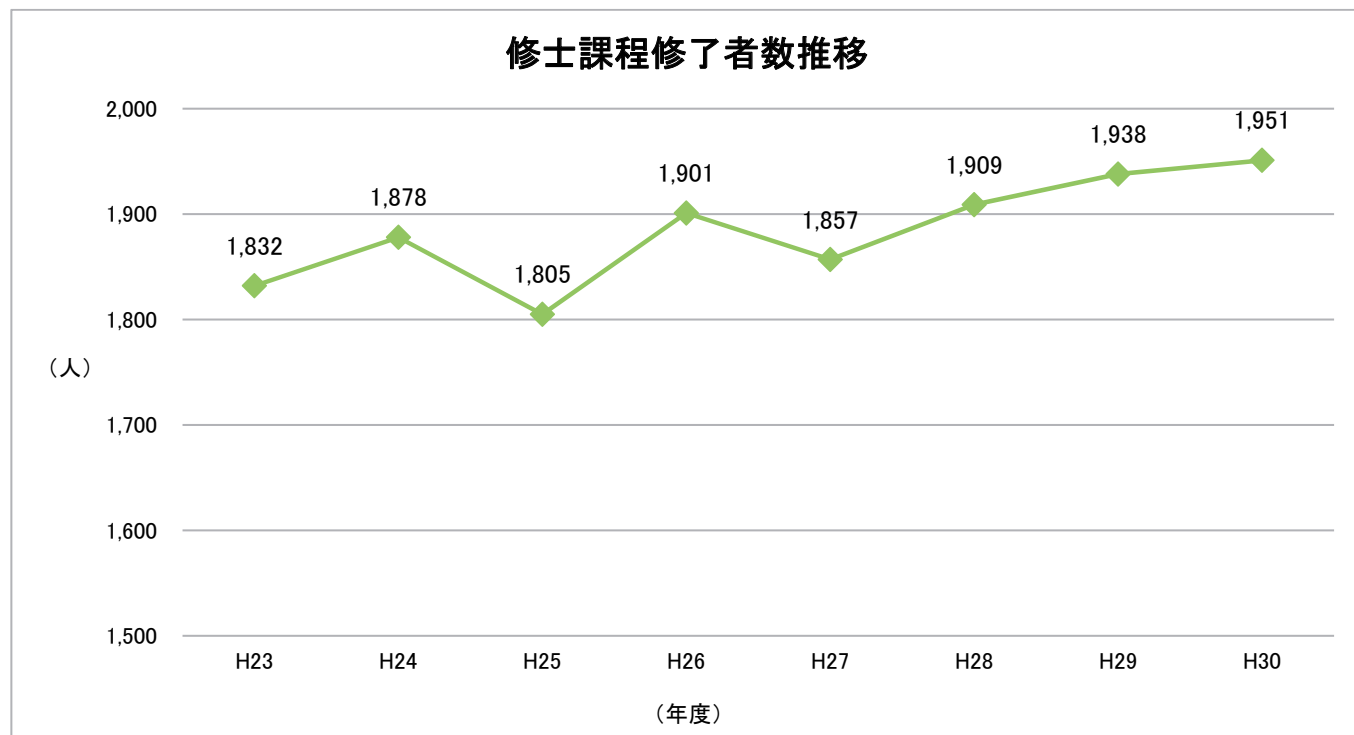
出典:九州大学概要

6-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況

6-2-1. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(全体)

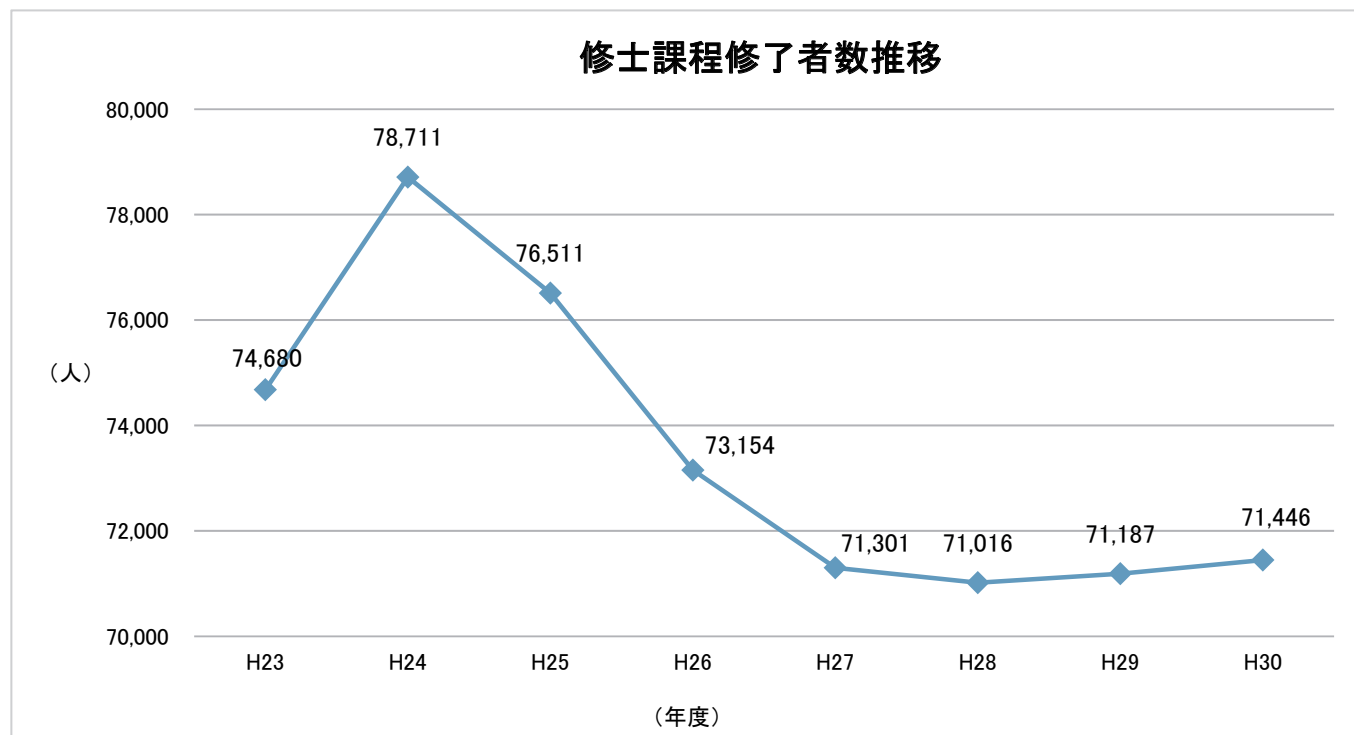
全国は減少傾向にあるが、本学では本学出身の志願者を安定的に確保できていることも影響し、増加傾向である。

◆九州大学◆



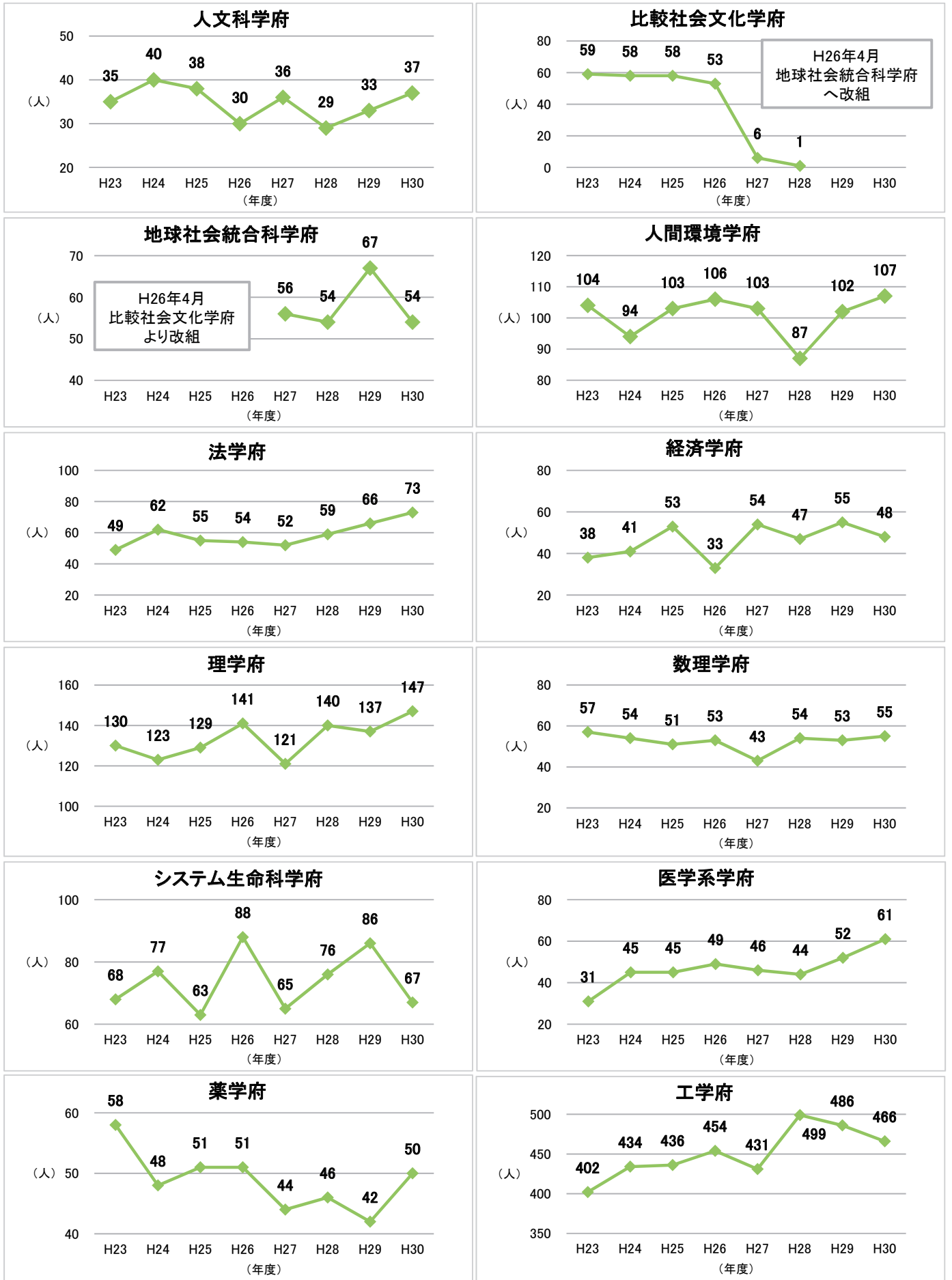
※出典:九州大学概要

◆全国 国公立大学◆



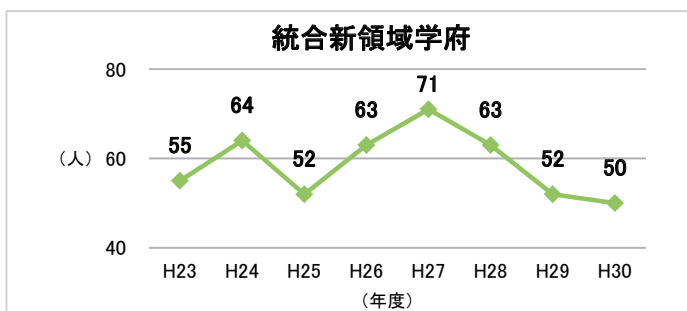
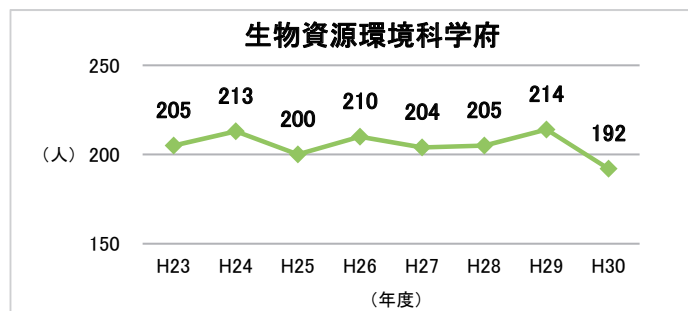
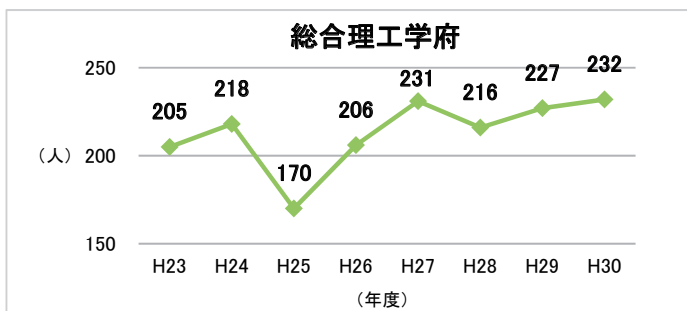
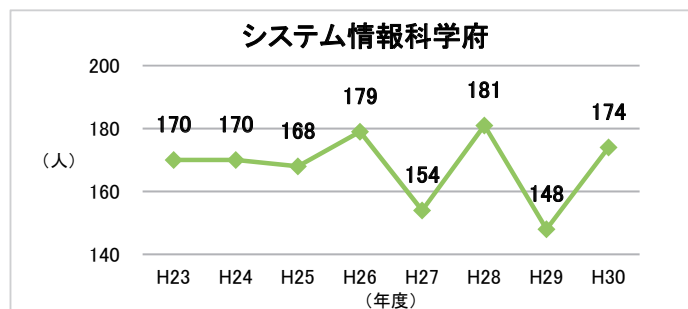
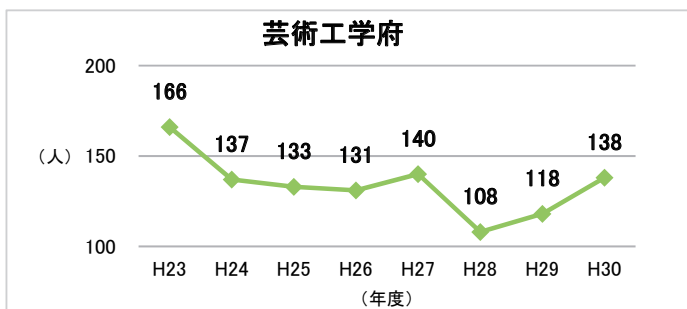
※出典:文部科学省 学校基本調査年次統計「卒業生数」

6-2-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(学府別)



※出典:九州大学概要

6-2-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(学府別)(つづき)



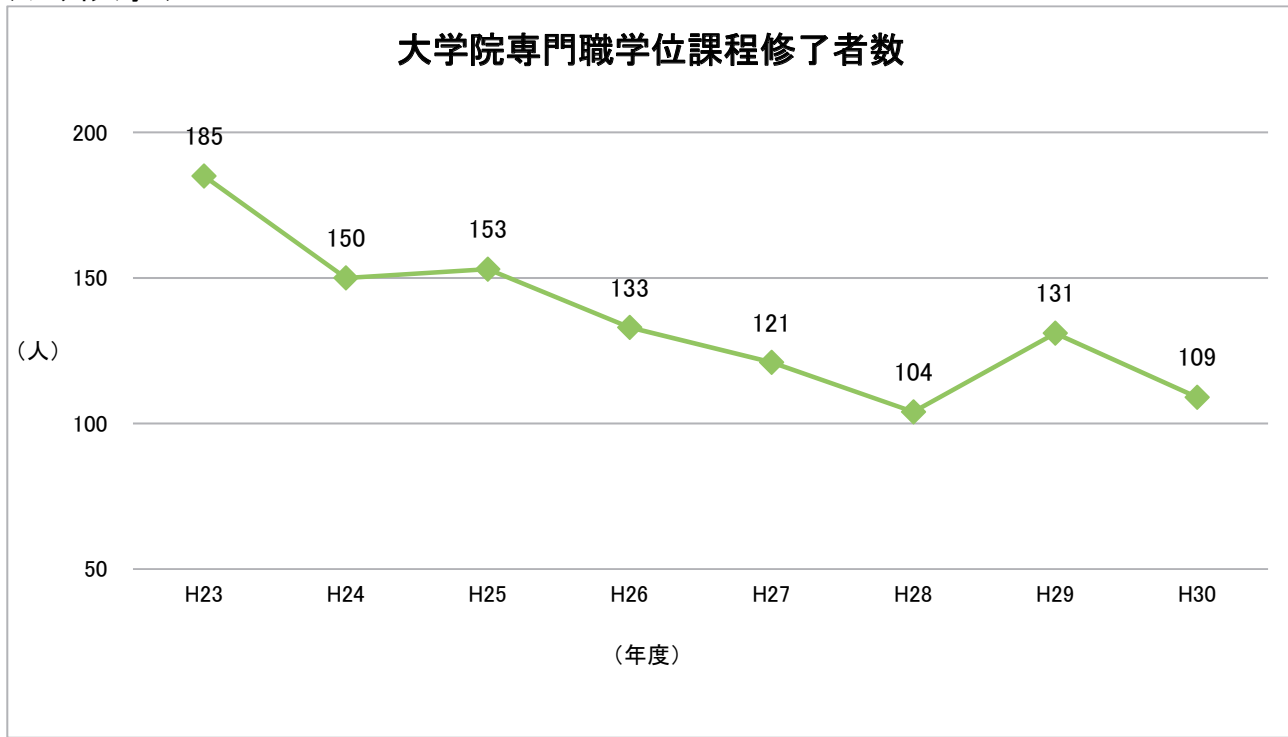
※出典:九州大学概要

6-3. 専門職学位課程修了者状況

6-3-1. 専門職学位課程修了者状況(全体)

全国、本学ともに、修了者は長期的に見ると減少傾向にあるが、全国では、直近2年はやや持ち直している。学府別にみると、法務学府は入学者定員の減少もあり、他学府と比較して長期的減少傾向である。

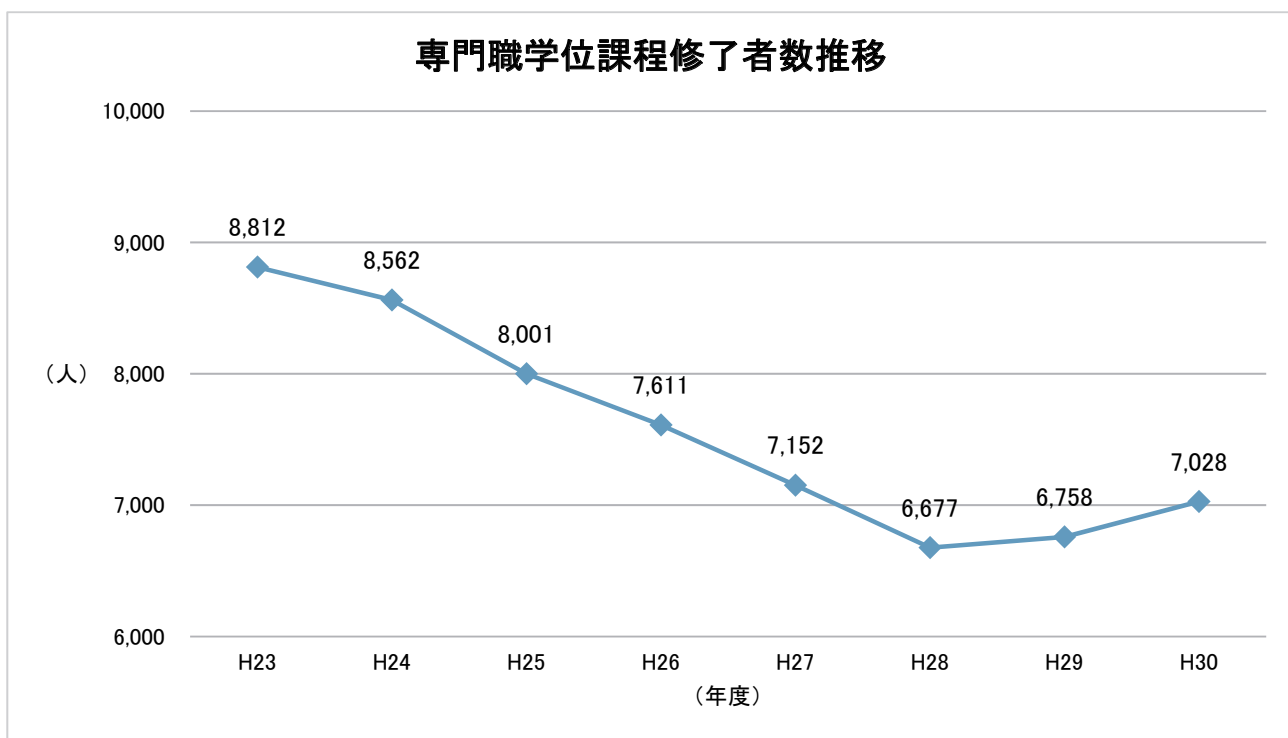
◆九州大学◆



専門職学位課程：人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】
 法務学府実務法学専攻【法科大学院】
 経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】
 医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

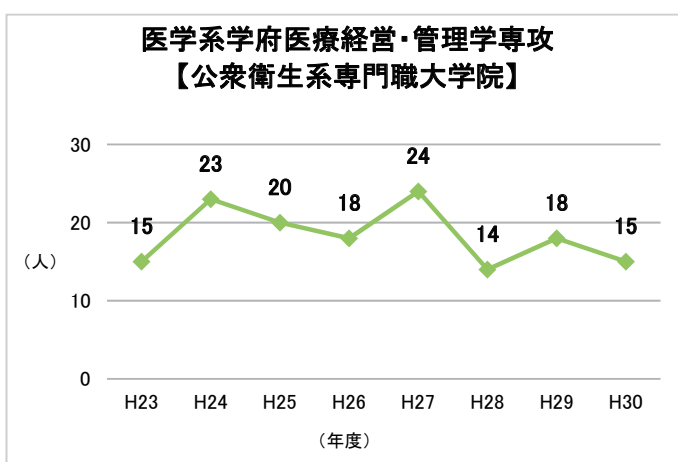
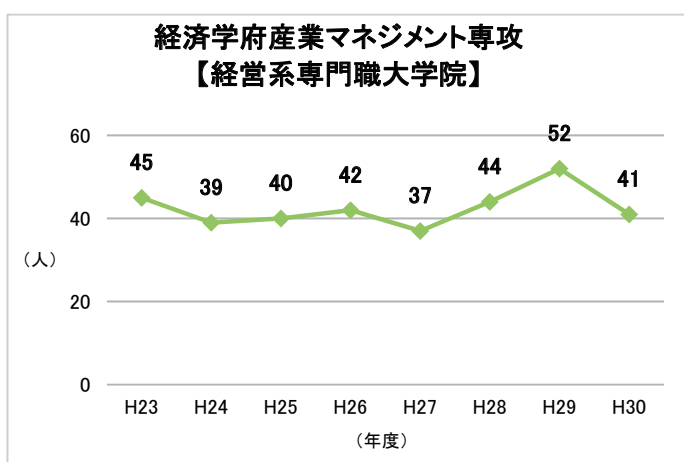
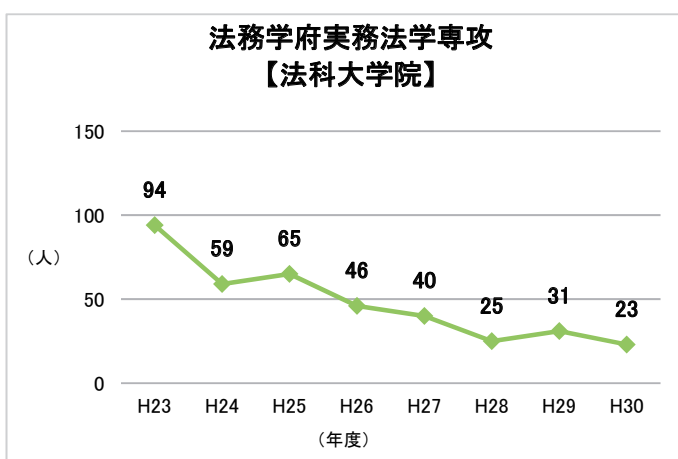
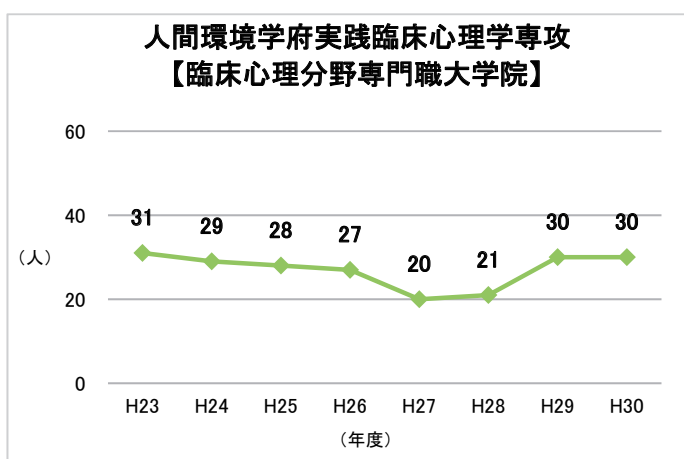
※出典：九州大学概要

◆全国 国公立大学◆



※出典：文部科学省 学校基本調査年次統計「卒業生数」

6-3-2. 専門職学位課程修了者状況(学府別)



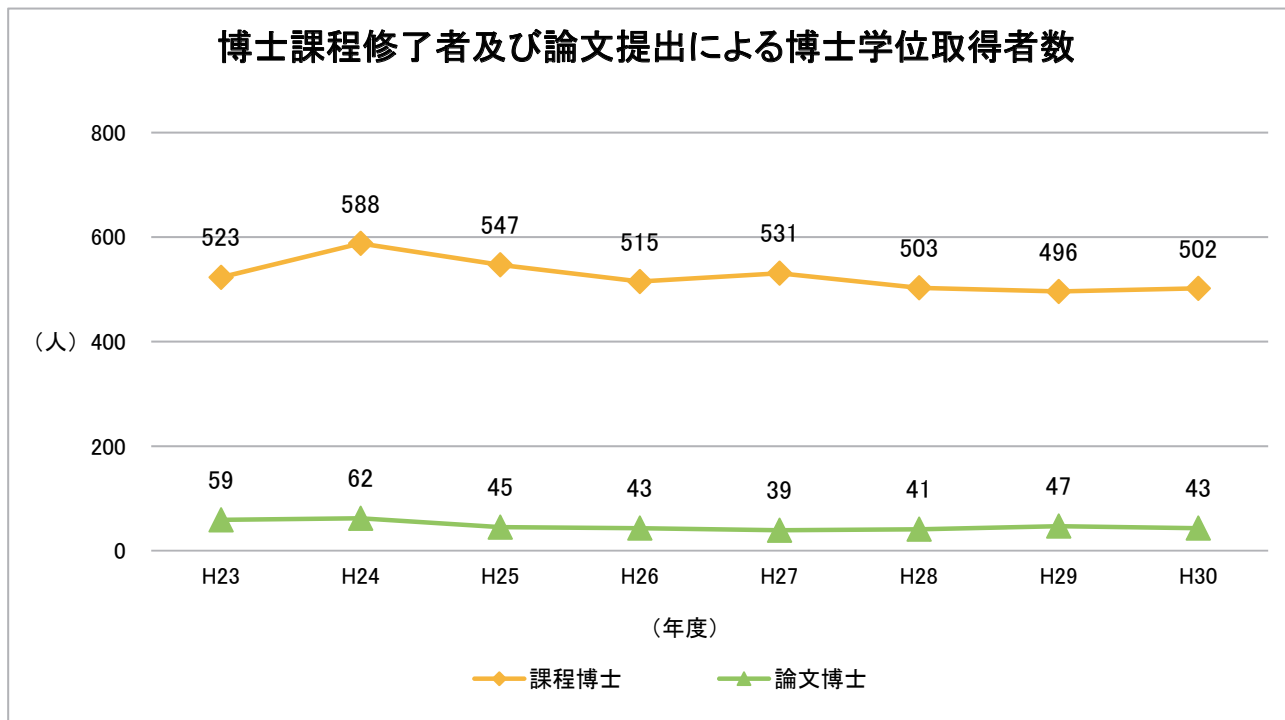
※出典:九州大学概要

6-4. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況

6-4-1. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(全体)

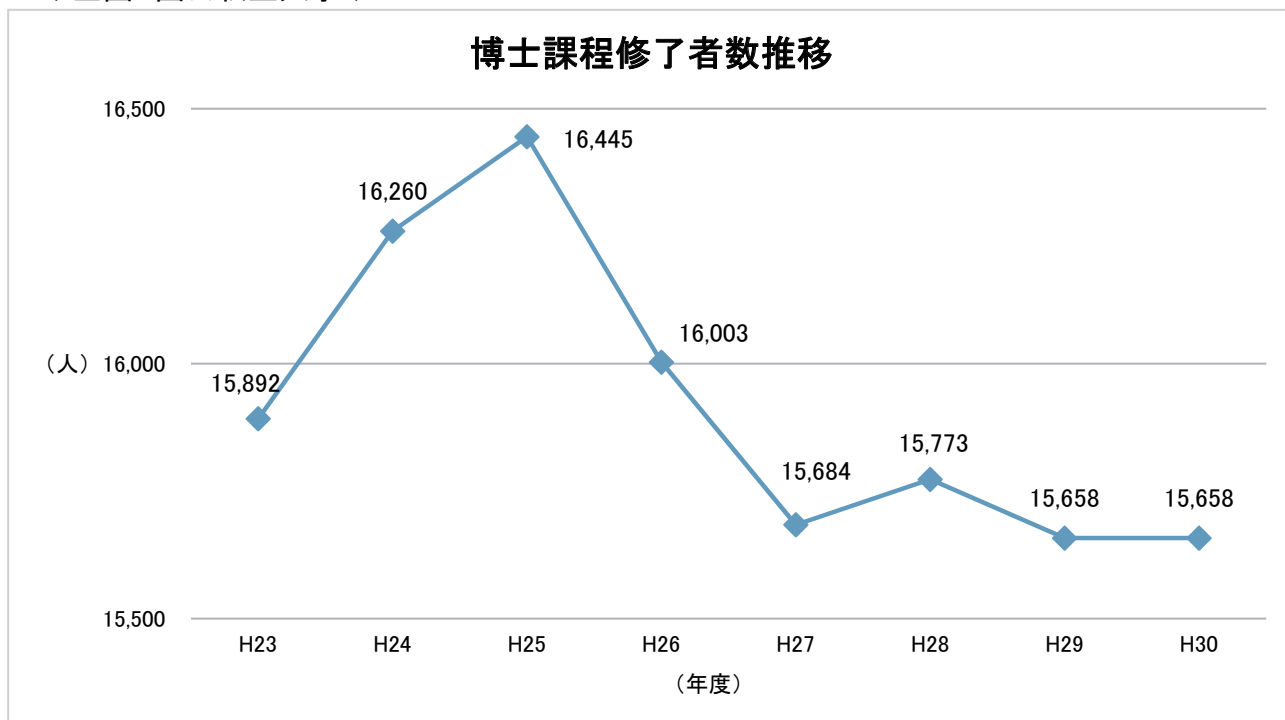
本学では大きな変化は見られないが、全国的にみると博士課程修了者数はH25年度以降減少傾向にある。

◆九州大学◆



※出典：九州大学概要

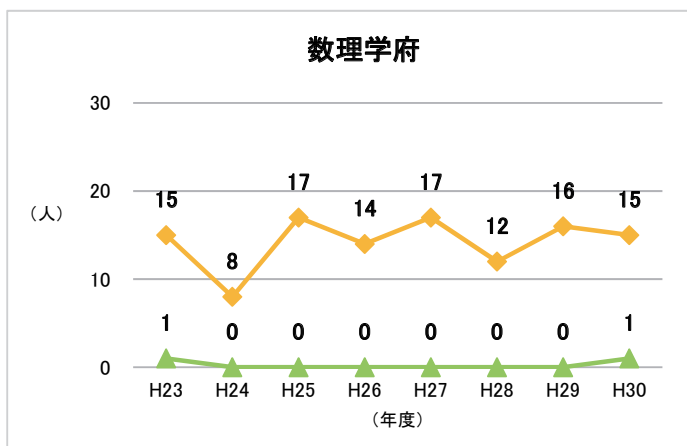
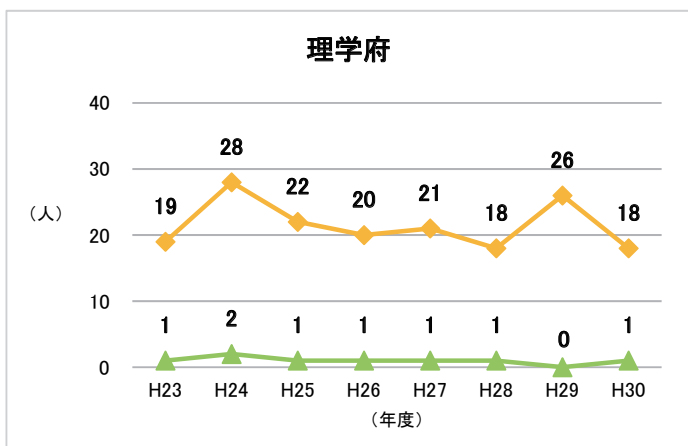
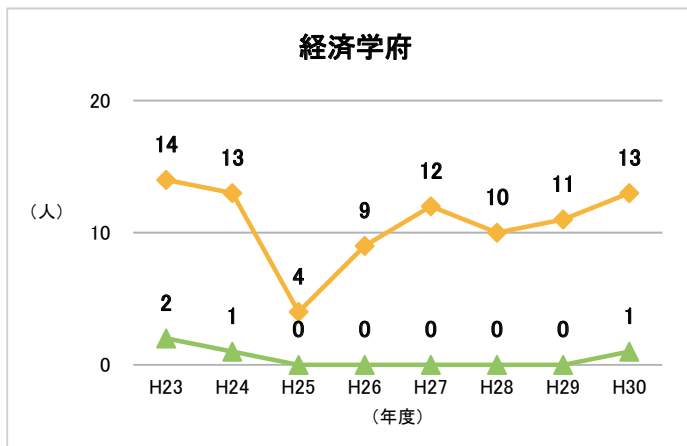
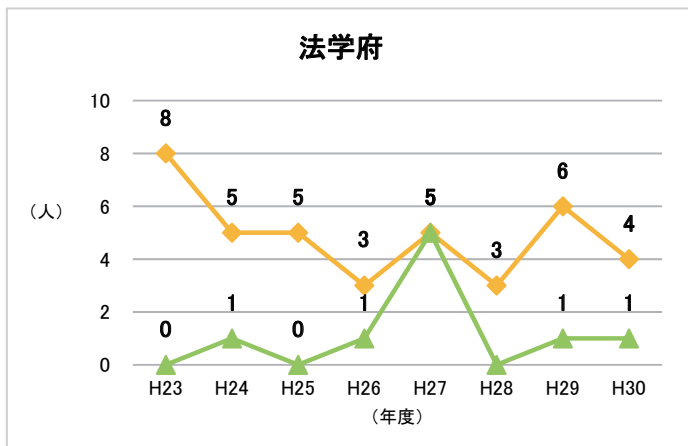
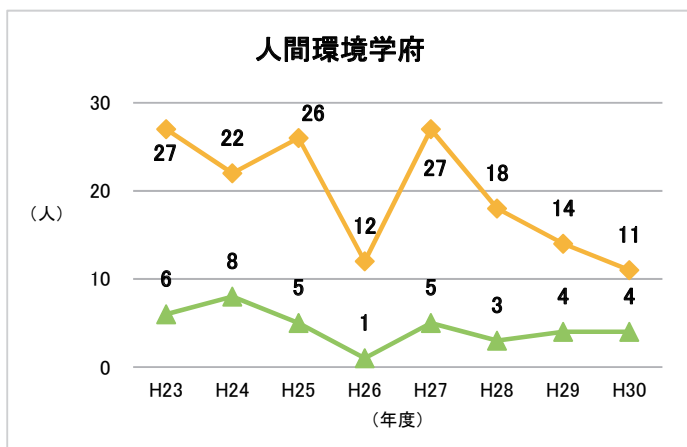
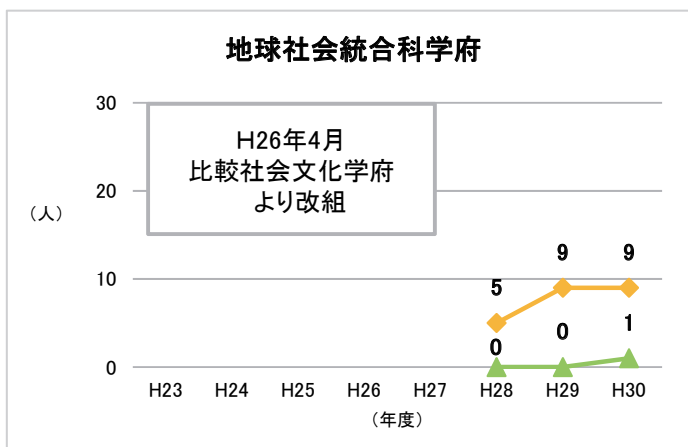
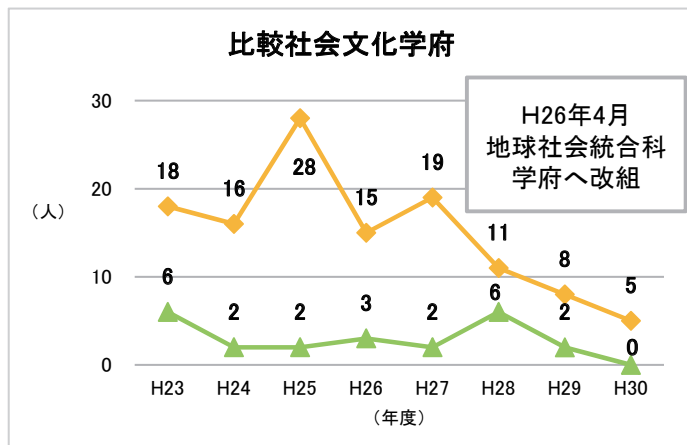
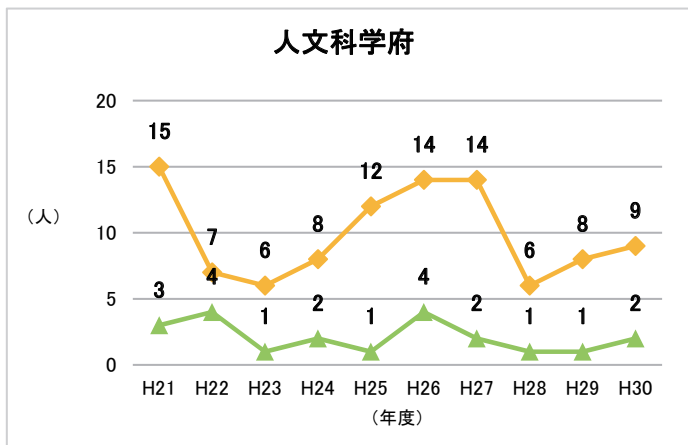
◆全国 国公立大学◆



※出典：文部科学省 学校基本調査年次統計「卒業生数」

6-4-2. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(学府別)

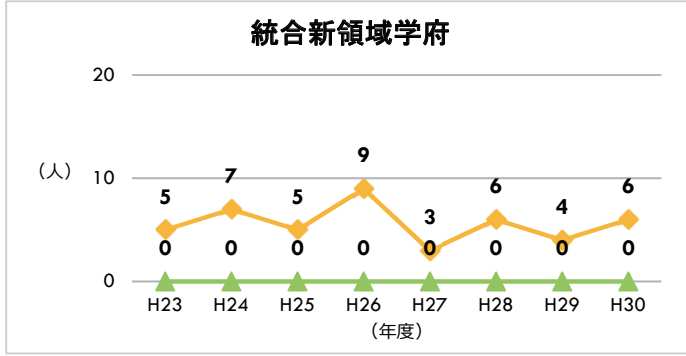
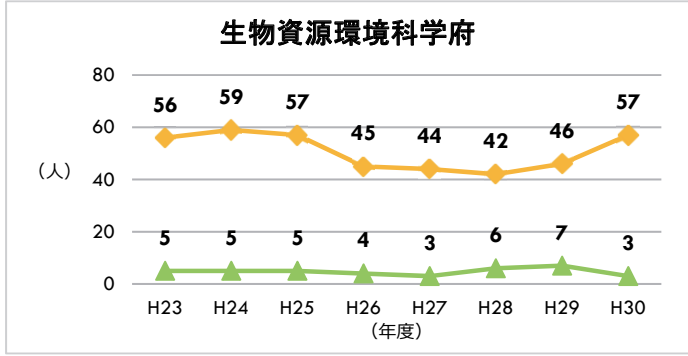
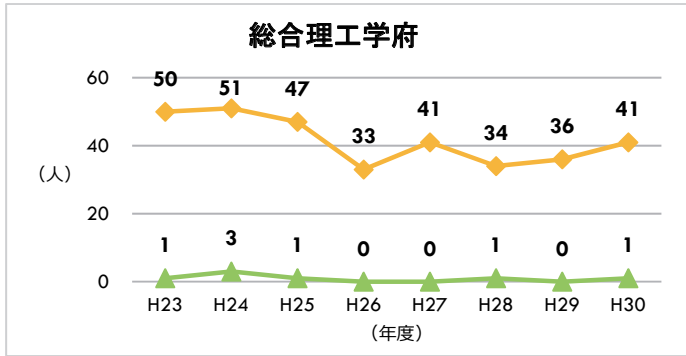
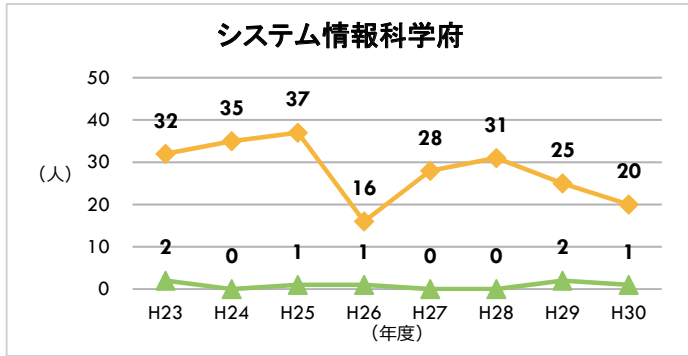
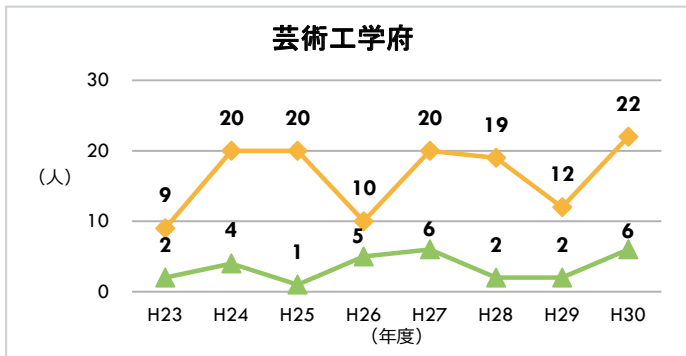
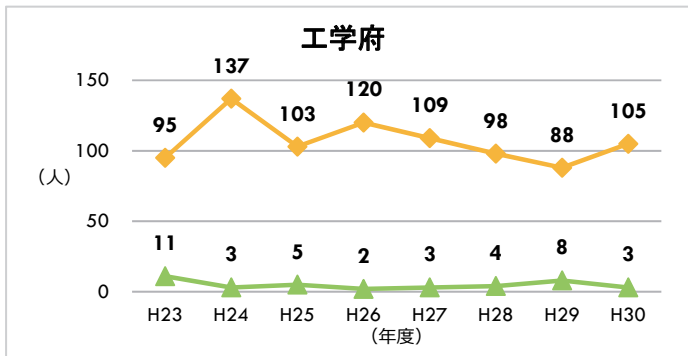
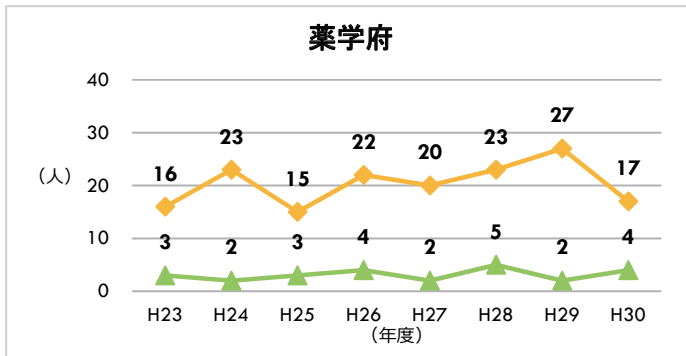
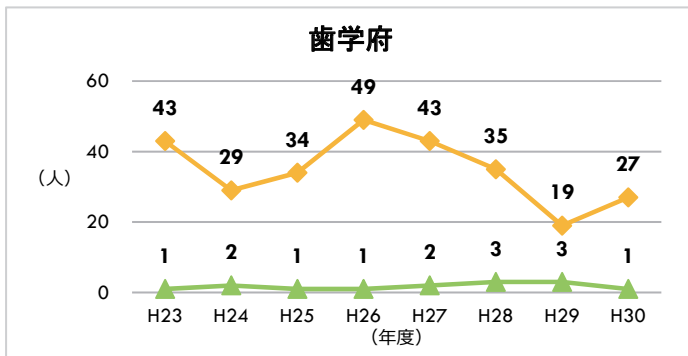
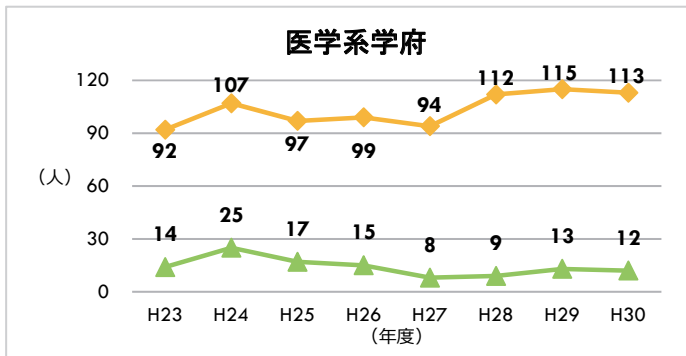
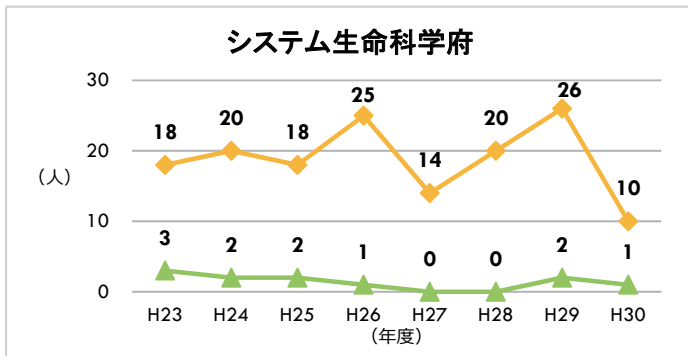
◆ 課程博士 ▲ 論文博士



※出典:九州大学概要

6-4-2. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(学府別)(つづき)

◆ 課程博士 ▲ 論文博士



※出典:九州大学概要

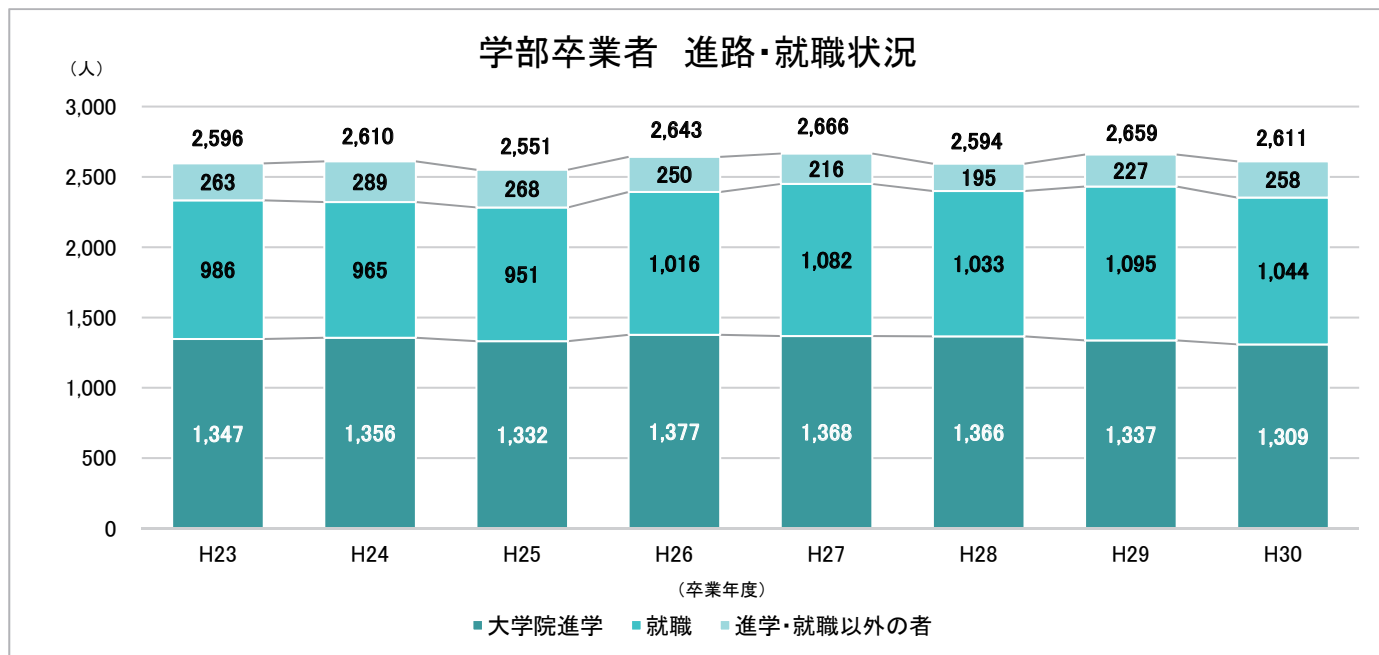
7. 進路・就職状況 (各年度5月1日現在)

7-1. 学部卒業者の進路・就職状況

7-1-1. 学部卒業者の進路・就職状況(全体)

全国的にみると、就職者の割合が高く、本学では大学院進学の高割合が高い。

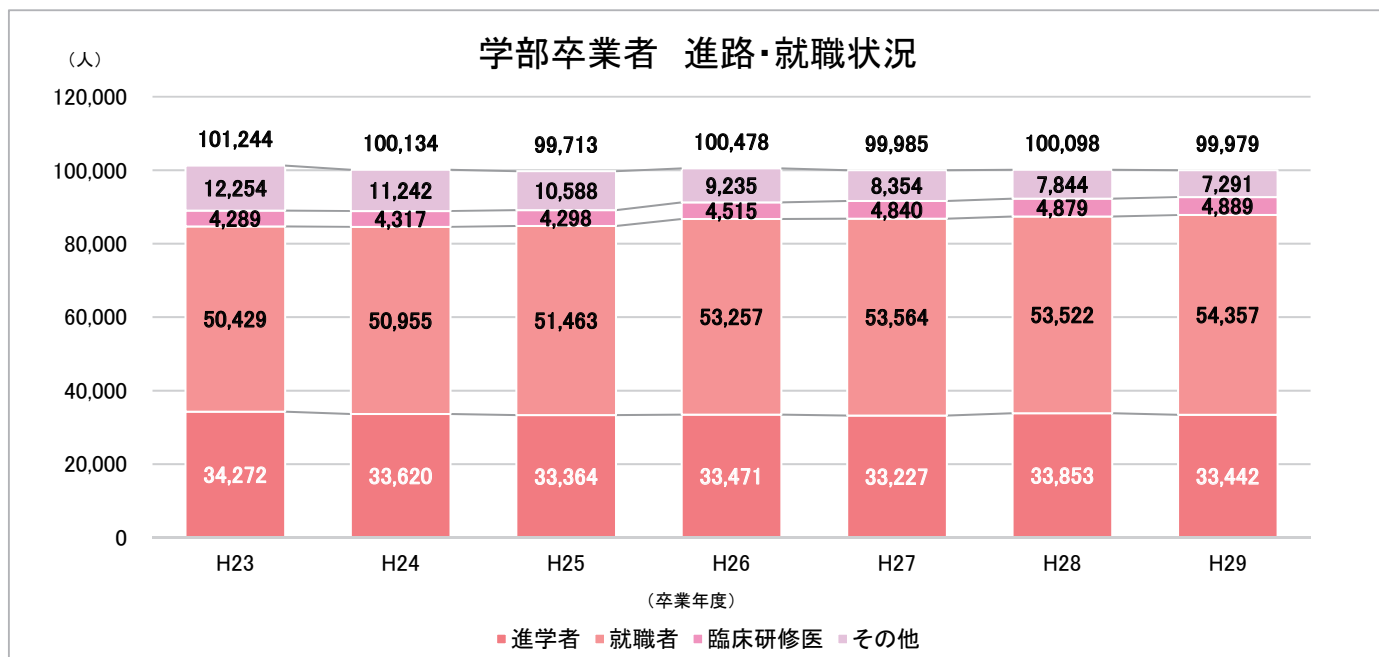
◆九州大学◆



- ・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他含む。
- ・「進学・就職以外の者」には司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

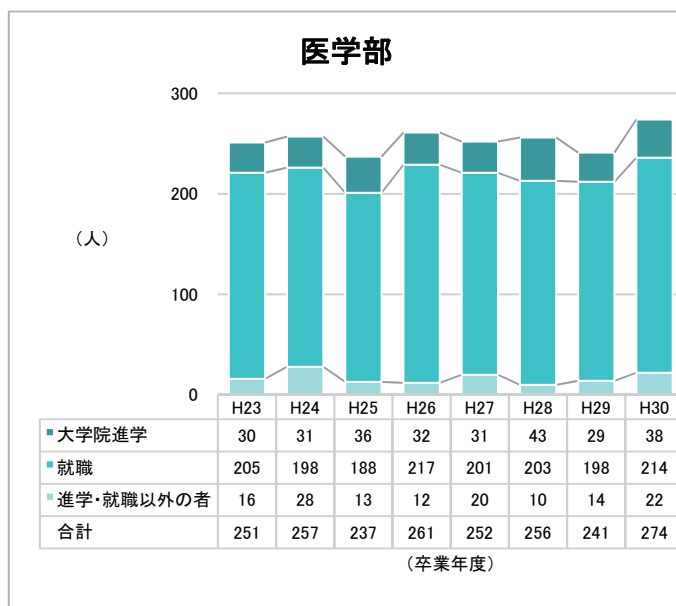
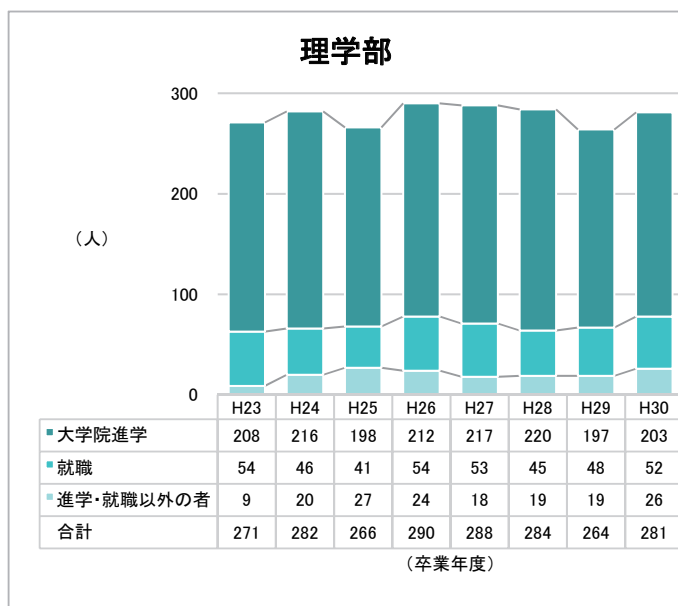
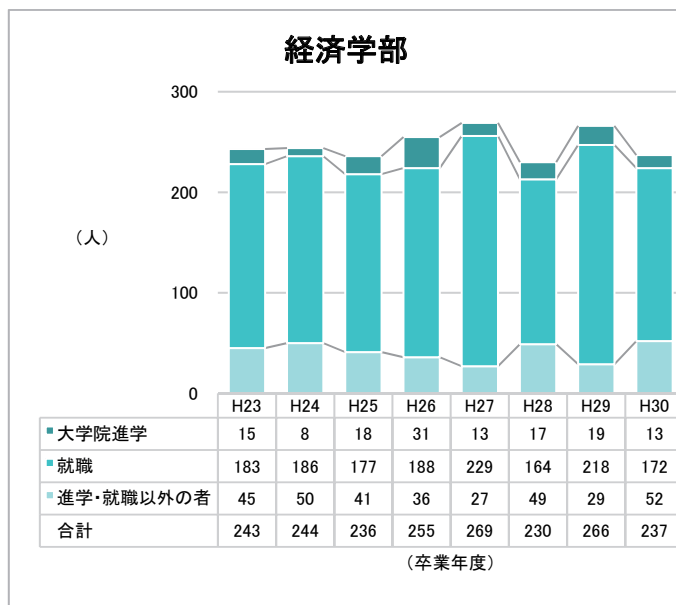
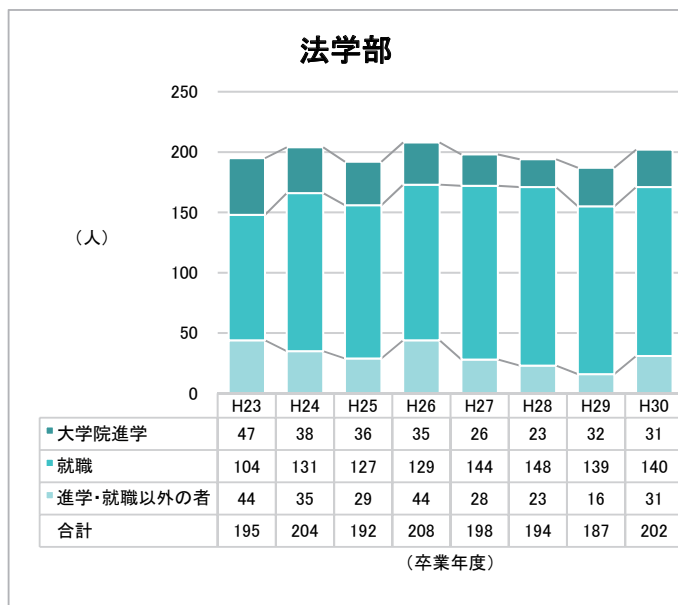
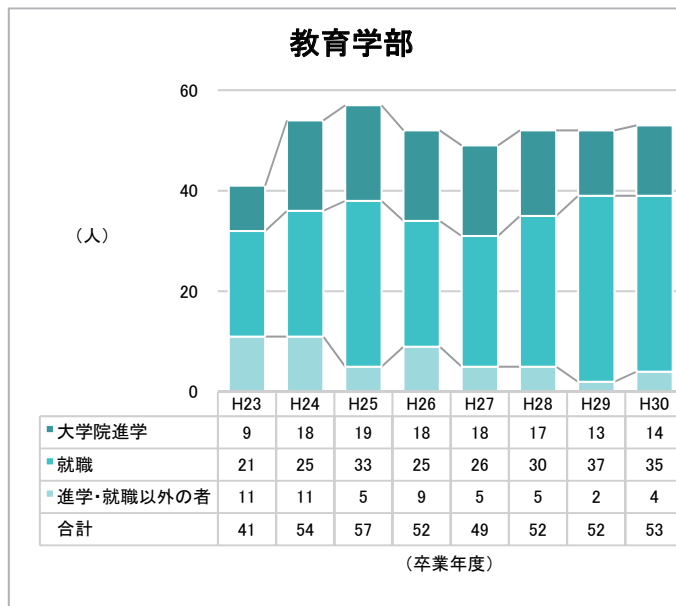
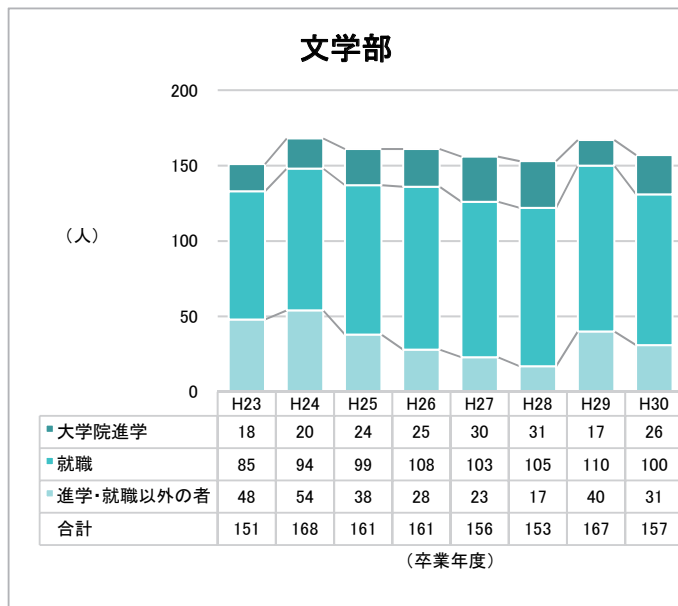
◆全国 国立大学◆



- ・「その他」は専修学校・外国の学校等入学、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡等含む。

※出典：文部科学省 学校基本調査「卒業後の状況調査 大学 関係学科別状況別卒業生数」

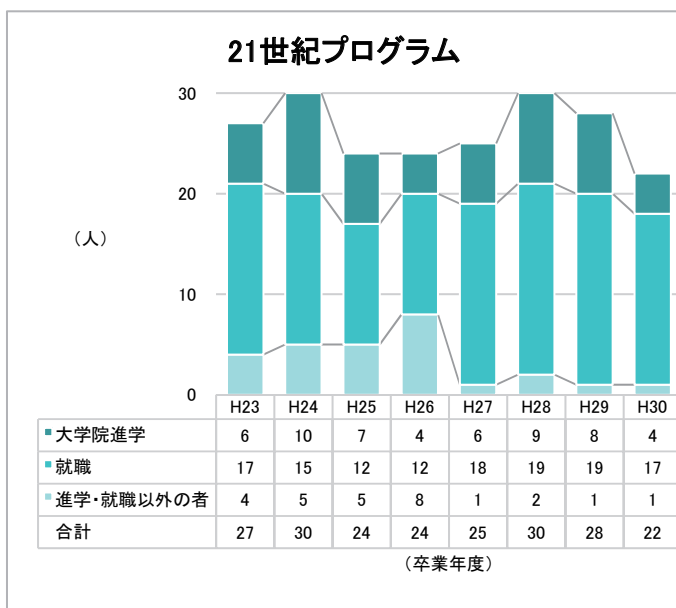
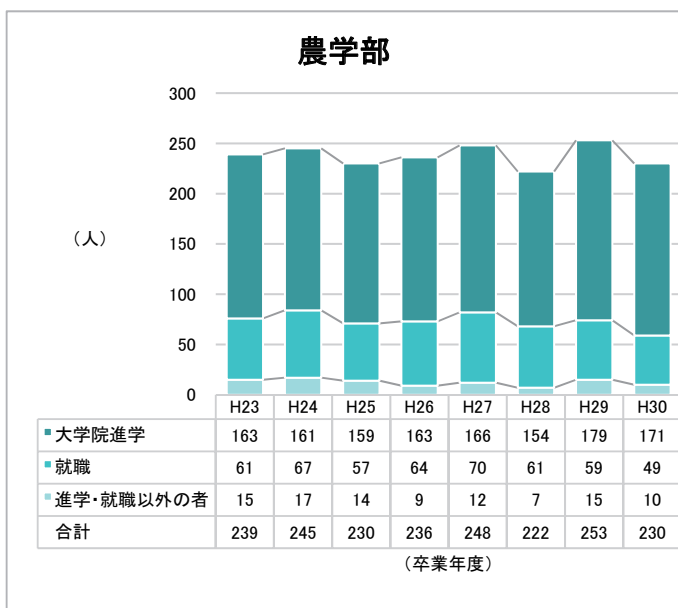
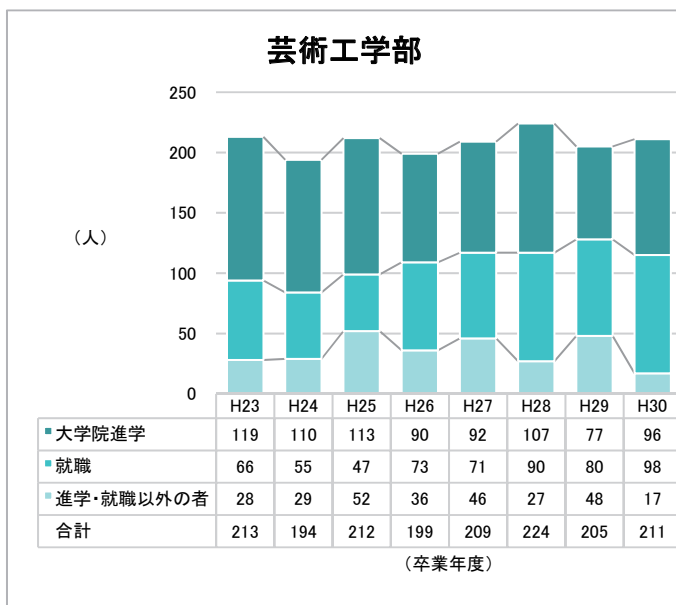
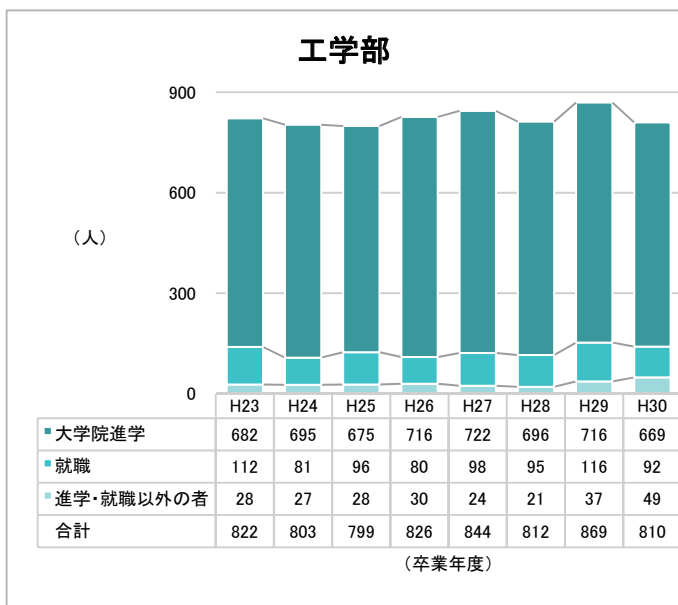
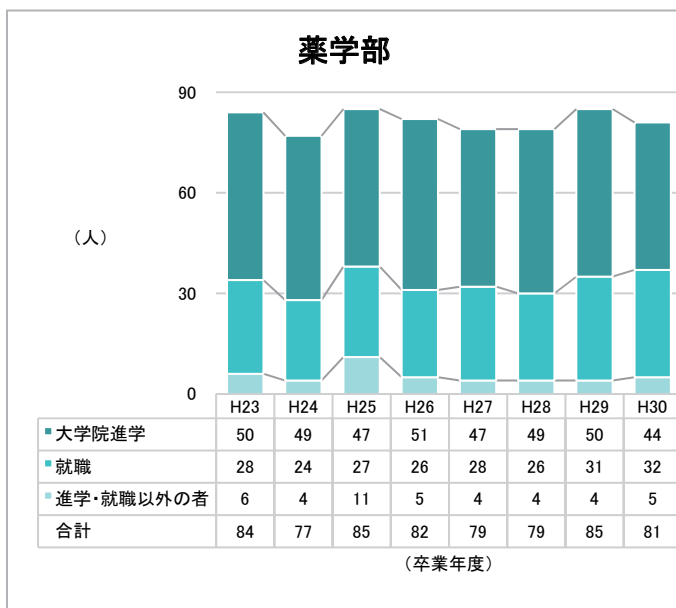
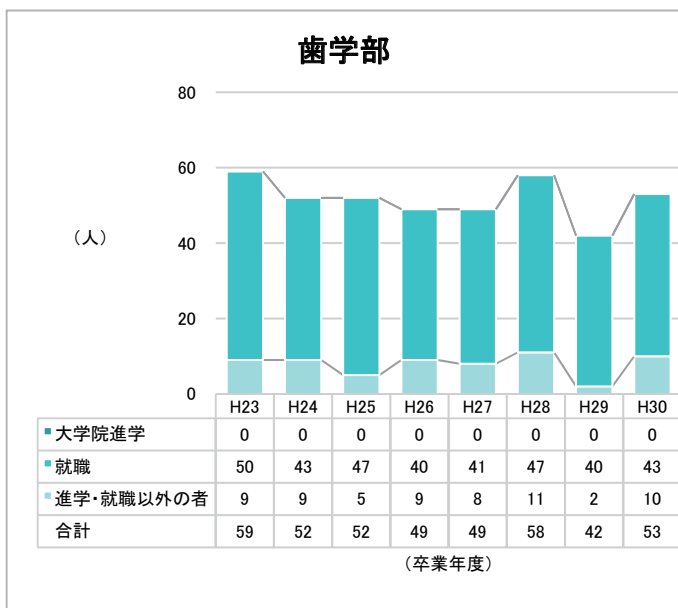
7-1-2. 学部卒業者の進路・就職状況(学部別)



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
 ・「進学・就職以外の者」には司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-1-2. 学部卒業者の進路・就職状況(学部別)(つづき)



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
 ・「進学・就職以外の者」には司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

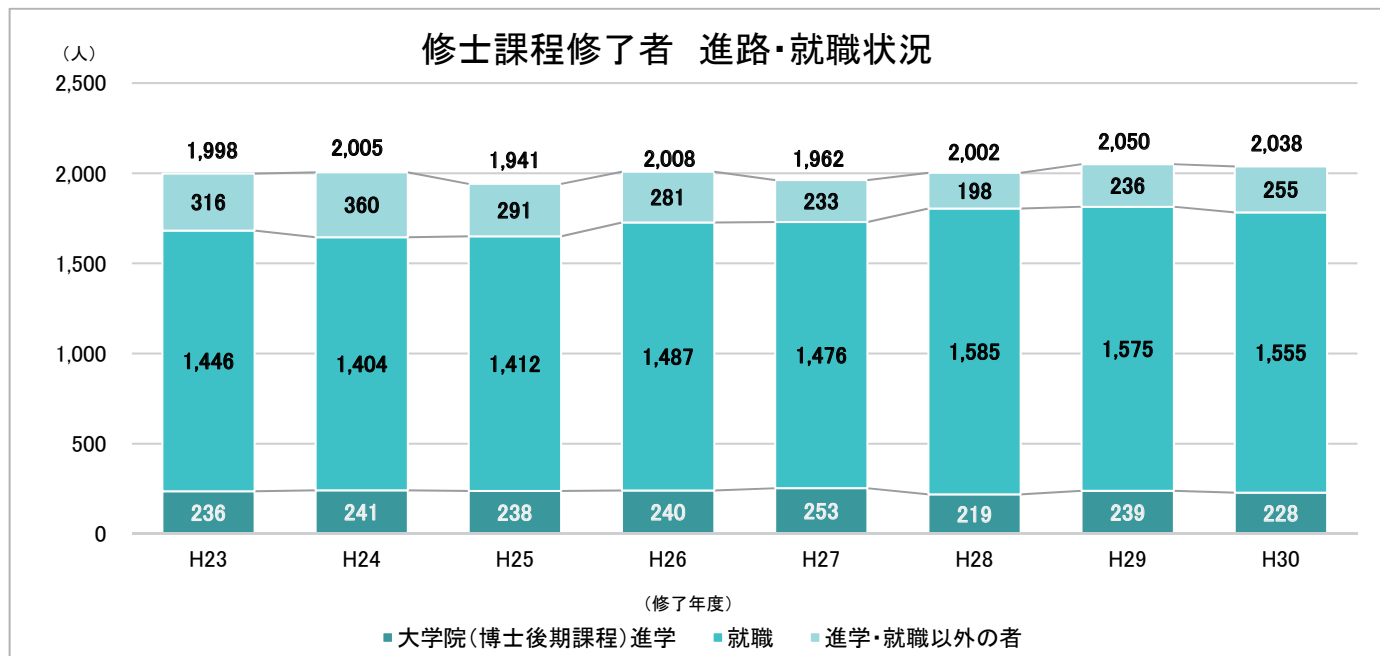
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-2. 修士課程修了者の進路・就職状況

7-2-1. 修士課程修了者の進路・就職状況(全体)

本学、全国ともに、全体的に横ばい傾向であり、就職者の割合が高い。

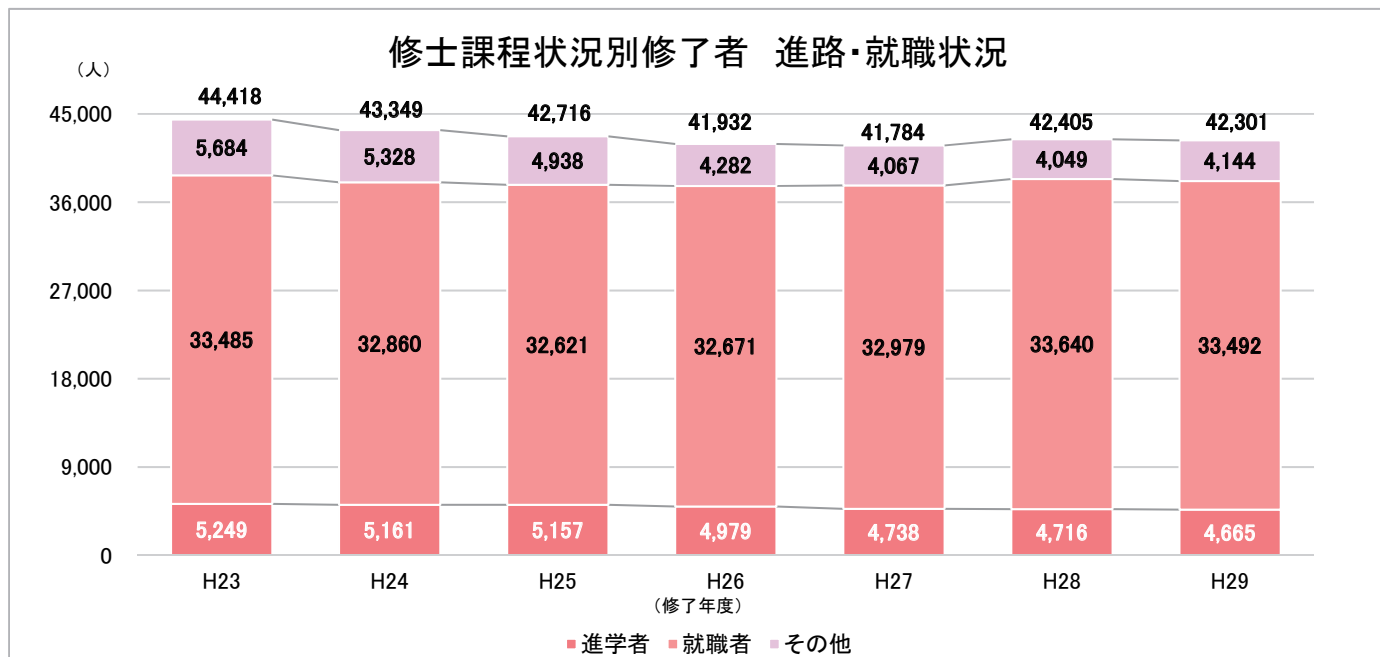
◆九州大学◆



・専門職学位課程を含む。
 ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等、司法試験等国家試験準備(法務学府)を含む。

※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

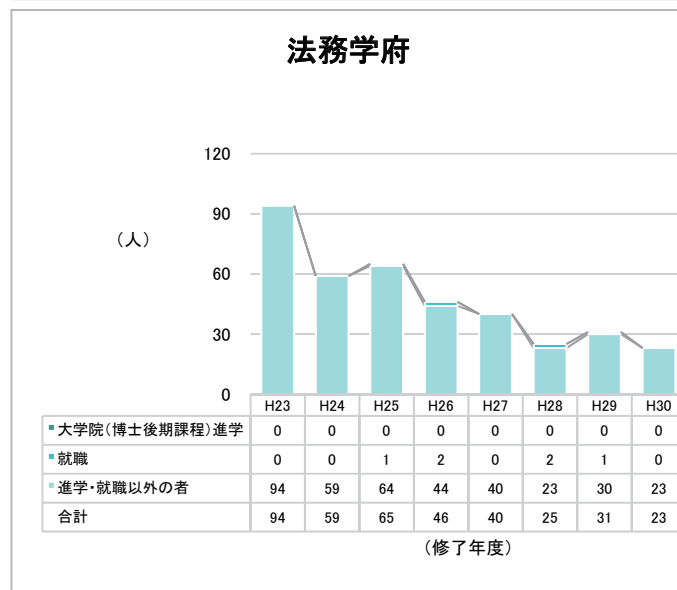
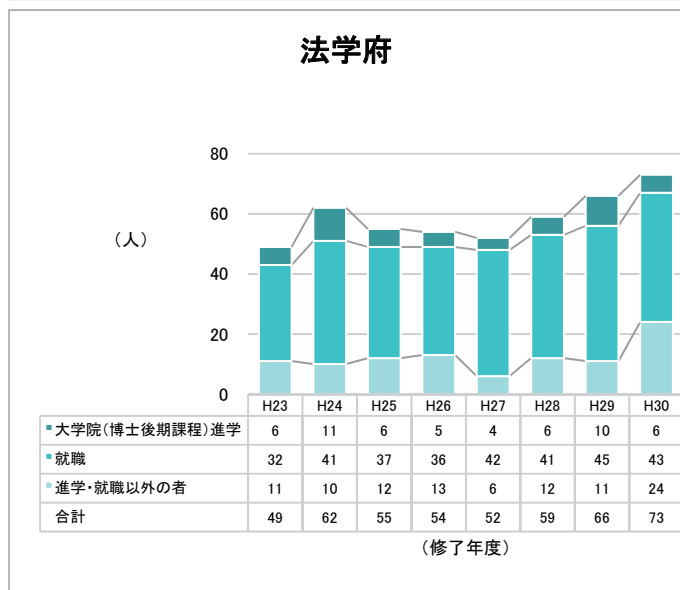
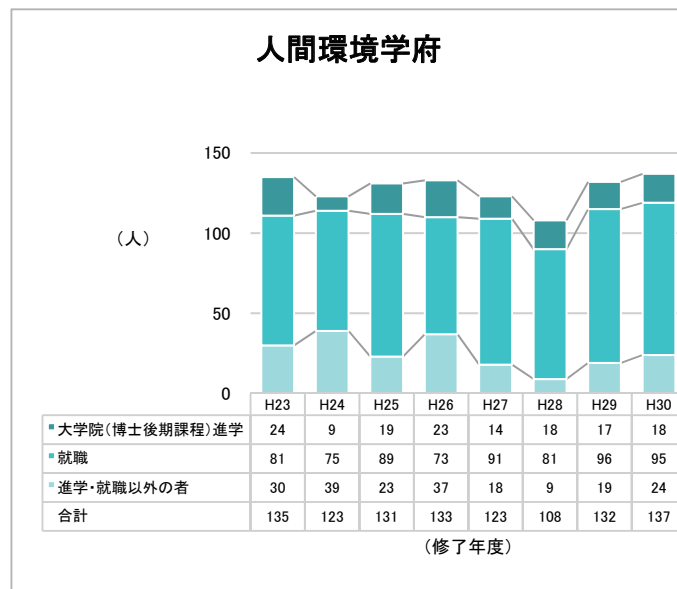
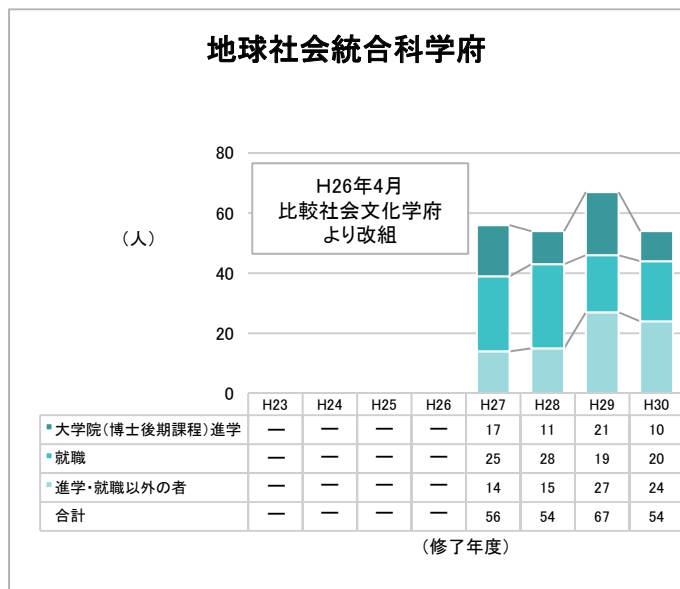
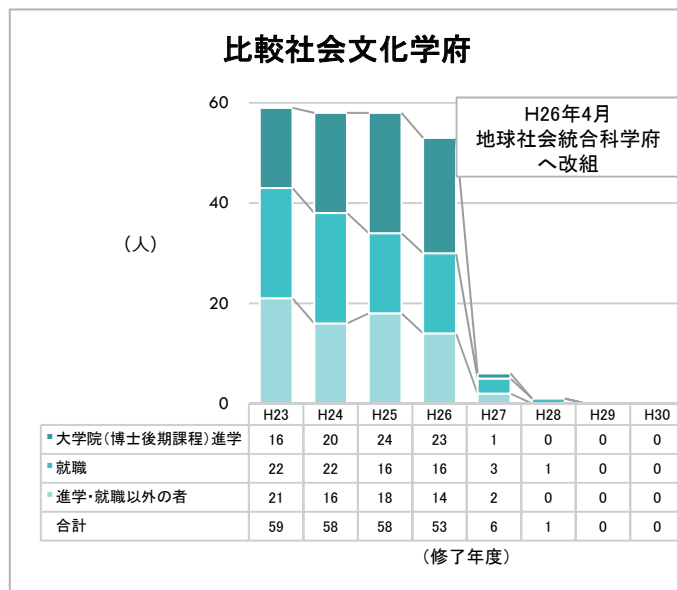
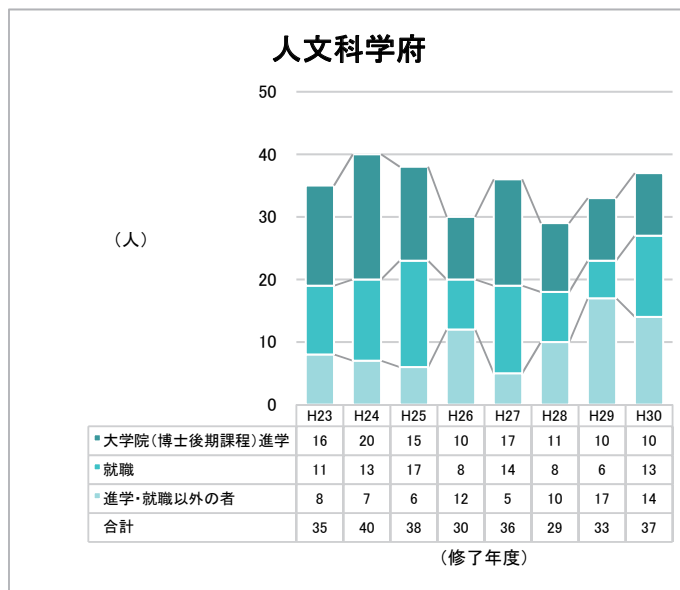
◆全国 国立大学◆



・その他には、専修学校・外国の学校等への入学者、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡の者等を含む。

※出典:文部科学省 学校基本調査「卒業後の状況調査 大学院の専攻別 状況別修了者数」

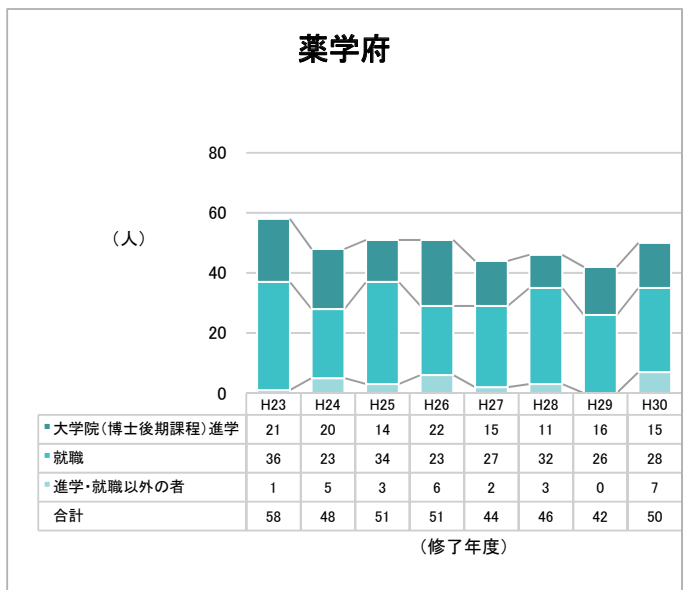
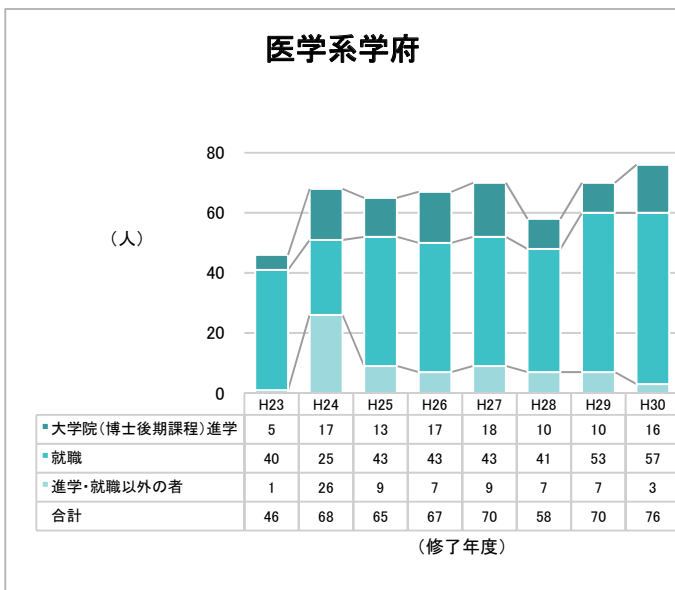
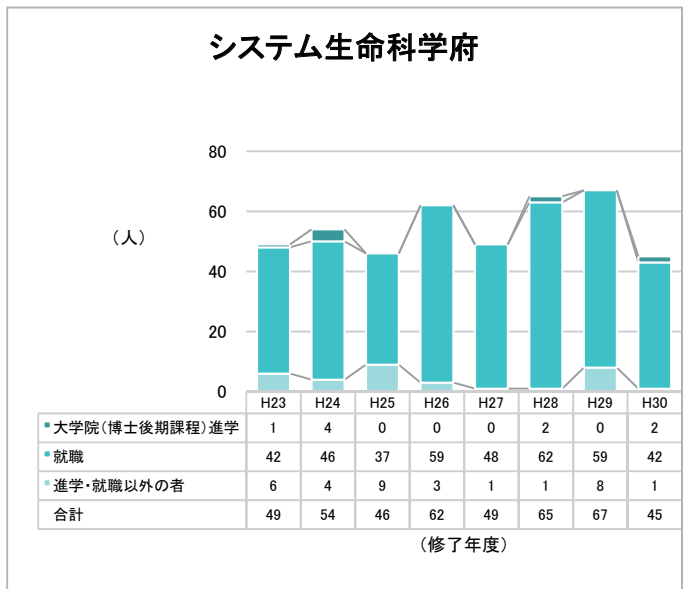
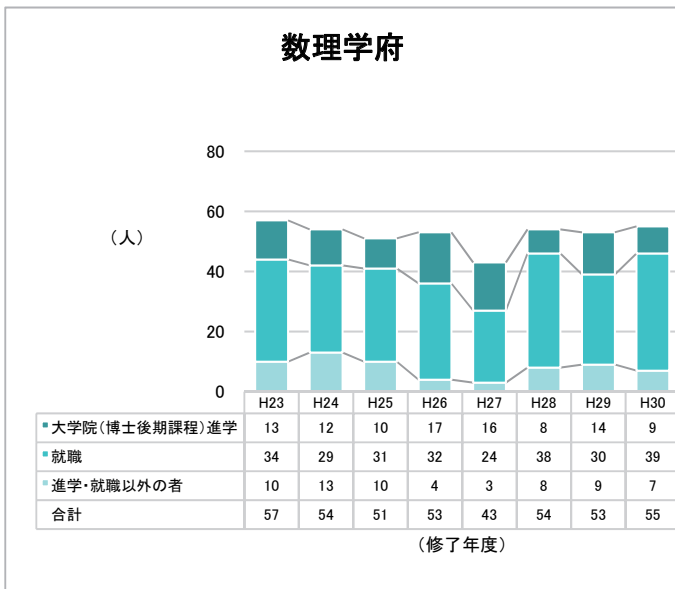
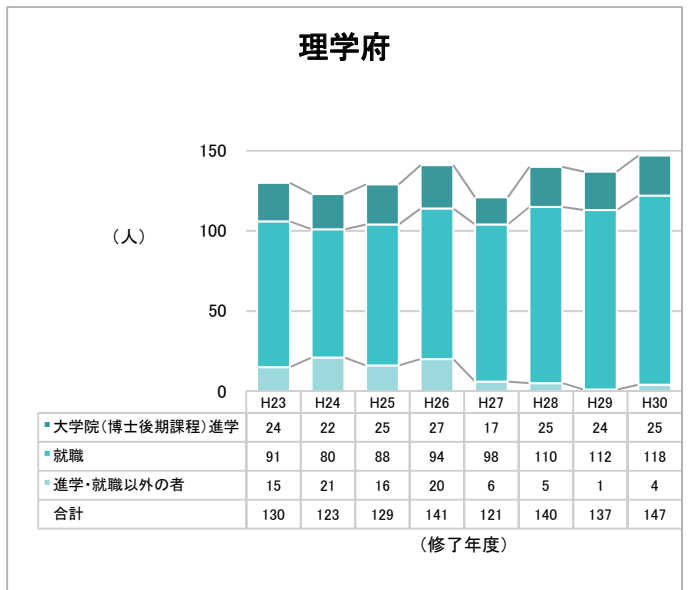
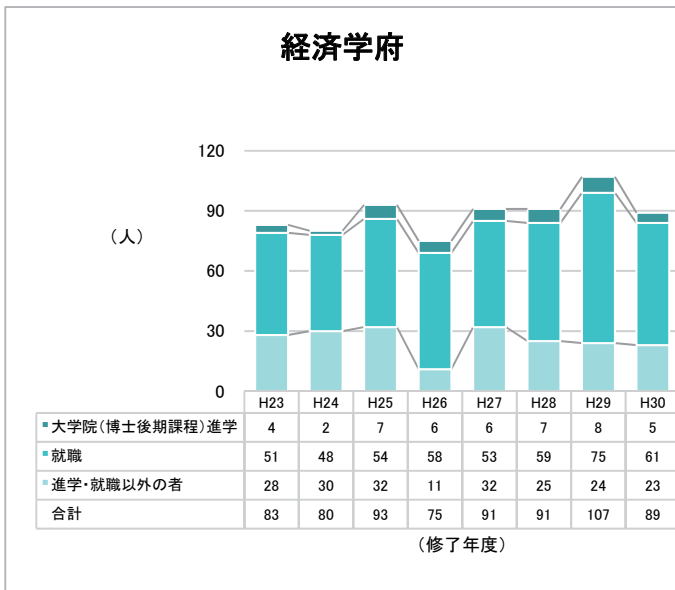
7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。
- ・法務学府の「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

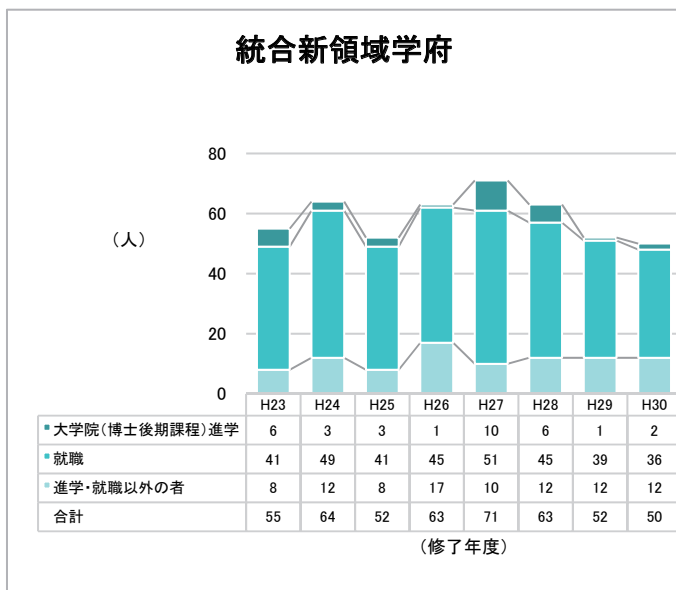
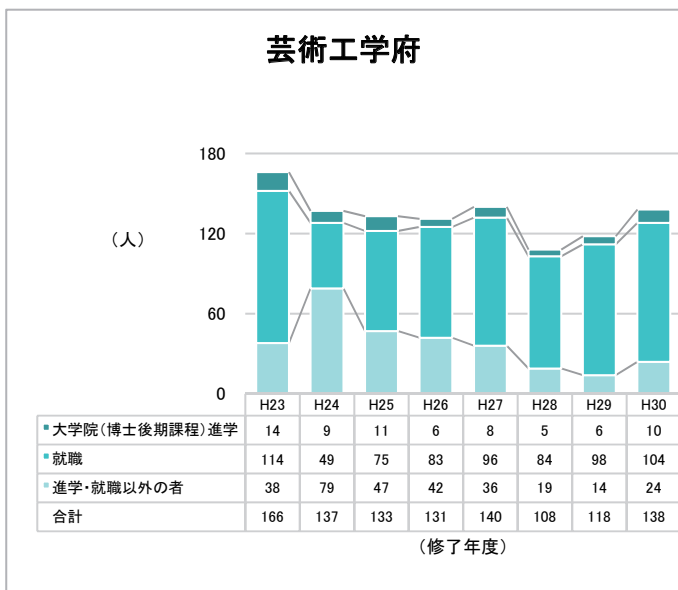
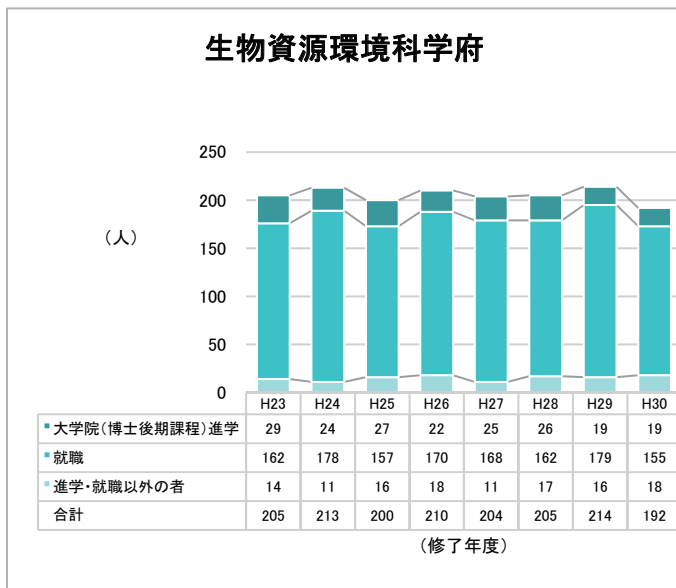
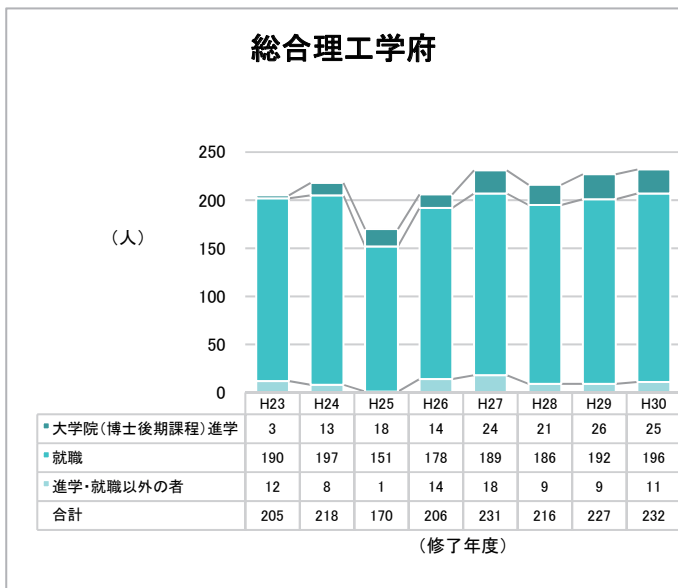
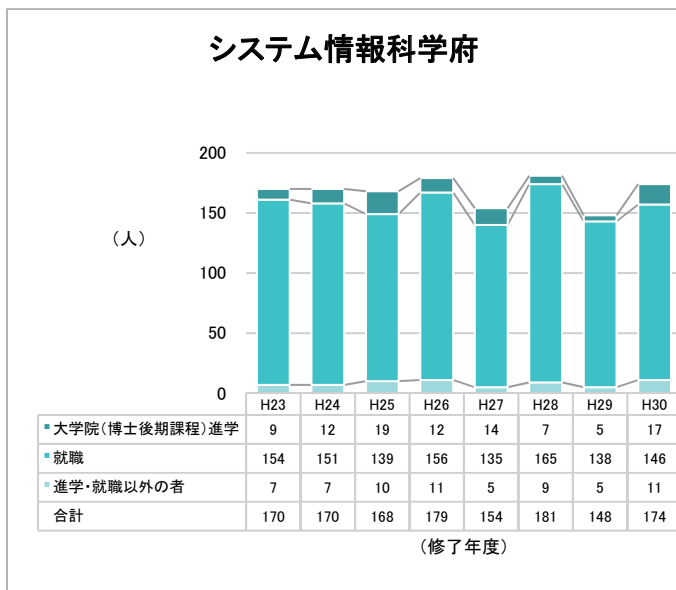
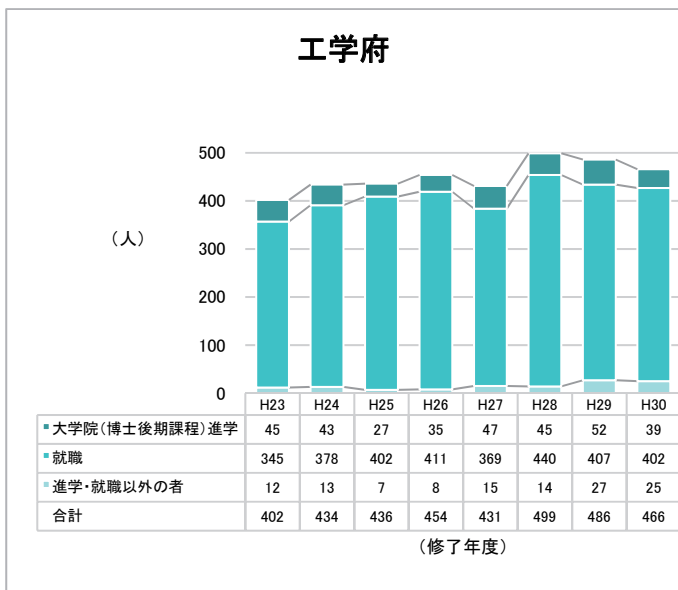
7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。

※出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。

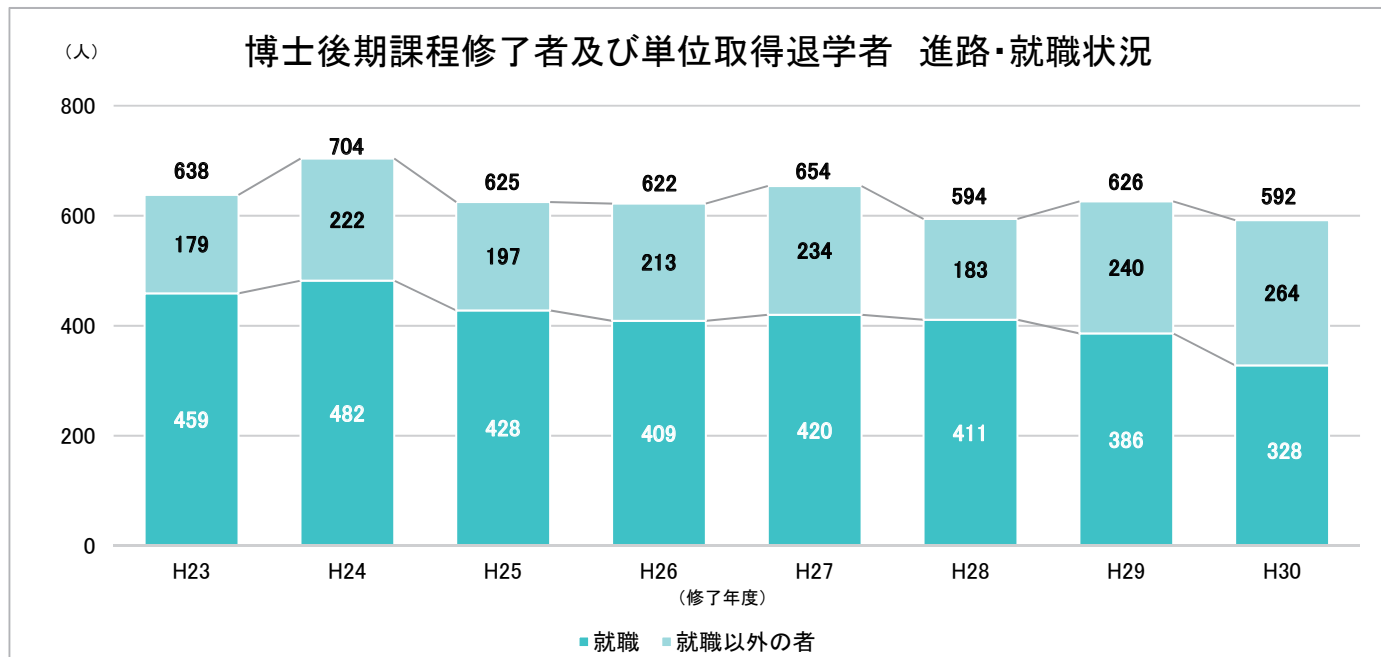
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-3. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況

7-3-1. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(全体)

本学、全国ともに、全体的に横ばい傾向であり、就職者の割合が高い。

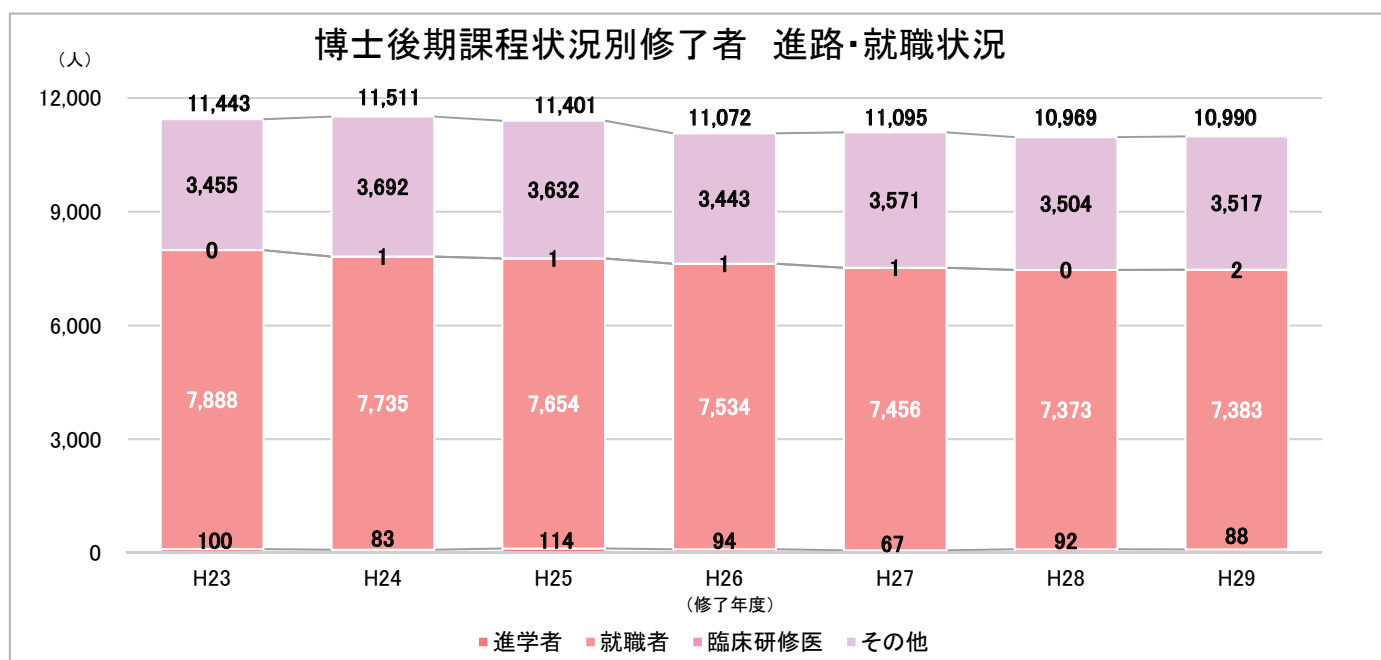
◆九州大学◆



・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。
・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

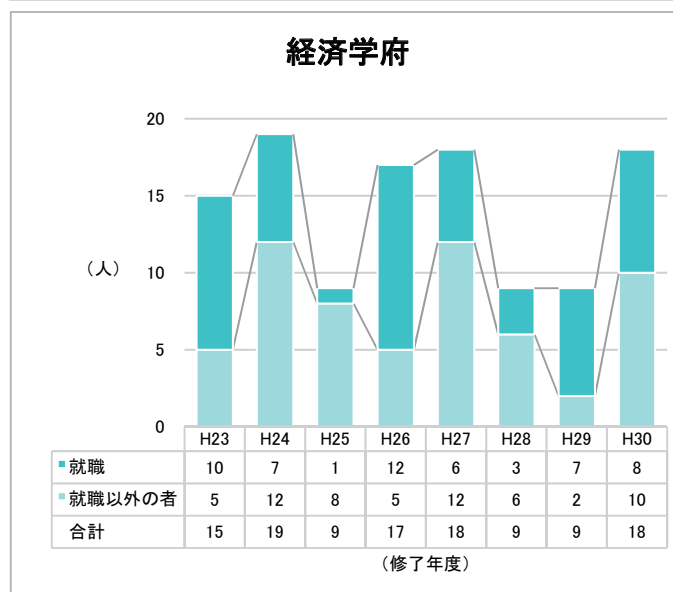
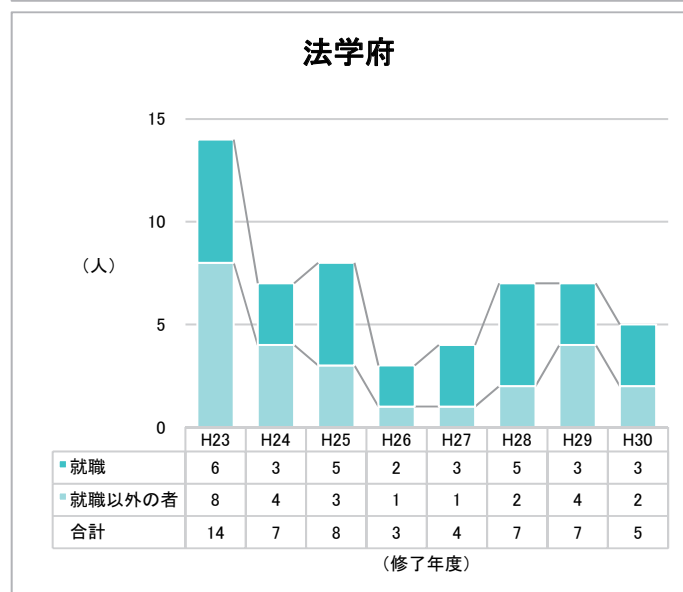
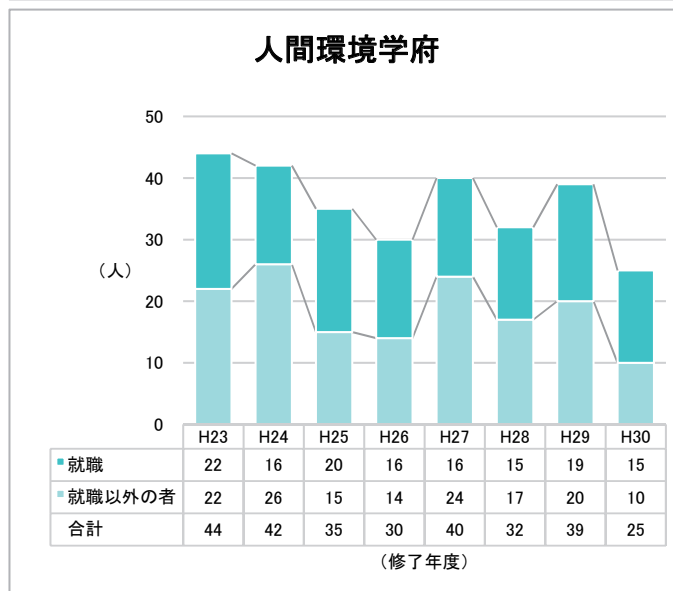
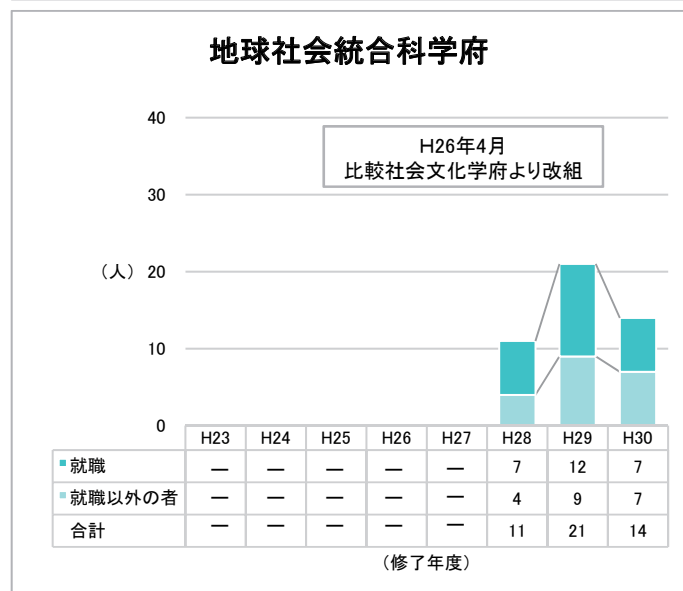
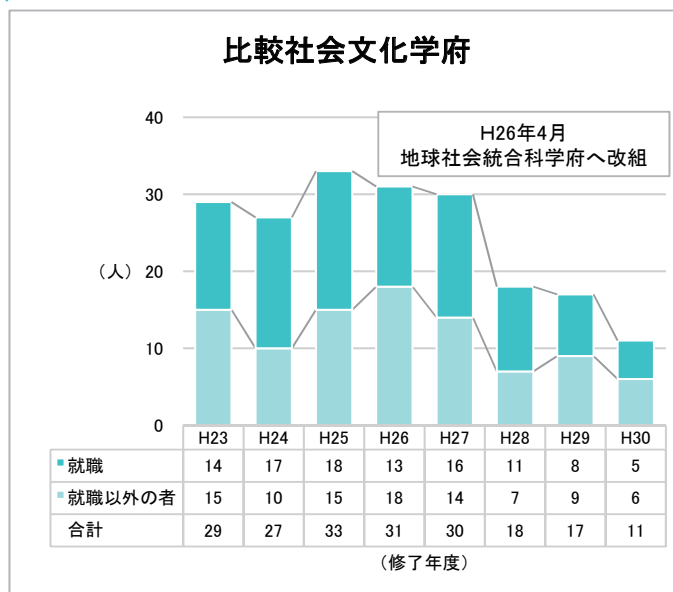
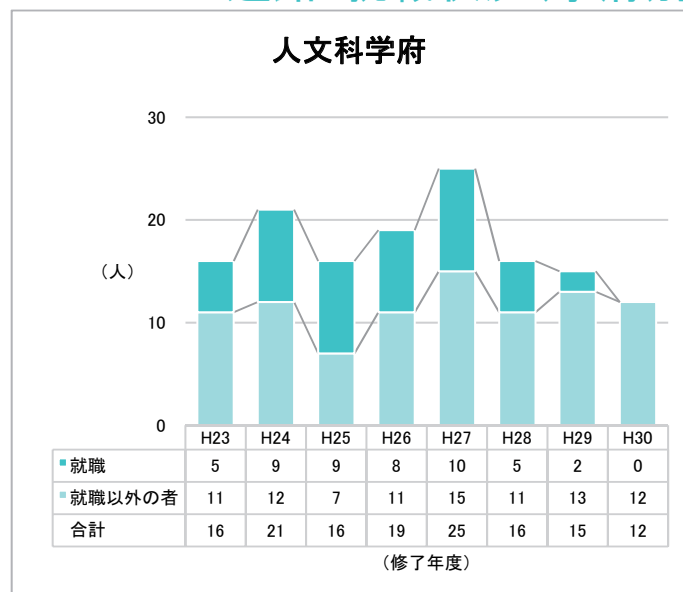
◆全国 国立大学◆



・その他には、専修学校・外国の学校等への入学者、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡の者等を含む。

※出典：文部科学省 学校基本調査「卒業後の状況調査 大学院の専攻別 状況別修了者数」

7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(学府別)

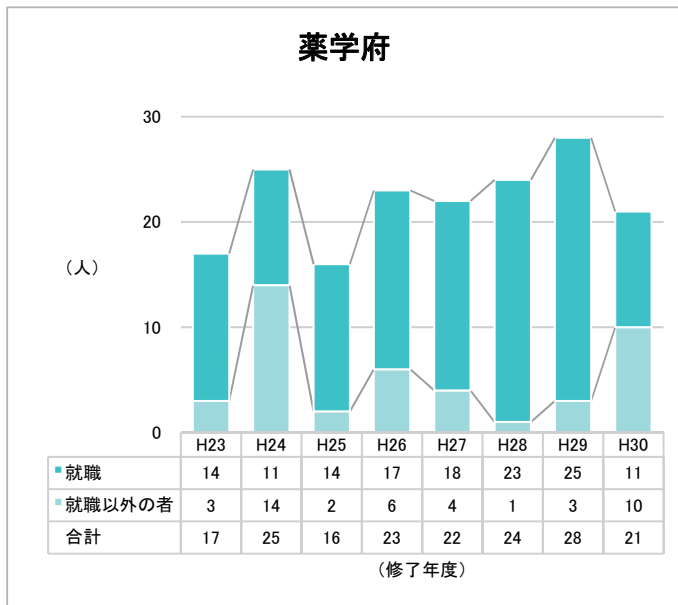
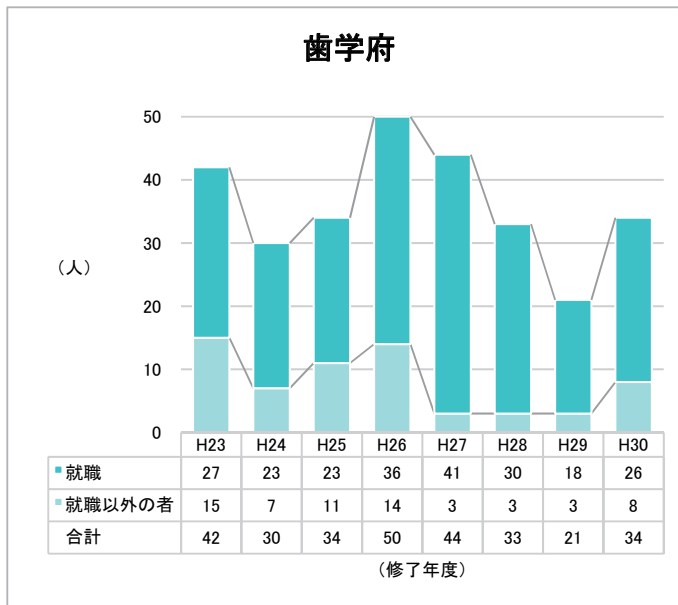
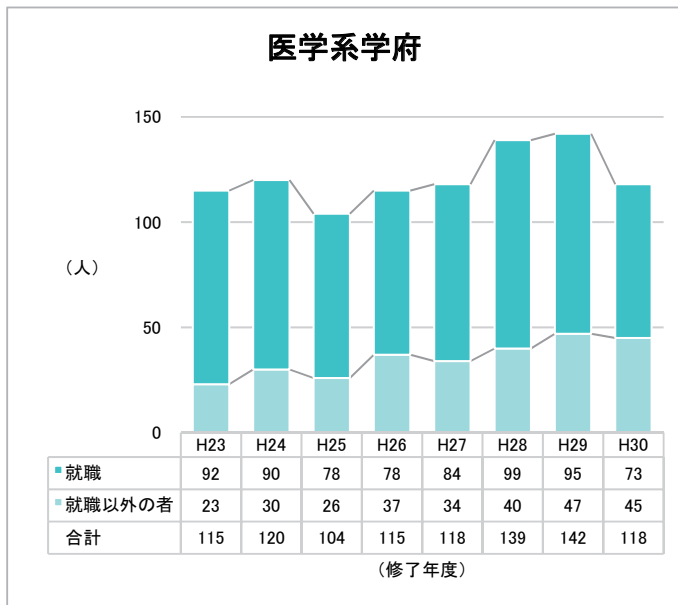
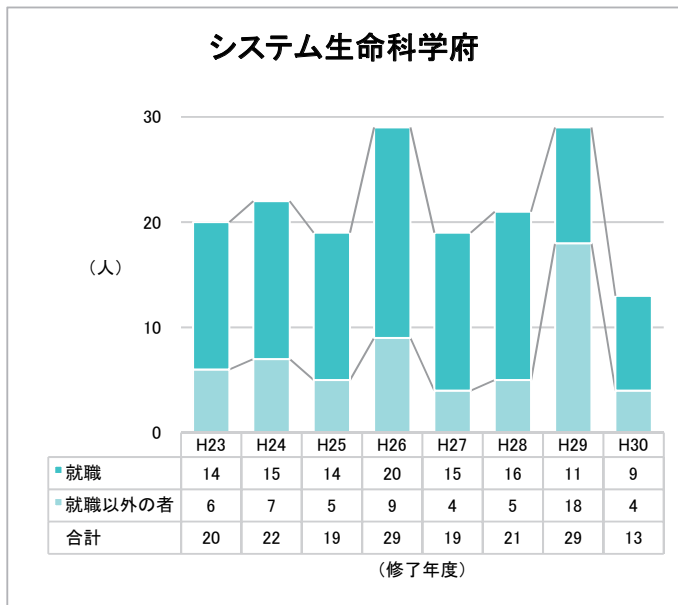
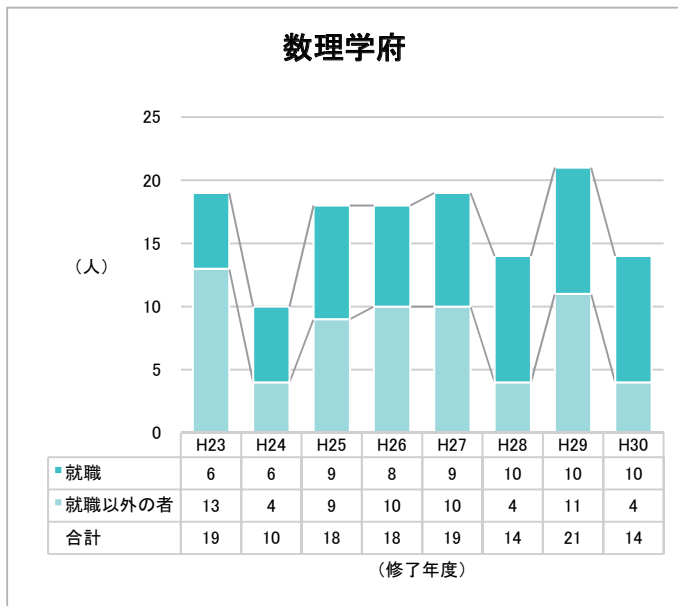
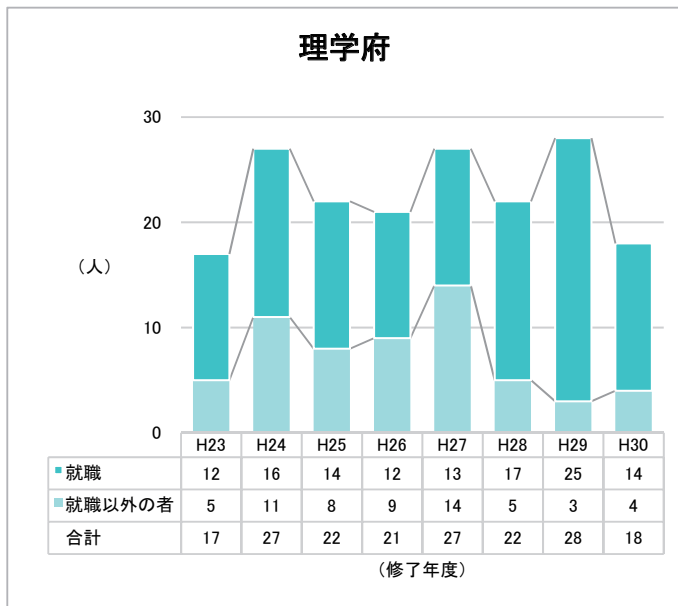


・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。

・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

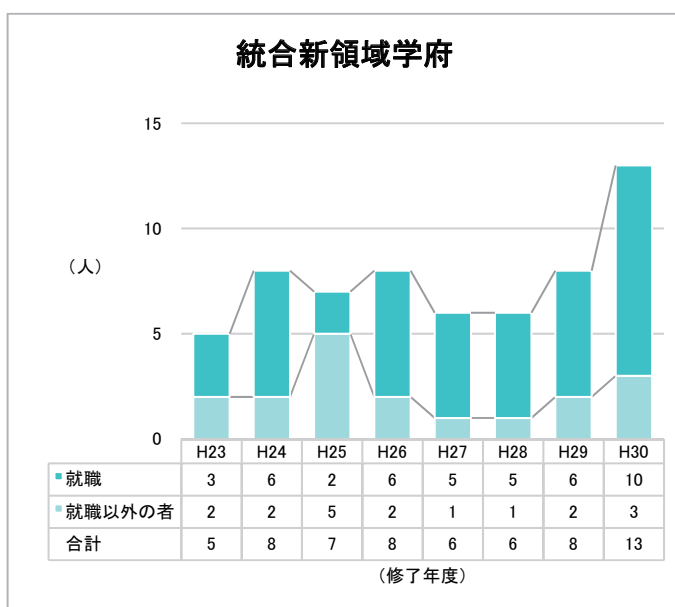
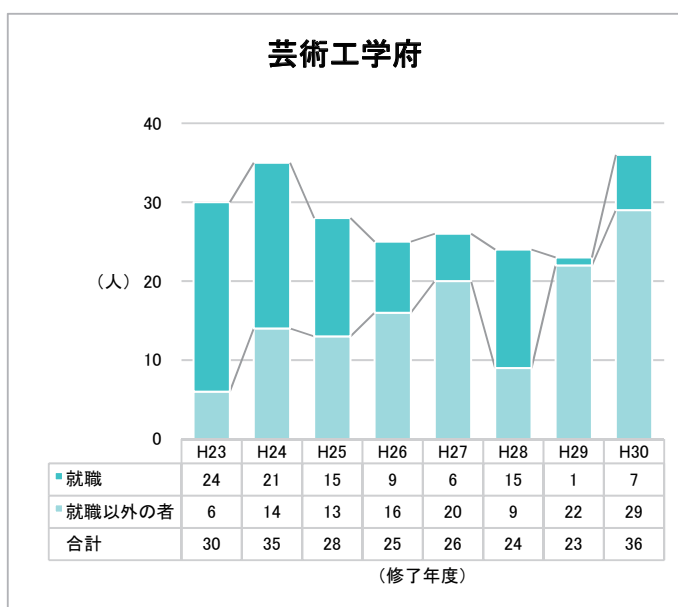
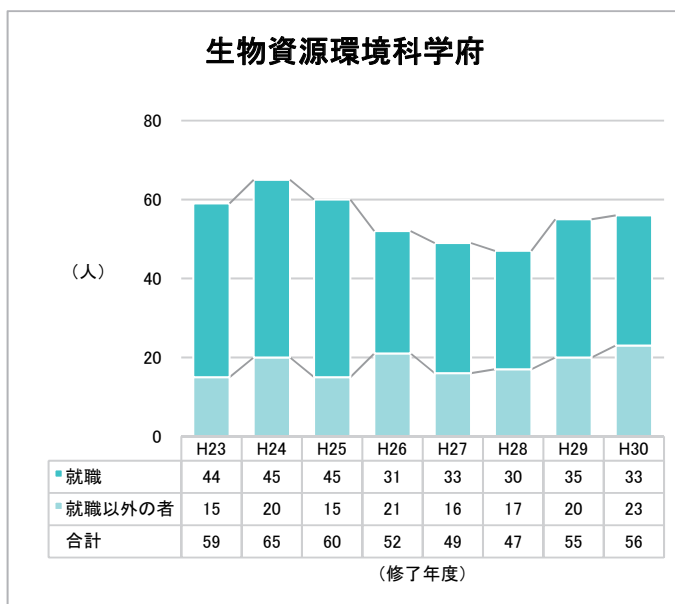
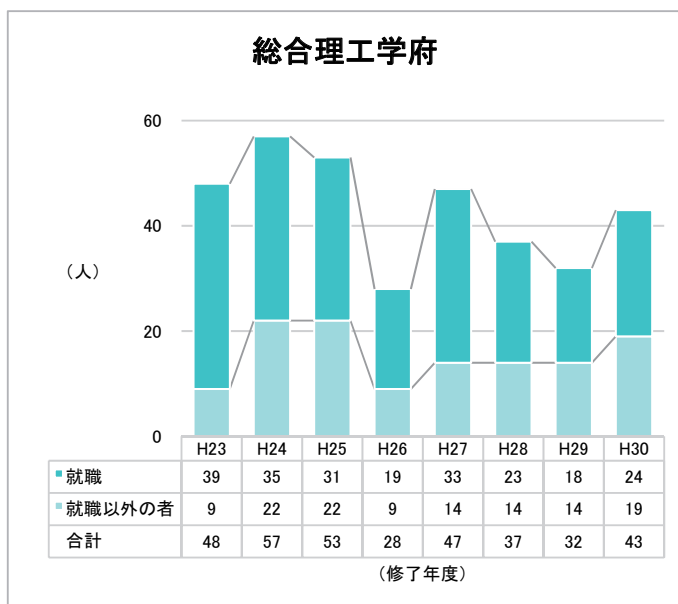
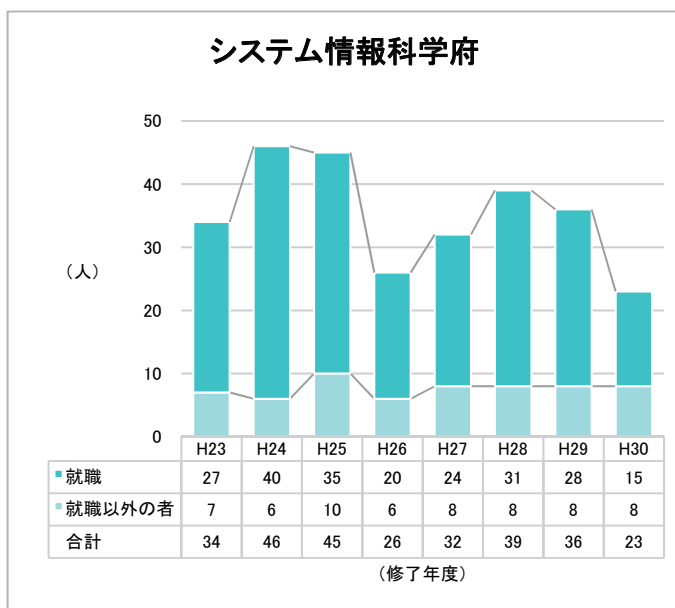
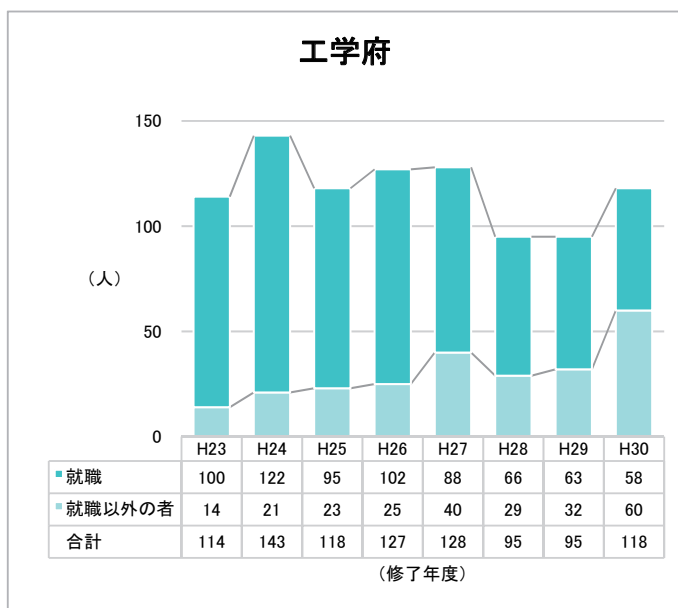
7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(学府別)(つづき)



・「就職」は、企業等、教員、公務員、その他を含む。
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

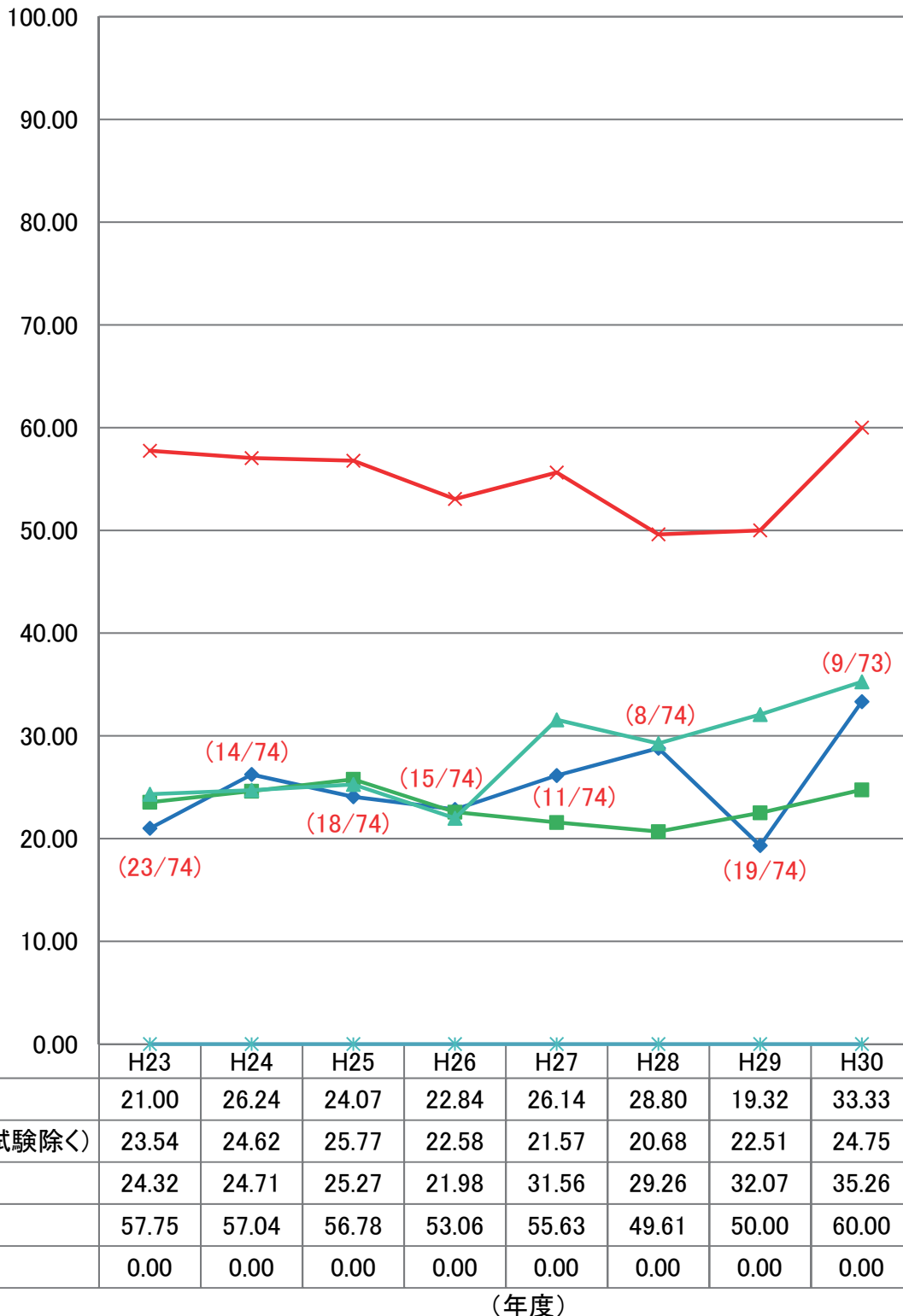
8. 資格試験等合格状況

8-1. 司法試験合格状況

全体的に昨年度より、合格率が上がっている。

◆ 合格率推移 ◆

(最終合格率)



(年度)

・()内は(九大の順位/全体数)である。

※出典: 法務省HP 司法試験の結果について 法科大学院等別合格者数等

8-1. 司法試験合格状況(つづき)

◆合格者数ランキング(上位20大学)◆

H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)
東京大	210(1)	中央大	202(1)	慶應義塾大	201(1)	早稲田大	172(1)	中央大	170(1)	慶應義塾大	155(1)	慶應義塾大	144(1)	京都大	128(1)
中央大	176(2)	東京大	194(2)	東京大	197(2)	中央大	164(2)	慶應義塾大	158(2)	早稲田大	152(2)	東京大	134(2)	東京大	121(2)
京都大	172(3)	慶應義塾大	186(3)	早稲田大	184(3)	東京大	158(3)	東京大	149(3)	東京大	137(3)	中央大	119(3)	慶應義塾大	118(3)
慶應義塾大	164(4)	早稲田大	155(4)	中央大	177(4)	慶應義塾大	150(4)	早稲田大	145(4)	中央大	136(4)	京都大	111(4)	早稲田大	110(4)
早稲田大	138(5)	京都大	152(5)	京都大	129(5)	京都大	130(5)	京都大	128(5)	京都大	105(5)	早稲田大	102(5)	中央大	101(5)
明治大	90(6)	明治大	82(6)	一橋大	67(6)	一橋大	64(6)	一橋大	79(6)	一橋大	63(6)	大阪大	66(6)	一橋大	72(6)
一橋大	82(7)	一橋大	77(7)	明治大	65(7)	明治大	63(7)	神戸大	72(7)	大阪大	42(7)	一橋大	60(7)	神戸大	51(7)
神戸大	69(8)	大阪大	74(8)	大阪大	51(8)	大阪大	55(8)	明治大	53(8)	神戸大	41(8)	神戸大	55(8)	大阪大	50(8)
同志社大	65(9)	神戸大	60(9)	北海道大	50(9)	神戸大	44(9)	大阪大	48(9)	九州大	36(9)	首都大東京	31(9)	九州大	29(9)
東北大	54(10)	北海道大	54(10)	神戸大	46(10)	東北大	42(10)	北海道大	42(10)	明治大	36(9)	明治大	30(10)	名古屋大	29(9)
大阪大	49(11)	九州大	53(11)	上智大	46(10)	北海道大	41(11)	九州大	40(11)	名古屋大	34(11)	北海道大	29(11)	明治大	25(11)
北海道大	48(12)	同志社大	44(12)	同志社大	42(12)	九州大	37(12)	名古屋大	37(12)	北海道大	30(12)	名古屋大	28(12)	同志社大	24(12)
名古屋大	43(13)	名古屋大	44(12)	名古屋大	40(13)	立命館大	33(13)	東北大	35(13)	立命館大	29(13)	立命館大	21(13)	首都大東京	23(13)
九州大	42(14)	立命館大	43(14)	立命館大	40(13)	上智大	31(14)	同志社大	33(14)	首都大東京	25(14)	同志社大	20(14)	北海道大	23(13)
立命館大	40(15)	首都大東京	40(15)	九州大	39(15)	名古屋大	30(15)	上智大	29(15)	東北大	23(15)	東北大	18(15)	上智大	18(15)
上智大	39(16)	上智大	38(16)	首都大東京	39(15)	千葉大	26(16)	法政大	29(15)	上智大	19(16)	関西学院大	18(15)	法政大	17(16)
首都大東京	38(17)	東北大	38(16)	東北大	39(15)	同志社大	26(16)	立命館大	27(17)	千葉大	17(17)	九州大	17(17)	学習院大	16(17)
関西大	35(18)	関西学院大	27(18)	大阪市立大	35(18)	首都大東京	22(18)	首都大東京	26(18)	同志社大	17(17)	上智大	16(18)	東北大	15(18)
法政大	31(19)	関西大	22(19)	関西学院大	34(19)	日本大	22(18)	大阪市立大	22(19)	関西大	15(19)	創価大	13(19)	立命館大	15(18)
大阪市立大	30(20)	日本大	22(19)	法政大	30(20)	法政大	21(20)	関西大	22(19)	関西学院大	15(19)	大阪市立大	13(19)	創価大	13(20)
										広島大	15(19)				
										法政大	15(19)				

◆合格率ランキング(上位20大学)◆

H23年度		H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度	
大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)
一橋大	57.75%(1)	一橋大	57.04%(1)	慶應義塾大	56.78%(1)	京都大	53.06%(1)	一橋大	55.63%(1)	一橋大	49.61%(1)	京都大	50.00%(1)	東北学院大	60.00%(1)
京都大	54.60%(2)	京都大	54.29%(2)	東京大	55.18%(2)	東京大	51.97%(2)	京都大	53.33%(2)	東京大	48.07%(2)	一橋大	49.59%(2)	一橋大	59.50%(2)
東京大	50.48%(3)	慶應義塾大	53.60%(3)	一橋大	54.47%(3)	一橋大	47.06%(3)	東京大	48.85%(3)	京都大	47.30%(3)	東京大	49.45%(3)	京都大	59.26%(3)
慶應義塾大	47.95%(4)	東京大	51.19%(4)	京都大	52.44%(4)	慶應義塾大	44.64%(4)	神戸大	48.32%(4)	慶應義塾大	44.29%(4)	慶應義塾大	45.43%(4)	東京大	48.02%(4)
神戸大	46.62%(5)	神戸大	45.80%(5)	愛知大	42.86%(5)	大阪大	40.15%(5)	慶應義塾大	45.53%(5)	早稲田大	35.85%(5)	大阪大	40.74%(5)	神戸大	39.53%(5)
千葉大	39.19%(6)	大阪大	41.81%(6)	首都大東京	40.63%(6)	早稲田大	35.17%(6)	愛知大	36.36%(6)	神戸大	32.28%(6)	神戸大	38.73%(6)	慶應義塾大	39.20%(6)
中央大	38.18%(7)	中央大	41.31%(7)	中央大	40.05%(7)	中央大	34.53%(7)	中央大	35.79%(7)	中央大	29.44%(7)	愛知大	30.77%(7)	大阪大	37.59%(7)
早稲田大	31.94%(8)	首都大東京	39.60%(8)	早稲田大	38.41%(8)	千葉大	30.95%(8)	早稲田大	30.79%(8)	九州大	28.80%(8)	早稲田大	29.39%(8)	早稲田大	36.54%(8)
東北大	31.76%(9)	愛知大	37.84%(9)	千葉大	36.92%(9)	神戸大	30.77%(9)	大阪大	29.09%(9)	大阪大	26.75%(9)	首都大東京	26.96%(9)	九州大	33.33%(9)
首都大東京	31.67%(10)	北海道大	33.96%(10)	神戸大	36.80%(10)	東北大	26.42%(10)	北海道大	28.57%(10)	愛知大	26.67%(10)	中央大	26.15%(10)	名古屋大	30.53%(10)
名古屋大	31.62%(11)	早稲田大	32.84%(11)	大阪大	36.43%(11)	愛知大	25.93%(11)	九州大	26.14%(11)	名古屋大	25.00%(11)	東北大	26.09%(11)	白鷗大	28.57%(11)
岡山山	31.51%(12)	名古屋大	32.59%(12)	名古屋大	33.33%(12)	創価大	25.71%(12)	東北大	25.74%(12)	東北大	23.96%(12)	北海道大	24.58%(12)	東北大	27.27%(12)
北海道大	30.00%(13)	千葉大	31.82%(13)	北海道大	33.33%(12)	北海道大	25.47%(13)	名古屋大	25.00%(13)	北海道大	23.44%(13)	名古屋大	23.73%(13)	香川大	25.00%(13)
大阪大	28.65%(14)	九州大	26.24%(14)	大阪市立大	33.02%(14)	首都大東京	22.92%(14)	首都大東京	23.01%(14)	広島大	20.27%(14)	鹿児島大	20.00%(14)	広島大	25.00%(13)
北海道学園大	27.03%(15)	近畿大	24.32%(15)	上智大	26.44%(15)	九州大	22.84%(15)	神奈川大	22.86%(15)	千葉大	19.77%(15)	熊本大	20.00%(14)	中央大	23.22%(15)
南山大	26.25%(16)	東北大	21.97%(16)	創価大	25.00%(16)	名古屋大	22.56%(16)	大阪市立大	18.64%(16)	首都大東京	19.53%(16)	神戸学院大	20.00%(14)	愛知大	23.08%(16)
大阪市立大	25.00%(17)	広島大	20.88%(17)	岡山山	24.29%(17)	上智大	19.62%(17)	岡山山	18.46%(17)	創価大	19.40%(17)	創価大	19.40%(17)	信州大	22.73%(17)
明治大	24.00%(18)	上智大	20.77%(18)	九州大	24.07%(18)	横浜国立大	19.35%(18)	熊本大	18.42%(18)	岡山山	18.03%(18)	琉球大	19.35%(18)	首都大東京	22.33%(18)
同志社大	23.47%(19)	明治大	20.45%(19)	東北大	22.54%(19)	岡山山	18.06%(19)	創価大	17.95%(19)	静岡大	16.67%(19)	九州大	19.32%(19)	岡山山	21.57%(19)
金沢大	23.44%(20)	中京大	19.51%(20)	同志社大	22.11%(20)	大阪市立大	17.43%(20)	同志社大	17.46%(20)	神戸学院大	15.38%(20)	関西学院大	18.37%(20)	創価大	21.31%(20)
九州大(23位)	21.00%(23)														
平均	23.54%	平均	24.62%	平均	25.77%	平均	22.58%	平均	21.57%	平均	20.68%	平均	22.51%	平均	24.75%

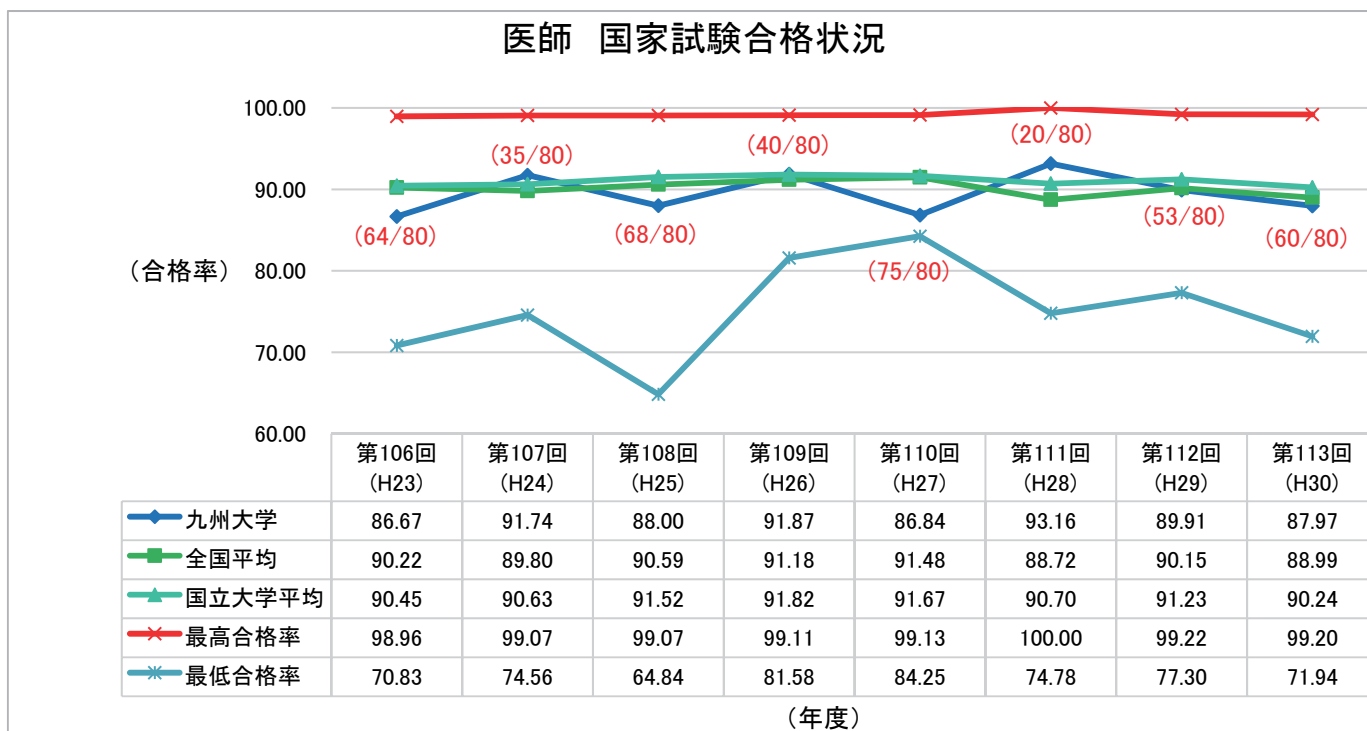
・司法試験法科大学院等別合格者数等(予備試験合格者については含めていない)

※出典:法務省HP 司法試験の結果について 法科大学院等別合格者数等

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況

医師国家資格については、国立大学平均合格率は安定しているものの、本学は受験年度により大きく変動している。

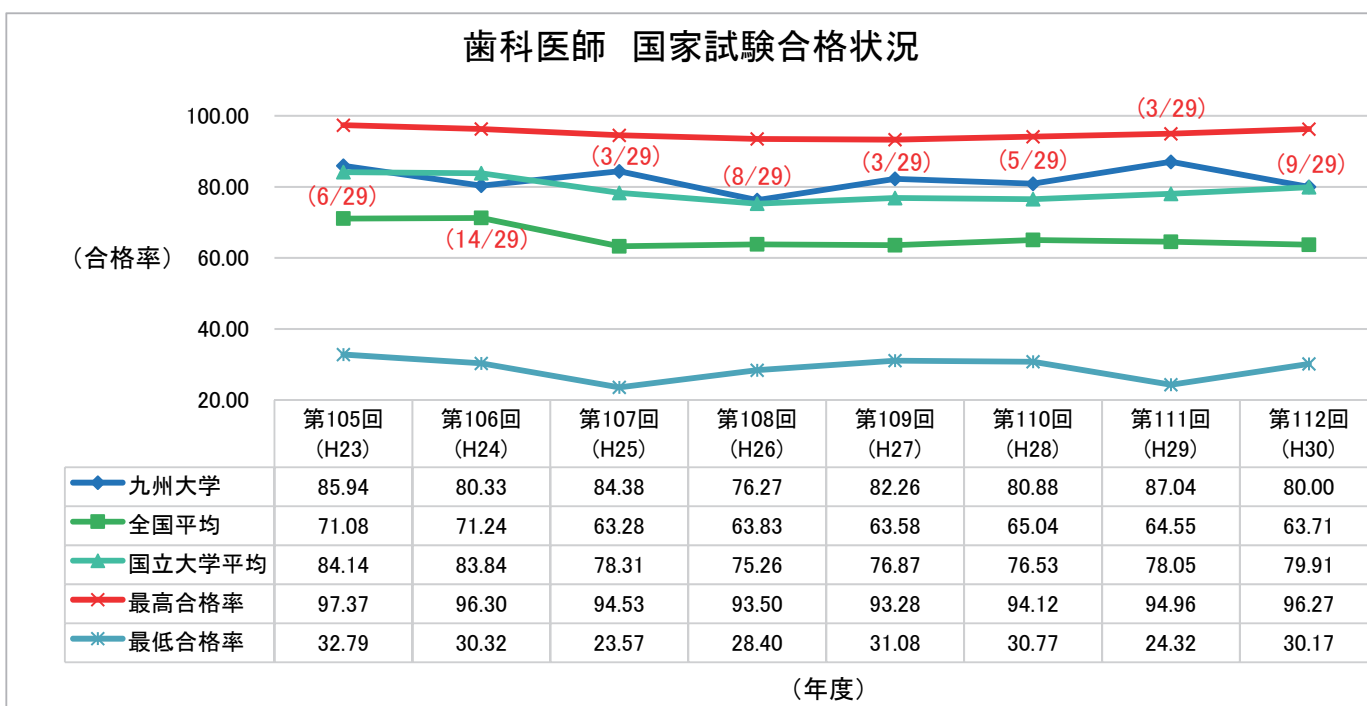
【医師国家資格(合格率)】



・数値は、新卒及び既卒の合格者数を受験者数で除した率である。
 ・()内は(九大の順位/全体数)である。

※出典: 医師国家試験対策予備校「テコム」ホームページ (<https://www.tecomgroup.jp/igaku/topics/111.asp>)

【歯科医師国家資格(合格率)】

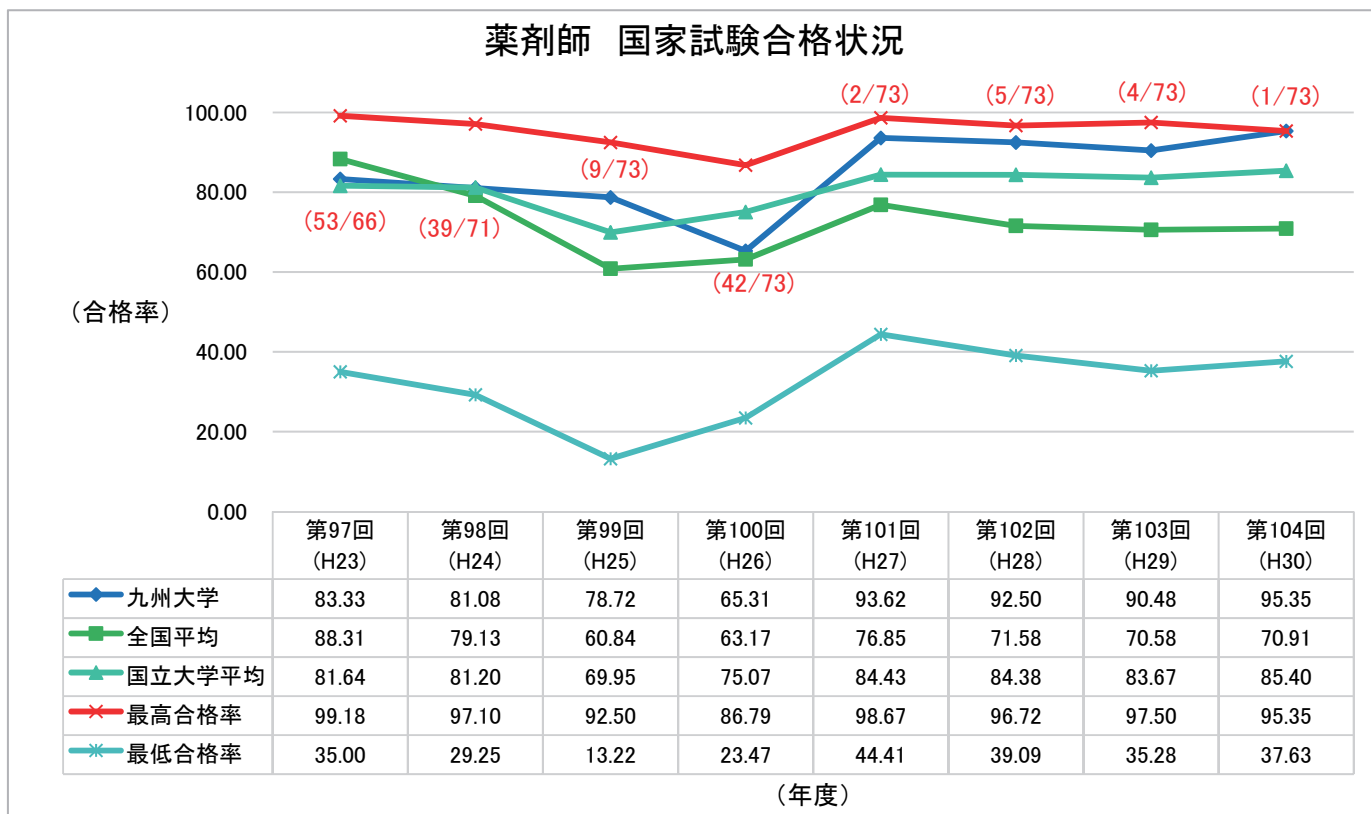


・数値は、新卒及び既卒の合格者数を受験者数で除した率である。
 ・()内は(九大の順位/全体数)である。

※出典: 厚生労働省HP 歯科医師国家試験の学校別合格者状況 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000488440.pdf>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

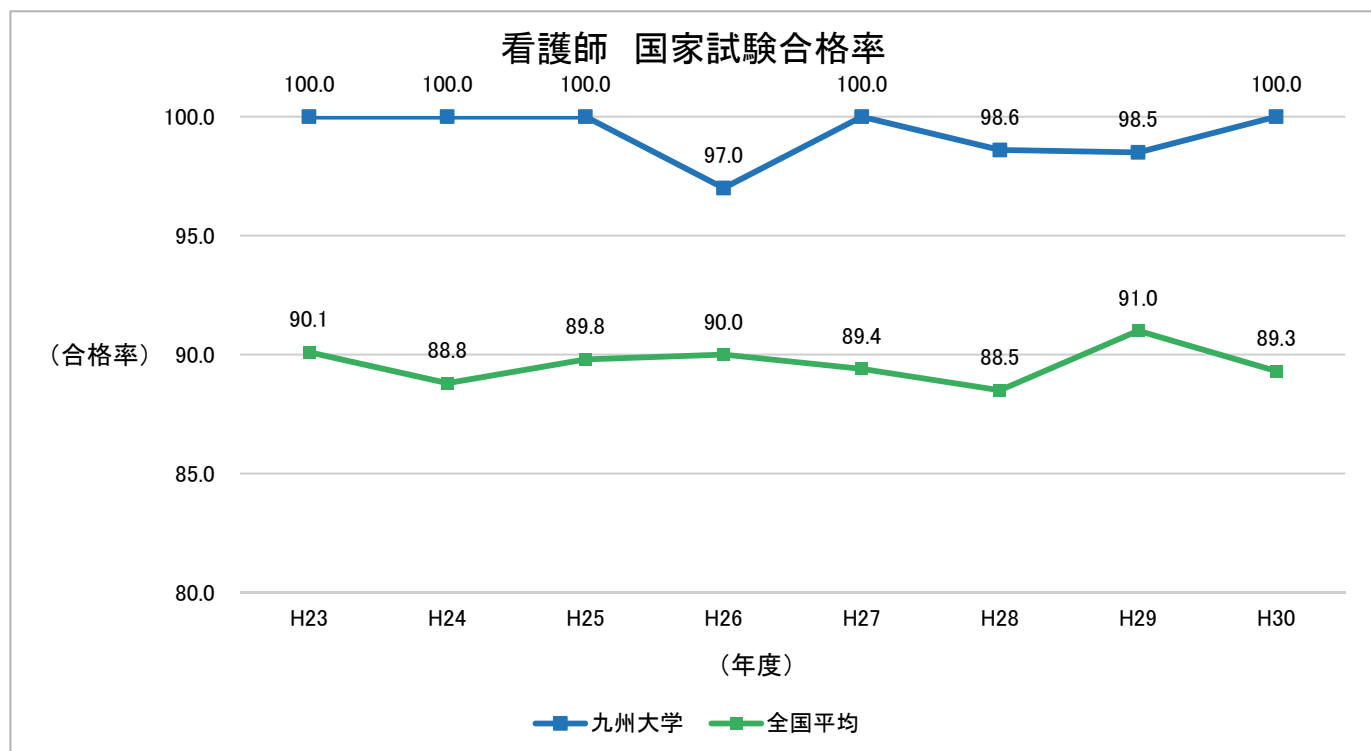
【薬剤師国家資格(合格率)】



・数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。
 ・()内は(九大の順位/全体数)である。

※出典:厚生労働省HP 薬剤師国家試験 大学別合格者数 (<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000490577.pdf>)

【看護師国家資格(合格率)】

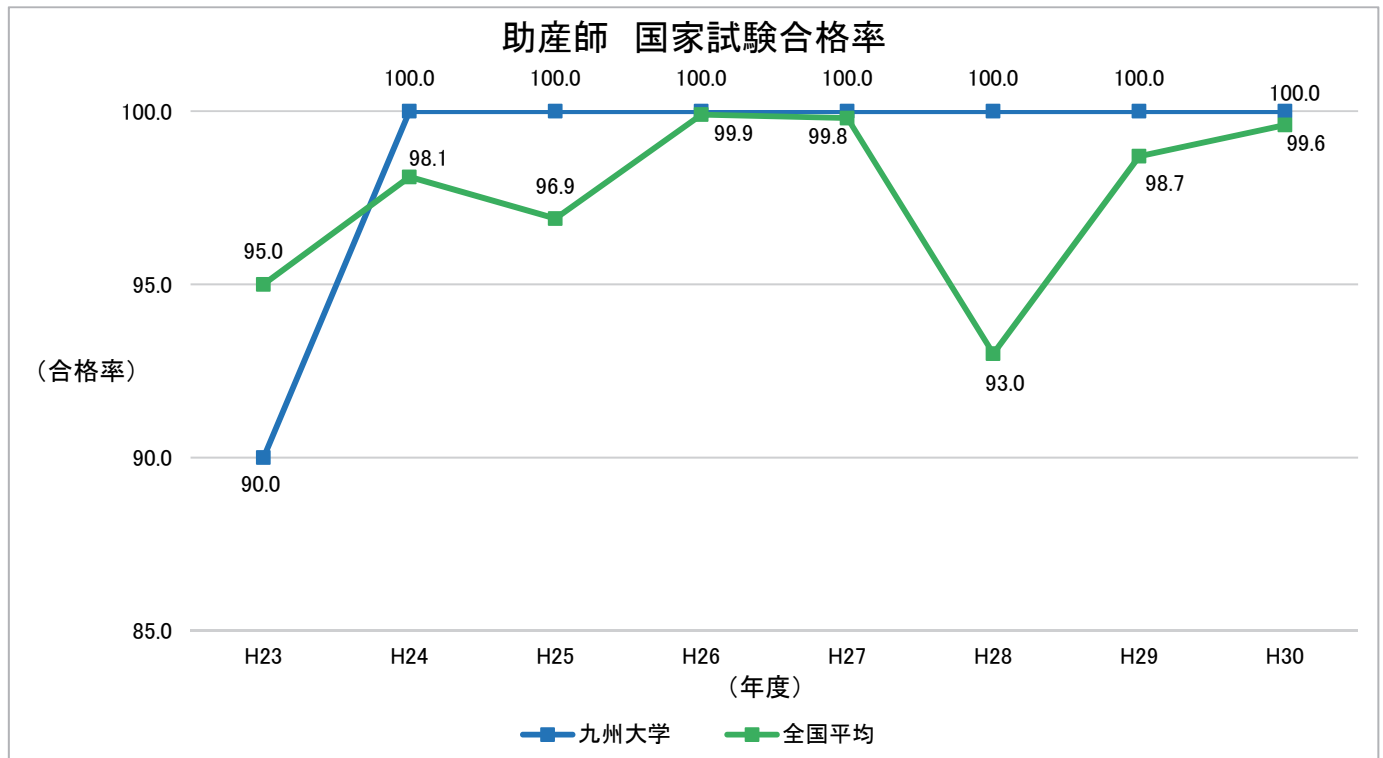


・九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。
 ・全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

※出典:「看護医療進学ネット」 (<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

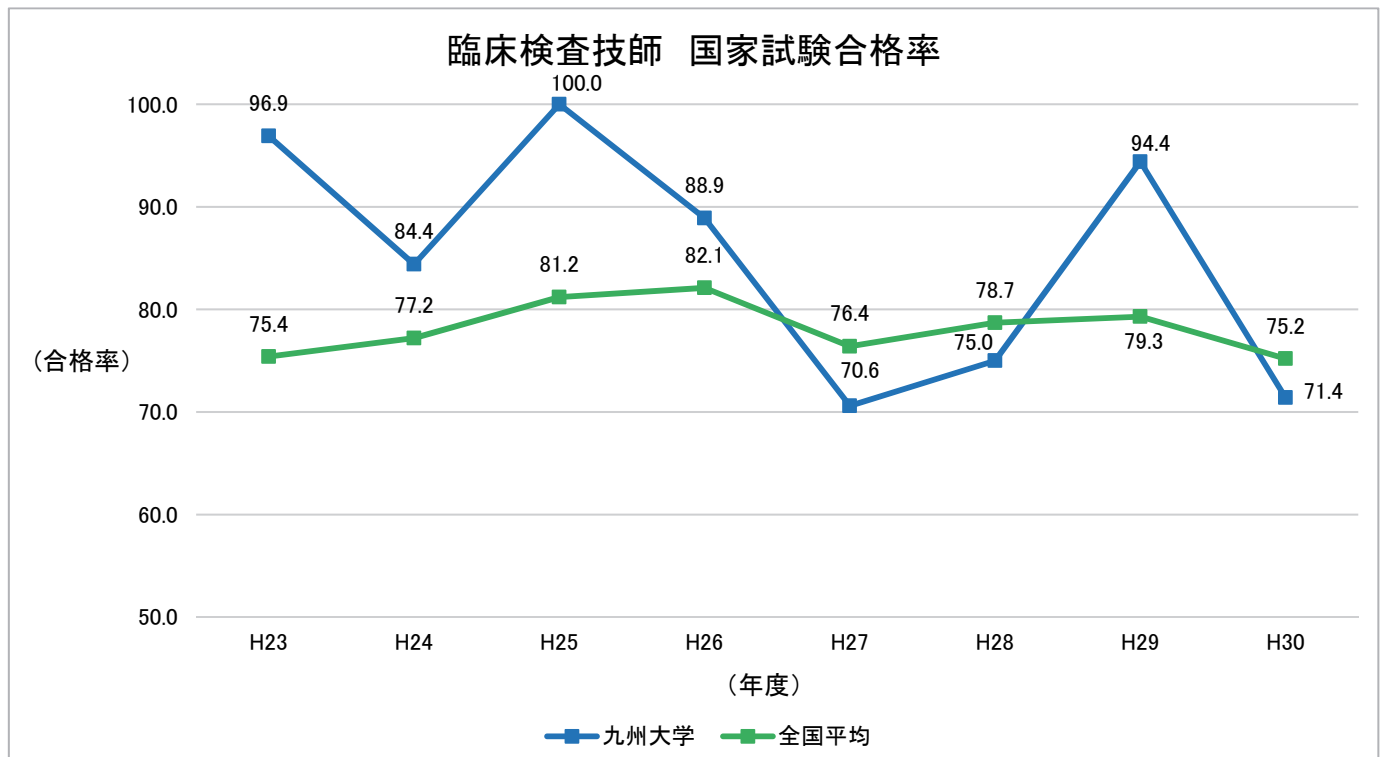
【助産師国家資格(合格率)】



・九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。
 ・全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

※出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

【臨床検査技師国家資格(合格率)】

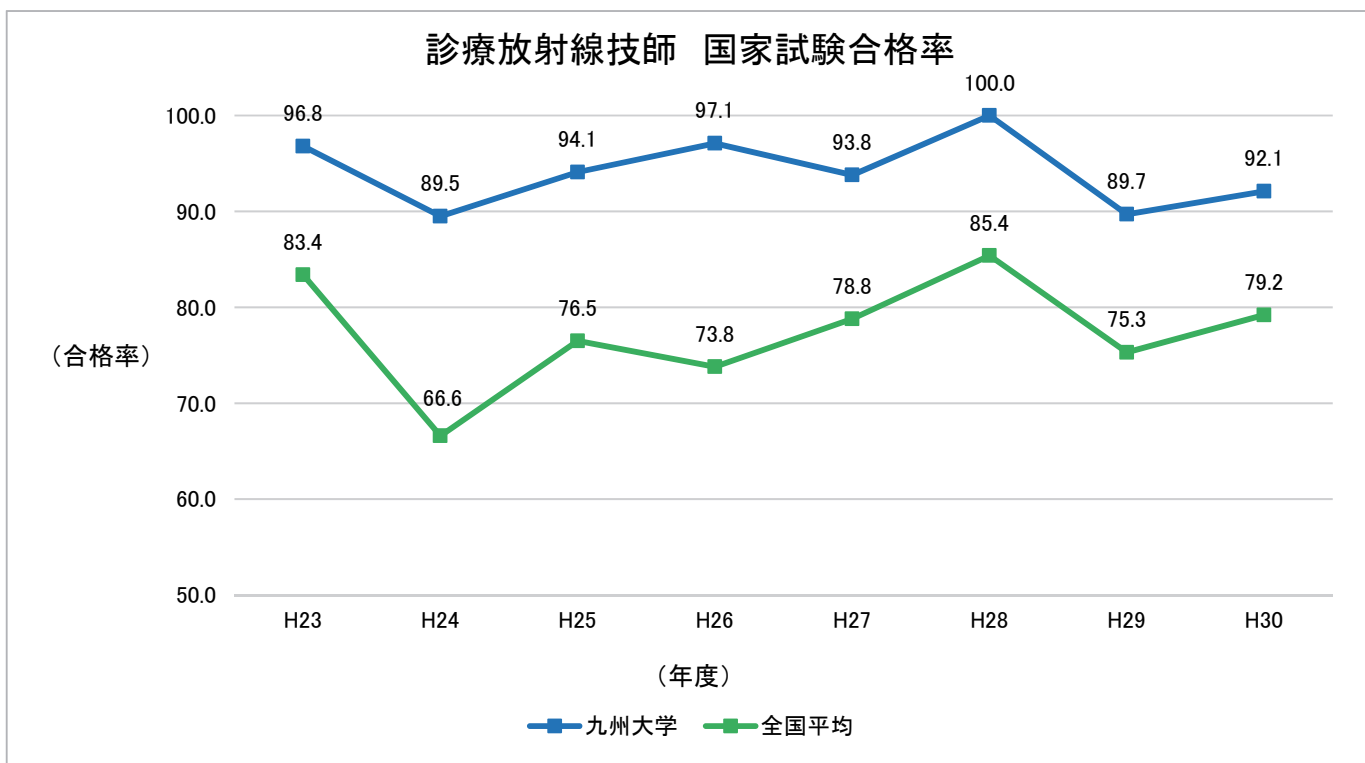


・九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。
 ・全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

※出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

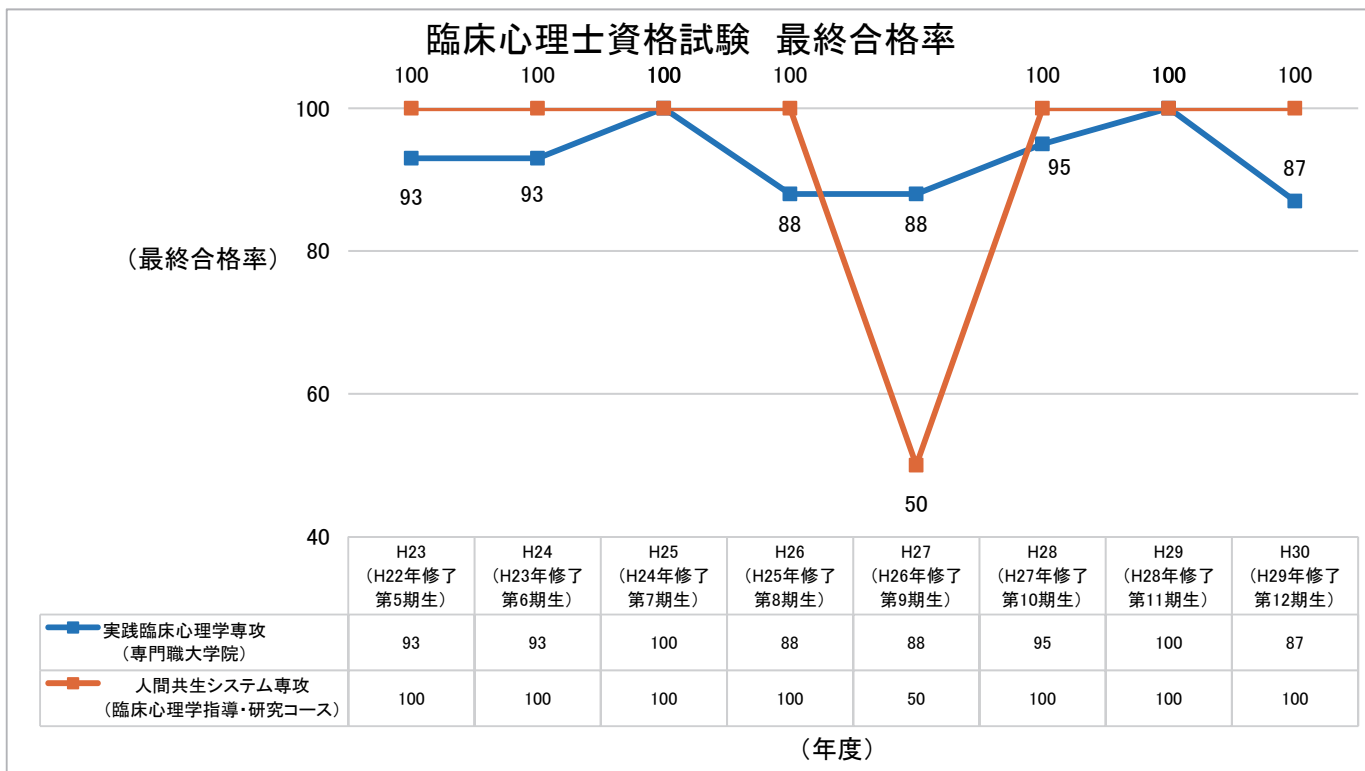
【診療放射線技師国家資格(合格率)】



・九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。
 ・全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

※出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

【臨床心理士資格試験(最終合格率)】



※出典:九州大学大学院人間環境学府 臨床心理士・公認心理師養成大学院HP (<http://www.hes.kyushu-u.ac.jp/~ccphd/graduate/index.php/career/>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況(つづき)

◆公務員試験合格◆

【国家公務員総合職】

順位	大学名	人
1	東京大	329
2	京都大	151
3	早稲田大	111
4	東北大	82
4	慶應義塾大	82
6	北海道大	67
7	大阪大	55
8	中央大	50
9	神戸大	48
10	岡山大	45
⋮		
14	九州大	41

(2018)

【国家公務員一般職】

順位	大学名	人
1	岡山大	270
2	中央大	213
3	明治大	207
4	立命館大	176
4	早稲田大	176
6	琉球大	164
7	同志社大	159
8	東北大	153
9	広島大	149
9	日本大	149
⋮		
14	九州大	134

(2018)

・国家公務員総合職及び一般職は、大学調査をもとに集計した。

◆国家資格合格◆

【技術士】

順位	大学名	人
1	京都大	142
2	九州大	121
2	北海道大	121
2	日本大	121
5	東京大	115
6	東北大	108
7	早稲田大	90
8	東京工業大	85
9	大阪大	76
10	名古屋大	61
10	東京理科大	61

(2018)

【一級建築士】

順位	大学名	人
1	日本大	209
2	東京理科大	117
3	芝浦工業大	100
4	早稲田大	96
5	近畿大	77
6	明治大	75
7	神戸大	70
8	千葉大	66
9	工学院大	58
10	東京都市大	54
⋮		
15	九州大	45

(2018)

・技術士は公益社団法人日本技術士会からの資料。一級建築士試験は、公益財団法人建築技術教育普及センターによるものである。

※出典：朝日新聞出版「大学ランキング2020年版」

9. 研究

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向

九州大学では、**医学**、**物理学・天文学**、**工学**、**生化学・遺伝学・分子生物学**、**材料科学**分野のジャーナルに掲載された論文の割合が高い。
 また、九州大学のトップ10%論文、トップ10%ジャーナル論文、国際共著論文、産学共著論文の割合は、全て**日本全体の平均よりも高い**値である。

Kyushu University

九州大学

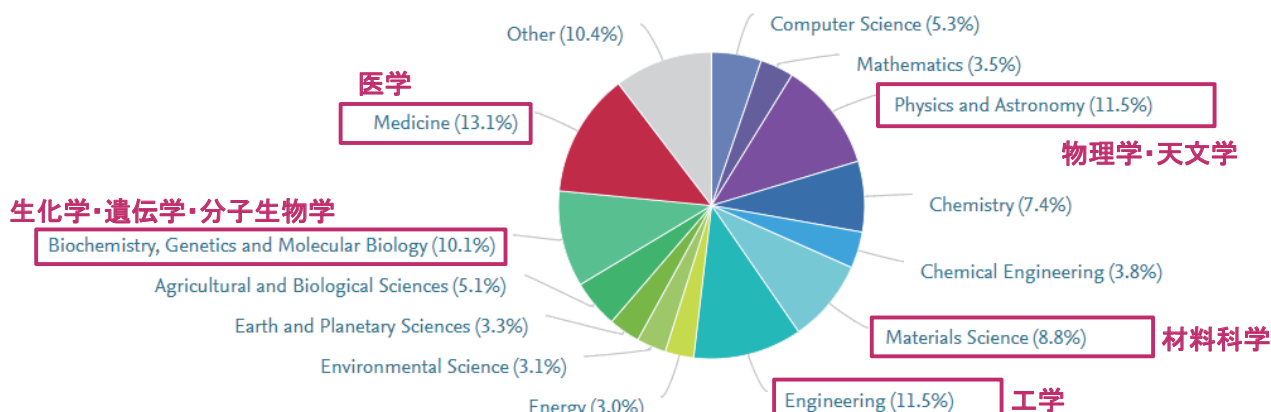
132nd (QS) · 401-500 (THE) · 201-300 (ARWU) | Japan | [More details on this Institution](#)

2014 to 2018 | no subject area filter selected | ASJC

※ 円グラフは、2014年から2018年の間に九州大学所属の研究者によって出された論文のScopusジャーナル分野別割合を示す。

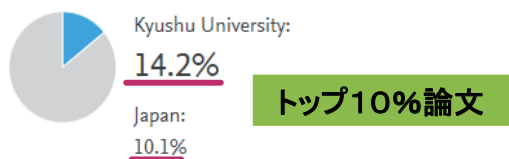
Overall research performance

Scholarly Output 論文数 24,657 ▲ View list of publications	Authors 著者数 14,052 ▼	Field-Weighted Citation Impact FWCI (※1) 1.13
Citation Count 被引用数 197,864	Citations per Publication 一論文当たりの被引用数 8.0	h5-index 102



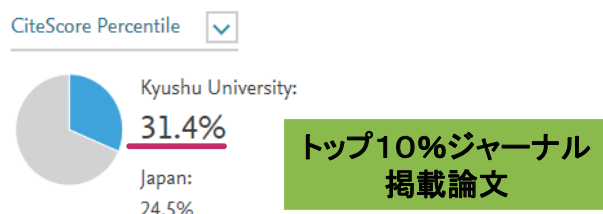
Outputs in Top Citation Percentiles

Publications in top 10% most cited worldwide



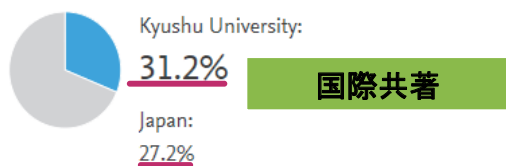
Publications in Top Journal Percentiles

Publications in top 10% journals by CiteScore Percentile



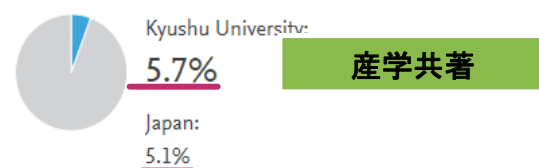
International Collaboration

Publications co-authored with Institutions in other countries



Academic-Corporate Collaboration

Publications with both academic and corporate affiliations



(※1)FWCI(Field-weighted Citation Impact)
 当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
 FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

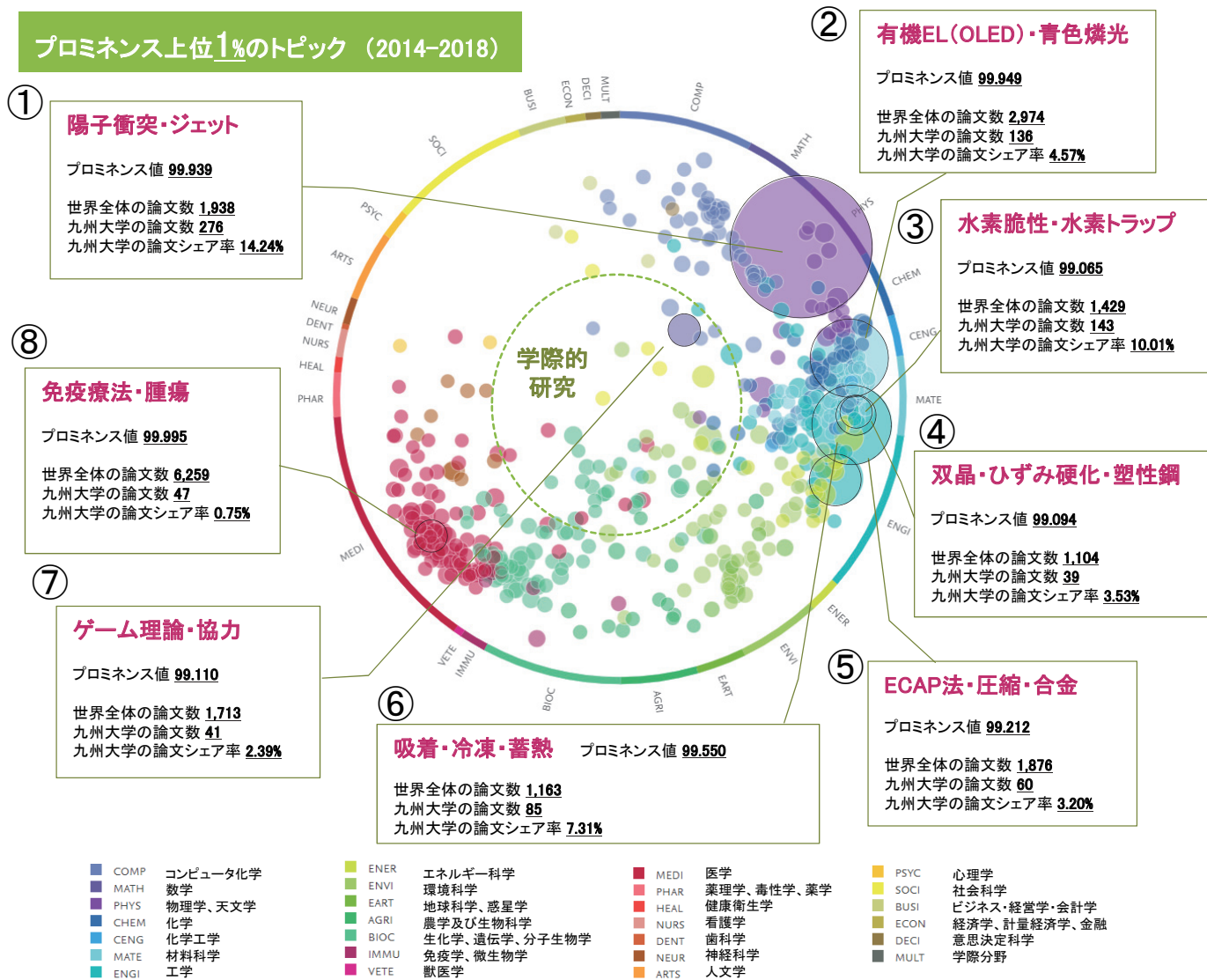
※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向(つづき)

■トピックプロミネンスー論文の引用関係に基づいた大学の強み研究分析ー

SciValのTopic Prominence機能によると、2014年から2018年の間に出版された本学の論文のうち、9,217の研究分野が注目度の高いTopicとして出現している。下図はTop1%の注目度に該当する研究分野のTopicを示したものである。物理学・天文学, 化学, 化学工学, 材料科学, 工学, エネルギー, 医学の分野にTopicが集中している。中でも、①陽子衝突・ジェット ②有機EL(OLED)・青色発光 ③水素脆性・水素トラップ ④双晶・ひずみ硬化・塑性鋼 ⑤ECAP法・圧縮・合金 ⑥吸着・冷凍・蓄熱 ⑦ゲーム理論・協力 ⑧免疫療法・腫瘍のTopicは論文数が多く、世界における各分野の論文シェア率も高い傾向にあり、本学の中でも活発な研究分野と言える。

プロミネンス上位1%のトピック (2014-2018)



・Topic Prominence 機能の概要

Scopusの文献を引用リンクに基づいて約97,000のトピックにクラスタリングし、Prominenceによってランク付けしたものです。新指標Prominenceは、直近の文献の被引用数、表示回数、注目度を示します。Prominenceは、助成金と相関関係があり、研究者と研究管理者が助成金が増える可能性が高いトピックを特定するのを支援します。円の中心にあるトピックほど、学際的なトピックと言えます。(「Elsevier社_クイックレファレンスガイド」2018年1月)より抜粋)

◆見方◆

- ・小さい円:各トピック。
- ・外側の円周:Scopusで用いられている研究分野(ASJCの27中分類)を色別に表示。
- ・小さい円の大きさ:各トピックを構成する論文の数を表す。
- ・小さい円の色:トピックを構成する論文の分野のうち、割合が最も大きい分野を円周上の分野の色で示したものです。
- ・小さい円の位置:トピックを構成する論文の分野の割合に基づいて配置されている。学際的なものは中心に位置する傾向にある。

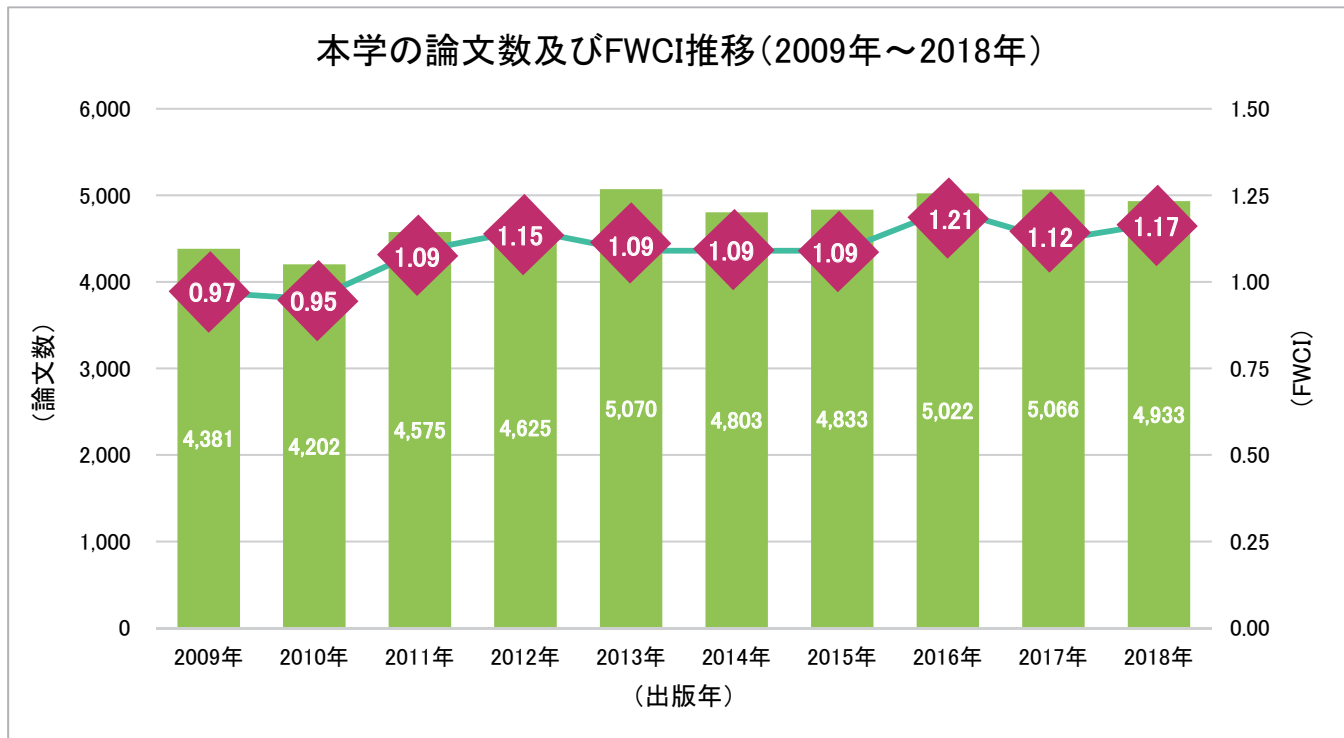
※出典:Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較

■論文数及びFWCIの推移

本学の論文数は2013年まで増加傾向にあり、2013年以降は5,000本前後を保ち推移している。FWCI(※1)は、2011年に世界平均値の1.0を超えた。その後おおむね1.1前後を保ち推移している。2016年には、1.21という高い値を出した。

◆九州大学◆



◆他大学との比較◆

【Scholarly Output (論文数)】

順位	大学名	本数
1	東京大	59,892
2	京都大	40,977
3	大阪大	32,921
4	東北大	31,598
5	九州大	24,657
6	名古屋大	24,151
7	北海道大	21,495
8	東京工業大	19,321
9	筑波大	16,577
10	慶應義塾大	15,977

(2014～2018)

【Citation Count(被引用回数)】

順位	大学名	被引用回数	論文当たりの平均被引用数
1	東京大	595,677	9.9
2	京都大	409,373	10.0
3	大阪大	272,555	8.3
4	東北大	261,902	8.3
5	名古屋大	213,953	8.9
6	九州大	197,864	8.0
7	北海道大	166,005	7.7
8	東京工業大	155,056	8.0
9	筑波大	133,564	8.1
10	慶應義塾大	117,942	7.4

(2014～2018)

【FWCI(論文のインパクト)】

順位	大学名	被引用度
1	京都大	1.36
2	東京大	1.35
3	名古屋大	1.21
4	筑波大	1.17
5	東京工業大	1.16
6	早稲田大	1.14
7	九州大	1.13
8	東北大	1.12
8	大阪大	1.12
9	慶應義塾大	1.10
10	北海道大	1.02

(2014～2018)

・RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※1)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

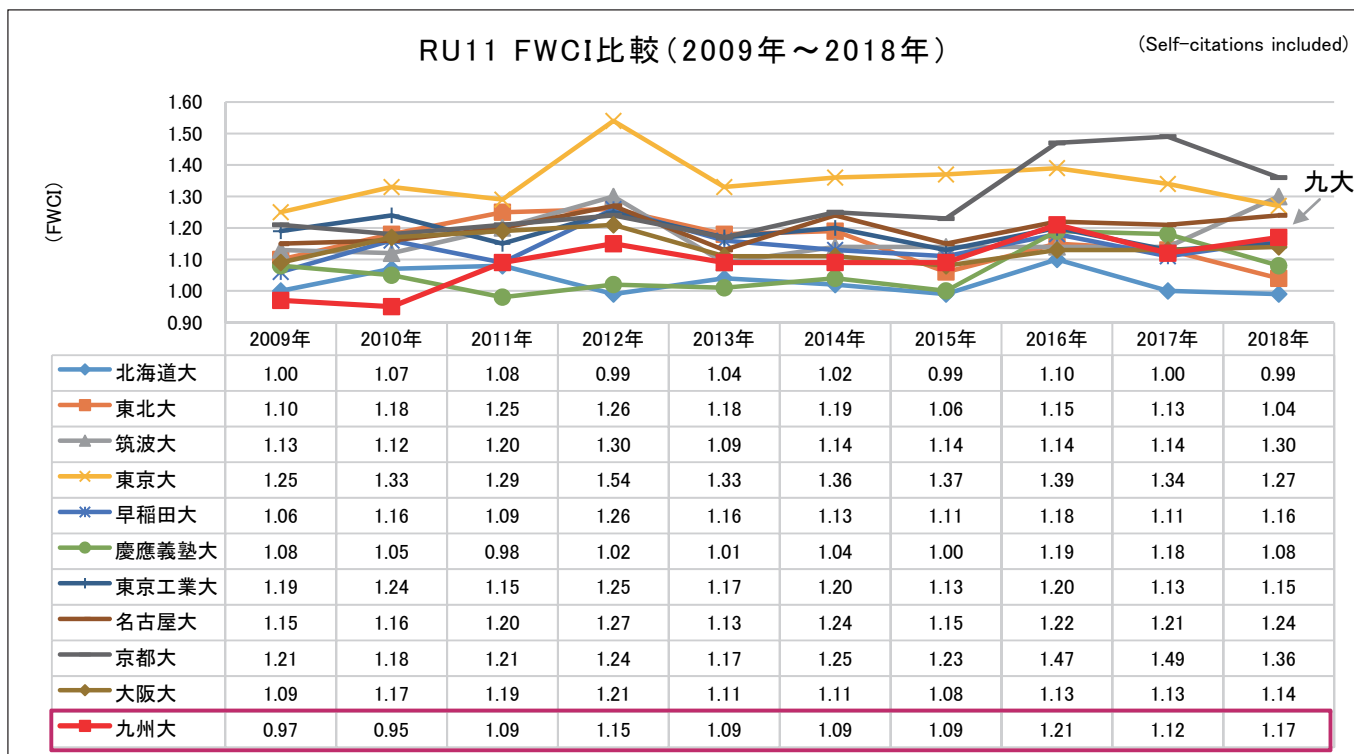
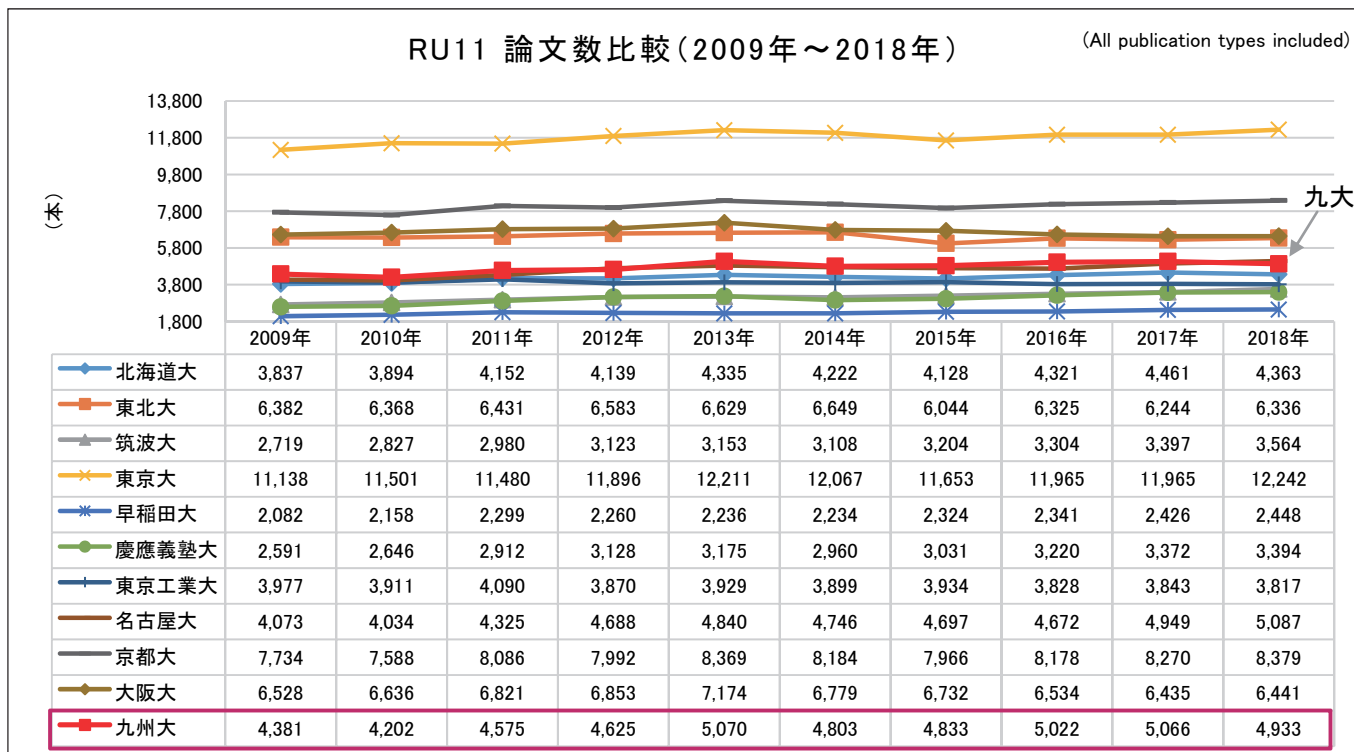
当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを示す。

※出典:論文数、被引用回数、論文のインパクト:Elsevier社「SciVal」(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

RU11(※1)の各大学について、直近10年間の論文数の推移を比較した。本学の論文数は10年間で年間4,200本程度から5,000本程度に増加しているものの、RU11内の順位は5位付近で停滞している。FWCI(※2)に関しては、本学は2011年以降世界平均値の1.0より高くなっている。

◆RU11での比較◆



(※1)RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都市大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※2)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということの意味する。

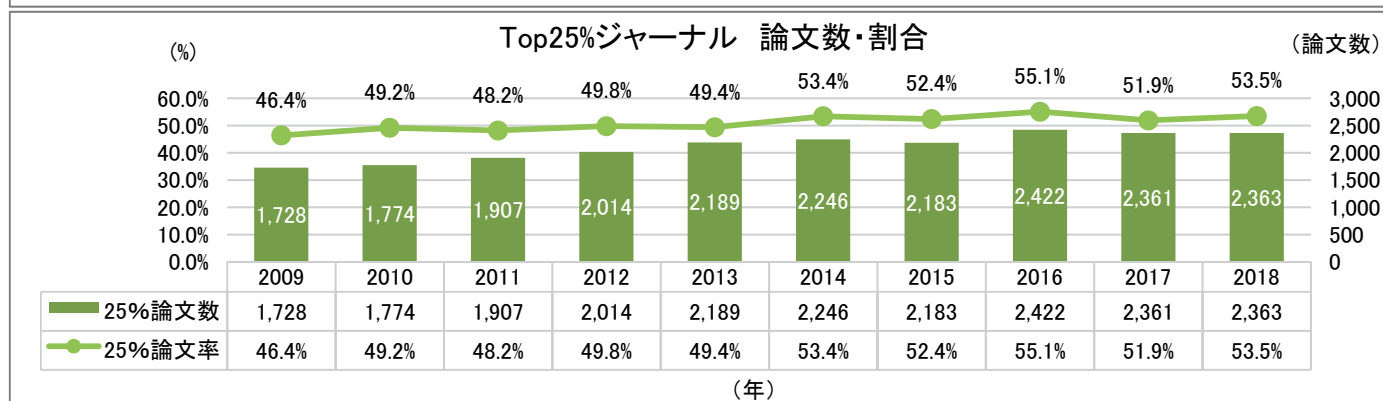
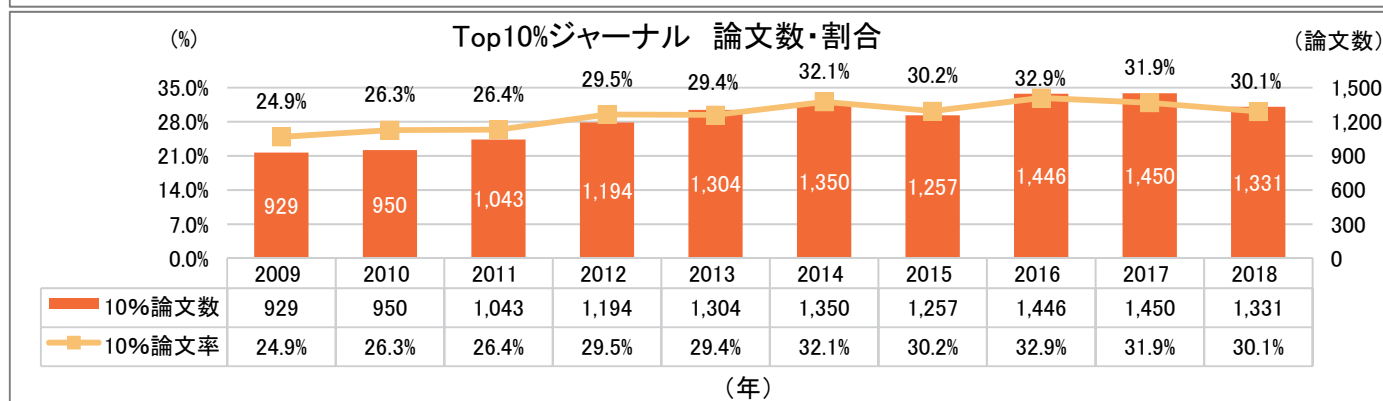
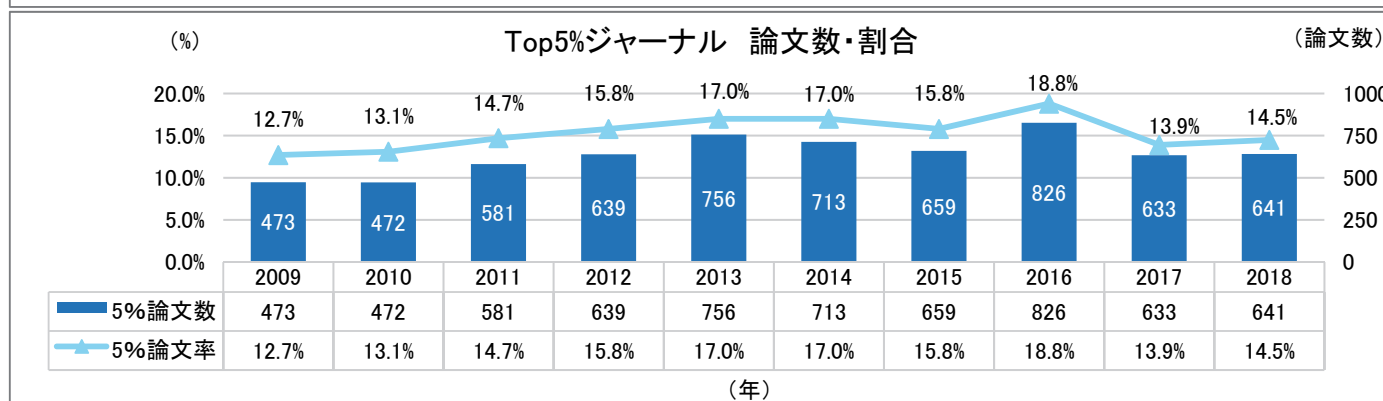
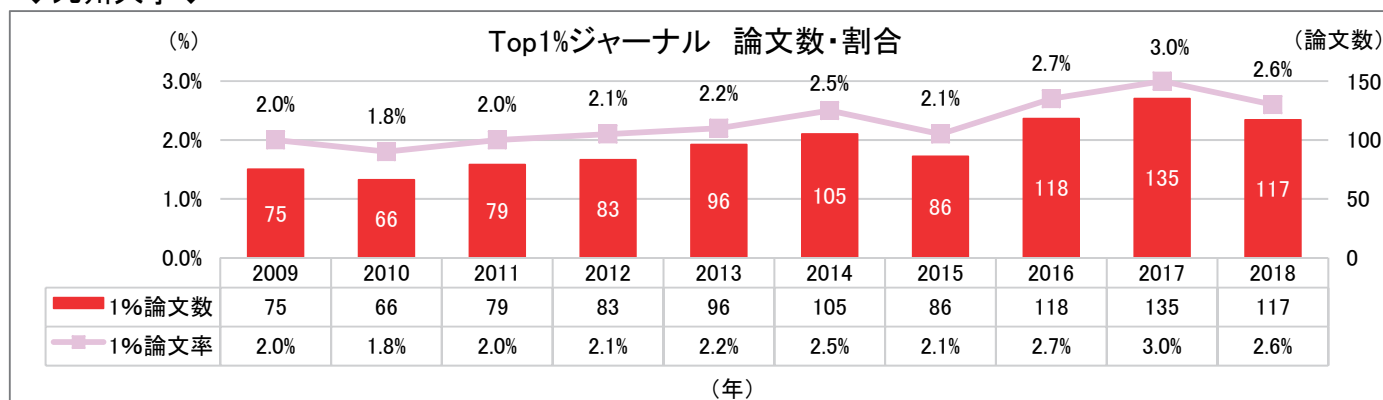
※出典:Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■世界トップのジャーナルに掲載された論文数と割合推移

TOP1・25%ジャーナル論文数は長期的に増加傾向にある。TOP25%ジャーナル論文は2014年以降50%以上を占めており、本学の半数以上の論文が影響力のある雑誌に投稿されている。

◆九州大学◆



・トップ x %ジャーナルに掲載された論文数と割合とは・・・被引用数ベースで世界トップ%ジャーナルに掲載された論文数と割合。Scopusにおける各年の被引用数を元に、上位1%、5%、10%、25%に含まれるジャーナルに掲載された論文数・割合を示すもの。

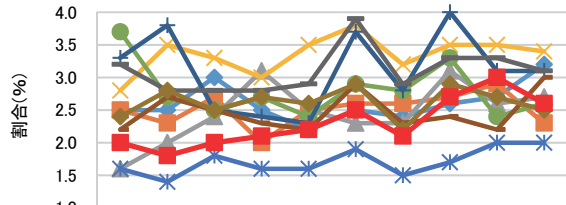
※出典：Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

RU11(※1)の各大学について、TOPジャーナル論文率の推移を比較した。九州大学は特にTOP10%ジャーナル論文率が、他大学と比較して大きく増加している。TOP5%ジャーナル論文率は、2016年が上昇の分岐点で2017にかけて減少傾向にある。

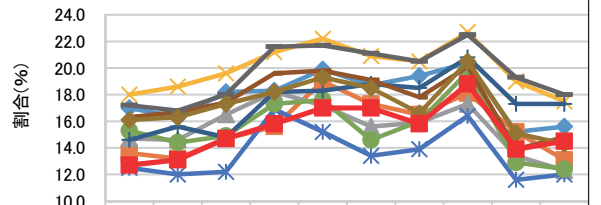
◆RU11での比較◆

TOP 1 % ジャーナルに含まれる論文の割合



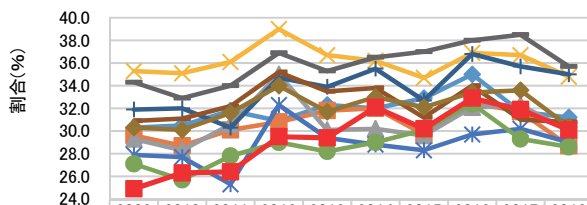
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
北海道大	2.5	2.5	3.0	2.5	2.2	2.5	2.4	2.6	2.7	3.2
東北大	2.5	2.3	2.7	2.0	2.5	2.6	2.6	2.7	2.9	2.3
筑波大	1.6	2.0	2.4	3.1	2.5	2.3	2.3	3.1	2.6	2.7
東京大	2.8	3.5	3.3	3.0	3.5	3.8	3.2	3.5	3.5	3.4
早稲田大	1.6	1.4	1.8	1.6	1.6	1.9	1.5	1.7	2.0	2.0
慶應義塾大	3.7	2.7	2.5	2.7	2.4	2.9	2.8	3.3	2.4	2.6
東京工業大	3.3	3.8	2.5	2.4	2.3	3.7	2.8	4.0	3.1	3.1
名古屋大	2.2	2.7	2.5	2.3	2.2	2.9	2.3	2.4	2.2	3.0
京都大	3.2	2.8	2.8	2.8	2.9	3.9	2.9	3.3	3.3	3.1
大阪大	2.4	2.8	2.5	2.7	2.6	2.9	2.2	2.9	2.7	2.5
九州大	2.0	1.8	2.0	2.1	2.2	2.5	2.1	2.7	3.0	2.6

TOP 5 % ジャーナルに含まれる論文の割合



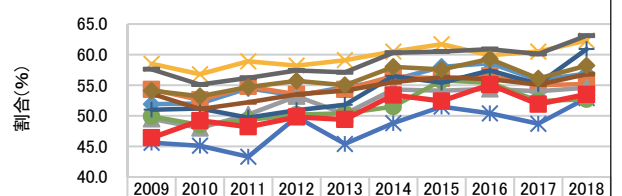
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
北海道大	17.0	16.3	18.2	18.3	19.9	18.7	19.4	20.4	15.2	15.6
東北大	13.6	13.2	14.7	15.6	19.0	17.3	16.5	18.1	15.2	13.1
筑波大	14.7	14.6	16.5	18.2	17.2	15.6	15.9	17.3	13.4	12.3
東京大	18.0	18.6	19.6	21.2	22.2	20.9	20.5	22.7	19.0	17.5
早稲田大	12.5	12.0	12.2	16.9	15.2	13.4	13.9	16.4	11.6	12.0
慶應義塾大	15.3	14.4	14.9	17.3	17.6	14.6	16.0	19.7	12.9	12.4
東京工業大	14.6	15.6	14.8	18.2	18.3	18.8	18.5	20.8	17.3	17.3
名古屋大	16.3	16.7	17.4	19.6	19.8	19.1	17.8	20.1	13.9	14.8
京都大	17.2	16.8	18.0	21.6	21.7	21.1	20.5	22.5	19.3	18.0
大阪大	16.1	16.3	17.3	18.2	19.3	18.5	16.6	20.5	15.1	14.3
九州大	12.7	13.1	14.7	15.8	17.0	17.0	15.8	18.8	13.9	14.5

TOP10 % ジャーナルに含まれる論文の割合



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
北海道大	30.3	30.5	31.8	30.9	32.3	32.0	32.9	35.0	31.7	31.2
東北大	29.6	28.7	30.1	30.8	31.8	32.0	29.7	32.5	31.7	28.7
筑波大	29.3	28.3	30.6	35.0	30.1	30.2	29.6	32.1	32.3	30.0
東京大	35.3	35.1	36.1	39.0	36.7	36.2	34.7	36.9	36.7	34.8
早稲田大	27.9	27.7	25.3	32.3	29.4	28.8	28.3	29.7	30.2	29.0
慶應義塾大	27.1	25.7	27.8	29.0	28.2	29.0	30.1	32.4	29.3	28.6
東京工業大	31.9	32.0	30.3	34.7	33.9	35.5	32.7	36.8	35.7	35.0
名古屋大	30.9	31.1	32.2	35.2	33.5	33.8	31.2	34.0	31.0	30.8
京都大	34.3	32.9	34.0	36.9	35.3	36.5	37.0	38.0	38.5	35.7
大阪大	30.3	30.1	31.6	34.0	31.7	33.0	32.1	33.4	33.6	30.4
九州大	24.9	26.3	26.4	29.5	29.4	32.1	30.2	32.9	31.9	30.1

TOP 25 % ジャーナルに含まれる論文の割合



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
北海道大	51.9	52.0	54.5	53.3	54.7	55.9	58.0	58.6	55.8	56.9
東北大	54.3	52.6	54.8	53.5	54.3	56.5	56.1	56.5	55.0	55.2
筑波大	49.5	48.0	50.2	53.2	50.3	54.3	54.1	54.4	54.0	54.6
東京大	58.5	56.8	58.9	58.2	59.1	60.5	61.7	59.9	60.5	62.3
早稲田大	45.6	45.1	43.3	49.8	45.4	48.8	51.5	50.4	48.7	52.9
慶應義塾大	49.9	48.5	49.3	50.2	50.4	51.5	55.8	55.4	52.4	52.7
東京工業大	51.0	51.2	49.7	50.9	51.8	56.5	55.4	57.4	55.2	60.9
名古屋大	53.6	51.1	52.2	53.5	54.1	55.5	56.3	56.0	55.1	56.8
京都大	57.6	55.1	56.2	57.4	57.1	60.3	60.5	60.9	60.1	63.1
大阪大	54.1	53.2	54.7	55.7	55.0	58.0	57.6	59.3	56.1	58.2
九州大	46.4	49.2	48.2	49.8	49.4	53.4	52.4	55.1	51.9	53.5

(※1)RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

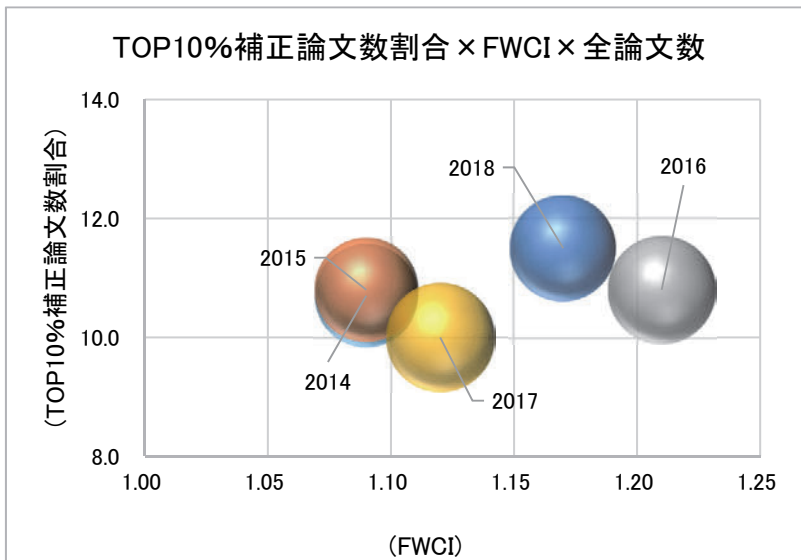
■論文の量と質の総合比較

下記散布図は、右上にいくほど、論文の質が高いと言える。論文数は5,000本前後を推移しており、TOP10%補正論文数割合(※1)は10%程度で推移している。また、RU11(※2)で比較するとTOP10%補正論文8位、FWCI(※3)値7位である。ただし論文数は5位であり、RU11の中でも論文数の多いことが本学の特徴である。

◆九州大学◆ (2014年～2018年)

本学のTOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(横軸)×全論文数(バブル大きさ)

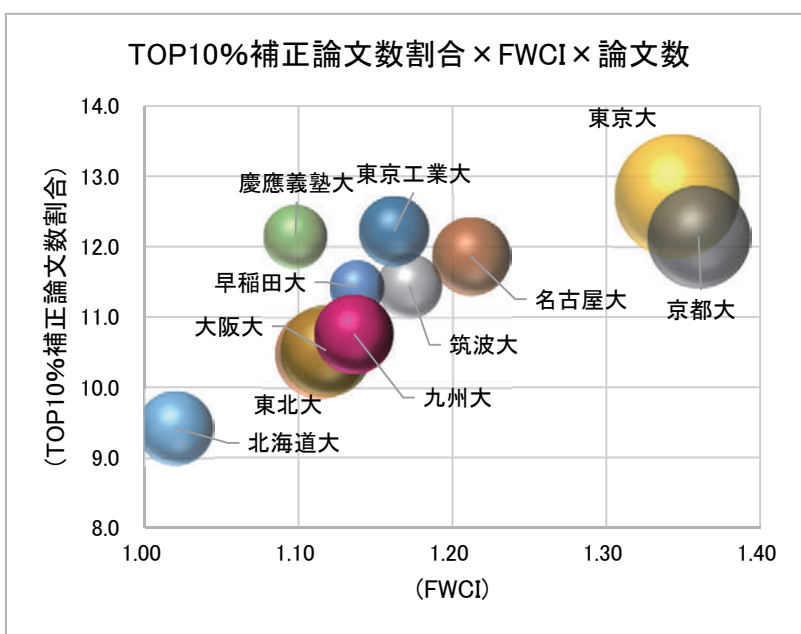
年	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
2014	10.7	1.09	4,803
2015	10.8	1.09	4,833
2016	10.8	1.21	5,022
2017	10.0	1.12	5,066
2018	11.5	1.17	4,933
平均	10.8	1.14	4,931



◆RU11での比較◆ (2014年～2018年の平均)

TOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(横軸)×論文数(バブル大きさ)

大学名	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
北海道大	9.4	1.02	4,299
東北大	10.5	1.11	6,320
筑波大	11.4	1.17	3,315
東京大	12.7	1.35	11,978
早稲田大	11.4	1.14	2,355
慶應義塾大	12.1	1.10	3,195
東京工業大	12.2	1.16	3,864
名古屋大	11.9	1.21	4,830
京都大	12.1	1.36	8,195
大阪大	10.5	1.12	6,584
九州大	10.8	1.14	4,931



(※1)TOP10%補正論文数割合

被引用ベースで世界トップに入る論文数(分野補正した値)の割合。Scopusにおける各年の被引用数をもとに上位10%に含まれる論文数の割合を示すもの。

(※2)RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※3)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

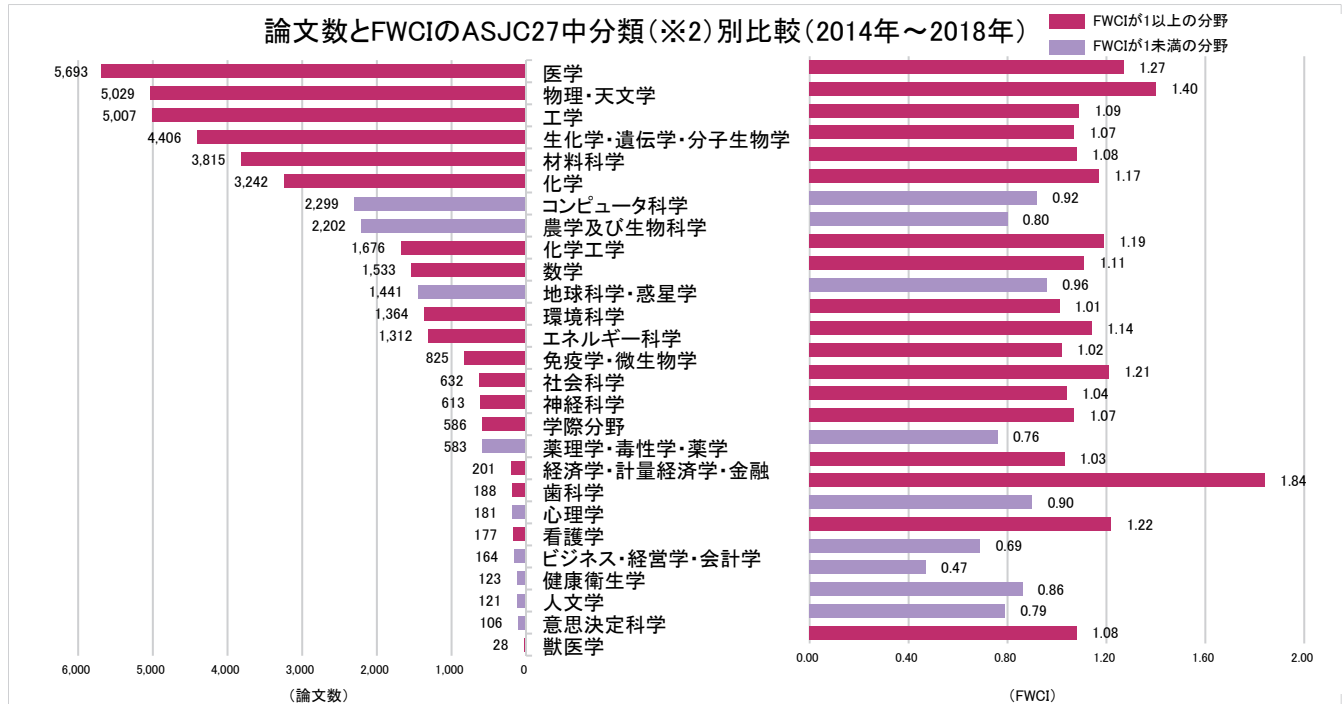
※出典:Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

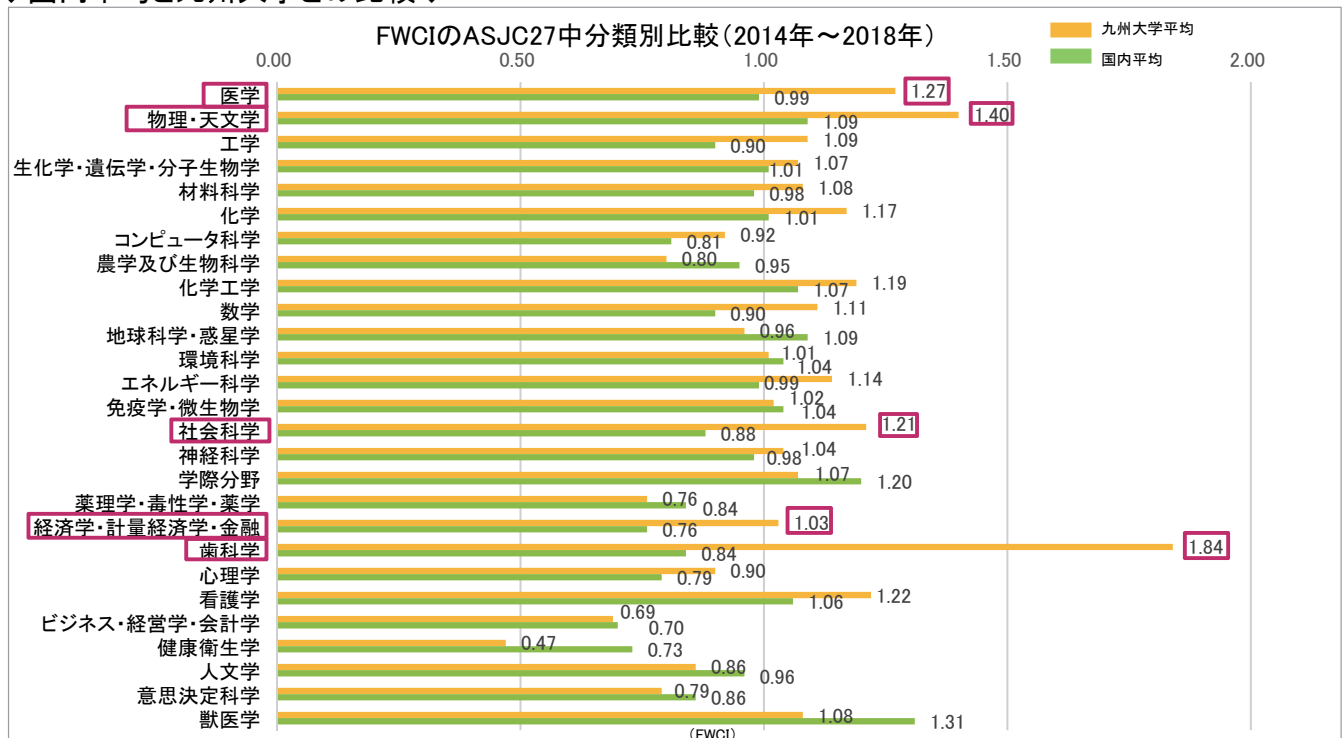
■ 本学と国内平均の比較(ASJC27中分類別) - FWCI -

FWCI(※1)が世界平均の1以上である分野は、27分野中17分野である。その中でも、国内平均と比較してFWCI値が特に高い上位5分野は、歯科学、社会科学、経済学・計量経済学・金融、物理学・天文学、医学分野である。論文数が多くFWCIが高いほど研究力に厚みがあること(大学の強み)を表す。また、論文数が少なくFWCIが高い場合は、研究力の高い特定の教員の存在を示す場合が多い。なお、特定の教員が巨大な研究者コミュニティに所属する場合は、論文数・FWCI共に値が高くなる場合が多い。

◆九州大学◆



◆国内平均と九州大学との比較◆



(※1)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※2)ASJC27中分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類、または独自に作成した研究領域。

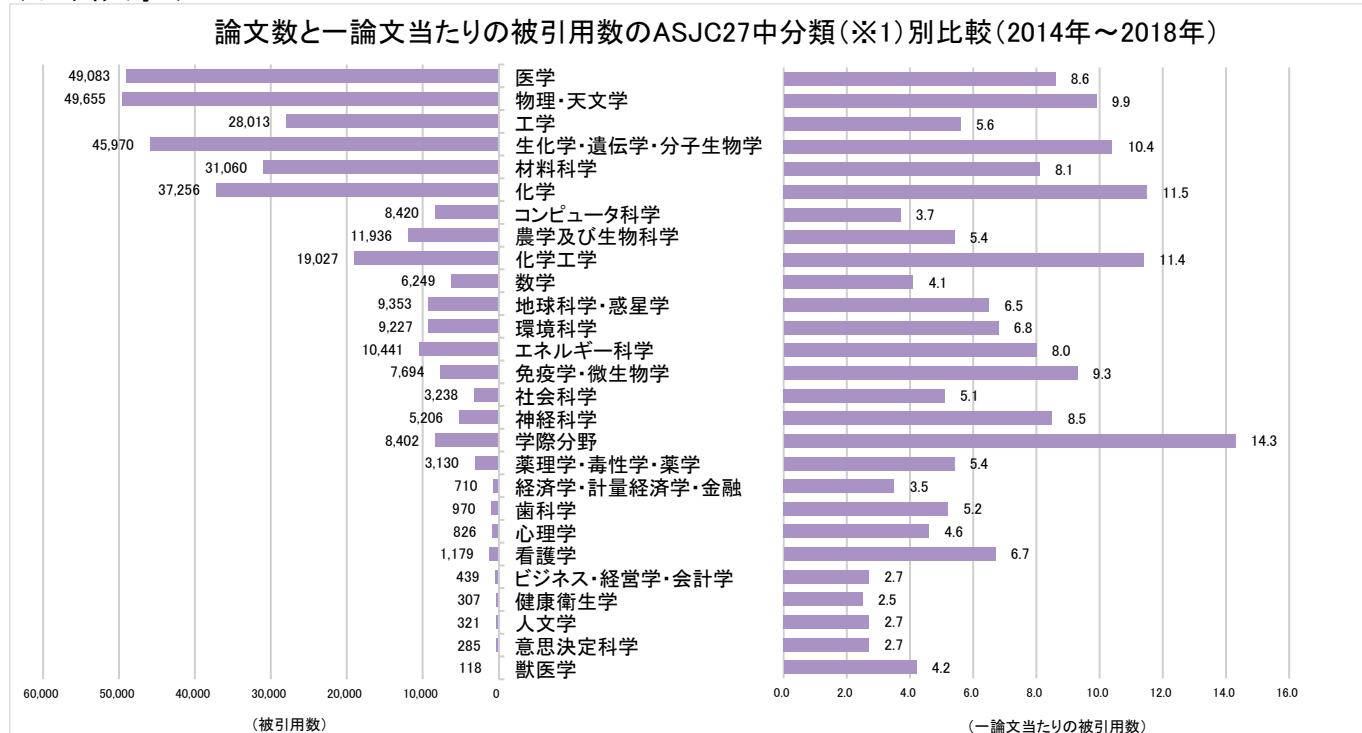
※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

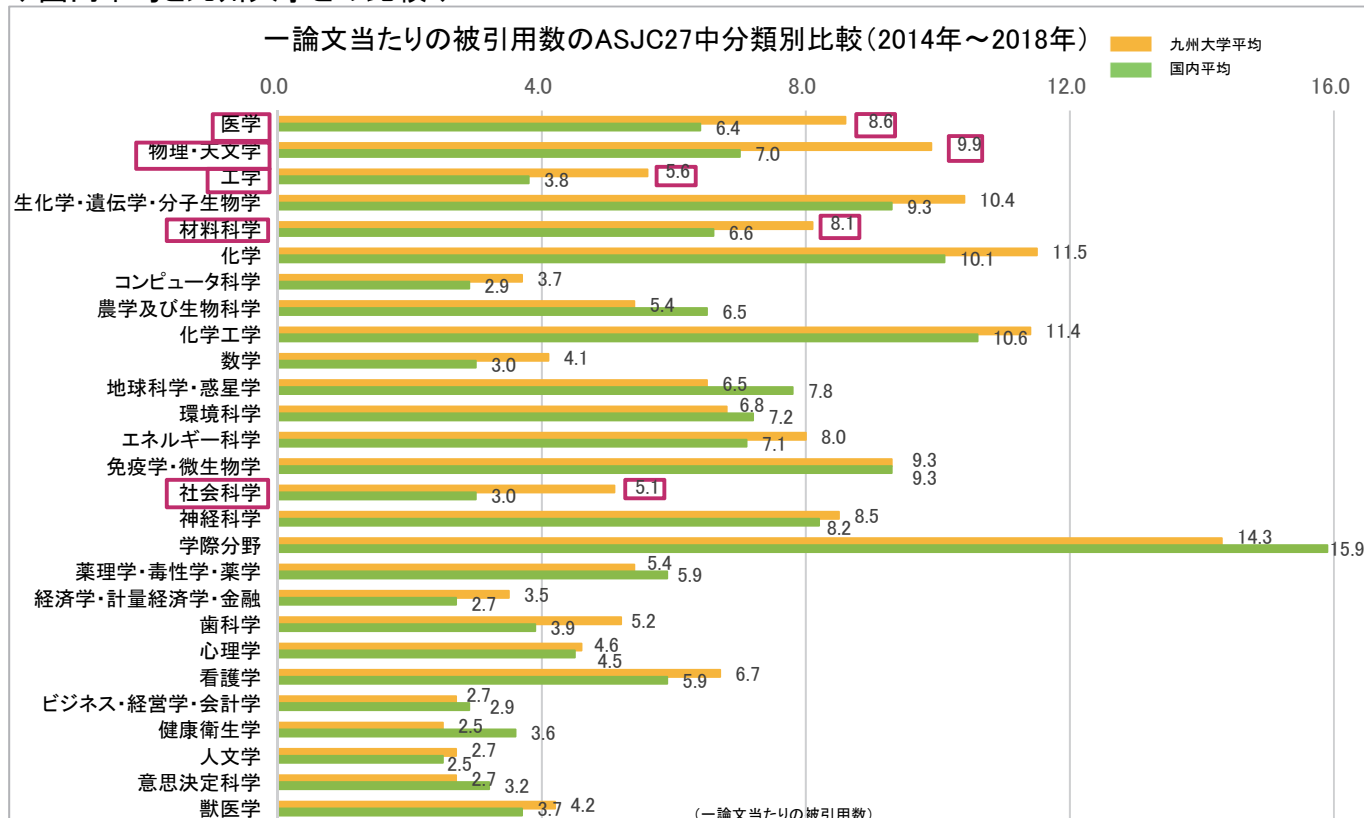
■ 本学と国内平均の比較(ASJC27中分類別) - 一論文当たりの被引用数 -

一論文当たりの被引用数が、国内平均を超えている分野は、27分野中18分野である。その中でも、国内平均と比較して一論文当たりの被引用数が特に高い上位5分野は物理学・天文学、医学、社会科学、工学、材料科学分野である。

◆九州大学◆



◆国内平均と九州大学との比較◆



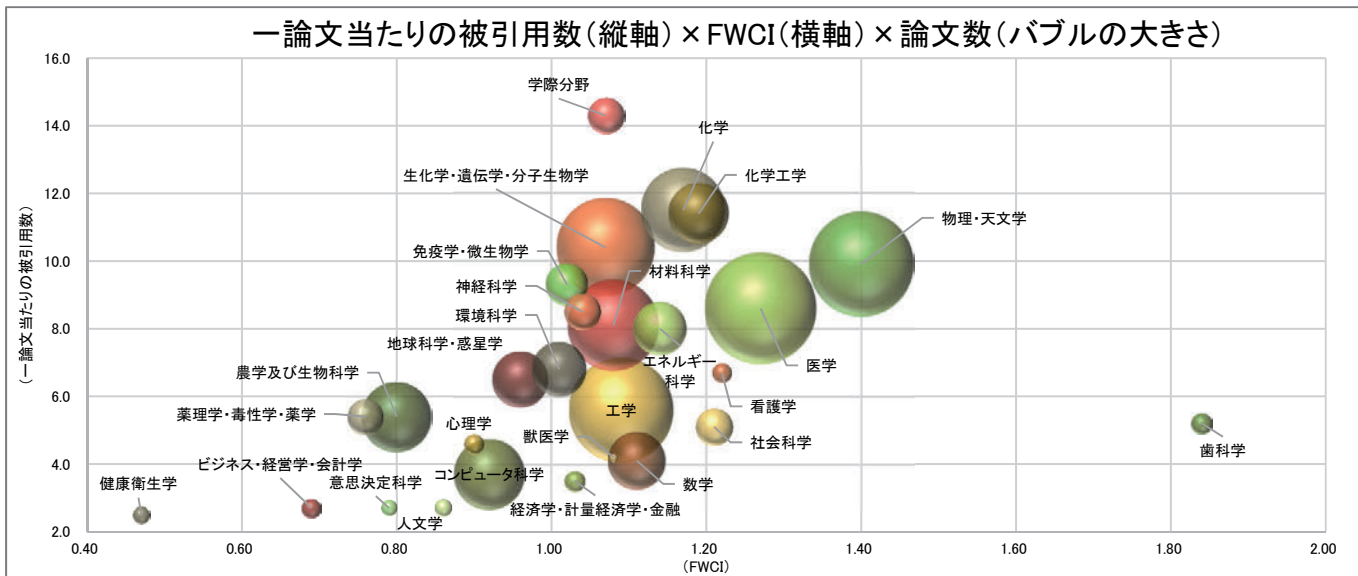
(※1)ASJC27中分類
Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類、または独自に作成した研究領域。

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■本学の論文の研究分野についての比較(ASJC27中分類別)(2014年~2018年)

右上にいくほど、FWCI(※1)及び一論文当たりの被引用数も高くなり、質の高い論文であることを示す。特に、**歯科学**、**物理学・天文学**、**医学**、**学際分野**、**化学**、**化学工学**の論文の質が高い。(学際分野とは、「Nature」や「Science」のような総合学術雑誌に掲載された論文を示す。)



■本学の論文の研究分野についての比較(ASJC334小分類別)(2014年~2018年)

FWCIが世界平均1.0を超えている小分野は、334分野中**144分野**である。その中でも特にFWCIの高い上位10の小分野を下記に示す。

順位	ASJC27中分類(※2)	ASJC334小分類	FWCI
1	Nursing (看護学)	Psychiatric Mental Health (精神医学的メンタルヘルス)	9.12
2	Engineering (工学)	Engineering (miscellaneous) (工学(※3))	3.67
3	Physics and Astronomy (物理学、天文学)	Physics and Astronomy (miscellaneous) (物理学、天文学(※4))	3.26
4	Medicine (医学)	General Medicine (医学全般)	3.12
5	Environmental Science (環境科学)	Environmental Science (miscellaneous) (環境科学(※5))	2.58
6	Dentistry (歯科学)	General Dentistry (歯科学全般)	2.54
7	Nursing (看護学)	Advanced and Specialized Nursing (高度・特殊看護)	2.48
8	Chemistry (化学)	Chemistry (miscellaneous) (化学(※6))	2.30
9	Earth and Planetary Sciences (地球科学、惑星学)	Computers in Earth Sciences (地球科学におけるコンピュータ)	2.17
9	Arts and Humanities (人文学)	Conservation (保存科学)	2.17

(※1)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

(※2)ASJC27中分類、ASJC334小分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類、または独自に作成した研究領域。翻訳協力: 大学改革支援・学位授与機構。(中分類の翻訳はエルゼビア社による。)

(※3)工学(その他)次の項目以外の分野

航空宇宙工学、自動車工学、生体医工学、土木・構造工学、計算力学、制御・システム工学、電気電子工学、管理工学・生産工学、機械工学、材料力学、海洋工学、安全・リスク・信頼性・品質管理、メディア工学、建設工学、建築学

(※4)物理学・天文学(その他)次の項目以外の分野

音響学及び超音波学、天文学及び宇宙物理学、凝縮系物理学、計測機器、核物理学・高エネルギー物理学、原子分子物理学及び光学、放射線、統計物理学及び非線形物理学、表面・界面

(※5)環境科学(その他)次の項目以外の分野

生態モデリング、生態学、環境化学、環境工学、地球規模変化、健康・毒物・変異誘発、環境管理・モニタリング・政策・法、自然保護・景観保護、汚染、廃棄物管理・処理、水資源科学・工学

(※6)化学(その他)次の項目以外の分野

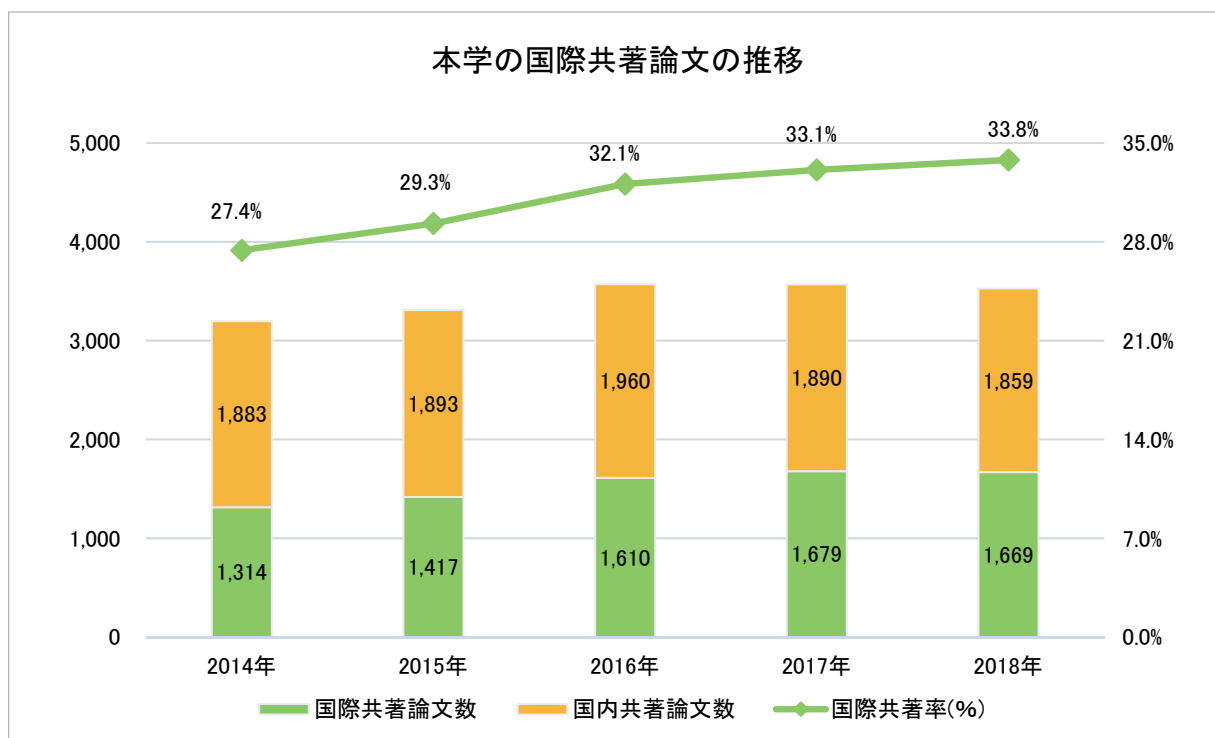
分析化学、電気化学、無機化学、有機化学、物理化学・理論化学、分光学

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-3. 国際共著論文

本学でみると、国際共著論文数・国際共著論文比率はともに増加している。国際共著論文数は2009年から2018年で1.93倍に増加しており、さらに国際共著論文比率も2009年と2018年を比較すると19.7%から33.8%へ上昇している。増加率はRU11(※1)の中で最も大きい。

◆九州大学◆



◆研究院別◆ (2014年～2018年) (※2)

順位	研究院	国際共著論文数(合計)(本)	国際共著論文比率(平均)(%)
1	工学研究院	1,254	28.7
2	理学研究院	1,194	53.9
3	農学研究院	653	37.3
4	システム情報科学研究院	623	29.7
5	医学研究院	529	11.0
6	総合理工学研究院	423	36.4
7	薬学研究院	215	24.1
8	基幹教育院	204	38.9
9	歯科研究院	129	19.3
10	比較社会文化研究院	69	42.3
11	芸術工学研究院	65	17.6
12	経済学研究院	59	39.9
13	人間環境学研究院	54	32.1
14	数理学研究院	30	20.0
15	法学研究院	7	24.1
16	人文科学研究院	2	8.3
17	言語文化研究院	0	0.0

(※1)RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都市大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※2)研究院別国際共著論文数

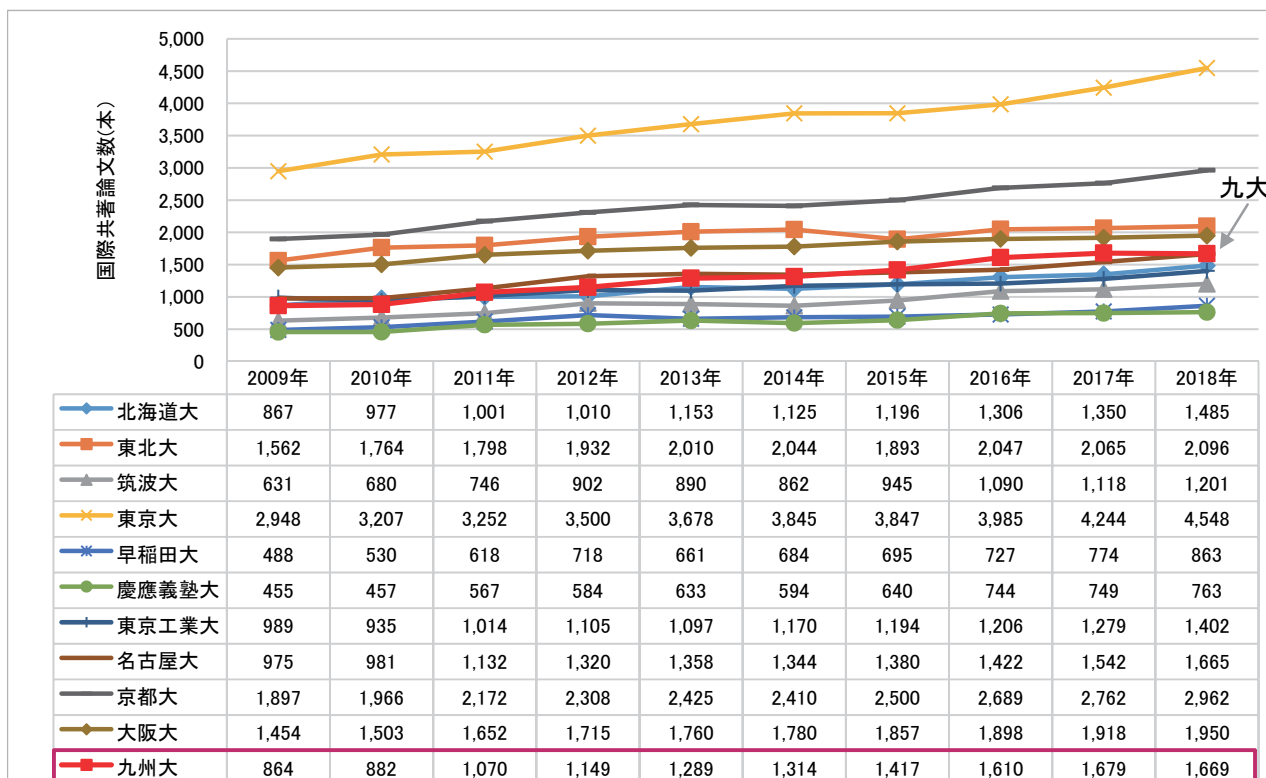
2019年4月1日現在員における2014年～2018年に出版された国際共著論文を示す。他機関在籍時の論文も含む。

※出典:Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

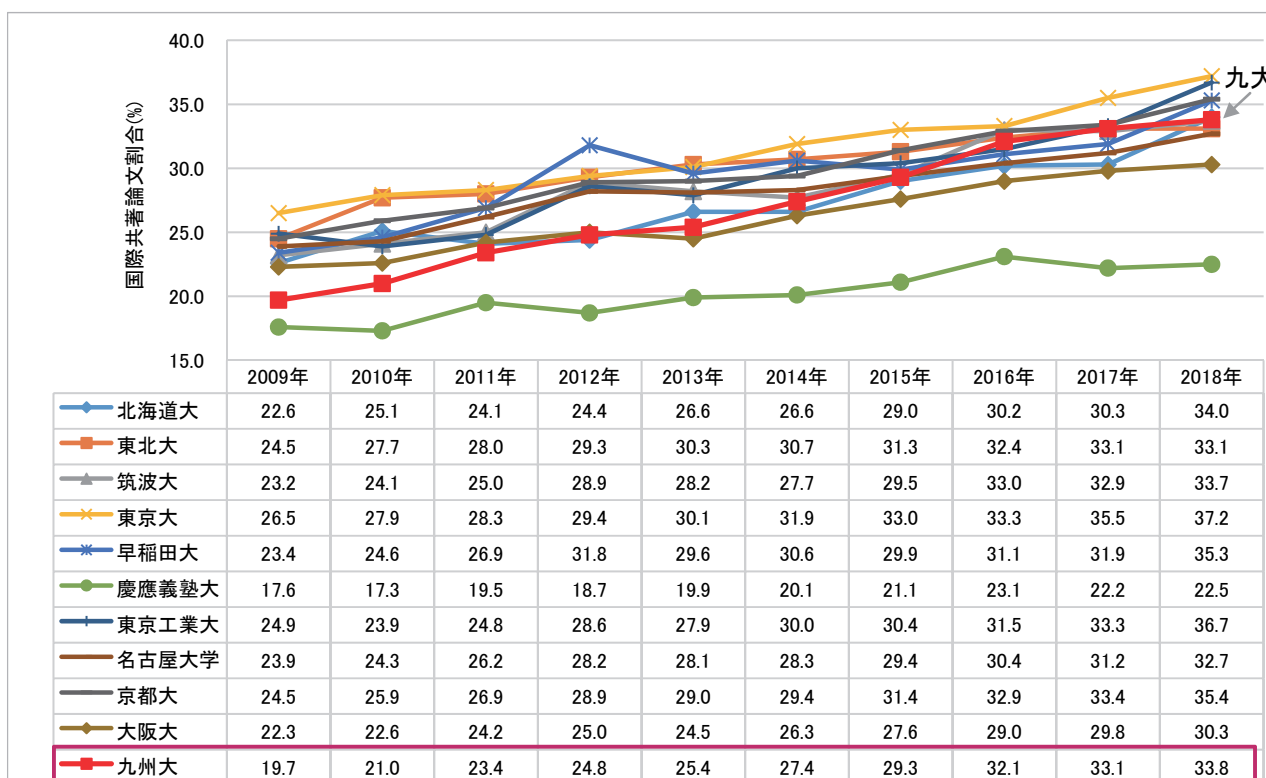
9-3. 国際共著論文(つづき)

◆RU11での比較◆(2009年~2018年)

国際共著論文数



国際共著論文比率



・RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

9-3. 国際共著論文(つづき)

■ 世界各機関との国際共著状況(2014~2018年)

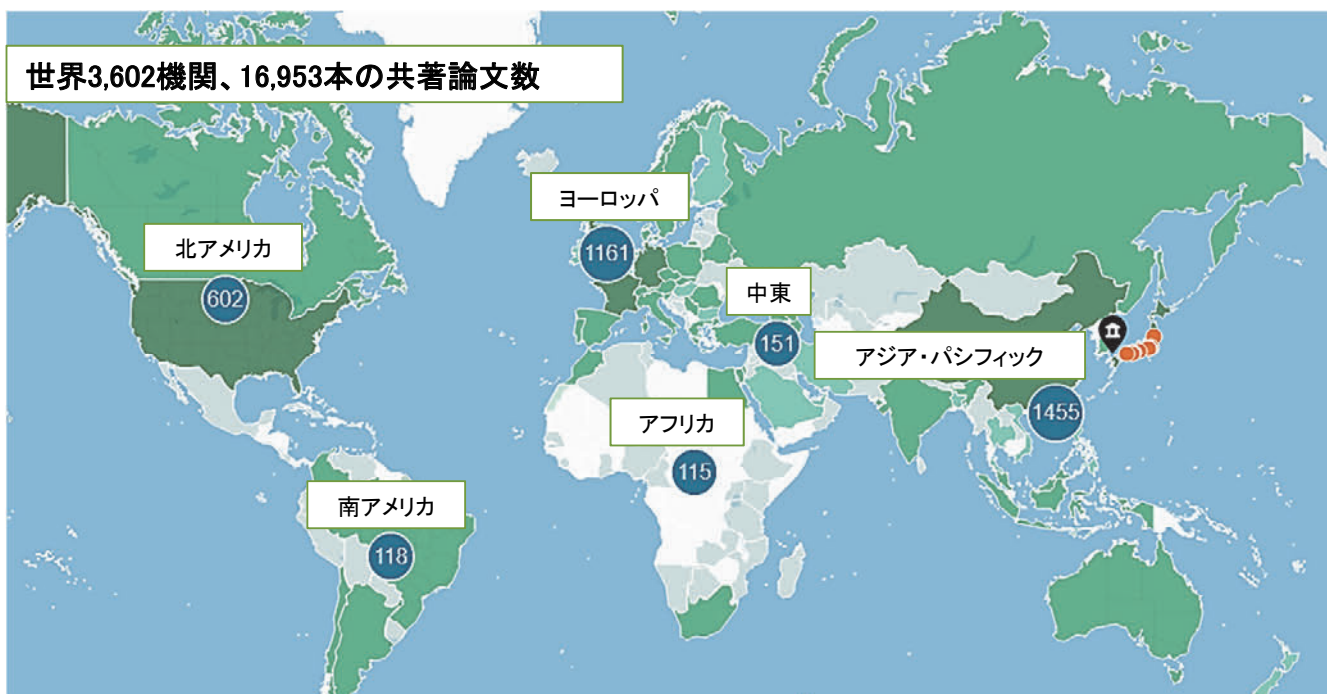
北アメリカ
602機関、2,656本の共著論文



ヨーロッパ
1,161機関、2,653本の共著論文



アジア・パシフィック
1,455機関、15,059本の共著論文



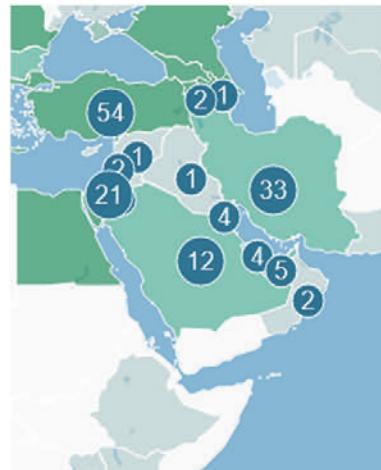
南アメリカ
118機関、667本の共著論文



アフリカ
115機関、1,069本の共著論文



中東
151機関、816本の共著論文



・各地図上の数字は、機関数を表すものである。

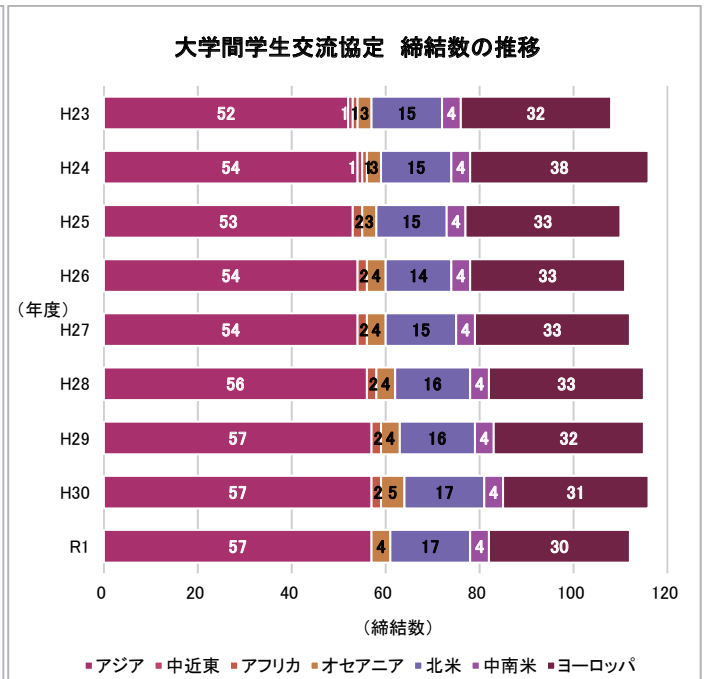
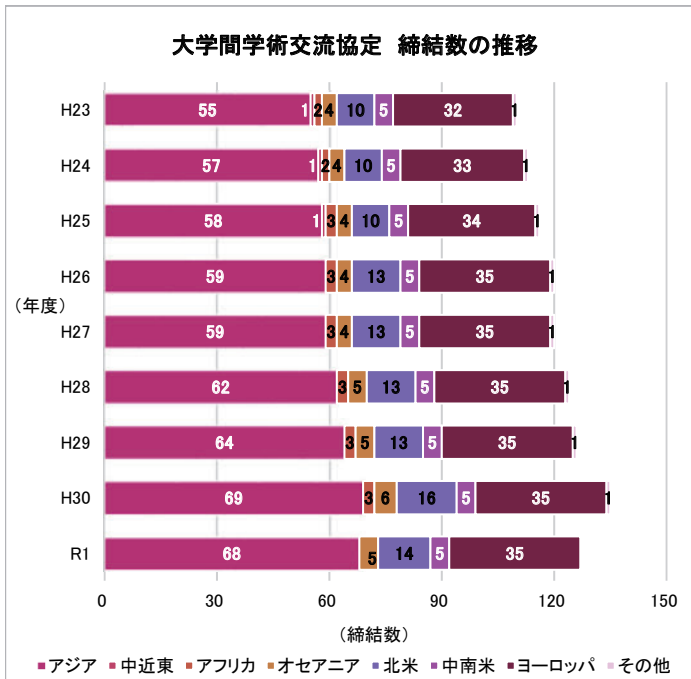
※出典: Elsevier社製「SciVal」より(2019年9月現在)

10. 国際 (各年度5月1日現在)

10-1. 海外大学との交流状況

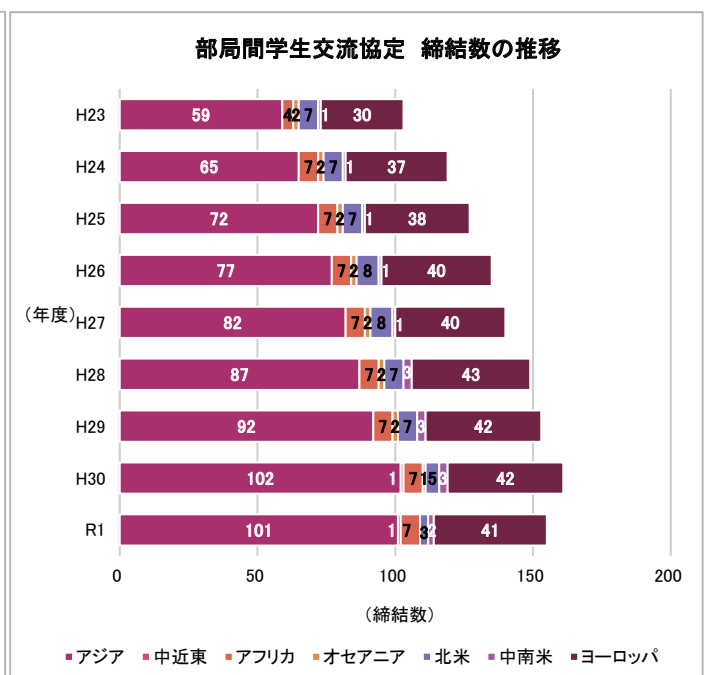
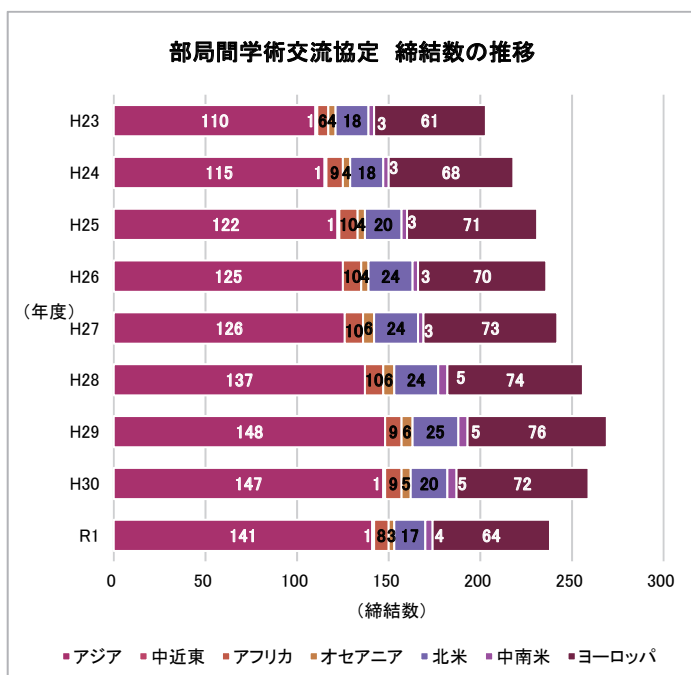
10-1-1. 海外大学との交流状況(大学間交流協定)

大学間学術交流協定・学生交流協定の締結数は、横ばい傾向であり、締結地域を見ると、アジア、ヨーロッパとの締結数の割合が高い。



10-1-2. 海外大学との交流状況(部局間交流協定)

近年では、部局間学術交流協定の締結数は減少傾向にある。部局間学生交流協定数の締結数は150機関以上を推移している。



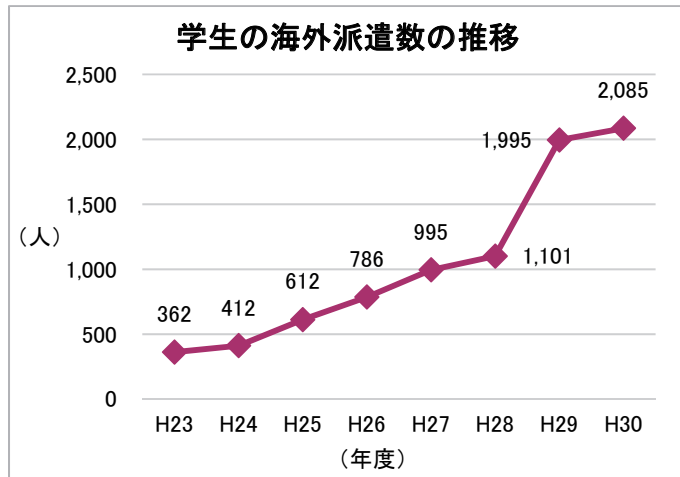
※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

10-2. 本学学生の海外留学状況

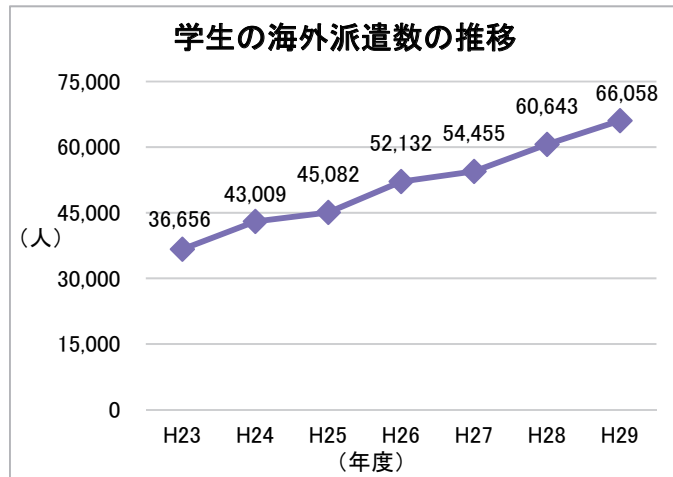
10-2-1. 本学学生の海外留学状況(全体)

海外へ留学している学生数は、本学を含め全国的に増加傾向にある。

◆九州大学◆



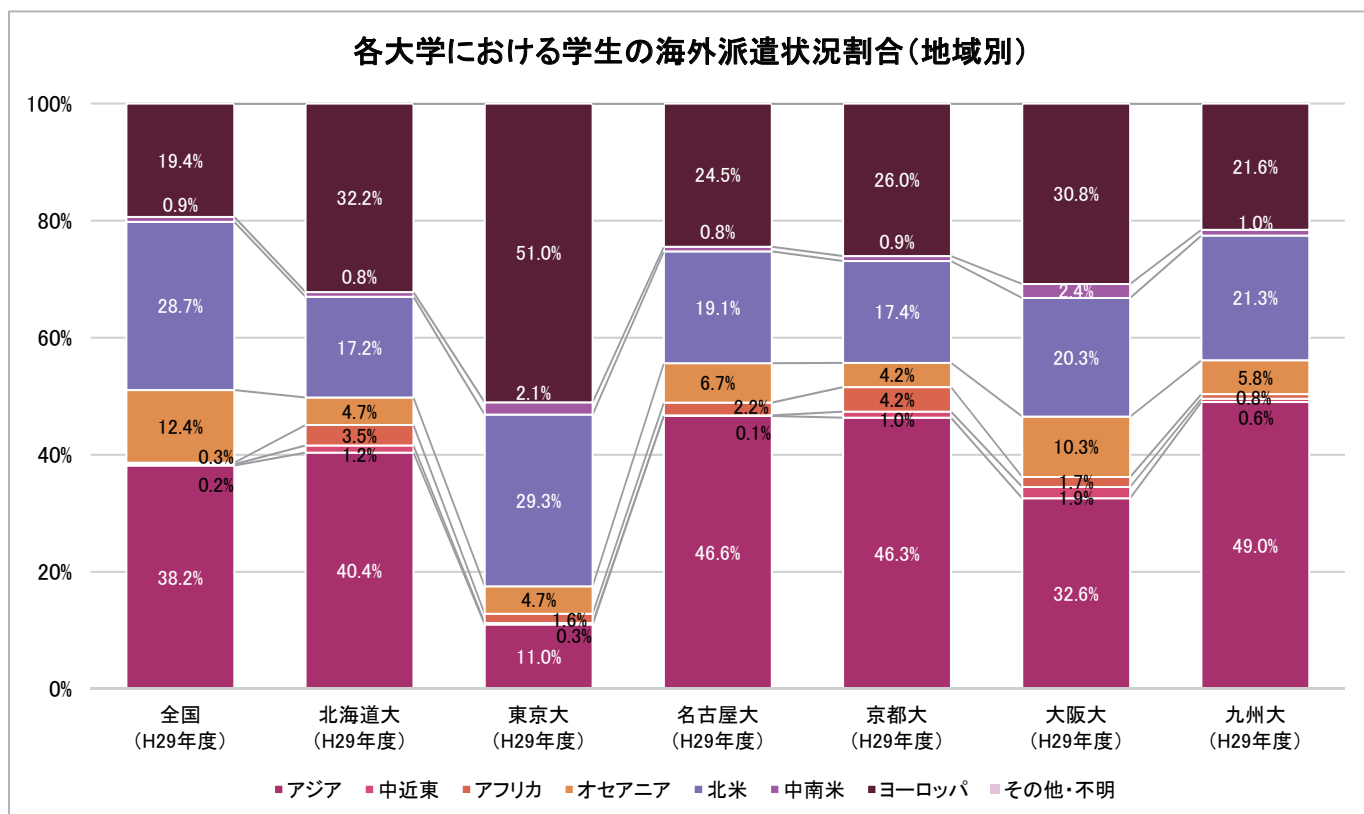
◆全国◆



※出典

- ・本学:九州大学概要
- ・全国:JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」

◆各大学における学生の海外派遣状況割合(地域別)◆



※ 出典: 全国…JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」

北海道大: 北海道大学ファクトブック(H29年5月1日現在) ※日本人学生の海外派遣状況(地域別)

東京大: 大学概要(H29年5月1日現在) ※外国へ留学等している学生数

名古屋大: 大学プロフィール資料編(H29年度) ※海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等

京都大: 大学概要(H29年度) ※外国へ渡航した学生数

大阪大: 大学概要(H29年度) ※定義等の記載なし

九州大: 大学概要(H29年5月1日現在) ※過年度に留学を開始したものを含む。

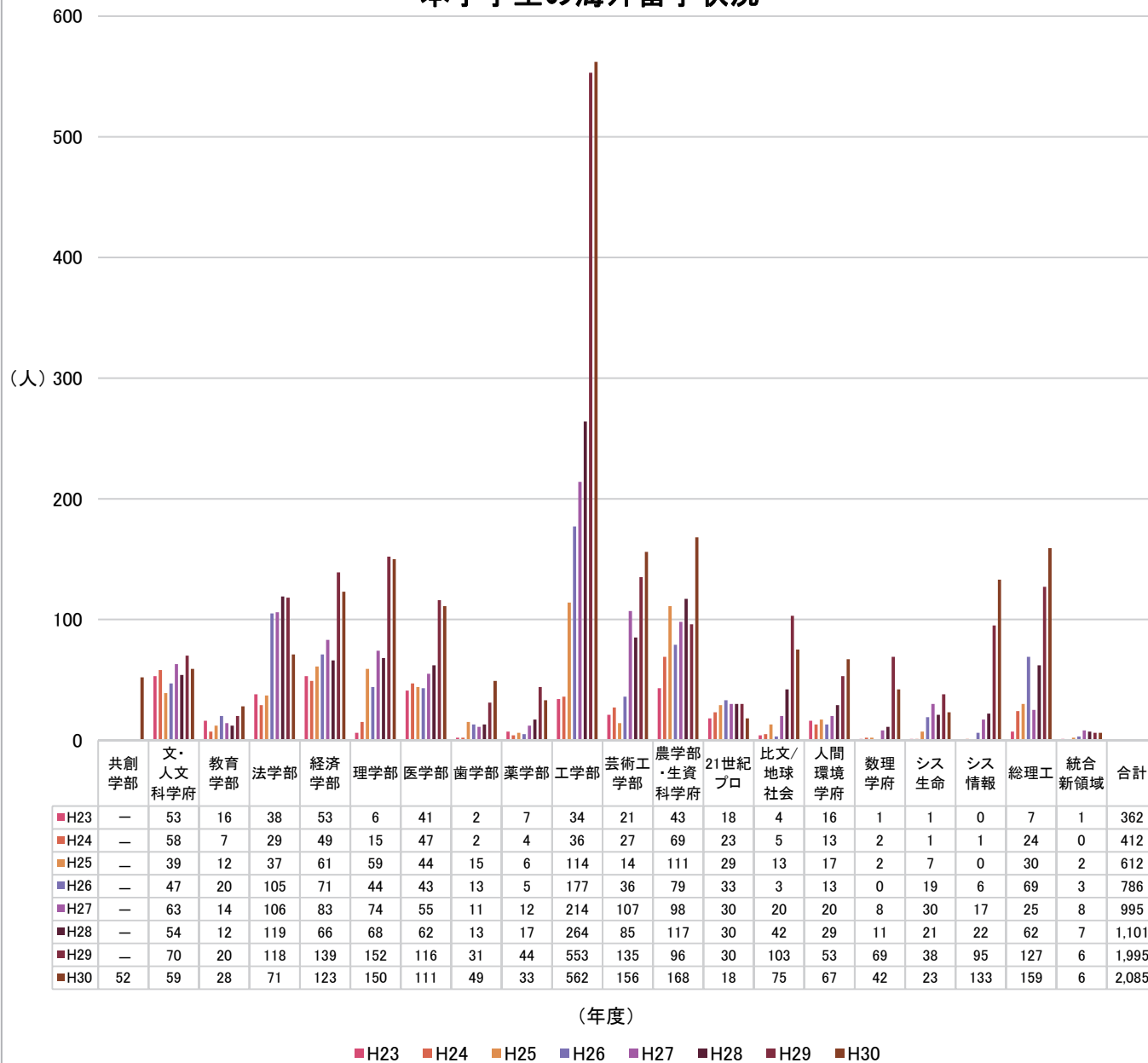
東北大: H29年度データ取得不可な為掲載なし。

※上記のとおり、大学によって定義等が異なるため、単純比較ができないことに留意。

10-2-2. 本学学生の海外留学状況(部局別)

本学学生の海外留学者数は増加傾向である。留学先としては、海外オフィスを設置していることも影響しており、アジアが最も多く、次にヨーロッパ、北米が近年増加傾向である。学部別にみると、工学部の学生数が最も多く、特にH29年度に大きく増加している。

本学学生の海外留学状況

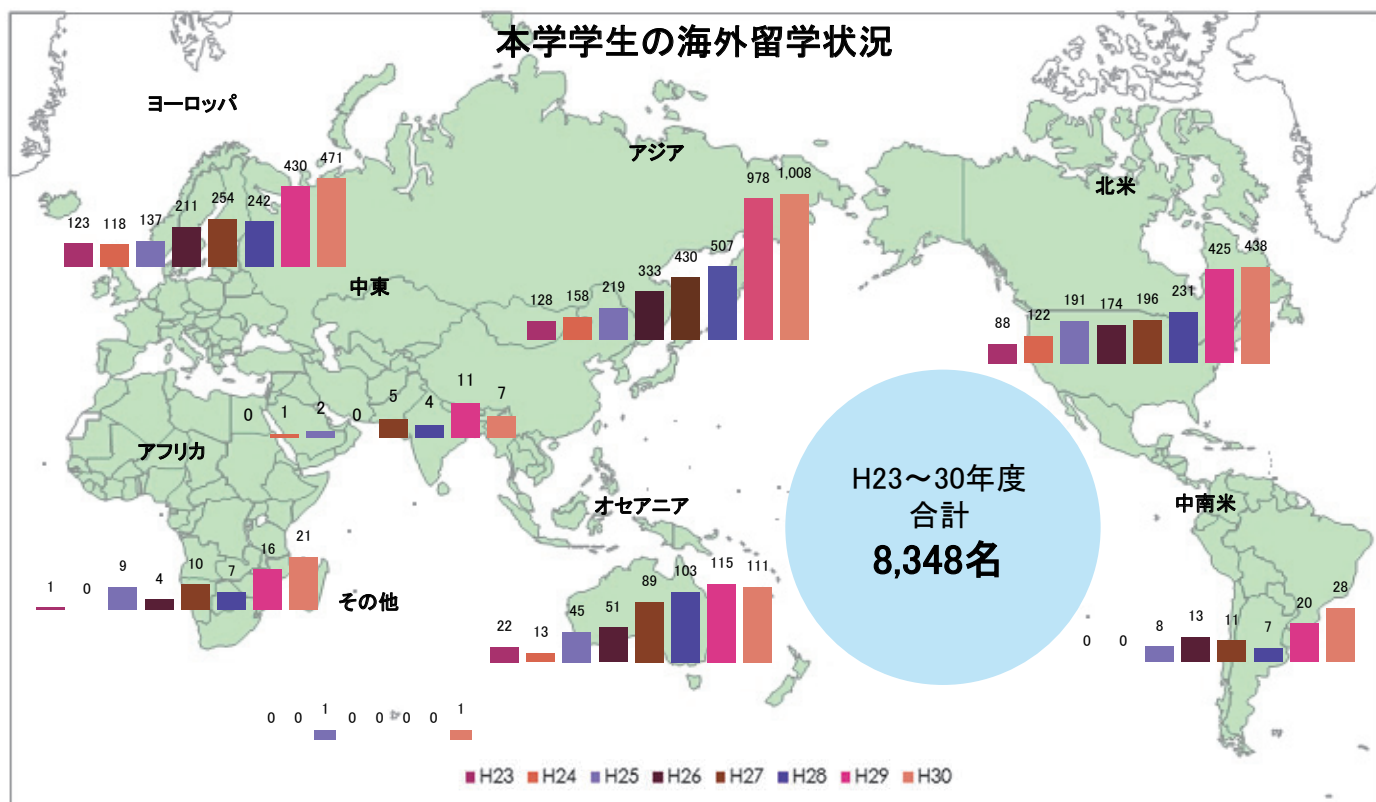


- ・過年度に留学を開始した者を含む。
- ・海外オフィスについては以下の通り。
 アジア：ソウルオフィス、北京事務所、ハノイオフィス、台北オフィス
 ヨーロッパ：ロンドンオフィス、ミュンヘンオフィス
 北米：カリフォルニアオフィス、ワシントンD.C.オフィス
 アフリカ：カイロオフィス

※出典：九州大学概要

10-2-3. 本学学生の海外留学状況(地域別)

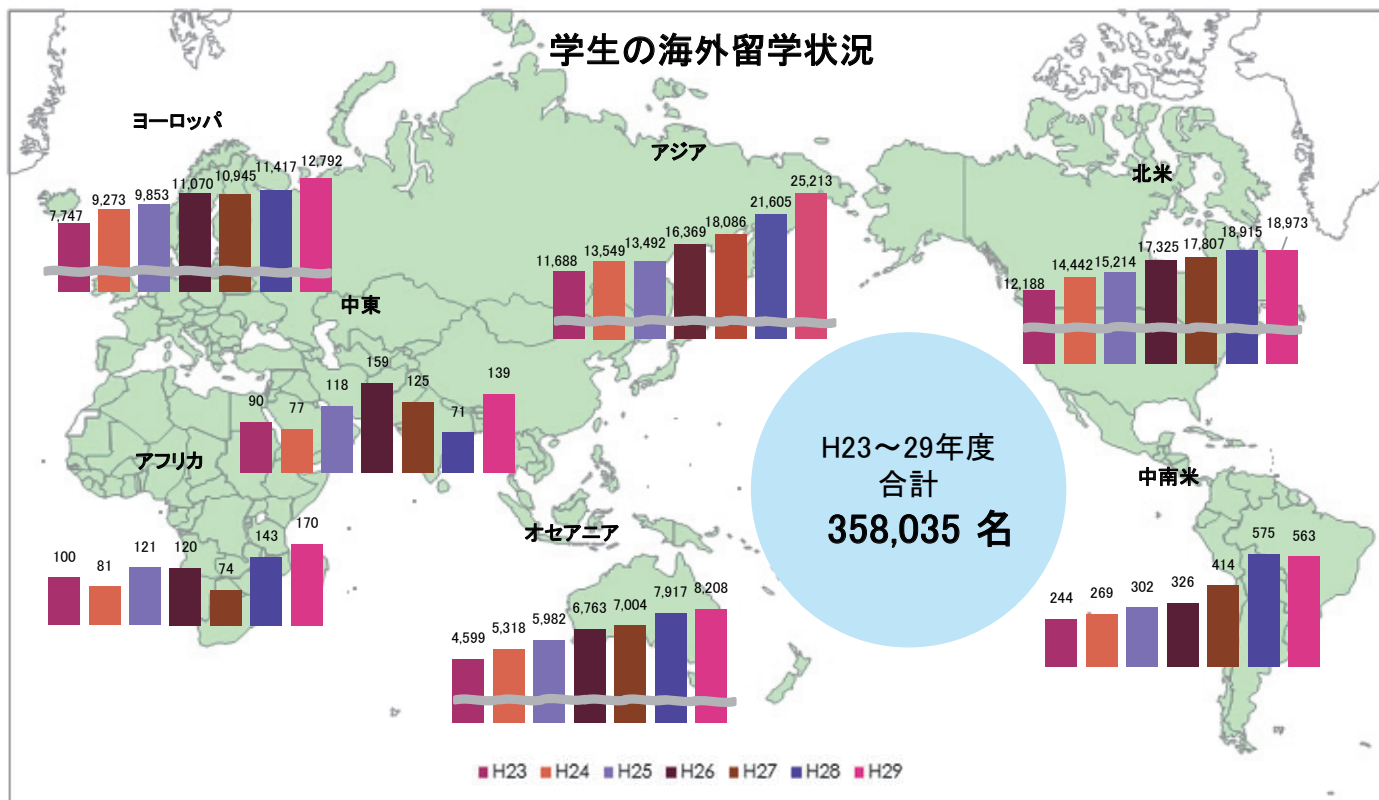
◆九州大学◆



・過年度に留学を開始した者を含む。

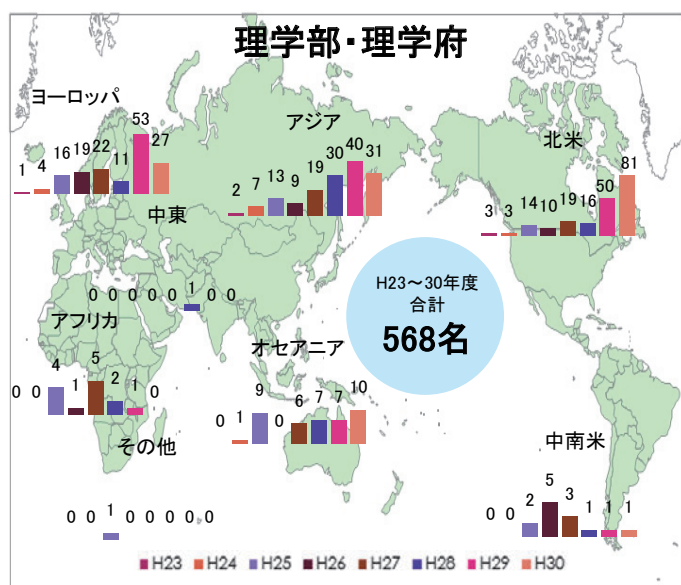
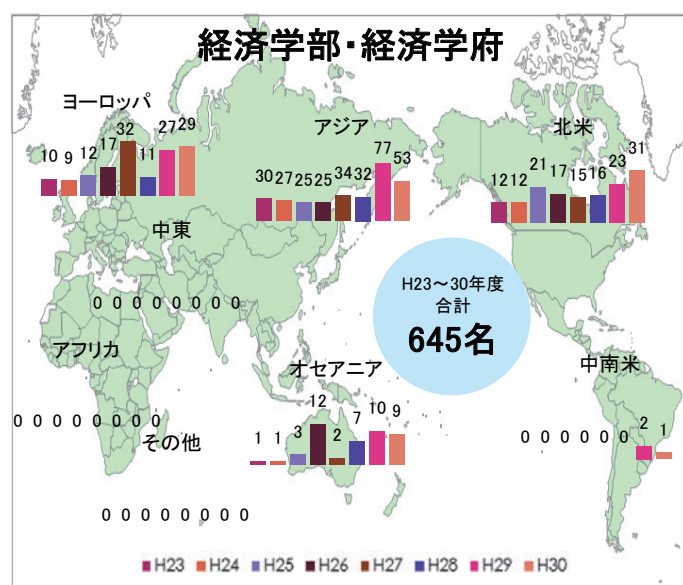
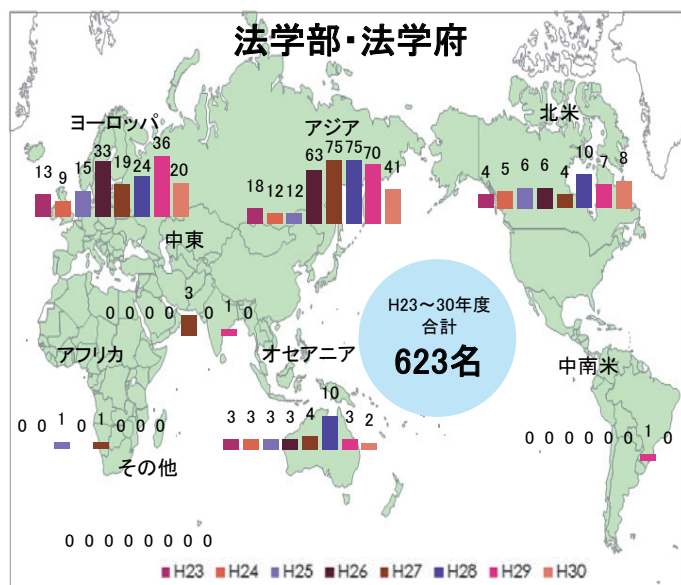
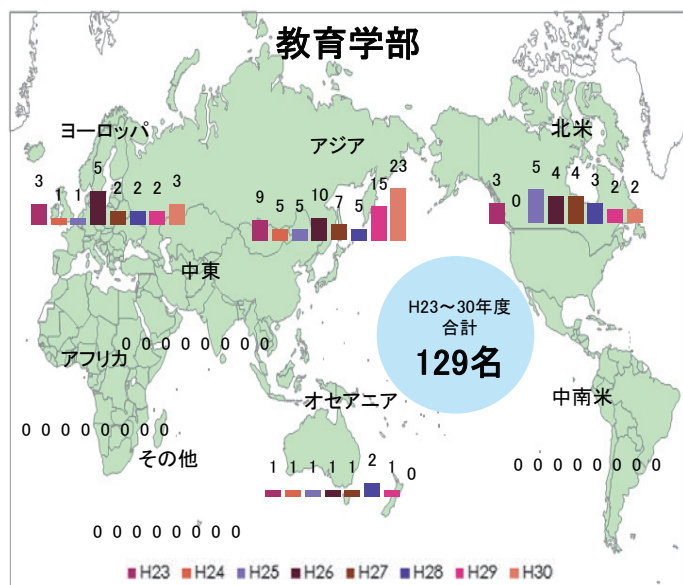
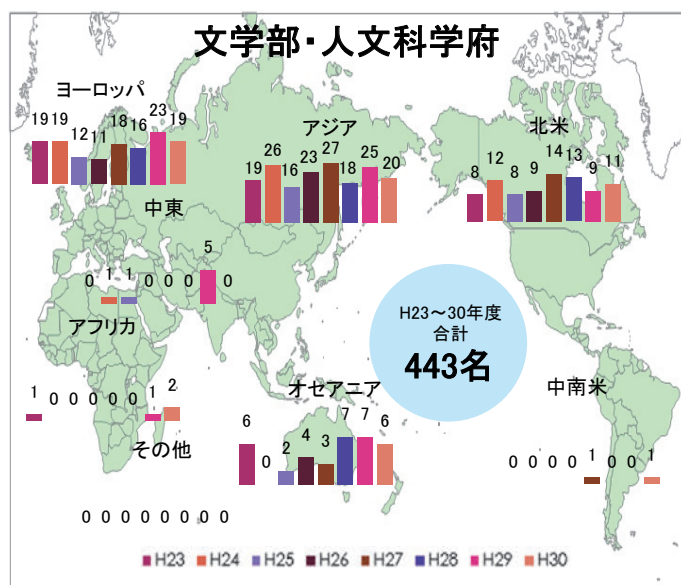
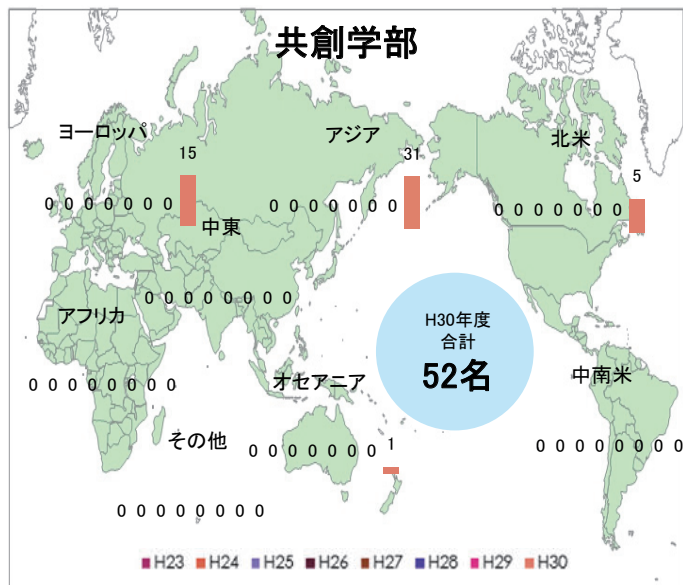
※出典:九州大学概要

◆全国◆



※出典:JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」

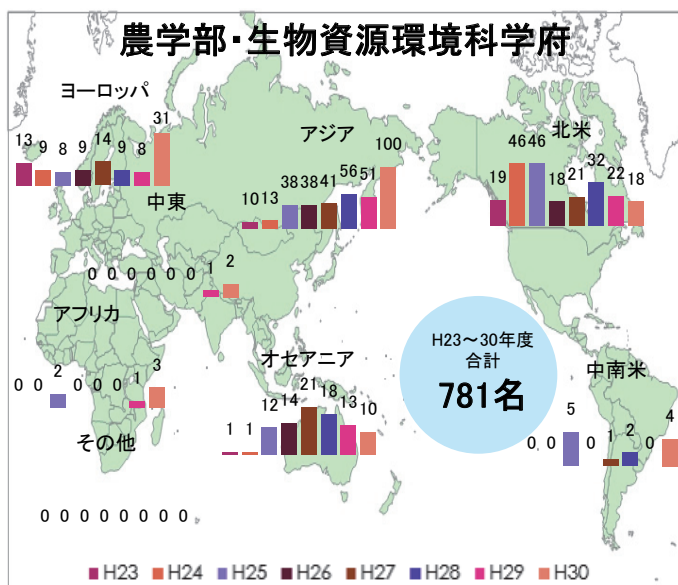
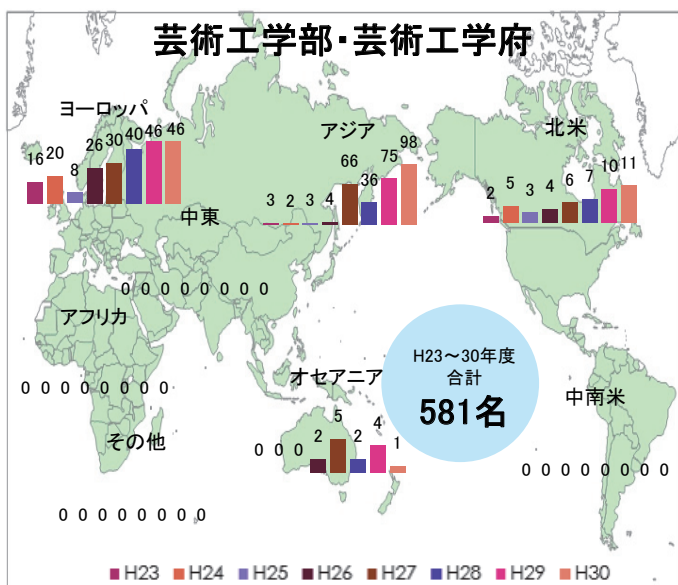
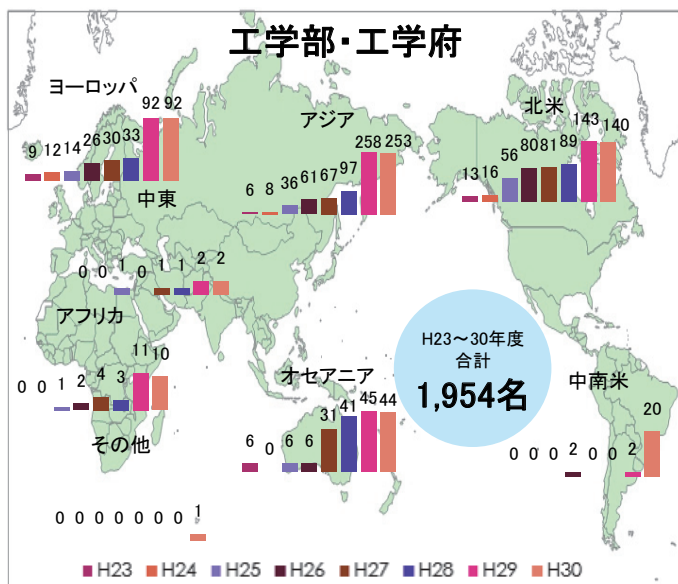
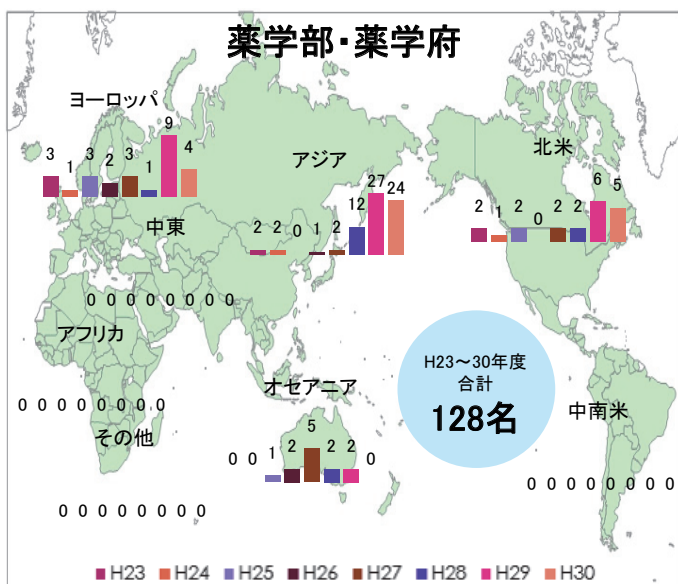
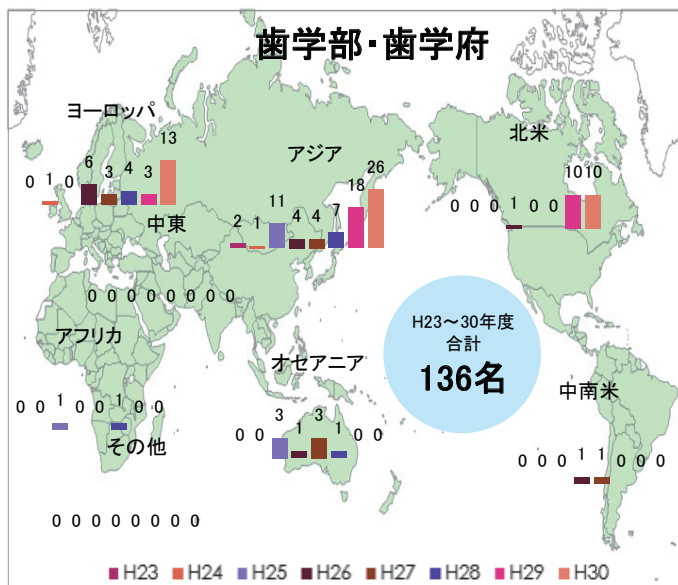
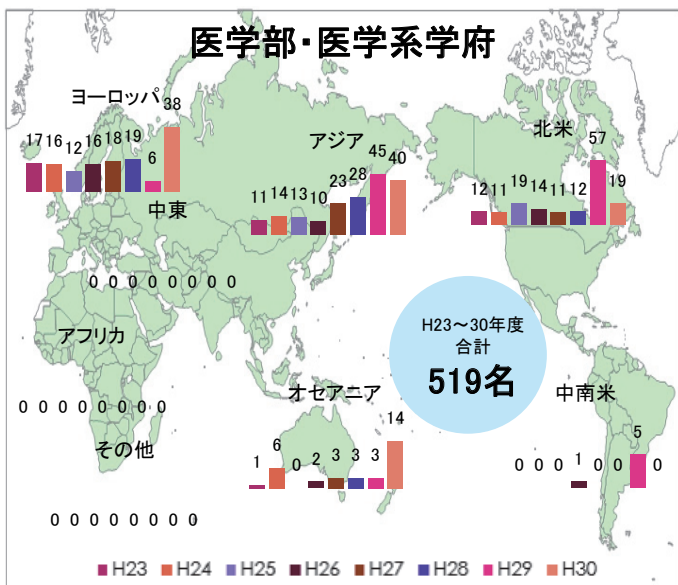
10-2-4. 本学学生の海外留学状況(部局別・地域別)



・過年度に留学を開始した者を含む。

※出典：九州大学概要

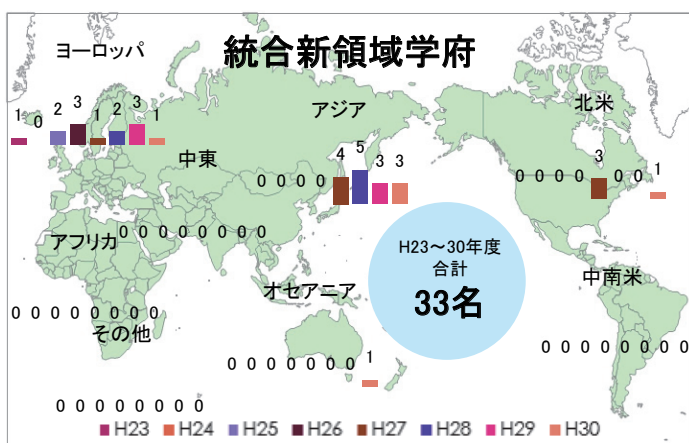
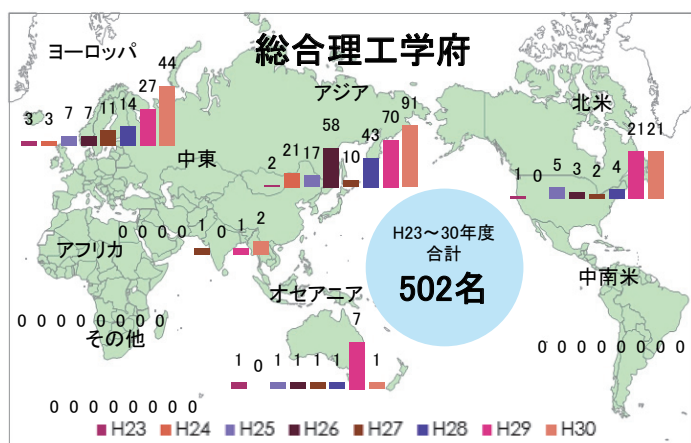
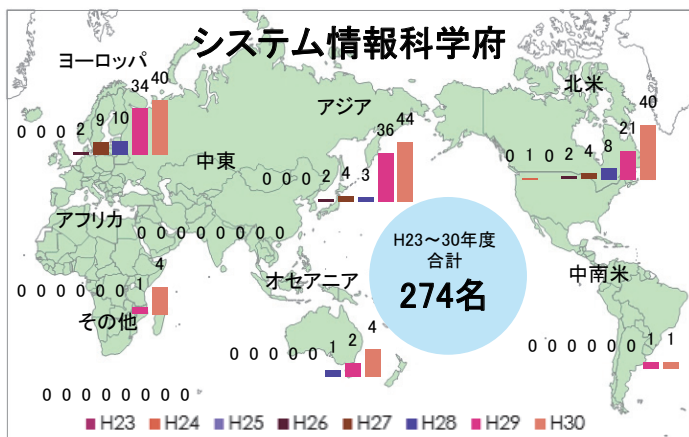
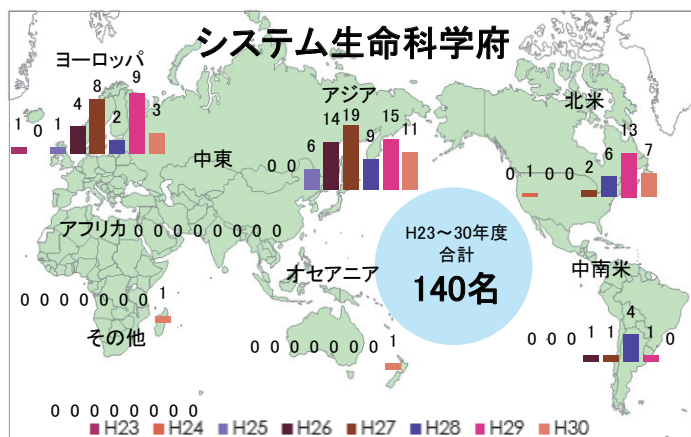
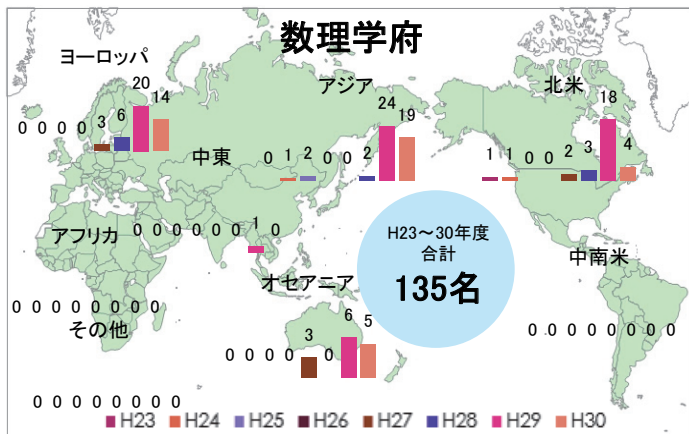
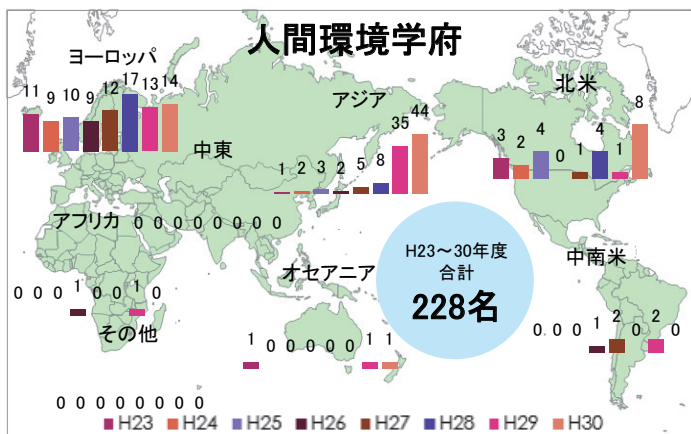
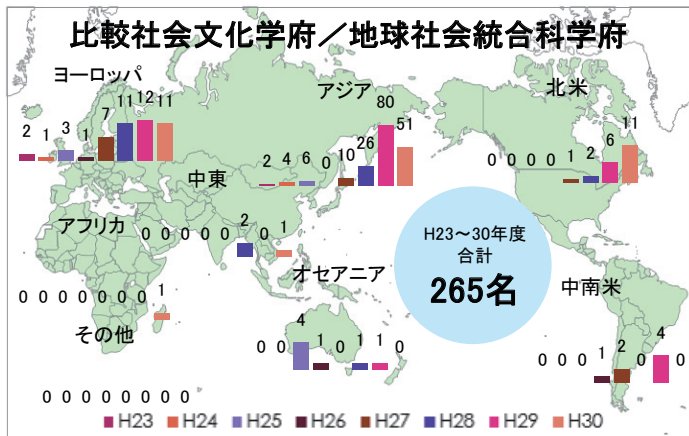
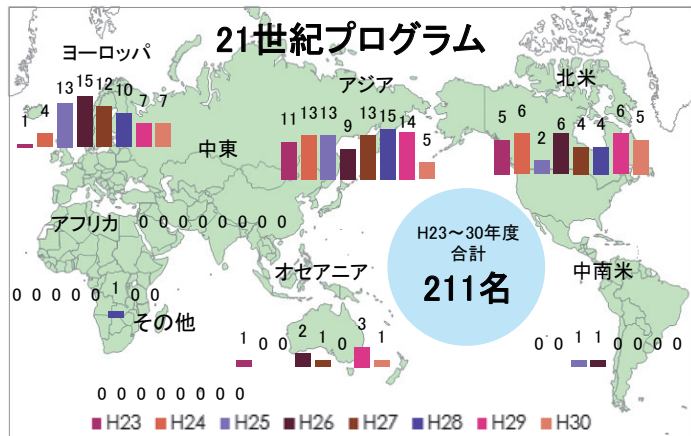
10-2-4. 本学学生の海外留学状況(部局別・地域別)(つづき)



・過年度に留学を開始した者を含む。

※出典：九州大学概要

10-2-4. 本学学生の海外留学状況(部局別・地域別)(つづき)



・過年度に留学を開始した者を含む。

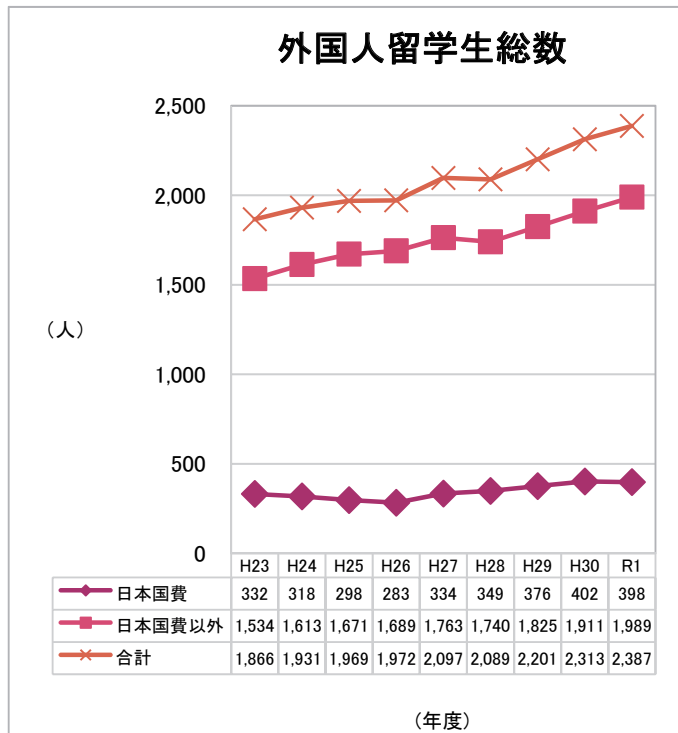
※出典：九州大学概要

10-3. 外国人留学生の受入状況

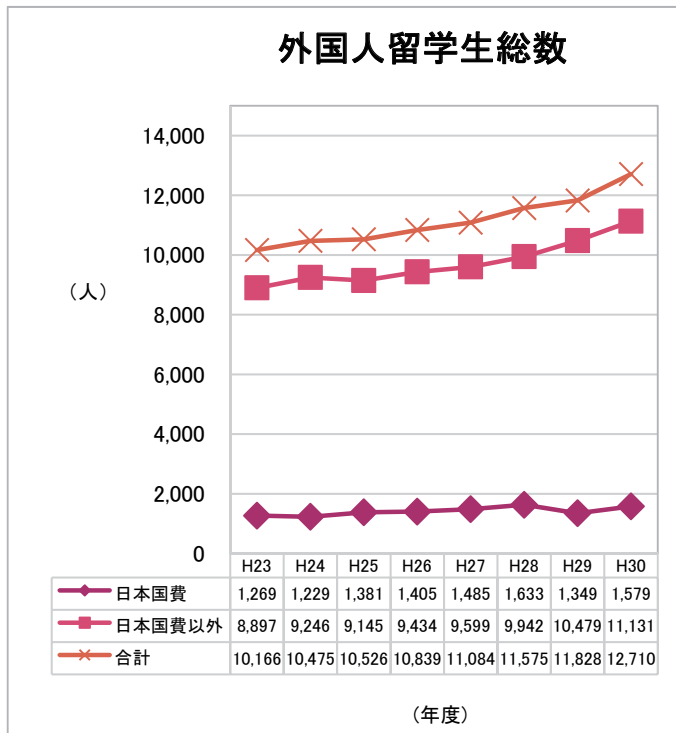
10-3-1. 外国人留学生の受入状況(全体)

留学生は毎年増加傾向にある。特にR1年度は、2,387人と過去最高の留学生数となった。在籍学生数に占める外国人留学生数の比率について、全国と比較すると本学は大きく上回り、近年増加傾向にある。

◆九州大学◆



◆全国 国立大学◆

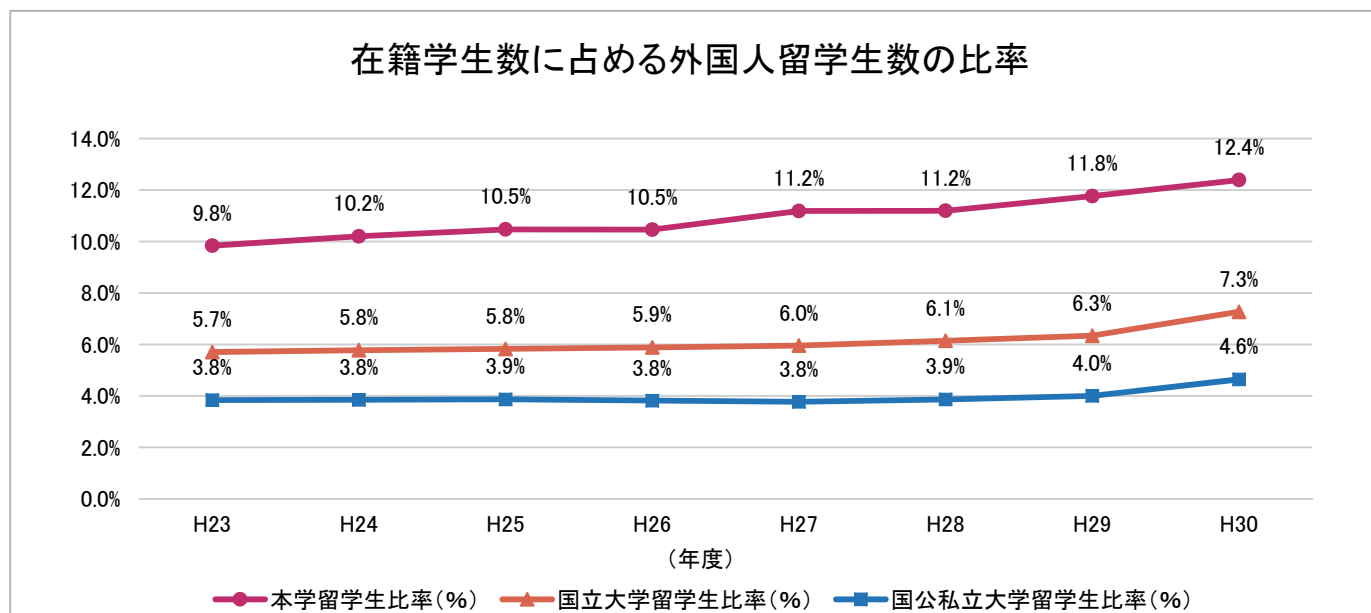


- ・日本国費：留学の在留資格をもって日本に在留し、日本の国費により大学等に在学して学習又は研究を行う外国の国籍を有するもの。
- ・日本国費以外：上記以外、自費による留学生（JICA関連事業留学生含む）、あるいは諸外国政府の経費負担により派遣されている留学生（中国政府「国家建設高レベル大学公派研究生項目」を含む。）（国費外国人留学生制度実施要項第二条参照）

※出典：

- ・本学：九州大学概要（各年度5月1日現在）
- ・全国：文部科学省「学校基本調査」関係学科別 外国人学生数（各年度）

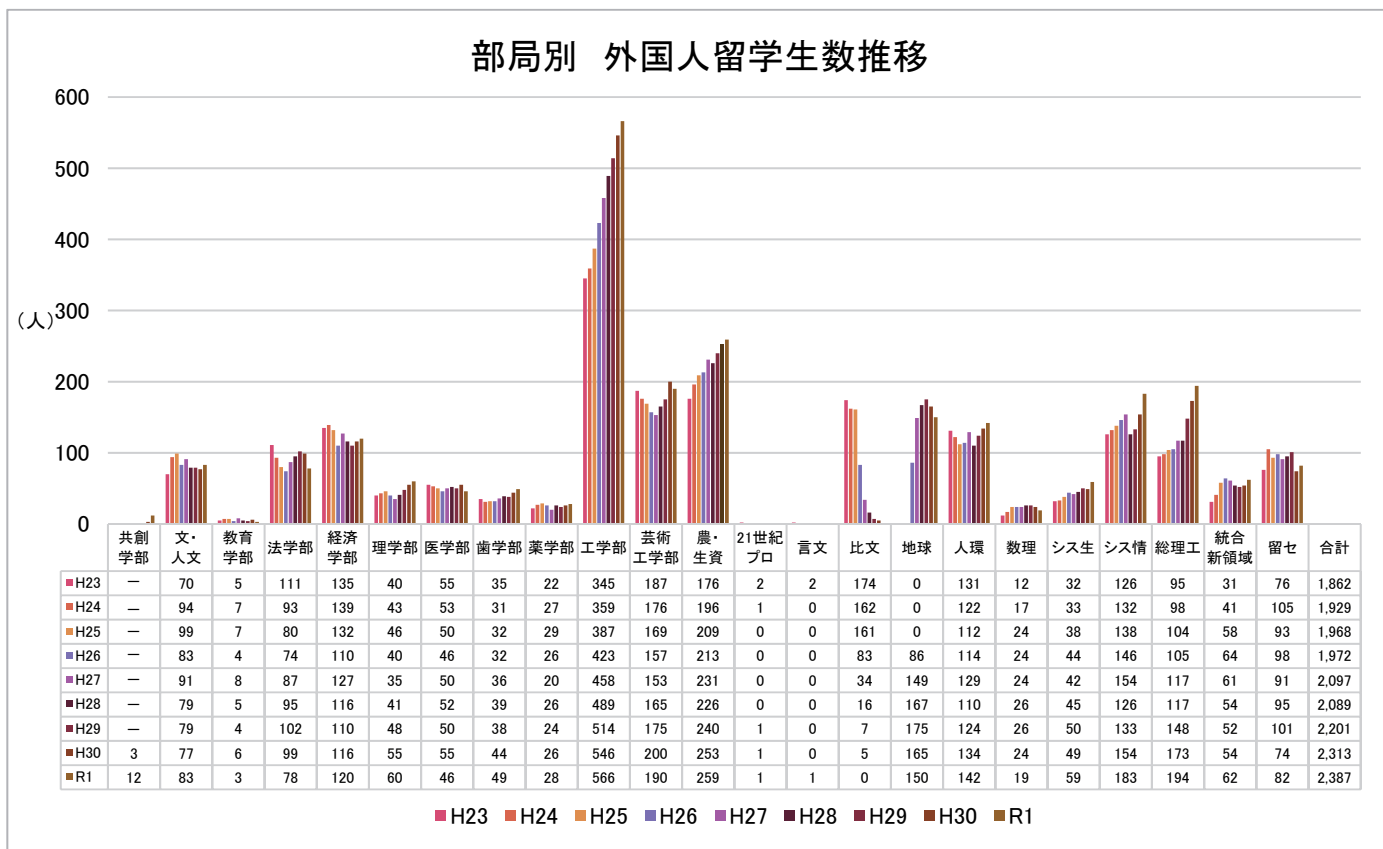
◆在籍学生数に占める外国人留学生数の比率◆



※出典：

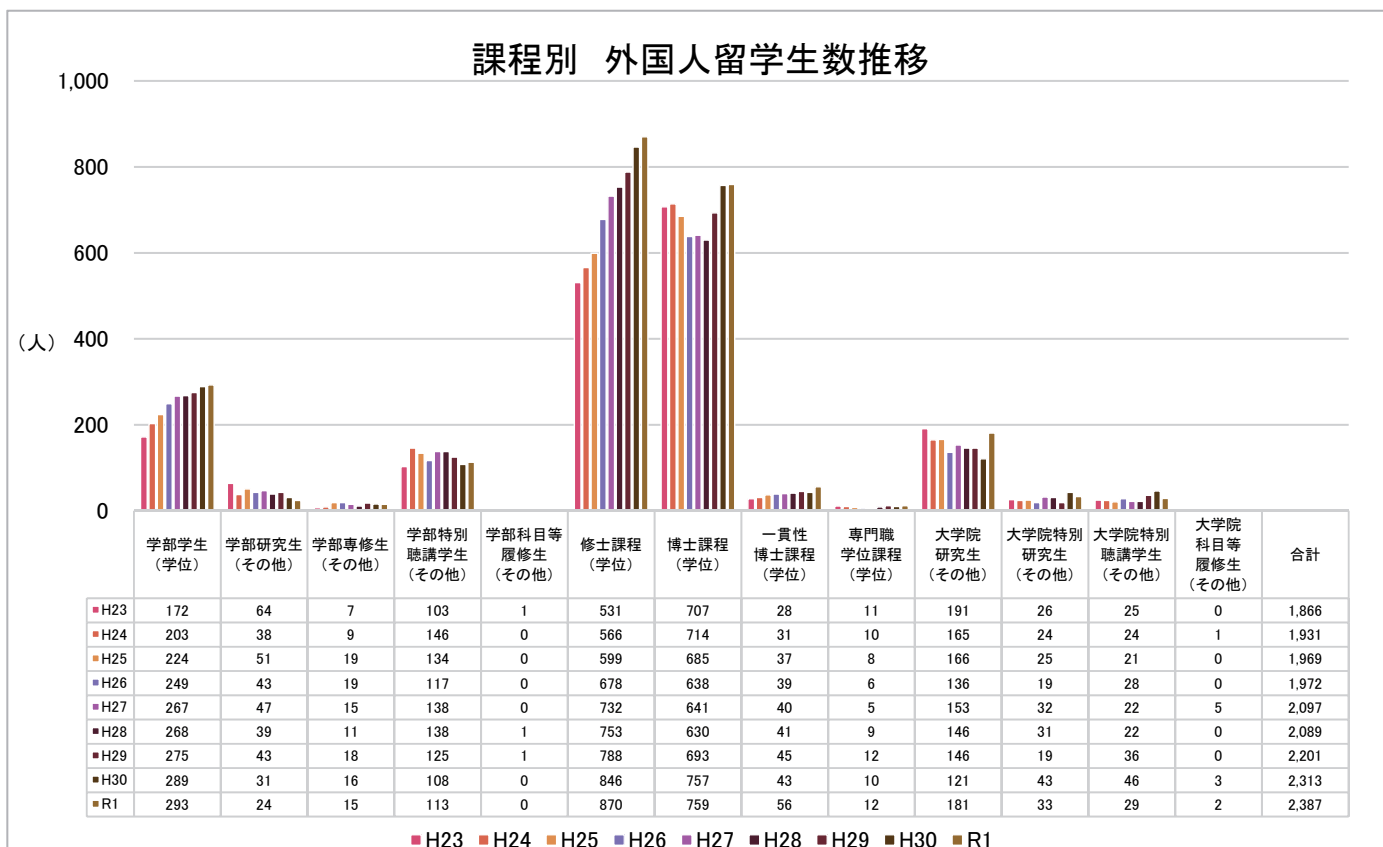
- ・本学：九州大学概要（各年度5月1日現在）
- ・全国：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」及び文部科学省「学校基本調査」（各年度）

10-3-2. 外国人留学生の受入状況(部局別)



※出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

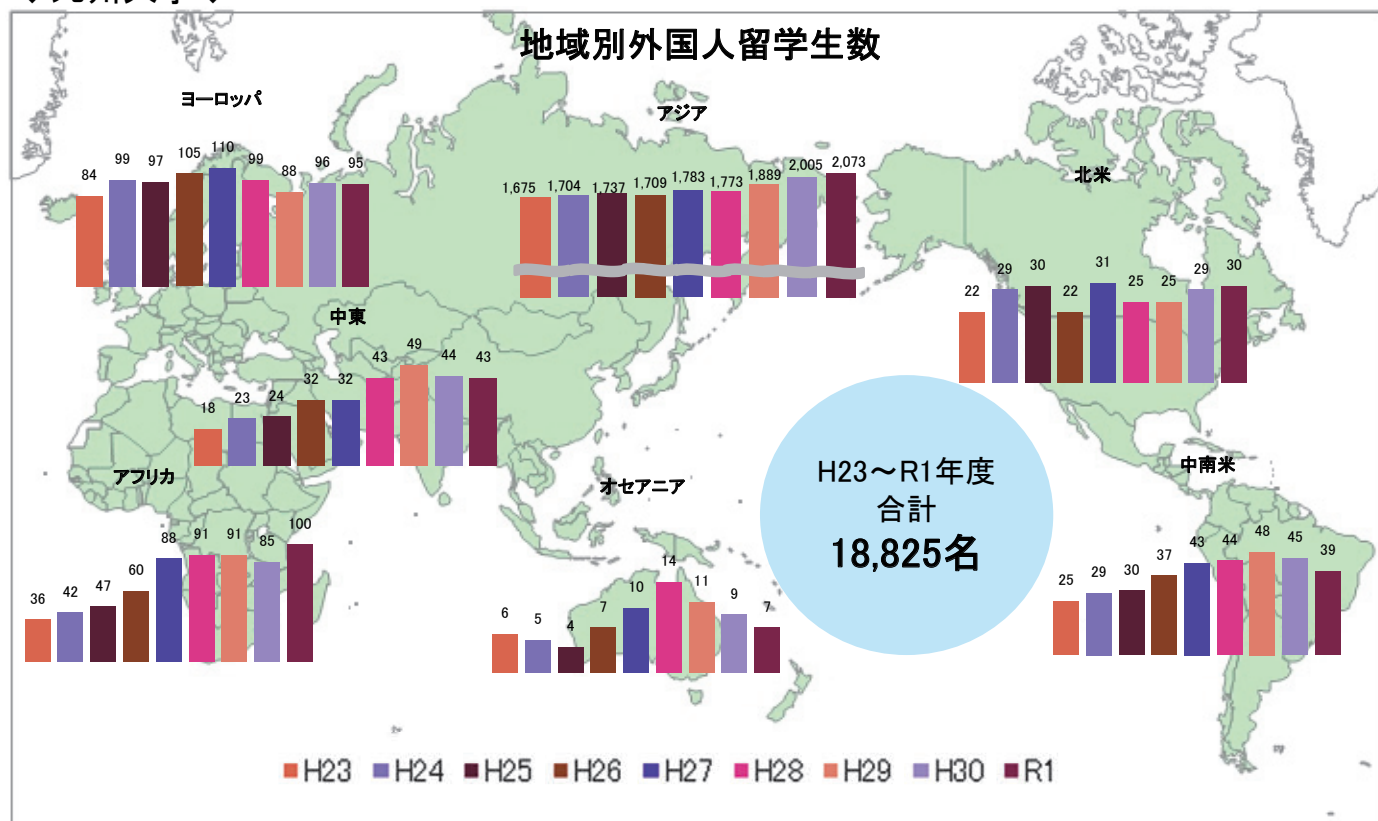
10-3-3. 外国人留学生の受入状況(課程別)



※出典：国際部保有データ 課程別外国人留学生数(H23-H30) R1のみ九州大学概要(各年度5月1日現在)

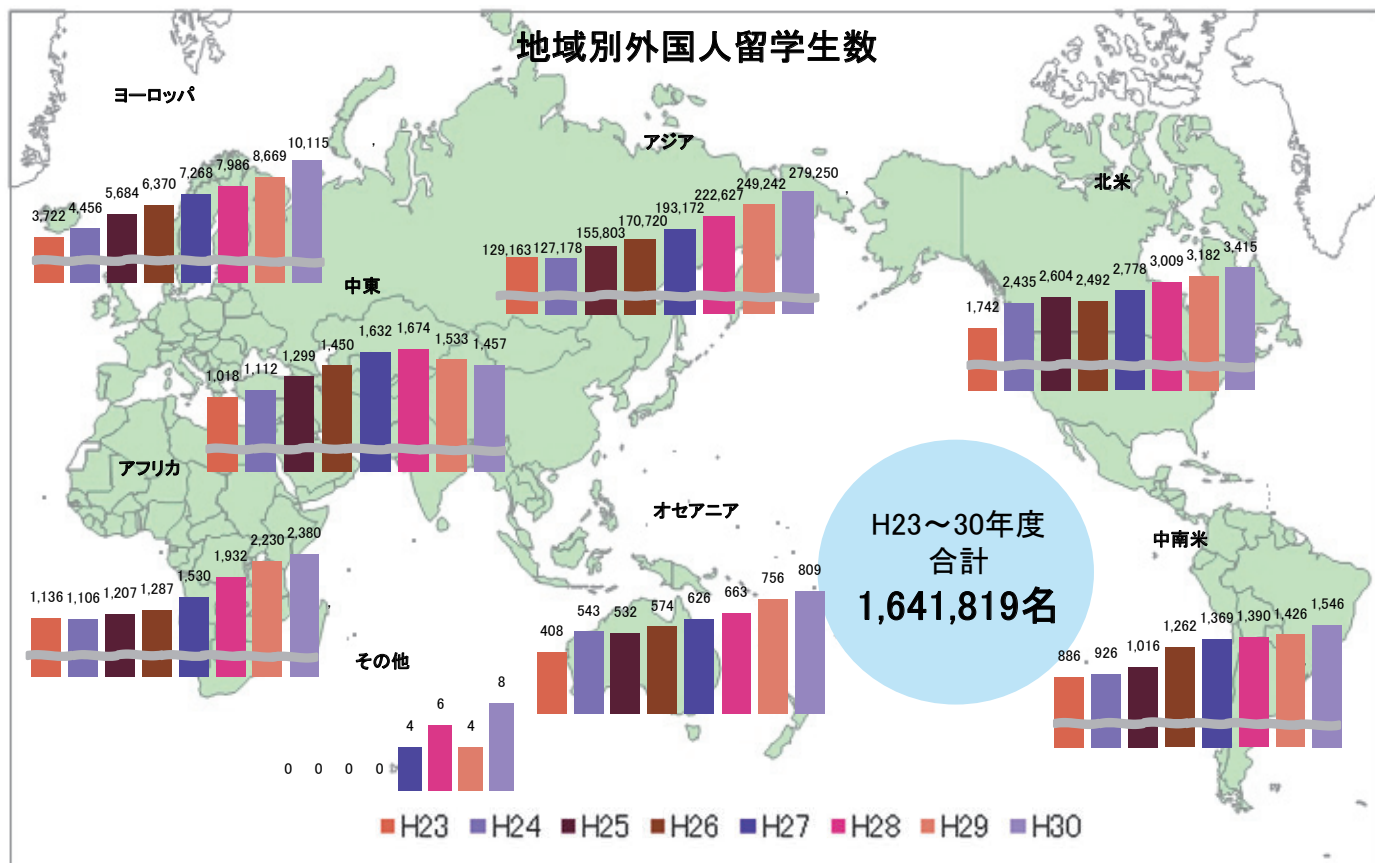
10-3-4. 外国人留学生の受入状況(出身地域別)

◆九州大学◆



※出典：九州大学概要(各年度)

◆全国◆



・合計数には、H27年度よりその他(無国籍者)を含む

※出典：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」(各年度)

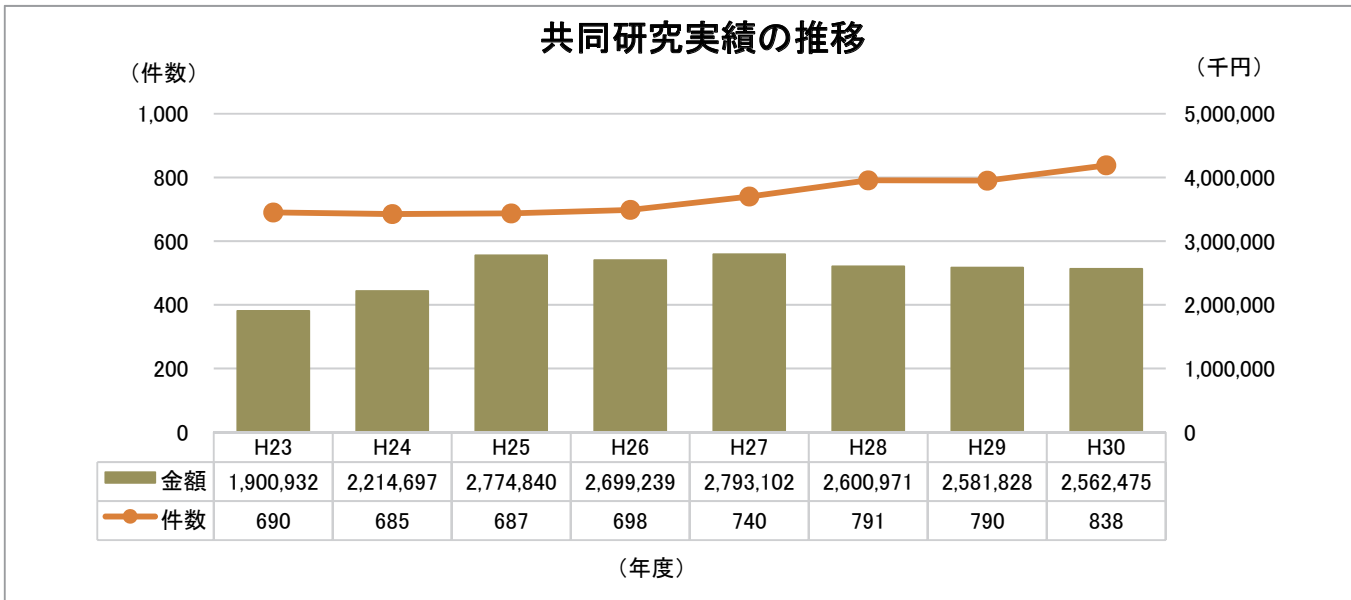
11. 産学官連携

11-1. 共同研究の状況

11-1-1. 共同研究実績の推移

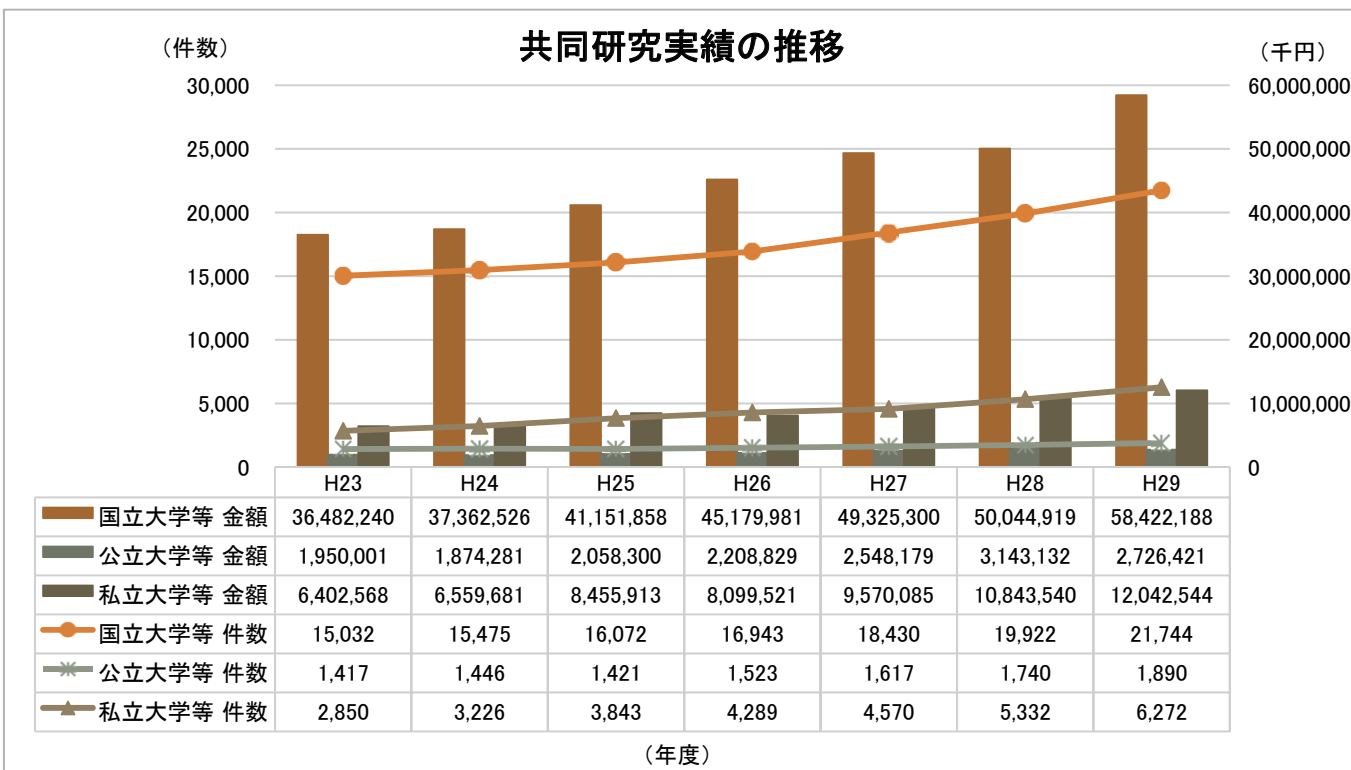
全国では金額・件数の両方で増加傾向である。本学は、近年横ばい傾向である。

◆九州大学◆



※出典:九州大学概要

◆全国◆



※出典:「大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)」各年度(文部科学省)

11-1-1. 共同研究実績の推移(つづき)

◆他大学との比較◆

【民間企業との共同研究実施件数
(全国 国公立大学間)】

【民間企業との共同研究費受入額
(全国 国公立大学間)】

【民間企業との共同研究に伴う一件当たりの研究費受入額(全国 国公立大学間)】

(単位:千円)

(単位:千円)

順位	大学名	件数
1	東京大	1,835
2	大阪大	1,250
3	東北大	1,037
4	京都大	1,034
5	九州大	695
6	名古屋大	637
7	東京工業大	610
8	北海道大	576
9	慶應義塾大	567
10	神戸大	488

(2017)

順位	大学名	金額
1	東京大	7,250,889
2	大阪大	6,831,412
3	京都大	4,900,600
4	東北大	3,399,198
5	名古屋大	2,805,459
6	慶應義塾大	2,219,696
7	九州大	2,104,657
8	東京工業大	1,942,971
9	北海道大	1,346,765
10	神戸大	1,164,206

(2017)

順位	大学名	一件当たりの受入額	件数
1	関西医科大	6,544	14
2	久留米大	5,797	37
3	大阪大	5,465	1,250
4	順天堂大	5,370	89
5	聖マリアンナ医科大	5,138	23
6	京都大	4,739	1,034
7	藤田医科大	4,563	23
8	名古屋大	4,404	637
9	自治医科大	4,081	35
10	札幌医科大	3,976	31

⋮

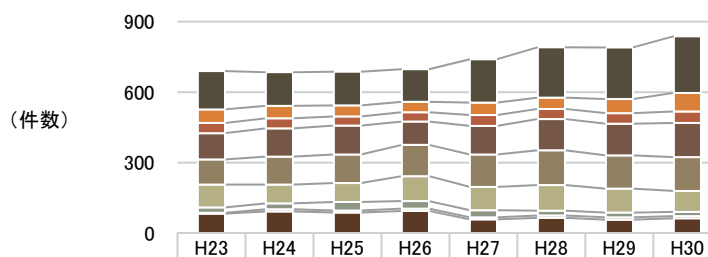
20	九州大	3,028	695
----	-----	-------	-----

(2017)

※出典: 文部科学省 平成29年度大学等における産学連携等実施状況について

11-1-2. 共同研究実績の推移(分野別)

民間等との共同研究実施件数

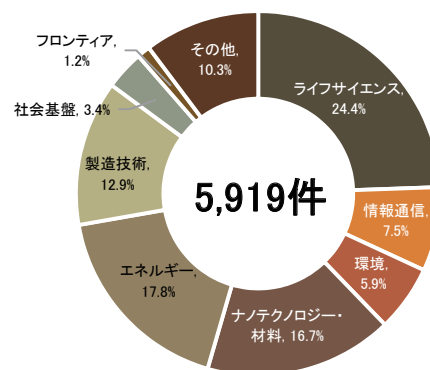


	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
ライフサイエンス	163	143	143	139	184	214	219	241
情報通信	58	53	47	44	53	48	60	79
環境	43	43	39	40	46	43	45	49
ナノテクノロジー・材料	112	120	123	99	122	133	135	145
エネルギー	107	119	121	133	138	148	141	144
製造技術	97	80	81	106	99	109	102	89
社会基盤	23	25	36	32	30	20	20	18
フロンティア	3	9	9	10	9	10	10	9
その他	84	93	88	95	59	66	58	64
合計	690	685	687	698	740	791	790	838

(年度)

◆九州大学◆

民間等との共同研究実施件数 割合 (H23~H30年度合計)



5,919件

・本調査における共同研究とは、大学等と民間企業等とが共同で研究開発を行い、かつ、大学等が要する経費を民間企業等が負担しているものを指す。

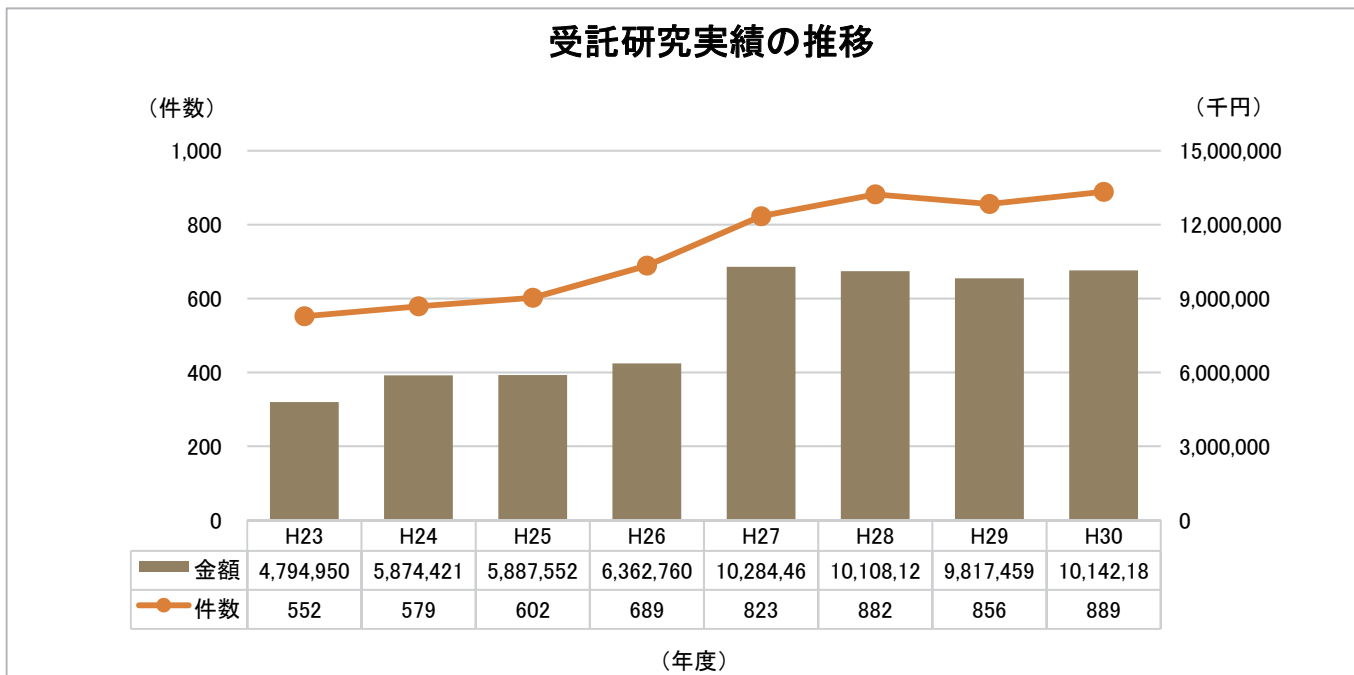
※出典: 九州大学概要

11-2. 受託研究の状況

11-2-1. 受託研究実績の推移

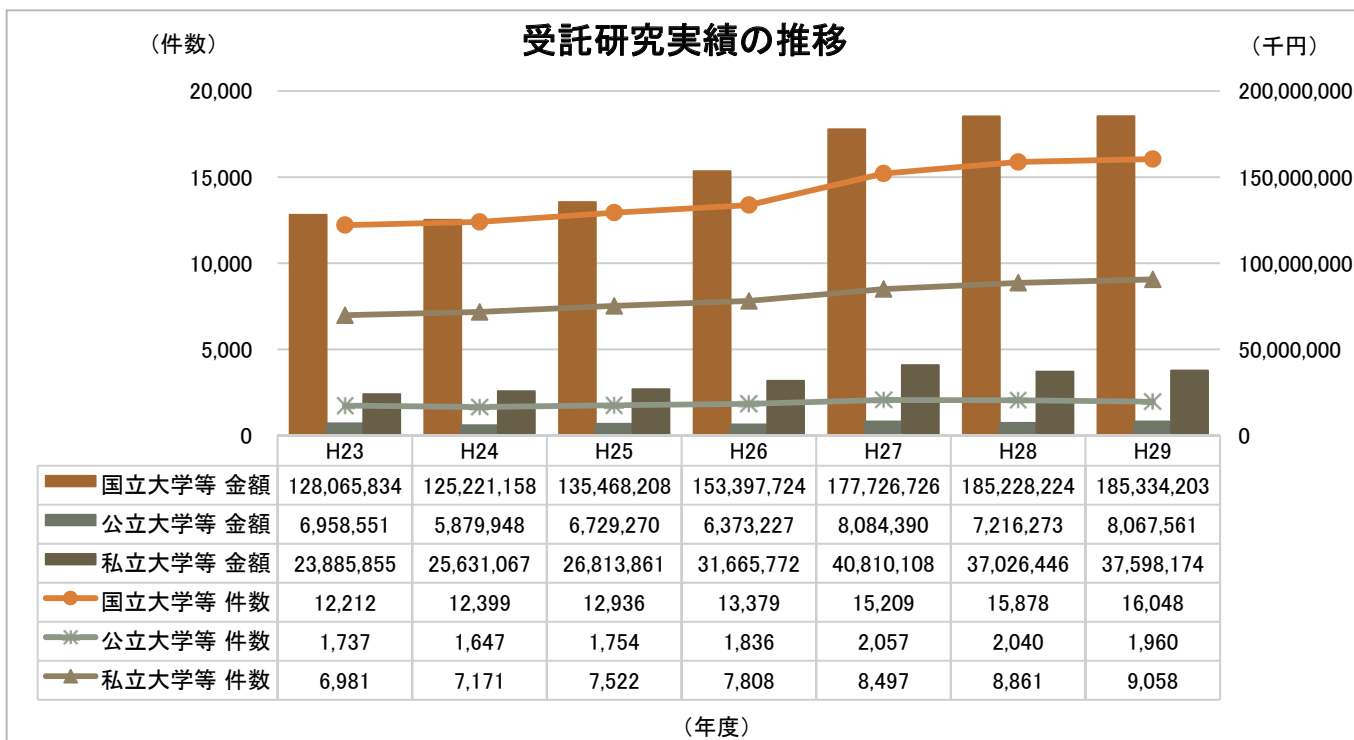
本学は増加傾向にあり、近年は100億円を超えている。

◆九州大学◆



※出典：九州大学概要

◆全国◆



※出典：「大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)」各年度(文部科学省)

11-2-1. 受託研究実績の推移(つづき)

◆他大学との比較◆

【民間企業からの受託研究実施件数
 (全国 国公立大学間)】

【民間企業からの受託研究費受入額
 (全国 国公立大学間)】

【民間企業からの受託研究に伴う一件当たりの
 研究費受入額(全国 国公立大学間)】

(単位:千円)

(単位:千円)

順位	大学名	件数
1	近畿大	325
2	立命館大	248
3	慶應義塾大	226
4	日本大	204
5	早稲田大	162
6	拓殖大	157
7	大阪大	148
8	東京大	144
9	山形大	140
10	東京都市大	127
⋮		
11	九州大	117

(2017)

順位	大学名	受入額
1	慶應義塾大	794,632
2	日本大	522,088
3	九州大	434,570
4	早稲田大	428,460
5	大阪大	423,086
6	名古屋大	413,353
7	京都大	406,250
8	近畿大	398,874
9	立命館大	284,433
10	東京大	245,746

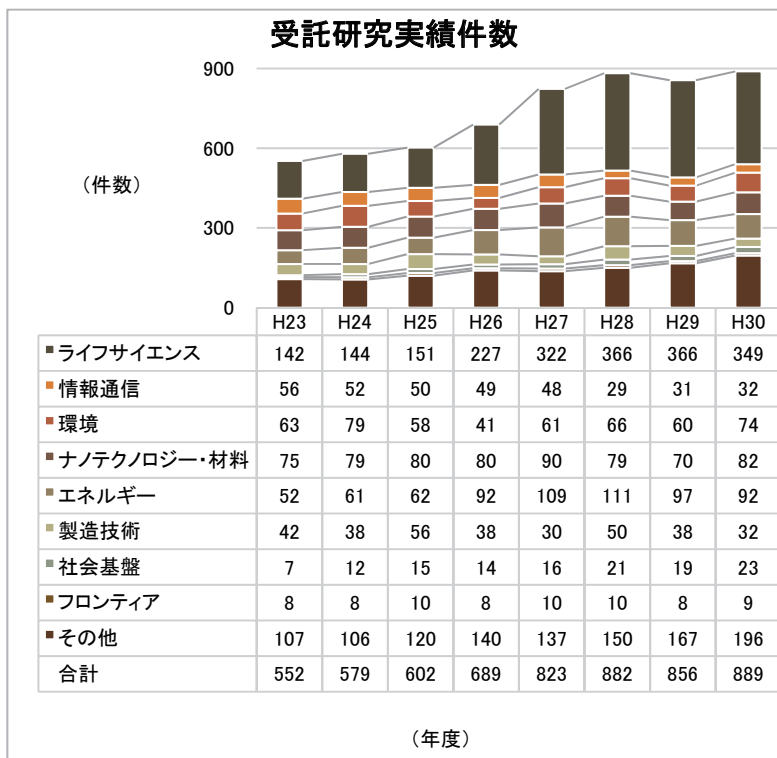
(2017)

順位	大学名	一件当たりの受入額	件数
1	北海道情報大	9,079	16
2	一橋大	7,670	10
3	名古屋大	4,697	88
4	東京女子医科大	4,096	32
5	京都大	4,063	100
6	琉球大	4,014	46
7	和歌山県立医科大	3,783	40
8	九州大	3,714	117
9	慶應義塾大	3,516	226
10	大阪工業大	3,507	18

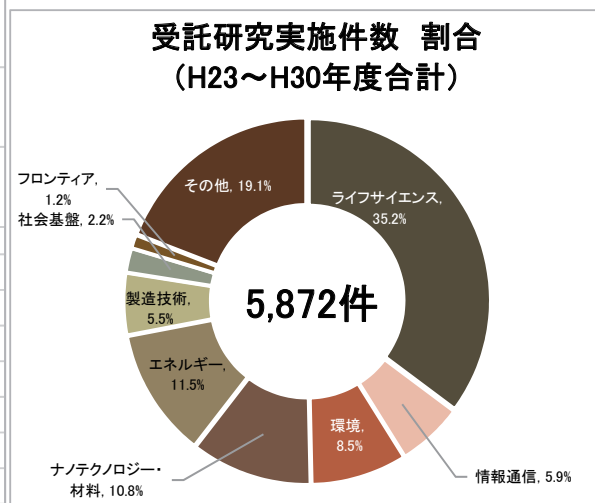
(2017)

※出典:文部科学省 平成29年度大学等における産学連携等実施状況について

11-2-2. 受託研究実績の推移(分野別)



◆九州大学◆



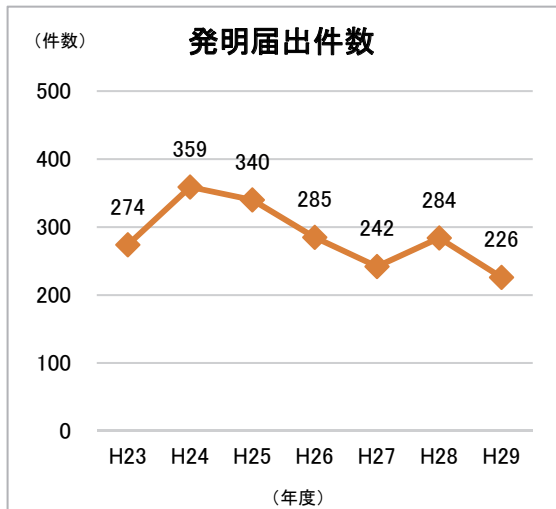
・本調査における「受託研究」とは、大学等が民間企業等からの委託により、主として大学等のみが研究開発を行い、そのための経費が民間企業等から支弁されているものを指す。

※出典:九州大学概要

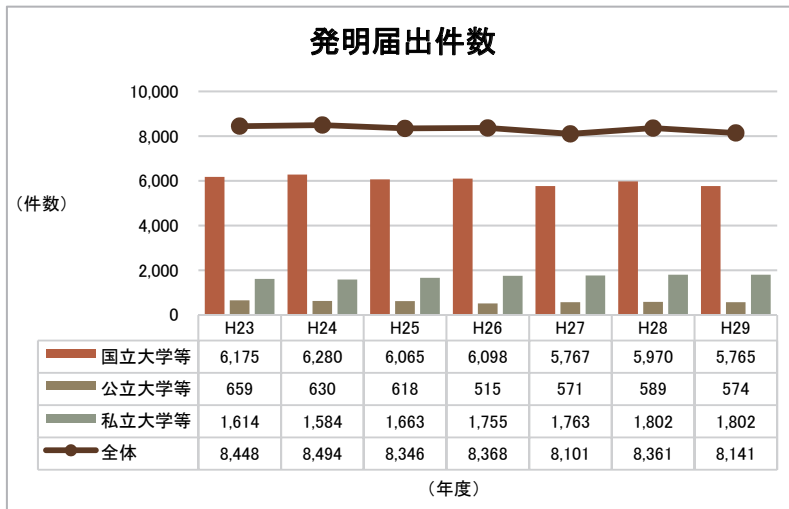
11-3. 知的財産関連

本学の発明届出件数、特許出願件数は近年減少傾向である。特許権保有件数は安定的に増加している。

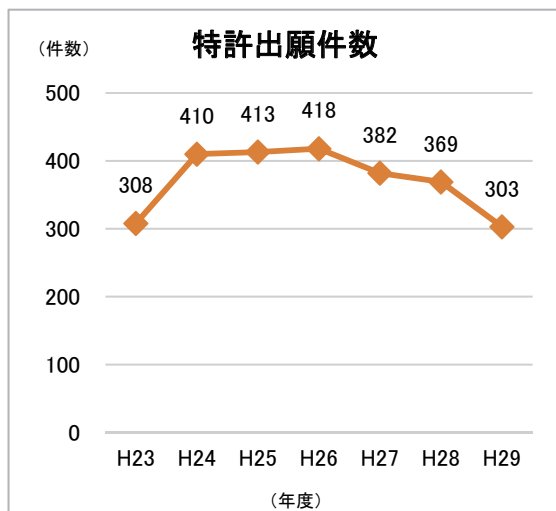
◆九州大学◆



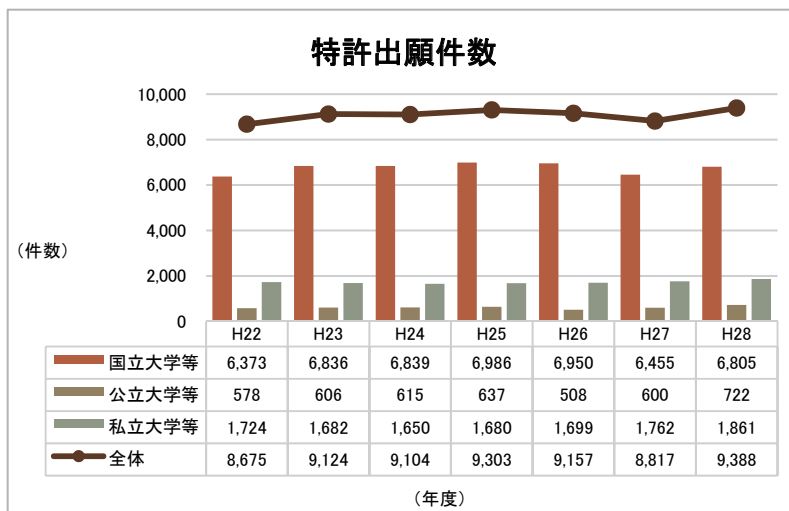
◆全国◆



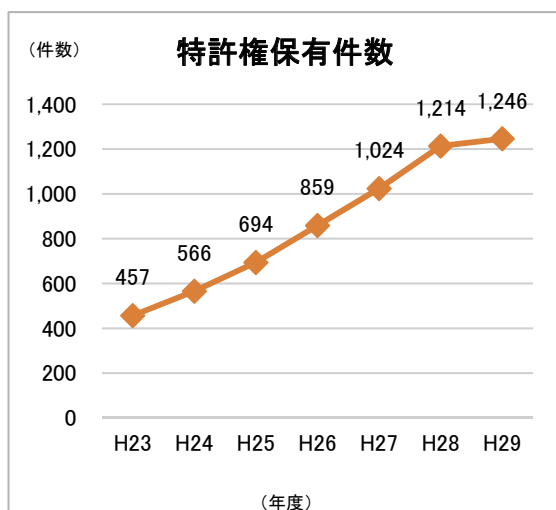
◆九州大学◆



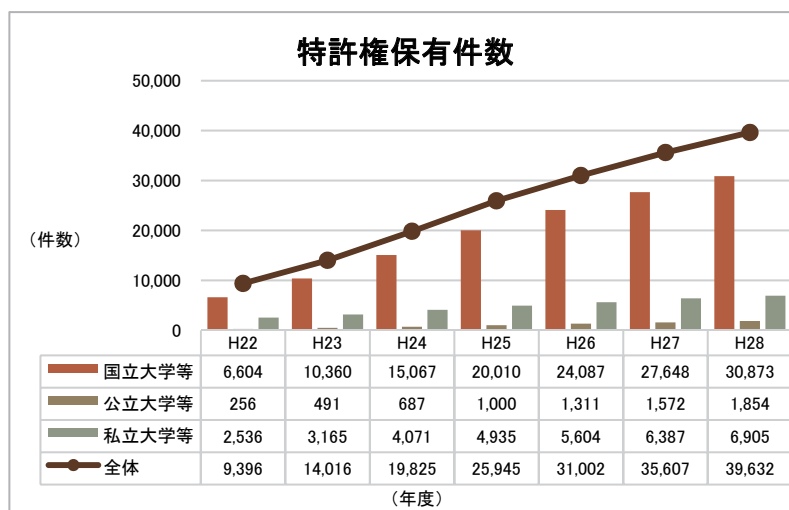
◆全国◆



◆九州大学◆



◆全国◆

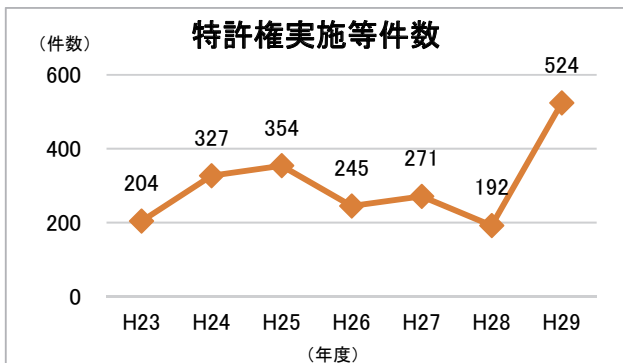


※出典：文部科学省「大学等における産学連携等実施状況 特許関係実績(機関別)」
(発明届出件数：九州大学WEBサイト>AiRIMaQ学術研究・産学連携本部HP>実績・規則・様式>産学官連携実績)

11-3. 知的財産関連(つづき)

全国的に特許権実施等件数・収入、大学発ベンチャーの創出件数は近年増加傾向にある。本学では特許権実施等収入が平成27年度に、特許権実施件数が平成29年度に大きく飛躍した。

◆九州大学◆

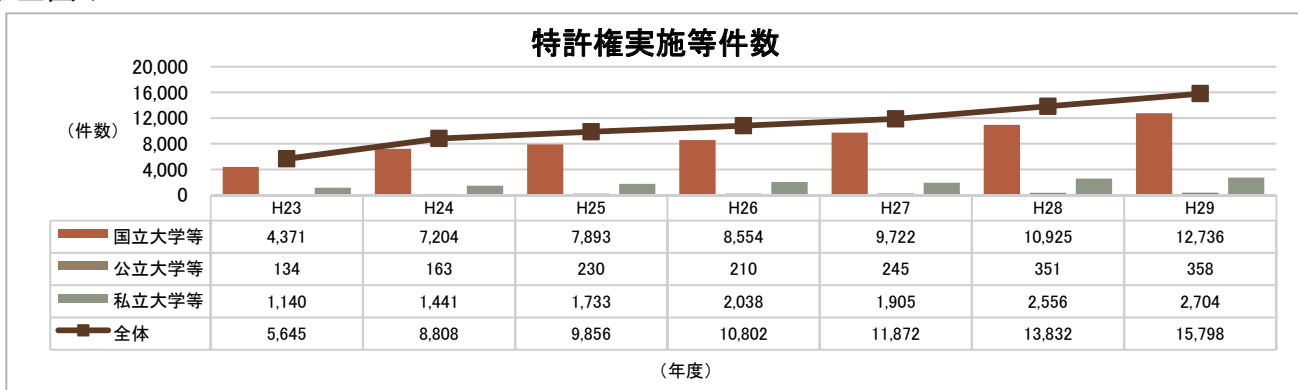


【特許権実施等件数(外国分を含む)】

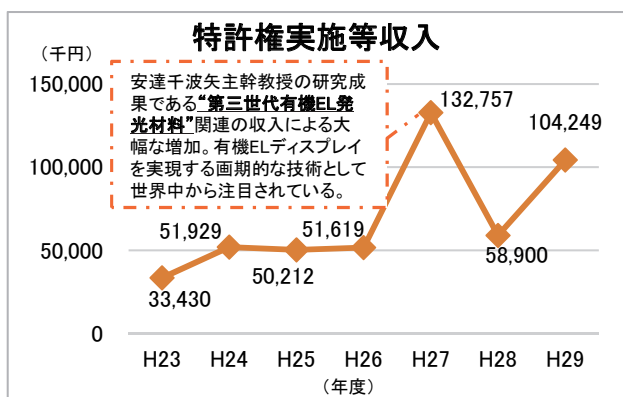
順位	大学名	件数
1	東京大	3,523
2	京都大	1,356
3	関東学院大	1,127
4	大阪大	806
5	東京工業大	721
6	北海道大	642
7	東北大	566
8	名古屋大	535
9	九州大	524
10	信州大	350

(2017)

◆全国◆



◆九州大学◆



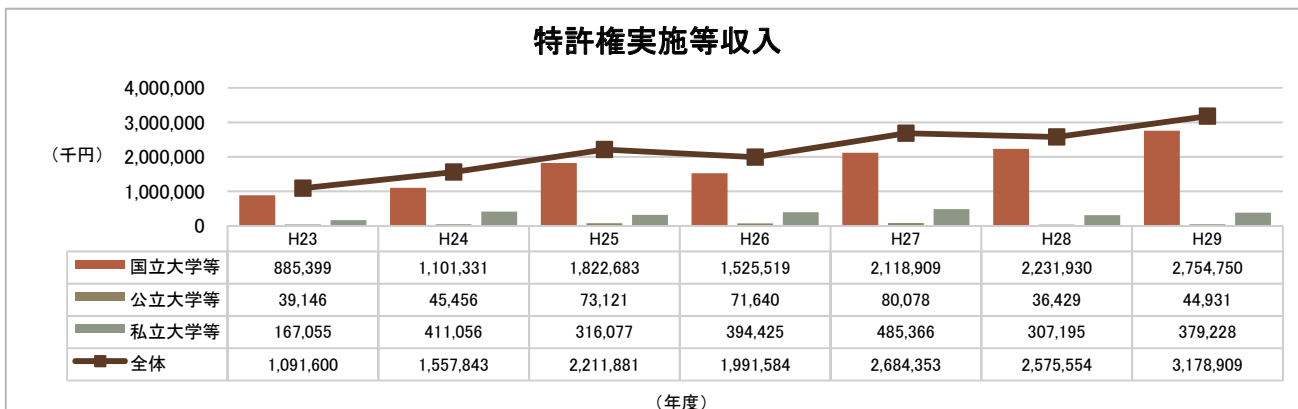
【特許権実施等収入(外国分を含む)】

(単位:千円)

順位	大学名	収入額
1	東京大	805,006
2	京都大	640,281
3	東京工業大	275,548
4	東北大	124,825
5	九州大	104,249
6	日本大	98,505
7	大阪大	94,278
8	名古屋大	72,228
9	鳥取大	62,580
10	慶應義塾大	52,300

(2017)

◆全国◆

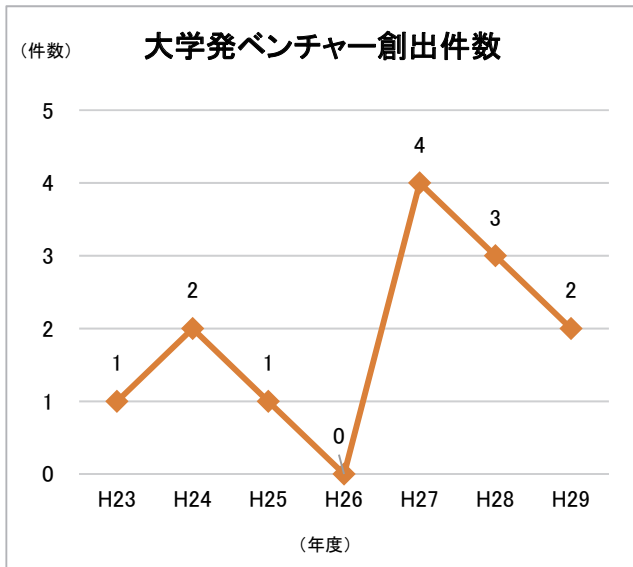


・本調査において、「特許権実施等件数」、「特許権実施等収入額」とは、実施許諾又は譲渡した特許権(「特許を受ける権利」の段階のものも含む。)の数、収入額を指す。

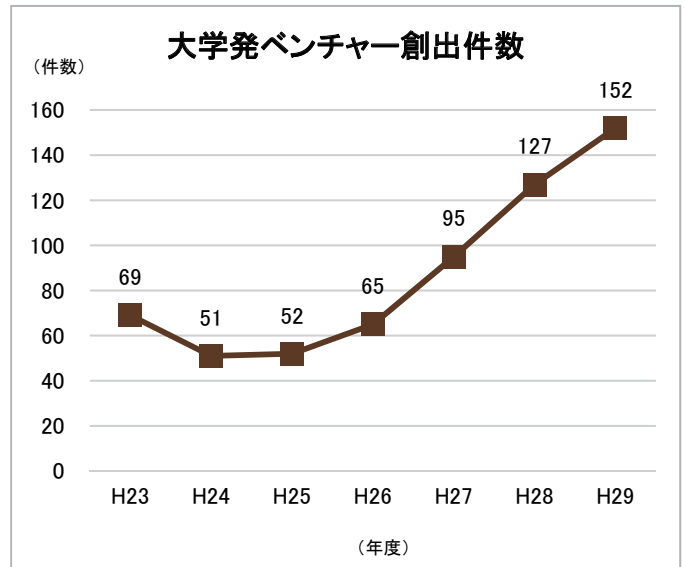
※出典:「大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)」各年度(文部科学省)

11-3. 知的財産関連(つづき)

◆九州大学◆



◆全国◆



※出典

本学:九州大学研究戦略データ集2019

全国:「大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)」各年度(文部科学省)

◆他大学との比較◆

【ランニングロイヤリティ収入があった特許件数】

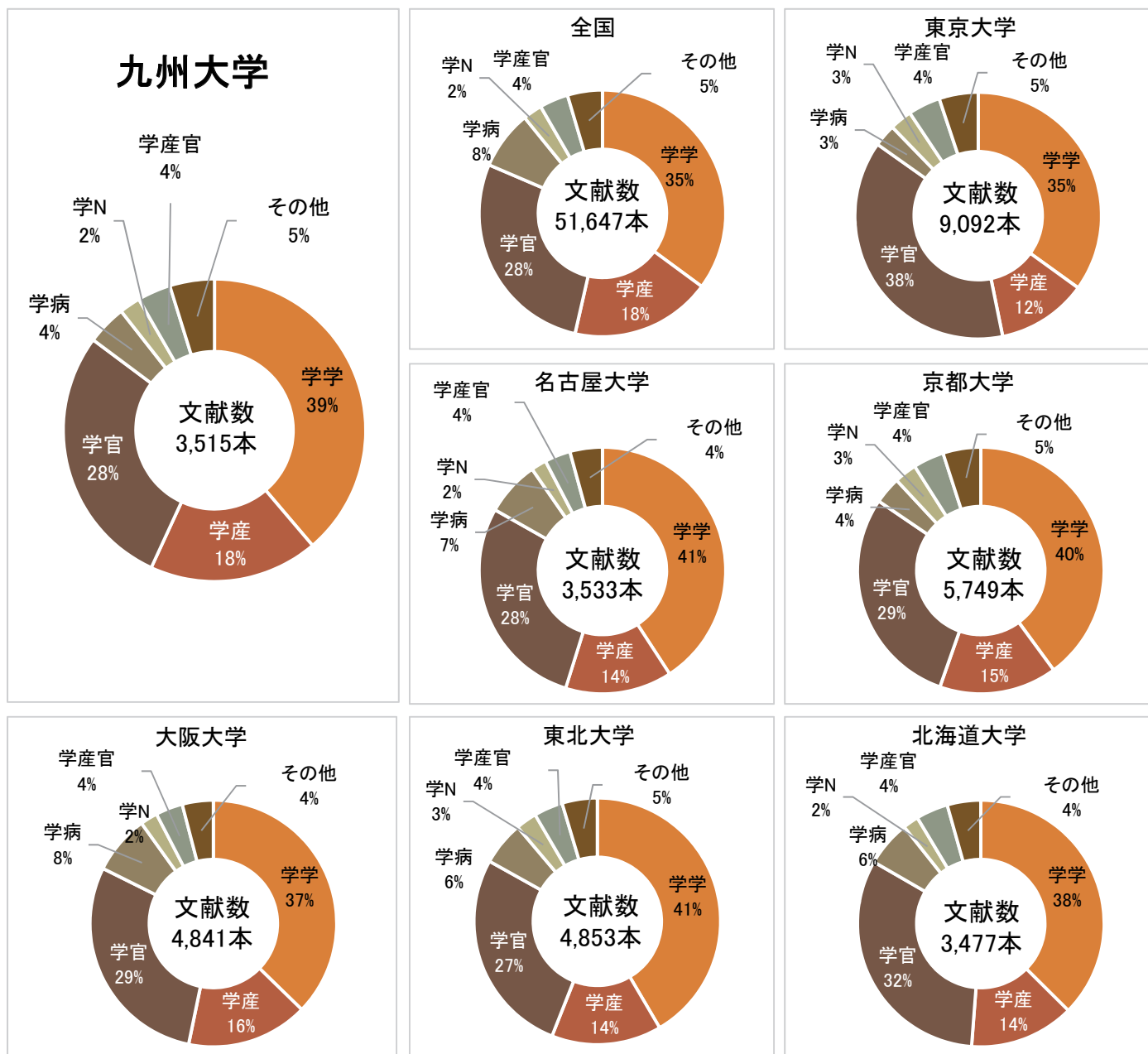
順位	大学名	件数
1	九州大	244
2	東京大	186
3	広島大	159
4	東北大	156
5	東京工業大	153
6	金沢大	134
7	静岡大	124
8	大阪大	99
9	京都大	98
10	神戸大	86

(2017)

※出典:文部科学省「平成29年度 大学等における産学連携等実施状況について」

11-4. 共著関係から見る産学官連携状況

本学の共著相手機関の比率は全国とほぼ同等であるが、文献数は他大学と比較して少ない方である。



グラフ中の機関区分は、次の6区分である

機関区分	対象の機関
学	大学(短大を含む) ^{注1)} 、大学共同利用機関、国立高等専門学校 注1) 附属病院を含む
産	民間企業
官	国の機関、特殊法人・独立行政法人、地方公共団体の機関
病	医療機関
N	非営利団体
他	上記以外

・JSTが収集しデータベース化している予稿集・会議録を対象とする。
 ・分野は全分野を選択し、対象大学は、北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京大、大阪大、九州大を選択し抽出したデータを使用。

※出典：国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術振興プラットフォーム「共著関係からみる産学官連携パターン」(H23)

11-5. 地方公共団体関係機関との共著文献数

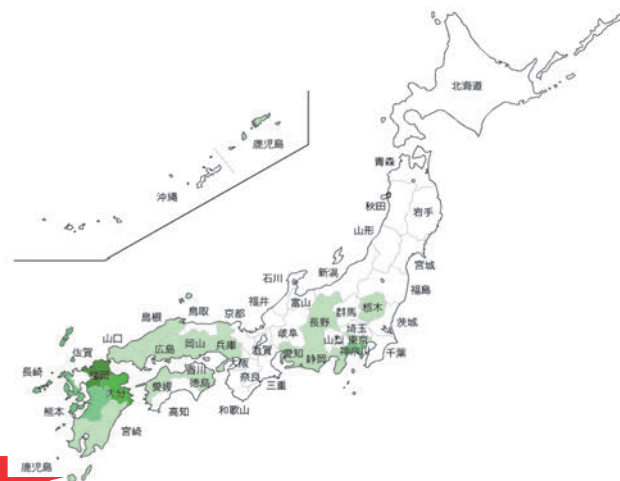
本学と公設試験研究機関などの地方公共団体の機関との共著関係に着目し、その連携度合いを日本地図上に表したものである。

地方公共団体の機関と共著している文献を都道府県別に集計することにより、大学が「地域のハブ」とどのくらい連携しているかを捉えている。

10年間で共著文献数は、90本から170本へと約2倍に、共著した都道府県は、19都県から31都府県と増えており、地方公共団体との連携課は確実に進んでいることがわかる。

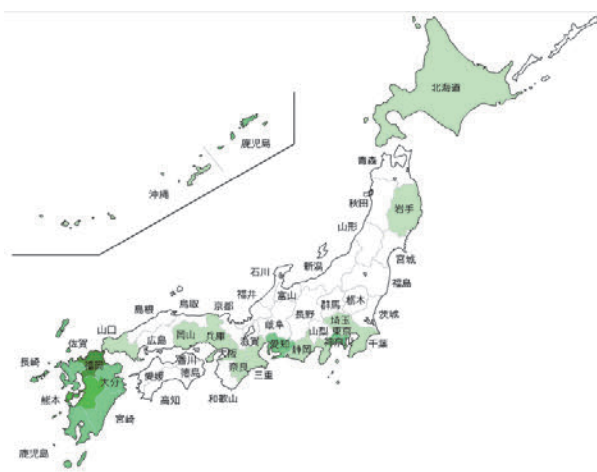
H13

順位	都道府県名	文献数	割合
1	福岡県	57	63.3%
2	大分県	7	7.8%
3	神奈川県	4	4.4%
4	長崎県	3	3.3%
4	熊本県	3	3.3%
6	島根県	2	2.2%
6	鹿児島県	2	2.2%
他	12都県	12	13.4%
本学計 (全文献数)		90	4,479



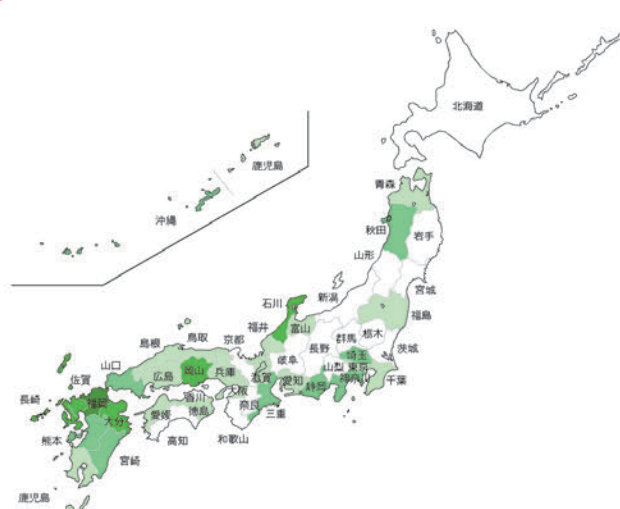
H18

順位	都道府県名	文献数	割合
1	福岡県	78	59.5%
2	熊本県	7	5.3%
3	愛知県	5	3.8%
3	宮崎県	5	3.8%
5	長崎県	4	3.1%
6	神奈川県	3	2.3%
6	佐賀県	3	2.3%
6	大分県	3	2.3%
6	鹿児島県	3	2.3%
他	13都道府県	20	15.3%
本学計 (全文献数)		131	8,133



H23

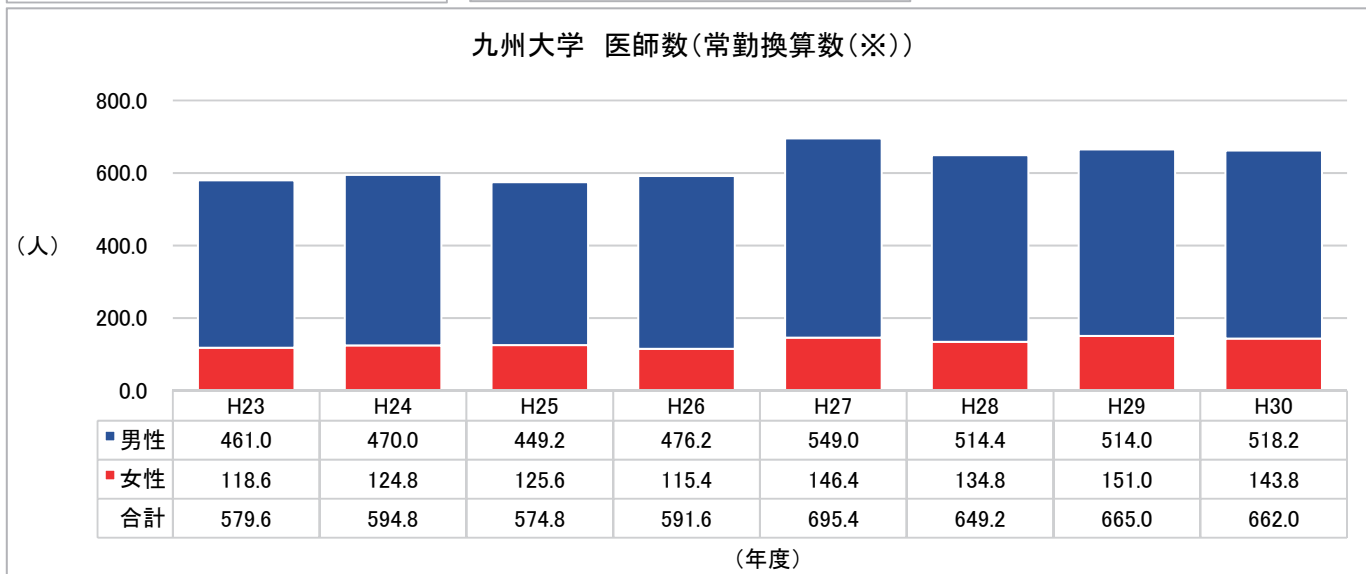
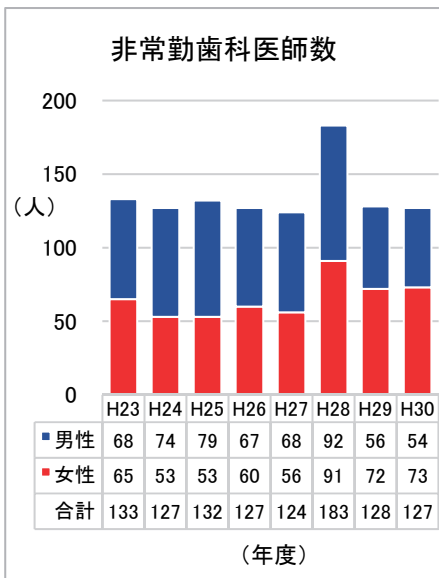
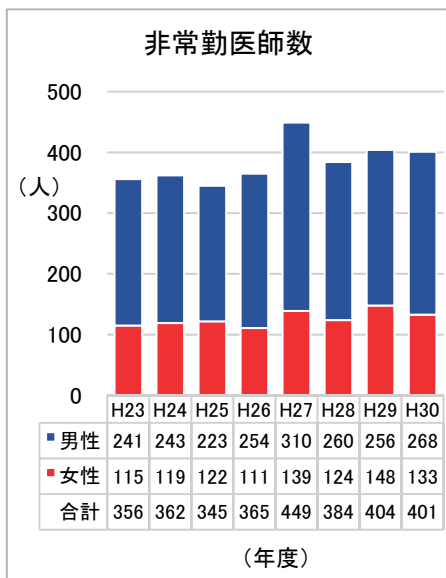
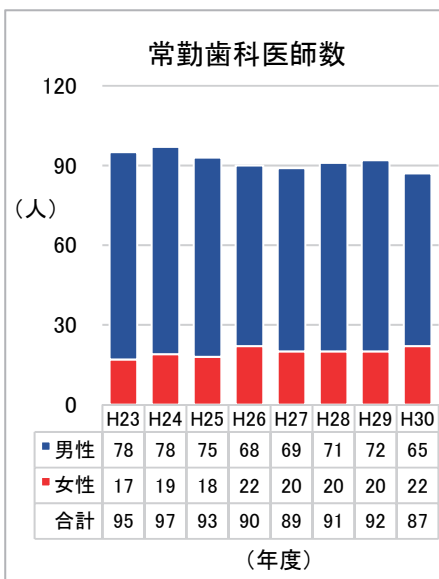
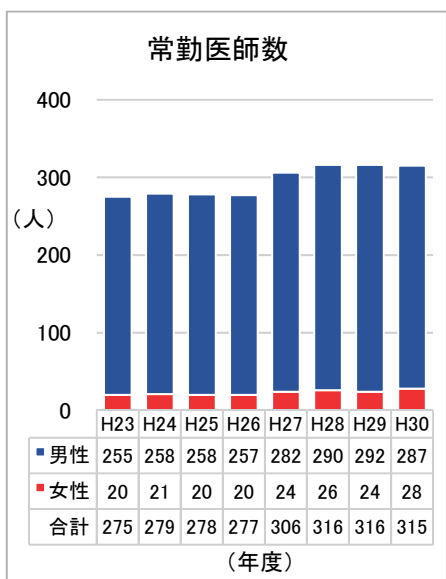
順位	都道府県名	文献数	割合
1	福岡県	63	37.1%
2	佐賀県	14	8.2%
3	大分県	10	5.9%
4	長崎県	9	5.3%
5	石川県	7	4.1%
5	岡山県	7	4.1%
7	宮崎県	5	2.9%
8	秋田県	4	2.4%
8	埼玉県	4	2.4%
8	静岡県	4	2.4%
8	山口県	4	2.4%
8	熊本県	4	2.4%
8	沖縄県	4	2.4%
他	18都府県	31	18.3%
本学計 (全文献数)		170	8,285



※出典：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）科学技術振興プラットフォーム「地域との連携（各県の共著関係）」、「地域との連携（対象文献数）」

12. 附属病院

12-1. 医師数等



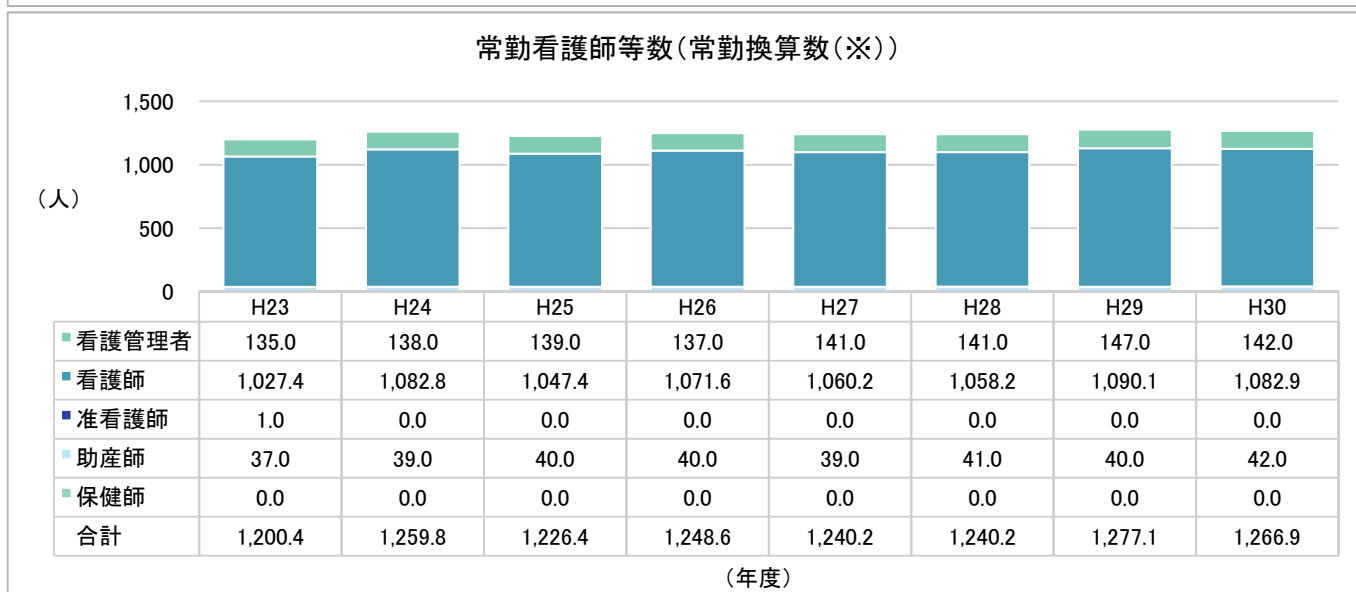
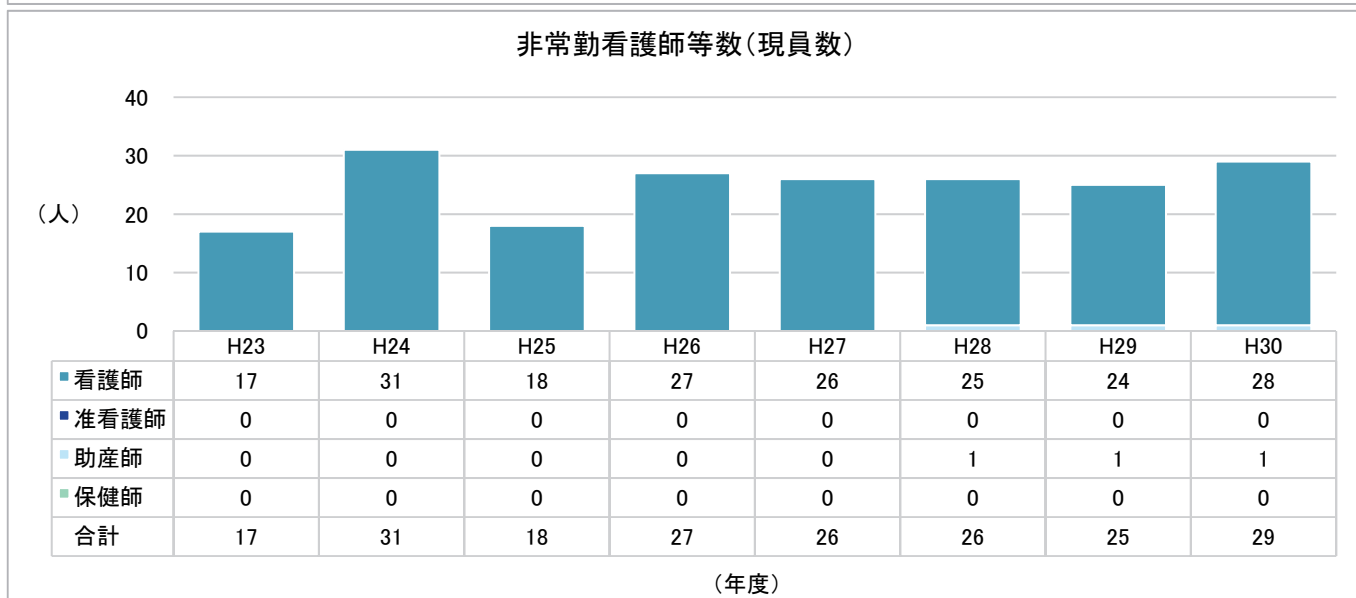
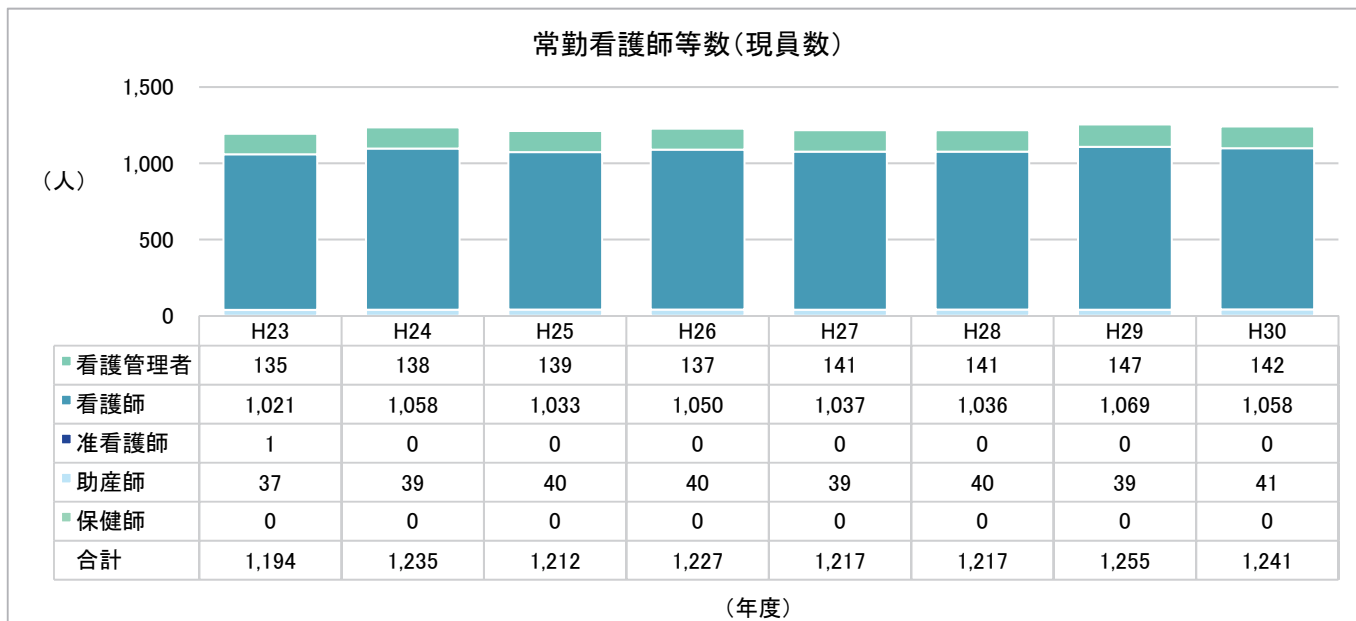
・学部帰属及び病院帰属、任期なし及び任期ありの全てを含む。

・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。

常勤換算数(※) = 常勤職員の人数 + (非常勤職員の勤務時間 / 常勤職員が勤務すべき時間) * 非常勤職員の人数

※出典: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

12-2. 看護職員等

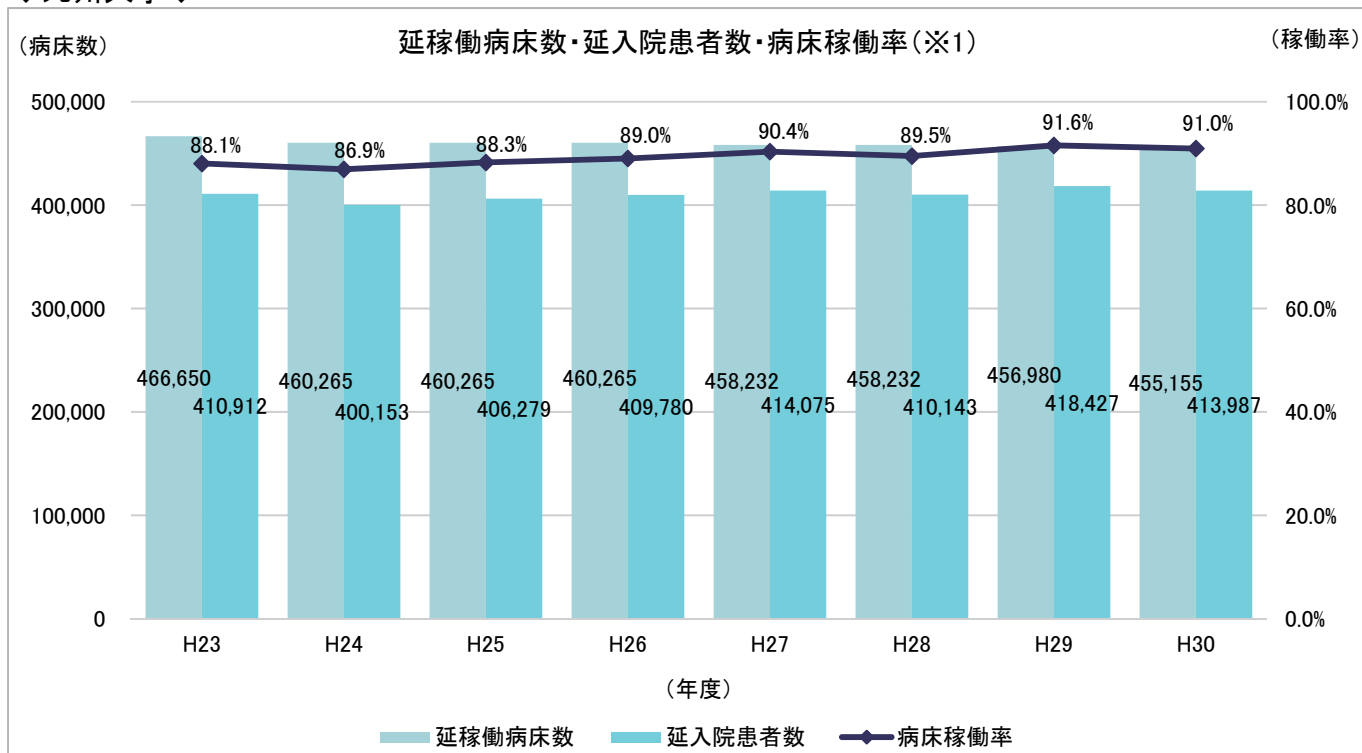


・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。
 常勤換算数(※) = 常勤職員の人数 + (非常勤職員の勤務時間 / 常勤職員が勤務すべき時間) * 非常勤職員の人数

※出典：病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

12-3. 病床稼働率

◆九州大学◆

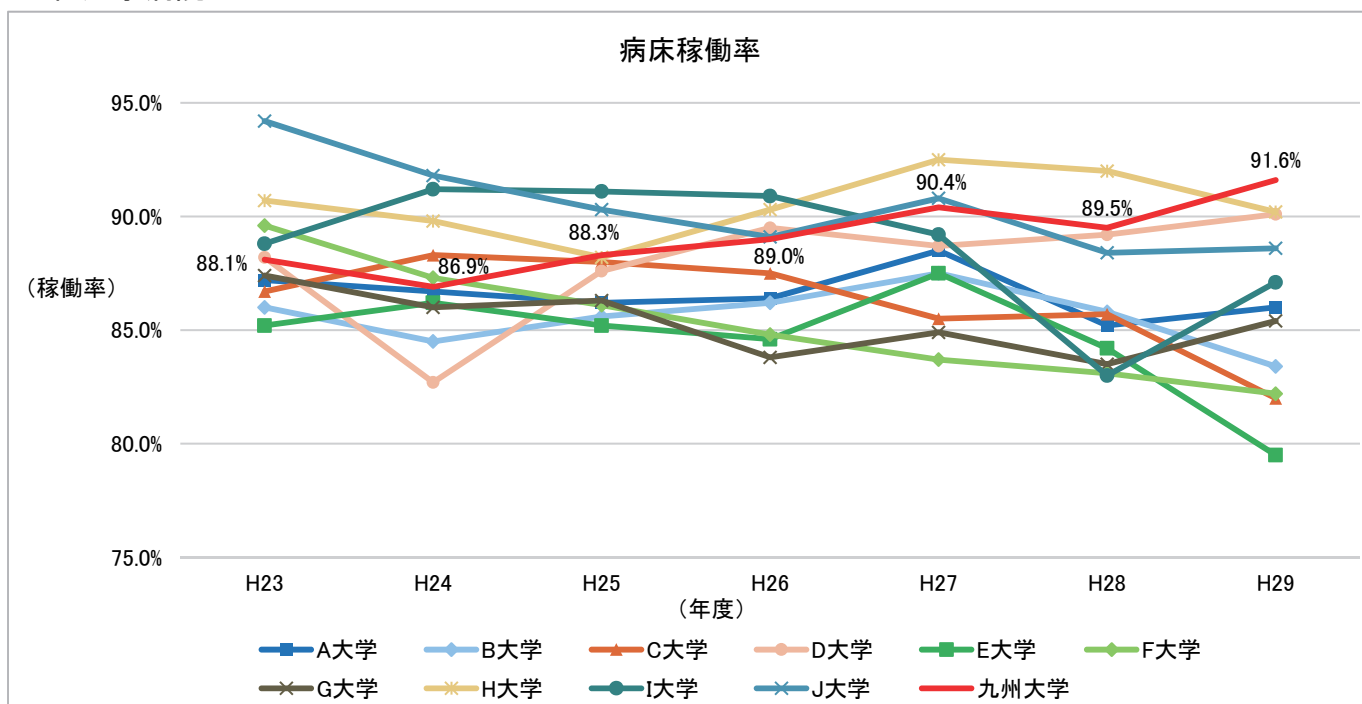


(※1) 病床稼働率 = 延入院患者数 / 延稼働病床数 * 100

病床稼働率とは、病院の病床(ベッド)がどの程度効率的に稼働しているかを示す指標である。100%に近いほど空き病床が無い状態で利用されていることになり、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。

※出典：病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

◆他大学病院◆



・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。

(※1) Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2) RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

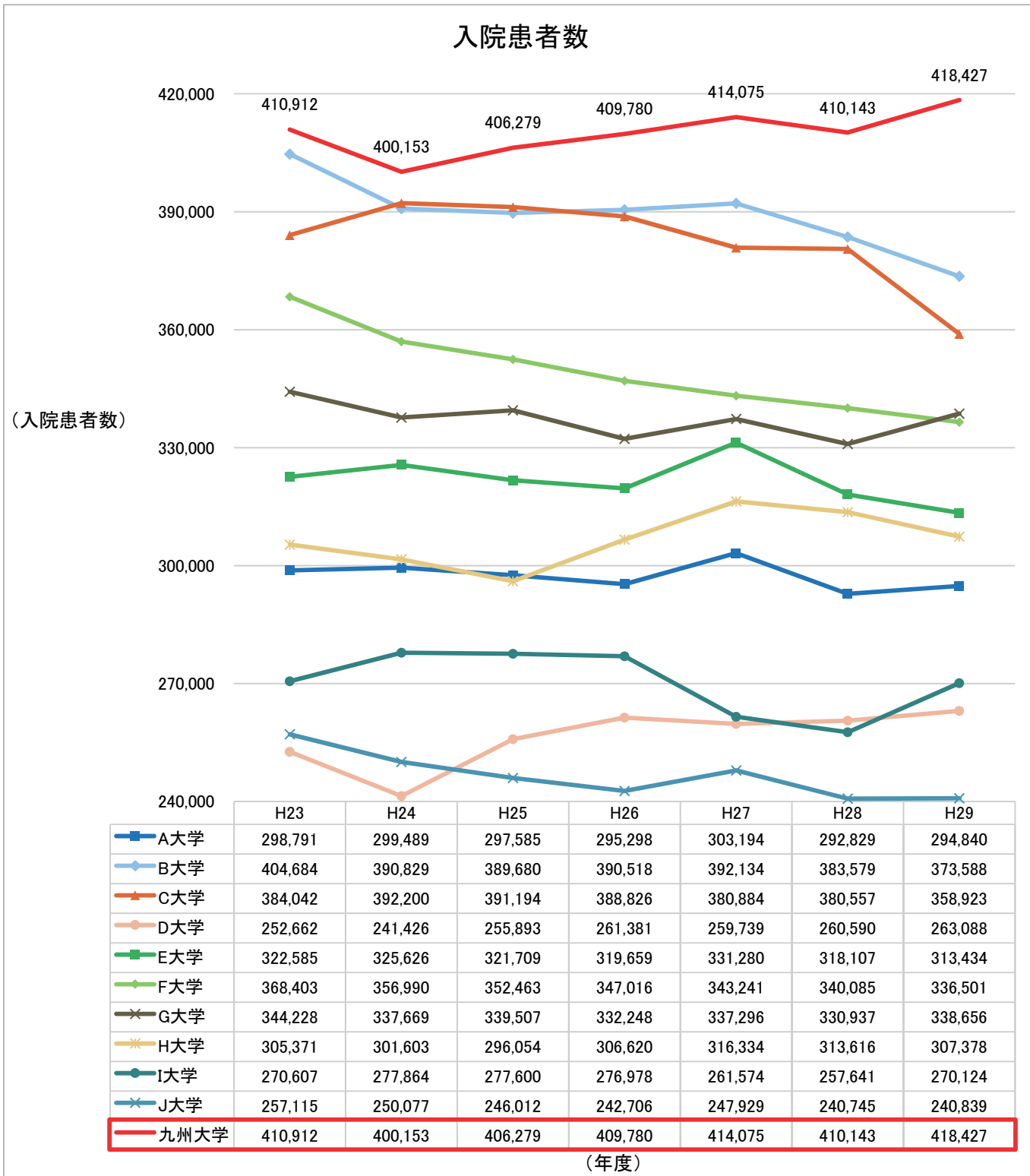
※出典・本学: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

・他大学: 国立大学病院資料(H23-29年度)

12-4. 患者数と手術件数の推移

12-4-1. 患者数の推移(入院患者数)

◆九州大学・他大学病院◆

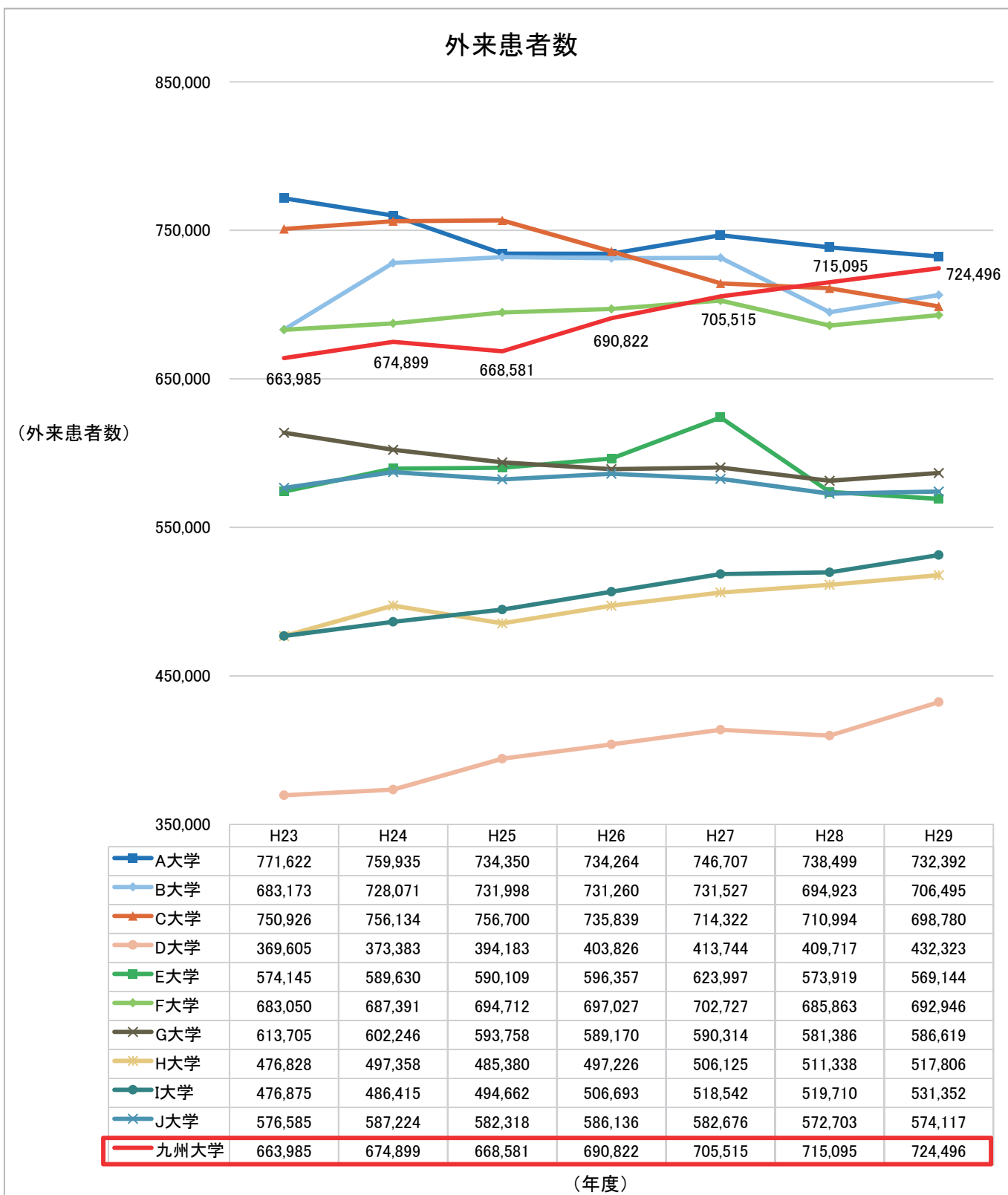


・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
 ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
 (※1)Aグループ:学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2)RU11(学術研究懇談会):国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

※出典:国立大学病院資料 診療データ(H23-29年度)

12-4-2. 患者数の推移(外来患者数)

◆九州大学・他大学病院◆

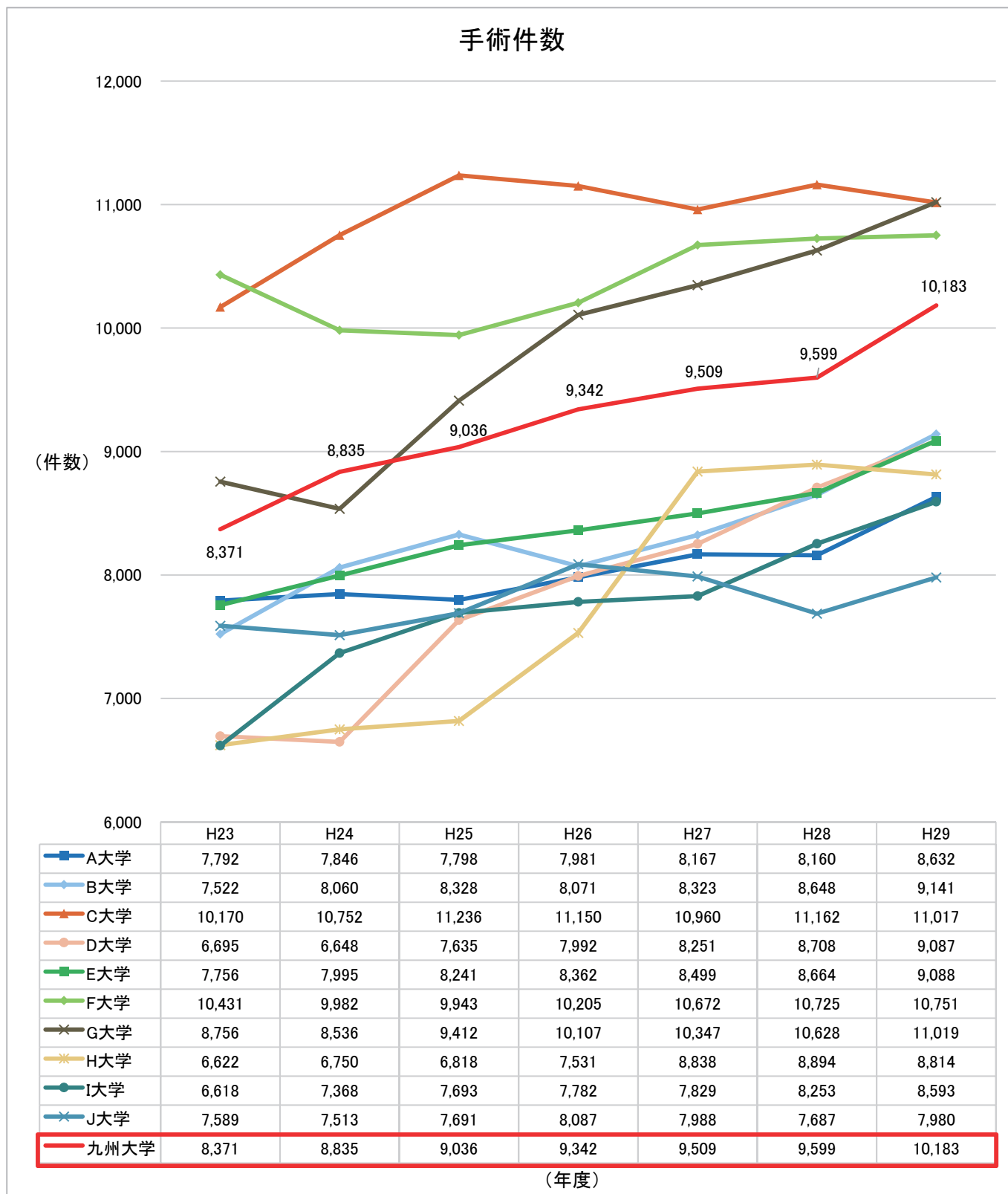


・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
 ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
 (※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2)RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

※出典: 国立大学病院資料 診療データ(H23-29年度)

12-4-3. 手術件数の推移

◆九州大学・他大学病院◆

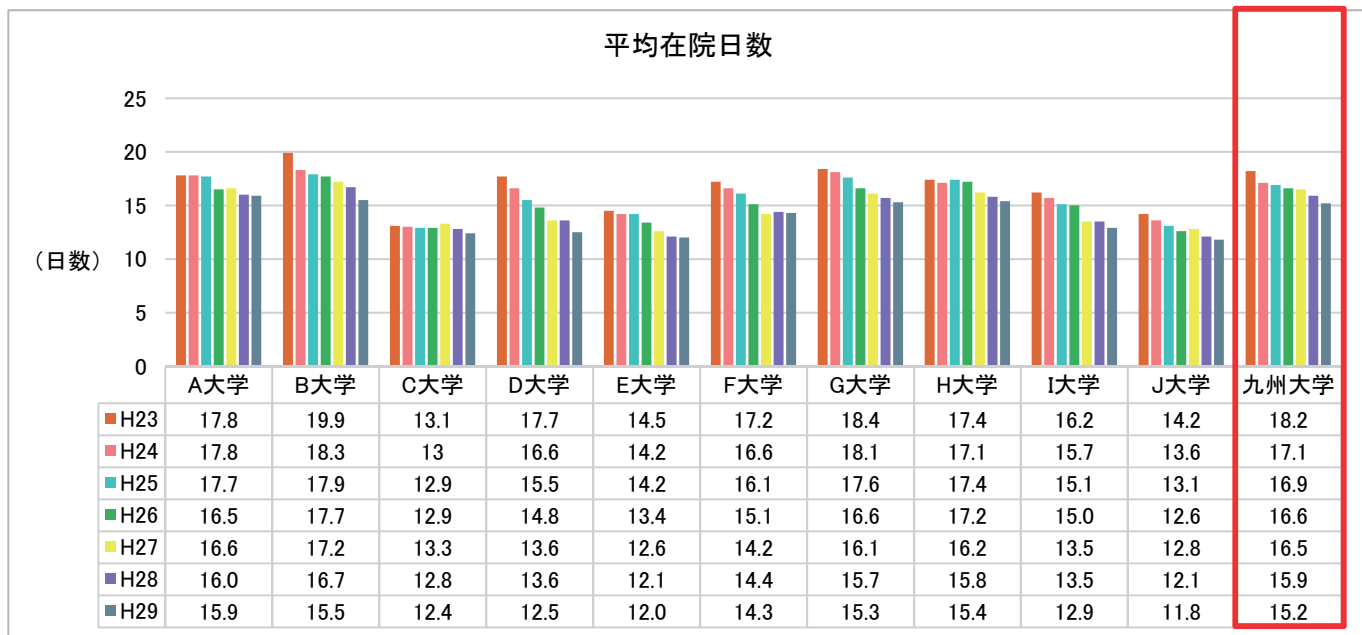


・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
 ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
 (※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2)RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

※出典: 国立大学病院資料 診療データ(H23-29年度)

12-5. 平均在院日数の推移

◆九州大学・他大学病院◆

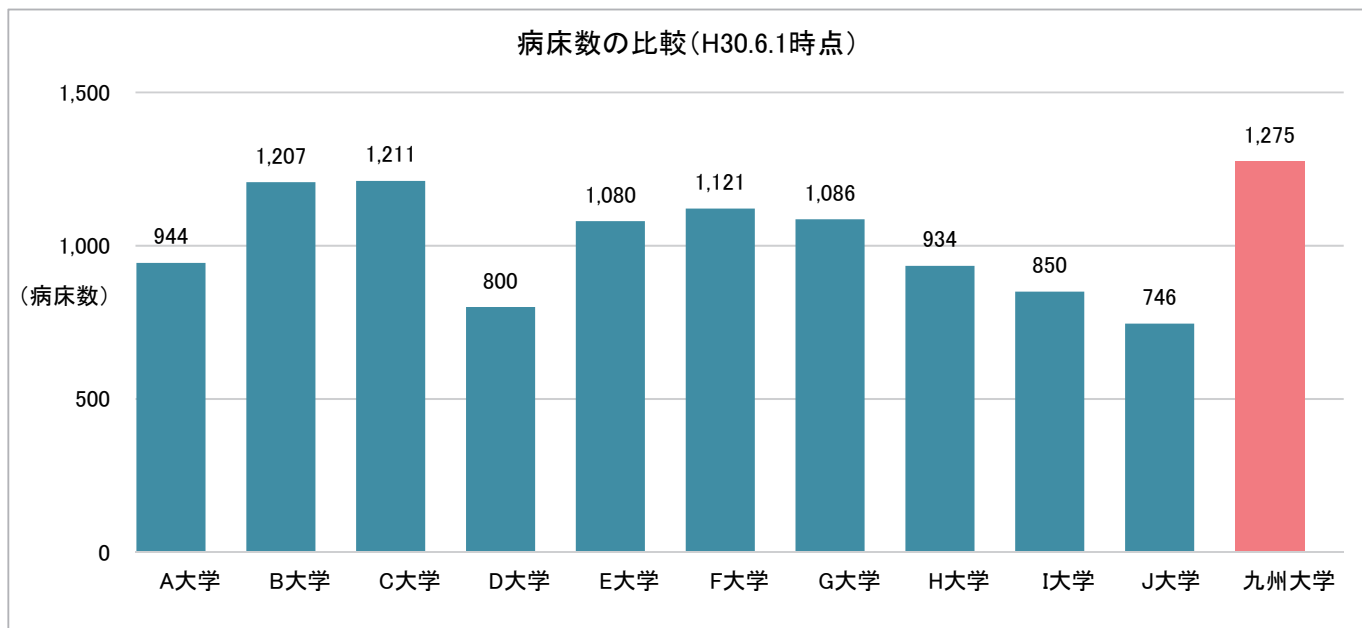


- ・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
- (※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
- (※2)RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。
- ・平均在院日数とは、病院全体で一人一人の患者が何日間入院しているかを示す指標である。質の保証と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮されるため、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。患者の重症度や疾病により入院日数は異なるため、単純比較できないことに留意。

※出典: 国立大学病院資料 診療データ(H23-29年度)

12-6. 病床数の比較

◆九州大学・他大学病院◆



- ・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
- (※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
- (※2)RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

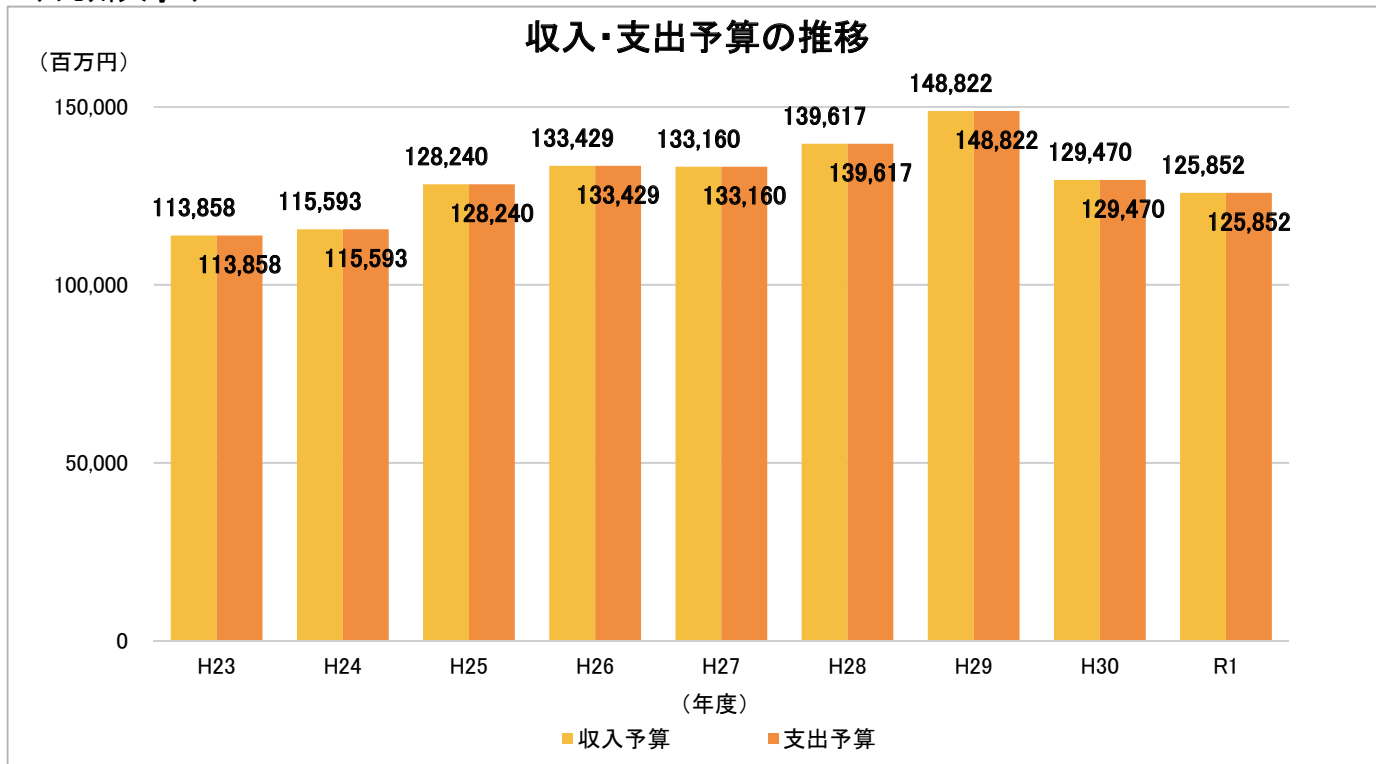
※出典: 国立大学病院資料 診療データ

13. 収入・支出

13-1. 収入・支出予算

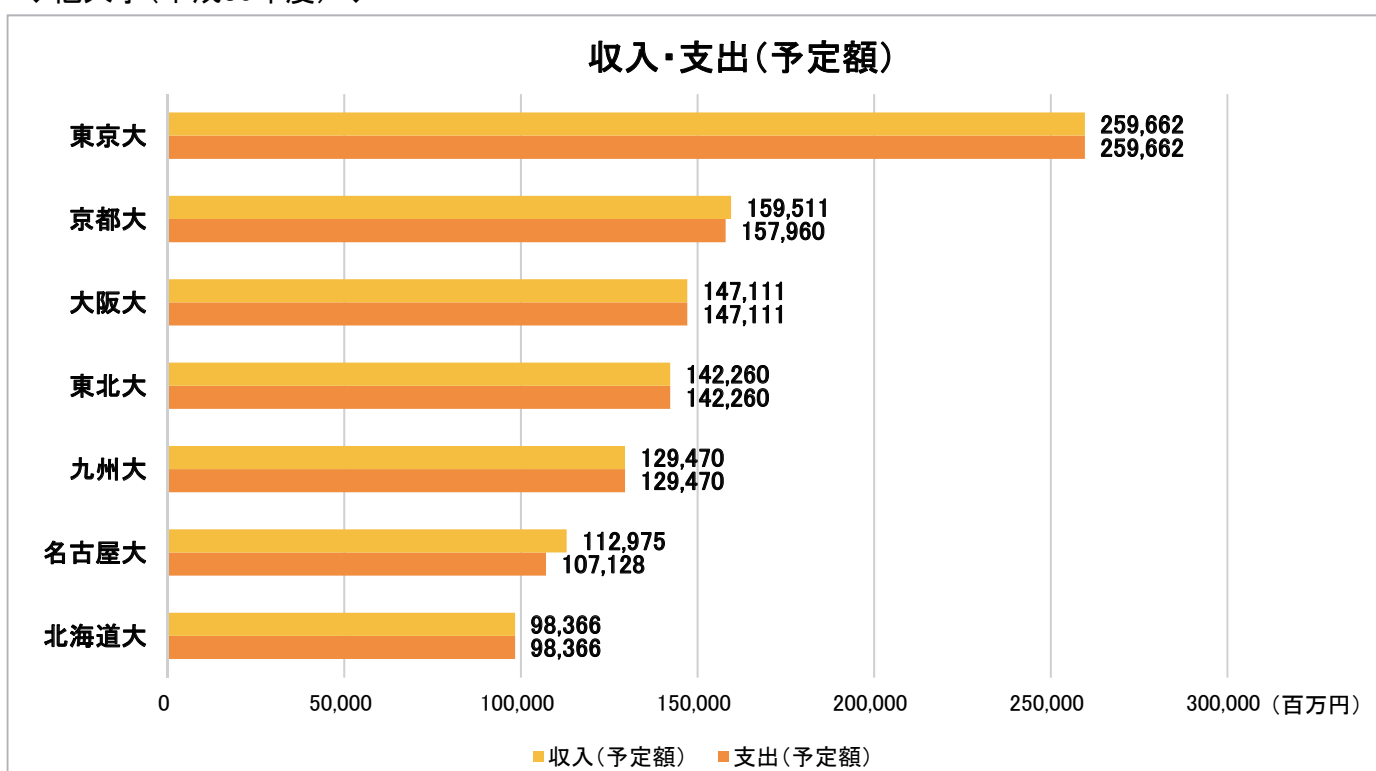
収入及び支出予算額は、キャンパス移転が完了したH30年度から減少傾向にある。

◆九州大学◆



※出典：九州大学概要

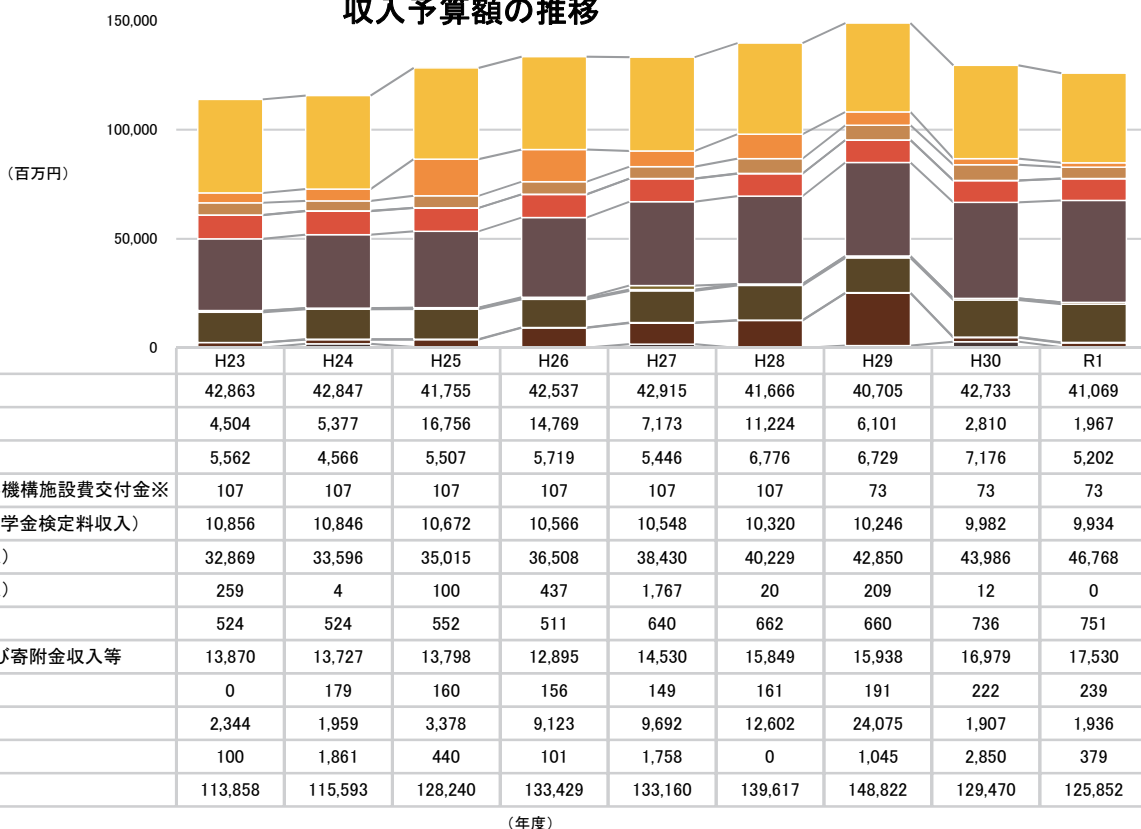
◆他大学(平成30年度)◆



※出典：各大学HP及び大学概要

13-2. 収入予算額の推移

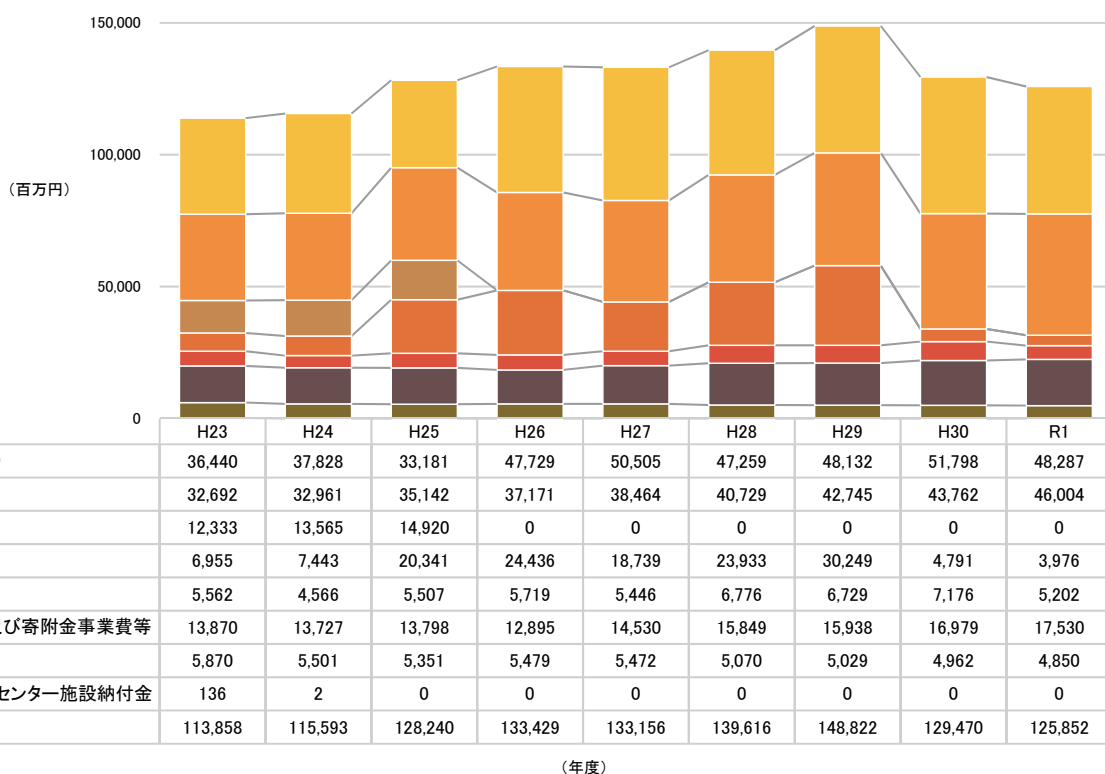
収入予算額の推移



・平成28年度より「国立大学財務・経営センター」は「大学改革支援・学位授与機構」へ名称変更
 ・百万円未満は切り捨てのため、合計額は不一致

13-3. 支出予算額の推移

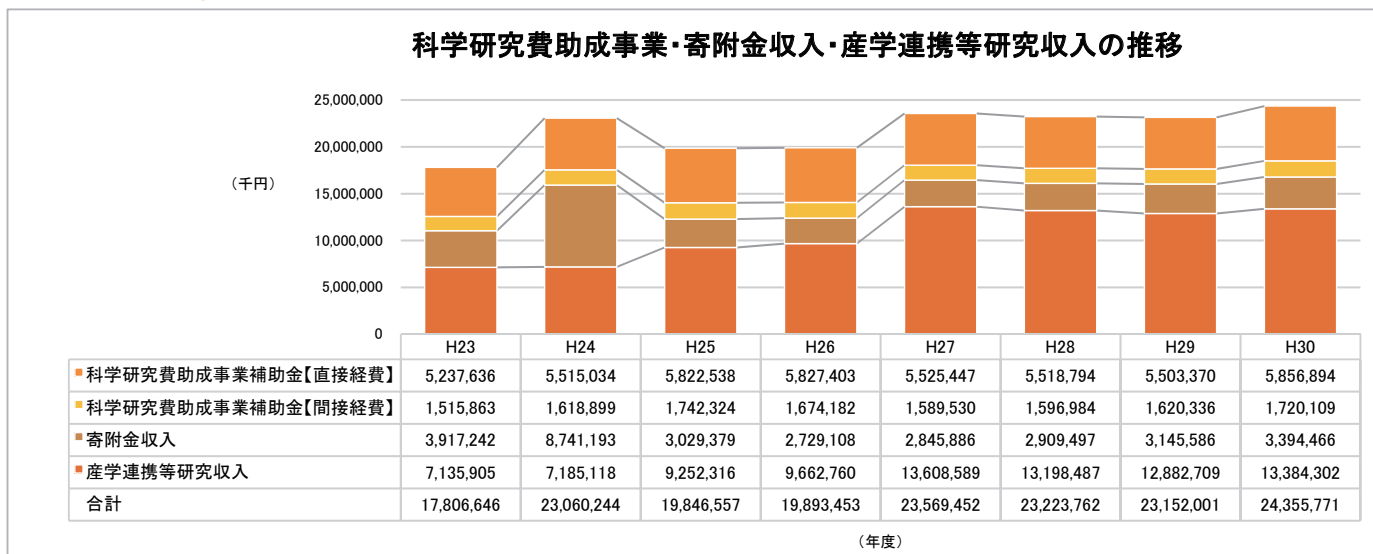
支出予算額の推移



・百万円未満は切り捨てのため、合計額は不一致

※出典:九州大学概要

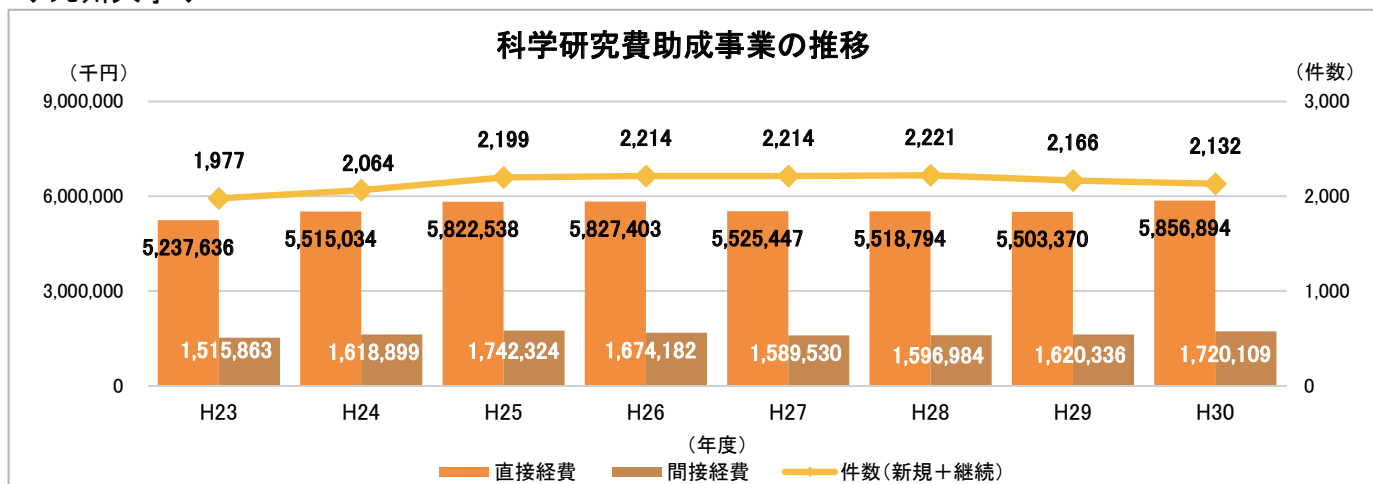
13-4. 科学研究費助成事業・寄附金収入・産学連携等研究収入の推移



※出典：九州大学概要

13-5. 科学研究費助成事業 13-5-1. 科学研究費助成事業の推移

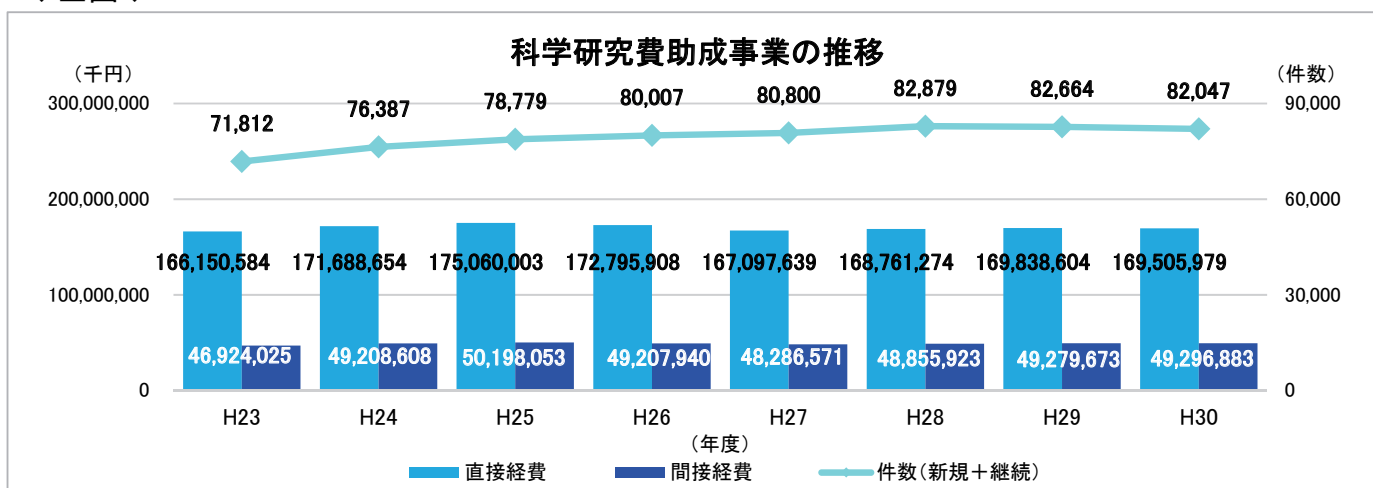
◆九州大学◆



・本学から配分機関に対して行った実績報告基準。 ・研究成果公開促進費は除く。

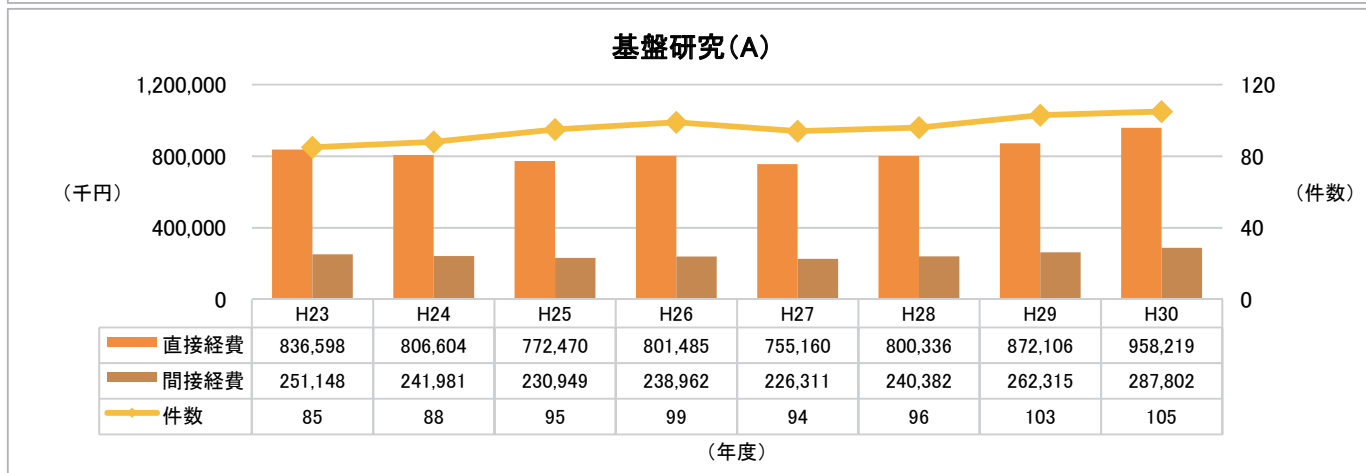
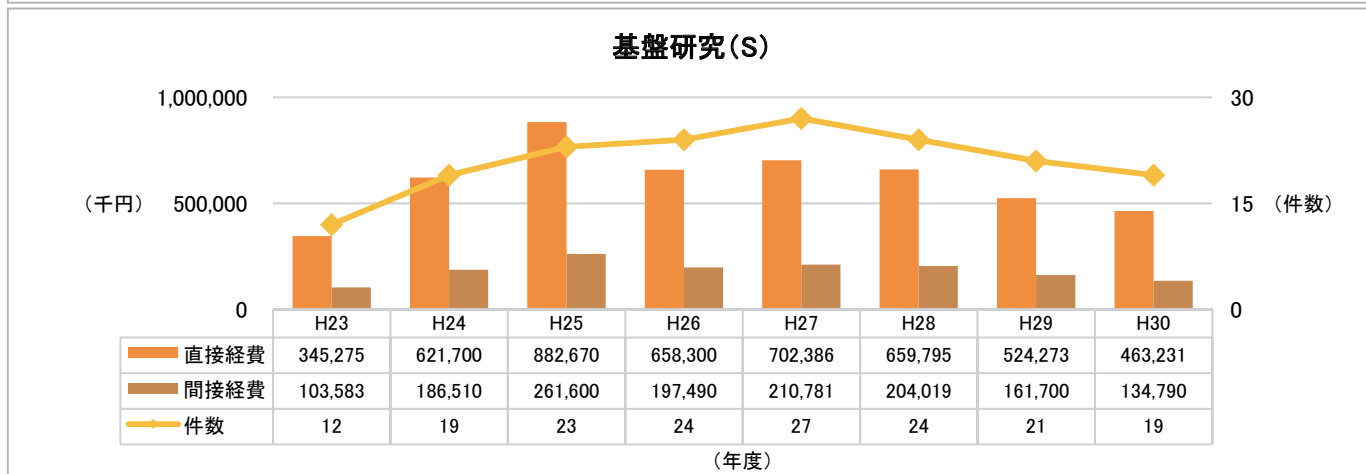
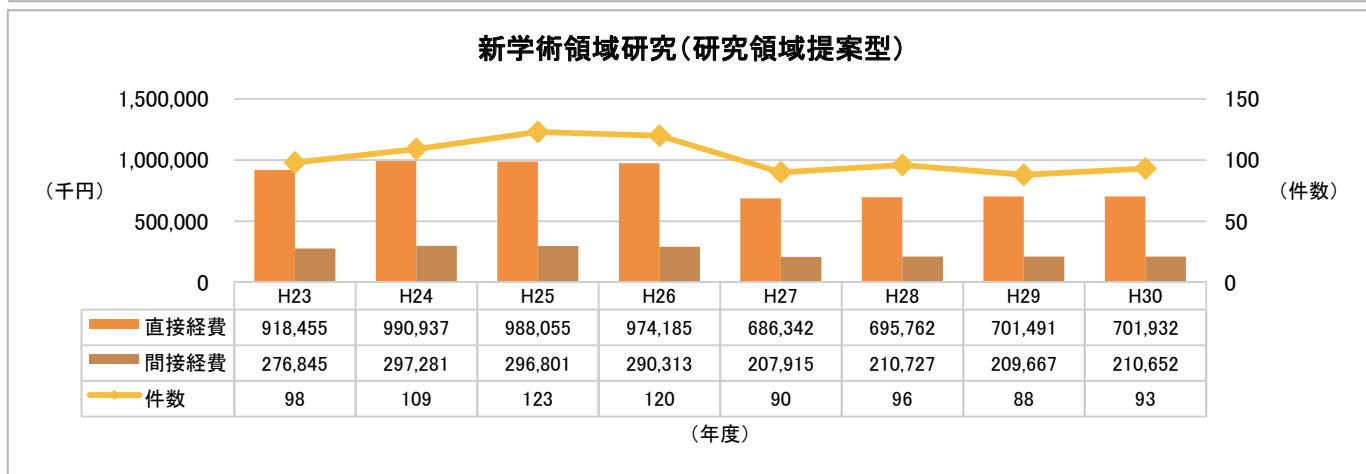
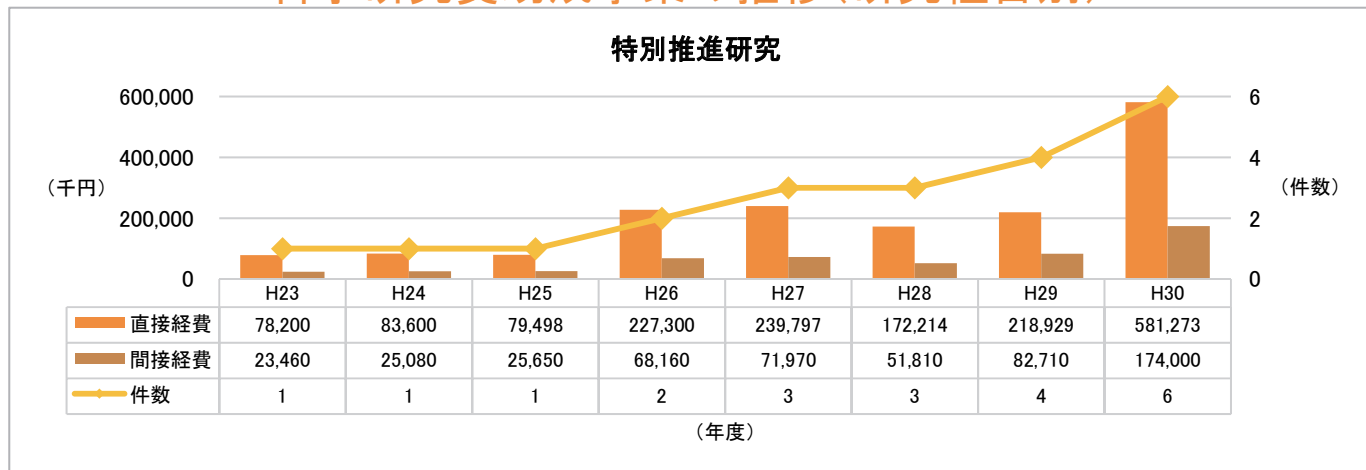
※出典：九州大学概要

◆全国◆



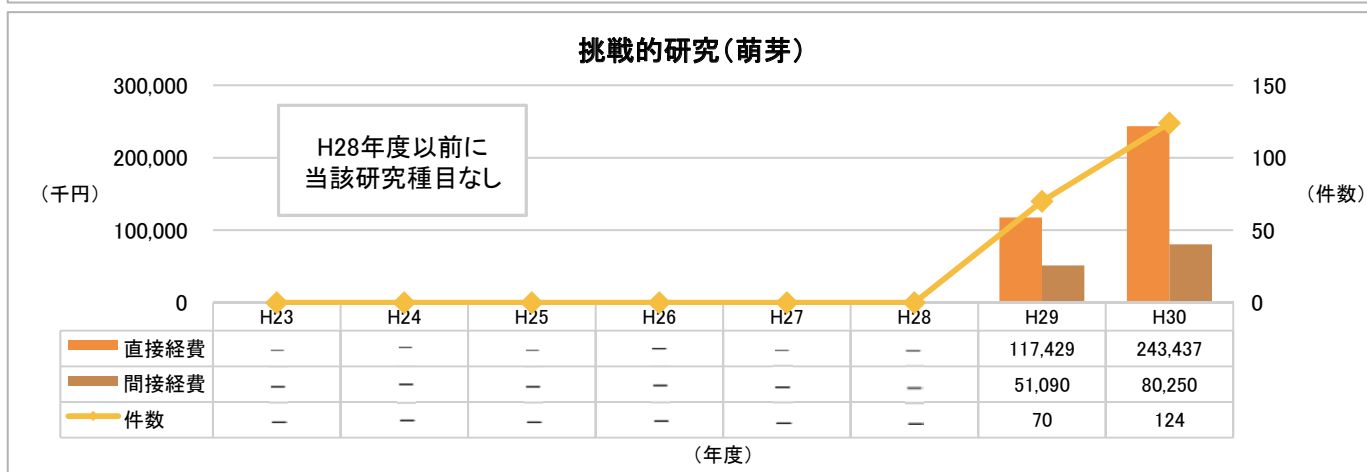
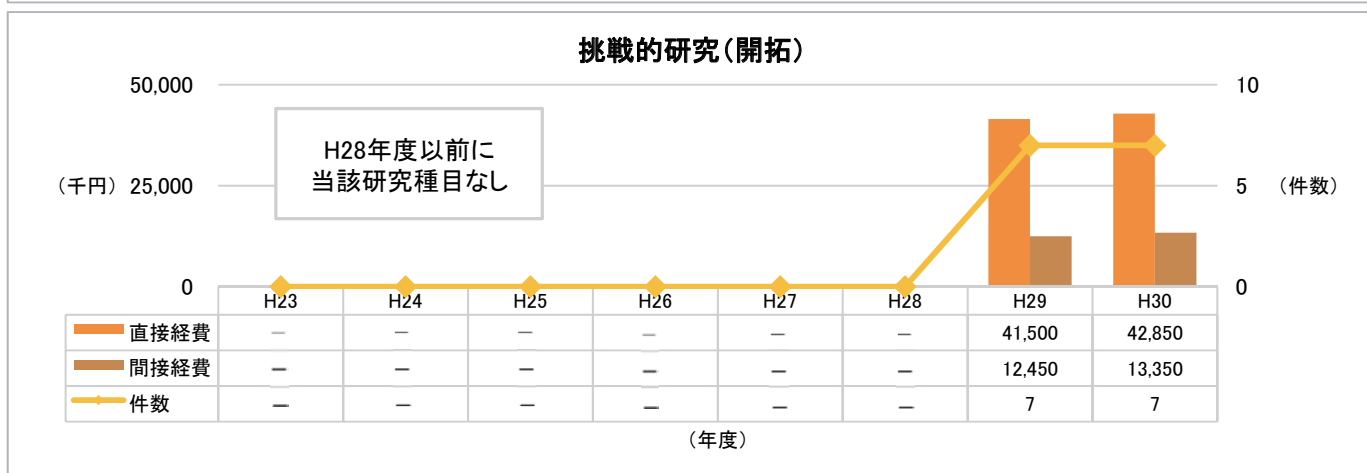
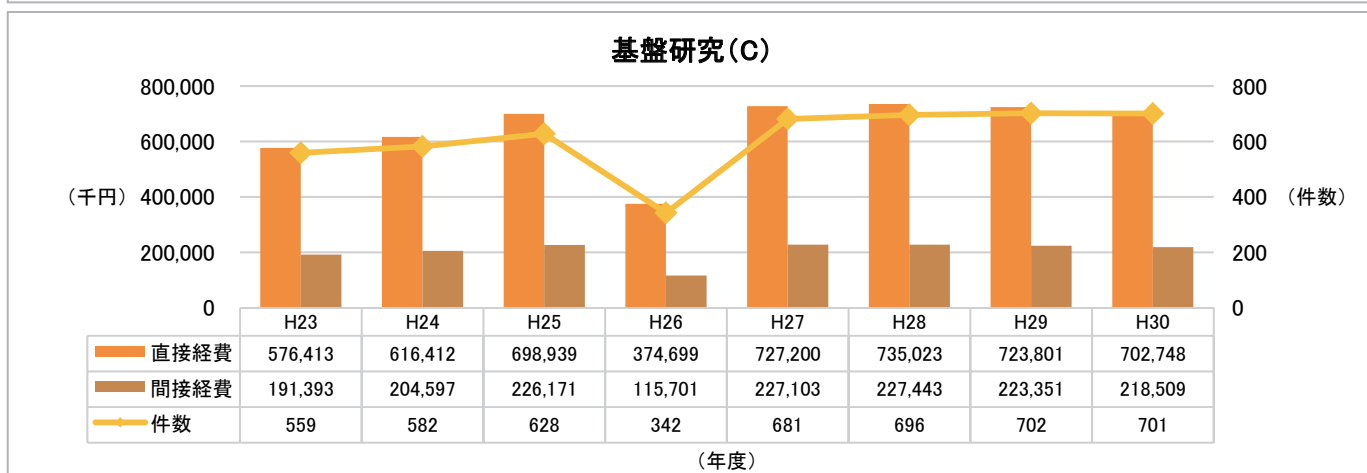
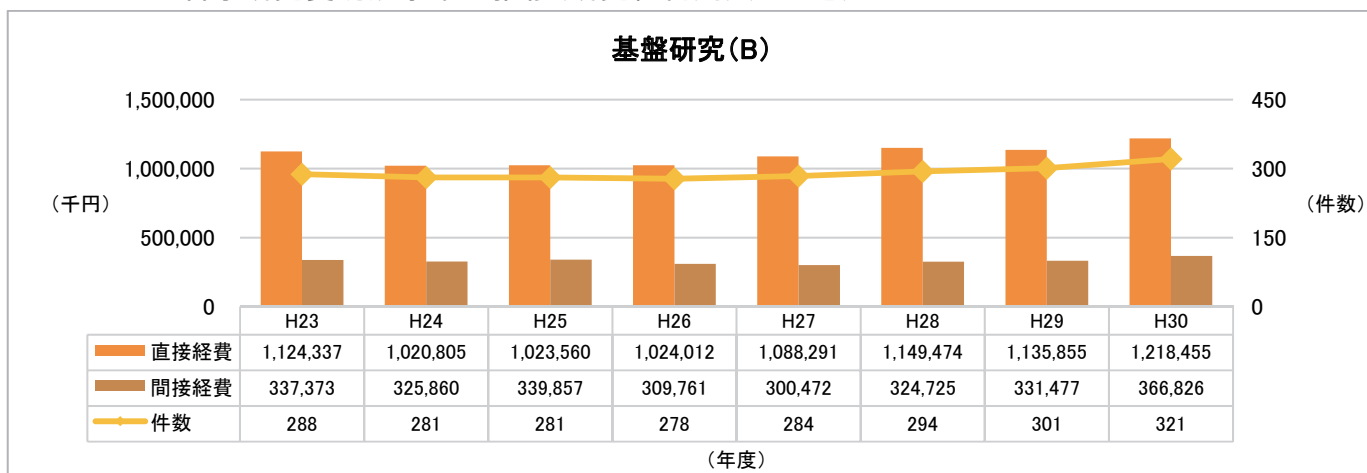
※出典：日本学術振興会 科研費データ「科研費の配分状況」(各年度)

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)



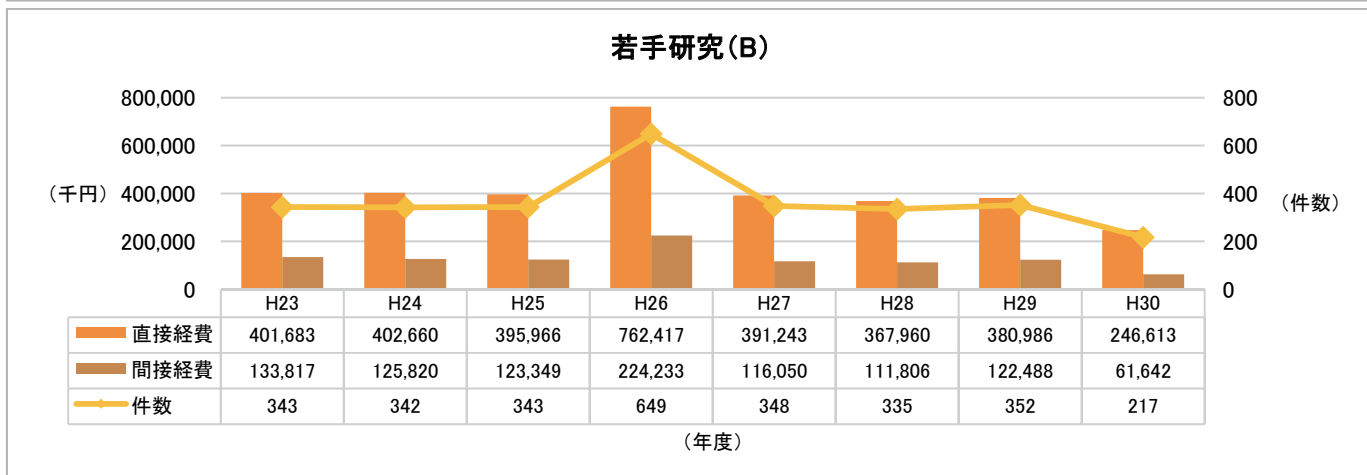
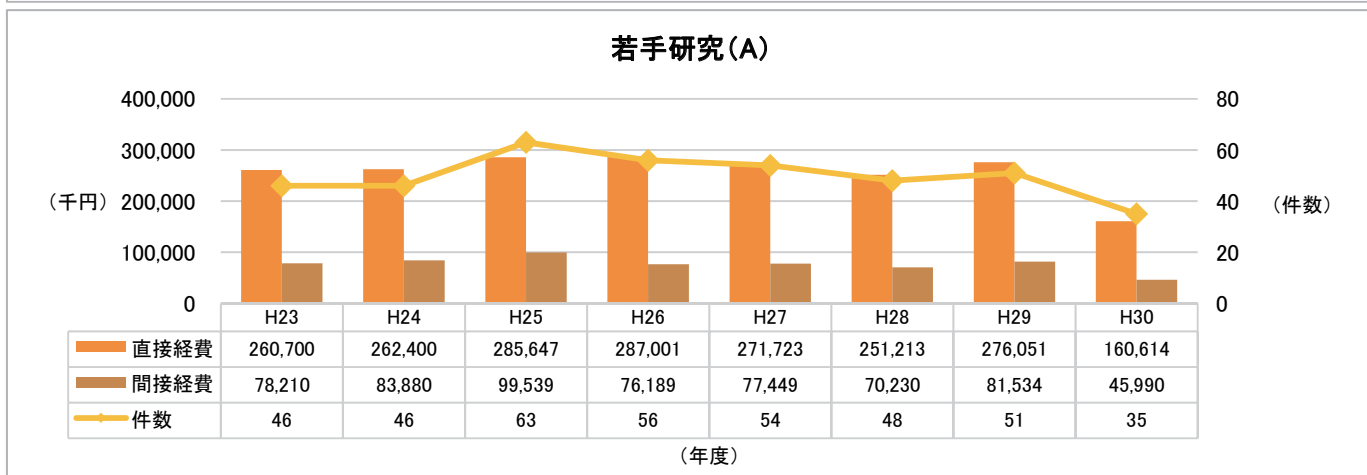
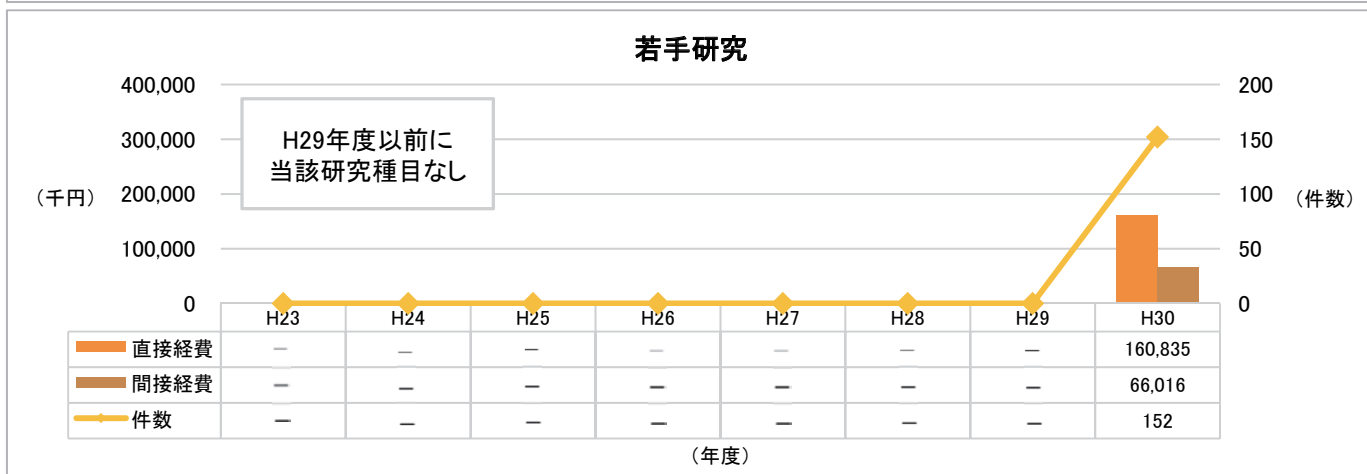
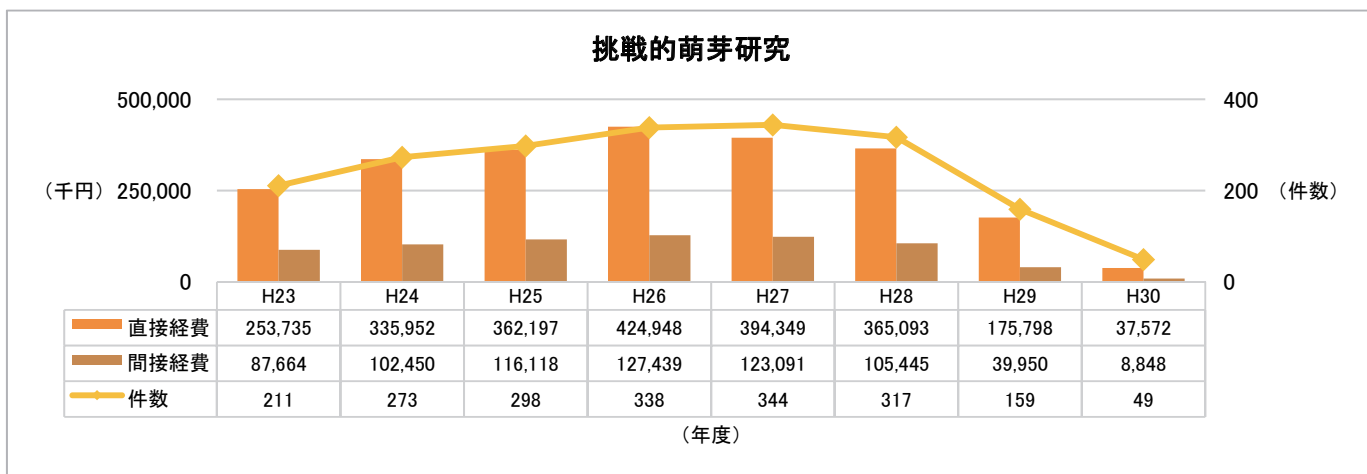
※出典:九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)



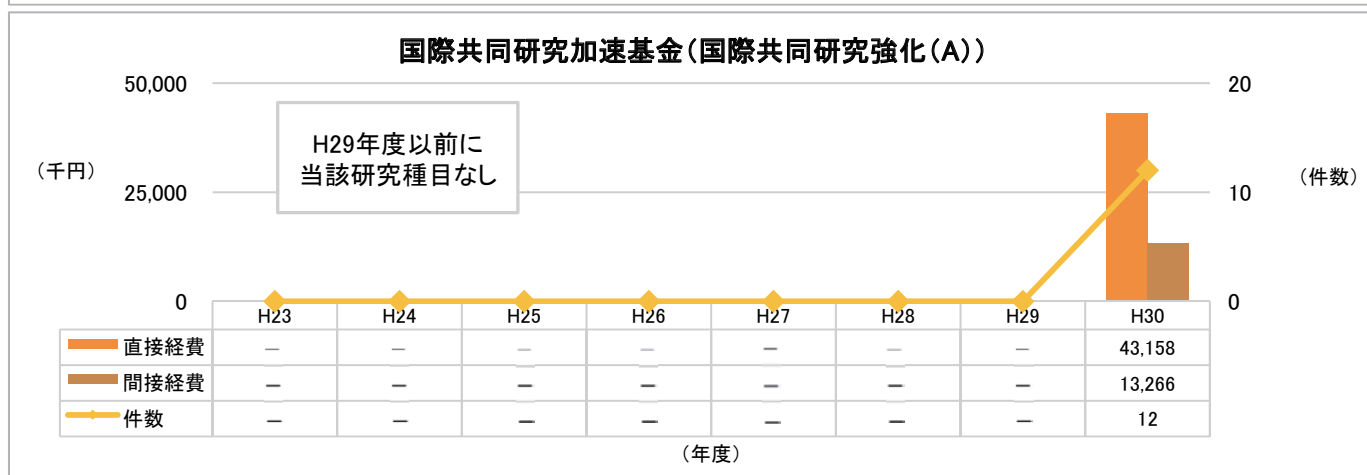
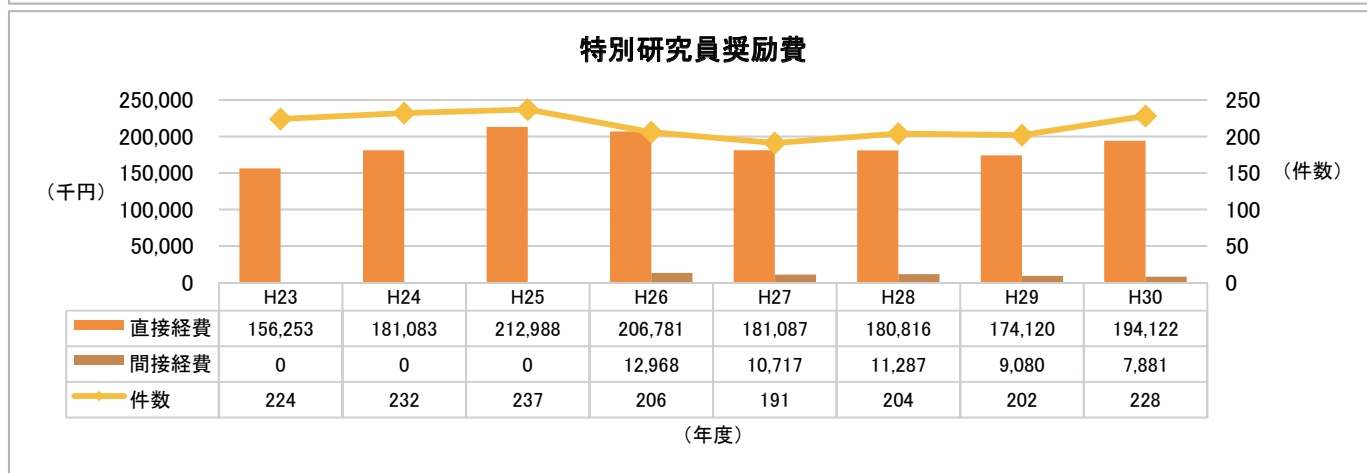
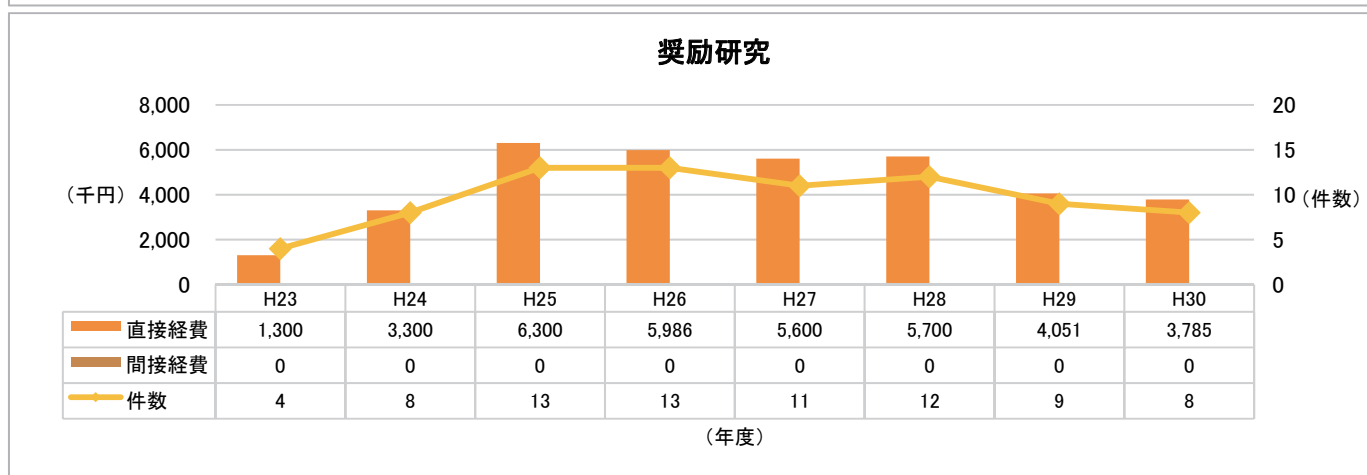
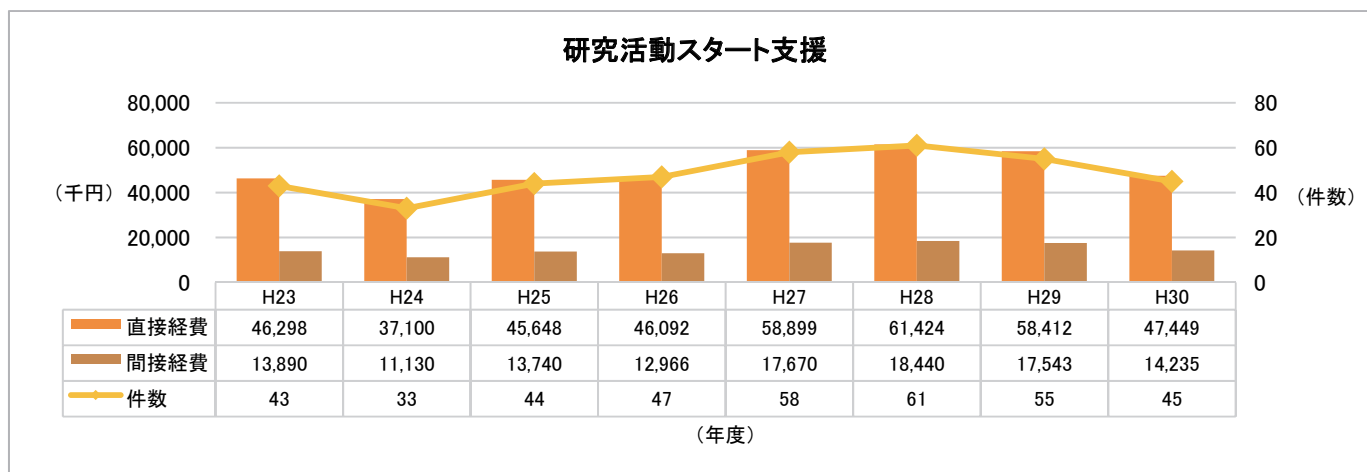
※出典:九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)



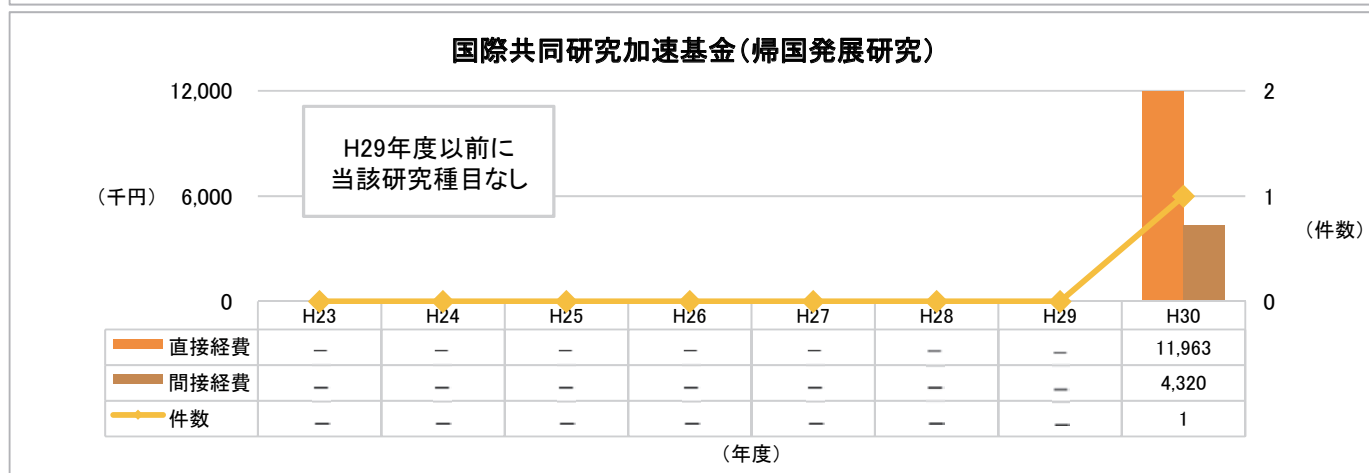
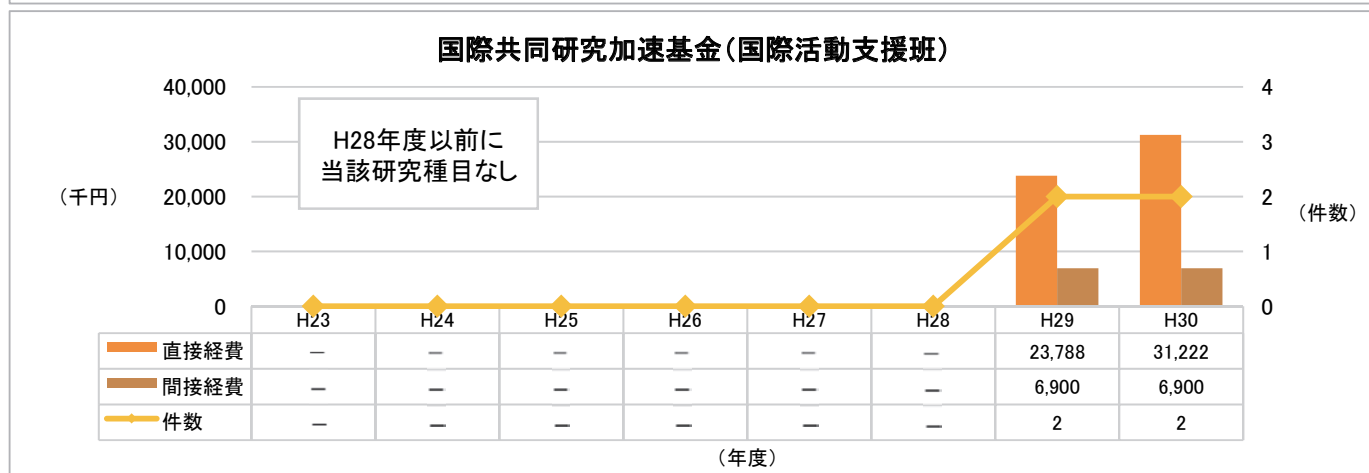
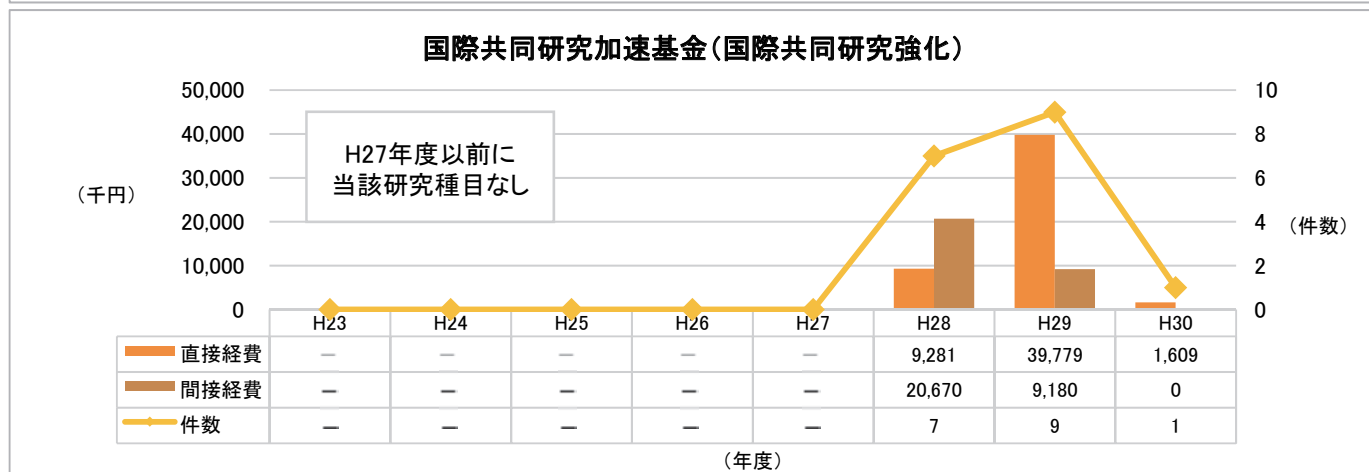
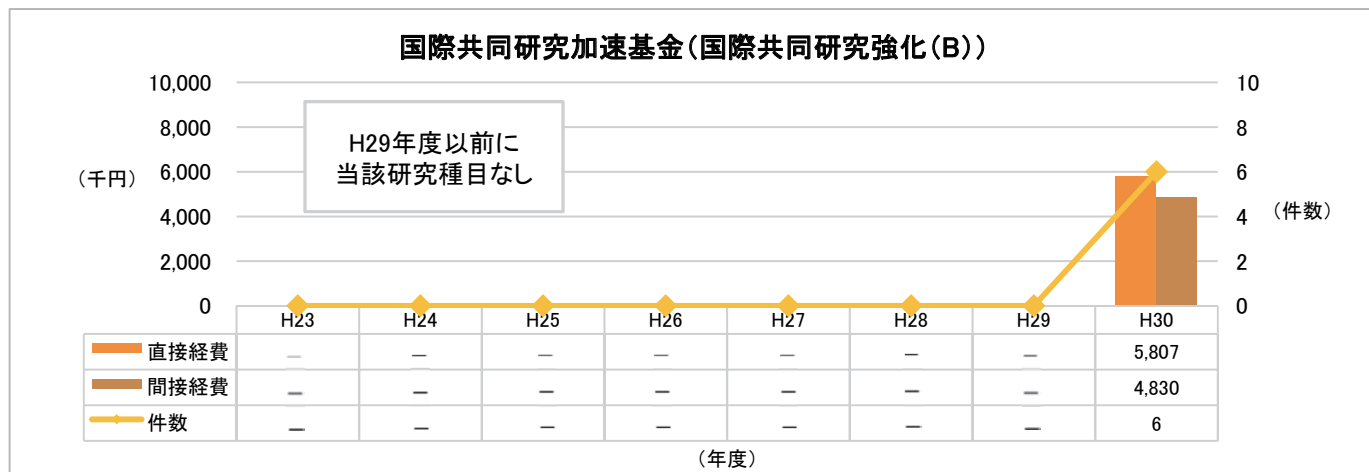
※出典:九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)



※出典:九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移(研究種目別)(つづき)



※出典:九州大学概要

13-5-3. 科学研究費助成事業の比較(各大学)

平成30年度科学研究費採択について、採択機関1,314機関中、採択件数の多い10機関で各項目の順位付けを行った。

◆新規+継続◆

【採択件数】

順位	機関名	件数
1	東京大	3,825
2	京都大	2,900
3	大阪大	2,472
4	東北大	2,388
5	九州大	1,882
6	名古屋大	1,741
7	北海道大	1,610
8	筑波大	1,226
9	神戸大	1,143
10	広島大	1,094

【女性比率】

順位	機関名	比率(%)
1	筑波大	18.4%
2	広島大	18.0%
3	神戸大	16.0%
4	名古屋大	15.9%
5	東京大	14.8%
6	大阪大	14.5%
7	九州大	14.4%
7	北海道大	14.4%
9	東北大	13.1%
10	京都大	12.3%

【若手比率】

順位	機関名	比率(%)
1	東京大	38.8%
2	東北大	32.7%
3	大阪大	32.4%
4	九州大	31.9%
5	京都大	28.4%
6	名古屋大	28.2%
6	北海道大	28.2%
8	筑波大	25.4%
8	神戸大	25.4%
10	広島大	23.9%

【配分額】

順位	機関名	配分額 (千円)	間接経費 (千円)	合計 (千円)
1	東京大	16,683,093	5,004,928	21,688,021
2	京都大	10,554,750	3,166,425	13,721,175
3	大阪大	8,135,239	2,440,572	10,575,811
4	東北大	7,508,050	2,252,415	9,760,465
5	名古屋大	5,860,558	1,758,167	7,618,725
6	九州大	5,774,134	1,732,240	7,506,374
7	北海道大	4,656,900	1,397,070	6,053,970
8	筑波大	3,233,200	969,960	4,203,160
9	神戸大	2,411,000	723,300	3,134,300
10	広島大	2,004,294	601,288	2,605,582

◆新規◆

【採択件数】

順位	機関名	件数
1	東京大	1,483
2	京都大	1,055
3	大阪大	937
4	東北大	848
5	九州大	674
6	名古屋大	606
7	北海道大	569
8	筑波大	420
9	神戸大	399
10	広島大	364

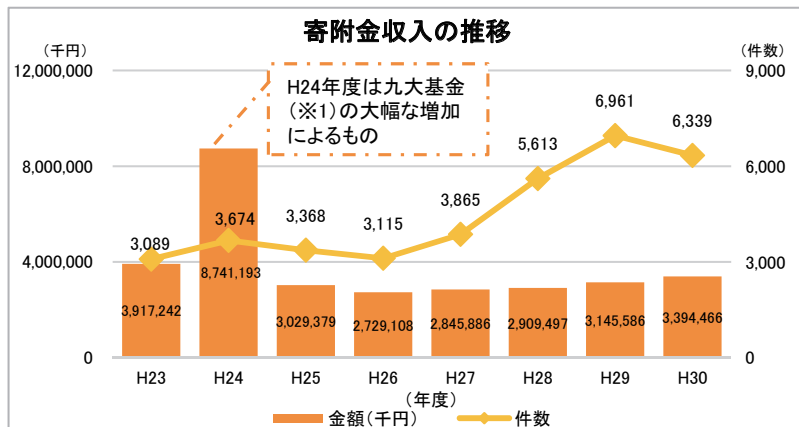
【採択率】

順位	機関名	採択率(%)
1	東京大	37.4%
2	京都大	37.1%
3	大阪大	32.5%
4	名古屋大	30.9%
5	神戸大	30.1%
6	東北大	29.5%
7	北海道大	28.7%
8	九州大	28.2%
9	筑波大	28.0%
10	広島大	25.0%

※出典：日本学術振興会WEBサイト研究機関別採択件数・配分額一覧

13-6. 寄附金収入の推移

◆九州大学◆

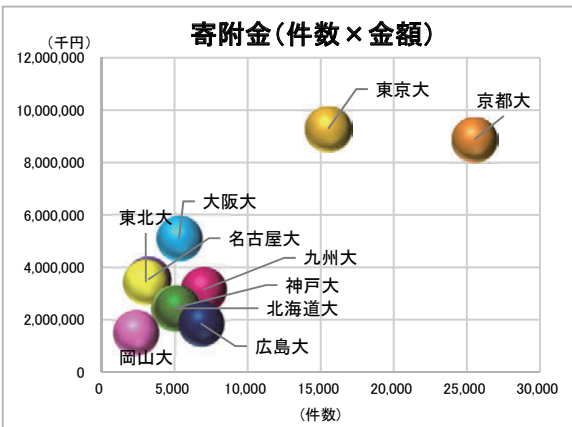


・各年度寄附講座分を含む。

(※1)九大基金

百周年記念事業募金でご寄附いただいたご厚志を柱として創設した。本基金は、九州大学が、世界そして人類が希求する知を先導すべく、グローバル化する世界の学術リーダーとして、「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、また、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、本学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的としている。九大基金HP: <http://kikin.kyushu-u.ac.jp/index.php>

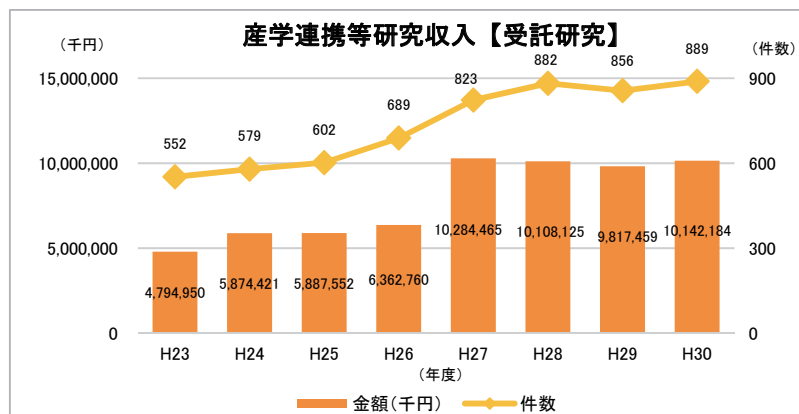
◆他大学(平成29年度)◆



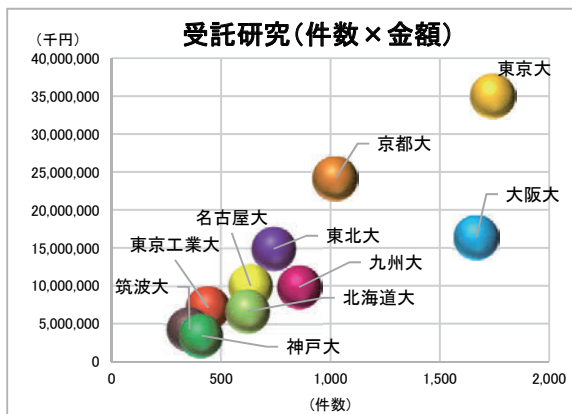
13-7. 産学連携研究収入の推移

13-7-1. 産学連携研究収入の推移(受託研究)

◆九州大学◆

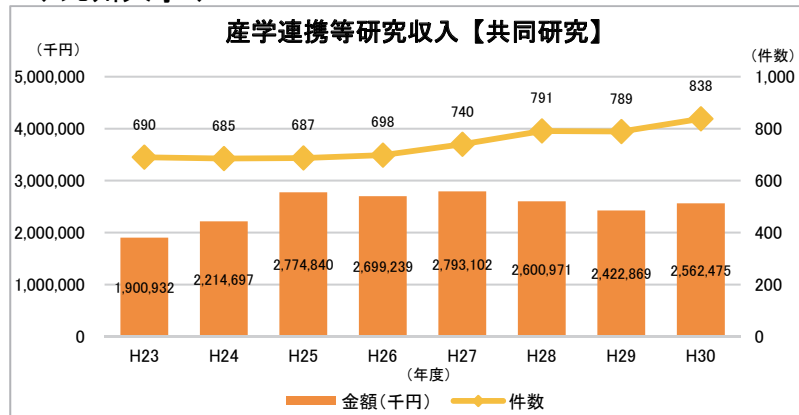


◆他大学(平成29年度)◆

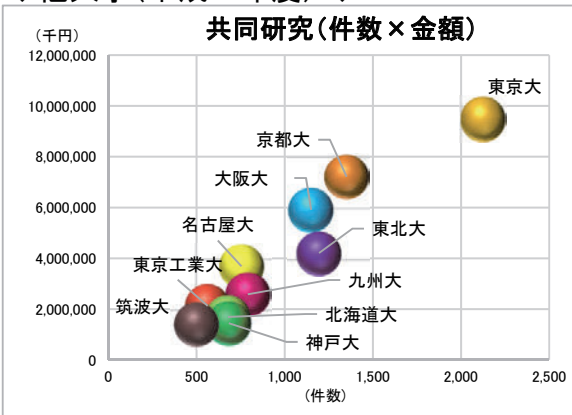


13-7-2. 産学連携研究収入の推移(共同研究)

◆九州大学◆



◆他大学(平成29年度)◆



・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、うち上位10大学間で比較を行った。

※14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山、広島大、九州大(大学番号順)

(※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2)RU11: 研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による

国立私立の設置形態を超えたコンソーシアム

※出典

・本学: 九州大学概要 ・他大学: 各大学 大学概要

14. 研究プログラム及び教育プログラムの採択状況

14-1. 研究プログラム採択状況

【平成22年度新規採択分】

■世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)

拠点名	拠点長	期間(予定)
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所	PETROS SOFRONIS	平成22年度～令和元年度

【平成23年度新規採択分】

■科学技術システム改革事業(旧科学技術振興調整費事業)によるプログラム

プログラム名	総括責任者	期間
テニユアトラック普及・定着事業	総長 久保 千春	平成23年度～平成28年度

【平成24年度新規採択分】

■橋渡し研究加速ネットワークプログラム

研究領域	研究総括	期間
創造的次世代医療実現化を担うAROの構築	医学研究院教授 中西 洋一	平成24年度～平成28年度

■研究拠点形成費等補助金(若手研究者養成費)

事業名	実施責任者	期間
卓越した大学院拠点形成費補助金	理事・副学長 藤木 幸夫	平成24年度～平成25年度

■研究支援体制整備事業費補助金

事業名	機構長	期間
リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備 (リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)	理事・副学長 藤木 幸夫	平成24年度～平成26年度

【平成25年度新規採択分】

■科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業(ERATO型研究)

プロジェクト名	研究総括	期間
安達分子エキシトン工学プロジェクト	最先端有機光エレクトロニクス研究センター長 安達 千波矢	平成25年度～令和元年度

■研究大学強化促進費補助金

事業名	総括責任者	期間
研究大学強化促進事業	総長 久保 千春	平成25年度～令和4年度

■革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)

拠点名	拠点長	期間(予定)
持続的共進化地域創成拠点	理事・副学長 若山 正人	平成25年度～令和3年度

・平成23年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

※出典：九州大学概要

14-1. 研究プログラム採択状況(つづき)

【平成26年度新規採択分】

■グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)

プログラム名	総括責任者	期間
九州大学グローバルイノベーション人材育成エコシステム形成事業	ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター 特命教授 谷川 徹	平成26年度～平成28年度

【平成27年度新規採択分】

■研究支援体制整備事業費補助金

事業名	機構長	期間
リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備 (リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)	理事・副学長 若山 正人	平成27年度～平成28年度 (平成24年度～平成26年度)

■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ	総長 久保 千春	平成27年度～令和2年度

【平成28年度新規採択分】

■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
卓越研究員事業	総長 久保 千春	平成28年度～令和4年度

【平成29年度新規採択分】

■橋渡し研究戦略的推進プログラム

事業課題名	事業担当者名	期間
地域と拠点を結び世界へ展開する新規医療技術の研究・開発	医学研究院 教授 馬場 英司	平成29年度～令和3年度

■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT) 多様性と創造的協働に基づくアントレプレナー育成プログラム (IDEA:Innovation x Diversity xEntrepreneurship Education Alliance)	経済学研究院 産業マネジメント部門 教授 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・ センター長 高田 仁	平成29年度～令和3年度

・平成23年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

※出典：九州大学概要

14-2. 教育プログラム採択状況

【平成23年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
大学の世界展開力強化事業	総合理工学府	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	平成23年度～平成27年度
チーム医療推進のための大学病院職員の 人材養成システムの確立	病院	先進的チーム医療の推進とその安全性確立	平成23年度～平成27年度
政策立案人材育成等 拠点形成事業費補助事業	科学技術イノベーション 政策教育研究センター	科学技術イノベーション政策における 「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点 整備事業	平成23年度～令和7年度

【平成24年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
次世代科学者育成プログラム	理学部	エクセレント・スチューデント・イン・サイエンス育成 プロジェクト(ESSP)－九州大学理学部次世代 科学者育成プログラム－	平成24年度
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	医学系学府、薬学府	九州がんプロ養成基盤推進プラン	平成24年度～平成28年度
医学部・大学病院の教育研究活性化及び 地域・へき地医療人材の確保	病院	九州大学医学部・大学病院の教育研究活性化及び 地域・へき地医療人材の確保事業	平成24年度～平成28年度
大学の世界展開力強化事業	工学府	地球資源工学グローバル人材育成のための学部・ 大学院ビルドアップ協働教育プログラム	平成24年度～平成28年度
大学の世界展開力強化事業	法学府	スパイラル型協働教育モデル:リーガルマインドに よる普遍性と多様性の均衡を目指して	平成24年度～平成28年度
大学間連携共同教育推進事業	システム情報科学府	未来像を自ら描く電気エネルギー分野における 実践的人材の育成	平成24年度～平成28年度
経済社会の発展を牽引するグローバル 人材育成支援	農学部	国際的視野を持ったアグリバイオリダーの育成 プログラム	平成24年度～平成28年度
博士課程教育リーディングプログラム	総合理工学府、工学府	グリーンアジア国際戦略プログラム	平成24年度～平成30年度
博士課程教育リーディングプログラム	工学府、理学府、 システム情報科学府	分子システムデバイス国際研究リーダー養成 および国際教育研究拠点形成	平成24年度～平成30年度
国立大学改革推進事業(総合支援型)	全学	基幹教育の構築による新たな学士課程教育モデル の提起	平成24年度～平成29年度

【平成25年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
国際原子力人材育成イニシアティブ事業 「機関横断的な人材育成事業」	工学府	「総合的原子力人材育成カリキュラムの開発 ～計算機シミュレーションを活用した実績的原子力 実験・演習プログラムの整備～」	平成25年度～平成27年度
成長分野等における中核的専門人材養成 の戦略的推進事業	人間環境学研究院	中核的専門人材育成のためのグローバル・ コンソーシアム等	平成25年度～平成27年度
先進的医療イノベーション人材養成事業 (未来医療研究人材養成拠点形成事業)	医学研究院	イノベーションを推進する国際的人材の育成	平成25年度～平成29年度
先進的医療イノベーション人材養成事業 (未来医療研究人材養成拠点形成事業)	病院	地域包括医療に邁進する総合診療医育成	平成25年度～平成29年度
博士課程教育リーディングプログラム	全学	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	平成25年度～令和元年度

・平成23年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

※出典：九州大学概要

14-2. 教育プログラム採択状況(つづき)

【平成26年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
グローバルサイエンスキャンパス	理学部、工学部、 芸術工学部、農学部	世界に羽ばたく未来創成科学者育成プロジェクト	平成26年度～平成29年度
課題解決型高度医療人材養成プログラム	医学部	実践能力強化型チーム医療加速プログラム	平成26年度～平成30年度
スーパーグローバル大学創成支援	全学	戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル 研究・教育拠点創成(SHARE-Q)	平成26年度～令和5年度

【平成27年度新規採択分】

なし

【平成28年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
大学の世界展開力強化事業	総合理工学府	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための 大学院協働教育プログラム -ダブルディグリー プログラムの高度化と定着・恒常化-	平成28年度～令和2年度
大学の世界展開力強化事業	人間環境学府	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する 人材育成のための協働教育プログラム	平成28年度～令和2年度
教育関係共同利用拠点	基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点	平成28年度～平成30年度

【平成29年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
先進的医療イノベーション人材養成事業	医学系学府、薬学府	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン	平成29年度～令和3年度
原子力人材育成等推進事業	工学研究院	多角的思考力の養成と規制を加味した九州大学 原子力カリキュラムの充実	平成29年度～令和3年度

・平成23年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

※出典：九州大学概要

謝辞

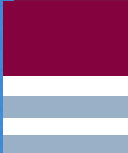
「Kyushu University Fact Book 2019」の作成に当たり、九州大学各部署及び学外機関の皆様より、貴重なデータを提供していただきました。また、本 Fact Book 発行に当たっては、ご助言及びご助力を多数の関係者の皆様に頂戴しました。ご協力に心より感謝いたします。

本 FactBook の完成は、ご協力いただいた皆様方の並々ならぬご尽力の賜物であり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

令和元年 11 月 国立大学法人九州大学 企画部企画課分析係・IR 室

国立大学法人九州大学企画部企画課
分析係・IR(インスティテューショナル・リサーチ)室
〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL 092-802-2145
<https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/>





2019年11月
発行



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

